
2022年度 後期

2単位

演習

麻生 裕貴

< 授業の方法 >

対面による演習と講義

< 授業の目的 >

3年生に履修する演習では、他大学との研究報告会を行なう。そのために、演習ではテキストの輪読と発表を行なってもらい、基礎知識の習得と現代社会の課題について考察してもらう。この授業は、経済学部DP「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」とDP「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しており、それらを修得することを目標とする。

< 到達目標 >

日本経済の基礎を理解し、説明できるようになること。また、それらの知識を用いて現実経済の問題に対して考察できるようになること。

< 授業のキーワード >

GDP、物価水準、経済成長

< 授業の進め方 >

教員がレジュメ・レポート書き方と発表の仕方について講義した後、テキストの内容を各担当者に報告してもらう。その後、グループディスカッションを行い、経済的思考を養う。

< 履修するにあたって >

講義内容の進捗状況に応じて、一部内容が変更になる場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習と復習にそれぞれ1時間30分の学習時間が必要である。

< 提出課題など >

報告者は報告資料を作成すること。日本経済の知識を習得するため、課題を課すことがある。次週の講義で課題の解説と講評を行なう。

< 成績評価方法・基準 >

報告資料作成や発表などの演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

< テキスト >

初回の講義で指定する。

< 参考図書 >

『日本経済入門』 第2版 日経ビジネス

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要と進め方、評価について説明する。

第2回 プレゼンテーションスキル

プレゼンテーションスキルについて説明する。

第3回 需要と供給

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第4回 経済指標

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第5回 政府の活動と経済

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第6回 銀行の役割

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第7回 貿易赤字は絶対悪なのか

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第8回 「見えざる手」って何?

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第9回 私たちはなぜ全部自国でモノをつくらないのか?

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第10回 情報の経済学

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第11回 行動経済学

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第12回 日本経済の知識

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第13回 日本経済の課題

グループワークを行ない、報告してもらう。

第14回 日本経済の課題

グループワークを行ない、報告してもらう。

第15回 日本経済の課題

グループワークを行ない、報告してもらう。

2022年度 後期

2単位

演習

石本 眞八

< 授業の方法 >

対面形式による演習

< 授業の目的 >

日本経済の現状について理解するとともに、DPの4に示されている、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーション

ンをとることができることを目標としています。

<到達目標>

身近な経済問題について自分の意見を述べるができる

<授業の進め方>

新聞記事や統計資料に基づいて報告し、質疑応答を行う。

<授業時間外に必要な学修>

経済に関する時事問題を調べ、データの収集整理とその考察に毎週最低2時間は必要になります

<成績評価方法・基準>

授業中の設問(50%)期末のレポート(50%)

<テキスト>

必要な資料は適宜配布します

<参考図書>

必要に応じて適宜指示します

<授業計画>

第1回 ガイダンス

資料の収集方法、報告の形式についての指導を行う

第2回～第5回 日本経済の現状

マクロデータを使って日本経済の現状を把握する

第6回～第9回 日本経済の問題点

日本経済が抱える問題点を討議する

第10回～第14回 主題の選択

各自興味ある問題を選んで報告する

第15回 レポートの提出

報告内容をまとめてレポートを提出する

2022年度 後期

2単位

演習

井上 善博

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

主題：本講義では、私たちの生活に欠かすことのできない企業にターゲットを絞り、その運営つまり経営の方法について学習します。例えば、企業間の競争について考えてみましょう。以前、携帯型音楽プレイヤーと言えばソニーの「ウォークマン」という商品が有名でしたが、現在では皆さんが楽しんでいるアップルの「iPod」がこの市場の大部分を占めています。なぜソニーの「ウォークマン」は売れなくなってしまい、「iPod」に逆転されてしまったのか、そしてもともとコンピュータ会社のアップルが音楽機器の分野になぜ乗り込んできたのか。このような、企業にかかわる様々な現象をわかりやすく解説することを本講義の主題とします。

目的：経済学や経営学にかかわる諸問題を分析できる知識と技能を育むことを目的とする。経営学には企業の方向性やあるべき姿に向かっていまい何をすべきかという経営戦略論という分野と企業の中の人材のやる気をいかに引き出して、それを企業の競争力に結びつけるかという経営組織論という分野があります。本講義では、これら2つの視点から経営学の基礎を理解することを目標にします。

この科目は学部のDPで示す、

1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

以上の点を目的とする。

<到達目標>

・経営学の基礎理論を知り、その知識を活かすことができる。

・特に、日本企業の経営戦略、日本企業の力強さ(競争力)について関心を持つことができる。

・協働して議論をすることによって、多様な考え方を社会で役立てる技能を育てることができる。

<授業のキーワード>

経営学総論・基礎経営学・経営戦略・経営管理・トヨタ自動車のエコカーと地球環境

<授業の進め方>

学生の皆さんが関心のあるテーマを選び、発表、議論を通じて経営学の基礎を学べるようアドバイスします。

ゼミ紹介リンク先ワンドライブ

https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/ey102285_eb_kobegakuin_ac_jp/EsEK0iH1HXVNm6bjqk2hxz0B3rJbtmXw7ykTC7nS4M6EkA?e=JDjKXX

<履修するにあたって>

経済や企業にかかわる問題について深く学びましょう。

<授業時間外に必要な学修>

ヒットする商品、ヒットする会社などについて、そのヒットの要因について考えて、皆さんが就職したときに活かせるようなビジネスの成功事例を理解すること(50分)。次回授業に関するテーマについて予習すること。(50分)

<提出課題など>

なし

<成績評価方法・基準>

プレゼン資料作成50%、プレゼンテーション50%で評価します。

<テキスト>

資料を配布します。

<授業計画>

第1回 企業経営の全体像(1)

顧客への価値ある商品やサービスの提供、顧客をめぐる競争相手との競争

第2回 企業経営の全体像(2)

経営者の暴走をいかにして阻止するか?適切な経営が行われているかを監視する必要性

第3回 経営学の全体像

経営学は利潤(もうけ)を追求するための学問なのか

第4回 競争戦略のマネジメント(1)

競争に勝ち抜くとは?au対docomoによる第三世代携帯電話をめぐる競争

第5回 競争戦略のマネジメント(2)

他社との違いをつくる基本戦略?マクドナルドとモスバーガーの戦略の違い

第6回 多角化戦略のマネジメント

セコムの事業は警備事業だけではない!

第7回 国際化のマネジメント

なぜ企業は国境を超えて経営活動を行うのか?ホンダの国際化

第8回 組織構造のマネジメント

企業の中で誰が指示を出し、どのような役割分担がなされているのか?3Mの事業部制

第9回 モチベーションのマネジメント

富士通における成果主義と従業員をやる気にさせる仕組み

第10回 リーダシップ

成果を生み出すリーダーは落合監督それとも星野監督?

第11回 キャリアデザイン

ロックバンドという職業のキャリアデザイン?レミオロメンの軌跡

第12回 自分の職業を見つめなおす

自分は何が得意か?自分はこれから何をやりたいのか?を問いなおす

第13回 情報システムと事業の仕組み

求職と求人マッチングさせる人材派遣会社スタッフサービスのIT活用

第14回 経営学の広がり

病院経営に活かす経営学の秘訣

第15回 プロフェッショナルの流儀

素人にはできない高度な知識や技術をもとに実行される職業?プロフェッショナルを目指そう!

2022年度 後期

2単位

演習

石田 裕貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部のDPに示す「4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる

」、及び「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立つことができる」ようになることである

・将来、どの分野の進路を選択しても必要になると思われるプレゼン・討論等のスキルを身に付けることを目的とする。具体的には、経済に関するテーマについて、グループワークでプレゼン・討論を行ってもらおう。討論とは、あるテーマについて、肯定or否定の立場に分かれて、お互いの意見を主張し合い、どちらの主張に説得力があるかの優劣を競う知的ゲームである。未経験者に合わせて、プレゼン・討論の方法は丁寧に指導する。学外で開催される他大学とのプレゼン・討論を行うインゼミ大会等への参加も希望する(詳細はゼミ生と相談する)

< 到達目標 >

・あるテーマについて、適切な情報収集、論理的分析、プレゼン・討論ができる(知識、技能)

・グループワークの中で、お互いの個性を尊重し、自分の力を発揮できる(態度、技能)

< 授業の進め方 >

教員による説明の後に、グループワークを進める

< 履修するにあたって >

グループワークが主体となるため、無断での遅刻欠席を認めない。遅刻欠席する場合は教員への事前連絡を求める

< 授業時間外に必要な学修 >

他の授業科目や新聞やテレビのニュース、インターネットなどで、幅広く世の中の経済問題に関心を持ち、分からないことや疑問点などを積極的に調べる(2時間)

< 提出課題など >

グループごとのレポートを提出してもらおう。授業の中で随時、進捗状況がチェックされフィードバックされる

< 成績評価方法・基準 >

演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

< テキスト >

なし(プリントを配布する)

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要を説明する

第2回 ゼミ内プレゼン・討論の準備

プレゼン・討論の方法を説明し、肯定or否定の立場に分かれて、グループメンバーを決定する

第3~4回 ゼミ内プレゼン・討論の準備

グループワークでレポートを作成する

第5回 ゼミ内プレゼン・討論の準備

グループワークでプレゼン・討論の準備を行う

第6回 ゼミ内プレゼン・討論会

自分のプレゼン・討論を行い、他のプレゼン・討論を聞

いて評価する

第7～14回 学外でのプレゼン・討論の準備

学外でのプレゼン・討論の準備を行う

第15回 まとめ

演習全体を総括する

2022年度 後期

2単位

演習

岡部 芳彦

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

演習のテーマ 「経済社会で生きる上で必要な知性を磨く」

このゼミでは、今、日本と世界で起こっている経済・政治・環境などさまざまな問題について学ぶことができます。岡部ゼミでは、基本的に学生主体でゼミ運営を行っており、勉強する内容は年度によって少しずつ違います。ある学年は、毎回の3分スピーチやグループディスカッションを基本にその週起こったニュースについて議論しました。また別の学年は学期を通じてテーマを決めグループワークを行って理解を深めました。今年もゼミ生の皆さんと相談をして勉強内容を決めようと思っています。

各学期に一度、他大学の姉妹ゼミなどとディベートを行っています。正確に情報分析し自信を持って論じる力と、就職活動や社会人になっても役立つ知識を養うことが目標です。具体的には日本経済団体連合会（経団連）が「大学生の採用にあたって重視する素質・態度・知識・能力」として挙げている「主体性、コミュニケーション能力、実行力、チームワーク・協調性、課題解決能力」を身に着けることができます。

なお、この科目は、学部のDPに示す「5. 経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ことを目指しています。

また、国会議員などのゲストスピーカーを各学期にお呼びしています。各界の第一線で活躍する方の話を聞くことで、日本、そして世界で通じる発想を持ってほしいと考えています。

< 到達目標 >

正確に情報分析し自信を持って論じる力と、就職活動や社会人になっても役立つ知識を養うことができる。

< 授業のキーワード >

「地域社会でも世界でも活躍できる柔軟な人材になる」

< 授業の進め方 >

グループワークとプレゼンテーションを中心に進めます。その間に、他大学などとのディベートの準備やゼミ講演会が入ります。

< 履修するにあたって >

受講生への希望

世の中を変えてやろうという人から、データ処理が得意であったり、地味にコツコツ勉強する人まで大歓迎です。このゼミが偏りのない多彩な友人の中で過ごす有意義な時間となればと思います。いい人生を送るための「発見」の時間にしてもらえれば本望です。

< 授業時間外に必要な学修 >

最低週1回90分程度、ゼミ生の主導で、グループワークやディベートの準備で、授業外で集まることがあります。授業時間外に、報告や発表に向けて各グループで集まって準備をします。

< 提出課題など >

< 成績評価方法・基準 >

授業で行う実習の評価 80%、世の中を知るのに役立つ経済書を読んだレポート 20%。

特別な評価方法はありますが、ゼミを運営するのは学生の皆さんです。自分たちでいいゼミを作ってください。

< テキスト >

適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

学習目標の確認。

第2回 班分け

日本経済班、ヨーロッパ経済班、アメリカ経済班などに分かれて、グループワーク開始。

第3回 グループワーク 1

各班でグループワーク。

第4回 グループワーク 2

各班でグループワーク。

第5回 グループワーク 3

各班でグループワーク。

第6回 中間報告

グループごとに中間報告。

第7回 ゼミ講演

外部から講師を招いて講演ならびにディスカッション。

第8回 グループワーク 4

各班でグループワーク。

第9回 グループワーク 5

各班でグループワーク。

第10回 グループワーク 6

各班でグループワーク。

第11回 ディベート準備

他のゼミとのディベートの準備。

第12回 ゼミ講演

外部から講師を招いて講演ならびにディスカッション。

第13回 ディベート準備 2

他のゼミとのディベートの準備。

第14回 対抗ゼミ

ディベート実施。

第15回 復習

振り返り。

2022年度 後期

2単位

演習

岡本 弥

< 授業の方法 >

演習

【9月20日（月）～10月2日（土）までの授業形態】

遠隔授業（リアルタイム授業）

詳細は「遠隔授業情報」を参照のこと。

【10月4日（月）以降の授業形態】

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、DP（ディプロマポリシー：学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができる」ことに資するものである。この科目では、2年先に、大学4年間の学修の集大成である卒業論文にふさわしい実証論文を提出することが可能となるよう、まずはそのための基礎づくりに重点をおく。具体的には初歩的な統計学・計量経済学の講義とExcelを活用したデータ分析を通して、実証分析の進め方と、そのために最低限必要となる基礎的な知識や手法をしっかりとし身につけたい。

ちなみに、演習（3年次前期）では、労働経済学のテキストの輪読によって経済理論のエッセンスを理解し、続く演習（3年次後期）では、専門的な統計ソフトStataを用いた、この科目（演習）よりも高度なデータ分析演習を行い、4年次までに、「テーマさえ確定すれば卒業論文の作成に着手できる」という状態までもってゆけるようにしたい。

なお、この授業の担当者は、約6年にわたる金融機関での融資渉外業務の経験があり、それを踏まえながら、将来社会人として活動してゆくうえで最低限必要となる分析スキルを実践的に教授する。

最後に、本演習においては、ノートパソコンが必須であることをお伝えしておく。Windows、Macいずれでもかまわないが、ほぼ毎回持参をお願いすることになるだろう。

< 到達目標 >

以下の3つを到達目標として掲げたい。

卒業論文として実証論文を制作する際に、どのような

手順で進めてゆけばよいか概ね理解できる。

（を通じて）どのようなテーマ選びをすればよい実証論文を書くことができるのか概ね理解できる。

自分の好きなテーマで（A4で3枚程度の）簡単な実証分析レポートが作成できる。

< 授業のキーワード >

統計学、PC演習

< 授業の進め方 >

【授業の進め方】

対面授業で講義を中心に進める予定である。統計学および計量経済学に関する知識を講義し、定着度を高めるために計算問題演習も実施する。加えて、Excelを用いた基本レベルのデータ分析演習を行う。最後の2回の授業時間には、それぞれが作成したレポートのプレゼンテーションを行う機会を設定する。

< 履修するにあたって >

高等学校までほとんど未知であった経済学という学問に期待を抱いて経済学部に入學し、基礎経済学やミクロ・マクロ経済学で勉強に励んでみたものの、「何のために経済学を勉強しているのかよくわからない」と感じている人は少なくないだろう。そんな真面目な人には、論文を書いてみるのが解決につながると思う。もちろん論文を書くことは難しいが、着実に手順を踏んでゆけば、最終的には誰でも書けるようになる。そのための努力を続けていると経済学はなかなか魅了的に感じるようになるだろうし、そうなれば、無味乾燥で何の役にも立ちそうにないミクロ経済学なんかも、途端に興味深く感じて、もっと勉強したくなったりするのは、過去にこの演習に参加した人たちを見れば明らかだ。

もしそのような話を信じてくれて、かつハードワークに耐えることができる人がいれば、是非いっしょに学んでゆきたい。一方で、「勉強から逃げたい」と思ってしまう人や、ゼミを勉強する場とらえられない人には苦痛にしかならないがゆえにご遠慮頂きたい。

履修要件を課すわけではないが、2年生前期配当の「ミクロ経済学」「マクロ経済学」でB以上の人であれば楽しさを実感できるだろう。ただし、過去に、本要件は充足していなかったけれど、その後しっかりと努力して見違えるくらいに成長して、専門家が読んでも面白いと感じる卒業論文を書き上げた人が何人もいるから、迷うことがあれば是非相談に来てほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の大半を基礎的な統計学・計量経済学の知識や手法の習熟に充てるが、時間的な制約は大きいので、毎回ではないが、必須事項の定着を目的とした宿題を課すことを予定している。その場合、1回あたり1時間程度はかかるであろう。

< 提出課題など >

宿題については回収した次の演習授業のとき採点済答案を返却し、あわせて配布する模範解答例を参照しながら

解説を行うものとする。

<成績評価方法・基準>

評価は下記の3つに基づいて行われる。

宿題の提出状況および得点率：30%

意見の表明や質問などによる授業への貢献：30%

レポートの内容とプレゼンテーションの出来：40%

【特に重要な点】

- (1) 特別な理由がなく3回以上欠席したものの
 - (2) 宿題の提出率が非常に低いものの
 - (3) 実証分析レポートの発表を行わないもの
- についてはそれぞれ単位を取得することはできない。

<テキスト>

テキストは使用しない。ただし、以下の参考書は講義をより深く理解するうえで役立つと思われる。

<参考図書>

山本拓・竹内明香(2013)『入門計量経済学 Excelによる実証分析へのガイド』新世社

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

授業の目的や具体的な内容の説明

第2?3回 実証論文作成の作法

実証論文の作成プロセスおよびその中でどのような点に気をつければよいか説明する。

第4回 計量経済学 (イントロダクション)

- (1) 計量経済学とは
- (2) 計量経済学の視点から「どんな人が結婚しやすいか？」について考える

第5回 計量経済学 (計量経済分析の5つの手順)

- (1) 実証分析の対象となる経済理論の選択
- (2) 分析対象とする関数の定式化
- (3) モデルのパラメーターの推定
- (4) 推定したパラメーターの検定
- (5) 結果の経済学的解釈

第6?7回 計量経済学 (データの整理)

- (1) データの「位置」を表す代表値：平均・中央値・最頻値
- (2) データの「散らばり」を表す代表値：分散・標準偏差
- (3) 相関関係
- (4) 相関係数とその求め方
- (5) 共分散と相関係数との関係
- (6) 相関関係と因果関係との違い

第8?9回 計量経済学 (最小二乗法)

- (1) 回帰分析とは
- (2) 回帰直線の当てはまりの基準
- (3) 最小二乗法と最小二乗推定量の求め方
- (4) 理論値と残差の性質
- (5) 決定係数とその性質および解釈
- (6) 決定係数の求め方

第10回 計量経済学 (標本調査と統計的推測)

- (1) 無作為抽出と統計的推測
- (2) 標本分布の性質
- (3) 区間推定および信頼区間の考え方
- (4) 信頼区間の求め方

第11回 計量経済学 (仮説検定：t検定)

- (1) 仮説の設定
- (2) 有意水準の設定
- (3) 臨界値の設定
- (4) 棄却域の設定
- (5) 推定値のt値の計算
- (6) 判定

第12回 計量経済学 (最小二乗推定量の性質)

- (1) 回帰モデルの5つの仮定
- (2) 不偏性と一致性

第13回 計量経済学 (多重回帰分析)

- (1) 多重回帰モデルにおける最小二乗推定量の性質
- (2) 多重回帰分析の推定結果の解釈
- (3) 決定係数の限界と自由度修正済み決定係数
- (4) 説明変数の過不足とその影響
- (5) 多重共線性

第14?15回 実証分析レポート発表会

2022年度 後期

2単位

演習

木暮 衣里

<授業の方法>

演習

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください

<授業の目的>

<目的>

神戸市または兵庫県内には、独自の技術や商品・サービスを持つ優れた企業(会社・店等)が存在します。そのような企業の強みや魅力を、主にマーケティングの視点から考えます。また、CSR(企業の社会的責任)や、年重要視されている"SDGs(持続的な開発目標)"についても各企業の取り組みを見て行きます。

<DPとの関連>

・専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている(知識・技

能)

・幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる(思考力・判断力・表現力等の能力)

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる(思考力・判断力・表現力等の能力)

なお、この授業の担当者は中小企業診断士の資格を持ち、企業や自治体に対する抱負な支援経験を持つ教員であるため、より実践的な観点からも解説を行います。

<到達目標>

- ・企業のCSR、SDGsの重要性と主な内容を説明できる
- ・仲間と協働して意見をまとめ、発表することができる

<授業のキーワード>

マーケティング、神戸市、兵庫県、企業、CSR、SDGs

<授業の進め方>

パワーポイントによる講義、グループワーク、発表・ディスカッションを行います。

<履修するにあたって>

「マーケティング論」を履修してください。

<授業時間外に必要な学修>

日頃から国内外の企業について興味を持って観察し、どのような活動を行っているか考察してください(2時間程度)。

<成績評価方法・基準>

受講態度・質疑・発表・グループワーク(100%)で評価します。

<参考図書>

P.コトラ、G.アームストロング、恩蔵直人『コトラ、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014年

恩蔵直人『マーケティング』日経文庫、2004年

恩蔵直人『マーケティング 第2版』日経文庫、2019年

<授業計画>

第1回 ガイダンス

演習の概要と進め方について、ゼミメンバーのアイスブレイク

第2回 マーケティングについて

基本ステップと戦略について解説します。

第3回 CSRについて

企業のCSR(社会的責任)について解説します。

第4回 SDGsについて

神戸市内、兵庫県、または出身地から、研究対象とする企業を選びます。

第5回 企業のマーケティングの特徴

神戸市内、兵庫県、または出身地の企業から、特に人気・魅力があると思われる企業をグループごとに選び、マーケティングの特徴について調べます。

第6回 企業のマーケティングの特徴

グループごとに選択した企業のマーケティングの特徴について調べます。

第7回 企業のマーケティングの特徴

グループごとに企業のマーケティングについて調べた内容をまとめます。

第8回 CSRの取り組み

グループごとに企業のCSRについて調べます。

第9回 CSRの取り組み

グループごとに企業のCSRについて調べます。

第10回 CSRの取り組み

グループごとに企業のCSRについて調べた内容をまとめます。

第11回 SDGsの取り組み

グループごとに企業のSDGsの取り組みについて調べます。

第12回 SDGsの取り組み

グループごとに企業のSDGsの取り組みについて調べます。

第13回 SDGsの取り組み

グループごとに企業のSDGsについて調べた内容をまとめます。

第14回 発表

グループごとに発表を行い、最優秀チームを選びます。

第15回 まとめ

振り返りと次年度以降の計画策定

2022年度 後期

2単位

演習

佐藤 伸明

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、経済学部のDPに示されている「経済理論の基礎の習得」に資する科目である。

理論的分析力の素養として数的処理の学習や社会科学文章の読解力を高めることを目的とする。

<到達目標>

専門的研究に進むために必要な基礎知識や技能を習得できる。

特に数的能力や読解力を高めることができる。

<授業のキーワード>

数的・理論的分析力、読解力。

<授業の進め方>

テキストおよび配布資料に基づく学習。問題解説。課題報告。

具体的なスケジュールは第1回の授業時に説明する。

<履修するにあたって>

ミクロ経済学，マクロ経済学，経済数学，現代経済入門
の単位を取得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

宿題の問題練習。

各回1時間の予習が必要である。

各回1時間以上の復習が必要である。

< 提出課題など >

数回のレポート提出を求める。

レポート採点后，コメントする。

レポートは，最初に学籍番号と名前を明記してください。

ワード文章で作成してください。

1行40字とし，30行から35行の範囲に設定してください。

文字は明朝10.5ポイントをお願いします。

レポート課題，提出期限などの詳細はレポートを課すとき，授業時にお知らせします。

< 成績評価方法・基準 >

提出されたレポートに基づく。

< テキスト >

配布プリント

< 参考図書 >

最初の授業で指示する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

今後の予定と学習計画

第2回 学習の進め方

学習方法について学ぶ

第3回 配布プリント の学習

解説と質疑応答 課題報告

第4回 配布プリント の学習

解説と質疑応答 課題報告

第5回 配布プリント の学習

解説と質疑応答 課題報告

第6回 配布プリント の学習

解説と質疑応答 課題報告

第7回 配布プリント の学習

解説と質疑応答 課題報告

第8回 つづき

つづき

第9回 配布プリント の学習

解説と質疑応答 課題報告

第10回 つづき

つづき

第11回 配布プリント の学習

解説と質疑応答 課題報告

第12回 つづき

つづき

第13回 配布プリント の学習

解説と質疑応答 課題報告

第14回 つづき

つづき

第15回 総復習

まとめ

2022年度 後期

2単位

演習

柴田 淳子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目では，DP（学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し，統計的な処理・分析ができ，政策課題に対応できる」ため，データ処理に関する基礎知識を修得し，データから得られる情報を深く理解できる力を身に付けることを目指します。

本科目は，専門教育科目の選択必修科目における演習科目に属する科目です。

このゼミでは，データ分析に基づいた意思決定の方法について学習します。身近にあるデータを分析することによって，得られた結果について理解を深めることを目的とします。

< 到達目標 >

1. ExcelやRを用いて，データの分析ができる。
2. 分析した結果を自分なりに解釈し，議論できる。

< 授業のキーワード >

回帰分析，コンジョイント分析，クラスター分析

< 授業の進め方 >

コンピュータを用いながら簡単な例題を説明した後，実際に問題を解きながら理解を深めていきます。（ExcelとRを使いますが，コンピュータの知識は必要ありません。）

< 履修するにあたって >

遠隔の場合，指定のアプリケーションを利用できる環境をご用意ください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回，1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です。

< 提出課題など >

単元ごとに課題を提出し，次回の授業で解説します。なお，提出課題は成績評価の対象とします。

< 成績評価方法・基準 >

課題の提出状況により評価します。

< テキスト >

プリントを配布します。

< 参考図書 >

- ・内田学, 兼子良久, 『90分でわかる! 日本で一番やさしい「データ分析」超入門』, 東洋経済新報社
- ・上村龍太郎, 北島良三, 竹内晴彦, 山下俊恵, 吉岡茂, 「EXCELとRによるデータ解析入門」, 丸善出版株式会社

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

データに基づく意思決定

第2~3回 相関係数

値下げ効果の検証, アンケートからの戦略立案

第4回 回帰分析

店舗面積から売り上げ見込みを決定する

第5回 重回帰分析

最適な条件の組み合わせ

第6~7回 数量化理論 類

質的データと量的データ, 目標を達成するための最適な組み合わせ

第8回 コンジョイント分析

直交表と分析方法

第9回 Rの使い方

Rの基本操作, ExcelとRによるデータ要約

第10~11回 クラスター分析

Excelによる計算方法, Rによるクラスター分析の実行

第12~13回 主成分分析

Excelによる計算方法, Rによる主成分分析の実行

第14~15回 因子分析

Excelによる計算方法, Rによる因子分析の実行

2022年度 後期

2単位

演習

関谷 次博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

社会人に最も必要とされる能力は「問題発見・解決能力」だと言われています。いま社会問題を解決する企業やNPOの活動が注目されていますが、そこではまさに問題発見・解決能力が求められます。では、そうした能力をどのように高めるかは、学力の向上もさることながら、行動力だと思います。問題発見・解決能力を高めるために様々な行動をしたいと思います。

本講義はDPの4「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しています。

< 到達目標 >

問題発見・解決のため「行動力」を高めることができる。

< 授業の進め方 >

講義する部分もありますが、受講生同士の話し合い(ディスカッション)が主となります。可能な限り、学外に出て現場を見たいとも考えています。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外こそが学習だという認識をもって、テーマに関する積極的な情報収集や現地調査、新聞・雑誌等を読むことに努めてください。(1講義に対して1時間程度)

< 成績評価方法・基準 >

グループ毎に課題に取り組んでもらいます。発表時におけるグループ内での個人の成果(40%)、それに関する期末レポート(60%)で評価します。

< テキスト >

必要な書籍等があれば紹介します。

< 授業計画 >

第1回 問題発見・解決能力を高める意義

授業の目的・目標、進め方を詳しく説明する。

第2回 費用負担の経済学

費用負担の経済学の内容についてレクチャーする。

第3~5回 NPO活動への参加

NPO団体の活動に参加し、費用負担の経済学を実体験をもとに修得する。

第6~10回 グループワーク

費用負担の経済学に関するアンケート調査をグループに分かれておこなう。

第11~13回 成果発表会

アンケート調査の結果をまとめた内容を発表する。

第14~15回 ゼミ合宿準備

ゼミ合宿の目標を明確化するとともに、フィールドワークの内容を決定する。

2022年度 後期

2単位

演習

竹治 康公

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

マクロ経済学の基礎概念を学習することで、GDP、国際収支、貨幣等の概念と実際のビジネスの世界とのかかわりについての理解を深める。

DP(学位授与方針)の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

また同時に、現実の企業の経営戦略やその基本における機会費用の考え方を具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての15年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

政府の経済政策、新聞の経済記事やテレビの経済番組等の間違いを理解することができる。

<授業の進め方>

輪番制によるゼミ報告 討論。

<履修するにあたって>

1. 演習の諸連絡等は基本的にLineとe-mailを利用するので、Lineとe-mailを使えるようにしておくこと。
2. レポートや卒論の提出等はdotCampusを使うのでdotCampusを使えるようにしておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

テキストの精読と関連事項の調査・研究180分/week程度

<成績評価方法・基準>

演習での報告80%、レポート20%

<テキスト>

菅原晃著、『高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学』、河出書房新社、2013

<参考図書>

講義中に指示する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

ゼミの進め方について議論する。

第2-3回 テキスト輪読

テキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義経済の問題点について理解を深める。

第4回 討論

第2-3回のまとめの討論を行う。

第5-6回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義経済の問題点について理解を深める。

第7回 討論

第5-6回のまとめの討論を行う。

第8-9回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義経済の問題点について理解を深める。

第10回 討論

第8-9回のまとめの討論を行う。

第11-12回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義経済の問題点について理解を深める。

第13回 討論

第11-12回のまとめの討論を行う。

第14-15回 総括討論

全員でこれまでの総括の討論を実施する。

2022年度 後期

2単位

演習

田宮 遊子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本演習の履修者は、貧困、格差、ジェンダーやマイノリティに関連する社会問題に対する社会保障・労働関連の政策について学ぶ。今年度は、格差と貧困問題 に焦点をあてる。

この講義は、経済学部のディプロマ・ポリシーの以下と関連している。

- ・経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。
- ・経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。
- ・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

<到達目標>

今年度のテーマについて、資料収集、文献・資料読解、ディスカッションを通じて、以下の能力を獲得することができる。

- ・学術的な文献の内容を正確に理解できる。
- ・文献から理解した内容をわかりやすく他の受講生に対して発表できる。
- ・適切でわかりやすいレジюмеを作成できる。
- ・効果的な発表ができる。
- ・質問に理論的に答えることができる。
- ・自分の意見をまとめ、グループで議論することができる。

<授業の進め方>

履修者は、資料の読解方法を学ぶ。あわせて、資料収集の方法、統計資料の読み取り、ディスカッションを行う。

<履修するにあたって>

本演習を受講するにあたり、履修者は問題意識をもって演習に望むこと、毎回出席すること、すべての課題にとりくむこと、積極的に議論に参加することが必要となる。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習に各回1? 2時間程度の時間を要する。

< 提出課題など >

履修者はほぼ毎回、課題を提出する。提出した課題はコメントをつけて返却される。

< 成績評価方法・基準 >

授業時のプレゼンテーション、授業時の自発的な発言、提出課題で総合的に評価する(100%)。

・ゼミでの報告、議論への参加、提出物で評価する。ゼミへの毎回の出席は成績評価の前提となる。

・提出課題をすべて提出し、かつ、授業時間内の報告を担当することが、単位認定の最低条件となる。

・なお、提出レポートのなかに、他の文献資料からの剽窃、盗用があった場合には、不合格となる。

< テキスト >

講義時に決定する。

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

演習の内容、進度について理解する。

ゼミ生同士の顔合わせ、自己紹介、ゼミ選考試験で記載した内容の振り返りを行う。

第2回、第3回 文献の読み方、まとめ方

文献の読み方、まとめ方について学習する。

第4回、第5回 報告の方法

ゼミでの報告の方法(レジメの書き方、プレゼンテーションの仕方)について学習する。

第6回? 第13回 文献精読

各自文献の要約、精読を行い、担当者が内容の報告、コメントを行う。

第14回 書評

精読した文献の書評を書く。

第15回 まとめ

今期のまとめを行う。

2022年度 後期

2単位

演習

田口 順等

< 授業の方法 >

講義・演習

対面授業(講義)

< 授業の目的 >

大学における講義はレポート・論文の作成やプレゼンテーション(発表)など自分の意見や主張を述べ、文章に表すなど高校までの授業や勉強方法とは異なる方法で課題や試験を回答・提出しなければならない。そこでこの講義では、問題解決能力、情報の収集、プレゼンテーションなどの技術・方法について紹介し、実際に練習・演

習を行う。

経済学部DPの「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」と対応している。

< 到達目標 >

1.問題解決能力に必要な考える「型」を学び活用できる(知識)

問題に取り組む方法はすでに先人の知識として蓄積されています。まずはそれを真似ることで、自分なりに活用できます。

2.レポートの作成など文章の書き方を習得する(知識・技能)

課題・卒業論文だけでなく、エントリーシートなど文章を書く必要がでてきます。論理的に文章を書く技術を習得し将来に活用しましょう。

< 授業のキーワード >

問題解決能力、情報リテラシー、観光経済学

< 授業の進め方 >

実例やテーマをもとにゼミ生各自が問題点を見つけ、発表し、解決方法や意見を出し合う

進捗状況によって内容が前後・変更されることがある。

< 履修するにあたって >

演習ではゼミ生が主体的に動くことが求められます。出席は当然として、問題を発見し積極的に考え解決していく意識が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

課題の準備や、レポート作成、復習など各回ごとに0.5? 1.5時間を想定している。

< 提出課題など >

プレゼン、課題、レポートを与え、回収・チェック後返却し、解説を行い、改善方法を学び理解度を高められるようにする。

< 成績評価方法・基準 >

課題・コメント・レポート・プレゼン等によって評価する。(100%)

< テキスト >

特に指定しない、レジメを配布する。

< 参考図書 >

田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』ミネルヴァ書房、2003年

山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門?研究のための8つの力』ミネルヴァ書房、2011年

そのほかは適宜指示する

< 授業計画 >

第1回 講義・演習概要

演習案内、注意点
第2回 表現方法
チームビルディング・自己紹介
第3回 表現方法
チームビルディング・自己紹介
第4回 論理的思考能力
時間管理
第5回 表現方法
プレゼンテーションの技法
第6回 論理的思考能力
問題の定義、問題解決の技法
第7回 論理的思考能力
観察法
第8回 輪講
各自与えられたテーマをもとに発表を行う
第9回 輪講
各自与えられたテーマをもとに発表を行う
第10回 輪講
各自与えられたテーマをもとに発表を行う
第11回 論理的思考能力
ライティング
第12回 論理的思考能力
統計・データに基づくレポート作成
第13回 グループディスカッション
発想法について
第14回 グループディスカッション
演習と発表
第15回 グループディスカッション
演習と発表

2022年度 後期

2単位

演習

常廣 泰貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに示す、2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること、5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができることを目指しています。

< 主題 > : ミクロ経済学、マクロ経済学およびゲーム理論の基礎

< 目標 > : ミクロ経済学やマクロ経済学などの経済理論やそれらに関連するゲーム理論的な考察方法を身につけます。

< 到達目標 >

ミクロ経済学、マクロ経済学およびゲーム理論など経済理論による考察方法の修得。

< 授業の進め方 >

報告、質疑・応答および課題の考察。

< 履修するにあたって >

経済数学の基礎知識があることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

レジュメ等の作成のため概ね2時間の学修時間。

< 成績評価方法・基準 >

報告および質疑・応答の内容によって評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミの概要

第2回? 第8回 報告および課題の考察 1

報告および初歩的な経済理論についての考察

第9回~第14回 報告および課題の考察 2

報告および基礎的な経済理論についての考察

第15回 まとめ

これまでのまとめ

2022年度 後期

2単位

演習

中村 亨

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

< 主題 > 経済実証分析の基礎と自主研究テーマに従った研鑽 1

< 目標 > 専門的な新しい経済学の習得

経済学部のDPにあるように、経済問題を総合的に分析し、より良い社会構築に貢献できるようになることを目的とする。

ホームページ

<https://ntohru.wixsite.com/mysite>

< 到達目標 >

統計学、行動経済学の基礎、実証分析の基礎を理解することができる

< 授業のキーワード >

データ分析、政策評価、因果分析

< 授業の進め方 >

質疑応答型が基本だが、あたられた課題をグループ学習し、プレゼンテーションの形で発表し、修正し、理解を深めていく。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる教材(新聞、課題図書、論文)の箇所を読んでおくこと。(目安として1時間)

事後学習として、宿題・課題に取り組むこと。(目安と

して1時間)
<提出課題など>
毎回宿題をこなし、その内容をプレゼンする。
<成績評価方法・基準>
プレゼンの質で評価
<参考図書>
授業の際に指示。
<授業計画>
第1回 イン트로ダクション
年間計画
第2回?第4回 経済実証分析の基礎(1)
Rによる分析の基礎: Rによるデータベースの作成
第5回?第7回 経済実証分析の基礎(2)
Rによる分析の基礎: 回帰分析の応用と実践
第8回?第10回 経済実証分析の基礎(3)
Rによる分析の基礎: 時系列・パネル分析の応用と実践
第11回?第14回 ディベート大会のテーマ分析
ディベート大会のテーマをチームごとで検討。プレゼン
資料の作成。プレゼンのデモンストレーション。
第15回 ゼミ対抗ディベート大会
ディベート大会でのテーマに沿ったプレゼンテーション

2022年度 後期

2単位

演習

西山 茂

<授業の方法>

演習『資本論』の講読。

<授業の目的>

本授業の目的は、DP「2.経済理論の基礎を修得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」「3.経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。」に関連している。ゼミナールの目標は資本制経済の実証分析である。

『資本論』を輪読しながら、理論的基礎について学ぶが、現実の経済について興味を持ってほしい。演習は、学問をする場である。今回は「故きを温ねて新しきを知る」という発想で演習を行います。『資本論』の理解は、現代マクロ経済学の理解にも通ずるものがあります。

<到達目標>

資本制経済あるいはマクロ経済の見方について理解することができる。

<授業のキーワード>

資本制経済、マクロ経済、価値産業連関表、剰余価値、パワハラなどの労働問題、改正労働施策総合推進法、

<授業の進め方>

理想的には、テキストの報告をしてもらいたいが、内容

の十分な理解のためにも、教師が講義形式でテキストの解説をする。

<履修するにあたって>

必ず出席すること。欠席可能回数5回。

ゼミナールは、学問をする場です。ひたすら内容の理解に努めてください。本ゼミナールでは、学問的価値の高い書物を学んでいきます。学問的な高みに向かって挑戦してってください。

私たちは、社会にでると、労働しなければなりません。現在、コロナ危機のため、社会の誰もが苦しんでいます。大量の解雇者、過重な労働、労働力を売って生活をしている者にとって、深刻な事態です。

重要な労働問題であるパワハラ問題についても議論していきます。今回、労働と商品と貨幣と資本について学んでいきます。社会に出て自分を守るための知恵としての『資本論』を学びます。『資本論』は経済学最大の古典です。

<授業時間外に必要な学修>

テキストを読んでおくこと。最低30分予習すること。

<提出課題など>

なし

<成績評価方法・基準>

期末レポート(自由論題: 経済や経済学の書物で各自が興味のある書物を1冊選んでまとめること)100%の割合で評価する。欠席可能回数5回。

<テキスト>

日本共産党中央委員会社会科学研究所監修『新版 資本論 1 カール・マルクス』新日本出版社

1700円

上記テキストは必ず購入してください。

<参考図書>

「パワハラ防止法 改正労働施策総合推進法」信山社
斎藤光雄著「国民経済計算」創文社

置塩信雄著「マルクス経済学 価値と価格の理論」筑摩書房

久留間鮫造著「価値形態論と交換過程論」岩波書店

見田石介著「資本論の方法」弘文堂

日本共産党中央委員会社会科学研究所監修『新版 資本論 7 カール・マルクス』新日本出版社

同『新版 資本論 2 カール・マルクス』新日本出版社

同『新版 資本論 3 カール・マルクス』新日本出版社

同『新版 資本論 4 カール・マルクス』新日本出版社

<授業計画>

第1回 テキスト第1章商品

第1章商品 商品の二つの要因—使用価値と価値（価値の実体、価値の大きさ）商品に表わされる労働の二重性格

第2回 テキスト第1章商品

第1章商品 価値形態論 A 簡単な、個別的な、または偶然的価値形態

1. 価値表現の両極 — 相対的価値形態と等価形態
2. 相対的価値形態 a 相対的価値形態の内実 b 相対的価値形態の量的規定性
3. 等価形態 4. 簡単な価値形態の全体

第3回 テキストの第1章商品

第1章商品 B相対的または拡大せる価値形態
C一般的価値形態 D貨幣形態もしくは価格形態

第4回 テキスト第1章商品

第1章商品 商品の物神的性格とその秘密

第5回 テキスト第2章交換過程

第2章交換過程

第6回 テキスト第3章貨幣または商品流通

第3章貨幣または商品流通 第1節価値の尺度 第2節流通手段

第7回 テキスト第3章貨幣または商品流通

第3章貨幣または商品流通 第3節貨幣

第8回 第4章貨幣の資本への転化

第4章貨幣の資本への転化

第9回 第5章労働過程と価値増殖過程

第5章労働過程と価値増殖過程 第1節労働過程

第10回 第5章労働過程と価値増殖過程

第5章労働過程と価値増殖過程 第2節価値増殖過程

第11回 第6章不変資本と可変資本

第6章不変資本と可変資本

第12回 第7章剰余価値率

第7章剰余価値率

第13回 第8章労働日(1)

第8章労働日(1)

第14回 第8章労働日(2)

第8章労働日(2)

第15回 応用編(1)

価値産業連関表から読む『資本論』。

ここでいう価値産業連関表とは生産者価格評価取引基本表のことである。

単純再生産の場合についてのみ、再生産表式についても取り上げてみたいと思います。産業連関表は、ワシリー・レオンチェフという偉い経済学者が作りだしたものです。ある意味では、産業連関表も経済学の古典であるといっても過言ではないでしょう。マルクスの『資本論』の再生産表式は、産業連関表のルーツにあたります。みんなで楽しみましょう。

2022年度 後期

2単位

演習

伴 ひかり

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

演習 の目的は、経済学部でのDPに掲げる、「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できること」、「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること」、および、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができること」と関連する。

具体的には次のようなものである。グローバル化が進展する中で、我々は気候変動問題やパンデミックといった経済活動と密接に関係があり、人類の存亡に関わるような問題に直面するようになった。このような問題に対処するために、まずは資本主義経済がどのような特徴をもち、どのようなメカニズムで動くかを理解することが目的である。さらに、その内容を他者に説明できることや、必要に応じて関連する経済統計を理解し、それを用いて視覚資料を作成できるようになることも本演習の目的である。

また、本演習は2年次後期に配当されている専門演習で「専門的学問への基礎の確立」に位置付けられている。

< 到達目標 >

- ・基本的なマクロ経済理論を用いて経済問題をある程度説明できる（知識）。
- ・テキストの内容について、レジюмеを作成し説明することができる（知識・技能）
- ・英語のウェブサイトをある程度活用できる（技能）。
- ・新聞などの経済ニュースに関心をもち、要点を人に説明することができる（態度・習慣、技能）。

< 授業の進め方 >

演習参加者の発表と質疑応答を中心に進めていく。適宜、オープン・アクセスのグローバルな英語経済学教材、CORE-Econ (<https://www.core-econ.org/>)を利用する。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 成績評価方法・基準 >

報告50%、課題50%で評価する。原則として、無断で報告を怠った場合や、出席が2/3を下回る場合は単位を取得できない。

< テキスト >

安倍太郎ほか『資本主義がわかる経済学』大月書店、20

19年 .

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

ゼミの運営方法，レジユメの作成方法，発表の方法等について学ぶ．

第2回 資本主義を理解するために

資本主義経済の基本的特徴を理解する．

第3回 再生産，剰余，社会的分業(1)

再生産と剰余について理解する．

第4回 再生産，剰余，社会的分業(2)

社会的分業について理解する．

第5回 労働統計

賃金や雇用に関する統計を理解し，必要な情報を視覚資料にする．

第6回 賃金と利潤(1)

賃金について考察する．

第7回 賃金と利潤(2)

利潤の存在条件について考察する．

第8回 国民経済計算

GDP統計，産業連関表を理解し，必要な情報を視覚資料にする．

第9回 利潤と資本蓄積(1)

一国の経済構造と利潤について考察する．

第10回 利潤と資本蓄積(2)

利潤率の決定について考察する．

第11回 財政・金融に関する統計

財政・金融に関する統計を理解し，必要な情報を視覚資料にする．

第12回 国家と貨幣制度(1)

財政について学ぶ．

第13回 国家と貨幣制度(2)

貨幣制度について学ぶ．

第14回 市場の機能とその限界(1)

市場の機能について考察する．

第15回 市場の機能とその限界(2)

価格の決定について考察する．

2022年度 後期

2単位

演習

林 隆一

< 授業の方法 >

演習

今後の授業形態は、大学・経済学部の方針に従い変更する可能性があります。

< 授業の目的 >

本講義は演習科目に属し、演習の基礎として、演習以降の導入と位置づけられる。

DP（学位授与方針）の「経済問題を総合的に分析できる

知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共ににより良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

演習 以降で、学生コンテスト（今までの参加例：日本経済新聞社主催の日経ストックリーグや神戸新聞社主催のMラボ、KOBELの未来に向けた政策提案コンテスト等）に参加する準備をかねて、日本経済における企業活動の理解・分析を進め、自分の言葉で説明し、他人と適切なコミュニケーションがとれることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、証券アナリストとして企業分析・評価を19年間経験し、現在は上場企業の社外取締役を兼務する「実務経験のある教員」であり、より実践的な観点から上記の内容等を解説するものである。

< 到達目標 >

（1）日本経済の課題（テーマ）を選び、それを具体的に説明できる知識を持つことができる（知識）。

（2）経済活動を自分なりの視点で分析し、その内容をプレゼンテーションし、お互いにディスカッションできる（技能）。

（3）経済分析や発表に関して積極的な態度や興味を持ち、受講生同士で議論する習慣を持つことができる（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

日本経済の中から各受講生が一部を選択する（受講生ごとにテーマを選ぶ）。

< 授業の進め方 >

ゼミ（活動）を会社（仕事）に見立て、疑似的な就業体験（本来の意味のインターンシップ）として、グループ単位（各部署単位）で、自分の「仕事」をし、中途経過を授業で発表する。

教員は補足や次の方向性を示唆し、必要に応じて基礎知識の講義・指導を行う。

< 履修するにあたって >

・企業活動・企業評価の専門家・実務家をゲストとしてお呼びしたり、学生コンテストの締切等のスケジュールや受講生の意向を考慮したりする場合、スケジュールを変更することがある。

・受講者各人の自主的・積極的な提案を歓迎する。

< 授業時間外に必要な学修 >

演習 以降の学生コンテスト（例：日本経済新聞社主催の日経ストックリーグや神戸新聞社のMラボ、懸賞論文等）の参加を前提とするため、コンテストの動向に応じて、演習以外の時間の学習や受講生同士のコミュニケーションが必要となる。学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には2時間程度が必要となる。

< 成績評価方法・基準 >

発表内容50%、他者の発表などに対するディスカッション30%、講義の運営やチーム運営など20%で評価する（ただし、欠席日数が一定水準を超えた場合は評価の対象

から外すものとする)。演習の時間外の行事(学生コンテスト、工場見学、企業や社長ミーティング、先輩後輩ゼミ生との交流など)の参加を加点として評価する。

<テキスト>

必要があれば、講義中に適宜指示する。

<参考図書>

必要があれば、講義中に参考書を適宜指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

演習の運営方法やレジュメの作成方法に関して説明し、今後の授業の内容やスケジュールを、全員で議論して決定する。それを踏まえ、以下のスケジュール等は組み替える場合がある。

第2回 自己(他己)紹介

自己(他己)紹介を踏まえ、チーム運営の基礎を学ぶ。

第3回 課外講座の紹介等・

先輩学生の学生コンテスト参加経験から学び、議論する3年生4年生の先輩(ゼミ学生)等が演習で、チーム単位で作成・提出した日経ストックリーグや学生コンテスト等の内容や経験を聞き、これから参加する学生コンテストの参考とするための議論や質問を行う。

第4回 外部講師講演

実際の企業分析やフィールドワーク、データベースの実例を学ぶ。

第5回 日本経済の課題(テーマ)と企業の発表(1)

学生コンテストの参加等を前提に、過去の入選作品等を担当者が解説・発表を行うなどし、企業分析や投資に関して学ぶ。

第6回 日本経済の課題(テーマ)と企業の発表(2)

学生コンテストの参加等を前提に、過去の入選作品等を担当者が解説・発表を行うなどし、企業分析や投資に関して学ぶ。

第7回 日本経済の課題(テーマ)と企業の発表(3)

上級生(3年生)が参加し、学生コンテストの参加等を前提に、過去の活動の意見交換から、企業分析や投資に関して学ぶ。

第8回 ディベートの基礎

ディベートの基本を学び、チーム分け、相談を行う。

第9回 ディベート大会準備

ディベート大会のための準備。

第10回 各チームの発表報告(1)

チーム単位で、日本経済や企業の問題点・課題(テーマ)を設定し、調査・分析の発表を行い、議論する。

第11回 各チームの発表報告(2)

チーム単位で、日本経済や企業の問題点・課題(テーマ)を設定し、調査・分析の発表を行い、議論する。

第12回 ディベート(ゼミ内)

ゼミ内でチームを組み、ディベートの練習を行う。

第13回 ディベート大会

他のゼミとディベート大会を行う。

(他のゼミとの調整のため、スケジュールを変更する可能性がある)

第14回 ディベート大会

他のゼミとディベート大会を行う。

(他のゼミとの調整のため、スケジュールを変更する可能性がある)

第15回 まとめと今後の方針確認

演習活動のまとめと、今後の調査・研究方針やスケジュールを確認する。

2022年度 後期

2単位

演習

平井 健之

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

【授業の概要】

政府(国や地方公共団体)は国民生活や企業活動に関する多様な分野に関与し、わが国の経済において重要な役割を演じています。本演習では、政府の経済活動を分析対象とする財政や公共経済に関する学習を通して、経済社会のさまざまな課題に対処するために、政府は「何を」、「どのように行えばよいか」について考えます。そのため、授業では、日本の財政に関するデータ分析を行い、財政の諸問題について検討します。

【授業の目的】

財政をめぐる政府の経済活動に関心をもつとともに、政府が直面する財政問題についてさまざまな観点から考える能力を身につけます。また、学部DPに掲げられているように、演習での発表を通して、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目指します。

<到達目標>

政府の財政問題に関心をもち、財政の現状を説明することができる。

政府の財政問題について考え、自らの解決策を発表することができる。

公共サービスの供給、租税と公債、社会保障など、財政をめぐる政府の経済活動に関する基礎知識を身に付けることができる。

<授業のキーワード>

日本の財政、財政赤字、歳入、歳出、税金、社会保障

<授業の進め方>

政府の財政をめぐる諸問題(財政赤字や年金問題など)についてテーマを設定し、そのテーマに基づきグループ

ごとの発表と全員による討論を重ねながら授業を進めます。

<履修するにあたって>

ゼミを有意義なものとするよう自らが努力するとともに他人と協調して、ゼミの学習内容に意欲的に取り組む姿勢が必要です。

<授業時間外に必要な学修>

発表内容についての学習と資料作成を行い、質疑応答に対応できるように事前準備をしておくこと(2時間以上)。

<提出課題など>

発表者は、発表内容について報告資料を作成し、その内容を発表してもらいます。なお、報告資料の内容は成績評価の対象となります。

<成績評価方法・基準>

授業での議論への参加態度、授業中の発表とその作成資料、期末レポートを総合して評価します。

授業中の発表と課題の提出は単位取得の条件となります。なお、授業は毎時間の出席が前提となります。(1)無断欠席をした者、(2)特別な事情を除いて3回以上欠席した者は、単位を取得できないので注意してください。

<テキスト>

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

自己紹介

授業の内容と進め方、受講上の注意事項などの説明

報告資料の作成やプレゼンの方法についての指導

第2回 日本の財政の現状を把握する

文献やデータに基づき、日本の財政の現状について調べる。

グループによる発表資料の作成。

第3回 日本の財政の現状を把握する

文献やデータに基づき、日本の財政の現状について調べる。

グループによる発表資料の作成。

第4回 日本の財政の現状を把握する

文献やデータに基づき、日本の財政の現状について調べる。

グループによる発表資料の作成。

第5回 日本の財政の現状を把握する

グループによる発表。

発表内容について、質疑応答、全員で議論。

第6回 日本の財政問題を検討する

文献やデータに基づき、日本の財政問題を考える。

グループによる発表資料の作成。

第7回 日本の財政問題を検討する

文献やデータに基づき、日本の財政問題を考える。

グループによる発表資料の作成。

第8回 日本の財政問題を検討する

文献やデータに基づき、日本の財政問題を考える。

グループによる発表資料の作成。

第9回 日本の財政問題を検討する

文献やデータに基づき、日本の財政問題を考える。

グループによる発表資料の作成。

第10回 日本の財政問題を検討する

グループによる発表。

発表内容について、質疑応答、全員で議論。

第11回 日本の財政再建策を考える

文献やデータに基づき、日本の財政再建策を考える。

グループによる発表資料の作成。

第12回 日本の財政再建策を考える

文献やデータに基づき、日本の財政再建策を考える。

グループによる発表資料の作成。

第13回 日本の財政再建策を考える

文献やデータに基づき、日本の財政再建策を考える。

グループによる発表資料の作成。

第14回 日本の財政再建策を考える

グループによる発表。

発表内容について、質疑応答、全員で議論。

第15回 まとめ

授業全体のまとめ(授業内容に関する総復習)

授業全体をふりかえって

2022年度 後期

2単位

演習

圓生 和之

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

「公務員」に関心を持つ学生を主な対象として、仕事・職業・働くことを経済学の視点から分析し、将来の職業像の確立を目指します。

さらに、卒業論文の作成に向けて準備すべきことを学びます。これらにより、次年度以降の演習と合わせて、就活と卒論の完成に導きます。

経済学部でのDPに掲げる「経済問題を総合的に分析できる知識と技能」の習得を目指します。

この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられています。

なお、この科目の担当教員は、二十数年間 行政に携わっていた実務経験のある教員です。行政の現実を踏まえた議論を行いたいと思います。

<到達目標>

・仕事や職業、働くことについて日頃から高い関心を持

って考えることができる(態度・習慣)、
・仕事や職業、働くことについての基礎的な知識を得て、その概要を説明できる(知識)、
・卒業論文を作成するために今からすべきことを実践できる(技能)、ことを目指します。

< 授業のキーワード >

公務員制度、業界研究、職業像の構築、卒業論文の基礎知識

< 授業の進め方 >

基本的な事項を解説した後、ゼミ形式で進めます。(ゼミ形式 = 基本書の担当箇所の内容を担当学生が報告し、その報告をベースに全員で議論する学習方法です。)

< 履修するにあたって >

全回出席をめざせること、メールで連絡がつくことが、履修の条件です。

< 授業時間外に必要な学修 >

報告担当回は、教科書の担当箇所を熟読し、説明と質疑応答の対応ができるように学習してください。

その他の回は、教科書の該当箇所を予習し、適切な質問ができるように学習してください。

必要となる時間は、一律ではないものの、平均的には90分程度が目安となります。

< 提出課題など >

報告担当回は、レジュメを作成・配布してください。

作成されたレジュメについては、演習講義の中で講評と解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

演習における報告内容、質疑応答の内容などを総合的に評価します。

< テキスト >

未定

< 参考図書 >

圓生和之(2020) 『地方公務員の人事がわかる本』学陽書房

小池和男(2005) 『仕事の経済学』東洋経済新報社

阿部正浩ほか(2017) 『職業の経済学』中央経済社

古郡頼子(1998) 『働くことの経済学』有斐閣

太田聡一・橋木俊詔(2012) 『労働経済学入門』有斐閣

日本経済新聞社(2022) 『日経業界地図2023年版』日本経済新聞出版社

白井利明・高橋一郎(2013) 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

このほか、随時紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の進め方についての説明 / 将来の職業像(キャリアビジョン)の展望

第2回 キャリア形成

(民間 業界研究)

キャリアビジョンの形成(民間企業の業界研究)

第3~4回 キャリア形成

(公務員研究)

公務員の採用の現状と課題(公務員試験の分析)

第5~14回 演習(ゼミ)

基本書を用いて、分担して、報告者による報告を受け、ゼミ生全員で議論をすることにより、理解を深めます。

演習(ゼミ)の中心的な部分です。

うち何回か キャリアガイダンス

実務教育出版(公務員)やマイナビ(民間企業)等のキャリアガイダンスに参加します。

第15回 今後に向けて

卒業論文の作成に向けて、公務員試験対策として、いまやるべきことを考えます。

2022年度 後期

2単位

演習

三宅 敦史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は演習科目に位置付けられており、金融の基礎について学習し、基礎力を身に付けることを目的とする。この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる理論の基礎の修得並びに制度に係わる知識の修得を目的としている。

< 到達目標 >

金融の基本について理解する。

< 授業の進め方 >

金融に関する入門テキストを輪読する。各自が担当箇所について報告する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミ中の発言、発表等を総合して評価する。なお報告担当者が無断欠席をした場合、及び3回以上無断欠席した場合には成績評価を行わない。

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

ゼミの進め方についての解説とテキスト担当箇所の決定

第2回? 第5回 テキスト輪読

各自がテキストの担当箇所を報告し、それに対する解説並びに討論を行う

第6回 ゼミ講演会

外部講師を招いての講演会（演題未定）

第7回? 第10回 テキスト輪読

各自がテキストの担当箇所を報告し、それに対する解説並びに討論を行う

第11回 ゼミ講演会

外部講師を招いての講演会（演題未定）

第12回? 第15回 テキスト輪読

各自がテキストの担当箇所を報告し、それに対する解説並びに討論を行う

ゼミ講演会の日程は講演者の都合により変更する場合があります

2022年度 後期

2単位

演習

毛利 進太郎

----- < 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のDPが示す経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できるための素養を身に着けることを目指しています。

演習 から卒業論文まで続く演習の一部として、まずコンピュータを実際に利用しその応用について様々な角度から学びます。近年、インターネットに代表されるIT技術を活用することで多くの新しいビジネスが誕生し、既存の企業もその活動の形態を変えつつあります。さらにはインターネットの普及に伴い、社会全体が大きな変貌を遂げつつあります。本演習ではこのようにIT技術が社会に与える影響を考察し、さらに今後の発展について考えていきます。

< 到達目標 >

身近なコンピュータのさまざまな使い方について調べながら情報処理技術の応用について理解できる。

< 授業の進め方 >

毎回課題をだし、それを個人またはグループで行い提出してもらいます。

< 履修するにあたって >

主に実習室で講義を行います。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

適宜課題を課します。発表時に随時講評します。

< 成績評価方法・基準 >

課題への取組み（50%）、ゼミでの発表（50%）で評価します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習 での学習内容について説明し、今後のスケジュールなどを決定する

第2回 EXCELの活用1

EXCELの基本的な知識を確認し、活用に備えます。

第3回 EXCELの活用2

EXCELを用いた分析を行います。統計データを入手し、それらをいかにEXCELで活用するかを考えます。

第4回 EXCELの活用3

EXCELを用いた分析を考えます。産業連関表を用いた経済効果分析を考えます。

第5回 EXCELの活用4

EXCELを用いた分析を考えます。産業連関表を用いた経済効果分析を考えます。

第6回 VBAプログラミング1

EXCELをさらに活用するためのVBAのプログラミングを学びます。VBAのエディタの起動から実行について学びます。

第7回 VBAプログラミング2

EXCELをさらに活用するためのVBAのプログラミングを学びます。簡単なプログラムを行うための基本概念を学びます。

第8回 VBAプログラミング3

EXCELをさらに活用するためのVBAのプログラミングを学びます。プログラミングを行うための制御構造を学びます。

第9回 VBAプログラミング4

EXCELをさらに活用するためのVBAのプログラミングを学びます。VBAの記録など皿に活用するための方法を学びます。

第10回 VBAプログラミングの応用1

EXCELをさらに活用するためのVBAのプログラミングを学びます。Webのアクセスなどさらに進んだ活用方法の基礎を学びます。

第11回 VBAプログラミングの応用2

EXCELをさらに活用するためのVBAのプログラミングを学びます。Webのアクセスなどさらに進んだ活用方法の基礎を学びます。

第12回 VBAプログラミングの応用3

EXCELをさらに活用するためのVBAのプログラミングを学びます。これまでを振り返る課題を行います。

第13回 グループ発表1

グループに別れ、これまでに学んだことを活用し、各グループでテーマを探し、データ分析を行い発表してもらいます。

第14回 グループ発表2

グループに別れ、これまでに学んだことを活用し、各グループでテーマを探し、データ分析を行い発表してもらいます。

第15回 グループ発表3

グループに別れ、これまでに学んだことを活用し、各グループでテーマを探し、データ分析を行い発表してもらいます。

2022年度 前期

2単位

演習

麻生 裕貴

< 授業の方法 >

対面による演習と講義

< 授業の目的 >

この授業は、経済学部DP 「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」とDP 「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しており、それらを修得することを目標とする。

< 到達目標 >

- ・グループワークを通じて、日本経済の課題について分析できるようになる。
- ・発表や討論を通じて、自身の考えを適切に主張できるようになる。

< 授業のキーワード >

日本経済、プレゼンテーションスキル

< 授業の進め方 >

教員による講義のあと、グループワークを行なう。

< 履修するにあたって >

無断欠席をしないこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

他の授業科目や新聞やテレビのニュース、インターネットなどで、幅広く世の中の経済問題に関心をもち、分からないことや疑問点などを積極的に調べる(2時間)

< 提出課題など >

グループごとのレポートを提出してもらおう。授業の中で随時、進捗状況がチェックされフィードバックされる。

< 成績評価方法・基準 >

演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

< テキスト >

初回授業で指定する。

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要を説明する。

第2回 プレゼンテーションスキル

プレゼンテーションスキルについて説明する。

第3-5回 グループワークでレポートを作成する。

グループワークでレポートを作成する。

第6-7回 ゼミ内でのプレゼン・討論の準備

グループワークでプレゼン・討論の準備を行なう。

第8回 ゼミ内プレゼン・討論会

ゼミ内でプレゼン・討論会を行なう。

第9-14回 学外でのプレゼン・討論の準備

学外でのプレゼン・討論の準備を行なう。

第15回 学外でのプレゼン

学外でプレゼンを行なう。

2022年度 前期

2単位

演習

石本 眞八

< 授業の方法 >

対面形式による演習

< 授業の目的 >

演習での個別研究を深めていくなかで、DPの4に示されている、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目標としています。

< 到達目標 >

卒業論文の基礎となる資料収集を進め、論旨をある程度完成させること。

< 授業の進め方 >

各自の研究成果を報告してもらい、質疑応答の中で指示された課題について考察する。

< 履修するにあたって >

授業日以外でも文献読解・資料収集を継続して行う必要があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

各自のテーマに沿ったデータ収集と整理に毎週2時間以上は必要になる

< 提出課題など >

適宜中間レポートを提出してもらい、コメントに従って加筆・修正を行ってもらいます

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート(100%)

< 参考図書 >

必要に応じて適宜指示します

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

研究を進めるための注意事項を指示する

第2回~第5回 研究報告

各自の研究内容を報告する

第6回~第9回 討論会

研究内容について全員で討論する

第10回～第14回 研究報告

研究報告や討論を通じて得たことを報告し研究を深める

第15回 レポート提出

研究内容をまとめたレポートを提出し、必要ならば修正する

2022年度 前期

2単位

演習

井上 善博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

<主題>成功するビジネスプランは、どのように作ればよいのでしょうか。ビジネスを立ち上げるときには、ビジネスプランの作成が必要です。まわりの人たちを納得させるビジネスプランの作成について学びましょう。ビジネスプランには、まわりの人たちをあっと驚かせる大胆さが必要です。その一方で、誰もが理解できる明瞭さも必要です。皆さんが作ったビジネスプランで、ビジネスの「志」を発信しましょう。

<目的>

経済や経営にかかわる諸問題を分析できる知識と技能を育むことを目的とする。私たちのまわりには、まだビジネスとして開拓されていない分野がたくさんあります。それらの分野を見つけ出し、日本経済の発展や中小企業の再生に向けたビジネスプランを作ることが演習の目標です。皆さんの関心のあること、やってみたいことなどゼミの時間に話し合いながら、地域で、日本で、そして世界でも認められるビジネスプランを作成しましょう。この科目は学部のDPで示す、

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。
 2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。
- (思考力・判断力・表現力等の能力)
以上の点を目的とする。

<到達目標>

- ・ 経営学の基礎理論を知り、その知識を活かすことができる。
- ・ 特に、日本企業の経営戦略、日本企業の力強さ(競争力)について関心を持つことができる。
- ・ 協働して議論をすることによって、多様な考え方を社会で役立てる技能を育てることができる。
- ・ ビジネスを立ち上げるために必要な考え方を、著名な

経営者の成功事例をもとに実践することができる。

< 授業のキーワード >

基礎経営学・経営学総論・経営戦略・経営者論

< 授業の進め方 >

学生の皆さんの関心のあるテーマについて、調べ、発表し、議論をして、経営学の基礎を学ぶ。

< 履修するにあたって >

日常生活で必要とされる、そしてまだ開拓されていない事業分野について考えてみましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞や経済雑誌で:経営やビジネスについて、理解を深めること。(50分)

授業時に示したキーワードの説明をできるようにすること。(50分)

< 提出課題など >

各回の議論のテーマについて、まとめること。学習の内容について、次回の授業時にコメントをつけてフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

中間レポート50%、期末レポート50%で評価します。

< テキスト >

適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 ビジネスモデル

市場で受け入れられるビジネスモデルとは

第2回 ビジネスプランの作成

事業計画書をどのように作るか

第3回 アイデア発想

アイデアが生まれる背景と問題意識

第4回 ビジネスモデルの具体例

楽天市場のビジネスモデルの背景

第5回 ビジネスのターゲット

誰のためにサービスを提供するのか

第6回 ビジネスコンセプト

新規ビジネスの特徴はなにか

第7回 競合分析

ビジネスの強み・弱み・機会・脅威を認識する

第8回 ドメインの決定1

物理的ドメイン(どのようなモノを生み出すか)

第9回 ドメインの決定2

機能的ドメイン(どのようなサービスを生み出すか)

第10回 市場規模

どれくらいの収益が見込めるのか

第11回 経営理念

新しい事業の意義を考える

第12回 目標の設定

1年後の企業規模を想定する

第13回 収支プラン1

ビジネスに必要とされる費用はどれくらい必要か

第14回 収支プラン2

どのようにして利益を生み出すか

第15回 資金調達

開業に必要な資金をどのように、どこから調達するか

2022年度 前期

2単位

演習

石田 裕貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部でのDPに示す「4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」、及び「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることである

・金融や経済に関するテーマを設定し、グループワークで研究レポートを作成してもらう。演習 で培ったプレゼン・討論のスキルを磨くために、学外でのイベントに参加する場合がある（詳細はゼミ生と相談する）

< 到達目標 >

・あるテーマについて、適切な情報収集、論理的分析、文章作成ができる（知識、技能）
・グループワークの中で、お互いの個性を尊重し、自分の力を発揮できる（態度、技能）

< 授業の進め方 >

教員による説明の後に、グループワークで進める

< 履修するにあたって >

グループワークが主体となるため、無断での遅刻欠席を認めない。遅刻欠席する場合は教員への事前連絡を求める

< 授業時間外に必要な学修 >

他の授業科目や新聞やテレビのニュース、インターネットなどで、幅広く世の中の経済問題に関心を持ち、分からないことや疑問点などを積極的に調べる（2時間）

< 提出課題など >

グループごとのレポートを提出してもらう。授業の中で随時、進捗状況がチェックされフィードバックされる

< 成績評価方法・基準 >

演習での取り組みを総合的に判断する（100%）

< テキスト >

初回授業で指定する

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要を説明する

第2・3回 テーマの決定

グループのメンバーの意見をまとめて、テーマを決定する

第4・5回 先行研究のレビュー

テーマに関連する先行研究を読み、問題意識を深める

第6・7回 アウトラインの決定

テーマの論点を絞り込み、アウトラインを決定する

第8～10回 本文の執筆

レポートの本文を執筆する

第11・12回 序章と終章の執筆

レポートの序章と終章を執筆する

第13・14回 レポートの完成

参考文献の整理、誤字脱字のチェック、改稿を経て、レポートを完成させる

第15回 まとめ

演習全体を総括する

2022年度 前期

2単位

演習

岡部 芳彦

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

演習 に引き続き、グループワーク、ディベートなどを行います。目標は、コミュニケーション能力の向上できます。

なお、この科目は、学部のDPに示す「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ことを目指しています。

< 到達目標 >

経済社会で生き抜く上で必要な情報分析能力・コミュニケーション能力を身に付けることができる。

< 授業の進め方 >

各自のプレゼンテーション、各班ごとのグループワークを中心に、分析・研究を行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

最低週1回90分程度、授業時間外に、報告や発表に向けて各グループで集まって準備をする。

< 成績評価方法・基準 >

ディベート（30点）、プレゼンテーション（30点）、グループワーク（40点）。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

今学期の学習目標の確認。グループ編成。

- 第2回 グループワーク1
3分間スピーチ(1名)、経済雑誌の記事発表(2名)。
- 第3回 グループワーク2
3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。
- 第4回 グループワーク3
3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。
- 第5回 ディベート準備
他ゼミとの対抗ディベートに向けての準備の開始。
- 第6回 ゼミ講演会
外部から講師を招いてディスカッション。
- 第7回 グループワーク4
3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。
- 第8回 グループワーク5
3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。
- 第9回 グループワーク6
3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。
- 第10回 ゼミ講演会
外部から講師を招いてディスカッション。
- 第11回 ディベート準備
他ゼミとの対抗ゼミに向けての準備。
- 第12回 グループワーク7
3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。
- 第13回 グループワーク8
3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。
- 第14回 対抗ゼミ
他ゼミとのディベートを行う。
- 第15回 ふりかえり
今学期の学習内容を振り返る。

2022年度 前期

2単位

演習

岡本 弥

< 授業の方法 >

演習

【9月20日(月)~10月2日(土)までの授業形態】

遠隔授業(リアルタイム授業)

詳細は「遠隔授業情報」を参照のこと。

【10月4日(月)以降の授業形態】

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、DP(ディプロマポリシー:学位授与方針)の「3.経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができる」ことに資するものである。

この科目では、2年先に、大学4年間の学修の集大成である卒業論文にふさわしい実証論文を提出することが可能となるよう、まずはそのための基礎づくりに重点をおく。具体的には初歩的な統計学・計量経済学の講義とExcelを活用したデータ分析を通して、実証分析の進め方と、

そのために最低限必要となる基礎的な知識や手法をしっかり身につけたい。

ちなみに、演習(3年次前期)では、労働経済学のテキストの輪読によって経済理論のエッセンスを理解し、続く演習(3年次後期)では、専門的な統計ソフトStataを用いた、この科目(演習)よりも高度なデータ分析演習を行い、4年次までに、「テーマさえ確定すれば卒業論文の作成に着手できる」という状態までもってゆけるようにしたい。

なお、この授業の担当者は、約6年にわたる金融機関での融資渉外業務の経験があり、それを踏まえながら、将来社会人として活動してゆくうえで最低限必要となる分析スキルを実践的に教授する。

最後に、本演習においては、ノートパソコンが必須であることをお伝えしておく。Windows、Macいずれでもかまわないが、ほぼ毎回持参をお願いすることになるだろう。
< 到達目標 >

以下の3つを到達目標として掲げたい。

卒業論文として実証論文を制作する際に、どのような手順で進めてゆけばよいか概ね理解できる。

()を通じて)どのようなテーマ選びをすればよい実証論文を書くことができるのか概ね理解できる。

自分の好きなテーマで(A4で3枚程度の)簡単な実証分析レポートが作成できる。

< 授業のキーワード >

統計学、PC演習

< 授業の進め方 >

【授業の進め方】

対面授業で講義を中心に進める予定である。統計学および計量経済学に関する知識を講義し、定着度を高めるために計算問題演習も実施する。加えて、Excelを用いた基本レベルのデータ分析演習を行う。最後の2回の授業時間には、それぞれが作成したレポートのプレゼンテーションを行う機会を設定する。

< 履修するにあたって >

高等学校までほとんど未知であった経済学という学問に期待を抱いて経済学部に入學し、基礎経済学やミクロ・マクロ経済学で勉強に励んでみたものの、「何のために経済学を勉強しているのかよくわからない」と感じている人は少なくないだろう。そんな真面目な人には、論文を書いてみるのが解決につながると思う。もちろん論文を書くことは難しいが、着実に手順を踏んでゆけば、最終的には誰でも書けるようになる。そのための努力を続けていると経済学はなかなか魅力的に感じるようになるだろうし、そうなれば、無味乾燥で何の役にも立ちそうにないミクロ経済学なんかも、途端に興味深く感じて、もっと勉強したくなったりするのは、過去にこの演習に参加した人たちを見れば明らかだ。

もしそのような話を信じてくれて、かつハードワークに耐えることができる人がいれば、是非いっしょに学んで

ゆきたい。一方で、「勉強から逃げたい」と思ってしまう人や、ゼミを勉強する場ととらえられない人には苦痛にしかならないがゆえにご遠慮頂きたい。

履修要件を課すわけではないが、2年生前期配当の「ミクロ経済学」「マクロ経済学」でB以上の人であれば楽しさを実感できるだろう。ただし、過去に、本要件は充足していなかったけれど、その後にはっきり努力して見違えるくらいに成長して、専門家が読んでも面白いと感じる卒業論文を書き上げた人が何人もいるから、迷うことがあれば是非相談に来てほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の大半を基礎的な統計学・計量経済学の知識や手法の習熟に充てるが、時間的な制約は大きいため、毎回ではないが、必須事項の定着を目的とした宿題を課すことを予定している。その場合、1回あたり1時間程度はかかるであろう。

< 提出課題など >

宿題については回収した次の演習授業のとき採点済答案を返却し、あわせて配布する模範解答例を参照しながら解説を行うものとする。

< 成績評価方法・基準 >

評価は下記の3つに基づいて行われる。

宿題の提出状況および得点率：30%

意見の表明や質問などによる授業への貢献：30%

レポートの内容とプレゼンテーションの出来：40%

【特に重要な点】

- (1) 特別な理由がなく3回以上欠席したもの
 - (2) 宿題の提出率が非常に低いもの
 - (3) 実証分析レポートの発表を行わないもの
- についてはそれぞれ単位を取得することはできない。

< テキスト >

テキストは使用しない。ただし、以下の参考書は講義をより深く理解するうえで役立つと思われる。

< 参考図書 >

山本拓・竹内明香（2013）『入門計量経済学 Excelによる実証分析へのガイド』新世社

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の目的や具体的な内容の説明

第2?3回 実証論文作成の作法

実証論文の作成プロセスおよびその中でどのような点に気をつければよいか説明する。

第4回 計量経済学（イントロダクション）

- (1) 計量経済学とは
- (2) 計量経済学の視点から「どんな人が結婚しやすいか？」について考える

第5回 計量経済学（計量経済分析の5つの手順）

- (1) 実証分析の対象となる経済理論の選択
- (2) 分析対象とする関数の定式化
- (3) モデルのパラメーターの推定

(4) 推定したパラメーターの検定

(5) 結果の経済学的解釈

第6?7回 計量経済学（データの整理）

(1) データの「位置」を表す代表値：平均・中央値・最頻値

(2) データの「散らばり」を表す代表値：分散・標準偏差

(3) 相関関係

(4) 相関係数とその求め方

(5) 共分散と相関係数との関係

(6) 相関関係と因果関係との違い

第8?9回 計量経済学（最小二乗法）

(1) 回帰分析とは

(2) 回帰直線の当てはまりの基準

(3) 最小二乗法と最小二乗推定量の求め方

(4) 理論値と残差の性質

(5) 決定係数とその性質および解釈

(6) 決定係数の求め方

第10回 計量経済学（標本調査と統計的推測）

(1) 無作為抽出と統計的推測

(2) 標本分布の性質

(3) 区間推定および信頼区間の考え方

(4) 信頼区間の求め方

第11回 計量経済学（仮説検定：t検定）

(1) 仮説の設定

(2) 有意水準の設定

(3) 臨界値の設定

(4) 棄却域の設定

(5) 推定値のt値の計算

(6) 判定

第12回 計量経済学（最小二乗推定量の性質）

(1) 回帰モデルの5つの仮定

(2) 不偏性と一致性

第13回 計量経済学（多重回帰分析）

(1) 多重回帰モデルにおける最小二乗推定量の性質

(2) 多重回帰分析の推定結果の解釈

(3) 決定係数の限界と自由度修正済み決定係数

(4) 説明変数の過不足とその影響

(5) 多重共線性

第14?15回 実証分析レポート発表会

2022年度 前期

2単位

演習

佐藤 伸明

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部DPに示す「経済理論の基礎を習得」に資する科目である。日本経済論の学習を通じて、経済学部生としての基礎力（読解力、数的解析力等）の獲得を目的とする。

<到達目標>

日本経済が抱える諸問題の本質を把握できる。

卒業研究のテーマを発見できる。

<授業のキーワード>

日本経済の諸問題の把握。アベノミクス。

<授業の進め方>

テキストに基づく課題報告

<履修するにあたって>

意味不明の単語などは辞書で調べる、理論は、ミクロ、マクロの該当箇所を読む、など主体的に学習すること。

<授業時間外に必要な学修>

テキストの予習。各回1時間の予習が必要である。特に、報告担当の場合には、一週間をかけて念入りに調べて、報告準備をすること。

テキストの復習。各回1時間以上の復習が必要である。

<成績評価方法・基準>

提出課題の報告に基づく。

<テキスト>

配布プリント

最初の授業時に知らせる。

<参考図書>

最初の授業時間において指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

研究テーマの設定と研究の進め方

第2回 テキスト学習の仕方

学習、プレゼンの仕方

第3回 第1章の学習

プレゼンと質疑応答

第4回 つづき

プレゼンと質疑応答

第5回 第2章の学習

プレゼンと質疑応答

第6回 つづき

プレゼンと質疑応答

第7回 第3章の学習

プレゼンと質疑応答

第8回 つづき

つづき

第9回 第4章の学習

プレゼンと質疑応答

第10回 つづき

つづき

第11回 第5章の学習

プレゼンと質疑応答

第12回 つづき

つづき

第13回 第6章の学習

プレゼンと質疑応答

第14回 つづき

つづき

第15回 総復習

研究テーマの設定

2022年度 前期

2単位

演習

柴田 淳子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は、DP（学位授与方針）の「4. 自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」を目指します。これまでに身に付けたデータ処理に関する知識を活用しながら、グループ内でアンケートの作成・分析、報告書の作成・発表を行うことで、思考力・判断力・表現力を身に付けることを目指します。

「演習」は、専門教育科目の選択必修科目における演習科目に属する科目です。

演習では、演習で学んだ意思決定の分析方法を用いてアンケート調査を行います。アンケート調査により得られたデータを分析・報告することによって、応用力を身に付けることができます。

<到達目標>

1. 分析テーマに沿ったアンケート用紙し、それにより得られたデータを分析できる。

2. 分析した結果を考察し、発表できる。

<授業のキーワード>

アンケート調査、レジユメの作成、発表

<授業の進め方>

グループごとにテーマを設定し、そのテーマに沿ったアンケート調査を実施します。そして、データ分析を行い、その結果を報告書にまとめて発表を行うことによって、意思決定に関する理解を深めます。

<履修するにあたって>

初回の授業には必ず参加し、演習の進め方と課題の提出方法について確認してください。

<授業時間外に必要な学修>

毎回、1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です。

<提出課題など>

アンケート用紙および報告書の提出（グループごと）を課しますので、期限を守って提出してください。なお、報告書は成績評価の対象とします。

< 成績評価方法・基準 >

グループ内での役割，作業などにより総合的に評価します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス，テーマ設定

ガイダンス，テーマ設定とグループ分け

第2?4回 アンケート調査

グループごとにアンケート用紙を作成，プレテストの実施

第5?9回 データ収集とその分析

アンケート調査の実施，データの分析

第10?11回 報告書

報告書の作成，分析結果の考察

第12?13回 発表の準備

PPTの作成

第14回 報告会

グループごとの発表とその評価

第15回 報告書の修正

報告会での質疑を加味し，報告書を修正

2022年度 前期

2単位

演習

関谷 次博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

社会人に最も必要とされる能力は「問題発見・解決能力」だと言われています。いま社会問題を解決する企業やNPOの活動が注目されていますが、そこではまさに問題発見・解決能力が求められます。では、そうした能力をどのように高めるかは、学力の向上もさることながら、行動力だと思います。問題発見・解決能力を高めるために様々な行動をしたいと思います。

本講義はDPの4「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しています。

< 到達目標 >

問題発見・解決のため「行動力」を高めることができる。

< 授業の進め方 >

講義する部分もありますが、受講生同士の話し合い(ディスカッション)が主となります。可能な限り、学外に出て現場を見たいとも考えています。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外こそが学習だという認識をもって、テーマに関する積極的な情報収集や現地調査、新聞・雑誌等を読むことに努めてください。(1講義に対して1時間程度)

< 成績評価方法・基準 >

グループ毎に課題に取り組んでもらいます。発表時におけるグループ内での個人の成果(40%)、それに関する期末レポート(60%)で評価します。

< テキスト >

必要な書籍等があれば紹介します。

< 授業計画 >

第1回 問題発見・解決能力を高める意義

授業の目的・目標、進め方を詳しく説明する。

第2回 費用負担の経済学

費用負担の経済学の内容についてレクチャーする。

第3~5回 NPO活動への参加

NPO団体の活動に参加し、費用負担の経済学を実体験をもとに修得する。

第6~10回 グループワーク

費用負担の経済学に関するアンケート調査をグループに分かれておこなう。

第11~13回 成果発表会

アンケート調査の結果をまとめた内容を発表する。

第14~15回 ゼミ合宿準備

ゼミ合宿の目標を明確化するとともに、フィールドワークの内容を決定する。

2022年度 前期

2単位

演習

竹治 康公

< 授業の方法 >

オンライン授業

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外の本科目の取扱いについて)授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

< 授業の目的 >

演習に続いてマクロ経済学の基礎概念である信用創造や国債について理解を進める。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての14年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

DP(学位授与方針)の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

また同時に、現実の企業の経営戦略やその基本における機会費用の考え方を具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての15年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

演習 に引き続き、政府の経済政策、新聞の経済記事やテレビの経済番組等の間違いを理解するための基礎力を深化させることができる。

<授業の進め方>

輪番制によるゼミ報告 討論による。

<履修するにあたって>

1. 演習の諸連絡等は基本的にLineとe-mailを利用するので、Lineとe-mailを使えるようにしておくこと。
2. レポートや卒論の提出等はdotCampusを使うのでdotCampusを使えるようにしておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

テキストの精読と関連事項の調査・研究180分/week程度

<成績評価方法・基準>

評価はレポート課題100%とする

<テキスト>

菅原晃著、『高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学』、河出書房新社、2013

デヴィッド・モス(著)、久保 恵美子(翻訳)『世界のエリートが学ぶマクロ経済入門 - ハーバード・ビジネス・スクール教授の実践講座』、日本経済新聞出版社、2016

<参考図書>

講義中に指示する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

ゼミの進め方について議論する。

第2-3回 テキスト輪読

テキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義経済の問題点について理解を深める。

第4回 討論

第2-3回のまとめの討論を行う。

第5-6回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義経済の問題点について理解を深める。

第7回 討論

第5-6回のまとめの討論を行う。

第8-9回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読および関連文献の研究を通じて、

企業の在り方と資本主義経済の問題点について理解を深める。

第10回 討論

第8-9回のまとめの討論を行う。

第11-12回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義経済の問題点について理解を深める。

第13回 討論

第11-12回のまとめの討論を行う。

第14-15回 総括討論

全員でこれまでの総括の討論を実施する。

2022年度 前期

2単位

演習

田宮 遊子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本演習の履修者は、今年度のテーマ 諸外国の社会保障制度 について、論文の読解、統計資料の分析、およびそれらに対する報告、討議によって掘り下げる。

この講義は、経済学部のディプロマ・ポリシーの以下と関連している。

・経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

・経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

<到達目標>

履修者は、ひとつのテーマについて、必要な資料を収集、読解し、関連する統計データを分析し、それらの結果を、報告することで、以下の能力を獲得することができる。

・自分の興味あるテーマに沿った適切な文献や資料を検索できる。

・学術的な文献の内容を正確に理解できる。

・テーマに沿ったデータの加工処理ができる。

・文献から理解した内容をわかりやすく他の受講生に対して発表できる。

・適切でわかりやすいレジюмеを作成できる。

・効果的な発表ができる。

・他の人の意見を適切に理解することができる。

・質問に理論的に答えることができる。

・自分の意見をまとめ、グループで議論することができる

る。

< 授業の進め方 >

履修者は、資料収集の方法、学術文献の読解、統計資料の読み取り、レポートの作成、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習に各回1? 2時間程度の時間を要する。

< 提出課題など >

履修者は、学期末レポートの他に、随時提出課題を課す。提出した課題にはコメントが付与される。

< 成績評価方法・基準 >

授業時のプレゼンテーション・授業時の自発的な発言、
・提出課題(50%)、および、最終レポート(50%)で総合的に評価する。

最終レポートが未提出の場合、単位認定は行わない。

なお、提出レポートのなかに、文献資料その他からの剽窃、盗用があった場合には、不合格となる。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

ゼミメンバーの顔合わせ、ゼミの進行確認、次回以降の課題のアナウンス等を行う。

第2回? 第7回 文献精読

文献の収集、精読を行う。

第8回? 第12回 統計データ分析

統計データの収集、分析を行う。

第13回 レポートの書き方

レポートの書き方について学習する。

第14回 レポート作成

課題レポートを作成する。

第15回 学修のまとめ

学修のまとめをおこなう。

2022年度 前期

2単位

演習

田口 順等

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

卒業論文作成に向けて、プレゼンテーション、観光経済学・観光ビジネスの知識、テーマ設定、統計分析の手法などの準備を行う。卒業論文の作成方法を身に付け、自身の卒業論文作成に適用できることを目的とする。

これにより経済学DP「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」の(思考力・判断力・表現力等の能力)と対応した演習・講義となっている。

< 到達目標 >

1. プレゼンテーションや観光経済学・観光ビジネスの基礎知識、統計分析など卒論の作成に必要な考え方や準備方法を身に付け実践できる。(態度・習慣)

卒論を作成するにはまず卒論がどのようなものかを知る設計図が必要です。卒論の全体の工程を学び段階的な作業方法を学び実践します。

2. 卒業論文のテーマを設定し、問題点や現状を説明できる。(知識・技能)

身の回りや社会、授業などで気になった観光ビジネスに関するテーマやトピックを見つけ、図書館で文献を探して卒論のテーマを設定して最後には発表を行います。

< 授業のキーワード >

問題解決能力、情報リテラシー、観光経済学

< 授業の進め方 >

進捗状況により授業内容・講義内容が前後する場合があります。

演習の内容を深めるため課題を与えます。また課題は卒論のテーマ設定やプレゼンなど、時間外の作業を伴い、時間がかかります。締め切り直前に作業を行うのではなく、早めに少しずつ取り組み、わからないところつまづいたところがあればすぐに相談する必要があります。

< 履修するにあたって >

卒業論文の作成のための基礎的な知識やテーマ設定を行うため、必ず参加して時間外に課題を行う必要があります。そのため日々の受講態度が課題の進捗に大きな影響を与えます。

< 授業時間外に必要な学修 >

テーマ設定は今後の卒業論文作成において最初の重要な課題です。今後の展開をすすめるためには安易に考えてはいけません。前期期間中、テーマになりそうなトピックを探すため常に考え続けて設定してください。

輪講やテーマ発表など文献を読み込みプレゼンテーション資料を作成する必要があります。読解と資料作成、発表の予行など最低でも2日以上は時間をかける必要があります。

< 提出課題など >

輪講やプレゼンテーション資料、講義回の課題など発表時の各ゼミ生の意見、補足説明、テーマ設定の難易度に関するアドバイスを返答する。

講義回の課題についてはチェック後に返却し解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

課題・コメント・レポート等によって評価する。(100%)

レポートの執筆において剽窃・盗用・コピペ等不正行為が判明した場合は不可とする。

< テキスト >

観光経済学・観光ビジネスに関する文献については適宜指示する。

< 参考図書 >

その他については課題時に適宜指示する

ポルケ製作『図書館へ行こう! : インターネット時代の
情報活用入門(Library video series . 情報の達人 ;
第1巻)』紀伊國屋書店、2007年

ポルケ製作『ゼミ発表をしよう! : テーマ選びからプレ
ゼンテーションまで (Library video series . 情報の
達人 ; 第2巻)』紀伊國屋書店、2007年

ポルケ製作『レポート・論文を書こう! : 誰にでも書け
る10のステップ (Library video series . 情報の達人
; 第3巻)』紀伊國屋書店、2007年

< 授業計画 >

第1回 演習の進め方

演習案内・ゼミ発表について

第2回 輪講

プレゼンテーション・ゼミ発表について

第3回 輪講

観光学の基礎知識

第4回 輪講

観光ビジネス

第5回 輪講

観光産業・観光経済学

第6回 卒業論文について

卒業論文の作成方法

第7回 卒業論文について

事例について

第8回 プレゼンテーション

ゼミ発表の手順

第9回 プレゼンテーション

プレゼンテーションの準備

第10回 文献検索

図書館の活用方法と文献調査

第11回 グループワーク

学外ゼミ後の検討・振り返り

第12回 グループワーク

キャプションマップの作成

第13回 テーマ発表

各自設定した卒業論文のテーマについての問題点・現状
を発表する。

第14回 テーマ発表

各自設定した卒業論文のテーマについての問題点・現状
を発表する。

第15回 テーマ発表

各自設定した卒業論文のテーマについての問題点・現状
を発表する。

2022年度 前期

2単位

演習

常廣 泰貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、学部でのDPに示す、2.経済理論の基礎を習
得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的
に理解できること、5.経済問題を総合的に分析できる知
識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異
なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社
会に役立てることができると目指しています。

< 主題 > 卒業論文作成のための準備

< 目標 > ミクロ経済学、マクロ経済学およびゲーム理論
など経済理論を理解し、それらの内容をレジュメにまと
めて報告し、卒論への基礎を固めます。

< 到達目標 >

卒業論文を完成させる上で必要となる経済理論を修得で
きる。

< 授業の進め方 >

報告および質疑・応答。

< 授業時間外に必要な学修 >

レジュメ作成のため概ね2時間の学修時間。

< 成績評価方法・基準 >

報告および質疑・応答の内容によって評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミの概要

第2回? 第5回 報告、質疑・応答1

主にミクロ経済学についての報告および質疑・応答

第6回? 第9回 報告、質疑・応答2

主にマクロ経済学についての報告および質疑・応答

第10~第13回 報告、質疑・応答3

主にゲーム理論についての報告のまとめ、および質疑・
応答

第14回~第15回 まとめ

これまでの報告のまとめ、および質疑・応答

2022年度 前期

2単位

演習

中村 亨

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

< 主題 > 経済実証分析の基礎と自主研究テーマに従った

研鑽 2

<目標> 専門的な新しい経済学の習得
経済学部でのDPにあるように、経済問題を総合的に分析し、より良い社会構築に貢献できるようになることを目的とする。

ホームページ

<https://ntohru.wixsite.com/mysite>

<到達目標>

応用経済学・行動経済学・データ分析・地域貢献に関する具体的なテーマの確定とそれを実施するための手法を習得し、その準備を整えることができる。

<授業のキーワード>

データ分析、政策評価、因果分析

<授業の進め方>

各自でテーマを決め、そのテーマのもと研究を進めていく。自分で決めた課題図書を読了とその内容に関する書評論の形でまとめていく。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、講義の対象となる教材（新聞、課題図書、論文）の箇所を読んでおくこと。（目安として1時間）

事後学習として、宿題・課題に取り組むこと。（目安として1時間）

<提出課題など>

課題図書の書評論を提出

<成績評価方法・基準>

提出された書評論で評価(100%)

<参考図書>

授業時に指示

<授業計画>

第1回 グループ研究の年間計画

グループごとに設定した行動経済学・実証分析・応用経済学の課題に関する年間計画を策定

第2回? 第4回 グループ研究の準備

グループごとに設定した行動経済学・実証分析・応用経済学の課題のために必要な分析ツールを修得する。

第5回

講演(1)

グループ研究に関する外部講師による講演

第6回? 第8回 ゼミ研究中間発表

各グループで設けた課題に関する研究成果の中間発表を行う。

第9回? 第11回 研究の継続

各グループの研究・実習・課外活動を継続させる。

第12回 講演(2)

グループ研究に関する外部講師による講演

第13? 第15回 ゼミ研究中間発表

各グループで設けた課題に関する研究成果の中間発表を行う。

2022年度 前期

2単位

演習

西山 茂

<授業の方法>

演習 引き続き『資本論』の講読。

<授業の目的>

本授業の目的は、DP「2.経済理論の基礎を修得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」「3.経済データに関する基礎知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。」に関連している。ゼミナールの目標は資本制経済の実証分析である。『資本論』を輪読しながら、理論的基礎について学ぶが、現実の経済について興味を持ってほしい。演習は、学問をする場である。今回は”故きを温ねて新しきを知る”という発想で演習を行います。『資本論』の理解は、現代マクロ経済学の理解に通ずるものがあります。

<到達目標>

引き続き『資本論』を読みながらマクロ経済学についても学ぶ。

<授業のキーワード>

資本制経済、マクロ経済、価値産業連関表、剰余価値、パワハラなどの労働問題、改正労働施策総合推進法

<授業の進め方>

理想的には、テキストの報告をしてもらいたいが、内容の十分な理解のためにも、教師が講義形式でテキストの解説をする。

<履修するにあたって>

必ず出席すること。欠席可能回数5回。

ゼミナールは、学問をする場です。ひたすら内容の理解に努めてください。本ゼミナールでは、学問的価値の高い書物を学んでいきます。学問的な高みに向かって挑戦してってください。

<授業時間外に必要な学修>

最低30分はテキストを読んでおくこと。

<成績評価方法・基準>

期末レポート（自由論題：経済や経済学の書物で1冊各自が興味ある書物を

選んでまとめる）100%。欠席可能回数5回。

<参考図書>

斎藤光雄著『国民経済計算』創文社

置塩信雄『マルクス経済学 価値と価格の理論』筑摩書房

日本共産党中央委員会社会科学研究所『新版 資本論

7 カール・マルクス』新日本出版社

同『新版 資本論 2 カール・マルクス』新日本出版

社
同『新版 資本論 3 カール・マルクス』新日本出版
社
同『新版 資本論 4 カール・マルクス』新日本出版
社

< 授業計画 >

第1回～第3回 テキスト第3章貨幣または商品流通
第3章貨幣または商品流通

第4回 テキスト第4章貨幣の資本への転化
第4章貨幣の資本への転化

第5回、第6回 テキスト第5章労働過程と価値増殖過程
第5章労働過程と価値増殖過程

第7回 テキスト第6章不変資本と可変資本
第6章不変資本と可変資本

第8回

テキスト第7章剰余価値率

第7章剰余価値率

第9回～第12回 テキスト第8章労働日

第8章労働日

第13回 テキスト第9章剰余価値の率と総量

第9章剰余価値の率と総量

第14回、第15回 応用編(2)

価値産業連関表から読む『資本論』。

ここでいう価値産業連関表とは生産者価格評価取引基本
表のことである。

単純再生産の場合についてのみ、再生産表式について
も取り上げてみたいと思います。産業連関表はワシリー
・レオンチェフという偉い経済学者が作りだしたもの
です。ある意味では、産業連関表も経済学の古典といっ
ても過言ではないでしょう。マルクスの『資本論』の再
生産表式は、産業連関表のルーツにあたります。みんな
で楽しみましょう。

2022年度 前期

2単位

演習

伴 ひかり

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

演習 の目的は、経済学部のDPに掲げる、「経済の歴史
や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的
・制度的に理解できること」、「経済理論の基礎を習得
し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に
理解できること」、および、「自分の意見を口頭や文書
によって表現し、相手の意見を理解することで、良好な
コミュニケーションをとることができること」と関連す

る。具体的には、基本的な文献を輪読することによって、
経済政策の理論および制度を理解すること、またそれら
の知識を現実問題に応用できること、報告や討論を通し
て各自の意見を伝えたり、他者の意見を理解したりする
ことができることが目的である。また、本演習は3年次
前期に配当されている専門演習で「専門的学問への積極
的な参加」段階に位置付けられている。

< 到達目標 >

1.新聞などの経済ニュースに関心をもち、要点を人に説
明することができる(態度・習慣、技能)。

2.現実の経済問題について論理的に考察できる(知識、
技能)。

3.経済統計を利用して経済現象を説明できる(知識、技
能)。

< 授業の進め方 >

演習参加者の発表と質疑応答を中心に進めていく。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復
習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 成績評価方法・基準 >

報告50%、課題50%で評価する。原則として、無断で報告
を怠った場合や、出席が2/3を下回る場合は単位を取得
できない。

< テキスト >

演習 で用いたテキスト

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

ゼミの運営方法や演習 で学んだことの復習を行う。

第2?5回 報告(1)

テキスト前半の担当箇所の報告と質疑応答。

第6回 経済統計の解説

基本的な経済統計の解説と応用の方法を説明する。

第7?10回 報告(2)

テキスト中盤の担当箇所の報告と質疑応答。

第11?14回 報告(3)

テキスト後半の担当箇所の報告と質疑応答。

第15回 まとめ

演習全体のまとめ

2022年度 前期

2単位

演習

林 隆一

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本講義は演習科目に属し、演習 (2年生配当)の応用

として位置づけられる。

DP(学位授与方針)の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ため、受講学生が自主的に企画を考え、自分の言葉で説明し、他人と適切なコミュニケーションがとれることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、証券アナリストとして企業分析・評価を19年間経験している、「実務経験のある教員」であり、より実践的な観点から上記の内容等を解説するものである。

<到達目標>

(1) 日本経済の課題(テーマ)を選び、それに関する企業活動を具体的に説明できる(知識)。

(2) 企業活動を自分なりの視点で分析し、その内容をプレゼンテーションし、お互いにディスカッションできる(技能)。

(3) 企業分析や発表に関して積極的な態度や興味を持ち、学生同士で議論できる習慣を見つけることができる(態度・習慣)。

<授業のキーワード>

企業(活動)、(事業・企業)戦略、財務分析、事業・企業評価、ポートフォリオ(株式投資等)などの中から各受講生が一部を選択する(受講生ごとにテーマを選ぶ)。

<授業の進め方>

ゼミ(活動)を会社(仕事)に見立て、疑似的な就業体験(本来の意味のインターンシップ)として、グループ単位(各部署単位)で、自分の「仕事」をし、中途経過を授業で発表する。

基本的には、受講生が事前準備したものを発表し、他の受講生が、質問・コメント・アドバイスを行う。教員は補足や次の方向性を示唆し、必要に応じて基礎知識の講義・指導を行う。

ゼミ学生同士で、360度評価も導入している。

<履修するにあたって>

コンテストや外部講師のスケジュール等により、以下の授業計画は随時見直す場合は、事前に告知・連絡を行うため注意しておくこと。

(参考)

参加する学生コンテストは、今までの受講生が挑戦したコンテストを含め以下のような想定をしている。

- ・日経STOCKリーグ
- ・『ヤンマー学生懸賞論文・作文』
- ・神戸新聞主催『Mラボ課題解決ラボ』
- ・神戸市主催「KOBE “にさんがろく” PROJECT」
- ・神戸学院大学「学生チャレンジ」コンテストなど

<授業時間外に必要な学修>

学生コンテスト参加に伴う授業外に学修が必要となる場合がある。例えば、日経ストックリーグに参加する受講

生は夏休み明けに直ぐにポートフォリオ選定となるため、授業時間外の準備や企業訪問が必要となる場合がある。学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には2時間程度が必要となる。

<成績評価方法・基準>

発表内容・提出レジュメ等80%、運営協力など20%で評価する。

<テキスト>

必要があれば、講義中に適宜指示する。

<参考図書>

必要があれば、講義中に適宜指示する。

<授業計画>

第1回 授業計画

演習の運営方法やレジュメの作成方法に関して相談し、今後の授業の内容やスケジュールを確認する。

第2回 テーマ設定(1)

参加するコンテスト毎のチームが、それぞれの経過を報告し、それに基づき、チーム単位で企画を進める。

第3回 テーマ設定(2)

各受講生が、参加するコンテストなどのテーマを選び、それに関する活動の方向性をまとめ、発表する。

第4回 テーマ発表と議論(1)

各受講生が、テーマとする企業活動・評価を学習・調査し、発表する。

第5回 テーマ発表と議論(2)

各受講生が、テーマとする企業活動・評価を学習・調査し、発表する。

第6回 テーマ発表と議論(3)

各受講生が、テーマとする企業活動・評価を学習・調査し、発表する。

第7回 テーマ発表と議論(4)

各受講生が、テーマとする企業活動・評価を学習・調査し、発表する。

第8回 全体テーマ確認

ゼミ全体・各チームの進捗報告を踏まえ、今後の方向性を確認する。

第9回 活動発表と議論(1)

各受講生が、テーマとする企業活動・評価の活動内容を発表する。

第10回 活動発表と議論(2)

各受講生が、テーマとする企業活動・評価の活動内容を発表する。

第11回 活動発表と議論(3)

各受講生が、テーマとする企業活動・評価の活動内容を発表する。

第12回 分析研修

実際の企業分析やフィールドワーク、データベースの実例を学ぶ。

第13回 活動発表と議論(4)

各受講生が、テーマとする企業活動・評価の活動内容を

発表する。

第14回 外部講師講演

各学生からの報告や今後の方向性を踏まえ、関連する外部の専門家や実務家の講演を依頼する。(予定)

第15回 後期講義の計画策定

前期中の進捗状況の報告を踏まえ、夏休み中の活動内容やスケジュールを確認する。

2022年度 前期

2単位

演習

平井 健之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

【授業の概要】

政府(国や地方公共団体)は国民生活や企業活動に関する多様な分野に参与し、わが国の経済において重要な役割を演じています。本演習では、政府の経済活動を分析対象とする財政や公共経済に関する学習を通して、経済社会のさまざまな課題に対処するために、政府は「何を」、「どのように行えばよいか」について考えます。

授業では、地方財政に関する初歩的なテキストを用いて基礎知識を習得するとともに、地方財政に関するデータ分析の実習を行います。

【授業の目的】

財政や公共経済に関する全般的な学習を通じて、政府による経済への介入の根拠や政府の経済的役割を理解するとともに、政府のさまざまな経済活動を分析し政府の望ましいあり方を考える能力を身に付けることを目的とします。また、学部DPに掲げられているように、演習での発表を通して、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目指します。

< 到達目標 >

地方財政(都道府県や市町村の財政)に関する理論と現実に関する基礎知識を修得できる。

市の財政状況について、データに基づき診断する能力を身につけることができる。

< 授業のキーワード >

地方財政、歳入、歳出、地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債

< 授業の進め方 >

グループごとに、兵庫県内の主要な市(自治体)を選択し、その自治体の財政分析を行います。各市の財政状況を診断し、その分析結果について各グループの発表と全員による討論を重ねながら授業を進めます。

< 履修するにあたって >

ゼミを有意義なものとするよう自らが努力するとともに他人と協調して、ゼミの学習内容に意欲的に取り組む姿勢が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

発表者は、発表内容についての質疑応答に対応できるように事前準備をしておくこと(2時間以上)。

発表者以外の受講者はあらかじめテキストを読んでおくこと(2時間以上)。

< 提出課題など >

発表者は、発表内容について報告資料を作成し、その内容を発表してもらいます。なお、報告資料の内容は成績評価の対象となります。

< 成績評価方法・基準 >

授業での議論への参加態度、授業中の発表とその作成資料、期末レポートを総合して評価します。

授業中の発表と課題の提出は単位取得の条件となります。なお、授業は毎時間の出席が前提となります。(1)無断欠席をした者、(2)特別な事情を除いて3回以上欠席した者は、単位を取得できないので注意してください。

< テキスト >

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容と進め方、受講上の注意事項などの説明
報告資料の作成やプレゼンの方法についての指導

第2回

地方財政の基礎を学ぶ

テキストの担当箇所の発表

発表内容について、質疑応答、全員で議論

第3回 地方財政の基礎を学ぶ

テキストの担当箇所の発表

発表内容について、質疑応答、全員で議論

第4回 地方財政の基礎を学ぶ

テキストの担当箇所の発表

発表内容について、質疑応答、全員で議論

第5回 地方財政の基礎を学ぶ

テキストの担当箇所の発表

発表内容について、質疑応答、全員で議論

第6回 地方財政の基礎を学ぶ

テキストの担当箇所の発表

発表内容について、質疑応答、全員で議論

第7回 地方財政の基礎を学ぶ

テキストの担当箇所の発表

発表内容について、質疑応答、全員で議論

第8回 地方財政の分析

データに基づき、グループごとに市の財政状況を分析する。

分析結果を資料としてまとめる。

第9回 地方財政の分析

データに基づき、グループごとに市の財政状況を分析する。

分析結果を資料としてまとめる。

第10回 地方財政の分析

データに基づき、グループごとに市の財政状況を分析する。

分析結果を資料としてまとめる。

第11回 財政分析の中間報告

財政分析の結果をグループごとに報告

報告内容について、質疑応答、全員で議論

第12回 地方財政の分析

データに基づき、グループごとに市の財政状況を分析する。

分析結果を資料としてまとめる。

第13回 地方財政の分析

データに基づき、グループごとに市の財政状況を分析する。

分析結果を資料としてまとめる。

第14回 財政分析の最終報告

市の財政状況の分析結果をグループごとに報告する。

発表内容について、質疑応答、全員で議論

第15回 財政分析の最終報告

市の財政状況の分析結果をグループごとに報告する。

発表内容について、質疑応答、全員で議論

2022年度 前期

2単位

演習

圓生 和之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

これまでに学習したことを踏まえ、卒業論文の作成に向けて準備すべきことを学びます。

これにより、経済学部のDPに掲げる「経済問題を総合的に分析できる知識と技能」の習得を目指します。

この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられています。

なお、この科目の担当教員は、組織の人事をはじめ二十数年に及ぶ実務経験のある教員ですので、必要に応じて日本社会における労働の実際についても解説したいと思います。

< 到達目標 >

・論文を書くための基礎知識を身につけ、専門とする研究テーマについて日頃から高い関心を持って考えることができる(態度・習慣)、

・研究テーマについての基礎的な知識を得て、その概要を説明できる(知識)、

・卒業論文を作成するために今からすべきことを実践で

きる(技能)、ことを目指します。

< 授業のキーワード >

論文の書き方

< 授業の進め方 >

各ゼミ生が報告し、他のゼミ生からの質疑に答えることにより学ぶゼミ形式で進めます。演習では、卒業論文の作成に向けて、論文の書き方、データ分析の基本について学びます。

< 履修するにあたって >

このほか、メールでお知らせすることがありますが、お送りするメールは、大学が付与したメールアドレスです。今後も大学からの連絡は全て大学が付与したメールアドレスですので、スマホ等のアカウントに必ず追加して、いつでも見ることができる状態にしておいてください。

これまでどおり、全回出席をめざせること、メールで連絡がつくことが、履修の条件です。

< 授業時間外に必要な学修 >

輪読の報告担当回は、教科書の担当箇所を熟読し、説明と質疑応答の対応ができるように学習してください。

その他の回は、教科書の該当箇所を予習し、適切な質問ができるように学習してください。

必要となる時間は、一律ではないものの、平均的には90分程度が目安となります。

< 提出課題など >

輪読の報告担当回は、レジュメを作成・配布してください。

作成されたレジュメについては、演習講義の中で講評と解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

演習における報告内容、質疑応答の内容などを総合的に評価します。

< テキスト >

白井利明・高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

< 参考図書 >

山本拓(1995)『計量経済学』新世社

浅野哲・中村二郎(2009)『計量経済学』有斐閣

日本経済新聞社(2022)『日経業界地図2023年版』日本経済新聞出版社

このほか、随時紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の進め方についての説明/ガイダンス

第2回 卒論の書き方

1章 卒論とは何か(輪読)

第3回 卒論の書き方

2章 ゼミでの学び方(輪読)

第4回 卒論の書き方
 3章 論文の書き方（輪読）
 第5回 卒論の書き方
 5章 文献の集め方（輪読）
 第6回 卒論の書き方
 6章 研究の進め方（輪読）
 第7回 卒論の書き方
 7章 卒論の書き進め方（輪読）
 第8回 卒論の書き方
 8章 研究の方法（輪読）
 第9回 卒論の書き方
 9章 卒論の発表方法（輪読）
 第10回 卒論の書き方
 終章 卒論のテーマを考える（講義）
 第11回 データ分析の基礎
 1 計量経済学の考え方
 2 統計学の基礎知識
 第12回 データ分析の基礎
 3 回帰分析の基礎
 4 回帰式の解釈
 第13回 データ分析の基礎
 5 回帰診断
 6 重回帰分析
 第14回 データ分析の基礎
 7 重回帰分析の回帰診断
 8 説明変数に質的変数を含む回帰分析
 第15回 卒論のテーマ設定
 卒論のテーマ設定に向けて（講義）

 2022年度 前期
 2単位
 演習
 三宅 敦史

 < 授業の方法 >
 演習
 < 授業の目的 >
 この科目は演習科目に位置付けられており、演習 で学習した知識を発展させ、金融市場と現実経済との関係についてより深く学習する。
 この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとる」能力を身に着けることを目的としている。
 < 到達目標 >
 株式市場の役割や金融政策の影響について理解する。プレゼンテーション能力を身につける。
 < 授業の進め方 >
 グループごとに興味のあるテーマについて調べレポートを作成する。

< 授業時間外に必要な学修 >
 各グループでレポートを完成させるために、必要に応じて意見交換を行うこと。
 なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。
 < 成績評価方法・基準 >
 報告とレポートにより評価する。無断欠席を3回以上した者には成績評価を行わない。
 < 授業計画 >
 第1回 はじめに
 演習 の進め方について説明する（グループ分け・テーマ決め）
 第2回? 第5回 グループワーク
 選択したテーマについて各グループで調べる
 第6回 ゼミ講演会
 外部講師を招いての講演会（テーマ：キャリア関係）
 第7回? 第8回 中間報告会
 各チームごとにプレゼンテーションを行う
 第9回? 第12回 グループワーク
 選択したテーマについてさらに詳しく調べレポートにまとめる
 第13回 ゼミ講演会
 外部講師を招いての講演会（テーマ：キャリア関係）
 第14回? 第15回 最終発表会
 各チームごとにプレゼンテーションを行う

 2022年度 前期
 2単位
 演習
 毛利 進太郎

 < 授業の方法 >
 演習
 < 授業の目的 >
 この科目は、経済学部のDPが示す経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できるための素養を身に着けることを目指しています。
 演習 では演習 から卒業論文まで続く演習の一部として、これまでに学んだことを自ら分析できるように、コンピュータを実際に利用しながら様々なデータを取得し、データ分析、処理について学びます。
 < 到達目標 >
 データ分析の実際について理解し活用できる。
 < 授業の進め方 >
 適宜課題を出します。
 < 授業時間外に必要な学修 >
 学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

適宜課題を課します。課題については発表を行い随時講評します。

< 成績評価方法・基準 >

課題への取組み（50%）、ゼミでの発表状況（50%）で評価します。

< 授業計画 >

1 ガイダンス

講義内容を説明し、演習でのこれからのスケジュールについて決定する。

2 データ分析の基礎

実際にデータを眺め、試行錯誤しながらデータの特徴を見出す。

3 データ分析の基礎

実際にデータを眺め、試行錯誤しながらデータの特徴を見出しレポートとしてまとめる。

4 バスケット分析

バスケット分析の基礎について学ぶ。

5 バスケット分析

バスケット分析の基礎について演習を行う。

6 回帰分析の基礎

回帰分析の概念について学ぶ。

7 回帰分析の演習

回帰分析の基本的な演習を行う。

8 回帰分析の応用

回帰分析の応用について演習を行う。

9 回帰分析の応用

回帰分析の応用例について学び、演習を行う。

10 実験計画法

実験計画法について学ぶ

11 実験計画法の演習

実験計画法について演習を行う。

12 コンジョイント分析

コンジョイント分析について学び、演習を行う。

13 分散分析

分散分析について学び演習を行う

14 課題演習

この演習で学んだことをもとに各自選んだテーマに基づいてデータを分析を行う。

15 課題演習

この演習で学んだことをもとに各自選んだテーマに基づいてデータを分析し、発表する。

2022年度 前期

2単位

演習

渡部 尚史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPに示す「経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」ことを目指す。3年次配当の演習科目に属する。地方財政制度の状況を数値で理解できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

地方財政に関する公務員試験の問題を解くことができる。

< 授業のキーワード >

地方公務員法、地方財政

< 授業の進め方 >

講義と報告を中心に進める。

< 履修するにあたって >

地方財政論を受講することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、演習の対象となる参考書の箇所を読むこと（1時間）。事後学習として、練習問題を解くこと（1時間）。

< 成績評価方法・基準 >

真摯に取り組むことと欠席が2回以下であることを前提に、地方公務員制度に関する確認テストの成績35%、地方財政制度に関する確認テストの成績35%、地方財政白書に関する確認テストの成績30%の割合で評価する。

< 授業計画 >

第1回 地方公務員制度の基本と人事機関

地方公務員の範囲、職員に適用される法令、人事機関を理解する（第1章、第2章）。

第2回 職員の任用

職員の任用を理解する（第3章）。

第3回 職員の義務

地方公務員の義務（職務上の義務、身分上の義務）を理解する（第4章）。

第4回 職員の責任

職員の責任（分限、懲戒処分、賠償責任、刑事責任）を理解する（第4章）。

第5回 職員の給与

職員の給与に関する諸原則、給料、諸手当を理解する（第5章）。

第6回 職員の労働時間と休日・休暇等、職員の団結権など

職員の労働時間、休日・休暇等、職員の団結権・団体交渉権などを理解する（第5章）。

第7回 確認テスト(1)

地方公務員に関する公務員試験問題を解き、学習内容の理解を深める。

第8回 地方公共団体の財務

地方公共団体の財務・会計、予算、収入支出、決算などを理解する(第10章)。

第9回 地方の歳入

地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債の概要を理解する。

第10回 地方の歳出

目的別歳出と性質別歳出の概要を理解する。

第11回 地方財政の運営

地方公共団体の財政運営を理解する。

第12回 確認テスト(2)

地方財政に関する公務員試験問題を解き、学習内容の理解を深める。

第13回 地方財源と地方歳出

『地方財政白書』を読み、地方財源と地方歳出の状況を理解する。

第14回 財政運営の状況

『地方財政白書』を読み、財政運営の状況を理解する。

第15回 確認テスト(3)

『地方財政白書』に関する問題を解き、地方財政の状況を理解する。

2022年度 後期

2単位

演習

麻生 裕貴

<授業の方法>

対面による演習と講義

<授業の目的>

・この授業の目的は、経済学部のDPに示す「4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」、及び「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることである

・演習 で行なった研究レポートを作成した経験と知識を活かして、日本経済の課題についてグループディスカッションをしてもらう。

<到達目標>

・グループワークを通じて、日本経済の課題について分析できるようになる。

・発表や討論を通じて、自身の考えを適切に主張できるようになる。

<授業のキーワード>

日本経済、プレゼンテーションスキル

<授業の進め方>

教員による講義のあと、グループワークを行なう。

<履修するにあたって>

無断欠席をしないこと。

<授業時間外に必要な学修>

他の授業科目や新聞やテレビのニュース、インターネットなどで、幅広く世の中の経済問題に関心をもち、分からないことや疑問点などを積極的に調べる(2時間)

<提出課題など>

グループごとのレポートを提出してもらう。授業の中で随時、進捗状況がチェックされフィードバックされる。

<成績評価方法・基準>

演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

<テキスト>

初回授業で指定する。

<参考図書>

適宜、指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

演習の概要を説明する。

第2-5回 グループワーク

教員が提示した日本経済の課題について、グループで調査分析してもらう。

第6回 グループワーク の発表

グループワーク の調査・研究結果をプレゼンしてもらう。

第7-9回 グループワーク

教員が提示した日本経済の課題について、グループで調査分析してもらう。

第10回 グループワーク の発表

グループワーク の調査・研究結果をプレゼンしてもらう。

第11-13回 グループワーク

グループごとに研究テーマを決めた後、調査分析してもらう。

第14回 グループワーク の発表

グループワーク の調査・研究結果をプレゼンしてもらう。

第15回 講義の整理

これまで行なった発表の整理と討論を行なう。

2022年度 後期

2単位

演習

石本 眞八

<授業の方法>

対面形式による演習

<授業の目的>

卒業論文の完成に向けた研究を進めるとともに、DPの4

に示されている、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目標としています

<到達目標>

卒業論文の原稿を作成すること

<授業の進め方>

毎回卒業論文の進捗状況を報告してもらい、指示に従って加筆・修正を行う

<授業時間外に必要な学修>

卒業論文の完成に向けて資料収集と分析を継続し、論文の推敲を行うために毎週最低2時間は必要になります

<成績評価方法・基準>

授業中の設問(50%)、期末のレポート(50%)

<授業計画>

第1回 ガイダンス

卒業論文の完成に向けたガイダンスを行う

第2回～第5回 論文の構成

論文の概要と構成を報告し随時修正する

第6回～第9回 主題と構成

論文の主題と構成の整合性を検討する

第10回～第12回 目的と結論

当所の目的と結論の整合性を検討する

第13回～第14回 データの精査

使用した統計データの精査を行う

第15回 原稿の提出

原稿を提出し必要な箇所を修正する

2022年度 後期

2単位

演習

井上 善博

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

<主題>経済社会の基盤を形成する中小企業の役割が注目されています。アジア諸国では、工業の振興に向けて裾野産業の強化が必要とされ、日本の中小企業がアジアでの産業振興を支えています。日本国内でも、新市場開拓や新事業創出の担い手として、中小企業への関心が高まっています。このような、産業発展にとって必要不可欠な中小企業の存在意義について学びます。

<目的>経済や経営にかかわる諸問題を分析できる知識と技能を育むことを目的とする。戦後の経済復興の中で、日本の多くの中小企業が誕生し、生活用品や電気製品を生産して、内需にこたえとともに、輸出によって外国への製品展開を行いました。このような歴史の中で、中小企業は、経営努力を重ね、日本企業のみならず、世界の大企業を支えるようになりました。戦後から2000年代

までおよそ60年間、経営環境が激しさを増すなかで、中小企業がいかにして、私たちの生活を豊かにしてきたのかを理解することを演習の目標とします。

この科目は学部のDPで示す、

1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

以上の点を目的とする。

<到達目標>

・経営学の基礎理論を知り、その知識を活かすことができる。

・特に、日本企業の経営戦略、日本企業の力強さ(競争力)について関心を持つことができる。

・協働して議論をすることによって、多様な考え方を社会で役立てる技能を育てることができる。

<授業のキーワード>

京都企業のビジネスモデル・地域ブランド・地域経済と中小企業

<授業の進め方>

学生の皆さんの関心のあるテーマについで、調べ、発表し、議論することで、自主的な発想力を育むことができるよう、アドバイスします。

<履修するにあたって>

関西地域の中小企業について調べてみましょう。

<授業時間外に必要な学修>

新聞や経済雑誌などで、企業経営に関するテーマについて、理解を深めること。(50分)

授業時に示したキーワードの説明をできるようにすること。(50分)

<提出課題など>

各回で学んだ内容について、まとめること。学習内容について次回の授業時にコメントをつけてフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

プレゼン資料作成50%、プレゼンテーション50%で評価します。

<テキスト>

適宜指示します。

<授業計画>

第1回 中小企業の定義

中小企業基本法による定義とは

第2回 世界の中小企業

アメリカ、ヨーロッパ、アジアの中小企業

第3回 中小企業の位置づけ

従業員数、業種、地域、独立性について

第4回 中小企業の開業と廃業

既存の事業分野での開業は難しく、新規ビジネスモデルに期待

第5回 創業促進の支援策
 政府，自治体による支援策
 第6回 大企業の下請け企業
 歴史的変遷，下請け構造の変化
 第7回 中小企業の国際化1
 海外進出の希望とリスク
 第8回 中小企業の国際化2
 東アジア地域の貿易構造と日本の中小企業の位置づけ
 第9回 地域経済への貢献
 大都市型中小企業集積(大田区)
 第10回 地場産業と中小企業
 新潟県燕・三条の洋食器企業の集積
 第11回 中小流通企業
 商店街vsスーパーセンター
 第12回 資金調達
 政府系中小企業金融の役割
 第13回 中小企業の組織化
 中小企業は助け合い，危機を乗り越える
 第14回 中小企業診断制度
 中小企業基盤整備機構の役割
 第15回 中小企業政策
 政府はなぜ中小企業を支援するのか

 2022年度 後期

2単位

演習

石田 裕貴

 < 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部のDPに示す「4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」、及び「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることである

・演習 で身に付けたプレゼン・討論等のスキルをさらに磨くことを目的とする。グループワークでテーマを決定し、問題意識を深め、具体的な解決策を探ってもらう。

演習 で培ったプレゼン・討論のスキルを磨くために、学外でのイベントに参加する場合がある(詳細はゼミ生と相談する)

< 到達目標 >

・あるテーマについて、適切な情報収集、論理的分析、プレゼン・討論ができる(知識、技能)
 ・グループワークの中で、お互いの個性を尊重し、自分の力を発揮できる(態度、技能)

< 授業の進め方 >

教員による説明の後に、個人やグループワークで進める
 < 履修するにあたって >

グループワークが主体となるため、無断での遅刻欠席を認めない。遅刻欠席する場合は教員への事前連絡を求める

< 授業時間外に必要な学修 >

他の授業科目や新聞やテレビのニュース、インターネットなどで、幅広く世の中の経済問題に関心を持ち、分からないことや疑問点などを積極的に調べる(2時間)

< 提出課題など >

グループごとのレポートを提出してもらう。授業の中で随時、進捗状況がチェックされフィードバックされる

< 成績評価方法・基準 >

演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

< テキスト >

初回授業で指定する

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要を説明する

第2回 ゼミ内プレゼン・討論の準備

プレゼン・討論の方法を説明し、肯定or否定の立場に分かれて、グループメンバーを決定する

第3~4回 ゼミ内プレゼン・討論の準備

グループワークでレポートを作成する

第5回 ゼミ内プレゼン・討論の準備

グループワークでプレゼン・討論の準備を行う

第6回 ゼミ内プレゼン・討論会

自分のプレゼン・討論を行い、他のプレゼン・討論を聞いて評価する

第7~14回 学外でのプレゼン・討論の準備

学外でのプレゼン・討論の準備を行う

第15回 まとめ

演習全体を総括する

 2022年度 後期

2単位

演習

岡部 芳彦

 < 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

主題：演習 に引き続き、グループワーク、ディベートなどを学ぶことができます。

目標：コミュニケーション能力の向上を目指します。
 なお、この科目は、学部のDPに示す「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、

価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ことを目指しています。

<到達目標>

経済社会を生きぬく上で必要な知識と能力を身に付けることができる。

<授業の進め方>

各自のプレゼンテーション、各班のグループワークを中心に授業を進める。

<授業時間外に必要な学修>

最低週1回90分程度、ゼミ生の主導で、グループワークやディベートの準備で、授業外で集まることがあります。授業時間外に、報告や発表に向けて各グループで集まって準備をします。

<成績評価方法・基準>

ディベート(30点)、プレゼンテーション(30点)、グループワーク(40点)。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

今学期の学習目標の確認。グループ編成。

第2回 グループワーク1

3分間スピーチ(1名)、経済雑誌の記事発表(2名)。

第3回 グループワーク2

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第4回 グループワーク3

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第5回 ディベート準備

他ゼミとの対抗ディベートに向けての準備の開始。

第6回 ゼミ講演会

外部から講師を招いてディスカッション。

第7回 グループワーク4

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第8回 グループワーク5

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第9回 グループワーク6

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第10回 ゼミ講演会

外部から講師を招いてディスカッション。

第11回 ディベート準備

他ゼミとの対抗ゼミに向けての準備。

第12回 グループワーク7

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第13回 グループワーク8

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第14回 対抗ゼミ

他ゼミとのディベートを行う。

第15回 ふりかえり

今学期の学習内容を振り返る。

2022年度 後期

2単位

演習

岡本 弥

<授業の方法>

演習

【9月20日(月)~10月2日(土)までの授業形態】

遠隔授業(リアルタイム授業)

詳細は「遠隔授業情報」を参照のこと。

【10月4日(月)以降の授業形態】

対面授業

<授業の目的>

この科目は、DP(学位授与方針)の「3.経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」ことに資するものである。

この科目では、実質的に卒業論文の制作をスタートさせるが、その際には、本セメスターのうちに実証分析に必要なデータを入手する、あるいは利用が可能であることを必ず確認の上、卒業論文のテーマを選定することを義務づけたい。

演習 で学んだ計量経済学の知識や、演習 で身につけた経済理論へのより深い理解、さらに自信をバネに卒業論文制作に意欲的に取り組む人もいると思われる。しかし、実際のところは、大多数の人が「まだこれから」というところだろう。

それゆえ、この科目の目的は引き続き、「実証分析に必要な知識やスキルの拡充」とし、なかでもより専門的な計量経済学の知識の拡充や、それを実践できる上級者向けの統計ソフトの使用法を身につけることに重きを置きたい。

なお、この講義の担当者は、金融機関において融資渉外業務に約6年間従事した実務経験のある教員であり、実体験を踏まえ、社会に出たときにも役立つ計量分析手法の伝授という観点から実践的に指導するといった特色がある。

<到達目標>

以下の4点を到達目標に掲げたい。

利用可能なデータの特性を踏まえ、最小二乗法(OLS)を用いた分析ができる。

最小二乗法でなされた分析例を自分の言葉で批評できる。

プロビット、ロジットモデル等の離散選択モデル、操作変数法、パネルデータ分析等に関する基本的な知識を習得できる。

(に挙げた分析を行うため、統計ソフトGretlを、日本語で書かれたマニュアルを参照しながら使えるようになる。

<授業の進め方>

授業は下記の3つの内容により構成される。

下記のテキストに基づいて中級レベルの計量経済学に関する講義を行い、必要に応じてGretIを用いたデータ分析を併せて実施する。

ペアで時事問題について報告を行い、質疑応答する。

卒業論文制作の進捗状況の報告を実施する。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の大半の時間を計量経済学の知識拡充やPC演習を通じた推定スキルの向上に充てるが、時間的な制約が大きいため、必須事項の定着化を目的として宿題を頻繁に課すことになるだろう。その場合、1回当たり1時間程度かかることが見込まれる。

< 提出課題など >

宿題等を課した場合、回収の翌週の授業で採点済みのものを返却すると共に簡単な解説を実施する。

< 成績評価方法・基準 >

下記に基づいて評価を行う。

質問や意見表明など演習授業への貢献：30%

宿題の提出率及び得点率：40%

卒論制作の進捗状況：30% ((1)作業仮説の設定、(2)仮説の検証に必要なデータの確保、の2点が充足されていれば満点とする)

なお、特別な理由がないにもかかわらず3回以上欠席したものは単位を取得することができない。

< テキスト >

指定しない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の目的や具体的な進め方について説明する。

第2回 統計理論の基礎

(1)点推定

(2)区間推定

(3)仮説検定の考え方

第3回 統計理論の基礎

(1)単回帰モデル

(2)OLS推定量の統計的性質

(3)均一分散

第4回 PC演習

GretIの基本的な使い方を説明する。

第5回 重回帰モデルの推定と検定

(1)重回帰モデルと欠落変数バイアス

(2)OLS推定量の理論

(3)多重共線性

第6回 重回帰モデルの推定と検定

(1)複数の制約からなる仮説の検定

(2)変数選択の妥当性

(3)実証例：信頼と規範とが経済成長率に与える影響

第7回 PC演習

GretIによる単回帰分析、重回帰分析のやり方を学ぶ。

第8回 パネルデータ分析

(1)パネルデータの特徴と分析上の利点

(2)固定効果モデル

第9回 パネルデータ分析

(1)時間効果、個別トレンドの導入

(2)変量効果モデル

第10回 PC演習

GretIによるパネルデータを用いた場合の基本的な推定のやり方を学ぶ。

第11回 PC演習

GretIによるパネルデータ分析のやや発展的な方法を学ぶ。

第12回 制限従属変数モデル

(1)線形確率モデル

(2)プロビットモデル

第13回 制限従属変数モデル

(1)ロジットモデル

(2)トービットモデル

第14回 PC演習

GretIによるロジットモデル、プロビットモデル、トービットモデルの基本的な推定の仕方を学ぶ。

第15回 PC演習

GretIを使って、いままで取り扱ってきた推定モデルのおさらいを行う。

2022年度 後期

2単位

演習

佐藤 伸明

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部DPに示す「経済理論の基礎を習得」に資する科目である。日本経済論の学習を通じて、経済学部生としての基礎力（読解力、数的解析力等）の獲得を目的とする。

< 到達目標 >

日本経済が抱える諸問題の本質を把握し説明できる。

< 授業のキーワード >

日本経済の諸問題。アベノミクス。

< 授業の進め方 >

教材に基づく課題学習。教材の質疑応答に基づく学習。

< 履修するにあたって >

マクロ経済学、ミクロ経済学、日本経済論、財政、金融、経済政策、国際経済

などの関連科目の単位を取得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストの予習。各回1時間の予習が必要である。

報告者は1週間前から十分な準備をすべきである。
テキストの復習。各回1時間以上の復習が必要である。
<提出課題など>

<成績評価方法・基準>

授業において個々に課された課題の報告を文章にして提出してもらう。その提出状況，出来栄に基づいて評価する。

<テキスト>

前期の続き。

<参考図書>

最初の授業時間において指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

研究テーマの設定と研究の進め方

第2回 第7章の学習

プレゼンと質疑応答

第3回 つづき

プレゼンと質疑応答

第4回 第8章の学習

プレゼンと質疑応答

第5回 つづき

プレゼンと質疑応答

第6回 第9章の学習

プレゼンと質疑応答

第7回 つづき

つづき

第8回 第10章の学習

プレゼンと質疑応答

第9回 つづき

つづき

第10回 第11章の学習

プレゼンと質疑応答

第11回 つづき

つづき

第12回 第12章の学習

プレゼンと質疑応答

第13回 つづき

つづき

第14回 卒業研究にむけて

卒業研究テーマの設定

第15回 つづき

まとめ

2022年度 後期

2単位

演習

柴田 淳子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本科目は，DP（学位授与方針）の「4. 自分の意見を口頭や文書によって表現し，相手の意見を理解することで，良好なコミュニケーションをとることができる」を目指します．

「演習」は，専門教育科目の選択必修科目における演習科目に属する科目です．

演習では，より良い卒業論文を作成するためのレジюмеを作成することを目的とします．

<到達目標>

1．自分の興味あるテーマを探し，問題をみつけることができる．

2．自分の主張を明確にした上で，結論を述べることができる．

<授業の進め方>

基本的には，各自で進めてもらいます．3回の報告を通じて，テーマ，考え方や進め方を教員と議論しながら決めていきます．

<履修するにあたって>

演習を履修していること

<授業時間外に必要な学修>

毎回，1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です．

<提出課題など>

段階ごとにレジюмеを提出してもらいます．なお，レジюмеは成績評価の対象とします．

<成績評価方法・基準>

報告とレジюмеなどを総合して評価します．単位を取得するためには，レジюмеの提出期日を厳守し，3回の報告を行うことを条件とします．

<授業計画>

第1回 ガイダンス

卒論作成とレジюме

第2?3回 テーマ設定

興味のあるテーマを選定し，データを集める

第4?6回 レジюмеの作成

書き方と主張のポイント

第7回 中間報告(1)

レジюмеを提出し，進行状況を報告する

第8?10回 レジюмеの修正

中間報告で指摘された内容に従って修正を行う

第11回 中間報告(2)

レジюмеを再提出し，進行状況を報告する

第12?14回 レジユメの再修正

中間報告で指摘された内容に従って修正を行う

第15回 最終報告

レジユメの完成版を提出し、最終報告を行う

2022年度 後期

2単位

演習

関谷 次博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

設定した課題解決に向けて、個々に調査をおこない、順次その途中成果として発表していく。

本講義はDPの4「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しています。

< 到達目標 >

課題解決にむけたアプローチをすることができる。

< 授業の進め方 >

発表に際しては、教員からの指導のほかにも、学生同士で意見交換する。

なお、他大学とのディスカッションをおこなうことも計画している。

< 履修するにあたって >

他大学との交流にも積極的に参加できるようにする。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外こそが学習だという認識をもって、テーマに関する積極的な情報収集や現地調査、新聞・雑誌等を読むことに努めてください。(1講義に対して1時間程度)

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート100%

< 授業計画 >

第1回 卒業論文の作成にあたって(課題解決のアプローチ)

授業の目的・目標、進め方を詳しく説明する。

第2~5回 調査方法の教示

図書館等のデータベースを利用するなど、調査の方法をレクチャーする。

第6~13回 テーマ設定の教示

テーマ設定の方法をレクチャーする。

第14回 グループワーク

高大連携授業において発表をする。

第15回 まとめ

発表会の内容について反省する。

2022年度 後期

2単位

演習

竹治 康公

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

演習、の成果を踏まえて、現代の資本主義市場経済が抱える諸問題を理解し評価する。

DP(学位授与方針)の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

また同時に、現実の企業の経営戦略やその基本における機会費用の考え方を具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての15年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

演習、に引き続き、政府の経済政策、新聞の経済記事やテレビの経済番組等の間違いを理解するための基礎力の習得により、

1. 将来企業等において経営判断等ができる。
2. 演習でを通じて各自、卒業論文のテーマや参考文献を選定できる。

< 授業の進め方 >

輪番制によるゼミ報告 討論による。

< 履修するにあたって >

1. 演習の諸連絡等は基本的にLineとe-mailを利用するので、Lineとe-mailを使えるようにしておくこと。
2. レポートや卒論の提出等はdotCampusを使うのでdotCampusを使えるようにしておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストの精読と関連事項の調査・研究180分/week程度

< 成績評価方法・基準 >

演習での報告60%、卒論の予備レポート40%

< テキスト >

菅原晃、『高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学』、河出書房新社、2013

デヴィッド・モス(著)、久保 恵美子(翻訳)『世界のエリートが学ぶマクロ経済入門 - ハーバード・ビジネ

ス・スクール教授の実践講座』、日本経済新聞出版社、2016

<参考図書>

講義中に指示する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

演習の進め方について議論する。

第2-3回 テキスト輪読

テキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義の問題点について理解を深める。

第4回 討論

第2-3回のまとめの討論を行う。

第5-6回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義の問題点について理解を深める。

第7回 討論

第5-6回のまとめの討論を行う。

第8-9回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義の問題点について理解を深める。

第10回 討論

第8-9回のまとめの討論を行う。

第11-12回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読および関連文献の研究を通じて、企業の在り方と資本主義の問題点について理解を深める。

第13回 討論

第11-12回のまとめの討論を行う。

第14-15回 総括討論

全員でこれまでの総括の討論を実施する。

2022年度 後期

2単位

演習

田宮 遊子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本演習の履修者は、今年度のテーマ「格差と貧困問題」に沿った各自の研究テーマを決めた上で、論文の読解、統計資料の分析、およびそれらに対する報告、討議によって掘り下げる。

この講義は、経済学部ディプロマ・ポリシーの以下と関連している。

- ・経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。
- ・経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処

理・分析ができ、政策課題に対応できる。

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

<到達目標>

履修者は、各自が決定したテーマについて、必要な資料を収集、読解し、関連する統計データを分析し、それらの結果を、報告することで、以下の能力を獲得することができる。

・自分の興味あるテーマに沿った適切な文献や資料を検索できる。

・学術的な文献の内容を正確に理解できる。

・テーマに沿ったデータの加工処理ができる。

・文献から理解した内容をわかりやすく他の受講生に対して発表できる。

・適切でわかりやすいレジュメを作成できる。

・効果的な発表ができる。

・他の人の意見を適切に理解することができる。

・質問に理論的に答えることができる。

・自分の意見をまとめ、グループで議論することができる。

<授業の進め方>

履修者は、学修テーマに従った資料収集、学術文献の読解、統計資料を用いたデータ分析、レポートの作成、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う。

<履修するにあたって>

毎回出席すること。

<授業時間外に必要な学修>

予習に各回1? 2時間程度の時間を要する。

<提出課題など>

履修者は、学期末レポートの他に、随時課題を提出する。提出した課題は一定の基準に基づいて採点され、返却される。

<成績評価方法・基準>

授業時のプレゼンテーション・授業時の自発的な発言、
・提出課題(50%)、および、最終レポート(50%)で総合的に評価する。

・毎回のゼミへの出席を前提とする。

・最終レポートが未提出の場合、単位認定は行わない。なお、提出レポートのなかに、文献資料その他からの剽窃、盗用があった場合には、不合格となる。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

演習 の振り返り

ゼミの進行確認、次回以降の課題のアナウンス等を行う。演習 の学期末レポートの内容の報告、相互評価を行う。

第2回? 第7回 文献学習

テーマに沿った文献の収集方法、レビューの方法について学習する。

第8回? 第12回 統計データに関する学習

統計データの収集方法、読み取り方、作図、データ分析の方法について学習する。

第13回 プレゼンテーション

プレゼンテーションの方法について学習したうえで、パワーポイントを用いたプレゼンテーションをおこなう。

第14回 レポート作成の方法論

レポートの作成方法について学習したうえで、レポートを作成する。

第15回 まとめ

学修のまとめをおこなう。

2022年度 後期

2単位

演習

田口 順等

< 授業の方法 >

講義・演習

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

演習 引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。

まずは演習 で選んだテーマ設定をもとに必要な文献・資料を入手し、先行研究を整理、解説しテーマの研究手法や問題点を文章にまとめることである。

またこれまでの卒業論文を参考に作成方法の問題点を見つけ、自身の卒業論文研究に活用・改善方法を検討する。経済学部DPの「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。（思考力・判断力・表現力等の能力）」や「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」に対応している。

< 到達目標 >

卒業論文に必要な様式や文章の書き方を理解し、自身の卒業論文執筆に活用できる（知識・技能）

先行研究や文献を調査して、それらの内容を要約し、問題点を指摘できる。（技能）

卒業論文の制作や執筆を計画的に進め、工程を細分化して作業できる（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

問題解決能力、情報リテラシー、観光経済学

< 授業の進め方 >

講義時間内やそれ以外で文献検索や執筆作業を進め、個別に面談し最後は調査内容を発表する。

< 履修するにあたって >

文献検索や執筆など各自行うことが多くなってきます。卒業論文の作成においてまずは自分の意見を主張するのではなく、文献を通じて筆者の主張を整理することで、問題点が浮かび上がってきます。この問題点こそ最初に抱く自分の意見や考えです。こうしてまず自分の意見や疑問が浮かびやすい作業から自分の主張を思い付き、執筆することで、高次の自分の意見や主張を考え、卒論に書くことができます。

剽窃・登用・コピー等不正行為が判明した場合は不可となります。引用の方法を厳格に守り、資料を読み考察を重ねて自分の能力で客観的な文章を書くことが求められます。

進捗状況によって内容が前後することがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文の作成は一朝一夕にできるものではありません。作業・執筆部分を少しずつ考え行動していくことで完成します。そのためには講義時間外で作業する必要がある、それを習慣づけるためには、講義終了後次の時限（90分）を確保してすぐに取り掛かれるようにしてください。

< 提出課題など >

先行研究の資料、課題、執筆途中の原稿などを提出し、確認後指摘や面談を行い卒業論文完成に向けての改善や指示、面談を行う。

< 成績評価方法・基準 >

講義内での課題や発表5割、卒業論文の先行研究・文献紹介・現状説明部分を5割として評価する。

剽窃・盗用・コピー等不正行為が判明した場合は不可とする。

< テキスト >

指定しない、配布資料を用いて説明する。

< 参考図書 >

ポルケ製作『レポート・論文を書こう! : 誰にでも書ける10のステップ (Library video series . 情報の達人 ; 第3巻)』紀伊國屋書店、2007年

白井 利明・高橋 一郎『よくわかる卒論の書き方 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』ミネルヴァ書房、2011年

そのほか各テーマに応じて適宜指示する

< 授業計画 >

第1回 演習案内

先行研究の調査方法、卒業研究の進め方

第2回 ライティング

先行研究の書き方

第3回 ライティング

アウトライン、卒論の骨格・構成

第4回 ライティング

パラグラフライティング

第5回 研究の進め方

執筆計画

第6回 研究の進め方

クリティカルシンキング

第7回 先行研究調査

先行研究調査の実施と整理

第8回 先行研究調査

読解方法

第9回 先行研究調査

要約と問題点の指摘

第10回 統計処理

クロス集計表・特化係数

第11回 プレゼンテーションの準備

準備資料の作成と予行練習

第12回 プレゼンテーションの準備

準備資料の作成と予行練習

第13回 先行研究発表

各自のテーマの先行研究を解説し問題点について発表する。

第14回 先行研究発表

各自のテーマの先行研究を解説し問題点について発表する。

第15回 先行研究発表

各自のテーマの先行研究を解説し問題点について発表する。

2022年度 後期

2単位

演習

常廣 泰貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに示す、2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること、5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができることを目指しています。

< 主題 > 卒業論文作成のための準備

< 目標 > 各自が卒論のテーマにしようと思う事象について、関連する経済理論の内容をレジュメにまとめ報告し、卒論作成の基礎を固めることを目標とする。

< 到達目標 >

卒業論文テーマを決定し、卒業論文の作成に必要な経済理論を修得できる。

< 授業の進め方 >

卒論テーマに関する報告および質疑・応答

< 授業時間外に必要な学修 >

レジュメ作成のため概ね2時間の学修時間。

< 成績評価方法・基準 >

報告および質疑・応答の内容によって評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミの概要

第2回? 第5回 卒論テーマの決定

卒論テーマの決定と関連する経済理論についての考察

第6回? 第9回 報告、質疑・応答1

卒論テーマに関する報告および質疑・応答

第10回? 第14回 報告、質疑・応答2

卒論テーマに関してより発展させた報告および質疑・応答

第15回 まとめ

これまでの報告のまとめ、および質疑・応答

2022年度 後期

2単位

演習

中村 亨

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

< 主題 > 経済実証分析の基礎と自主研究テーマに従った研鑽3

< 目標 > 専門的な新しい経済学の習得

経済学部でのDPにあるように、経済問題を総合的に分析し、より良い社会構築に貢献できるようになることを目的とする。

ホームページ

<https://ntohru.wixsite.com/mysite>

< 到達目標 >

種々の研究会で積み上げてきた研究成果をプレゼンする。プレゼンの質を高めることや、質問への対処とともに、内容の改善もすすめていき、論文の完成度をあげていくことができる。

< 授業のキーワード >

データ分析、政策評価、因果分析

< 授業の進め方 >

プレゼンという実践中心の授業となる。あくまでもグループ学習中心で創発型の学びのスタイルを身に付けていきたい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる教材（新聞、課題図書、論文）の箇所を読んでおくこと。（目安として1時間）

事後学習として、宿題・課題に取り組むこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

毎回宿題をこなし、その内容をプレゼンする。

< 成績評価方法・基準 >

プレゼンの質で評価

< 参考図書 >

授業時に指示

< 授業計画 >

第1回 後期計画の決定

各グループの研究を完成させるための計画の再調整を行う。

第2回? 第4回 校外実習の準備

ゼミ研究を他大学の学生とシェアするための仕組みづくりの準備

第5回 講演(3)

外部講師による研究テーマに関する講演会

第6回? 第8回 校外実習の準備

ゼミ研究を他大学の学生とシェアするための仕組みづくりの準備

第9回 キャリア講演会

就活のためのキャリア講演会での講習

第10? 第12回 他大学との研究会開催

各グループで積み上げてきた研究成果を他大学との研究会で発表する。

第13回 反省会

他大学との研究会における成果、意義、反省点などを議論する。

第14回 データベースの講習

図書館主催のデータベース講習を受け、卒論執筆に必要な情報探索に関するノウハウを修得する。

第15回 卒論テーマ

4年時に執筆する卒業論文のテーマを確定する。

2022年度 後期

2単位

演習

西山 茂

< 授業の方法 >

演習 引き続き『資本論』の講読。

< 授業の目的 >

引き続き『資本論』を読みながらマクロ経済学についても学ぶ。

本授業の目的は、DP「2. 経済理論の基礎を修得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解4できる。」「3. 経済データに関する基礎知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。」に関連している。

< 到達目標 >

ゼミナールの目標は資本制経済の実証分析である。『資本論』を輪読しながら、理論的基礎について学ぶが、現実の経済について興味を持ってほしい。演習は、学問を

する場である。今回は”故きを温ねて新しきを知る”という発想で演習を行います。『資本論』の理解は、現代マクロ経済学への理解にも通ずるものがあります。

< 授業のキーワード >

『資本論』と労働問題 パワハラ問題 改正労働施策総合推進法 価値産業連関表

< 授業の進め方 >

理想的には、テキストの報告をしてもらいたいが、内容の十分な理解のためにも、教師が講義形式でテキストの解説をする。

< 履修するにあたって >

雇用も厳しいものとなり、労働強化、低賃金も差し迫る課題です。労働者の人権問題について考えていきます。パワハラ問題についても議論していきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストを読んでおくこと。最低30分間予習しておくこと。

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート(自由論題: 経済や経済学の書物で各自興味ある書物

を1冊選んでまとめる) 100%。欠席可能回数5回。

< 参考図書 >

斎藤光雄著『国民経済計算』創文社

置塩信雄『マルクス経済学 価値と価格の理論』筑摩書房

日本共産党中央委員会社会科学研究所監修『新版 資本論 7 カール・マルクス』新日本出版社

同『新版 資本論 2 カール・マルクス』新日本出版社

同『新版 資本論 3 カール・マルクス』新日本出版社

同『新版 資本論 4 カール・マルクス』新日本出版社

< 授業計画 >

第1回～第3回 労働問題

『資本論』にもとづき、現代の労働問題について考えていく。

パワハラ問題についても考える。

第4回～第6回 相対的剰余価値の生産

相対的剰余価値の概念、協業、分業とマニファクチュア、機械と大工業

第7回～第10回 絶対的および相対的剰余価値の生産

絶対的および相対的剰余価値、労働力の価格と剰余価値との大きさの変動、剰余価値率を表わす種々の定式

第11回～第14回 労賃、資本の蓄積過程

労働力の価値または価格の労賃への転化、時間賃金、出来高賃金、資本主義的蓄積の一般的法則

第15回 応用編(3)

価値産業連関表から読む『資本論』。

ここでいう価値産業連関表とは生産者価格評価取引基本

表のことです。
単純再生産の場合についてのみ、再生産表式についても取り上げてみたいと思います。産業連関表は、ワシリー・レオンチェフという偉い経済学者が作り出したものです。ある意味では、産業連関表も経済学の古典であるといっても過言ではないでしょう。マルクスの『資本論』の再生産表式は、産業連関表のルーツにあたります。みんなで楽しみましょう。

2022年度 後期

2単位

演習

伴 ひかり

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

演習 の目的は、経済学部のDPに掲げる、「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できること」、「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること」、および、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができること」と関連する。具体的には、基本的な文献を輪読することによって、グローバル経済とその下での経済政策の動向を理解すること、各自関心のあるテーマを選び、資料収集し、内容をまとめ発表すること、発表や討論を通して各自の意見を伝えたり、他者の意見を理解したりすることができることが目的である。また、本演習は3年次後期に配当されている専門演習で「専門的学問への積極的な参加」に位置付けられている。

< 到達目標 >

- ・グローバル経済の状況を貿易、直接投資、金融等の面からある程度説明できる（知識）。
- ・日本のEPAの進捗状況、問題点等を説明できる（知識）。
- ・気候変動問題に対する国際的取組みや日本の対応を説明できる（知識）。
- ・各自のテーマの下に資料収集を行い、発表のアウトラインを作成することができる（知識、技能）
- ・予備知識のない相手に対して、わかりやすい発表をすることができる（知識、技能）
- ・効果的な視覚資料を作成することができる（技能）

< 授業の進め方 >

各自関心のあるテーマを選び研究を進め、レポートにまとめ、発表のための視覚資料を作成する。情報処理実習室において作業を進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復

習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 成績評価方法・基準 >

報告50%、課題50%で評価する。原則として、無断で報告を怠った場合や、出席が2/3を下回る場合は単位を取得できない。

< 授業計画 >

第1回 研究テーマ探し(1)

国際貿易に関連する文献を読む。

第2回 研究テーマ探し(2)

直接投資に関連する文献を読む。

第3回 研究テーマ探し(3)

Covid19に関連する文献を読む。

第4回 研究テーマ探し(4)

エネルギー・環境問題に関連する文献を読む。

第5回 研究テーマの決定

各自の研究テーマを決める。

第6回 レポートの書き方

レポートの書き方について学ぶ。

第7回 資料収集(1)

研究テーマに沿って基本的な資料を収集する。

第8回 資料収集(2)

収集した資料を整理する。

第9回 資料収集(1)

研究テーマに沿って資料を収集し、整理する。

第10回 パワーポイントの活用方法

パワーポイントの活用方法を学ぶ。

第11回 報告準備(1)

研究報告のためのレポートを概ね完成させる。

第12回 報告準備(2)

研究報告のためのスライドを完成させる。

第13回 報告会(1)

各自研究した内容をスライドを利用して報告する。

第14回 報告会(2)

各自研究した内容をスライドを利用して報告する。

第15回 まとめ

レポートを完成させ提出する。

2022年度 後期

2単位

演習

林 隆一

< 授業の方法 >

演習

今後の授業形態は、大学・経済学部の方針に従い変更する可能性があります。

< 授業の目的 >

本講義は演習科目に属し、演習（3年生前期配当）の応用として位置づけられる。

DP（学位授与方針）の「経済問題を総合的に分析できる

知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。そのため、学生コンテスト（例：日本経済新聞社主催の日経ストックリーグや神戸新聞社主催のMラボ、懸賞論文等）の参加を通して、日本経済における企業活動の理解・分析を進め、自分の言葉で説明し、他人と適切なコミュニケーションがとれることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、証券アナリストとして企業分析・評価を19年間経験している、「実務経験のある教員」であり、より実践的な観点から上記の内容等を指導するものである。

<到達目標>

(1) 日本経済の課題(テーマ)を選び、それに関する企業活動を具体的に説明できる(知識)。

(2) 企業活動を自分なりの視点で分析し、その内容をプレゼンテーションし、お互いにディスカッションできる(技能)。

(3) 企業分析や発表に関して積極的な態度や興味を持ち、受講生同士で議論する習慣を身につけることができる(態度・習慣)。

<授業のキーワード>

企業(活動)、(事業・企業)戦略、財務分析、事業・企業評価、ポートフォリオ(株式投資等)などの中から各受講生が一部を選択する(受講生ごとにテーマを選ぶ)。

<授業の進め方>

ゼミ(活動)を会社(仕事)に見立て、疑似的な就業体験(本来の意味のインターンシップ)として、グループ単位(各部署単位)で、自分の「仕事」をし、中途経過を授業で発表する。

基本的には、受講生が事前準備したものを発表し、他の受講生が、質問・コメント・アドバイスを行う。教員は補足や次の方向性を示唆し、必要に応じて基礎知識の講義・指導を行う。

ゼミ学生同士で、360度評価も導入している。

<履修するにあたって>

・フィールドサーベイ、企業活動・企業評価の専門家・実務家をゲストとして呼びしたり、学生コンテストの締切等のスケジュールや受講生の意向を考慮したりする場合、スケジュールを変更することがある。

・受講者各人の自主的・積極的な提案を歓迎する。

<授業時間外に必要な学修>

学生コンテストの参加を前提とするため、コンテストの締切に応じて、演習以外の時間の学習や受講生同士のコミュニケーションが必要となる。また、自発的に2年生の演習で自分達の経験を話す受講生を歓迎する。

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には2時間程度が必要となる。

さらに、受講者のニーズやテーマに応じて、講義外で企業取材や工場見学等を行う。

<成績評価方法・基準>

発表内容50%、他者の発表などに対するディスカッション30%、講義の運営やチーム運営など20%で評価する。

<テキスト>

必要があれば、講義中に適宜指示する。

<参考図書>

『会社四季報』東洋経済新報社(最新版)。その他に必要があれば、講義中に参考書を適宜指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

夏休み中の活動報告

進捗状況を踏まえ、今後の授業の内容やスケジュールを確認する。

夏休み中の学生コンテスト(Mラボや神戸市主催にさんがるくなど)の参加チーム活動の報告を踏まえ、議論する。

第2回 日経ストックリーグのポートフォリオ案の発表
日経ストックリーグの参加チーム単位で、日本経済の問題点・課題(テーマ)に沿って、ポートフォリオ案を発表する。

第3回 先輩学生の経験から学ぶ

4年生の先輩(ゼミ学生)等が演習・で、チーム単位で作成・提出した日経ストックリーグや学生コンテスト等の内容や経験を聞き、これから参加する学生コンテストの参考とするための議論や質問を行う。

第4回 中間報告(1)

学生コンテスト(Mラボや神戸市主催にさんがるくなど)や日経ストックリーグに参加予定のチームが、進行状況の発表を行い、議論する。

第5回 中間報告(2)

学生コンテスト(Mラボなど)や日経ストックリーグに参加予定のチームが、進行状況の発表を行い、グループワークを行う。

第6回 学生コンテストの予行練習

学生コンテスト(Mラボなど)に参加予定チームが、発表練習を行い、議論する。

第7回 外部講師講義

実際の企業分析やフィールドワーク、データベースの実例を学ぶ(専門家や実務家などをゲストする場合や工場見学などのフィールドワークを行う場合がある)。

第8回 中間報告(3)

学生コンテスト(Mラボなど)や日経ストックリーグに参加予定のチームが、進行状況の発表を行い、グループワークを行う。

第9回 中間報告(4)

学生コンテスト(Mラボなど)や日経ストックリーグに参加予定のチームが、進行状況の発表を行い、グループワークを行う。

第10回 人文学部・上田ゼミとの発表会

人文学部・上田ゼミとの発表会を行う。

(スケジュールは上田ゼミとの調整により変更になる場合がある)

第11回 発表(練習)等

学生コンテスト(Mラボなど)や日経ストックリーグに参加予定のチームが、進行状況の発表を行い、グループワークを行う。

第12回 外部講師講義

実際の企業分析やフィールドワーク、データベースの実例を学ぶ(専門家や実務家などをゲストする場合や工場見学などのフィールドワークを行う場合がある)。

第13回 日経ストックリーグの提出最終報告

日経ストックリーグの参加チーム単位で、提出締切直前に、日本経済の問題点・課題(テーマ)に沿って、最終レポートの内容を発表し、議論する。

第14回 日経ストックリーグの発表

日経ストックリーグの参加チーム単位で、最終レポートの概要を発表・報告する。

第15回 卒業論文指導など

卒業論文の基礎的な指導や4年生の演習の運営を確認する。

2022年度 後期

2単位

演習

平井 健之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

【授業の概要】

政府(国や地方公共団体)は国民生活や企業活動に関する多様な分野に関与し、わが国の経済において重要な役割を演じています。本演習では、政府の経済活動を分析対象とする財政や公共経済に関する学習を通して、経済社会のさまざまな課題に対処するために、政府は「何を」、「どのように行えばよいか」について考えます。授業では、卒業論文の執筆を意識して、受講生が研究テーマを設定し研究発表を行う。

【授業の目的】

財政や公共経済に関する全般的な学習を通じて、政府による経済への介入の根拠や政府の経済的役割を理解するとともに、政府のさまざまな経済活動を分析し政府の望ましいあり方を考える能力を身に付けることを目的とします。また、学部DPに掲げられているように、演習での発表を通して、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目指します。

< 到達目標 >

財政ををめぐる政府の経済活動について、理論と現実

に関する基礎知識を修得できる。

修得した知識を基にして、政府の経済活動の望ましいあり方を考えることができる。

次年度の卒業論文のテーマや内容について具体的に決定することができる。

< 授業の進め方 >

次年度の卒業論文執筆計画の作成に向けて、研究テーマを設定し、そのテーマに基づき基礎研究を進めて発表する。

< 履修するにあたって >

ゼミを有意義なものとするよう自らが努力するとともに他人と協調して、ゼミの学習内容に意欲的に取り組む姿勢が必要です。なお、財政学、地方財政論の単位を修得しておくことが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

発表者は、発表内容についての質疑応答に対応できるように事前準備しておくこと(2時間以上)。

< 提出課題など >

発表者は、発表内容について報告資料を作成し、受講者全員に配布してもらいます。

また、各受講者には、学期末に次年度の卒業論文の執筆計画の提出を求めます。

いずれも成績評価の対象となります。

< 成績評価方法・基準 >

授業での議論への参加態度、授業中の発表とその作成資料(レジュメ)、学期末のレポート(卒業論文の執筆計画)を総合して評価します。ただし、卒業論文の執筆計画については、その内容が所定の基準を満たさなければなりません。

なお、授業は毎時間の出席が前提となります。(1) 無断欠席をした者、(2) 特別な事情を除いて3回以上欠席した者は、単位を取得できないので注意してください。

< テキスト >

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料を配付します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の内容と進め方、受講上の注意事項などの説明
研究発表についての事前指導

第2回 卒業論文とは

卒業論文の解説

卒業論文の作成方法について解説

第3回 文献学習

関心のある分野から文献を選んで発表

発表内容について、質疑応答、全員で議論

第4回 文献学習

関心のある分野から文献を選んで発表

発表内容について、質疑応答、全員で議論

第5回 文献学習

関心のある分野から文献を選んで発表

発表内容について、質疑応答、全員で議論
第6回 文献学習
関心のある分野から文献を選んで発表
発表内容について、質疑応答、全員で議論
第7回 研究テーマの設定
研究テーマを設定
研究テーマの内容について具体的に検討
第8回 研究テーマに関する資料収集
研究内容に関する資料やデータの収集
研究内容に関する文献の報告
第9回 研究内容の検討
研究テーマに関する背景や問題の報告
報告内容について、質疑応答
第10回 研究内容の検討
研究テーマに関する背景や問題の報告
報告内容について、質疑応答
第11回 研究内容の検討
研究テーマに関する背景や問題の報告
報告内容について、質疑応答
第12回 卒業論文計画の発表
研究内容とその計画について発表
発表内容について質疑応答、全員で議論
第13回 卒業論文計画の発表
研究内容とその計画について発表
発表内容について質疑応答、全員で議論
第14回 卒業論文計画の発表
研究内容とその計画について発表
発表内容について質疑応答、全員で議論
第15回 まとめ
授業全体のまとめ（授業内容に関する総復習）
授業全体をふりかえって

2022年度 後期

2単位

演習

圓生 和之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

これまでに習得したことを踏まえ、卒業論文の作成に向けて、研究テーマを設定し、基礎知識の習得、現状分析を行います。

これにより、経済学部でのDPに掲げる「経済問題を総合的に分析できる知識と技能」の習得を目指します。

この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられています。

なお、この科目の担当教員は、組織の人事をはじめ二十数年に及ぶ実務経験のある教員ですので、必要に応じて日本社会における労働の実際についても解説したいと思います。

います。

< 到達目標 >

・論文を書くための基礎知識を身につけ、専門とする研究テーマについて日頃から高い関心を持って考えることができる(態度・習慣)、

・研究テーマについての基礎的な知識を得て、その概要を説明できる(知識)、

・卒業論文を作成するために今からすべきことを実践できる(技能)、ことを目指します。

< 授業のキーワード >

卒業論文(研究テーマの決定、基礎知識の習得、現状分析)

< 授業の進め方 >

基本的な事項を解説した後、各ゼミ生が報告し、他のゼミ生からの質疑に答えることにより学ぶゼミ形式で進めます。演習では、卒業論文の作成に向けて各自が設定した「研究テーマ」「研究テーマに係る基礎知識」「研究テーマの現状分析」を報告します。

< 履修するにあたって >

演習の進め方や、成績評価方法について、第1回の演習で説明しますので、受講する学生は必ず第1回の演習を受講してください。

全回出席をめざせること、メールで連絡がつくことが、履修の条件です。

< 授業時間外に必要な学修 >

報告担当回は、それまでに研究してきたことを的確にまとめ、説明と質疑応答の対応ができるように学習してください。

その他の回は、適切な質問ができるように学習してください。

必要となる時間は、一律ではないものの、平均的には90分程度が目安となります。

< 提出課題など >

報告担当回は、レジュメを作成・配布してください。

作成されたレジュメについては、演習講義の中で講評と解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

演習における報告内容、質疑応答の内容などを総合的に評価するとともに、

卒業論文の作成に向けた準備の進捗状況で評価します。

< 参考図書 >

白井利明・高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

山本拓(1995)『計量経済学』新世社

浅野哲・中村二郎(2009)『計量経済学』有斐閣

日本経済新聞社(2022)『日経業界地図2023年版』日本経済新聞出版社

このほか、随時紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス
演習の進め方についての説明 / 卒業論文の作成に向けて
第2回 研究テーマの設定
研究テーマ案と卒業論文の構想の報告
第3回 研究テーマの設定
研究テーマ案と卒業論文の構想の報告
第4回 研究テーマの設定
研究テーマ案と卒業論文の構想の報告
第5回 基礎知識の習得
研究テーマにかかる基礎知識の報告
第6回 基礎知識の習得
研究テーマにかかる基礎知識の報告
第7回 基礎知識の習得
研究テーマにかかる基礎知識の報告
第8回 現状分析(1)
研究テーマの現状分析の報告(1)
第9回 現状分析(1)
研究テーマの現状分析の報告(1)
第10回 現状分析(1)
研究テーマの現状分析の報告(1)
第11回 現状分析(2)
研究テーマの現状分析の報告(2)
第12回 現状分析(2)
研究テーマの現状分析の報告(2)
第13回 現状分析(2)
研究テーマの現状分析の報告(2)
第14回 全体発表
全体発表
第15回 今後の展望
卒論の作成に向けた今後の方向性(講義)

2022年度 後期

2単位

演習

三宅 敦史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は演習科目に位置付けられており、演習 及び演習 で学習した知識を発展させ、金融市場と現実経済との関係についてより深く学習する。

この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとる」能力を身に着けることを目的としている。

< 到達目標 >

興味のあるテーマについて文献を調べてレポートにまとめる。

< 授業の進め方 >

各グループごとにレポートを報告し、議論する。

< 授業時間外に必要な学修 >

各グループごとに分かれて、自分の担当個所について調べる。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミでの発表や発言、レポートを総合して評価する。無断欠席を3回以上した者には成績評価を行わない。

< 授業計画 >

第1回 はじめに

演習 の進め方について説明する

第2回? 第5回 グループワーク

興味を持ったテーマについて調べる

第6回 ゼミ講演会

外部講師を招いての講演会(テーマ: キャリア関係)

第7回? 第10回 グループワーク

レポート作成に向けて、選択したテーマについて各グループで調査する

第11回 ゼミ講演会

外部講師を招いての講演会(テーマ: キャリア関係)

第12回? 第13回 グループワーク

レポート完成に向けてより踏み込んで調査する

第14回? 第15回 発表会

レポートの内容についてレジュメを作成しプレゼンテーションする

2022年度 後期

2単位

演習

毛利 進太郎

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のDPが示す経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できるための素養を身に着けることを目指しています。

演習 では演習 から卒業論文まで続く演習の一部として、演習 ではこれまでに学んだことを自ら分析できるように、コンピュータを実際に利用しながら様々なデータを取得し、データ分析、処理について学びます。

< 到達目標 >

データ分析の実際について理解し活用できる。

< 授業の進め方 >

適宜課題を出します。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復

習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

適宜課題を課します。課題については発表を行い随時講評します。

< 成績評価方法・基準 >

課題への取組み(50%)、ゼミでの発表状況(50%)で評価します。

< 授業計画 >

1 ガイダンス

講義内容を説明し、演習でのこれからのスケジュールについて決定する。

2 データ分析の基礎

実際にデータを眺め、試行錯誤しながらデータの特徴を見出す。

3 データ分析の基礎

実際にデータを眺め、試行錯誤しながらデータの特徴を見出しレポートとしてまとめる。

4 バスケット分析

バスケット分析の基礎について学ぶ。

5 バスケット分析

バスケット分析の基礎について演習を行う。

6 回帰分析の基礎

回帰分析の概念について学ぶ。

7 回帰分析の演習

回帰分析の基本的な演習を行う。

8 回帰分析の応用

回帰分析の応用について演習を行う。

9 回帰分析の応用

回帰分析の応用例について学び、演習を行う。

10 実験計画法

実験計画法について学ぶ

11 実験計画法の演習

実験計画法について演習を行う。

12 コンジョイント分析

コンジョイント分析について学び、演習を行う。

13 分散分析

分散分析について学び演習を行う

14 課題演習

この演習で学んだことをもとに各自選んだテーマに基づいてデータを分析を行う。

15 課題演習

この演習で学んだことをもとに各自選んだテーマに基づいてデータを分析し、発表する。

2022年度 後期

2単位

演習

渡部 尚史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPに示す「経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」ことを目指す。3年次配当の演習科目に属する。地方公共団体の決算カードを読み、財政状況を数字で把握できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

地方公共団体の決算カードから財政状況を数字で把握できる。

< 授業のキーワード >

決算カード

< 授業の進め方 >

報告を中心に授業を進める。

< 履修するにあたって >

地方財政論の単位を修得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、演習で用いたプリントを読み直すこと(2時間)。

< 提出課題など >

地方財政に関する課題の提出を求める(2回)。各自が選んだ地方公共団体の決算カード(平成22年度?平成30年度)の分析表と概況に関する原稿の提出を求める。課題は卒業論文作成の基礎となるものである。確認した結果を伝えるとともに訂正すべき箇所を解説する。

< 成績評価方法・基準 >

真摯に取り組むことと欠席が2回以下であることを前提に、地方財政に関する課題50%、各自が選んだ市町の決算カードに関する分析表20%、市町の概況に関する原稿で30%の割合で評価する。

< 授業計画 >

第1回 目的別支出

目的別歳出の内容を理解する(Chap.6)。

第2回 性質別歳出

性質別歳出の内容を理解する(Chap.6)。

第3回 地方債(1)

地方債を起すことができる経費、地方債の協議制を理解する(Chap.7)。

第4回 地方債(2)

地方債計画、地方債資金の分類、地方債の償還方法を理解する(Chap.7)。

第5回 財政健全化法

健全化判断比率、財政健全化計画、財政再生計画を理解

する (Chap . 8)。

第6回 財政診断

財政分析に用いる指標 (収支に関する指標、財政力に関する指標、財政構造の弾力性に関する指標) を理解する (Chap . 9)。

第7回 地方財政状況調査関係資料

地方財政状況調査関係資料の内容を理解する。

第8回 決算カード

財政の負担度合いに関する財政指標 (地方債現在高比率、実質債務残高比率など) を理解する。

第9回 財政状況資料集

財政比較分析表、経常収支の分析、実質公債費比率の分析などを理解する。

第10回 類似団体比較カード

人口1人当たりの歳入、歳出などの金額を類似団体と比較することを理解する。

第11回 各地方公共団体の市町村内所得

各自が選んだ地方公共団体の市町村内総生産を分析して、経済構造を数字で把握する。

第12回 各地方公共団体の概況

各自が選んだ地方公共団体の概況 (人口、議員定数、特別職の給料等) を分析して、概況を数字で把握する。

第13回 各地方公共団体の歳入

各自が選んだ地方公共団体の歳入を分析して、歳入の状況を数字で把握する。

第14回 各地方公共団体の歳出

各自が選んだ地方公共団体の歳出を分析して、歳出の状況を数字で把握する。

第15回 各地方公共団体の財政指標

各自が選んだ地方公共団体の財政指標を分析し、財政状況を数字で把握する。

2022年度 前期

2単位

演習

石本 眞八

< 授業の方法 >

対面形式による演習

< 授業の目的 >

卒業論文の完成に向けての資料収集や論文作成を進めるとともに、DPの4に示されている、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目標としています。

< 到達目標 >

卒業論文の初稿を完成させること

< 授業の進め方 >

適宜研究成果を報告してもらい、質疑応答の中で次回までの課題を指示する

< 授業時間外に必要な学修 >

各自のテーマに沿った文献やデータの収集整理とその考察に毎週最低2時間は必要になります

< 成績評価方法・基準 >

報告。質疑応答の内容 (50%)、期末のレポート (50%)

< テキスト >

必要に応じて適宜指示します

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

論文を作成する手順を指示する

第2回 ~ 第5回 論文の構成

論文全体の構成を報告し、必要があれば修正する

第6回 ~ 第9回 原稿作成

各章ごとに執筆した論文を報告し、加筆・修正を加える

第10回 ~ 第13回 プレゼンテーション

論文の内容をプレゼンテーションし、質疑応答を行う

第14回 ~ 第15回 初稿の完成

質疑応答の内容を加筆修正し、初稿を完成する

2022年度 前期

2単位

演習

井上 善博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

主題: 2年生後期から始まった企業経済コースで学んだ内容を復習すること。企業を中心に、経済活動全体を理解できるように、経営学の基本を学ぶ。

目的: 経済学や経営学にかかわる諸問題を分析できる知識と技能を育むことを目的とする。卒業論文作成の準備段階として、企業経済に関する諸理論を整理すること。

この科目は学部のDPで示す、

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

以上の点を目的とする。

< 到達目標 >

・経営学の基本を学ぶことで、私たちの周りのあらゆるものが企業によってつくられていることを分析することができる。

・企業の中では、どのような考え方で、私たちのニーズに合ったものを作り出しているのかという視点を身につけることができる。

・協働して議論することにより、多様な考え方を社会で活かすことができる。

< 授業のキーワード >

商品開発・マーケティング・ソーシャルメディアを活かす広告手法

< 授業の進め方 >

これまでの経営学研究の基礎をもとに、これから必要される企業の将来像について、調査し、議論し、発表することで、実際の企業へのプレゼンを行うことを想定して、アドバイスします。

< 履修するにあたって >

企業経営に関する文献や新聞を読み、現代の企業経営の課題について考えてみましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞や経済雑誌などを読み、現代企業のビジネスの成功に必要なことについて理解すること。(50分)

授業時に示したキーワードの説明をできるようにすること。(50分)

< 提出課題など >

各回の議論のテーマについてまとめること(50分)。

授業時に示したキーワードの説明をできるようにすること。(50分)

学習内容について、次回の授業時にコメントつけてをフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

中間レポート50%、期末レポート50%で評価します。

< テキスト >

適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 現代企業の諸形態

企業概念と私企業の発展形態を学ぶ。

第2回 日本企業の企業統治

株主総会と取締役会の機能を学ぶ。

第3回 現代企業のステークホルダー

社会的関係の中で持続する企業の条件。

第4回 現代企業の社会的責任

企業の健全性をどのような視点で分析すべきか。

第5回 企業倫理

企業不祥事を起こさないために経営者と従業員が共有すべき理念とは。

第6回 現代企業の環境経営

企業活動による環境負荷とそれを解決する環境ビジネス。

第7回 経営戦略論における理論体系

経営戦略を立案すると、企業の将来が見えてくる。

第8回 3つの視点の経営戦略

全社戦略、事業(製品)戦略、機能(職能)別戦略の諸特徴。

第9回 テイラーの科学的管理法

経営を科学的に管理する方法とは。

第10回 マズローの欲求段階説

労働者はどんな欲求を満たすために一生懸命働くのだから。

うか。

第11回 バーナードの組織論

組織とは、二人以上の人々の意識的に調整された活動や諸力の体系である。

第12回 経営組織の基本形態

現代企業における機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織という組織形態の特徴について。

第13回 現代企業における情報管理

企業内における情報セキュリティの重要性。

第14回 グローバルビジネスの進化

グローバル企業の生成要因と発展過程についての検証。

第15回 総括

現代の企業において、どのような経営課題があるのかを整理してみよう。

2022年度 前期

2単位

演習

石田 裕貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部のDPに示す「4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」、及び「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることである

・卒業論文の執筆に向けての準備を行う

< 到達目標 >

・自分の関心のあるテーマを設定し、先行研究のレビューを通して、オリジナルな論点を探ることができる(知識、技能)

< 授業の進め方 >

基本的には、教員と相談しながら個人で卒業論文の準備を行ってもらうが、他のゼミ生との意見交換を通じて、自分の卒業論文に活かしてもらう

< 授業時間外に必要な学修 >

他の授業科目や新聞やテレビのニュース、インターネットなどで、幅広く世の中の経済問題に関心を持ち、分からないことや疑問点などを積極的に調べる(2時間)

< 提出課題など >

< 授業計画 >の区切りにしたがって、レポートを提出してもらおう。授業の中で随時、進捗状況がチェックされフィードバックされる

< 成績評価方法・基準 >

演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

< テキスト >

初回授業で指定する

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 ガイダンス

演習の概要を説明する

第2・3回 テーマの選定

大まかにテーマを選定する

第4回 テーマの報告

報告や意見交換を行い、テーマを決定する

第5～8回 先行研究のレビュー

テーマに関連する先行研究を読み、問題意識を深める

第9・10回 アウトラインの決定

テーマの論点を絞り込み、アウトラインを決定する

第11・12回 執筆計画の作成

論文の方向性や研究手法などを定め、執筆計画を立てる

第13・14回 執筆計画の報告

報告や意見交換を行い、執筆計画を決定する

第15回 まとめ

演習全体を総括する

2022年度 前期

2単位

演習

岡部 芳彦

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

演習、に続き、卒業論文作成に向けて論考を深めることができます。

また「納得のいく卒業論文を作るためのヒントを得る」ことができます。

なお、この科目は、学部のDPに示す「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ことを目指しています。

<到達目標>

在学期間を通じて身に着けた分析能力や問題発見能力を生かし、オリジナリティあふれる卒業論文に向けての準備ができる。

<授業の進め方>

各自のプレゼンテーション、各班ごとのグループワークで卒業論文のテーマを見つける。

<授業時間外に必要な学修>

最低週1回90分程度、授業時間外に、報告や発表に向けて各グループで集まって準備をする。

<成績評価方法・基準>

プレゼンテーション(30点)、グループワーク(40

点)、レポート(30点)。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

今学期の学習目標の確認。グループ編成。

第2回 グループワーク1

3分間スピーチ(1名)、経済雑誌の記事発表(2名)。

第3回 グループワーク2

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第4回 グループワーク3

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第5回 卒論準備1

卒業論文の準備開始。

第6回 ゼミ講演会

外部から講師を招いてディスカッション。

第7回 グループワーク4

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第8回 グループワーク5

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第9回 グループワーク6

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第10回 ゼミ講演会

外部から講師を招いてディスカッション。

第11回 卒論準備2

卒業論文に向けての準備。

第12回 グループワーク7

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第13回 グループワーク8

3分間スピーチ(1名)。経済雑誌の記事発表(2名)。

第14回 卒論準備3

卒業論文にむけての準備。

第15回 ふりかえり

今学期の学習内容を振り返る。

2022年度 前期

2単位

演習

岡本 弥

<授業の方法>

6月20日(日)に緊急事態宣言が解除された場合、対面授業(演習)を行う。

<授業の目的>

卒業論文の完成までの準備段階と位置づけ、卒業論文のテーマの確定、テーマに関連する文献の入手と読み込み、作業仮説の作成、作業仮説の検証に必要なデータの入手、までを完了させる。

<到達目標>

到達目標として以下の3つを掲げたい。

テーマを絞り込み、実証分析が可能という制約を念頭におきつつ、そのテーマに関連する作業仮説を提示する

ことができる。

テーマや作業仮説に関連する書籍や論文の探索が過不足なくできる。

作業仮説の検証に必要なデータを収集し、目的に応じたデータセットを構築させることができる。

< 授業の進め方 >

毎回、3-4人が卒論制作の進捗報告を行い、それに対して担当者がコメントし、さらに全員が議論する。

< 授業時間外に必要な学修 >

報告担当者は2-3時間程度かけて報告の構想を練ってプレゼンを完成させる。それ以外の受講者は1時間程度かけて、事前に配布された報告者のプレゼン原稿を読み込み、コメントや質問をできるように準備する。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法は次に通りである。

(1)進捗報告のプレゼンの内容：70%

(2)質疑応答：30%

ただし、理由もなく、3回以上欠席した場合は単位取得はできない。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション(1)

卒論制作のスタートに先立ち、テーマ選びの注意点、先行研究の調べ方、について主に解説する。

第2回 イン트로ダクション(2)

前回に続いて、データ収集を行う際の注意点、実証分析に使用するデータセットの構築方法、について説明するとともに、についてはノートPCを用いた演習を行う。

第3-6回 論文制作の進捗報告

毎回、2-3人が卒論制作の進捗報告を行う。

第7-8回 中間報告会

2回に分け、1回あたり5-6人が卒論制作の進捗に関する中間報告を行う。

第9-13回 論文制作の進捗報告

毎回、2-3人が卒論制作の進捗報告を行う。

第14-15回 学期末報告会

2回に分け、1回あたり5-6人が、卒論制作の進捗状況を振り返るための方向を行う。

2022年度 前期

2単位

演習

幸田 功

< 授業の方法 >

演習と講義

< 授業の目的 >

演習 は、演習 に引き続き、演習での学習の第四段階に位置付けられ、知識の修得をさらに進めつつ報告を担当する能力をより高めることを目的とします。

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。法学も経済学と同じく社会現象を扱います。卒業論文の作成を通じて、法学の知識や理解を深めることで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

労働法や民法を中心とする法律科目について、重要なテーマや経済学との関連性が強いテーマについての制度や条文の構造などのより深い理解を伴った知識の習得を目的とします。

主要な判例や論点等について自分で調べ、レジュメにまとめて報告できる能力に磨きをかけることも目的とします。

< 到達目標 >

卒業論文の完成に近づくことができる。

法学の理解を深めることができる。

< 授業のキーワード >

卒業論文 労働法 民法 最高裁判所判例 下級裁判所判例 経済学の視点

< 授業の進め方 >

前半は、報告テーマについての教員による解説講義と、そのテーマについてゼミ内における討論により授業を進めます。後半は、担当ゼミ生による作成中の卒業論文についての報告と、報告に対する教員と他のゼミ生からのコメントや質疑応答により授業を進めます。なお、ゼミ生には、法学の視点だけでなく、経済学の視点からの意見も求めます。

< 履修するにあたって >

憲法、民法（総則）、実践力基礎D（憲法）（公務員法学・ビジネス法務検定）、実践力育成F（行政法）などの法律科目の授業を履修してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

図書館等で参考文献を調べ、収集し、熟読すること。（週に最低5時間以上）

< 提出課題など >

ゼミ発表用の資料、卒論第一次草稿。

提出された資料に対しては、原則として次の回に書面または口頭によりコメントを伝えます。提出された草稿に対しては、メール等でコメントを伝えます。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価は、ゼミ発表の内容（40%）、ゼミにおける貢献度（他のゼミ生に対する的確な質問・意見など 20%）、卒論第一次草稿の内容（40%）について行う。

なお、就職活動等で止むを得ず欠席する場合は、必ず大学所定の就職活動報告書を提出してください。

正当な理由のない欠席または5分以上の遅刻が合計5回を超えた場合は成績評価の対象となりません。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

なし。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。受講者全員で話し合い、今後の基本方針を決定する。

第2回 報告テーマの選択

演習 の内容を振り返りつつ、各ゼミ生の卒業論文テーマに沿った報告内容を決定する。

第3回 前提知識の解説と討論

報告テーマについての前提知識の解説とゼミ内討論

第4回 前提知識の解説と討論

報告テーマについての前提知識の解説とゼミ内討論

第5回 前提知識の解説と討論

報告テーマについての前提知識の解説とゼミ内討論

第6回 前提知識の解説と討論

報告テーマについての前提知識の解説とゼミ内討論

第7回 前提知識の解説と討論

報告テーマについての前提知識の解説とゼミ内討論

第8回 前提知識の解説と討論

報告テーマについての前提知識の解説とゼミ内討論

第9回 報告

担当者による報告と質疑応答

第10回 報告

担当者による報告と質疑応答

第11回 報告

担当者による報告と質疑応答

第12回 報告

担当者による報告と質疑応答

第13回 報告

担当者による報告と質疑応答

第14回 報告

担当者による報告と質疑応答

第15回 まとめ

演習 における学習のまとめを行います。

2022年度 前期

2単位

演習

木暮 衣里

< 授業の方法 >

演習

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治

体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >

目的 >

各自の関心に基づいて卒業論文のプロット（構想）を作成。必要な文献と情報の収集、調査計画を立案します。発表と修正を通じて、プレゼンテーションとディスカッション、レポート作成の技術を高めます。

< DPとの関連 >

- ・専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている（知識・技能）
- ・幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる（思考力・判断力・表現力等の能力）
- ・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）

なお、この授業の担当者は中小企業診断士の資格を持ち、企業や自治体に対する抱負な支援経験を持つ教員であるため、より実践的な観点からも解説を行います。

< 到達目標 >

- ・自分の考えを文章や図に理論的にまとめることができる
- ・自分の考えを適切に説明することができる
- ・周囲のアドバイスに対し適切に対応することができる

< 授業の進め方 >

ゼミ生による発表とディスカッションを中心にを行います。

< 履修するにあたって >

経済学部の「『卒業論文』作成の手引」を各自熟読してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

テーマを考える、文献等の情報を集める、プロットや概念図、概要書をまとめるなど、やることはたくさんあります。1日1時間以上充てるように心がけましょう。

< 成績評価方法・基準 >

3回の発表および発表内容で評価します（100%）

< 参考図書 >

各自のテーマに合わせて、適切と考える参考書を紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

最終学年における一年の目標を策定します。（就活、卒論）

第2回 テーマの決定

各自で卒論のテーマを考え、柱となる文献を探します。

第3回

各自で卒論のテーマを考え、柱となる文献を探します。

第4回
各自で卒論のテーマを考え、柱となる文献を探します。

第5回
卒論テーマについて各自の発表を行います。

第6回
各自で卒論テーマに基づき、プロットと概念図の作成を行います。

第7回
各自で卒論テーマに基づき、プロットと概念図の作成を行います。

第8回
各自で卒論テーマに基づき、プロットと概念図の作成を行います。

第9回
各自のプロットと概念図の発表を行います。

第10回
各自のプロットと概念図の発表を行います。

第11回
各自で文献の収集、調査計画の立案を行います。

第12回
各自で文献の収集、調査計画の立案を行います。

第13回
各自で卒論の概要書の作成を行います。

第14回
各自で卒論の概要書の作成を行います。

第15回
各自の概要書の発表とディスカッションを行います。

2022年度 前期

2単位

演習

佐藤 伸明

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部DPに示されている「経済理論の基礎を習得」および「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得」に資する科目である。

卒業論文の作成に向けて専門的研究を行う。

< 到達目標 >

論文作成を進め、草稿を完成する。卒業論文完成に向けて本格的に作業を始めることができる。

< 授業のキーワード >

卒論のテーマ設定 文献の探し方

< 授業の進め方 >

課題報告と卒論の進捗状況の報告

< 履修するにあたって >

人によっては卒業論文が作成できないことがあるので、万全を期して、1年間の履修計画を立て、実行すること。

卒業研究テーマに関する書物を1冊は必ず読み、ゼミで報告すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業研究テーマに関連する文献を読み、内容をまとめる。各回1時間以上の予習復習が必要である。

< 提出課題など >

卒業論文を作成しようと思う人も思わない人も、卒業論文につながるようなテーマで研究レポートを作成して提出してください。提出時期は後程知らせます。

A 4 , 10.5ポイント, 横40字縦30行で文章を作成してください。

テーマは、テキスト『新日本経済入門』の中から一つの章一つの問題を選んで作成してください。

< 成績評価方法・基準 >

卒業研究レポートの評価に基づく。

< テキスト >

最初の授業時間において指示する。

< 参考図書 >

卒業研究テーマごとに指示する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

今後の予定と計画

第2回 個別研究

個々の研究課題の探求と経過報告

第3回 個別研究

個々の研究課題の探求と経過報告

第4回 個別研究

個々の研究課題の探求と経過報告

第5回 個別研究

個々の研究課題の探求と経過報告

第6回 個別研究

個々の研究課題の探求と経過報告

第7回 まとめ

まとめ

第8回 集団討論

テーマ別研究

第9回 集団討論

テーマ別研究

第10回 集団討論

テーマ別研究

第11回 集団討論

テーマ別研究

第12回 個別研究

草稿プレゼン

第13回 個別研究
草稿プレゼン
第14回 個別研究
草稿プレゼン
第15回 まとめ
まとめ

2022年度 前期

2単位

演習

柴田 淳子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目は、DP(学位授与方針)の「4. 自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」を目指します。

「演習」は、専門教育科目の選択必修科目における演習科目に属する科目です。

演習では、演習で作成したレジュメを参考に、自分の意見を理論的に主張することを目的とします。

< 到達目標 >

1. 演習で作成したレジュメを参考に、さらに詳しい分析のためにデータ収集やアンケート調査を行うことができる。

2. 自分の意見を理論的に、かつ明確に述べることができる。

< 授業の進め方 >

基本的には、各自で進めてもらいます。チェックの際に、考え方や進め方を教員と議論しながら決めていきます。

< 履修するにあたって >

演習を履修していること。

初回の授業には必ず参加し、演習の進め方と課題の提出方法について確認してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回2時間程度の時間が必要である。

< 提出課題など >

数回の卒論提出がありますので、必ず期限を守ってください。なお、提出された卒論は成績評価の対象とします。

< 成績評価方法・基準 >

提出資料の内容により評価します。単位を取得するためには、提出期日を厳守し、3回の報告を行うことを条件とします。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業論文の手引きについて

第2? 5回 卒論作成(1)

レジュメで作成したテーマにしたがって、卒論を作成す

る

第6回 中間報告(1)

進行状況を報告する

第7? 10回 卒論作成(2)

修正を行いつつ、卒論を完成させる

第11回 中間報告(2)

進行状況を報告する

第12? 13回 卒論作成(3)

修正を行い、卒論の見直しを行う

第14回 最終報告

これまでの修正点を踏まえ、これまでの内容に関する最終報告を行う

第15回 提出

軽微な修正を行った後、最終版を提出する

2022年度 前期

2単位

演習

関谷 次博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

設定した課題解決に向けて、個々に調査をおこない、順次その途中成果として発表していく。

本講義はDPの4「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しています。

< 到達目標 >

卒論作成のための情報収集を完了させる。

< 授業の進め方 >

各自中間発表に際しては、教員からの指導のほかにも、学生同士で意見交換する。

< 履修するにあたって >

中間発表の準備を確実にこなうこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外でも、情報収集等について積極的に相談しにくること。(1講義に対して1時間程度)

< 成績評価方法・基準 >

進捗報告(100%)

< 授業計画 >

第1回 卒業論文のための情報収集

授業の目的・目標、進め方を詳しく説明する。

第2~4回 図書の選定

自身の関心にもとづいた関連図書を選定する。

第5~7回 要約

選定した図書の要約をする。

第8~13回 発表

要約した内容を順次報告する。

第14～15回 テーマ設定

要約の内容をもとに、卒論につながるテーマを設定する。

2022年度 前期

2単位

演習

竹治 康公

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

各自、卒業論文のテーマを決め輪番での報告を通じて卒業論文執筆の準備をする。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての14年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

DP(学位授与方針)の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

また同時に、現実の企業の経営戦略やその基本における機会費用の考え方を具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての15年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

演習、の成果を踏まえて、卒業論文の執筆をスムーズに進めることができる。

< 授業の進め方 >

テキストを精読し輪番で報告する。

< 履修するにあたって >

1. 演習の諸連絡等は基本的にLineとe-mailを利用するので、Lineとe-mailを使えるようにしておくこと。
2. レポートや卒論の提出等はdotCampusを使うのでdotCampusを使えるようにしておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

各自のテーマに関する調査・研究180分/week程度

< 成績評価方法・基準 >

評価はレポート課題100%とする。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 インTRODククション

演習の進め方について議論する。

第2-6回 第1回レポート報告

受講者各自のテーマによるレポート報告を行う。

第7回 討論

第2-6回のまとめの討論を行う。

第8-12回 第2回レポート報告

卒論執筆に向けてのオリエンテーションを行う。

第13回 討論

第8-12回のまとめの討論を行う。

第14-15回 卒論に向けて

過去の卒論を参考にして卒論執筆に向けてのオリエンテーションを行う。

2022年度 前期

2単位

演習

田宮 遊子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習の履修者は、今年度のテーマ 諸外国の社会保障制度 に沿った各自の研究テーマについて、卒業論文としての完成を目指して、論文の読解、統計資料の分析、およびそれらに対する報告、討議によって掘り下げる。

この演習は、経済学部のディプロマ・ポリシーの以下と関連している。

- ・経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。
- ・経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。
- ・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

< 到達目標 >

履修者は、各自が決定した卒業論文のテーマについて、必要な資料を収集、読解し、関連する統計データを分析することを第一の目標とする。次に、卒業論文の問いと仮説をたて、卒業論文のアウトラインと研究方法を決定することを第2の目標とする。

履修者は、以下の能力を獲得することができる。

- ・各自のテーマに沿った適切な文献や資料を検索できる。
- ・学術的な文献の内容を正確に理解できる。
- ・学術的な文献に対して、批判的な思考をもって読解し、論述できる。
- ・テーマに沿ったデータの加工処理ができる。
- ・文献から理解した内容を適切に論述できる。

< 授業の進め方 >

履修者は、各自の卒業研究のテーマに従った資料収集、学術文献の読解、統計資料を用いたデータ分析、プレゼンテーション、論文の作成を行う。

なお、履修者の理解度に応じて授業計画を一部変更する場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

報告準備としての予習に2? 3時間程度の時間を要する。

< 提出課題など >

履修者は、中間報告を行い、さらに、第1次原稿を提出する。中間報告、第1次原稿にはコメントが付与される。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文中間報告の内容、卒業論文第1次原稿で評価する(100%)。

履修者は、学期末までに卒業論文のテーマ、問い、仮説、概要、章立て、先行研究の整理、研究方法について報告したうえで、卒業論文の第1次原稿を提出する。単位認定のためには、中間報告を3回以上行い、それらの報告が合格水準に達している、第1次原稿を提出し、その原稿が合格水準に達していることが必要となる。

なお、第1次原稿のなかに、文献資料その他からの剽窃、盗用があった場合には、不合格となる。

< 参考図書 >

戸田山和久『論文の教室：レポートから卒論まで 新版』2012、NHK出版

鹿島茂『勝つための論文の書き方』2003、文春新書

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

卒業論文の書き方について、過去の先輩の卒業論文から学習する。

第2回? 第5回 文献収集

各自、卒論の仮テーマに基づいて文献を収集、報告する。

第6回? 第11回 テーマ、問いと仮説

各自の卒論のテーマ、問いと仮説を設定し、報告する。

第11回 研究方法

各自の卒論の研究方法を決め、報告する。

第12?14回 論文執筆

卒業論文第1次原稿の執筆と提出

第15回 まとめ

夏季休業中の各自の卒論作成の作業スケジュールを報告

する。

2022年度 前期

2単位

演習

田口 順等

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

卒業論文の作成を通じて、資料の調査、読解、考察する能力を付け、その作成過程で持続的・計画的に作業を行える能力を身に着けることを目的とする。

これにより経済学DP「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」の(思考力・判断力・表現力等の能力)および「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」の(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)に主に対応した演習・講義となっている。

< 到達目標 >

卒論の作成作業を通じて計画的に時間を配分して作業を行うことができる(態度・習慣)

経済や社会の現象を論理的、科学的に考えることができる(態度・習慣)

経済学の知識と観光ビジネスの知識を習得し問題解決に応用できる(知識・態度)

< 授業のキーワード >

経済学、観光ビジネス、観光学、卒業論文

< 授業の進め方 >

個別に面談を行う方式と進捗状況を全体で発表する方式に分けられる。

< 履修するにあたって >

面談や指導を通じて修正や指導を行うので、指定した期日までに対応する必要がある。

卒業論文作成と就職活動と併用できるよう計画的に時間配分を行う必要がある。

剽窃・登用・コピー等不正行為が判明した場合は不可とする。引用の方法を厳格に守り、資料を読み考察を重ねて自分の能力で客観的な文章を書くことが求められます。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文作成時間に必要な時間は1年間で300時間、期間にして6か月といわれています。

集中して時間を費やすことができれば完成に近づくことができます。

< 提出課題など >

進捗状況の報告回での報告資料・予行発表の準備・PPT
・中間発表会での準備・PPT

卒業論文の執筆（提出分量の半分以上）など
<成績評価方法・基準>
面談や進捗状況での報告内容や時間・期限厳守（20%）
・予行での発表（20%）中間発表会発表（30%）卒業論文の作成（必要分量の半分、30%）で評価する。
剽窃・盗用・コピー等不正行為が判明した場合は不可とする。

<テキスト>

なし、卒論のテーマに応じて適宜指示する。

<参考図書>

なし、卒論のテーマに応じて適宜指示する。

<授業計画>

第1回～第5回 講義概要・面談

これまでの進捗状況をもとに面談を行い、次の面談までに文献の調査状況や読解状況を報告できるように指導する。

第5回～第10回 進捗状況の報告

前述の面談を踏まえて報告を行い、中間発表に向けた資料作成について指導を行う。

第11回～14回 発表の準備と予行

中間発表会の予行を行い、改善点などを参加者から意見を出し合う。

第15回 中間発表会

卒業論文の進捗状況を報告する。

2022年度 前期

2単位

演習

常廣 泰貴

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は、学部でのDPに示す、2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること、5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができること目指しています。

<主題> 卒業論文作成のための準備

<目標> 各自が卒論のテーマにしようと思う事象について、考察した文献や資料の内容などをレジュメにまとめて報告し、卒論の骨格をつくることを目標とします。

<到達目標>

卒業論文の骨格を作成すること。

<授業の進め方>

卒論テーマに関する報告および質疑・応答。

<授業時間外に必要な学修>

レジュメ作成のため概ね2時間の学修時間。

<成績評価方法・基準>

報告および質疑・応答の内容によって評価する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

ゼミの概要

第2回? 第5回 報告、質疑・応答1

卒論のテーマに関する報告および質疑・応答

第6回? 第9回 報告、質疑・応答2

前回の報告を踏まえた内容の報告および質疑・応答

第10回? 第14回 報告、質疑・応答3

これまでの報告を踏まえて、より発展した内容の報告および質疑・応答

第15回 まとめ

これまでの報告のまとめ、および質疑・応答

2022年度 前期

2単位

演習

中村 亨

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

<主題> 2年、3年時の研究成果を論文に仕上げる方法を学ぶ

<目標> 専門的な経済学学習の集大成

経済学部のDPにあるように、経済問題を総合的に分析し、より良い社会構築に貢献できるようになることを目的とする。

ホームページ

<https://ntohru.wixsite.com/mysite>

<到達目標>

2・3年次に積み上げて修得した経済実証分析の方法を踏まえ、個人で新たに卒業論文のテーマを決定し、論文を作成する為の準備（論文・資料の読み込みと執筆要領の修得）を行うことができる。

<授業のキーワード>

卒業論文、インプット、アウトプット、執筆要領、論文の価値

<授業の進め方>

対面授業で、質疑応答の形式ですすめるが、参考文献の選定や論文執筆のノウハウを指導する。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、講義の対象となる教材（新聞、課題図書、論文）の箇所を読んでおくこと。（目安として1時間）

事後学習として、卒論執筆に必要な指示・課題に取り組むこと。（目安として1時間）

<提出課題など>

毎週、卒論執筆原稿を提出し、添削・指導を受ける。

< 成績評価方法・基準 >

卒論の執筆経過内容で評価

< 参考図書 >

オンライン授業時に指示

< 授業計画 >

第1回? 第3回 卒論テーマの選定

3年次に作成した論文をベースにテーマを絞る

第4回? 第6回 参考文献の選定

前期で読むべき文献を明確にする

第7回? 第9回 論文の作法

論文を作成する際の作法の詳細を講述する

第10回? 第11回 最優秀論文の例

大学生によって書かれた優れた論文を例に論文作成状の

ポイントを講述する

第12回? 第13回 中間発表(1)

各自が取り組む卒業論文の中間発表を行う。問題点を洗い出し、論文のさらなるリファインメントを行う

第14回? 第15回 中間発表(2)

各自が取り組む卒業論文の中間発表を行う。問題点を洗い出し、論文のさらなるリファインメントを行う

2022年度 前期

2単位

演習

西山 茂

< 授業の方法 >

演習 卒業論文報告

< 授業の目的 >

卒業論文のための文献サーベイと報告。本演習の目的は、DP「4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」と関連する。

< 到達目標 >

卒業論文作成の目途が立つこと

< 授業の進め方 >

各自報告してもらう

< 履修するにあたって >

欠席可能回数6回。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文作成のための文献のサーベイをしてください。

毎日30分ほどでも、卒業論文に関連する文献を読むようにこころがける。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文報告100% 欠席可能回数6回

< 授業計画 >

第1回 卒業論文報告

卒業論文報告その1

第2回 卒業論文報告

卒業論文報告その2

第3回 卒業論文報告

卒業論文報告その3

第4回 卒業論文報告

卒業論文報告その4

第5回 卒業論文報告

卒業論文報告その5

第6回 卒業論文報告

卒業論文報告その6

第7回 卒業論文報告

卒業論文報告その7

第8回 卒業論文報告

卒業論文報告その8

第9回 卒業論文報告

卒業論文報告その9

第10回 卒業論文報告

卒業論文報告その10

第11回 卒業論文報告

卒業論文報告その11

第12回 卒業論文報告

卒業論文報告その12

第13回 卒業論文報告

卒業論文報告その13

第14回 卒業論文報告

卒業論文報告その14

第15回 卒業論文報告

卒業論文報告その15

2022年度 前期

2単位

演習

伴 ひかり

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

これまで習得してきたことを基礎として、各自関心のあるテーマを選び、研究報告を行う。

演習 の目的は、経済学部のDPに掲げる、「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できること」、「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること」、および、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができること」と関連する。具体的には、各自関心のあるテーマに沿って、研究報告を行い、レポートにまとめることができることが演習 の目的である。また、本演習は4年次前期に配当されている専門演習で「テーマを見つけ出し実践的作業を行う」段階に位置付けられている。

<到達目標>

- 1.各自選んだテーマについて、これまで修得した知識をもとに論理的な考察をすることができる（知識、技能）。
- 2.中間報告を通して、他者の意見を理解し取り入れることができる（態度・習慣）。
- 3.経済データをもとに表やグラフを適切に作成することができる（技能、知識）。
- 4.適切な形式で簡潔にレポートを作成することができる（技能、知識）。

<授業の進め方>

卒業論文につながるレポートの作成とその報告・質疑応答を中心に授業をすすめる。

<授業時間外に必要な学修>

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

<成績評価方法・基準>

報告30%、課題70%で評価する。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

ゼミの運営の確認と、各自の関心ある研究テーマの報告。

第2回 レポートの作成方法

レポート作成のポイントを修得する。

第3回 関連文献輪読1

レポートの題材になるような適当な文献を読む。

第4回 関連文献輪読2

レポートの題材になるような適当な文献を読む。

第5回 関連文献輪読3

レポートの題材になるような適当な文献を読む。

第6回 第1回中間報告1

各自の研究テーマに沿った第一回目の中間報告と質疑応答を行う。

第7回 第1回中間報告2

各自の研究テーマに沿った第一回目の中間報告と質疑応答を行う。

第8回 第1回中間報告3

各自の研究テーマに沿った第一回目の中間報告と質疑応答を行う。

第9回 参考文献の拡充1

中間報告での質疑応答に基づき参考文献を拡充し、内容を深める。

第10回 参考文献の拡充2

中間報告での質疑応答に基づき参考文献を拡充し、内容を深める。

第11回 第2回中間報告1

各自の研究テーマに沿った第2回目の中間報告と質疑応答を行う。

第12回 第2回中間報告2

各自の研究テーマに沿った第2回目の中間報告と質疑応答を行う。

第13回 第2回中間報告3

各自の研究テーマに沿った第2回目の中間報告と質疑応答を行う。

第14回 推敲

レポートの文章を推敲する。

第15回 レポート完成

レポートを完成させ提出する。

2022年度 前期

2単位

演習

林 隆一

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本講義は演習科目に属し、演習（3年生後期配当）の応用として位置づけられる。

DP（学位授与方針）の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ため、各受講生の卒業論文の構想を作成できることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、証券アナリストとして企業分析・評価を19年間経験している、「実務経験のある教員」であり、より実践的な観点から上記の内容等を指導するものである。

<到達目標>

（1）日本経済の課題（テーマ）から選んだ企業の具体的な活動を受講生同士で議論できる知識を持つことができる（知識）。

（2）企業活動を自分なりの視点で分析し、その内容をプレゼンテーションし、お互いにディスカッションできる（技能）。

（3）企業分析や発表に関して積極的な態度や興味を持ち、常に議論する態度を身に付けることができる（態度・習慣）。

<授業のキーワード>

日本経済の諸問題や産業・企業の戦略などの中から各受講生が一部を選択する（受講生ごとにテーマを選ぶ）。

<授業の進め方>

基本的には、受講生が卒業論文の構想（結論）を説明し、教員は補足や次の方向性を示唆し、必要に応じて基礎知識の講義・指導を行う。

<履修するにあたって>

・企業活動・企業評価の専門家・実務家をゲストとしてお呼びしたり、受講生の意向を考慮したりする場合、スケジュールを変更することがある。

<授業時間外に必要な学修>

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には2時間程度が必要となる。

原則として、後期の卒業論文指導受講を前提としており、

夏休み期間の学習・研究の方針も、この講義中に決定する予定である。

<成績評価方法・基準>

発表内容・提出レジュメ80%、他の学生への議論・アドバイス、運営協力など20%で評価する。

<テキスト>

必要があれば、講義中に適宜指示する。

<参考図書>

樋口 裕一（著）『小論文これだけ！書き方超基礎編』

東洋経済新報社 978-4492044971

それ以外に必要な場合は、講義中に参考書を適宜指示する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

演習の運営方法やレジュメの作成方法に関して説明し、今後の授業の内容やスケジュールを、全員で議論して決定する。それを踏まえ、以下のスケジュール等は組み替える場合がある。

第2回 卒論テーマ発表（1）

受講生が、それぞれの卒業論文のテーマを発表し、担当教員がそれに関する問題点や参考資料を提示していく。

日本経済の主要問題、個別企業や産業の動向、その他の経済問題などを想定している。

第3回 卒論テーマ発表（2）

受講生が、それぞれの卒業論文のテーマを発表し、担当教員がそれに関する問題点や参考資料を提示していく。

第4回 卒論テーマ発表（3）

受講生が、それぞれの卒業論文のテーマを発表し、担当教員がそれに関する問題点や参考資料を提示していく。

第5回 卒論テーマ発表（4）

受講生が全員のテーマを聞いた上で、テーマの方向性を再度考え、議論する。

第6回 卒論の仮説発表（1）

各受講者（個人）が、研究テーマや対象企業に対しての仮説を立て、発表し、受講生全員で共有し、議論する。

第7回 卒論の仮説発表（2）

各受講者（個人）が、研究テーマや対象企業に対しての仮説を立て、発表し、受講生全員で共有し、議論する。

第8回 卒論の仮説発表（3）

各受講者（個人）が、研究テーマや対象企業に対しての仮説を立て、発表し、受講生全員で共有し、議論する。

第9回 卒論の仮説発表（4）

各受講者（個人）が、研究テーマや対象企業に対しての仮説を立て、発表し、受講生全員で共有し、議論する。

第10回 先行事例研究発表（1）

各受講者（個人）が立てた研究テーマや対象企業に対しての先行研究や参考文献を探し、発表する。必要に応じて、参考文献や先行研究を紹介する。

第11回 先行事例研究発表（2）

各受講者（個人）が立てた研究テーマや対象企業に対し

ての先行研究や参考文献を探し、発表する。必要に応じて、参考文献や先行研究を紹介する。

第12回 先行事例研究発表（3）

各受講者（個人）が立てた研究テーマや対象企業に対しての先行研究や参考文献を探し、発表する。必要に応じて、参考文献や先行研究を紹介する。

第13回 先行事例研究発表（4）

各受講者（個人）が立てた研究テーマや対象企業に対しての先行研究や参考文献を探し、発表する。必要に応じて、参考文献や先行研究を紹介する。

第14回 質疑応答

各受講者（個人）の必要に応じて、個別の質疑応答等を行う。

第15回 今後のスケジュール確認など

これまでの進捗状況を踏まえ、夏休みの計画などを確認する。

2022年度 前期

2単位

演習

平井 健之

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

【授業の概要】

各受講者が設定した研究テーマに基づき、卒業論文の作成を指導します。

【授業の目的】

各受講者が卒業論文の執筆計画（概要、章立て、分析方法、参考文献など）に基づき論文を作成し、少なくとも全章の半分以上の原稿を完成させることを目的とします。また、学部DPに掲げられているように、論文の作成を通して、経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できること、演習での発表を通して、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目指します。

<到達目標>

財政、公共経済の分野において、より専門的な知識と理解を得ることができる。

論理的な文章を書く能力を高めることができる。

研究テーマに関する卒業論文の執筆計画の全体像を報告できる。

<授業の進め方>

各受講者に卒業論文に関する研究報告をしてもらい、卒業論文の作成に向けた指導を行います。

<履修するにあたって>

毎時間、出席することを前提とします。

< 授業時間外に必要な学修 >

論文の作成に向けての作業を受講者自身で計画的に進めること(週2時間以上)。

< 提出課題など >

学期末に、卒業論文の全章の半分程度の原稿の提出を求めます。

< 成績評価方法・基準 >

授業中の発表内容と、学期末に提出する論文の原稿に基づき評価します。学期末までには、全章の半分以上の原稿を完成させること、また卒業論文の報告については、3週間に1回のペースで行うことを単位認定の条件とします。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業論文の執筆要領と、卒業論文の作成に向けた手順について解説します。

第2回 論文の執筆計画の再検討

各受講生は、前年度末に作成した卒業論文計の執筆計画に基づいて、論文の目的、概要、章立て、分析方法、参考文献等を改めて検討します。

第3回 論文の全体像を報告

各受講生は、卒業論文の執筆計画を踏まえて、各章の具体的な内容を報告してもらいます。

第4回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第5回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第6回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第7回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第8回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第9回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第10回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第11回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第12回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第13回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第14回 論文の作成

各受講者は、あらかじめ計画した論文の章立てに基づき、第1章から執筆を開始し、その原稿の内容を報告する。

第15回 まとめ

受講者全員の論文作成の状況を確認するとともに、各受講者は夏期休暇以降の作業計画を報告します。

2022年度 前期

2単位

演習

圓生 和之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

「働くこと」をテーマとして学習し、将来の職業像の確立を目指します。

このため、これまでに学修したことを踏まえ、卒業論文の作成に向けて、研究テーマを設定し、基礎知識の習得、現状分析からさらに原因分析、解決策の検討を行います。これにより、経済学部のDPに掲げる「経済問題を総合的に分析できる知識と技能」の習得を目指します。

この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられています。

なお、この科目の担当教員は、組織の人事をはじめ二十数年に及ぶ実務経験のある教員ですので、必要に応じて日本社会における労働の実際についても解説したいと思います。

< 到達目標 >

・将来の職業観について日頃から高い関心を持って考えることができる(態度・習慣)、

・働くことについての基礎的な知識を得て、その概要を説明できる(知識)、

・卒業論文を作成するために今からすべきことを実践できる(技能)、ことを目指します。

< 授業のキーワード >

卒業論文(研究テーマの決定、基礎知識の習得、現状分析)

< 授業の進め方 >

各ゼミ生が報告し、他のゼミ生からの質疑に答えることにより学ぶゼミ形式で進めます。演習では、卒業論文の作成に向けて各自が設定した「研究テーマ」に関する「現状分析」「原因分析」「解決策の検討」について報告します。

< 履修するにあたって >

全回出席をめざせること、メールで連絡がつくことが、履修の条件です。

< 授業時間外に必要な学修 >

報告担当回は、それまでに研究してきたことを的確にまとめ、説明と質疑応答の対応ができるように学習してください。

その他の回は、適切な質問ができるように学習してください。

必要となる時間は、一律ではないものの、平均的には90分程度が目安となります。

< 提出課題など >

報告担当回は、レジュメを作成・配布してください。

作成されたレジュメについては、演習講義の中で講評と解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミにおける報告の内容、質疑応答の内容、卒業論文の作成に向けた取り組みの進捗程度で評価します。

< 参考図書 >

白井利明・高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』

ミネルヴァ書房

このほか、随時紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の進め方についての説明 / 卒業論文の作成に向けて

第2回 現状分析

研究テーマの現状分析の報告

第3回 現状分析

研究テーマの現状分析の報告

第4回 現状分析

研究テーマの現状分析の報告

第5回 原因分析(1)

研究テーマの原因分析の報告(1)

第6回 原因分析(1)

研究テーマの原因分析の報告(1)

第7回 原因分析(1)

研究テーマの原因分析の報告(1)

第8回 原因分析(2)

研究テーマの原因分析の報告(2)

第9回 原因分析(2)

研究テーマの原因分析の報告(2)

第10回 原因分析(2)

研究テーマの原因分析の報告(2)

第11回 解決策の検討

研究テーマに関する解決策の検討状況の報告

第12回 解決策の検討

研究テーマに関する解決策の検討状況の報告

第13回 解決策の検討

研究テーマに関する解決策の検討状況の報告

第14回 全体発表

全体発表

第15回 今後の展望

卒論の作成に向けた今後の方向性(講義)

2022年度 前期

2単位

演習

三宅 敦史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は演習科目に位置付けられており、これまで学習した様々な知識を用いて、各自が興味のあるテーマについて詳しく調べることを目的とする。

この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し」「自分の意見を口頭や文書によって表現」することを目的としている。

< 到達目標 >

卒業論文のテーマを見つけ、そのテーマについて詳しく分析する。

< 授業の進め方 >

各自で調べたテーマについて報告を行い、その内容について議論する。

< 授業時間外に必要な学修 >

図書館等で参考文献を調べ、参考文献を熟読すること。なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 成績評価方法・基準 >

プレゼンテーションおよび提出物(卒業論文の2章分)を総合して評価する。就職活動等で出席できない場合でも必ず事前に連絡をすること。3回以上無断欠席をした者には成績評価を行わない。

< 授業計画 >

第1回 はじめに

演習 の進め方について説明する

第2回? 第6回 レポート作成1

各自が興味を持った内容について調べる

第7回? 第8回 中間報告会

各自が興味を持った内容についてレジュメを作成し発表する

第9回? 第13回 レポート作成2

各自が興味を持った内容についてさらに詳しく調べる

第14回? 第15回 最終報告会

各自が興味を持った内容についてレジュメを作成し発表する

2022年度 前期

2単位

演習

毛利 進太郎

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部DPが示す経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献するための素養を身に付けることを目指しています。

演習では演習から卒業論文まで続く演習の一部として、情報処理技術と社会の関わりについて、これまでの演習で行ってきたことを元に、卒業論文に向けて個別に課題を決め、卒業論文作成を視野にいたした調査、研究を行います。

< 到達目標 >

自ら選択したテーマに沿って必要な知識、データを収集し論じるべき課題について理解を深め卒業論文としてまとめる準備ができる。

< 授業の進め方 >

相談しながら各自テーマを設定し、そのテーマに向けて調査、分析を行い発表してもらいます。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

講義時間中に発表を行うことと、さらにレポートを課します。随時講評をしてフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

発表とレポート(100%)で評価します。

< 授業計画 >

第1回 卒業論文ガイダンス

卒業論文を書くにあたっての1年間のスケジュールと必要な作業について説明する。

第2回 卒業論文の書き方と卒業論文のテーマ決定1

卒業論文のテーマを相談しながら、卒業論文を書き方について演習を行う。

第3回 卒業論文の書き方と卒業論文のテーマ決定2

卒業論文のテーマを相談しながら、卒業論文を書き方について演習を行う。

第4回 卒業論文の書き方と卒業論文のテーマ決定3

卒業論文のテーマを相談しながら、卒業論文を書き方について演習を行う。

第5回 卒業論文のテーマについての発表1

卒業論文のテーマについて各自発表を行う。

第6回 卒業論文のテーマについての発表2

卒業論文のテーマについて各自発表を行う。

第7回 卒業論文のテーマについての総括

これまでに発表された卒業論文に対し総括を行う。

第8回 卒業論文の中間発表1

卒業論文のテーマに沿って各自で調査を行い、発表を行う

第9回 卒業論文の中間発表2

卒業論文のテーマに沿って各自で調査を行い、発表を行う

第10回 卒業論文の中間発表3

卒業論文のテーマに沿って各自で調査を行い、発表を行う

第11回 中間発表の総括

卒業論文についての中間発表についての総括を行う。

第12回 卒業論文についての発表1

卒業論文についてこれまでに調査したことをまとめ各自発表を行う

第13回 卒業論文についての発表2

卒業論文についてこれまでに調査したことをまとめ各自発表を行う

第14回 卒業論文についての発表3

卒業論文についてこれまでに調査したことをまとめ各自発表を行う

第15回 卒業論文についての発表4

卒業論文についてこれまでに調査したことをまとめ各自発表を行う

2022年度 前期

2単位

演習

渡部 尚史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPに示す「経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」ことを目的とする。

< 到達目標 >

決算カードに関する基礎的知識を修得し、財政分析に必要な統計的な処理・分析ができる。

< 授業のキーワード >

地方公共団体の財政分析、決算カード

< 授業の進め方 >

報告を中心に進める。

< 履修するにあたって >

地方財政論の単位を修得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、把握した内容を原稿に書く(2時間)。

< 提出課題など >

財政分析の結果を提出することを求める。

< 成績評価方法・基準 >

真摯に取り組むことと欠席が2回以下であることを前提に、提出課題（卒論の第1章～第3章）の内容100%の割合で評価する。

< 授業計画 >

第1回 財政分析

財政分析の考え方と手法を理解する。

第2回 地方公共団体の基礎データ

国勢調査人口、就業者、市町村内総生産のデータを把握する。

第3回 地方公共団体の特別職、一般職員

一般職員等の数、一部事務組合の加入状況、特別職等の定数と平均給料（報酬）を把握する。

第4回 実質収支

歳入総額と歳出総額、形式収支と実質収支を把握する。

第5回 単年度収支

単年度収支と実質単年度収支を把握する。

第6回 一般財源

2019年度の主要な歳入項目、主要科目の動向、一般財源の動向を把握する。

第7回 地方税等の動向

地方税の動向、その他の収入の動向を把握する。

第8回 目的別歳出

2019年度の目的別歳出、目的別歳出の動向、一般財源等の充当状況を把握する。

第9回 性質別歳出

2019年度の性質別歳出、性質別歳出の動向、一般財源等の充当状況を把握する。

第10回 財政診断

財政診断の考え方と手法を理解する。

第11回 財政規律の堅持

財政規律の堅持：健全性、起債余力の分析手法を理解する。

第12回 高品質な財政運営

高品質な財政運営：弾力性、効率性の分析手法を理解する。

第13回 負担度合いと積立金

負担度合い（地方債現在高比率など）と積立金の分析手法を理解する。

第14回 2018年度の地方財政

『地方財政白書』から、2018年度の地方財政の状況を把握する。

第15回 財政分析のまとめ

これまでに把握したデータをもとに、財政分析の結果を報告する。

2022年度 前期

4単位

会社法

久保 成史

< 授業の方法 >

対面による講義形式。

ただし、急激な感染拡大の場合は、その都度、授業形態の変更を通知する。

警報発令時の授業（学則に従う）。

< 授業の目的 >

法と経済学は、表裏一体の関係であるとも言われる。この意味を企業に就職する学生諸君を例にすれば、この科目は、経済学部の学生にとって法的なものの考え方を理解するうえで、重要な科目であると言える。そのことは、経済学部のDPにある「経済社会への多方面な知識をもつこと」につながるものである。この一環として、この授業では、経済活動における会社の存在とその役割を会社法を通じて、活きた会社法の修得を目指す。

そのためには、詳細な条文の会釈（判例・通説）を最小限にとどめて、会社が経済社会でどのような位置づけにあり、そのために、法がどのようなルールを要求しているかを理解することである。もちろん、経済社会における法の役割は、会社法だけではなく、その他の法律も重要である。ただ、経済社会における法の役割の中、会社法は、会社の経済活動に極めて密接に関係しており、経済社会で働く者にとっては、最小限の法知識を修得しておかなければならない分野である。このことを念頭に置き、具体的な資料も参考にしながらこの授業を展開していく。

なお、近時の改正点なども、参考資料と共に説明する。

< 到達目標 >

- 1 会社法の全体像と会社法と経済社会・経済活動の関係を説明することができる。
- 2 基本的な専門用語を用いて、簡単な問題点を説明して解決することができる。
- 3 新聞等のホット話題（例：コーポレート・ガバナンス）について関心をもち、自らの考え方を示すと共に他者の見解との相違点を見出すことができる。

< 授業のキーワード >

会社法 コーポレート・ガバナンス 内部統制

< 授業の進め方 >

毎回、テキストに沿った詳細なレジュメを配布するので、ファイル等にまとめておくこと。

< 履修するにあたって >

経済・時事問題に関する新聞記事等をよく読んでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

会社法に関連する事項のうち、特に、「コーポレート・ガバナンス」について学修することが重要である。このことは、授業中においても繰り返し説明するが、特に上場会社（証券市場で株式が売買される会社）に関しては、会社法の規制だけでなく、金融商品取引法や東京証券取引所規程などもあり、会社法を更に理解する上で、極めて有用である。また、授業に関して予習・復習にそれぞれ1時間程度はかけてほしい。

なお、毎回の授業計画の箇所は、参考図書の章にほぼリンクしているため、配布するレジュメの補足部分はこの教科書を丹念に読むことである。

< 提出課題など >

別になし。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験：80%

小テスト：20%

< テキスト >

毎回、授業の際にレジュメを配付する。

< 参考図書 >

久保成史・田中裕明『会社法新講義』（2013年）中央経済社。その他、適宜、紹介する。

< 授業計画 >

第1回 会社法の意義

会社法総論（会社法と経済社会の関係）

会社法の目的と会社の種類

資本主義経済と株式会社

第2回 株式（1）

株式の内容と種類

株式、社債、種類株式、（株式と社債の類似点・相違点）

第3回 株式（2）

株式と株主

株主の権利・義務、株主平等の原則、株式譲渡自由の原則（株式上場会社の簡単な説明：詳細には、第27回で説明）

第4回 株式（3）

株式の取得・保有・処分

自己株式の意義、自己株式の取得・保有・償却、株式の消却・併合・分割

第5回 株式会社の資金調達（1）

募集株式、株主の利害調整、株式発行の瑕疵

第6回 株式会社の資金調達（2）

株式の有利発行と株主総会特別決議、現物出資

（特に、有利発行の問題点）

第7回 新株予約権とその利用形態（1）

新株予約権の意義、募集新株予約権等

第8回 新株予約権とその利用形態（2）

新株予約権証券、取得条項付新株予約権の取得・償却・消滅

（特に、新株予約権による会社支配権の争奪）

第9回 株主総会（1）

権限と義務

株主総会の意義と権限、株主提案権、議決権

第10回 株主総会（2）

議事及び決議

取締役・監査役等の説明義務、種類株主総会

第11回 会社の機関（1）

取締役・取締役会・代表取締役の責任と義務

第12回 会社の機関（2）

監査役、監査役会、会計監査人、会計参与

第13回 委員会設置会社

監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社

（監査役設置会社と委員会設置会社の相違点と現代の傾向）

第14回 株主代表訴訟

株主の監視権、株主代表訴訟と経営判断の原則

第15回 損害賠償責任

役員等の会社・第三者に対する損害賠償責任、臨時的機関である検査役の任務

第16回 会社法総則

会社法の通則、商号、使用人、事業譲渡、登記及び公告

第17回 株式会社の設立

設立手続、会社の設立無効、会社の不成立、発起人等の責任

第18回 会社の法人性等

会社の法人性・営利性・社団性

第19回 定款変更、親子会社

定款変更の効力、株式総数の増加、親子会社

（特に、子会社株主・債権者保護）

第20回 組織変更（1）

事業譲渡、吸収合併、新設合併

（特に、事業譲渡と合併の共通点・相違点）

第21回 組織再編（2）

会社分割、株式交換、株式移転

（特に、会社債権者異議手続と労働契約の特例）

第22回 組織再編（3）

特別支配株主、企業グループ、会社法と独占禁止法上の規制

（特に、合併に関する会社法上の規制と独占禁止法上の規制）

第23回 会社の計算（1）

会計帳簿、計算書類、会社帳簿の閲覧・謄写の要件

第24回 会社の計算（2）

資本金、準備金、剰余金、剰余金の配当規制

第25回 会社の解散

解散と清算、解散命令と解散判決、特別清算

（特に、事実上の倒産と法律上の清算）

第26回 会社訴訟と罰則
会社の訴訟制度、会社犯罪と罰則
第27回 会社法の周辺(1)
株式上場会社とディスクロージャー、コーポレート・ガバナンス
第28回 会社法の周辺(2)
公開買付規制とインサイダー取引規制、証券取引等監視委員会
(特に、会社法と金融商品取引法の関係)
第29回 会社法の周辺(3)
資金決済の意義、手形・小切手決済、電子決済
第30回 授業のまとめ
重要事項の整理

2022年度 前期

2単位

外書講読

玉山 初美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経済学に関する文献を英文で読むことで、学部のDPに示す、1. . .経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できることを目指しています。

< 到達目標 >

配布するプリントや参考書の内容である経済の歴史や制度を正確に理解できる

< 授業の進め方 >

テキストの指定箇所を訳してもらい、その内容について授業で講義していきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

次回の講義内容の予習(約1時間程度)

< 提出課題など >

授業内課題や小テスト(またはレポート)

< 成績評価方法・基準 >

定期テストと小テスト(またはレポート)や授業内課題で評価します。

< テキスト >

配布したプリント

< 参考図書 >

THE INSTANT ECONOMIST

< 授業計画 >

第1回 経済学とは

配布したテキストについての概要と経済学について

第2回 経済学の始まり

重商主義以前の経済学

第3回 経済学の始まり

重商主義と重農主義

第4回 古典派経済学

アダム・スミスと国富論

第5回 古典派経済学

神の見えざる手の機構(市場の力)

第6回 古典派経済学

経済成長とは

第7回 市場の力

効用の最大化

第8回 市場の力

企業の利潤最大化

第9回 市場の力

市場価格とは

第10回 市場の失敗

市場の失敗と政府

第11回 市場の失敗

外部性

第12回 市場の失敗

負の外部性への対策

第13回 市場の失敗

フリーライダーと公共財

第14回 マルサスとリカードの理論

マルサスの悲観論とリカード理論

第15回 まとめ

学習した内容の総まとめ

2022年度 前期

2単位

外書講読

沖田 陽

< 授業の方法 >

講義を中心に行ないます。

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のDPに示す、「異文化圏の人々と交流できる知識と技能を修得し、国際社会の一員という自覚をもって行動できる」ことを目指しています。

この「外書講読」では、海外メディアの話題の最新報道を用いて、生の時事英語に接する、直訳・精読ではなく大掴みでよいので内容理解ができる、つまり英語を実践的に読み、理解できるようになることを目的としています。

詳細な日本語訳を作るのではなく、すばやい内容理解ができることが最終目標です。英文報道を題材に、TOEICにも活かせるような速読リーディングを身につけられる授業内容にします。

紹介するニュースの内容が、どうしても新型コロナ中心

にはなるかと思いますが、いろいろな観点からの報道、
またリラックスできるニュースなども入れていくつもり
です。

<到達目標>

1 英語のニュースのヘッドライン（見出し）の特殊な
文法を修得し、HLの内容を即理解できる。（知識）

2 自分の得意な分野であれば、辞書を使わずに英語の
ニュースを素早く読み、内容を大雑把に理解できる。（
能力）

3 国際的に報道される経済トピックについて関心を持
ち、その内容を説明できる。（態度・習慣）

<授業のキーワード>

英文記事の読み方、英文の速読、英文記事の構成

<授業の進め方>

受講者人数によりますが、基本的には講義中心で進めま
す。ただ質問やそれに対する回答など双方向性は重視し
ます。また授業内容ですが、90分の授業で最新ニュース
を3本程度扱う予定です。

授業の進め方の詳細・具体的内容は、初回にお伝えしま
す。

<履修するにあたって>

授業内容の参考までに、昨年度授業で扱ったテーマをご
紹介します。

昨年度は、どうしても新型コロナ関連の報道が多くなっ
てしまいましたが、「フェラーリがファッション界に進
出」「少し変わったギネス記録」「コロナ下ではやった
遊び」その他海外の笑い話等、できるだけ幅広い題材を
使用しました。

<授業時間外に必要な学修>

英文報道を、見て即理解する、という感覚をつかんでほ
しい為、予習は不要です。ただ、国内外のニュースに常
に注意しておいてください。

復習として、英文全体の読み直し、わかりにくかつ
た文章を文法的に理解し直す、重要英単語・イディオ
ムの記憶、を行なってください。(60分)

<提出課題など>

・毎回、授業内容の確認をするのと今後の授業に意見を
反映するために、アンケートを実施します。

・小テストは第2～7回の内容から出題します。実施時間
15～20分程度です。試験実施後答え合わせと問題解説を
行ないます。

・期末レポートは第9～15回の内容から出題します。得
点結果を個別にお伝えし、疑問がある場合はお答えしま
す。

<成績評価方法・基準>

授業アンケート回答20%、小テスト30%、期末レポート
50%です。

<テキスト>

当方で準備・配布いたします。

<授業計画>

第1回 講義のガイダンス

講義の内容と進め方の説明を行います。また受講生の英
語到達段階を知るために小テスト(成績評価とは無関係
なので気楽に受けてください)も行ないます。

第2回 英文記事の読み方

英文記事は、見出しの作り方、文章構成等に独自のルー
ルを有しています。それを説明した上で、手早く内容を
つかむための読み方を説明します。

第3回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News(速報)等、短い英文記事を読み、英文
で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生
が身近に感じる報道を中心に扱う予定です。

第4回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News(速報)等、短い英文記事を読み、英文
で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生
が身近に感じる報道を中心に扱う予定です。

第5回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News(速報)等、短い英文記事を読み、英文
で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生
が身近に感じる報道を中心に扱う予定です。

第6回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News(速報)等、短い英文記事を読み、英文
で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生
が身近に感じる報道を中心に扱う予定です。

第7回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News(速報)等、短い英文記事を読み、英文
で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生
が身近に感じる報道を扱う予定です。

第8回 小テストの実施

第1～7回で学習した内容から出題します。実施時間は
15～20分程度のテストとなります。

第9回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News(速報)等、短い英文記事を読み、英文
で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生
にとって少し遠いかもしれない報道も扱う予定です。

第10回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News(速報)等、短い英文記事を読み、英文
で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生
にとって少し遠いかもしれない報道も扱う予定です。

第11回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4
一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感
覚を学びます。

第12回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4
一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感
覚を学びます。

第13回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感覚を学びます。

第14回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感覚を学びます。

第15回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感覚を学びます。

2022年度 前期

2単位

外書講読

和田 将幸

< 授業の方法 >

基本的に対面での講義形式で行う。授業は、英文で書かれたテキストを取り上げ、輪読する形で進める予定である。

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部DPに示す. 自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目標としている。

また、英語で書かれた経済・経営・政治分野の雑誌記事などを読むことを通じて、基本的な英文読解のスキルを身につけ、そこに書かれている様々な時事問題についても理解を深めることを目標とする。

< 到達目標 >

基礎的な英語文献の読解スキルを身につけることができる。講義で取り上げた経済・経営トピックについて理解し、それについての意見を口頭で表見できる。

< 授業の進め方 >

授業は、基本的に取りあげた英文テキストを学生に輪読してもらう形をとるが、内容についての解説も行う。

学生は、授業までに担当する部分の翻訳を行なっておくことが必須である。また、学期中に2度行われる試験の前には、十分な復習をしておくことが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

学生は、テキストの自分が担当する箇所について、授業までに目を通し、訳しておくことが必須である。また、中間課題、期末課題の前には十分な復習をしておくことが必要である。

< 提出課題など >

中間と期末の2回、課題の提出を課す予定である。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、授業中試験の形で行う中間テスト(30%)、期末テスト(30%)、その他、毎回の授業での発表内容(40%)をもとに評価する。

< テキスト >

授業で使用する文献は、授業中に適宜指示、配布する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方や評価方法について説明し、最初取りあげるテキストの内容についても解説する。

第2回 英語で読む経済(1)

日本の企業と経済について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第3回 英語で読む経済(2)

日本の企業と経済について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第4回 英語で読む経済(3)

日本的経営について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第5回 英語で読む経済(4)

日本的経営について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第6回 英語で読む経済(5)

日本的経営について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第7回 英語で読む経済(6)

現在の日本経済について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第8回 中間課題

第2回から第7回の内容から、中間課題の出題を行う。出題範囲をす簡単に復習し、dotCampusを用いて提出する。

第9回 英語で読む経済政策(1)

基礎的な金融のしくみについて書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第10回 英語で読む経済政策(2)

基礎的な金融のしくみについて書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第11回 英語で読む経済政策(3)

日本銀行の役割について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第12回 英語で読む経済政策(4)

基礎的な金融政策について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第13回 英語で読む経済政策(5)

財政の役割について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第14回 英語で読む経済政策(6)

基礎的な財政政策について書かれた英語文献を取り上げ、

輪読と解説を行う。

第15回 期末課題

9回目以降の内容を復習し、期末課題の出題を行う。

2022年度 後期

2単位

外書講読

渡部 尚史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部DPに示す「国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ことを目指す。英文理解を通じて、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につける。

< 到達目標 >

公務員試験問題を解くことができる。

< 授業のキーワード >

文章理解（英文）

< 授業の進め方 >

問題を解くことを中心に授業を進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習に2時間を費やすこと。

< 成績評価方法・基準 >

4回の試験100%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 公務員試験の英語

公務員試験の英文問題は英字新聞や雑誌の記事から出題されることを理解する。

第2回 重要英単語

テーマは実際の出来事に関することが多く、政治、国際政治、経済、環境問題などの重要英単語を押さえる。

第3回 英文読解のコツ

接続詞(特に逆説・換言)、強調表現(mustなど)など着目すべき点を理解する。

第4回 短文読解

過去問を解き、短文読解のコツを掴む。

第5回 長文読解

過去問を解き、長文理解のコツを掴む。

第6回、第7回 過去問(1)

国立大学法人等職員の過去問を解き、解法を習得する。

第8回、第9回 過去問(2)

市役所上級の過去問を解き、解法を習得する。

第10回、第11回 過去問(3)

地方上級の過去問を解き、解法を習得する。

第12回、第13回 過去問(4)

国家専門職の過去問を解き、解法を習得する。

第14回、第15回 過去問(5)

国家一般職の過去問を解き、解法を習得する。

2022年度 後期

2単位

外書講読

玉山 初美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経済学に関する文献を英文で読むことで、学部のDPに示す、1...経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できることを目指しています。

< 到達目標 >

配布するプリントや参考図書の内容である経済の歴史や制度を正確に理解できる

< 授業の進め方 >

テキストの指定箇所を訳してもらい、その内容について板書で講義していきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

次回の講義内容の予習(約1時間程度)

< 提出課題など >

授業内での質問への解答や小テスト(またはレポート)

< 成績評価方法・基準 >

定期試験と授業内課題や小テスト(またはレポート)などで評価します。

< テキスト >

配布したプリント

< 参考図書 >

THE INSTANT ECONOMIST

< 授業計画 >

第1回 経済学とは

配布したテキストについての概要と経済学について

第2回 古典派経済学とケインズ経済学

古典派経済学とケインズ経済学

第3回 ケインズ経済学

ケインズとケインズ理論

第4回 ケインズ経済学

失業と総需要政策

第5回 ケインズ経済学

国民所得決定理論

第6回 ケインズ経済学

流動性選好説

第7回 ミクロ経済学とマクロ経済学

ミクロ分析とマクロ分析

第8回 政府の役割

財政政策

第9回 政府の役割

政府の役割とは

第10回 金融市場

手っ取り早くお金持ちになる方法

第11回 金融市場

リスクと投機

第12回 景気循環について

経済指標を読む

第13回 景気循環について

経済指標からわかる問題点

第14回 景気循環について

経済問題を考える

第15回 まとめ

学習した内容の総まとめ

2022年度 後期

2単位

外書講読

沖田 陽

< 授業の方法 >

講義(対面)を中心に行います。授業で用いるテキスト等はdotCampusおよびOneDriveに公開します。

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部DPに示す、「異文化圏の人々と交流できる知識と技能を修得し、国際社会の一員という自覚をもって行動できる」ことを目指しています。

この「外書講読」では、海外メディアの報道および日本メディアの海外向け報道を用いて、生の時事英語に接する、直訳・精読ではなく大掴みでよいので内容理解ができる、という2点を目的としています。最終的には英語を実践的に読み、理解できるようになれるよう目指しています。

詳細な日本語訳を作るのではなく、すばやい内容理解ができることが最終目標です。英文報道を題材に、TOEICにも活かせるような速読リーディングを身につけられる授業内容にします。

紹介するニュースの内容が、どうしても新型コロナ中心にはなるかと思いますが、日本・外国の経済・政治・スポーツ・文化等できるだけ幅広く紹介する予定です。

< 到達目標 >

- 1 英語のニュースのヘッドライン(見出し)の特殊な文法を修得し、HLの内容を即理解できる。(知識)
- 2 自分の得意な分野であれば、辞書を使わずに英語のニュースを素早く読み、内容を大雑把に理解できる。(能力)

3 国際的に報道される経済トピックについて関心を持ち、その内容を説明できる。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

英文記事の読み方、英文の速読、英文記事の構成

< 授業の進め方 >

受講者人数により異なりますが、基本的には講義中心で進めます。ただ質問やそれに対する回答など双方向性は重視します。

授業の進め方の詳細内容は、初回にお伝えします。

< 履修するにあたって >

昨年度は、新型コロナ関連報道が多めになりましたが、それ以外にも「大谷選手MVP獲得」「ベンツの脳と連動する車」「自己複製する生きたロボット誕生」「日本の空港のちょっといい話」「世界トップの大富豪マスク氏」等、幅広いジャンルの報道を使用しました。

< 授業時間外に必要な学修 >

英文報道を、見て即理解する、という感覚をつかんでほしい為、予習は不要です。ただ、国内外のニュースに常に注意しておいてください。

復習として、英文全体の読み直し、わかりにくかった文章を文法的に理解し直す、重要英単語・イディオムの記憶、を行なってください。(60分)

< 提出課題など >

・授業理解度を確認するため、また意見をその後の授業内容に反映するため、授業後に毎回簡単なアンケートを実施します。

・中間試験は第1～7回の内容から出題します。実施時間は15～20分程度で、試験実施後に答え合わせと解説を行ないます。

・定期試験は第9～15回の内容から出題します。試験後、得点を各人にお知らせし、疑問がある場合はお答えします。

< 成績評価方法・基準 >

授業アンケート回答と授業参加度20%、中間試験30%、定期試験50%です。

< テキスト >

当方で準備・配布いたします。

< 授業計画 >

第1回 講義のガイダンス

講義の内容と進め方の説明を行います。また、どのような英文記事を授業に用いるかを紹介します。

第2回 英文記事の読み方

英文記事は、見出しの作り方、文章構成等に独自のルールを有しています。それを説明した上で、手早く内容をつかむための読み方を説明します。

第3回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News(速報)等、短い英文記事を読み、英文で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生が身近に感じる報道を中心に扱う予定です。

第4回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News (速報) 等、短い英文記事を読み、英文で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生が身近に感じる報道を中心に扱う予定です。

第5回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News (速報) 等、短い英文記事を読み、英文で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生が身近に感じる報道を中心に扱う予定です。

第6回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News (速報) 等、短い英文記事を読み、英文で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生が身近に感じる報道を中心に扱う予定です。

第7回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News (速報) 等、短い英文記事を読み、英文で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生が身近に感じる報道を中心に扱う予定です。

第8回 短い英文記事の実践的講読

第1～7回の授業内容から出題する中間試験を実施します。試験実施時間は15～20分程度で、試験後に答え合わせと解説を行いません。

第9回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News (速報) 等、短い英文記事を読み、英文で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生にとって少し遠いかもしれない報道も扱う予定です。

第10回 短い英文記事の実践的講読

Breaking News (速報) 等、短い英文記事を読み、英文で内容を理解する感覚を学びます。この回では、受講生にとって少し遠いかもしれない報道も扱う予定です。

第11回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感覚を学びます。

第12回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感覚を学びます。

第13回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感覚を学びます。

第14回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感覚を学びます。

第15回 やや長めの英文記事の実践的講読

今までの短い英文記事に加え、やや長めの英文記事(A4一枚程度)を読み、その分量を素早く内容理解できる感覚を学びます。

2022年度 後期

2単位

外書講読

和田 将幸

< 授業の方法 >

基本的に教室での対面授業で行う。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況が悪化した場合には遠隔授業で行う場合もあり得る。

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部DPに示されたように、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目標とする。

また、英語で書かれた経済・経営・政治分野の雑誌記事などを読むことを通じて、基本的な英文読解スキルを身につけることを目指す。そこに書かれている様々な時事問題についても理解を深めることが目標である。

< 到達目標 >

基礎的な英語文献の読解スキルを身につけることができる。また、講義で取り上げたテーマについて理解し、口頭で表現することができる。

< 授業の進め方 >

授業は、基本的に取りあげた英文テキストを事前に指名した学生に輪読してもらう形をとるが、内容についても解説も行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業中はテキストを輪読することになるため、30分? 1時間程度の準備が不可欠である。また、期末に課されるレポートには、作成に数時間の準備が不可欠である。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価は、授業中試験の形で行われる中間試験(30%)、期末試験(30%)の他、毎回の授業での発表内容、回数(40%)によって評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の進め方などについて説明し、最初に取り上げるテキストについて解説する。

第2回 高度成長期の日本経済(1)

日本の高度成長期について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第3回 高度成長期の日本経済(2)

日本の高度成長期について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第4回 高度成長期の日本経済(3)

日本の高度成長期について書かれた英語文献を取り上げ、

輪読と解説を行う。

第5回 オイルショックとニクソンショック

高度成長の終焉と2つの外的ショックについて書かれた文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第6回 輸出主導成長の時代(1)

1980年代の日本経済について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第7回 輸出主導成長の時代(2)

1980年代の日本経済について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第8回 中間テスト

第2回から第7回の内容から、中間テストを行う。英文読解とともに、内容についての理解度を重視する。

第9回 バブル経済の発生

1985年以降の日本とアメリカの経済について書かれた文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第10回 バブル経済の崩壊

日本のバブル経済の崩壊について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第11回 平成不況(1)

1990年代の不況について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第12回 平成不況(2)

1997年のアジア通貨危機以降の日本経済について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第13回 構造改革(1)

2000年代の日本の政治・経済について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第14回 構造改革(2)

2000年代の日本の政治・経済について書かれた英語文献を取り上げ、輪読と解説を行う。

第15回 期末試験

9回目以降の内容から、期末テストを行う。

2022年度 前期

4単位

各国経済論 A

岡部 芳彦

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は主にウクライナ事情を中心に講義します。経済学部はウクライナの4大学1研究機関と学術協定を結んでおり、今後ロシアやウクライナから教員や学生の来学が見込まれます。将来的にはロシア人やウクライナ人に

実際にあったときにすぐに深い議論ができる知識が獲得できます。前期に引き続き、ビジネスシーンでも役立つ実践的な知識を学ぶこともできます。

くわえて、ウクライナやロシアなど各国でのコミュニケーションに必要なロシア語の基礎についても学ぶことができます。

講義自体はそれほど厳しいものではありません。ただし、私語や授業妨害には対応策をとります。基本的にウクライナについて知ってもらいたいというのが授業目的ですので、興味のある方はどんどん受講してください。

なお、この科目は、学部のDPに示す「1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」ことを目指しています。

< 到達目標 >

ウクライナ、ロシア、その周辺国の政治・経済・文化の基礎知識、初歩的ロシア語知識が習得できる。

< 授業のキーワード >

ウクライナの政治・経済・文化。ロシアをはじめとする旧ソ連各国の政治・経済・文化。

< 授業の進め方 >

ウクライナの歴史、政治、経済、文化にくわえてロシアやその周辺国の歴史、政治、経済、文化について講義。必要に応じて映像資料や映画なども鑑賞します。

< 履修するにあたって >

進度によって授業内容が入れ替わることがあります。また本年度後期からウクライナ人客員教授も着任しますので、その講義と合わせた相乗効果も狙いの一つです。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習90分、復習90分を想定しています。学期中2回あるレポート作成に向けた準備として各回の授業終了後に復習する。

< 提出課題など >

レポート2回。成績評価の対象とする。学生の希望の応じてフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

レポート100%

< テキスト >

岡部芳彦『マイダン革命はなぜ起こったかーロシアとEUのはざままでー』ドニエプル出版、2015年、税別500円。

< 参考図書 >

岡部芳彦『日本・ウクライナ交流史1915 - 1937年』神戸学院大学出版会、2021年。

伊東 孝之 (編集), 中井 和夫 (編集), 井内 敏夫 (編集) 『ポーランド・ウクライナ・バルト史 (世界各国史)』山川出版社。

黒川 祐次 (著) 『物語 ウクライナの歴史ーヨーロッパ最後の大国』中公新書。

< 授業計画 >

第1～2回 ウクライナの歴史と文化1
ウクライナの文化、食事、習慣などを学ぶ。

第3～4回 ウクライナの歴史と文化2
『風の谷のナウシカ』の舞台？ウクライナ、トゥリプチャー文化、スキタイ人、キエフ・ルーシ

第4～5回 ウクライナの歴史と文化3
ヘーチマン国家、ボグダン・フメリニツキなどの人物、ペレヤスラウ協定まで学ぶ。

第6～7回 ウクライナの歴史と文化4
ウクライナ国家独立、緑ウクライナ、ホロドモール、第二次世界大戦、ステパン・バンデーラの評価などについて学ぶ

第8～9回 ウクライナの歴史と文化5
ソ連邦下のウクライナ、ウクライナ独立、オレンジ革命まで学ぶ。

第10-11回 チェルノブイリの現状
チェルノブイリ訪問について報告し、理解を深める。

第12-13回 ウクライナとロシアの関係
政治・経済・歴史から学ぶ。

第14-15回 日露新時代に向けての神戸学院大学の挑戦
神戸学院大生が変える日露の未来の可能性

第16-17回 北方領土問題1
北方領土問題について復習

第18-19回 北方領土問題2
引き続き北方領土問題について復習

第20-21回 ウクライナの経済
ウクライナの経済について学ぶ。

第22-23回 ウクライナ現代史1
2014マイダン革命について学ぶ。

第25-26回 ウクライナ現代史2
クリミア半島のロシアへの併合、ドンバス紛争について学ぶ。

第27-28回 ウクライナ現代史3
ウクライナ正教会独立問題について学ぶ。

第29-30回 ウクライナの現在
講義全体のふりかえりと理解度確認
ウクライナの最新情報、講義全体のふりかえりと試験に向けた解題

2022年度 後期

4単位

各国経済論B

中村 亨

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

< 主題 >

「グローバル化と米国経済の過去・現在・未来を知る」

現在の米国経済はかつての圧倒的な力を失い、バイデン新大統領のもと、内向き姿勢に転じている。今後の動向を理解するためにも、米国経済の過去・現在の展開を学ぶことは極めて重要である。

本講では、こういった激変する米国経済を理解するためのマクロ経済学、国際経済学、経済開発論、実証研究の最前線を紹介することが目的である。

< 目標 >

この科目は経済学部のDPにあるように、米国経済の歴史や制度にかかわる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できることを目指します。さらに、米国経済を材料にマクロ経済学の基礎を学ぶことができます。

米国経済、世界経済の現状を学ぶことができます。
最近の世界金融危機の原因を学ぶことができます。

ホームページ

<https://ntohru.wixsite.com/mysite>

< 到達目標 >

米国経済のファンダメンタルズ（基礎的条件）を把握できる。（知識）

米国経済の強み、弱点を指摘できる。（知識）

金融危機の波及経路を数式、グラフを通じてロジカルに説明できる。（知識・技能）

米国経済の史的展開から日本経済の現在・未来を推し量ることができる。（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

金融危機、グローバル化、大恐慌、FRB、対外債務

< 授業の進め方 >

毎回授業に必要な教材をあらかじめ読んだ上で参加し、受けた授業の内容は次の授業時の復習問題で確認する。数回の提出課題が与えられ、その作成の過程で授業の内容の理解をさらに深めていく。

< 履修するにあたって >

スライド、講義ノートはdotCampusに掲載される。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、授業の冒頭で行う復習問題の演習の準備し、講義の対象となる教材の箇所を読んでおくこと。（目安として1時間）

事後学習として、教材での演習問題を再確認しておくこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

・数回の課題レポートを課します。そのフィードバックとして、課題レポート提出後に、模範解答を公表し、レポートに評価を入れて返却します（PDFファイル）。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト（80%）、提出課題（20%）で評価する。

< テキスト >

使用しません。

< 参考図書 >

『アメリカ経済(上)(下)』ロバート・ゴードン著、日経BP社

『クルグマン 国際経済学 理論と政策(原著第10版)』クルグマン・オブズフェルド・メリッツ著、丸善出版

『大恐慌論』バーナンキ著、日本経済新聞出版社

< 授業計画 >

第1回 序論：大競争時代における米国経済

米国経済を学ぶ意義を講述します。

第2回 金融危機の経済学(1)

リーマンショックやユーロ危機が起こった原因を考察します。

第3回 金融危機の経済学(2)

リーマンショックやユーロ危機が起こった原因を考察します。

第4回 金融危機の経済学(3)

リーマンショックやユーロ危機が起こった原因を考察します。

第5回 国際収支の基礎(1)

米国経済のダイナミズムを理解するための分析用具である、国際収支の概念を講述します。

第6回 国際収支の基礎(2)

米国経済のダイナミズムを理解するための分析用具である、国際収支の概念を講述します。

第7回 対外不均衡の経済学(1)

金利、為替レート、予想、マネー、金融政策の関係を講述します。

第8回 対外不均衡の経済学(2)

金利、為替レート、予想、マネー、金融政策の関係を講述します。

第9回 対外不均衡の経済学(3)

金利、為替レート、予想、マネー、金融政策の関係を講述します。

第10回 対外不均衡の経済学(4)

金利、為替レート、予想、マネー、金融政策の関係を講述します。

第11回 米国金融政策の基礎：金融緩和政策のポイント(1)

米国の中央銀行FRBの金融政策を学び、昨今の金融緩和政策の本質を学ぶ。

第12回 米国金融政策の基礎：金融緩和政策のポイント(2)

米国の中央銀行FRBの金融政策を学び、昨今の金融緩和政策の本質を学ぶ。

第13回 米国金融政策の基礎：金融緩和政策のポイント(3)

米国の中央銀行FRBの金融政策を学び、昨今の金融緩和政策の本質を学ぶ。

第14回 米国金融政策の基礎：金融緩和政策のポイント

(4)

米国の中央銀行FRBの金融政策を学び、昨今の金融緩和政策の本質を学ぶ。

第15回 米国長期停滞論を学ぶ(1)

最新の米国経済研究で話題になっているのが「長期停滞論」である。どのような要因で停滞のわなにはまってしまったのかを最近の研究を援用しながら探求する。

第16回 米国長期停滞論を学ぶ(2)

最新の米国経済研究で話題になっているのが「長期停滞論」である。どのような要因で停滞のわなにはまってしまったのかを最近の研究を援用しながら探求する。

第17回 米国移民の経済学(1)

雇用不安から世界的に移民への関心が政策課題のトップにあがってきている。英国のEU離脱の背景にもなったテーマである。「移民の経済学」を米国をケーススタディーとして学ぶ。

第18回 米国移民の経済学(2)

雇用不安から世界的に移民への関心が政策課題のトップにあがってきている。英国のEU離脱の背景にもなったテーマである。「移民の経済学」を米国をケーススタディーとして学ぶ。

第19回 米国移民の経済学(3)

雇用不安から世界的に移民への関心が政策課題のトップにあがってきている。英国のEU離脱の背景にもなったテーマである。「移民の経済学」を米国をケーススタディーとして学ぶ。

第20回 米国移民の経済学(4)

雇用不安から世界的に移民への関心が政策課題のトップにあがってきている。英国のEU離脱の背景にもなったテーマである。「移民の経済学」を米国をケーススタディーとして学ぶ。

第21回 米国の貿易政策(1)

米国の自由貿易の系譜を北米自由貿易協定(NAFTA)やトランプ新大統領が否定しているTPPの問題をケーススタディーに学び、雇用・生産・賃金などにどのような影響をもつかを多くの研究成果をサーベイしながら学んでいく。

第22回 米国の貿易政策(2)

米国の自由貿易の系譜を北米自由貿易協定(NAFTA)やトランプ新大統領が否定しているTPPの問題をケーススタディーに学び、雇用・生産・賃金などにどのような影響をもつかを多くの研究成果をサーベイしながら学んでいく。

第23回 米国の貿易政策(3)

米国の自由貿易の系譜を北米自由貿易協定(NAFTA)やトランプ新大統領が否定しているTPPの問題をケーススタディーに学び、雇用・生産・賃金などにどのような影響をもつかを多くの研究成果をサーベイしながら学んでいく。

第24回 米国の貿易政策(4)

米国の自由貿易の系譜を北米自由貿易協定（NAFTA）やトランプ新大統領が否定しているTPPの問題をケーススタディーに学び、雇用・生産・賃金などにどのような影響をもつかを多くの研究成果をサーベイしながら学んでいく。

第25回 米国の対外債務（1）

世界最大の対外債務を保有する米国。世界通貨ドルの「圧倒的な特権」問題との関連で債務問題の本質を学ぶ。

第26回 米国の対外債務（2）

世界最大の対外債務を保有する米国。世界通貨ドルの「圧倒的な特権」問題との関連で債務問題の本質を学ぶ。

第27回 米国の対外債務（3）

世界最大の対外債務を保有する米国。世界通貨ドルの「圧倒的な特権」問題との関連で債務問題の本質を学ぶ。

第28回 世界恐慌論（1）

バーナンキ著『大恐慌論』を参考文献に大恐慌分析を行う。併せて資本移動の最先端の研究を紹介する。

第29回 世界恐慌論（2）

バーナンキ著『大恐慌論』を参考文献に大恐慌分析を行う。併せて資本移動の最先端の研究を紹介する。

第30回 世界恐慌論（3）

バーナンキ著『大恐慌論』を参考文献に大恐慌分析を行う。併せて資本移動の最先端の研究を紹介する。

2022年度 前期

4単位

観光ビジネス論 [生活]

田口 順等

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

観光学は様々な視点から分析・研究されている学際的な学問であるが、近年、インバウンドや観光立国など産業・経済の側面から注目されている。本講義では観光産業や観光ビジネスについて経済学や問題解決の視点から講義を行う。

本講義では、観光産業・ビジネスの基礎概念を習得し、事例をもとに問題解決能力や経済学的思考を応用して背景やビジネスの特性、成功・失敗要因などを分析・考察する。

以上の目的から経済学部DPの「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」の（知識・技能）に対応している。

< 到達目標 >

観光産業・ビジネスの知識を学び、そこから問題解決方法や経済学的思考を身に着けることができる（知識・技能）

< 授業のキーワード >

観光学・観光ビジネス・経済学

< 授業の進め方 >

知識・能力を理解・定着させるため講義内容を踏まえた課題や小レポート与える。

進捗状況によっては講義内容が前後・変更されることがある。

< 履修するにあたって >

課題や小レポートやテストは講義の知識をもとにした応用・発展問題となります。出席はもちろんのこと、講義内容を十分に理解しなければ、評価は良いものになりません。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義後の課題作成や復習・テスト勉強など講義回ごとに30分~90分の勉強時間が必要である。

< 提出課題など >

講義回ごとに適宜指示し、解説は次回の講義で解説する。

< 成績評価方法・基準 >

講義終了後の課題（約30%）・中間試験（約20%）・定期試験またはレポート（約40%）などで評価する。詳細な配分については最終回で公表する。

< テキスト >

なし。適宜資料を配布する。

< 参考図書 >

ジェイティービー能力開発（編集・発行）『観光学基礎 観光学入門のための14章』株式会社JTB総合研究所2018年

高橋和夫・大津正和・吉田順一編著『1からの観光』碩学舎2010年

高橋和夫・柏木千春編著『1からの観光事業論』碩学舎2016年

原田順子・十和田朗『観光の新しい潮流と地域』放送大学教育振興会2011年 など

< 授業計画 >

第1回第2回 講義概要

講義運営方法や観光・ツーリズムを学ぶ意義や観光の様々な効果について解説する。

第3回第4回 観光・ツーリズムの定義

観光やツーリズム、関連用語の定義について解説する

第5回第6回 観光サービスの性質・特徴

サービスおよび観光サービスについて性質や特徴を解説する

第7回第8回 観光ビジネス・観光産業・観光事業

観光産業・ビジネス・事業の違いと特性を解説する。

第9回第10回 旅行史・観光の歴史

歴史から、観光・旅行の成り立ちと今後について解説する。日本の観光史・戦後観光史・戦後の観光政策の変遷について解説する。

第11回第12回 観光対象・観光資源

観光資源・観光対象の定義や解説を行い、世界遺産の事例を紹介する。

第13回第14回 観光マーケティング

マーケティング・消費者行動の視点からデスティネーションマーケティング、観光行動について解説を行う。

第15回 これまでの振り返りと中間試験

これまでのまとめ・中間試験

第16回 様々な観光ビジネス

旅行業

第17回第18回 様々な観光ビジネス

航空業・LCC

第19回第20回 新しい観光ビジネス

産業観光

第21回第22回 様々な観光ビジネス

宿泊業・ホテル・温泉地経営について

第23回第24回 様々な観光ビジネス

テーマパーク

第25回第26回 様々な観光ビジネス

クルーズ産業

第29回第30回 新しい観光ビジネス

オーバーツーリズム

2022年度 前期

4単位

企業経済特講（企業）（再履修クラス）

関谷 次博、石本 眞八、井上 善博、岡部 芳彦、岡

本 弥、田口 順等、伴 ひかり、渡部 尚史

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

【講義の位置づけ】

本学経済学部の学生は、必要最低単位数以上を修得することに加え、卒業論文の審査あるいは、本講義の試験に合格することが、学位授与の要件である。

【主題】

本講義の目標は、経済学の基本的知識を備え、専攻コースにおける専門的知識を身につけていることを確認するものである。

【目標】

・DP（ディプロマ・ポリシー）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」ことを目標とする。

・経済学の基幹的な分野（ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済論など）に関する基礎的知識を十分に獲得していること。

・専攻コースにおける専門的知識を身につけていること。

< 到達目標 >

経済学士の学位に相応しい能力に達することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

7名の教員によるリレー講義

< 履修するにあたって >

試験の評価基準については、初回ならびに14週目の講義で説明する。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

科目ごとに、講義時間内小テストを実施し、講義内で解答を示す。

< 成績評価方法・基準 >

・テスト100%で評価する。

< 定期テストを受験するための出席条件 >

・出席日数が全講義の3分の2に満たない者は定期テストの受験を認めない。

確認テストで60点以上でも、必ず定期テストを受けなければ、評価の対象としない。

< テキスト >

テキストはとくに指定しない。

< 参考図書 >

科目ごとに適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回

(4/8) ガイダンス、ミクロ経済学（1）：需要曲線の導出

【第1～4回】担当：伴教授

・本講義のガイダンス（15分程度）

・消費者の支払許容額から需要曲線が得られることを示す。

第2回 ミクロ経済学（2）：供給曲線の導出

生産者の費用構造から供給曲線が得られることを示す。

第3回

(4/15) ミクロ経済学（3）：市場均衡と社会的総余剰

需要 = 供給となる市場均衡と消費者余剰と生産者余剰の和である社会的総余剰についてみる。

第4回 ミクロ経済学（4）：練習問題の実施と解説

練習問題の実施と解説

第5回

(4/22) マクロ経済学（1）

【第5～8回】担当：岡本准教授

GDPの基礎概念を学ぶ

第6回 マクロ経済学（2）

GDPの計算に習熟する

第7回

(4/29) マクロ経済学（3）

乗数効果の基礎概念を学ぶ

第8回 マクロ経済学（4）

乗数効果の計算に習熟する

第9回

(5/6) 日本経済論(1)

【第9～12回】担当：田口准教授

戦後日本経済の発展と変遷の概要を学ぶ。

第10回 日本経済論(2)

第9回学習の要点を確認し、理解度チェックと解説を行う。

第11回

(5/13) 日本経済論(3)

日本経済の現状と主な論点を学ぶ。

第12回 日本経済論(4)

第11回学習の要点を確認し、理解度チェックと解説を行う。

第13回

(5/20) 経済史総論(1)

【第13～16回】担当：岡部教授

フランス革命を考える。

第14回 経済史総論(2)

江戸の経済史総論

第15回

(5/27) 経済史総論(3)

ロシア経済史を学ぶ。

第16回 経済史総論(4)

戦時経済・戦後改革

第17回

(6/3) 国際経済学(1)

【第17～20回】担当：石本教授

閉鎖経済と自由貿易

第18回 国際経済学(2)

自由貿易均衡価格と貿易利益

第19回

(6/10) 国際経済学(3)

貿易政策(1) 輸入関税

第20回 国際経済学(4)

貿易政策(2) 関税同盟

第21回(6/17)

公共経済論(1) 公共財

【第21～24回】担当：渡部教授

公共財の定義、社会的需要曲線の導出を理解する。

第22回 公共経済論(2) 公共財

公共財の最適な数量の決定を理解する。

第23回(6/24) 公共経済論(3) 課税

消費課税の経済効果を納税義務者が消費者、企業の場合について理解する。

第24回 公共経済論(4) 課税

消費課税の経済効果が需要・供給の価格弾力性に依存することを理解する。

第25回

(7/1) 企業経済論(1)

【第25～28回】担当：井上教授

経営管理の基礎理論について学ぶ

第26回 企業経済論(2)

現代企業におけるリーダーシップについて学ぶ

第27回

(7/8) 企業経済論(3)

官僚制組織と組織構造の動態化について学ぶ

第28回 企業経済論(4)

組織文化と組織変革について学ぶ

第29回

(7/15) 確認テスト

学習到達度の確認テストの実施

第30回 確認テスト解説

学習到達度の確認テスト内容の解説

2022年度 後期

4単位

企業経済特講(企業)

関谷 次博、麻生 裕貴、石田 裕貴、井上 善博、岡本 弥、竹治 康公、平井 健之

<授業の方法>

講義

今後の感染状況等によっては変更の可能性があります。その場合は、シラバスを通じて連絡するので、常にシラバスの最新情報を確認するよう、お願いします。

<授業の目的>

【講義の位置づけ】

本学経済学部の学生は、必要最低単位数以上を修得することに加え、卒業論文の審査あるいは、本講義の試験に合格することが、学位授与の要件である。

【主題】

本講義の目標は、経済学の基本的知識を備え、専攻コースにおける専門的知識を身につけていることを確認するものである。

【目標】

・DP(ディプロマ・ポリシー)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」ことを目標とする。

・経済学の基幹的な分野(ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済論など)に関する基礎的知識を十分に獲得していること。

・専攻コースにおける専門的知識を身につけていること。

<到達目標>

経済学士の学位に相応しい能力に達することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

7名の教員によるリレー講義

< 履修するにあたって >

【重要】対面・遠隔授業の授業形態によらず、2日（講義4回分）につき1回のレポート（小テスト）が課せられます（計7回）。このレポート（小テスト）は、定期テストを行わない場合の成績評価になるので、毎回必ず提出（受験）して下さい。

・大学より非登学が承認されている受講生には、確認テスト、及び定期テストの代わりとなる「別途課題」を提出してもらいます。

・その他、下部の「遠隔授業情報」にある「本講義のガイダンス」の資料を確認して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

科目ごとに、講義時間内小テストを実施し、講義内で解答を示す。

< 成績評価方法・基準 >

・定期テストを行う場合、テスト100%（確認テストで60点以上でも、必ず定期テストを受けなければ、評価の対象としない）

・定期テストを行わない場合、各講義のレポート（小テスト）の評価100%

・大学より非登学が承認されている受講生に対しては、各講義のレポート（小テスト）、確認テスト、及び定期テストの代わりとなる「別途課題」の評価100%

< 定期テストを受験するための出席条件 >

・出席日数（各講義のレポート提出回数）が全講義の3分の2に満たない者は定期テストの受験を認めない。

・下部の「遠隔授業情報」にある「本講義のガイダンス」の資料も確認して下さい。

< テキスト >

テキストはとくに指定しない。

< 参考図書 >

科目ごとに適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回

(9/30) ガイダンス、ミクロ経済学（1）：需要曲線の導出

【第1～4回】担当：岡本准教授

・本講義のガイダンス（15分程度）

・消費者の支払許容額から需要曲線が得られることを示す。

第2回 ミクロ経済学（2）：供給曲線の導出

生産者の費用構造から供給曲線が得られることを示す。

第3回

(10/7) ミクロ経済学（3）：市場均衡と社会的総余剰
需要 = 供給となる市場均衡と消費者余剰と生産者余剰の和である社会的総余剰についてみる。

第4回 ミクロ経済学（4）：完全競争市場での企業行動
完全競争市場下での企業の利潤最大化行動についてみる。

第5回

(10/14) マクロ経済学（1）

【第5～8回】担当：竹治教授

GDPの基礎概念を学ぶ

第6回 マクロ経済学（2）

GDPの計算に習熟する

第7回

(10/21) マクロ経済学（3）

乗数効果の基礎概念を学ぶ

第8回 マクロ経済学（4）

乗数効果の計算に習熟する

第9回

(10/28) 日本経済論（1）

【第9～12回】担当：麻生講師

戦後日本経済の発展と変遷について学ぶ。

第10回 日本経済論（2）

日本の経済発展の要因と背景について学ぶ。

第11回

(11/11) 日本経済論（3）

日本経済の現状と今後の問題点について学ぶ。

第12回 日本経済論（4）

第9回～第11回学習の要点を確認し、理解度をチェックするための小テストと解説を行う。

第13回

(11/18) 経済史総論（1）

【第13～16回】担当：関谷教授

歴史の教訓から学ぶ「殖産興業政策」

第14回 経済史総論（2）

歴史の教訓から学ぶ「昭和恐慌」

第15回

(11/25) 経済史総論（3）

経路依存性から考える「戦時経済」

第16回 経済史総論（4）

経路依存性から考える「高度経済成長」

第17回

(12/2) 生活経済論（1）

【第17～20回】担当：石田准教授

資産運用について学ぶ

第18回 生活経済論（2）

預金について学ぶ

第19回

(12/9) 生活経済論(3)

保険について学ぶ

第20回 生活経済論(4)

投資信託について学ぶ

第21回

(12/16) 公共経済論(1):消費課税の経済効果(1)

【第21~24回】担当:平井教授

消費課税の経済効果を余剰分析に基づいて理解する。

第22回 公共経済論(2):消費課税の経済効果(2)

消費課税は誰が負担するのかを弾力性の概念を用いて理解する。

第23回

(12/23) 公共経済論(3):公共財(1)

公共財の定義について理解する。

第24回 公共経済論(4):公共財(2)

公共財の最適供給について理解する。

第25回

(1/6) 企業経済論(1)

【第25~28回】担当:井上教授

経営管理の基礎理論について学ぶ

第26回 企業経済論(2)

現代企業におけるリーダーシップについて学ぶ

第27回

(1/13) 企業経済論(3)

官僚制組織と組織構造の動態化について学ぶ

第28回 企業経済論(4)

組織文化と組織変革について学ぶ

第29回

(1/20) 確認テスト

学習到達度の確認テストの実施

第30回 確認テスト解説

学習到達度の確認テスト内容の解説

2022年度 後期

4単位

企業経済論 企業(総合)

井上 善博

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

<主題> 企業は経済環境に影響されながら、経営を続けています。一方、経済環境に対応できない企業は倒産などによって消滅してしまいます。企業が厳しい経済環境の中でいかに生き残っていこうとしているのかについて、経営学という学問領域を軸にして学んでいくことを本講義の主題とします。

<目的> 経済や経営にかかわる諸問題を分析できる知識と技能を育むことを目的とする。皆さんの多くは将来、企業で働くことになるでしょう。つまり、企業で労働するとき企業の経営の仕組みを知っておくと、とても役に立ちます。さらに、企業経営と経済変化(景気、円高、経済危機など)の関係性を学習しておくことも重要です。本講義では、企業経営の仕組みを学ぶとともに、企業経営が、経済の変動によってどのような影響を受けるのかを学ぶことを目標とします。

この科目は学部のDPで示す、

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

以上の点を目的とする。

<到達目標>

・私たちの生活を豊かにする企業の存在意義に関心を持つことができる。

・企業のあるべき姿について指摘することができる。

・ビジネスマンとして知っておくべき企業経営の仕組みを身につけることができる。

<授業のキーワード>

経営学総論・基礎経営学・経営戦略・経営管理・株式会社・自動車産業・地球環境問題

<授業の進め方>

パワーポイントを活用して、授業を進めます。毎回、授業内容を再確認する時間を作って、理解度を高めます。

<履修するにあたって>

新聞やテレビのニュースを見て、現代の企業経済を学びましょう。

<授業時間外に必要な学修>

経営学やビジネスについて関心を持ち、現代の企業経営に関する問題について考察すること。(50分)

<提出課題など>

授業毎回のレポートはありません。

<成績評価方法・基準>

中間レポート40%、期末レポート60%で評価します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

佐久間信夫『多国籍企業の理論と戦略』学文社(2016)

<授業計画>

第1回 現代企業の諸形態

日本の企業形態の種類について学びます

第2回 テイラーの科学的管理法

生産の効率化とタスク管理?ムダを徹底的に排除した生産組織

第3回 株式会社の誕生と発展

株式会社はどのようにして生まれ、株式会社は誰が支配しているのかを学びます

第4回 ホーソン実験と人間関係論
生産効率を高めるには人間関係が大事！

第5回 企業結合の諸形態
カルテル・トラスト・コンツェルンとは？

第6回 マックス・ウェーバーの官僚制組織
人間は生命のある機械なのか？

第7回 日本の会社機関と企業統治
日本の企業の健全性はどのようにして守られているのかを学びます

第8回 バーナードの近代組織論
近代組織は、大きな目標に向かって二人以上の人々が協働する組織である

第9回 アメリカの会社機関と企業統治
アメリカ最大のエネルギー卸売会社エンロンはなぜ破たんしたのか？

第10回 リーダーシップ論
部下の信頼を得るリーダーの資質とは

第11回 企業の社会的責任
企業は誰のために、何を目的として存在しているのか

第12回 モチベーション論
労働者をやる気にさせる方策は自己実現欲求を満たすこと！

第13回 企業倫理
企業不祥事の発生理由とリスクマネジメント

第14回 コミュニケーション論
企業組織でコミュニケーションをとることの重要性について

第15回 前回までのまとめ
株式会社制度やコーポレートガバナンスなど現代企業の課題について

第16回 前回までの範囲の中間確認テスト
前回までの講義内容を理解できているか、知識の定着ができていないか確認します

第17回 企業の環境経営
高度経済成長期の環境問題と現代のグローバルな環境問題との比較

第18回 事業システム戦略
範囲の経済と組織の経済を同時達成する戦略思考

第19回 社会的責任投資
社会に良いことをしている企業の株価は高くなるのか？

第20回 グローバルな視点の戦略思考
企業は何を求めて海外に進出しているのか

第21回 経営戦略論の展開
経営戦略の語源は軍隊が戦争に勝つために必要であった「将軍の術」である

第22回 経営資源を重視した戦略思考
模倣されない経営資源を生み出す組織能力

第23回 競争戦略論

企業の競争力や優位性は何によってもたらされるのか

第24回 多角化実行のためのマネジメント
様々な製品ラインナップを提供する企業の資源投入について

第25回 M & A (企業買収や企業合併) 戦略
敵対的企業買収とその防衛策について

第26回 戦略形成プロセスにおける経営管理の役割
すべての従業員が戦略作成プロセスにかかわる創発戦略について

第27回 中小企業の現状と展開
中小企業の定義と戦後中小企業の発展過程

第28回 外部資源活用の戦略
戦略的提携(ていけい)の有効性について

第29回 中小企業の情報ネットワーク
中小企業間の連携を強めて日本経済を支える情報ネットワークについて

第30回 全体のまとめ
世界で活躍する日本企業の優秀さについて、そして企業の社会性とは

2022年度 後期
2単位
基礎演習
麻生 裕貴

< 授業の方法 >
対面による演習と講義

< 授業の目的 >
この授業は、経済学部DP 「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」とDP 「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しており、それらを修得することを目標とする。

< 到達目標 >

- ・ライティングスキルとプレゼンテーションスキルを身に着ける。
- ・行動経済学の基礎を修得し、現実の社会問題について考察できるようになる。

< 授業のキーワード >
ライティングスキル、プレゼンテーションスキル、行動経済学の基礎、現代社会の課題

< 授業の進め方 >
教員がレジュメ・レポート書き方と発表の仕方について講義した後、テキストの各単元をプレゼンテーションを行なう。最終的には、各個人が研究調査と報告を行なう。報告後、グループディスカッションを行なう。

< 履修するにあたって >
講義内容の進捗状況に応じて、一部内容が変更になる場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習と復習にそれぞれ1時間30分の学習時間が必要である。

< 提出課題など >

発表者は報告資料を配布すること。

行動経済学の知識を習得するため、課題を課すことがある。

次週の講義で課題の解説と講評を行なう。

< 成績評価方法・基準 >

課題や発表などの演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

< テキスト >

初回講義時に指定する

< 参考図書 >

大竹文雄, 『行動経済学の使い方』, 岩波新書

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要と進め方、評価について説明する。

第2回 ライティングスキル

レジュメとレポートの書き方について学ぶ。

第3回 プレゼンテーションスキル

効果的なプレゼンテーションを行なう上で必要なスキルを説明する。

第4回 行動経済学の基礎知識

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第5回 ナッジとは何か

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第6回 仕事の中の行動経済学

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第7回 先延ばし行動

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第8回 社会的選好を利用する

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第9回 本当に働き方を変えるためのナッジ

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第10回 医療・健康活動への応用

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第11回 公共政策への応用

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第12回 現代社会での応用を考える

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第13回 現代社会での応用を考える

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第14回 現代社会での応用を考える

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

第15回 現代社会での応用を考える

担当者が報告をした後、グループディスカッションを行なう。

2022年度 後期

2単位

基礎演習

安達 啓介

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この授業は、学部のDPに示す、「1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」ようになること、および「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」こと、「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」こと、そして「4. 自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」を目指す。さらに、「5. 経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」能力の開発、向上を目指す。

この授業では、教養として知っておいてほしい日本と世界の政治・経済・歴史の基礎を学び、それを下敷きに、思考実験や議論を行うことでその理解を深めていく。また、自身の主張だけでなく、他者の主張・批判を踏まえたうえで、自身の考えを要約し、他者に明確に説明する訓練を行う。それを通して、経済学部のDPに示す、「国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に役立てられるような基礎力を養うことが本演習の最大の目的である。

< 到達目標 >

- ・日本と世界の政治・経済・歴史の基礎知識を習得する。
- ・自身の主張、他者の主張を要約し、レジュメ、レポートにすることができる。
- ・他者からの意見、批判を建設的に取り入れ、自身の主張を強化することができる。
- ・自己主張の訓練を通して、他者と議論することに慣れ、その不安を軽減する。

< 授業のキーワード >

社会、経済、勤労、付加価値、GDP、多数決、選挙、民主主義、個人主義、集団主義、公正、信頼、安心社会、歴史認識、公共、多様性、過疎化

< 授業の進め方 >

指定テキスト『大人のための社会科』の輪読を行う。事前に指定した受講生は、輪読内容のレジュメ（学んだ内容を簡潔に書きまとめたもの）を作成し、それを報告、議論する。そして、その内容を基礎に内容を深めていく。毎回、授業のまとめとして、自分の意見を要約し、文章にする。ただ単に演習に参加するのではなく、いかに演習での内容を自身の社会の見方と結びつけて考えることができるかが重要となる。

< 履修するにあたって >

- ・予備知識は特に必要としないが、常に社会に対するアンテナを立てておくこと。
- ・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。
- ・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。
- ・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。
- ・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、学習した内容について、プリント、ノートなどを見直して復習すること（60分程度）。

次回の学習内容に関しては、事前に下記のリンク（OneDrive）内で配布する資料を必ず確認しておくこと（30分程度）。

< 提出課題など >

授業中または下記のリンクで配布する資料上で、課題内容、提出方法を告知する。

課題については、授業中に受講者全体に対してフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

輪読での報告、質疑応答の内容、要約課題（40%）、レポート（60%）の成績で評価する。

< テキスト >

井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作『大人のための社会科 未来を語るために』有斐閣、2017年、定価1,500円

< 参考図書 >

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫、1982年、定価970円

< 授業計画 >

- 第1回 レジュメ、要約とは何か
自己紹介、授業のガイダンス、レジュメ作成、要約の仕方を学ぶ。
- 第2回 GDPは社会のよさを示すか

付加価値、GDP、物価、社会福祉、経済成長について学ぶ。

第3回 勤労と国家の関係

勤労とは何か、国家、憲法、経済成長の観点から考え、議論する。

第4回 勤労と国家の関係

勤労、国家、憲法、経済成長についての考えを深める。

第5回 なぜ時代を区分するのか

時代を分けて捉えることの意味とその必要性を考える。

第6回 多数決で決めるということ

多数決とは何か、その功罪について、選挙方法を例に考え、議論する。

第7回 < 私たち > とはだれか

日本における個人主義、民主主義について考え、議論する。

第8回 前半のまとめ

第1回から第7回までの内容について振り返り、そのまとめを行う。

第9回 公正・公平・平等の違い

公正・公平・平等の違い、社会の公正性について考え、議論する。

第10回 社会に対する信頼

信頼とは何か、現代の日本社会を例に考える。

第11回 社会が求めるもの

社会的なニーズに我々はどうか応えればよいか考え、議論する。

第12回 歴史認識にどう向き合うか

過去の共有における歴史認識、アーカイブスの役割を学ぶ。

第13回 「公」と「わたし」

これからの個人と「公」のつながり方を考え、議論する。

第14回 希望のある社会とは

「まだ-ない」ものへの希望とそれを語ることの意味を考え、議論する。

第15回 後半のまとめ

第8回から14回の内容について振り返り、そのまとめを行う。

2022年度 後期

2単位

基礎演習

井上 善博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

< 主題 > 企業を取り巻く環境は複雑化しています。この複雑な環境を乗り越えた企業のみが存続を許されます。円高や世界同時不況、国際的な競争など、企業にとってのハードルは益々高くなってきています。このような状

況の中で、現代の企業をどのように捉えたらよいのでしょうか。本講義では、日本の企業を中心に、様々なハードルを乗り越えていくマネジメントの知恵、つまり経営学について学習します。

<目的> : 経済学や経営学にかかわる諸問題を分析できる知識と技能を育むこと。日本にはソニーやトヨタなどの大企業や、スーパーやコンビニなどの小売業、そして地域に根ざした中小企業など200万社を超える企業があります。これらの企業の存在意義は、資金と優秀な人材(将来の皆さん)を組み合わせ、消費者が求める魅力的な商品の創出することであるという経営学の視点を学習し、理解することを本講義の目標とします。

この科目は学部のDPで示す、

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。
2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

以上の点を目的とする。

<到達目標>

- ・ 様々な事例をもとに、経営学理論の基礎を習得できる。
- ・ 経営学の基礎理論を知り、経営について多様な視点から関心を持つことができる。
- ・ 協働して議論をすることによって、多様な考え方を社会で役立てる技能を育てることができる。

<授業のキーワード>

アップルコンピュータのiphone・トヨタのプリウス・音楽業界のビジネス研究・アニメ業界の成功事例(メディアミックス)

<授業の進め方>

最新のビジネス動向について、調査し、発表し、議論することで、経営の基本を理解する。

<履修するにあたって>

経済や企業にかかわる問題について調べてみましょう。

<授業時間外に必要な学修>

新聞や経済雑誌の記事を読み、現代企業の成功のストーリーについて理解すること。(50分)

授業時に示したキーワードの説明をできるようにすること。(50分)

<提出課題など>

なし

<成績評価方法・基準>

プレゼン資料作成50%、プレゼンテーション50%で評価します。

<テキスト>

なし

<授業計画>

第1回 企業とはどのような存在か

ヒトの結合体とおカネの結合体としての企業観

第2回 マネジメント(経営する)とはどんな行為か
厳しい環境の中で船(企業)の舵取りをすることと、従業員の能力を発揮させること

第3回 戦略って何だろう?

企業の将来あるべき姿とそこにいたるまでの変革のシナリオ

第4回 競争環境を見極める

顧客は誰か、競争相手は誰か、顧客にとって魅力的な製品は何か

第5回 競争優位とビジネスシステム

自分の会社はどのような領域で力を発揮できるのか?事業ドメインの決定

第6回 多角化と事業ポートフォリオ

自分の会社はこれからどんな事業乗り出すべきなのか-新規事業への資源配分

第7回 国際化の戦略

なぜ企業は国際化するのか?国際化の発展段階と中国やインドの追い上げ

第8回 雇用構造のマネジメント

長期雇用、年功序列など日本の雇用慣行の長所と短所

第9回 組織のマネジメント

企業は統制された人々の結合体である?従業員をやる気にさせる仕組みとは

第10回 組織構造の基本形

マトリックス組織と戦略的事業単位、社内ベンチャー?組織構造の発展経路

第11回 インセンティブシステム

ヒトは企業に何を欲するのか?金銭、権限、自己実現?

第12回 経営理念と組織文化

企業はどのような価値を生み出すために存在するのか?価値の共有が経営に与える影響

第13回 リーダーシップ

企業を成長させるリーダーシップのあり方とは

第14回 経営者の役割

総合判断者としての経営者、経営者に必要な基礎的要件

第15回 コーポレートガバナンス

企業の健全性を確保する企業の仕組み?企業不祥事を防止するには?

2022年度 後期

2単位

基礎演習

大塚 英美

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

【目的】

- ・社会的課題を解決するための視点を企業とのコラボレーションにて学修する。
- ・ロジカルに表現する力（対話力、文章力、プレゼンテーション力）を向上する。

【ディプロマポリシーとの関連】

- ・幅広い情報を活用して問題点を発見し、分析・考察することができる（思考力・判断力・表現力等の能力）。
- ・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）。
- ・主体的にグループワークに参加し、多様な意見の受容および積極的な発言を通して、協働することができる（主体性・協働）。

<到達目標>

- 消費者の視点から企業を分析する基礎理論を理解する。
- 企業情報の収集・分析・考察の方法を身につける。
- 論理的に「書く」「話す」を通じて、わかりやすいプレゼンテーションができる。
- ディスカッションを通じて、他者の考えや意図を汲み取り、適切な質問ができる。

<授業のキーワード>

社会的課題、ロジカル・ライティング、プレゼンテーション、ビブリオバトル

<授業の進め方>

- ・パワーポイントでの資料作成・プレゼンテーションの演習
- ・神戸市の企業インタビューと記事作成
- ・企業とコラボレーションする

<授業時間外に必要な学修>

大学生活や社会生活において、プレゼンテーションが求められる場面で実施。また、グループ発表の準備として、目安1時間程度必要です。

<成績評価方法・基準>

評価の目安

S評価：提出課題・演習すべてにおいて優れており、講義内の発言も建設的である。

A評価：提出課題・演習すべての要件を満たしており、本講義での学修を踏まえた上で、創意工夫が多く施されている。また、講義内の発言において、積極的である。

B評価：提出課題・演習において、すべての要件を満たしており、本講義で学修した内容を適切に活用している。また、講義内の発言やグループワークにおいて協力的である。

C評価：提出課題・演習において、すべての要件を満たしており、本講義で学修した内容を部分的に活用している。また、講義内の発言やグループワークにおいて協力的である。

<テキスト>

なし

<参考図書>

講義内で適宜紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

演習の概要と進め方、評価について

第2回 ソーシャル・スキル

対話力、メールのマナー等、基本的スキルを学修する。

第3回 レポートの書き方1

ロジカル・ライティングについて理解する。

第4回 レポートの書き方2

レポートの書き方の演習を行う。

第5回 企業研究1

業界、企業研究のための検索方法を演習によって学修する。

第6回 企業研究2

SDGsの観点から企業分析の視点を検討する。

第7回 企業研究3

企業におけるSDGsの比較分析を発表する。

第8回 社会的課題1

社会的課題の発見

第9回 社会的課題2

社会的課題の現状把握

第10回 社会的課題3

社会的課題の分析

第11回 社会的課題4

社会的課題の解決策の提案

第12回 ミニ・ビブリオバトル

プレゼンテーション

第13回 ミニ・ビブリオバトル

読書、要約、プレゼンテーション、書評作成

第14回 ミニ・ビブリオバトル

読書、要約、プレゼンテーション、書評作成

第15回 まとめ

講義の振り返りと今後の課題

2022年度 後期

2単位

基礎演習

岡部 芳彦

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

主題：一部上場企業やフランチャイズ・オーナーの研修で実際に使用されている「マネジメント・ゲーム」を使って、会社経営について学ぶことができます。一人ひとりが社長となり、会社または店舗を運営し、決算を行います。結果としてビジネスの基本となる情報をかぎられ

た時間内で処理するための能力に加えて、日常の仕事のみならず、生きてゆく上で必要なコミュニケーションができます。

目標：講師は実際に企業研修で本講義を担当していた経験から丁寧な講義・解説に努めますが、授業の大半は学生主体ですすめられるため積極的な授業参加を期待します。これらの講義内容を通じて、将来「働く」ことへの具体的なイメージや楽しさを感じ、自分の得手不得手を知ることによって、各人のキャリアプランを描く機会になり、就職活動へ踏み出す第一歩となることが目標です。

この科目は、学部のDPに示す「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ことを目指しています。

なお、この科目は、(株)眼鏡の三城のMOR(フランチャイズ)研修ならびに店長研修で担当教員が5年間にわたり指導した内容と同様です。そのためより実践的な観点から構成される授業科目となります。

<到達目標>

講義終了時点で、小型の店舗の経営できる知識とノウハウが取得できる。

<授業の進め方>

2回の講義で各期の企業経営と決算が完結する。前期のゲーム結果が次期へ引き継がれる。

<履修するにあたって>

ゲーム形式の実習ですので、ゲームに積極的に参加してください。

<授業時間外に必要な学修>

各回復習90分程度。決算の書類を宿題として完成させる。新聞の経済面、その他の経済ニュースを絶えずチェックしてください。

<提出課題など>

損益計算書を各期の決算終了後に提出する。成績評価の対象とする。

<成績評価方法・基準>

各回ゲームの成績100%。発表、発言、積極的な参加はポジティブに評価します。

<テキスト>

とくに参考書は指定しません。各回に、さらに理解を深めるための書籍があれば紹介します。

<授業計画>

第1回 第一期 経営ゲーム・決算

マネジメントゲーム ルール説明

第2回 第二期 経営ゲーム

試行錯誤の経営

第3回 第二期 決算

第二期の決算

第4回 第三期 経営ゲーム

安定下の経営

第5回 第三期 決算

第三期の決算

第6回 経営計画 株主総会

株主総会に向けた経営計画作成

第7回 第四期 経営ゲーム

計画に基づいた経営

第8回 第四期 決算

第四期の決算

第9回 講義目的の再確認

復習とゲームをする目的の確認

第10回 第五期 経営ゲーム

不況下の経営

第11回 第五期 決算

第五期の決算

第12回 第六期 経営ゲーム

景気回復

第13回 第六期 決算

第七期の決算

第14回 第七期 経営ゲーム

最終期ゲーム

第15回 第七期 決算

ふりかえりと講評

2022年度 後期

2単位

基礎演習

岡本 弥

<授業の方法>

演習

【9月20日(月)~10月2日(土)までの授業形態】

遠隔授業(リアルタイム授業)

詳細は「遠隔授業情報」を参照のこと。

【10月4日(月)以降の授業形態】

対面授業

<授業の目的>

この科目は、経済学部のDP(ディプロマポリシー:学位授与方針)の「2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」「4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとる」ことに資するものである。

この科目では、世界現代史についての理解を深めることを目的とする。高等学校の歴史の授業において、現代史のパートは大学入試が始まる直前に「駆け足で」あるい

は「申し訳程度に」行われる傾向があるが、それは非常に残念なことである。なぜなら、現在のわれわれの生活に甚大な影響を与えるとともに、社会人となるときに知らないければ大きな恥をかくといった側面も持ち合わせているからである。そのような現代史のうち、世界現代史として学ぼうというのがこの演習である。

高等学校までは、歴史は知識を覚えるだけといった「受け身」的な科目であったかもしれないが、この演習では、事項相互間に存在するとされる因果関係に注目するなど、高等学校までで学習した世界現代史の知識を整理した上で、新たな知見を見出すといった意欲的な目標をもちたい。

なお、この授業の担当者は、金融機関にて約6年間にわたって融資渉外経験に従事した実務経験を有しており、そこから得た知見や経験に基づき、実践的な見地、とりわけ金融（お金の流れ）という観点に注目しながら世界史の流れを解説することをひとつの狙いとする。

<到達目標>

到達目標として下記の2つを掲げたい。

世界現代史に関する深い知識を身につけることができる

の知識を組み合わせ、部分的なものであっても、世界現代史の時系列および空間的な広がりを見分なりにイメージできる（別の言い方をすれば、「時代と地域が異なる出来事がどのような関連をもつかが想像できるようになる」ということになる）

<授業のキーワード>

各国現代史

<授業の進め方>

毎回、報告当番となったものが担当パートのレジュメを作成してプレゼンテーションを行い、それに対して担当者が適宜コメントを行う。そののち、報告者とそれ以外の者でテーマについてディスカッションを行う。

<履修するにあたって>

「現代」に時代を限定しても、知っておかなければならない事柄は極めて多岐にわたる。先に述べたように、この演習では、世界現代史上の事柄が相互のどのようなつながりをもつのかを理解することを主眼としているため、世界現代史に関する最低限の知識、あるいはそれがなくても興味を持ち合わせていることが履修の前提となる。

<授業時間外に必要な学修>

全員が議論に参加できるようにするため、次回の報告担当者の報告予定パートを1時間以上かけて読み、意味のある質問を思いつくだけ準備してほしい。

<成績評価方法・基準>

下記の基準に基づいて成績評価を行う。

報告内容(70%)

質問やディスカッションでの意見表明など、報告以外での授業への貢献(30%)

【特に重要である点】特別の理由もなく3回以上欠席し

た場合、単位は取得できない。

<テキスト>

下記の の各章の内容についてレジュメを作成し報告を行う。 は授業において、報告に関連する重要な事件や年号などの歴史的事項を確認するために用いる。

池上彰(2007)『そうだったのか!現代史』集英社文庫

木村靖二・佐藤次高・岸本美緒(2013)『詳説世界史B』山川出版社

はわざわざ購入する必要はない。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

受講の上での注意点などの説明を行う。

第2回 第1章 冷戦が終わって起きた「湾岸戦争」

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第3回 第2章 冷戦が始まった

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第4回 第3章 ドイツが東西に分割された

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第5回 第4回 ソ連国内で信じられないことがスターリン批判

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第6回 中国と台湾はなぜ対立する?

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第7回 同じ民族が殺し合った 朝鮮戦争

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第8回 イスラエルが生まれ、戦争が始まった

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第9回 世界は核戦争の縁に立った キューバ危機

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第10回 「文化大革命」という壮大な権力闘争

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第11回 アジアの泥沼 ベトナム戦争

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第12回 ポル・ポトという悪夢

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第13回 「ソ連」という国がなくなった

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第14回 「電波」が国境を越えた！ 「ベルリンの壁」崩壊

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

第15回 天安門広場が血に染まった

報告担当者が主題に関するプレゼンテーションを実施する。

2022年度 後期

2単位

基礎演習

幸田 功

< 授業の方法 >

演習と講義

< 授業の目的 >

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。法学も経済学と同じく社会現象を扱います。法学の基礎や主要な法律の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

法学の基礎の要点を習得し、大学生が学ぶ法律科目のうち、特に、公務員試験で出題される憲法、民法などを中心に、各法律科目の概要を理解することと同時に、公務員試験の特徴を確認することを目的とします。

法学に関係する時事ニュースを理解することができます。この授業を通じて、条文に慣れることができます。

< 到達目標 >

法学の基礎、憲法、民法などの概要について説明できる。各科目の発展的な学習に取り組むことができる。

法学に関係する時事問題に関心を持ち、知識を広げることができる。

難解そうな条文を読むのに抵抗感がなくなる。

< 授業のキーワード >

法学の基礎、主要な法律の概要、条文の読み方

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、発問に答えてもらったりもします。

法学に関係する時事ニュースがあれば優先的に取り上げます。

必要に応じて公務員試験で過去に出題された問題を解きます。

経済学部の行事などにより、授業の予定が変更することがあります。

< 履修するにあたって >

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習として、授業で扱った内容の確認(60分)。

参考書も必要に応じて読むようにしてください。

< 提出課題など >

理解度を確認するため、毎回、小レポートの提出を求めます。提出された小レポートに対しては、原則として次の回に口頭またはメールによりコメントを伝えます。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法：毎回の小レポート45%、演習への貢献度25%、提出課題30%。

出題形式と評価基準：レポートは提出された内容により理解度を評価します。演習への貢献度は、発問に対する回答の回数及び内容で評価します。提出課題はあらかじめ指定した課題について、内容面、形式面(提出期限を守ったかどうかも含む)で評価します。

正当な理由のない欠席または5分以上の遅刻が合計5回を超えた場合は成績評価と対象となりません。

< テキスト >

資料を配布します。

< 参考図書 >

吉岡友治『2023年度版 地方上級・国家一般職[大卒]・市役所上・中級 論文試験 頻出テーマのまとめ方』

実務教育出版 1,540円

道垣内弘人「プレップ 法学を学ぶ前に〔第2版〕」(弘文堂、2017年)1,100円

その他は授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。

公務員試験、国家試験、検定試験で出題される法律科目の説明。

第2回 法学入門 法の分類

公法と私法と社会法、一般法と特別法、実体法と手続法、民事法と刑事法など。

第3回 法学入門 法の解釈、法の適用

文理解釈、目的論的解釈、類推解釈、反対解釈など。裁判所の種類、民事事件と刑事事件など。

第4回 憲法の概要

憲法の全体構造(立憲主義、権力分立、個人の尊厳など)

第5回 憲法の概要

基本的人権(信教の自由、表現の自由、職業選択の自由など)1

第6回 憲法の概要

基本的人権(信教の自由、表現の自由、職業選択の自由など)2

第7回 憲法の概要

統治機構(国会、内閣、裁判所、財政、地方自治など)1

第8回 憲法の概要

統治機構(国会、内閣、裁判所、財政、地方自治など)2

第9回 第1回? 第8回までのまとめ
第1回? 第8回までに扱った内容の復習とまとめを行います。

第10回 民法の概要
債権者平等の原則、抵当権など。

第11回 民法の概要
保証債務、検索の抗弁、催告の抗弁、分別の利益など。

第12回 民法の概要
親族の範囲、婚姻、離婚、相続など。

第13回 その他の法律
行政法、労働法などの概要や時事的な法律問題を取り上げます。

第14回 その他の法律
行政法、労働法などの概要や時事的な法律問題を取り上げます。

第15回 基礎演習のまとめ
基礎演習のまとめと今後の学習について。

2022年度 後期

2単位
基礎演習
木暮 衣里

< 授業の方法 >
演習

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）の本科目の取扱いについて
授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >
< 目的 >

持続可能な社会や環境問題への対応、新型コロナ、人口減少や少子高齢化等、大きな変革期にある現代においては、社会や人々の隠れた課題・ニーズを発見し、解決のための具体策を立案し、周囲とも協力してそれを実現するという、3つの力が求められます。
このゼミではマーケティング理論に基づき、演習で実施する様々な活動を通じて上記の力を総合的に養うことを目的とします。

< DPとの関連 >

・専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている（知識・技能）
・幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それ

を解決する方策を導くことができる（思考力・判断力・表現力等の能力）

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）

なお、この授業の担当者は中小企業診断士の資格を持ち、企業や自治体に対する抱負な支援経験を持つ教員であるため、より実践的な観点からも解説を行います。

< 到達目標 >

・マーケティングの最も核となる事項を理解して活用することができる

・課題解決のための具体策を、単独であるいは協働で立案することができる

・自分の考えをまとめ、プレゼンテーションすることができる

< 授業のキーワード >

課題解決、コミュニケーション、ビジネスプラン

< 授業の進め方 >

パワーポイントによる講義、グループワーク、発表・ディスカッションを行います。

< 履修するにあたって >

下記の活動を行います。

大丸神戸店と大学との連携事業のひとつとして2019年度よりスタートした、『もとまち こどもマルシェ』にもゼミとして取り組む予定です。マーケティングの手法を用いて「自然に売れる仕組み」を考え、こどもたちと一緒に活動します。（10月）

神戸市の「『こうべ男女いきいき事業所』大学生による情報発信」に参加し、企業へのインタビューと記事作成を行います。（10月または11月）

経済学部のゼミと合同で「ミニビプリオバトル」を行います。（12月）

それに伴い、授業計画の内容が変更になることがあります。

< 授業時間外に必要な学修 >

日頃から人々や社会のニーズ、企業の課題などについて興味を持って観察してください（2時間程度）。

< 成績評価方法・基準 >

演習で行う活動に対する積極的参画と提出物で評価します（100%）

< 参考図書 >

講義内で紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要と進め方について、ゼミ・メンバーのアイス
ブレイク

第2回 マーケティング

「自然に売れ続ける仕組み」の作り方

「価値」とは何か

第3回 マーケティング

「自然に売れ続ける仕組み」の作り方

STPを考える

第4回 マーケティング

自然に売れ続ける仕組み」の作り方

「価値」を伝達・説得する

第5回 インタビューと記事作成

対象企業の研究

第6回 インタビューと記事作成

インタビューと記事作成の技法

第7回 インタビューと記事作成

インタビューと記事作成の技法

第8回 インタビューと記事作成

インタビューと記事作成の技法

第9回 インタビューと記事作成

インタビューと記事作成の技法

第10回 中間まとめ

これまでの学修内容と活動の振り返り

第11回 ビブリオバトル

本の選択

第12回 ビブリオバトル

書評作成、プレゼンテーション

第13回 ビブリオバトル

書評作成、プレゼンテーション

第14回 ビブリオバトル

書評作成、プレゼンテーション

第15回 まとめ

全体振り返り

2022年度 後期

2単位

基礎演習

佐藤 伸明

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部でのDPに示されている「経済理論の基礎を習得」に資する科目である。

公務員試験等の就職試験で最も重要な科目である「数的推理」または「判断推理」のいくつかの領域について学習する。

< 到達目標 >

公務員試験で合格点がとれる実力を養成することができる。

難易度の高い試験を目指す人も、最初は比較的やさしい問題から練習することにより

実践力をつけることができる。

< 授業のキーワード >

判断推理 数的推理

< 授業の進め方 >

問題練習と解説を中心にすすめる。具体的なスケジュールは第1回の授業時（遠隔授業）に説明する。

< 履修するにあたって >

経済数学も履修することが望ましい。

基礎知識の獲得に重点をおくので、数学が得意な人や大学入試で数学を選択した人には退屈な授業内容になると思います。

< 授業時間外に必要な学修 >

配布プリントや指定図書を使用して各回の学習を行う。

各回1時間の予習が必要である。各回1時間以上の復習が必要である。

< 提出課題など >

数回のレポートの提出を求める。

提出課題については、授業時に、レポートを課すときに説明する。

提出されたレポートについては、採点し、コメントする。

< 成績評価方法・基準 >

提出されたレポートに基づき成績評価する。

< テキスト >

配布プリント

< 参考図書 >

TAC出版『大卒程度 警察官・消防官テキスト1 数的処理（上）』（第2版）

TAC出版『大卒程度 警察官・消防官テキスト2 数的処理（下）』（第3版）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

今後の予定と学習計画： テキスト紹介またはプリント配布

第2回 数的処理の学習方法

学習の仕方について学ぶ

第3回 判断推理領域 の学習

領域 の解説と質疑応答：課題報告

第4回 つづき

つづき

第5回 判断推理領域 の学習

領域 の解説と質疑応答：課題報告

第6回 つづき

つづき

第7回 判断推理領域 の学習

領域 の解説と質疑応答:課題報告
第8回 つづき
つづき
第9回 数的推理領域 の学習
領域 の解説と質疑応答 課題報告
第10回 つづき
つづき
第11回 数的推理領域 の学習
領域 の解説と質疑応答 課題報告
第12回 つづき
つづき
第13回 数的推理領域 の学習
領域 の解説と質疑応答 課題報告
第14回 つづき
つづき
第15回 総復習
まとめ

2022年度 後期
2単位
基礎演習
関谷 次博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

経済学の勉強が机上の空論に終わらないためには、世の中の動きを多面的、かつ恒常的に見なければなりません。社会の問題を経済学という道具を使って解決できることを実感してもらいたいと思います。そのための前提として、問題発見できるよう、情報を収集する能力が必要です。問題発見能力を高めることを主たる目的としています。

本講義はDPの4「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しています。

< 到達目標 >

情報収集というとすぐにインターネットで検索することだと思われがちですが、それだけではありません。新聞、雑誌、テレビというメディアの他にも、人から話を聞いたり、図書館で調べたり、現地に行って自分の目で見るとも重要な情報収集方法です。そうした様々な情報収集を自らすすんでおこなうことができることを目標にしています。

< 授業のキーワード >

情報収集、問題発見

< 授業の進め方 >

情報収集の方法について適時レクチャーするほか、情報収集の成果について発表してもらいます。実際に情報収集活動をおこなう場合もあります。

< 履修するにあたって >

情報収集のための方法などの教示はしますが、基本的に情報収集をおこなうのは学生です。そのような活動を厭わない学生の履修を希望します。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義中に学習した成果は、授業時間外にもおこなってください。とくにレポート提出に際して、その能力を十分に発揮してください。(2時間程度)

< 成績評価方法・基準 >

各回の課題40%、期末レポート60%

< テキスト >

テキストはありません。必要な書籍は情報収集の過程で紹介することがあります。

< 授業計画 >

第1回 情報収集について

授業の目的・目標、進め方について詳細に説明します。

第2?8回 情報収集作業

テーマを設定し、それに必要な情報を収集する。

第9回 中間レポートの作成

これまで収集した情報をもとにレポートを作成する。最終的には授業時間外で作成してもらいますが、その草稿を作成する。

第10回 中間レポートの発表

中間レポートを発表してもらい、他の受講者から評価してもらいます。

第11?13回 情報収集作業

中間レポートの評価をもとに再度情報収集作業をおこないます。

第14回 期末レポートの作成

これまで収集した情報をもとに中間レポートを改定するかたちで、期末レポートを作成する。最終的には授業時間外で作成してもらいますが、その草稿を作成する。

第15回 期末レポートの発表

期末レポートを発表してもらい、他の受講者から評価してもらい、改定する。

2022年度 後期

2単位

基礎演習

竹治 康公

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

実践的なマクロ・ミクロ経済学の使い方に慣れる。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての14年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるよ

うにする実践教育から構成される授業科目である。

DP（学位授与方針）の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

また同時に、現実の企業の経営戦略やその基本における機会費用の考え方を具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての15年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

2年次にミクロ経済学、マクロ経済学にスムーズに取り組むことができる。

<授業のキーワード>

消費者行動、生産者行動、市場均衡、GDP、乗数理論、ISバランス

<授業の進め方>

輪番制によるゼミ報告 討論。

<履修するにあたって>

1. 演習の諸連絡等は基本的にLineとe-mailを利用するので、Lineとe-mailを使えるようにしておくこと。

2. レポートや卒論の提出等はdotCampusを使うのでdotCampusを使えるようにしておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

毎回のテーマの予習

180分程度の調査・研究が必要である。

<成績評価方法・基準>

演習での報告の評価80%，提出レポート20%。

<テキスト>

菅原晃著、『高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学』，河出書房新社

<参考図書>

高増明、竹治康公編『経済学者に騙されないための経済学入門』ナカニシヤ出版

その他、講義中に指示する。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

演習の進め方について解説する。

第2-3回 テキスト輪読

テキストの輪読を通して、実践的なマクロ・ミクロ経済学学習得の基礎力を作る。

第4回 討論

第2-3回のまとめの討論を行う。

第5-6回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読を通して、実践的なマクロ・ミクロ経済学学習得の基礎力を作る。

第7回 討論

第5-6回のまとめの討論を行う。

第8-9回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読を通して、実践的なマクロ・ミクロ経済学学習得の基礎力を作る。

第10回 討論

第8-9回のまとめの討論を行う。

第11-12回 テキスト輪読

引き続きテキストの輪読を通して、実践的なマクロ・ミクロ経済学学習得の基礎力を作る。

第13回 討論

第11-12回のまとめの討論を行う。

第14-15回 総括討論

全員でこれまでの総括の討論を実施する。

2022年度 後期

2単位

基礎演習

田口 順等

<授業の方法>

講義・演習

対面授業（講義）

<授業の目的>

基礎演習では経済統計・情報の収集や分析手法、問題解決能力、論理的・科学的思考方法について講義を行い、それを踏まえて演習を行う。

経済学部DPの「経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。」

「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」に対応している。

<到達目標>

論理的・科学的に考える方法を身につけることができる（知識）

経済や社会の現象を論理的、科学的に考えることができる（態度・習慣）

<授業のキーワード>

情報リテラシー、経済統計、データ分析

<授業の進め方>

各回ごとに講義 演習 解説の3段階を予定している。

必要によっては課題を行う。

進捗状況により講義内容が変更される場合がある。

<履修するにあたって>

講義の進捗状況によって一部内容が変更される場合がある。

「魚を与えるのではなく、釣り方を教えよ」ということ

わざがあります。考え方や行動の仕方を身につけることでどんな分野でも応用することができます

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の課題として30分の時間が必要である。

< 提出課題など >

原則各回ごとに課題を課す。そして回収・チェック後返却し、解説を行い、誤答や回答方法を学び理解度を高められるようにする。

< 成績評価方法・基準 >

課題・コメント・レポート等によって評価する。(100%)

< テキスト >

特に指定しない、レジュメを配布する。

< 参考図書 >

山田 剛史・林 創『学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』ミネルヴァ書房、2011年

そのほかは適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 講義概要

ガイダンス、および大学で学ぶこと

第2回 経済統計

データの調べ方

第3回 経済統計

GDP、数字の見方・読み方

第4回 経済統計

人口問題、少子高齢化問題

第5回 情報リテラシー

情報の読み方

第6回 情報リテラシー

クリティカルシンキング

第7回 情報リテラシー

メディアリテラシー

第8回 経済統計

雇用統計

第9回 情報リテラシー

統計でウソをつく方法

第10回 データ分析

平均と代表値

第11回 データ分析

平均の活用

第12回 データ分析

確率と計算

第13回 情報リテラシー

データによる裏付け

第14回 データ分析

標本調査・データを集める

第15回 データ分析

因果関係・相関関係

2022年度 後期

2単位

基礎演習

田宮 遊子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

演習の履修者は、時事的に関心の高い社会問題をテーマに、グループワークを含めた学修を行う。

この演習は、経済学部のディプロマ・ポリシーの以下と関連している。

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

< 到達目標 >

演習の履修者は、ひとつのテーマについて、様々な方法を用いて理解を深めることで、大学で学修を深めるために必要な下記に示すアカデミックスキルを身につけることができる。

・自分の興味あるテーマに沿った適切な資料を検索・収集できる。

・資料から理解した内容をわかりやすく他の受講生に対して発表できる。

・自分の意見をまとめ、グループで議論することができる。

・効果的な発表ができる。

・質問に理論的に答えることができる。

・他の人の意見を適切に理解することができる。

< 授業の進め方 >

本演習は、ゼミナール形式で行う。

< 履修するにあたって >

本演習を受講するにあたり、問題意識をもって演習に望むこと、毎回出席すること、すべての課題をこなすこと、グループワークに責任を持って参画すること、積極的に議論に参加することが必要となる。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習に1時間程度の時間を要する。

< 提出課題など >

履修者は毎回課題を提出する。提出課題は教員からのコメントや学生間での相互評価が付与される。

< 成績評価方法・基準 >

・ゼミでの報告、議論への参加、提出物で評価する。ゼミへの毎回の出席は成績評価の前提となる。

・全員提出する課題をすべて提出し、かつ、授業時間内の報告を担当することが、単位認定の最低条件となる。

< 授業計画 >

第1回 イン트로ダクション

演習の進め方について理解する。

第2回? 第4回 文献学習

文献の集め方、読み方について学習する。

第5回? 第8回 統計データ学習

統計データの読み取り方について学習する。

第9回 グループワーク 1

指定課題についてグループワークを行う。

第10回 グループワーク 2

指定課題についてグループワークを行う。

第11回 グループワーク 3

指定課題についてグループワークを行う。

第12回 グループワーク 4

指定課題についてグループワークを行う。

第13回 プレゼンテーション 1

グループごとのプレゼンテーションをおこなう。

第14回 プレゼンテーション 2

グループごとのプレゼンテーションの振り返りをおこなう。

第15回 学修のまとめ

今期のまとめをおこなう。

2022年度 後期

2単位

基礎演習

常廣 泰貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに示す、2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること、5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができることを目指しています。

< 主題 > : 経済理論の基礎

< 目標 > : ミクロ経済学やマクロ経済学などの経済理論やそれらに関連するゲーム理論的な考察方法を身につけます。同時に必要となる経済数学についても学習します。

< 到達目標 >

基礎的な経済理論の修得。

< 授業の進め方 >

課題の考察。

< 履修するにあたって >

初歩的な高校数学の知識があることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習、復習のため概ね1.5時間の学修時間。

< 成績評価方法・基準 >

課題によって評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミの概要

第2回? 第7回 課題 1

経済理論に関する課題についての考察

第8回 中間テスト

課題内容についての確認テスト

第9回? 第14回 課題 2

経済理論に関する課題についての考察

第15回 まとめ、テスト

これまでの課題内容のまとめと確認テスト

2022年度 後期

2単位

基礎演習

西山 茂

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本授業の目的は、DP「3.経済データに関する基礎知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応する。」「4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとること。」に関連する。

統計学の基礎について学ぶことを目的とする。

< 到達目標 >

統計学の基本的な知識を得ることができる。

< 授業の進め方 >

できれば報告をしてもらいたいが、必要に応じて講義もする。練習問題を解く。

< 履修するにあたって >

欠席可能回数5回。

< 授業時間外に必要な学修 >

1時間復習

< 成績評価方法・基準 >

期末レポート100%で評価する。欠席可能回数5回。

< テキスト >

稲葉三男・稲葉敏夫・稲葉和夫 著 「経済・経営 統計入門 第4版」共立出版 2100円

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の概略について説明する。

第2回 統計データの読み方と作成

統計データを読む

第3回 統計データの読み方と作成

統計データを工夫して読む

第4回 統計データの整理

統計資料の整理

第5回 統計データの整理

統計図表

第6回 統計データの特性値

代表値と散布度

第7回 統計データの特性値

相関関係

第8回 標本と確率分布

離散型確率分布

第9回 標本と確率分布

連続型確率分布

第10回 標本分布と推定

標本分布

第11回 標本分布と推定

母数推定

第12回 統計的検定

統計的検定の考え方

第13回 統計的検定

統計的検定

第14回 統計的検定

回帰分析と統計的検定

第15回 まとめ

まとめ

第16回

第17回

----- 2022年度 後期

2単位

基礎演習

林 隆一

----- < 授業の方法 >

演習

今後の授業形態は、大学・経済学部の方針に従い変更する可能性があります。

< 授業の目的 >

本講義は演習科目に属し、演習 以降の導入と位置づけられる。演習 以降の本格的なゼミ活動を具体的にイメージしながら、演習での発表などの能動的な態度を体験する。

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、企業活動の基礎知識を身につけ、レポート作成の基本を身につけることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、証券アナリストとして企業分析・評価を19年間経験し、現在は上場企業の社外取締役を兼務する「実務経験のある教員」であり、より実践的な観点から上記の内容等を解説するものである。

< 到達目標 >

(1) 企業活動の基礎知識を身につける (知識) 。

(2) レポート作成の基本を身につけ、論理的な議論ができる (技能) 。

(3) 自分の身近な事柄を、実際の企業活動に結びつけ、興味を持つことができる (態度・習慣) 。

< 授業のキーワード >

企業、日本経済、イノベーション

< 授業の進め方 >

毎回、個別の企業を取上げ、それについて学び、グループで議論の上、レポートを作成・提出する。

< 履修するにあたって >

・受講生の知識・興味に応じて、以下の授業計画・講義スケジュールを一部変更する場合があるので、(その場合は事前に講義等で告知するので) 注意しておくこと。

・希望者は「追加」で『株式ゲーム』(実際の企業のデータを分析・議論し、実際の株価に基づいて仮想所持金 (1,000万円) で株式の模擬売買を行う東京証券取引所が運営するシミュレーションゲーム) に参加することも可能である ({ 株式学習ゲームとは, https://www.ssg.net.jp/pub/03what_game.html }) 。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義で発表を行うため、講義の時間外に、その準備が必要となる。発表内容などにより、一律には言えないが、概ね1時間程度の学習が必要となる場合がある。

< 成績評価方法・基準 >

毎回のレポート80%、講義内の発表、講義の運営や参加など20%で評価する。

< テキスト >

必要があれば、講義中に参考書を適宜指示する。

< 参考図書 >

・『大学生のための証券市場と株式会社の基礎知識』(日本証券業協会/東京証券取引所) や『株式学習ゲーム売買対象企業一覧』を必要に応じて受講者に配布する。

・『ひとめでわかる産業図鑑&業界地図 改訂新版』イノウ (著) / 技術評論社 ; 改訂新版 (2021/9/18)

・『日経業界地図 2023年版』日本経済新聞社 (著) / 日本経済新聞社 ; (2022年8月発刊予定)

・『工作機械・ロボット産業のエコシステム』林隆一 (著) / 晃洋書房

・『電子部品大辞典』(脇野 喜久男 (監修)) P.60-119 林隆一 (著) / 工業調査会

・『財務分析』証券アナリスト (CMA) テキスト「財務分析 (応用) 」(林隆一・共著)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の運営方法を説明し、受講者の知識や興味を踏まえ、今後の授業の内容やスケジュールを確認する。

第2回 自己紹介・企業について

自己紹介・企業についての基本を学ぶ。

第3回 レポートの書き方

レポート作成の基本を学ぶ。

第4回 情報の集め方

「情報探索講座」所蔵図書の見つけ方と図書館データベースの使い方を学ぶ。

第5回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第6回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第7回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第8回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第9回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第10回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第11回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第12回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第13回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第14回 企業事例

日本を代表する企業の成り立ち、事業展開・戦略、経営者などを学び、レポートを作成する。

第15回 まとめ

これまでの講義内容を総括し、各受講者が統括レポートを提出する。

(株式会社学習ゲームを行う受講者がいる場合は結果報告)

2022年度 後期

2単位

基礎演習

平井 健之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

日本経済の仕組みや現状について平易に解説したテキストを輪読して、受講者が経済の常識的な理解を身につけると同時に、現実の経済問題を自分で考えるきっかけと

なることを目的とします。

また、学部DPに掲げられているように、演習での発表を通して、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目指します。

< 到達目標 >

発表のための資料を作成することができる。

口頭や文章により表現する力を高めることができる。

日本経済の諸問題について修得した知識に基づき自分なりの意見や考えを表明できる。

< 授業のキーワード >

景気、お金、金融、投資、世界経済、日本経済、政治

< 授業の進め方 >

テキストを輪読して、受講者の発表と議論に基づいて授業を進めます。発表者はテキストの内容についてパワーポイントによる報告資料を作成して発表します。その後、発表内容について受講者全員で議論します。

なお、テキストの候補として、例えば、次のような文献を考えています。

池上彰 『社会人として必要な経済と政治のことが5時間でざっと学べる』(KADOKAWA)、2018年

< 履修するにあたって >

授業中での討論への参加や発表者への質問など、授業に積極的に参加する姿勢が必要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業に参加するに当たり、あらかじめテキストを読むしておくこと(1時間)。

新聞やインターネットで関連する記事等を調べておくこと(1時間)。

< 提出課題など >

発表者は、発表内容について、報告資料をパワーポイントのファイルとして作成するとともに、その印刷物を受講者全員に配布します。なお、報告資料は成績評価の対象となります。

< 成績評価方法・基準 >

授業での議論への参加態度、授業中の発表とその作成資料等を総合して評価します。

なお、授業において、(1) 特別な事情を除いて3回以上欠席した者、(2) 無断欠席をした者、(3) 発表時において正当な理由もなく欠席した者は単位を取得できないので注意すること。

< テキスト >

後日、指示します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介

授業の内容と進め方、受講上の注意事項などの説明
報告資料の作成やプレゼンの方法についての指導

第2回 景気のしくみ

パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第3回 景気のしくみ
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第4回 お金と向き合うためのルール
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第5回 お金と向き合うためのルール
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第6回 金融の基本
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第7回 金融の基本
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第8回 投資の話
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第9回 投資の話
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第10回 世界経済の動き
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第11回 世界経済の動き
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第12回 日本経済の過去と未来
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第13回 日本経済の過去と未来
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第14回 政治の基礎知識
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論
第15回 政治の基礎知識
パワーポイントを用いた発表
発表内容について全員で議論

2022年度 後期

2単位

基礎演習

圓生 和之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

「公務員」に関心を持つ学生を主な対象として、公務員制度の基礎知識を習得することを通して、将来の職業像の確立を目指します。公務員試験対策として いま何をすべきかも考えます。

これにより、経済学部のDPに掲げる「経済問題を総合的に分析できる知識と技能」の習得を目指します。

この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられています。

なお、この科目の担当教員は、二十数年間 行政に携わっていた実務経験のある教員です。行政の現実を踏まえた議論を行いたいと思います。

< 到達目標 >

- ・ 将来の職業観について日頃から高い関心を持って考えることができる(態度・習慣)、
- ・ 公務員制度の基礎的な知識を得て、その概要を説明できる(知識)、
- ・ 卒業論文を作成するために今からすべきことを実践できる(技能)、ことを目指します。

< 授業のキーワード >

将来の職業像(キャリアビジョン)、公務員制度、公務員試験対策、業界研究

< 授業の進め方 >

基本的な事項を学習した後、テキストをゼミ形式で読んでいきます。

(テキストの分担箇所の内容を担当学生が報告し、その報告をもとに全員で議論します。)

< 履修するにあたって >

履修の条件は、次の2つです。

全回出席をめざせること

メールで連絡がつくこと(大学から付与されたメールアドレスで)

< 授業時間外に必要な学修 >

報告の担当回は、教科書の担当箇所を熟読し、説明と質疑応答の対応ができるよう学習してください。

その他の回は、教科書の該当箇所を読み、適切な質問ができるよう学習してください。

必要となる時間は、一律ではないものの、平均的には90分程度が目安となります。

< 提出課題など >

報告の担当回は、レジュメを作成・配布してください。作成されたレジュメについては、演習講義の中で講評と解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

演習における報告内容、質疑応答の内容などを総合的に評価します。試験は行いません。

< テキスト >

圓生和之(2020)『地方公務員の人事がわかる本』学陽書房

<参考図書>

日本経済新聞社(2022)『日経業界地図2023年版』日本経済新聞出版社

このほか、随時紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

演習の進め方についての説明/将来の職業像(キャリアビジョン)の展望

第2回 キャリア形成

キャリアビジョンの形成(民間の業界研究と公務員試験研究)

第3回 公務員試験

公務員試験対策(公務員試験の分析)

第4回 公務員制度

第1章 地方公務員の現状

第5回 公務員制度

第2章 多様な地方公務員

第6回 公務員制度

第3章 地方公務員の人事

第7回 公務員制度

第4章 地方公務員の人事評価

第8回 公務員制度

第5章 地方公務員の決まり

第9回 公務員制度

第6章 地方公務員の勤務条件

第10回 公務員制度

第7章 地方公務員の給与

第11回 公務員制度

マイナビ、実務教育出版のキャリアガイダンスに参加します。

第12回 公務員制度

第8章 地方公務員の労働基本権

第13回 公務員制度

終章 分権時代の地方公務員

第14回 公務員制度

これまでの演習を振り返り、地方公務員制度についての理解を確認します。

第15回 今後に向けて

公務員試験対策として、いまやるべきことを考えます。

2022年度 後期

2単位

基礎演習

毛利 進太郎

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目は経済学部のDPが求める経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理ができるための基礎的な素養を身に着けることを目指しています。

この科目では社会におけるさまざまな数値データの分析を通じて、数値データから読み取れること、さらには数値データをもとにどのように事実の検証、提示を行うかを学びます。さらに、これまで学んできた数学の応用を通じてその必要性を学びます。経済学を学ぶ上で数学は重要です。さらに就職活動や働く場においても必要になってきます。しかし数学に苦手意識を持っている人も多いと思います。そこで大学までの数学を振り返ると同時に、どのような応用があるのかを考えます。

<到達目標>

社会における事柄を数値データを基づいた視点で論じることができる。

<授業の進め方>

毎回課題をだし、議論します。

<授業時間外に必要な学修>

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

<提出課題など>

ほぼ毎回課題に取り組んでもらいます。課題については随時講評します。

<成績評価方法・基準>

提出課題によって評価します。

<テキスト>

資料は配布します。

<授業計画>

1 ガイダンスと問題演習

講義内容についてガイダンスを行い、数学の習熟度を測るために問題演習を行う

2 データの調査

実社会のデータを調査し、各自の予想と比べることで実社会の実像を把握する。

3 データの調査

実社会のデータを調査し、各自の予想と比べることで実社会の実像を把握する。

4 データの調査

実社会のデータを調査し、各自の予想と比べることで実社会の実像を把握する。

5 データの分析方法

様々なデータの分析方法を学ぶと同時に、みずからデータを分析する際に何をすればいいかを検討する。

6 データの分析方法

様々なデータの分析方法を学ぶと同時に、みずからデータを分析する際に何をすればいいかを検討する。

7 データの分析方法

様々なデータの分析方法を学ぶと同時に、みずからデー

データを分析する際に何をすればいいかを検討する。

8 データの分析方法

様々なデータの分析方法を学ぶと同時に、みずからデータを分析する際に何をすればいいかを検討する。

9 データの分析方法

様々なデータの分析方法を学ぶと同時に、みずからデータを分析する際に何をすればいいかを検討する。

10 データの分析方法

様々なデータの分析方法を学ぶと同時に、みずからデータを分析する際に何をすればいいかを検討する。

11 データの分析と発表

グループごとにテーマを設定し、実社会のデータを取り上げそれを分析する発表を行う

12 データの分析と発表

グループごとにテーマを設定し、実社会のデータを取り上げそれを分析する発表を行う

13 データの分析と発表

グループごとにテーマを設定し、実社会のデータを取り上げそれを分析する発表を行う。

14 データの分析と発表

グループごとにテーマを設定し、実社会のデータを取り上げそれを分析する発表を行う。

15 データの分析と発表

グループごとにテーマを設定し、実社会のデータを取り上げそれを分析する発表を行う。

2022年度 後期

2単位

基礎演習

渡部 尚史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPに示す「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解することができる」ことを目指す。1年次配当の演習科目に属する。公務員試験の内容を理解して、教養試験の文章理解と資料解釈の問題を解くことができるようになることが目的とする。

< 到達目標 >

公務員試験の教養試験（文章理解・資料解釈）の問題を解くことができる。

< 授業のキーワード >

公務員試験、文章理解、資料解釈

< 授業の進め方 >

過去問を解くことを中心に進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として、練習問題を解いて、復習すること（2時間）。

< 成績評価方法・基準 >

問題を解くなど真摯に取り組むことと欠席回数が2回以下であることを前提に、文章理解に関する課題（第1回、第2回）、資料解釈に関する課題で100%評価する。

< 授業計画 >

第1回 公務員試験の基礎知識

公務員試験の種類と試験科目、学習プランを理解する。

第2回 文章理解の基本

文章理解の問題形式は、内容把握、要旨把握、文章整序、空欄補充である。著者が言いたいことを文章から見つけられるかが問われる。解法のコツは強調表現を見つけることを理解する。

第3回 現代文・内容把握

内容把握の練習問題を解き、解法のルールを理解する。その後、特別区の過去問を解き、解法のコツを修得する（課題配付）。

第4回 現代文・要旨把握

要旨把握の練習問題を解き、解法のルールを理解する。その後、特別区の過去問を解き、解法のコツを修得する（課題配付）。

第5回 現代文・文章整序

文章整序の練習問題を解き、解法のルールを理解する。特別区の過去問を解き、解法のコツを修得する（課題配付）。

第6回 現代文・空欄補充

空欄補充の過去問を問き、解法のルールを理解する。その後、特別区の過去問を解き、解法のコツを修得する。

第7回 S P I 3（言語分野）

民間企業・市役所職員採用試験で用いられるS P I 3の問題を解き、解法を修得する。

第8回 市役所 B 日程

市役所 B 日程の過去問を解いて、解法を修得する。

第9回 国立大学法人等

国立大学法人等職員採用試験の過去問を解いて、解法を修得する。

第10回 文章理解（7）現代文

文章理解（現代文）の解法の修得度を確認する。

第11回 S P I（非言語分野）

S P I 3の非言語分野（計算、グラフ・領域、資料の読み取り、集合・順列・組み合わせ・確率、推論）の解法を理解する。

第12回 資料解釈（1）

資料解釈の過去問（実数、構成比、指数、増減率）を解き、解法を修得する。

第13回 資料解釈（2）

特別区の過去問を解き、解法を修得する。

第14回 資料解釈（3）

国立大学法人等職員試験の過去問を解き、解法を修得する。

第15回 まとめ

直近の過去問を解き、文章理解（現代文）と資料解釈の解法を修得する。

2022年度 前期

4単位

基礎経済学

和田 将幸

< 授業の方法 >

基本的に対面での講義形式で行う。ただし、新型コロナ感染症の状況が悪化した場合には、遠隔授業で行う場合もあり得る。

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部DPに示す経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できることを目標とする。

特に「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を理解する上で必要となる経済学の基礎について学習する。

< 到達目標 >

ミクロ経済学の基礎である需要と供給及び市場メカニズムについて理解できる。

マクロ経済学の基礎であるGDP・金融・財政の関係について理解できる。

< 授業の進め方 >

基本的に対面での講義形式で授業を行う。2時限続きのクラスであるため、2時限めにはほぼ毎回簡単な課題を課す予定である。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の講義後に課される簡単なレポートの他、中間課題、期末課題の作成にはそれぞれ数時間？数十時間が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、毎回の講義で課される簡単なレポート（40%）の他、期末試験（60%）で評価する。

< テキスト >

中村保・大内田康徳編著『経済学入門』ミネルヴァ書房、2017年

< 授業計画 >

第1回？ 第2回 経済学とは

経済学の成り立ちや経済学を学習することの意義について学習する。

第3回？ 第4回 ミクロ経済学とは

ミクロ経済学がどのような学問であるかについて学習する。

第5回？ 第6回 消費者行動と需要
需要曲線の性質について学習する。

第7回？ 第8回 生産者行動と供給
供給曲線の性質について学習する。

第9回？ 第10回 市場均衡

需要と供給とが一致する均衡概念について学習する。

第11回？ 第12回 余剰分析

需要と供給のグラフから余剰の概念について学習する。

第13回？ 第14回 現実経済への応用

現実経済の様々な出来事を分析する際に、ミクロ経済学をどのように用いるのかについて学習する。

第15回？ 第16回 中間試験と解説

前半の理解度を確認するためにテストを行う。

第17回？ 第18回 マクロ経済学とは

マクロ経済学がどのような学問であるかについて学習する。

第19回？ 第20回 国内総生産

GDPの概念と、日本のGDPがどのように推移してきたのかについて学習する。

第21回？ 第22回 物価と失業

物価と失業の概念、それらの測定方法及びこれらについて学習する。

第23回？ 第24回 金融

金融システムや金融政策について学習する。

第25回？ 第26回 財政

財政の仕組みや財政政策について学習する。

第27回？ 第28回 経済成長

経済成長の必要性や経済成長戦略について学習する。

第29回？ 第30回 まとめ

これまで学習した内容のまとめを行う。

2022年度 後期

4単位

金融経済論

石田 裕貴

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部のDPに示す「1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」、及び「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになることである

・国家資格である「2級ファイナンシャル・プランニング技能士（FP技能士）」の資格試験（学科試験＋実技試験）に合格できる実力を身に付けることを目的とする。通常、大学生がFP2級を受検するにはFP3級合格者であることが条件であり、この授業でもFP3級に合格している（自己採点での合格を含む）、あるいは少なくともFP3級合格レベルの知識を修得済みであることを前提とする。資格取得用のテキストと過去問を用いた実践的演習を通じて、資格取得を目指す

< 到達目標 >

・FP2級に合格できるような幅広い実践的知識を身に付

ける（知識）

・FP2級に合格できるような問題の解答方法や見極めなどのスキルを身に付ける（態度、技能）

< 授業の進め方 >

対面授業時は次の通り

・テキストを用いて、過去問を演習する（毎回、過去問演習などの宿題を出す）

・必要に応じて補足プリントを配布し、黒板書きで授業を進める

・テキスト、指定の過去問（ハードコピーなど）を持参しない者の受講を認めない

・授業内で、小レポートを提出してもらうことがある
遠隔授業時はOneDriveにオンデマンド教材を用意するので、速やかに受講する

< 履修するにあたって >

・日本FP協会が主催する2級FP技能検定を対象とする（きんざい主催ではないことに注意）

・毎回の授業にテキスト、過去問（授業で使用する過去問を指示するので、自分でFP協会のHPからDLし印刷しておく）、電卓を持参すること

・FP2級の受検（5月、9月、1月の年3回実施）は任意とするが、積極的な受検を希望する（ただし、合格のためには授業内外の意欲的な学習が必要である）

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前学習として、前回までの授業内容を復習し、次回の授業内容の下調べを行う（1時間）

・事後学習として、授業でよく分からなかったり、あいまいになっているところを中心に復習する（1時間）

< 提出課題など >

授業内での小レポートは、次の授業以降にその解答解説、講評を行う（OneDriveにオンデマンド教材を準備する）

< 成績評価方法・基準 >

授業内で提出してもらう小レポート（20%）、定期試験（80%）

< テキスト >

「うかる！ FP2級 王道テキスト（最新年版）」、
日本経済新聞出版社

必ず（2022-2023年版）の単行本の書籍を購入すること。他の年版の使用は認めず、電子書籍も認めない（定期試験時に持ち込めないと予想されるため）

表紙デザインが同じ「王道問題集」もあるので、購入時に間違えないように（「王道問題集」の購入は不要です）

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、FP2級学科試験の概要

授業の概要を説明し、FP2級学科試験の基本問題を演習する

第2回 FP2級実技試験の概要

FP2級実技試験の基本問題を演習する

第3・4回 1章 ライフプランニングと資金計画

1章に関わる最新の過去問を用いて演習する

第5・6回 2章 リスク管理

2章に関わる最新の過去問を用いて演習する

第7・8回 3章 金融資産運用

3章に関わる最新の過去問を用いて演習する

第9・10回 4章 タックスプランニング

4章に関わる最新の過去問を用いて演習する

第11・12回 5章 不動産

5章に関わる最新の過去問を用いて演習する

第13・14回 6章 相続・事業承継

6章に関わる最新の過去問を用いて演習する

第15・16回 過去問演習

他の過去問（学科＋実技）を演習する

第17・18回 過去問演習

他の過去問（学科＋実技）を演習する

第19・20回 過去問演習

他の過去問（学科＋実技）を演習する

第21・22回 過去問演習

他の過去問（学科＋実技）を演習する

第23・24回 過去問演習

他の過去問（学科＋実技）を演習する

第25・26回 過去問演習

他の過去問（学科＋実技）を演習する

第27・28回 過去問演習

他の過去問（学科＋実技）を演習する

第29回 まとめ

学科試験のまとめの演習に取り組む

第30回 まとめ

実技試験のまとめの演習に取り組む

2022年度 前期

4単位

金融論

石田 裕貴

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部のDPに示す「1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」、及び「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになることである

・世の中では、家計・企業・金融機関・政府などのあらゆる経済主体が多くの経済取引を行っているが、そのほとんどにお金のやり取り（金融取引）が含まれる。金融論は金融取引に関わる様々な経済現象を分析する学問で

ある。講義の前半では金融論の基本として、金融取引をスムーズに成立させるための様々な仕組みや制度（金融システム）について、そのトピックを順に説明する。後半は金融政策を扱う。金融政策とは、広い意味で（1）中央銀行が利子率や貨幣供給量などのコントロールを通じて行う経済政策、（2）政府や中央銀行などが、金融システム安定化のために実施する経済政策の二つを表す（一般的には（1）のみを指すことが多い）。この講義では、（2）の内容（プルーデンス政策）、（1）の内容（日本銀行と金融政策など）の順番で概説していく

<到達目標>

・金融に関する制度・理論・歴史について、基本的知識を身に付け、経済において金融が果たしている役割や機能を説明できる（知識）

・現実の金融や金融政策の課題について、自分なりの考察ができる（態度、技能）

<授業の進め方>

対面授業時は次の通り

・毎回、空欄のあるプリントを配布し、黒板書きで授業を進める

・毎回の授業にはそれまでの配布プリントをすべて持参すること

・授業内で、小レポートを提出してもらうことがある

・理由を問わず、プリントの再配布を行わない

遠隔授業時はOneDriveにオンデマンド教材を用意するので、速やかに受講する

<授業時間外に必要な学修>

・事前学習として、前回までの授業内容を復習し、次回の授業内容の下調べを行う（1時間）

・事後学習として、授業内容や配布プリントを参考にし、授業のポイントの自分なりの考察を深める（1時間）

<提出課題など>

授業内で小レポートを提出してもらう。次の授業以降に、その解答解説、講評を行う

<成績評価方法・基準>

授業内で提出してもらう小レポート（20%）、定期試験（80%）

<テキスト>

なし（プリントを配布する）

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 ガイダンス、金融とは

授業の概要を説明し、金融取引の特徴、金融の機能を学習する

第2回 金融とは

様々な金利の種類や概念を学習する

第3回 通貨

通貨の範囲と3つ機能（交換手段、価値尺度、価値貯蔵）を学習する

第4回 金融商品

金融商品の分類、債券の特徴を学習する

第5回 金融商品

株式と投資信託の特徴を学習する

第6回 金融商品

利回りの概念を理解し、債券の利回りを計算し、保険の特徴を学習する

第7回 金融商品

代表的な金融派生商品（デリバティブ）の特徴を学習する

第8回 金融機関

日本の金融機関を分類する

第9回 金融機関

銀行の2つの機能（資産変換と情報生産）を学習する

第10回 金融市場

日本の金融市場を分類する

第11回 金融システム

金融取引のタイプ（資金移動の形態、取引の形態）を学習する

第12回 金融システム

日本の金融システムの変遷と特徴を学習する

第13回 金融の証券化

証券化、MBSの仕組み、リーマンショックについて学習する

第14回 決済システム

決済システムの仕組みと実際を学習する

第15回 前半のまとめ

前半の講義を総括する

第16回 預金準備制度

日銀当座預金の役割と預金準備制度の概要を学習する

第17回 預金準備制度

数式展開で説明する信用創造のメカニズムを学習する

第18回 預金準備制度

ゲーム理論で説明する銀行取り付けを学習する

第19回 プルーデンス政策

プルーデンス政策の必要性とその概要を学習する

第20回 プルーデンス政策

自己資本比率規制の概要を学習する

第21回 プルーデンス政策

バーゼル のポイントを学習する

第22回 日本銀行と金融政策

日本銀行の役割と政策手段（オペ）を学習する

第23回 日本銀行と金融政策

日銀の操作目標、裁量とルールについて学習する

第24回 金融政策の有効性

IS-LMモデルにおける金融政策の有効性を学習する

第25回 金融政策の有効性

金融政策の4つの波及経路を学習する

第26回 非伝統的金融政策

伝統的金融政策と非伝統的金融政策の違いを学習する

第27回 非伝統的金融政策

IS-LMモデルにおける非伝統的金融政策の有（無）効性を学習する

第28回 非伝統的金融政策

非伝統的金融政策の政策手段と初期の政策運営を学習する

第29回 非伝統的金融政策

最近の金融政策運営を学習する

第30回 まとめ

講義全体を総括する

2022年度 後期

4単位

金融論

三宅 敦史

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

この科目は基幹科目に位置付けられており、そもそも貨幣とは何かという金融の基礎から始めて今日の金融システムが抱える課題や金融の将来像について学習する。この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる経済の歴史や制度にかかわる知識の修得を目的とした科目である。

< 到達目標 >

金融の基本だけでなく、現在世界中で起こっている金融に関する様々な諸問題について理解することができる。

< 授業のキーワード >

貨幣の機能 日本銀行 金融政策 フィンテック

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で進める。

< 履修するにあたって >

ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な知識があることを前提に講義を進めるので、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方を履修済みであることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 提出課題など >

毎回の講義で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト・中間試験・期末試験を総合して評価する。授業開始から30分以上遅刻した者には出席カードの配布は行わない。小テストの提出回数が2 / 3に満たない者及び中間試験と期末試験の両方を受験しなかった者には、

成績評価を行わない。

< テキスト >

家森信善著『ベーシック＋ 金融論 [第2版]』中央経済社、2019年

< 参考図書 >

藤原賢哉・家森信善編著「金融論入門」中央経済社、2002年

小林照義著『ベーシック＋ 金融政策』中央経済社、2015年

< 授業計画 >

第1・2回 金融論で何を学習するのか
金融とは何かについて学習する。

第3・4回 貨幣
貨幣の機能や定義について学習する。

第5・6回 金利
金利や割引現在価値の考え方について学習する。

第7・8回 債券と株式
債券や株式とは何かについて学習する。

第9・10回 金融市場
金融市場の種類やそれぞれの市場の役割について学習する。

第11・12回 金融仲介理論
経済における金融仲介機関の存在意義について学習する。

第13・14回 銀行と銀行以外の金融機関
銀行・証券会社・保険会社などの役割について学習する。

第15・16回 中間試験
前半の理解度を確認するため中間試験を行う。

第17・18回 マクロ経済と金融政策
実物経済と金融の関係について学習する。

第19・20回 中央銀行と金融政策
日本の中央銀行である日本銀行の役割について学習する。

第21・22回 日本の金融政策
金融政策の具体的な手段について学習する。

第23・24回 金融システムの安定化のための政策
日本の金融システムの問題点とその解決策について学習する。

第25・26回 Fintech
ビットコイン (bitcoin) やクラウドファンディングなど、最近の金融の世界で起きていることについて学習する。

第27・28回 金融の未来
現在の金融の問題点や今後の望ましい金融の在り方について学習する。

第29・30回 まとめ
これまでの学習の総括を行う。

2022年度 前期

4単位

経営学入門

小川 雅司

< 授業の方法 >

対面講義

(コロナウイルスの感染拡大が著しい場合、遠隔授業 [オンデマンド授業] に切り替えます)

< 授業の目的 >

私たちの生活する現代社会を分析する学問のうち、経営学は経済学と並んで重要なものです。本講義では、企業システム、経営組織、経営戦略、マーケティング、経営課題の5つの観点から、経営学の基礎について学びます。

*この科目は、学部のDPに示す「 」を目的として開講されます。

< 到達目標 >

経営学の基礎を身につけることを到達目標とします。

< 授業のキーワード >

経営、企業、戦略、管理、マーケティング

< 授業の進め方 >

担当者が解説し、その内容を受講生各自が講義資料に記入しながら講義を進めます。

< 履修するにあたって >

・講義に出席していなければできないような問題を試験に出題します。

・遅刻、私語、居眠り、携帯・スマートフォンの使用、食事には厳しく対処します。また、上記のことを頻繁に行う場合は、当該科目の単位を認定しません。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習 (30 時間) : 企業や組織の経営に関する記事やニュースに興味を持って触れるようにして下さい。

事後学習 (30 時間) : 講義の内容をまとめる習慣を身につけて下さい。

< 提出課題など >

特にありません。

< 成績評価方法・基準 >

期末試験 (50 点) と確認テスト (50 点 = 10 点 × 5 回) で評価します。

< テキスト >

テキストは使用しません。

* 毎回配布する講義資料をきちんと整理しておいて下さい。

< 参考図書 >

藤田誠 『経営学入門』中央経済社、2015年。

加護野忠男・吉村典久編 『1からの経営学 [第3版] 』碩学舎、2021年。

特定非営利活動法人経営能力開発センター編 『経営学の基本 (経営学検定試験公式テキスト) [第6版] 』中央

経済社。

伊丹敬之・加護野忠男 『ゼミナール経営学入門 [第3版] 』日本経済新聞出版、2003年。

水野由香里ほか 『経営学の基礎知識』中央経済グループパブリッシング、2021年。

後藤浩士 『経営学概論』学文社、2021年。

< 授業計画 >

第1回 はじめに

講義の内容と進めかた

第2回 企業システム

経営学の対象

第3回 企業システム

企業と会社の形態

第4回 企業システム

コーポレート・ガバナンス

第5回 企業システム

日本型企业システム

第6回 経営組織

経営組織の基本

第7回 経営組織

経営組織の構造 (1)

第8回 経営組織

経営組織の構造 (2)

第9回 経営組織

経営組織の構造 (3)

第10回 経営組織

経営組織の文化

第11回 経営組織

経営組織の管理 (1)

第12回 経営組織

経営組織の管理 (2)

第13回 経営組織

経営組織の管理 (3)

第14回 経営戦略①

経営戦略の基本

第15回 経営戦略

全社戦略 (1)

第16回 経営戦略

全社戦略 (2)

第17回 経営戦略

事業戦略 (1)

第18回 経営戦略

事業戦略 (2)

第19回 経営戦略

機能別戦略 (1)

第20回 経営戦略

機能別戦略 (2)

第21回 マーケティング①

マーケティングの基本

第22回 マーケティング

マーケティングリサーチ (1)
第23回 マーケティング
マーケティングリサーチ (2)
第24回 マーケティング
マーケティング戦略 (1)
第25回 マーケティング
マーケティング戦略 (2)
第26回 経営課題①
M & A と買収防止策
第27回 経営課題
経営のグローバル化
第28回 経営課題
企業経営と情報化
第29回 経営課題
企業の社会的責任と企業倫理
第30回 おわりに
講義のまとめと期末試験対策

2022年度 後期

4単位
経営組織論
大塚 英美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

【目的】

産業界におけるイノベーションは、経済の発展に大きく影響を与えます。イノベーションとは、単なる技術の革新ではなく、それを普及させることによってよりよい社会に結びつける新たな価値を創出する変革であるといえます。本講義では、産業界のイノベーションに関する諸理論を学習し、個人、企業、産業の3つのレベルからイノベーションについて検討します。また、SDGsにかかわる社会的課題を取り上げ、それを解決するための企業の取り組みについて検討します。

【ディプロマポリシーとの関連】

・専門分野に高い関心を持ち、イノベーションについて理論的に理解できる (知識・技能) 。
・幅広い情報を活用して問題点を発見し、分析・考察することができる (思考力・判断力・表現力等の能力) 。
・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる (思考力・判断力・表現力等の能力) 。
・主体的にグループワークに参加し、多様な意見の受容および積極的な発言を通して、協働することができる (主体性・協働) 。

< 到達目標 >

(1) イノベーションに関する諸理論を説明することができる (知識) 。
(2) 経済動向とイノベーションとの関係を個人・企業・産業レベルに相互に結びつけて検討することができるようになる (論理力) 。
(3) グループ・ディスカッションに参加し、建設的な発言、資料作成、プレゼンテーション・スキルを養うことができる (主体性・協働・表現力) 。

< 授業のキーワード >

イノベーション、経営戦略、両利きの経営、組織デザイン、SWOT分析、5フォース分析、PPM、ビジネスモデル、サービス・イノベーション、ICT、テレワーク、SDGs

< 授業の進め方 >

主に1限目に講義、2限目に演習を行います。

【講義】

イノベーションに関する諸理論

経営現象の詳細な理解 (ビデオ視聴を1回含む)

【演習】

社会現象を把握するためにデータベースへのアクセスとその分析

企業におけるイノベーションに関するケース分析

ケース研究：グループ討議 プレゼンテーション資料作成 プレゼンテーション

* 状況に応じて、情報処理教室を利用する場合があります。

* 企業との連携で社会的課題を解決する演習を実施する場合があります。

< 履修するにあたって >

レポートの提出方法についてはガイダンスで説明します
< 授業時間外に必要な学修 >

レポート課題、ケース分析に関連する資料を提供しますので事前に読んできてください。(1 時間程度) レポートの書き方、ケース分析に必要な論理力を身に着けるための参考図書を紹介します。

< 提出課題など >

・レポート課題 翌々週までに添削
・ケース研究 発表に対するコメント

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題とケース研究で100%評価します。

課題1 (10%)、課題2 (10%)、課題3 (20%)、ケース研究1 (20%)、ケース研究2 (20%)、理解度テスト (20%)

* すべての課題を提出することで評価対象の条件となります。

* グループワークにおいても、個人の成果で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

- ・「両利きの経営」チャールズ・オライリー、マイケル
- ・タッシュマン（邦訳；入山章栄・富山和彦）（2019年）東洋経済新報社
- ・「考える経営学」中川功一、佐々木将人、服部泰宏（2021年）有斐閣
- ・「ベーシックプラス 経営戦略」井上達彦・中川功一
- ・川瀬真紀（2020年）中央経済社
- ・「イノベーション・マネジメント入門」一橋大学イノベーション研究センター【編】日本経済新聞出版社（2017年）
- ・「組織デザイン」沼上幹（2004年）日経文庫

< 授業計画 >

第1回

第2回 ガイダンス

イノベーションとは何か？

- ・講義の概要と進め方、評価について
- ・イノベーションに関する基本知識

第3回

第4回 イノベーションの歴史

- ・イギリスの産業革命とアメリカのビッグビジネス

第5回

第6回 日本企業におけるイノベーション

- ・日本企業の特徴
- ・イノベーターのジレンマ

第7回

第8回 現代の企業経営 1

- ・持続可能な開発目標（SDGs）
- ・企業の社会的責任（CSR）と共有価値の創造（CSV）

第9回

第10回 現代の企業経営 2

- ・社会的課題と企業の取り組み
- ・ダイバーシティ・マネジメントとインクルージョン

第11回

第12回

経営戦略論1

- ・3つのレベルの企業戦略
- ・経営戦略における諸理論

第13回

第14回 経営戦略論 2

- ・組織デザイン
- ・シナジー
- ・バウンダリー

第15回

第16回 経営戦略論 3

企業戦略に関する事例研究

第17回

第18回 経営戦略論 4

- ・演習課題：企業戦略におけるSWOT分析

第19回

第20回 経営戦略5

- ・演習：企業戦略におけるSWOT分析・考察の発表

第21回

第22回 ベンチャー企業 1

- ・収益の仕組み
- ・ベンチャー企業のケース分析

第23回

第24回 ベンチャー企業 2

- ・ベンチャー企業ケース分析、グループワーク、発表

第25回

第26回 サービス・イノベーション1

- ・サービス・イノベーションに関する諸理論
- ・サービス・イノベーションに関するビデオ視聴

第27回

第28回 サービス・イノベーション2

- ・サービス・イノベーションに関するケース研究

第29回

第30回 ・総まとめ

- ・理解度テスト
- ・産業技術論で扱った理論・専門用語の整理

2022年度 後期

2単位

経営組織論

大塚 英美

< 授業の方法 >

講義

本講義は、経営組織論 とセットで履修登録をしてください。

< 授業の目的 >

【目的】

経済の発展に大きく影響を与えるイノベーションは、企業経営においてどのようなプロセスで生まれるのでしょうか？イノベーションとは、単なる技術の革新ではなく、それを普及させることによってよりよい社会に結びつける新たな価値を創出する変革であるといえます。本講義では、産業界のイノベーションに関する諸理論を学習し、個人、企業、産業の3つのレベルからイノベーションについて検討します。また、SDGsにかかわる社会的課

題を取り上げ、それを解決するための企業の取り組みについて検討します。

【ディプロマポリシーとの関連】

- ・専門分野に高い関心を持ち、イノベーションについて理論的に理解できる（知識・技能）。
- ・幅広い情報を活用して問題点を発見し、分析・考察することができる（思考力・判断力・表現力等の能力）。
- ・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）。
- ・主体的にグループワークに参加し、多様な意見の受容および積極的な発言を通して、協働することができる（主体性・協働）。

<到達目標>

- (1) イノベーションに関する諸理論を説明することができる（知識）。
- (2) 経済動向とイノベーションとの関係を個人・企業・産業レベルに相互に結びつけて検討することができるようになる（論理力）。
- (3) グループ・ディスカッションに参加し、建設的な発言、資料作成、プレゼンテーション・スキルを養うことができる（主体性・協働・表現力）。

<授業のキーワード>

イノベーション、経営戦略、両利きの経営、組織デザイン、SWOT分析、5フォース分析、PPM、ビジネスモデル、サービス・イノベーション、ICT、テレワーク、SDGs

<授業の進め方>

主に1限目に講義、2限目に演習を行います。

【講義】

イノベーションに関する諸理論
経営現象の詳細な理解（ビデオ視聴を1回含む）

【演習】

社会現象を把握するためにデータベースへのアクセスとその分析
企業におけるイノベーションに関するケース分析
ケース研究：グループ討議 プレゼンテーション資料作成 プレゼンテーション

*状況に応じて、情報処理教室を利用する場合があります。

*企業との連携で社会的課題を解決する演習を実施する場合があります。

<履修するにあたって>

レポートの提出方法についてはガイダンスで説明します
<授業時間外に必要な学修>
レポート課題、ケース分析に関連する資料を提供しますので事前に読んできてください。（1時間程度）レポー

トの書き方、ケース分析に必要な論理力は、参考図書を紹介します。

<提出課題など>

- ・レポート課題 翌々週までに添削
- ・ケース研究 発表に対するコメント

<成績評価方法・基準>

レポート課題とケース研究で100%評価します。

課題1（10%）、課題2（10%）、課題3（20%）、ケース研究1（20%）、ケース研究2（20%）、理解度テスト（20%）

*すべての課題を提出することで評価対象の条件となります。

*グループワークにおいても、個人の成果で評価します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

- ・「両利きの経営」チャールズ・オリリー、マイケル・タッシュマン（邦訳；入山章栄・富山和彦）（2019年）東洋経済新報社
- ・「考える経営学」中川功一、佐々木将人、服部泰宏（2021年）有斐閣
- ・「ベーシックプラス 経営戦略」井上達彦・中川功一・川瀬真紀（2020年）中央経済社
- ・「イノベーション・マネジメント入門」一橋大学イノベーション研究センター（2017年）【編】日本経済新聞出版社
- ・「組織デザイン」沼上幹（2004年）日経文庫

<授業計画>

第1回

ガイダンス

イノベーションとは何か？

- ・講義の概要と進め方、評価について
- ・イノベーションに関する基本知識

第2回 イノベーションの歴史

- ・イギリスの産業革命とアメリカのビッグビジネス

第3回 日本企業におけるイノベーション

- ・日本企業の特徴
- ・イノベーターのジレンマ

第4回 現代の企業経営1

- ・持続可能な開発目標（SDGs）
- ・企業の社会的責任（CSR）と共有価値の創造（CSV）

第5回 現代の企業経営2

- ・社会的課題と企業の取り組み
- ・ダイバーシティ・マネジメントとインクルージョン

第6回

経営戦略論1

- ・3つのレベルの企業戦略

・経営戦略における諸理論

第7回 経営戦略論 2

- ・組織デザイン
- ・シナジー
- ・バウンダリー

第8回 経営戦略論 3

企業戦略に関する事例研究

第9回 経営戦略論 4

- ・演習課題：企業戦略におけるSWOT分析

第10回 経営戦略5

- ・演習：企業戦略におけるSWOT分析・考察の発表

第11回 ベンチャー企業 1

- ・収益の仕組み
- ・ベンチャー企業のケース分析

第12回 ベンチャー企業 2

- ・ベンチャー企業ケース分析、グループワーク、発表

第13回 サービス・イノベーション1

- ・サービス・イノベーションに関する諸理論
- ・サービス・イノベーションに関するビデオ視聴

第14回 サービス・イノベーション2

- ・サービス・イノベーションに関するケース研究

第15回 ・総まとめ

- ・理解度テスト
- ・産業技術論で扱った理論・専門用語の整理

2022年度 後期

2単位

経営組織論

大塚 英美

< 授業の方法 >

講義

本講義は、経営組織論 とセットで履修登録をしてください。

< 授業の目的 >

【目的】

経済の発展に大きく影響を与えるイノベーションは、企業経営においてどのようなプロセスで生まれるのでしょうか？イノベーションとは、単なる技術の革新ではなく、それを普及させることによってよりよい社会に結びつける新たな価値を創出する変革であるといえます。本講義では、産業界のイノベーションに関する諸理論を学習し、個人、企業、産業の3つのレベルからイノベーションについて検討します。また、SDGsにかかわる社会的課題を取り上げ、それを解決するための企業の取り組みに

ついて検討します。

【ディプロマポリシーとの関連】

- ・専門分野に高い関心を持ち、イノベーションについて理論的に理解できる（知識・技能）。
- ・幅広い情報を活用して問題点を発見し、分析・考察することができる（思考力・判断力・表現力等の能力）。
- ・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）。
- ・主体的にグループワークに参加し、多様な意見の受容および積極的な発言を通して、協働することができる（主体性・協働）。

< 到達目標 >

- （1）イノベーションに関する諸理論を説明することができる（知識）。
- （2）経済動向とイノベーションとの関係を個人・企業・産業レベルに相互に結びつけて検討することができるようになる（論理力）。
- （3）グループ・ディスカッションに参加し、建設的な発言、資料作成、プレゼンテーション・スキルを養うことができる（主体性・協働・表現力）。

< 授業のキーワード >

イノベーション、経営戦略、両利きの経営、組織デザイン、SWOT分析、5フォース分析、PPM、ビジネスモデル、サービス・イノベーション、ICT、テレワーク、SDGs

< 授業の進め方 >

主に1限目に講義、2限目に演習を行います。

【講義】

イノベーションに関する諸理論

経営現象の詳細な理解（ビデオ視聴を1回含む）

【演習】

社会現象を把握するためにデータベースへのアクセスとその分析

企業におけるイノベーションに関するケース分析

ケース研究：グループ討議 プレゼンテーション資料作成 プレゼンテーション

* 状況に応じて、情報処理教室を利用する場合もあります。

* 企業との連携で社会的課題を解決する演習を実施する場合もあります。

< 履修するにあたって >

レポートの提出方法についてはガイダンスで説明します

< 授業時間外に必要な学修 >

レポート課題、ケース分析に関連する資料を提供しますので事前に読んでみてください。（1時間程度）レポートの書き方、ケース分析に必要な論理力は、参考図書

紹介します。

< 提出課題など >

- ・ レポート課題 翌々週までに添削
- ・ ケース研究 発表に対するコメント

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題とケース研究で100%評価します。

課題1 (10%)、課題2 (10%)、課題3 (20%)、ケース研究1 (20%)、ケース研究2 (20%)、理解度テスト (20%)

* すべての課題を提出することで評価対象の条件となります。

* グループワークにおいても、個人の成果で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

- ・ 「両利きの経営」チャールズ・オライリー、マイケル・タッシュマン (邦訳; 入山章栄・富山和彦) (2019年) 東洋経済新報社
- ・ 「考える経営学」中川功一、佐々木将人、服部泰宏 (2021年) 有斐閣
- ・ 「ベーシックプラス 経営戦略」井上達彦・中川功一・川瀬真紀 (2020年) 中央経済社
- ・ 「イノベーション・マネジメント入門」一橋大学イノベーション研究センター (2017年) 【編】日本経済新聞出版社
- ・ 「組織デザイン」沼上幹 (2004年) 日経文庫

< 授業計画 >

第1回

ガイダンス

イノベーションとは何か?

- ・ 講義の概要と進め方、評価について
- ・ イノベーションに関する基本知識

第2回 イノベーションの歴史

- ・ イギリスの産業革命とアメリカのビッグビジネス

第3回 日本企業におけるイノベーション

- ・ 日本企業の特徴
- ・ イノベーターのジレンマ

第4回 現代の企業経営 1

- ・ 持続可能な開発目標 (SDGs)
- ・ 企業の社会的責任 (CSR) と共有価値の創造 (CSV)

第5回 現代の企業経営 2

- ・ 社会的課題と企業の取り組み
- ・ ダイバーシティ・マネジメントとインクルージョン

第6回

経営戦略論1

- ・ 3つのレベルの企業戦略
- ・ 経営戦略における諸理論

第7回 経営戦略論 2

- ・ 組織デザイン
- ・ シナジー
- ・ バウンダリー

第8回 経営戦略論 3

企業戦略に関する事例研究

第9回 経営戦略論 4

- ・ 演習課題: 企業戦略におけるSWOT分析

第10回 経営戦略5

- ・ 演習: 企業戦略におけるSWOT分析・考察の発表

第11回 ベンチャー企業 1

- ・ 収益の仕組み
- ・ ベンチャー企業のケース分析

第12回 ベンチャー企業 2

- ・ ベンチャー企業ケース分析、グループワーク、発表

第13回 サービス・イノベーション1

- ・ サービス・イノベーションに関する諸理論
- ・ サービス・イノベーションに関するビデオ視聴

第14回 サービス・イノベーション2

- ・ サービス・イノベーションに関するケース研究

第15回 ・ 総まとめ

- ・ 理解度テスト
- ・ 産業技術論で扱った理論・専門用語の整理

2022年度 前期

4単位

経済学史 [公共]

佐藤 伸明

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

○この科目は、経済学部のDPが示す「経済理論の基礎を習得」することに資する科目である。

○この科目は、1年次配当の専門科目である。

○現代経済学および現代経済社会を理解するために有益な経済学の発展史について学習する。

経済学はその時々々の経済問題に対応する形で発展してきた。どのような経済問題に、誰だどのように取り組み、それによって如何なる経済学が形成されてきたかを学習することを通じて、現代社会の認識を深めること、および分析能力を増進させることを目的とします。

< 到達目標 >

○経済学の生誕から現代までの発展史を述べることができる。

○資本主義社会（特に、日本の社会）の現在および未来について、学術的に意見を述べる事ができる。

<授業のキーワード>

自由と平等

ケネー、アダム・スミス、リカード、マルクス、ケインズ、

パレート、レオンチエフ

<授業の進め方>

○基本的には講義中心で進めるが、課題解答作業を通じて理解を深める。レポートを課す場合がある。

○経済社会の過去から現在までの流れが分かるようにストーリーを作り、授業を進める。

○経済学または経済思想は、自由主義的立場に立つものと干渉主義的立場にたつものに2分できる。

授業の全体的流れとしては、スミスの自由と平等の経済学がどのようにして形成され、その後、どのように修正・発展してきたかを現代経済学の観点から把握できるように進める。

<履修するにあたって>

1年次生では、入門ミクロや入門マクロの単位を取得していることが望ましい。

2年次生以上では、ミクロ経済学やマクロ経済学の単位を取得していることが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

配布プリントおよび指定図書使って予習すること。各界1時間の予習が必要である。

配布プリントおよび指定図書、参考書を使って復習すること。各回1時間以上の復習が必要である。

<成績評価方法・基準>

授業中に実施する2回のテストに基づいて評価します（対面テスト100％）。

1回目（中間テスト）は第8週目、2回目（期末テスト）は第15週目で、講義がオンライン形式であっても、対面で実施する予定です。

各回100点満点で計200点満点で成績評価します。

1回目はの試験範囲は「最初からアダム・スミスまで」、2回目は「リカードから最後まで」

です。実施の詳細はおって連絡します。

<テキスト>

講義内容をまとめたプリントを配布する。

指定図書や参考書を活用して自学自習すること。

<参考図書>

下記参考図書の(1)、(2)、(3)

(1)は新書で平易。

(2)は比較的、理論的に詳しいテキスト。

(3)は大家による経済学史テキスト。スミス、リカード、マルクスを取り上げている。

授業内容への入門であれば下記の(1)

授業内容の拡充であれば下記の(2)(3)など。

A.Smith, D.Ricardo, K.Marx, J.M.Keynes

についてはそれぞれの原書を熟読することが望ましいが、困難であろう。

原書以外の参考書として下記を参考にされたい。

(1)根井雅弘著『入門 経済学の歴史』ちくま新書

(2)三土修平著『経済学史』新世社

(3)内田義彦著『経済学史講義』未来社

(4)松島茂著『現代経済学史』名古屋大学出版会

(5)堂目卓生著『アダム・スミス』中公新書

(6)内田義彦著『資本論の世界』岩波新書

(7)伊藤光晴著『現代に生きるケインズ』岩波新書

(8)森嶋通夫著『思想としての近代経済学』岩波新書

(9)森嶋通夫著『マルクスの経済学』（高須賀義博訳）岩波書店

(10)置塩信雄『蓄積論』（第2版）筑摩書房

<授業計画>

第1回 授業内容と進め方，学習の仕方

講義内容と学習の仕方を開設します。

第2回 近代市民社会まで

古典・古代社会の経済学

第3回 つづき

中世封建社会 絶対王政

第4回 近代市民社会まで

重商主義と重農主義

第5回 つづき

ケネー「経済表」：経済循環と富の把握

第6回 近代市民社会

アダム・スミス 自由と平等の経済思想

第7回 近代市民社会

アダム・スミス 『道徳感情論』

第8回 つづき

学説

第9回 つづき

学説

第10回 古典派経済学

アダム・スミス『国富論』

第11回 つづき

国富論の体系

第12回 つづき

学説

第13回 アダム・スミス経済学の発展

学説

第14回 つづき

学説

第15回 つづき

続き

第16回 中間テスト
中間テスト
第17回 古典派経済学
リカードの経済学
第18回 蓄積論
つづき
第19回 自由貿易論
つづき
第20回 資本主義経済論
マルクス経済学
第21回 つづき
マルクスの基本定理
第22回 つづき
再生産表式

第23回 つづき
長期的傾向
第24回 つづき
つづき
第25回 資本主義経済論
限界革命
第26回 つづき
新古典派経済学
第27回 つづき
つづき
第28回 資本主義経済論
ケインズ経済学
第29回 続き
続き
第30回 期末テスト
これまでの復習を兼ねたテスト

2022年度 前期

2単位

経済学特別講義A（環境経済論）

安達 啓介

< 授業の方法 >

講義（場合によっては【遠隔授業】）

< 授業の目的 >

この授業は、学部のDPに示す、「1．経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」ようになること、および「2．経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」こと、そして「3．経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」ことを目指す。また、「5．経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てるこ

とができる」能力の開発、向上を目指す。

この授業では、環境政策、環境経済学、環境科学の理論や知見をもとに、日本および世界で起きている環境問題とその経済学的または自然科学的な対処法について学ぶ。また、農業、林業、漁業などのさまざまな自然資源を利用する人間、企業・組織、そして産業の現状と政策的課題について学ぶ。それらを通して、ミクロ経済学、マクロ経済学、そして経営学における知見が、実際の現場でどう結びつくか、そしてどこに限界があるか講義を通して考える。実際に現場で起きている問題を学び、それを分析するなかで、真理を見極めるためには、理論と実証どちらも不可欠であることを実感してもらいたい。

< 到達目標 >

- ・自然環境と経済活動との関連性を説明できる。
- ・環境政策、環境経済学の基礎的な理論を説明できる
- ・環境問題に必要な政策について、経済学的な視点から説明できる。
- ・他者からの意見、批判を建設的に取り入れ、自身の主張を強化することができる。

< 授業のキーワード >

環境政策、環境経済学、環境科学、自然資源、生態系、農業、林業、漁業、資源の枯渇、コモンズ、公共財、環境汚染、公害、水質汚染、大気汚染、土壌汚染、森林破壊、生物多様性、気候変動、環境政策、費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析

< 授業の進め方 >

配布資料とパワーポイントを併用する形で授業を進めていく。

毎回必ず、授業内容の要約を行う。それを通して、題材に対する自身の意見を形成し、文章化する力を養成する。そのため、ただ単に講義を聞くのではなく、いかにその内容を自身の社会の見方と結びつけて考えることができるかが重要となる。

< 履修するにあたって >

- ・ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学に心得があると学習しやすい。
- ・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。
- ・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。
- ・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。
- ・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、学習した内容について、プリント、ノートなどを見直して復習すること（60分程度）。
次回の学習内容に関しては、事前に下記のリンク（OneDrive）で配布する資料を確認しておくこと（30分程度）。

< 提出課題など >

授業中または下記のリンクで配布する資料上で課題内容、提出方法を告知する。

提出課題については、授業中に受講者全体に対してフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の要約課題（60％）と レポート（40％）の成績で評価する。

< テキスト >

なし。使用する資料全般は、授業中または下記のリンクで配布する。

< 参考図書 >

栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ第4版』有斐閣、2020年、定価2,400円

< 授業計画 >

第1回 環境と経済

環境と経済のつながりについて学ぶ。また、環境政策、環境経済学とは何かを学ぶ。

第2回 経済発展と環境問題

経済発展と環境問題との関連について学ぶ。そして、環境問題の原因について考えを深める。

第3回 ごみ問題を考える

過去、現代のごみ問題について学び、特にリサイクル問題の経済学的に考える。

第4回 気候変動問題とは何か

地球温暖化、異常気象などの気候変動問題の現状について学び、それを経済学的に分析する。

第5回 市場の失敗と環境問題

市場の失敗について学び、それが環境問題とどのように関係するかを考える。

第6回 「コモンズ」とは何か

コモンズ（共有資源）とは何かを学ぶ。特に、日本の共有林野を例に、それが自然資源の利用と管理においてどのような役割を果たしてきたかを考える。

第7回 公共財と環境問題

公共財と環境問題との関連について学ぶ。また、公共財のフリーライド問題について学ぶ。

第8回 直接規制と経済的手法

環境政策の基礎として、直接規制と経済的手法について学ぶ。

第9回 環境税と何か

環境税、特にピグー税、ポーモル税について学び、そのメリットとデメリットについて考える。

第10回 環境の価値をはかる（1）

環境の価値とは何かを考え、その評価方法である代替法、トラベル・コスト法、ヘドニック法について学ぶ。

第11回 環境の価値をはかる（2）

前回は引き続き、環境の経済的価値について考え、仮想評価法、コンジョイント法を学ぶ。

第12回 生物多様性と経済活動

生物多様性とは何かを学び、それが失われることが経済社会、引いては人類にとってどのようなことを意味するのかを考える。

第13回 エネルギーと経済発展

世界および日本のエネルギー事情について学び、再生可能エネルギーの可能性と課題について議論する。

第14回 持続可能な発展は可能か

持続可能性の概念を学び、経済の持続可能性について、地球生態系の観点を踏まえながら考える。

第15回 全体の振り返り

全体の復習を行う。

2022年度 後期

4単位

経済学特講 [企業][公共][生活]

麻生 裕貴、石田 裕貴、井上 善博、岡本 弥、関谷次博、竹治 康公、平井 健之

< 授業の方法 >

講義

今後の感染状況等によっては変更の可能性があります。その場合は、シラバスを通じて連絡するので、常にシラバスの最新情報を確認するよう、お願いします。

< 授業の目的 >

【講義の位置づけ】

本学経済学部の学生は、必要最低単位数以上を修得することに加え、卒業論文の審査あるいは、本講義の試験に合格することが、学位授与の要件である。

【主題】

本講義の目標は、経済学の基本的知識を備え、専攻コースにおける専門的知識を身につけていることを確認するものである。

【目標】

・DP（ディプロマ・ポリシー）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」ことを目標とする。

・経済学の基幹的な分野（ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済論など）に関する基礎的知識を十分に獲得していること。

・専攻コースにおける専門的知識を身につけていること。

< 到達目標 >

経済学士の学位に相応しい能力に達することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

7名の教員によるリレー講義

< 履修するにあたって >

【重要】対面・遠隔授業の授業形態によらず、2日（講義4回分）につき1回のレポート（小テスト）が課せられます（計7回）。このレポート（小テスト）は、定期テストを行わない場合の成績評価になるので、毎回必ず提出（受験）して下さい。

・大学より非登学が承認されている受講生には、確認テスト、及び定期テストの代わりとなる「別途課題」を提出してもらいます。

・その他、下部の「遠隔授業情報」にある「本講義のガイダンス」の資料を確認して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

科目ごとに、講義時間内小テストを実施し、講義内で解答を示す。

< 成績評価方法・基準 >

・定期テストを行う場合、テスト100%（確認テストで60点以上でも、必ず定期テストを受けなければ、評価の対象としない）

・定期テストを行わない場合、各講義のレポート（小テスト）の評価100%

・大学より非登学が承認されている受講生に対しては、各講義のレポート（小テスト）、確認テスト、及び定期テストの代わりとなる「別途課題」の評価100%

< 定期テストを受験するための出席条件 >

・出席日数（各講義のレポート提出回数）が全講義の3分の2に満たない者は定期テストの受験を認めない。

・下部の「遠隔授業情報」にある「本講義のガイダンス」の資料も確認して下さい。

< テキスト >

テキストはとくに指定しない。

< 参考図書 >

科目ごとに適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回

(9/30) ガイダンス、ミクロ経済学（1）：需要曲線の導出

【第1～4回】担当：岡本准教授

・本講義のガイダンス（15分程度）

・消費者の支払許容額から需要曲線が得られることを示す。

第2回 ミクロ経済学（2）：供給曲線の導出

生産者の費用構造から供給曲線が得られることを示す。

第3回

(10/7) ミクロ経済学（3）：市場均衡と社会的総余剰需要 = 供給となる市場均衡と消費者余剰と生産者余剰の和である社会的総余剰についてみる。

第4回 ミクロ経済学（4）：完全競争市場での企業行動
完全競争市場下での企業の利潤最大化行動についてみる。
第5回

(10/14) マクロ経済学（1）

【第5～8回】担当：竹治教授

GDPの基礎概念を学ぶ

第6回 マクロ経済学（2）

GDPの計算に習熟する

第7回

(10/21) マクロ経済学（3）

乗数効果の基礎概念を学ぶ

第8回 マクロ経済学（4）

乗数効果の計算に習熟する

第9回

(10/28) 日本経済論（1）

【第9～12回】担当：麻生講師

戦後日本経済の発展と変遷について学ぶ。

第10回 日本経済論（2）

日本の経済発展の要因と背景について学ぶ。

第11回

(11/11) 日本経済論（3）

日本経済の現状と今後の問題点について学ぶ。

第12回 日本経済論（4）

第9回～第11回学習の要点を確認し、理解度をチェックするための小テストと解説を行う。

第13回

(11/18) 経済史総論（1）

【第13～16回】担当：関谷教授

歴史の教訓から学ぶ「殖産興業政策」

第14回 経済史総論（2）

歴史の教訓から学ぶ「昭和恐慌」

第15回

(11/25) 経済史総論（3）

経路依存性から考える「戦時経済」

第16回 経済史総論（4）

経路依存性から考える「高度経済成長」

第17回

(12/2) 生活経済論（1）

【第17～20回】担当：石田准教授

資産運用について学ぶ

第18回 生活経済論（2）

預金について学ぶ

第19回

(12/9) 生活経済論（3）

保険について学ぶ

第20回 生活経済論(4)

投資信託について学ぶ

第21回

(12/16) 公共経済論(1):消費課税の経済効果(1)

【第21~24回】担当:平井教授

消費課税の経済効果を余剰分析に基づいて理解する。

第22回 公共経済論(2):消費課税の経済効果(2)

消費課税は誰が負担するのかを弾力性の概念を用いて理解する。

第23回

(12/23) 公共経済論(3):公共財(1)

公共財の定義について理解する。

第24回 公共経済論(4):公共財(2)

公共財の最適供給について理解する。

第25回

(1/6) 企業経済論(1)

【第25~28回】担当:井上教授

経営管理の基礎理論について学ぶ

第26回 企業経済論(2)

現代企業におけるリーダーシップについて学ぶ

第27回

(1/13) 企業経済論(3)

官僚制組織と組織構造の動態化について学ぶ

第28回 企業経済論(4)

組織文化と組織変革について学ぶ

第29回

(1/20) 確認テスト

学習到達度の確認テストの実施

第30回 確認テスト解説

学習到達度の確認テスト内容の解説

2022年度 後期

2単位

経済学特別講義B(ウクライナ経済・文化事情)

Goral, Nadiia

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

- 1) ウクライナ歴史と文化紹介
- 2) ウクライナ経済・政治紹介、
- 3) 日本とウクライナの交流
- 4) ウクライナ文化交流を通して、異文化に触れ、ウクライナ文化の理解を深め、尊重しようとする態度を養う
- 5) 文化交流を通して、日本文化を再認識し、それを継承し、外国の方々に分かりやすく説明できる態度を養う

なお、この科目は、学部のDPに示す「1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・

制度的に理解できる。」ことを目指しています。

<到達目標>

神戸学院大学が積極的に進めるウクライナについて知ってみませんか?この講義では、ウクライナ人客員教授が、ウクライナの歴史・文化・政治・経済について講義します。ウクライナは日本ではあまり知られていませんが、スラブ文化発祥の地で、ボルシチやコサックもウクライナ発祥です。また日本とも多くの似た点や共通点があります。ウクライナについてだけではなく、日本との深い関わり合いを学ぶことも到着目標です。

<授業のキーワード>

ウクライナ、ウクライナの歴史、ウクライナの経済、ウクライナの文化、ウクライナの政治、ウクライナ語、日本・ウクライナ交流

<授業の進め方>

ウクライナについての講義(日本語)

<履修するにあたって>

講師は西ウクライナのリヴィウ工科大学から1年間派遣されます。日本語での講義になります。

<授業時間外に必要な学修>

予習、復習90分づつを想定している。

<提出課題など>

レポート、ポートフォリオ

<成績評価方法・基準>

レポート - 50%

ポートフォリオ 40%

講義中の感想の作文/アンケート 10%

<テキスト>

プリントを適宜配布

<参考図書>

- 1) Mykhailo Hrushevskiy. History of Ukraine-Rus. Vol.1- Vol.10.
- 2) Rudenko, Sergii .Lectures in the History of Ukrainian Culture/ Sergii Rudenko; edited by Liliya Grigoryan. - Kyiv: Vadex, 2019. - 66 p. URL: https://www.researchgate.net/publication/331981714_Lectures_in_the_History_of_Ukrainian_Culture
- 3) Martynenko N. M. History of Ukrainian Culture: textbook for foreign students / N. Martynenko. - Kharkiv : KNMU, 2015. - 100 p. URL: <http://repo.knmu.edu.ua/bitstream/123456789/5515/3/History%20of%20Ukrainian%20Culture.pdf>
- 4) Ukraine in Histories and Stories. A Book of Essays by Intellectuals. Edited by Volodymyr Yermolenko. URL: <https://ukraineworld.org/articles/books/essays-intellectuals>
- 5) Internet Encyclopedia of Ukraine. URL: <http://www.encyclopediaofukraine.com/display.asp?linkpath=pages%5CH%5CI%5CHistoryofUkraine.htm>

- 6) Sergiy Gerasymchuk, Nadiia Bureyko. "Perception of Ukraine abroad. Japan." (Analytical report). URL: <https://ui.org.ua/en/ukraine-abroad-research-en/>
- 7) How to rebrand Ukraine in Japan and Vice Versa. Analytical commentary. March 2021. URL: http://neweurope.org.ua/wp-content/uploads/2021/03/Policy-comment_Rebranding_eng_web-5.pdf
- 8) Hiroaki Kuromiya. Freedom and Terror in the Donbas: A Ukrainian-Russian Borderland, 1870s-1990s (Cambridge Russian, Soviet and Post-Soviet Studies, Book 104) Cambridge, UK: Cambridge University Press, 1998, 2003. 380 pages.
- 9) Nahachewsky, Andriy. Ukrainian dance: a cross-cultural approach. McFarland & Company, Inc., Publishers. 2012. URL: <https://kr.1lib.limited/book/2924968/9d6c34>
- 10) 岡部芳彦『日本・ウクライナ交流史1915-1937年』、神戸学院大学出版会、神戸、2021年、2月、1日。
- 11) 岡部芳彦『マイダン革命はなぜ起こったか ロシアとEUのはざままで』ドニエプル出版、2016年。
- 12) 平野高志『ウクライナ・ファンブック：東スラブの源泉・中東欧の穴場国』、2020。
- 13) 小野元裕『ウクライナ丸かじりー自分の目で見、手で触り、心で感じたウクライナ』、ドニエプル出版、2006年。
- 14) 『ウクライナを知るための65章』（共著）明石書店、2018年。

< 授業計画 >

- 第1回 ウクライナと言えばどんな国
入門（基本情報、イメージ、ステレオタイプ）
- 第2回 ウクライナの歴史1
先史時代～キエフルシ時代
- 第3回 ウクライナの「神道」
ウクライナ人と自然、自然の神々、神話、妖怪
- 第4回 現在ウクライナ人の暮らしと生活に影響をあたえた古代文化
祭り、迷信、アニメなど
- 第5回 ウクライナの歴史2
キエフ・ルシ～ 世紀
- 第6回 ウクライナの経済1
ウクライナの経済について
- 第7回 ウクライナの歴史3
世紀～ 世紀：ウクライナの「武士道」
- 第8回 ウクライナの経済2
ウクライナの経済について
- 第9回 帝国時代のウクライナの歴史
帝国時代のウクライナ

- 第10回 ウクライナ人の美の感覚
伝統的な服、アクセサリ（ロシア帝国の影響）
- 第11回 近代・現代の歴史
近現代のウクライナ
- 第12回 世界に影響を与えて知られてないウクライナ人

皆さんも知っている人が実はウクライナ人だった。

- 第13回 クリミア半島歴史と現在の問題

歴史から見たクリミア半島と現在

- 第14回 ウクライナの経済3

ウクライナの経済について

- 第15回 ウクライナと日本

ウクライナと日本：現在と将来

2022年度 後期

4単位

経済思想史

三好 宏治

< 授業の方法 >

講義（対面授業）

< 授業の目的 >

本講義は経済学部DPの（知識・技能）

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

を目指す。

【1】「自分が責任感ある善き市民として生きるためには、経済学を身につけなければならない」と学生が思えるようになることが、本講義の1番の目的である。経済学の源流は古代ギリシャ哲学にある。ギリシャ哲学は文明社会の構成員たる市民が修めるべき学問のひとつとしてポリテイアとオイコノミアを議論してきた。古代ギリシャの哲学者は一人一人の市民がよく生きるための処世術・獲得術としてのオイコノミアのみを考えたのではない。彼らは同時に、悪しき隣人に惑わされず一人一人が正しき市民として善く生きられる社会環境を考えるためにポリテイアも哲学の対象としてきた。西洋の経済思想家たちは、それぞれの時代的課題に向き合い、オイコノミアとポリテイアを思想的・技術的に発展させていく。西洋哲学の系譜から考えると、経済学とは今も昔も「善き市民となるために必須の学問」である。法と正義、公正・公平、自由と人権と共同体、といった哲学的・法学的・政治学的な規範的議論と共に進展した経済学の歴史を知ること、現代経済学のテキストだけでは気づくことができなかつた視点を学生は身につけられるだろう。

【2】学生が経済思想史で幅広い考えとその思想系譜を学ぶことで、「他の専門科目への興味をもって接することができ」「他の専門科目の理解の手助けにもなること」も本講義の目的である。

経済学は各時代の問題意識を背景に、前時代の議論を参照しつつ発展していった。経済思想の発展を知ることは、現代経済学の背後にある諸々の問題意識と幅広さを知ることにつながる。さらに、リカードの比較優位やペティ=クラークの法則など、経済学者の名前が付けられた定理は多い。歴史に名をのこした経済学者の人名には、その人物が作り上げた経済理論や経済思想、歴史背景など、様々な情報が集約されている。経済思想史の講義を受講することで、他の専門科目の受講の際の興味促進や理解の補助になるだろう。

<到達目標>

1. 【知識】各時代の経済思想家の遍歴と著作内容を説明できる。
2. 【知識】経済思想家たちが著作を産んだ歴史背景、克服しようとした歴史的課題や思想を説明できる。
3. 【態度・習慣】現代社会の規範的問題に対して、自分なりの思想的立場を持つことができる。

<授業のキーワード>

倫理と経済、効率性と公平性、政府による再分配、自由主義と共和主義、企業家精神、東西冷戦と経済体制

<授業の進め方>

講義スタイルで授業を進行する。

<履修するにあたって>

本学は『経済学史』の講義が別にある。そこで、本講義では『経済学史』で取り扱われる各思想家の理論よりも、各思想家の経済思想とその背景に関する歴史的事象の説明を重視する。もちろん、『経済学史』も受講することが望ましい。

高校までの世界史の知識があるほうが望ましい。(講義である程度は説明するが)世界史を選択していなかったものは、自分で世界史の知らないところを調べる必要がある。

<授業時間外に必要な学修>

学生は、参考図書で講義に関わる箇所を読む必要がある。また、教科書を一度は通して読む必要があるだろう。【教科書、参考書の通読：45時間以上】

講義を受けた後もわからない・知らない・気になった歴史用語があれば、講義後に質問をするか、指示されていなくても参考文献や百科事典で自分で調べなおす必要がある。【参考文献を使用：毎週15分以上】

<成績評価方法・基準>

定期試験100%

ただし、出席回数が3分の2に満たない場合は定期試験の点数に関わらず不可とする。

<参考図書>

ナイアル・キシテイニー著、月沢 李歌子訳、『若い読者のための経済学史 (Yale University Press Little Histories)』、すばる舎、2018年。

<授業計画>

第1回 イントロダクション、経世済民の思想
政治家が人格的に高潔であることを日本人はなぜ求めるのだろうか？

経世済民の根本にある儒教思想について学ぶ。そして、economicsを経済学と訳すか理財学と訳すかの幕末・明治の論争を知ることで、我々が過去の思想家の思想に知らず知らずの内にとらわれていることを確認する。そのうえで、過去の思想は、自分を閉じ込める檻でありながらも、より遠くまで鮮明に世界を見通すための便利な土台となることを説明する。

第2回 古代ギリシャの系譜

アリストテレスを中心に、経済学に関係する古代ギリシャ哲学の考え方を説明する。中庸の観念、配分的正義と交換正義、プラトンの商人論、アリストテレスの価格論などである。

トマス・アクィナスを中心に、中世スコラ神学における公正価格論について説明していく。また、マキャヴェリによる政治と倫理の分離、および、共和国思想の復活についても議論していく。

第3回 重商主義戦争と経済学の形成 啓蒙思想家たちの問題意識

王権神授説は君主の権利を証明したが、また、臣民に対する君主の義務も明らかにした。君主の義務たるグートポリツァイを果たすためには租税が必要である。善き国政の議論の中で租税論や貨幣論が議論されるのは当然の流れだった。

ロック、モンテスキュー、ヒュームなど啓蒙思想家の経済思想について説明する。とくに、スペインの興亡と新大陸から流入する金・銀の量を結び付けたことで彼らが論点整理した、貨幣数量説について説明する。

第4回 重商主義戦争と経済学の形成 土地銀行と信用論者たち

財政軍事国家という歴史学の枠組みに基づいて、重商主義戦争期のとまらない国債増加とプレ古典派経済学者たちの国債論や、財政再建案である紙幣論・信用論についてみていく。また、初期株式会社、東インド会社や南海泡沫会社に関する議論を行う。

ロー、ケネー、スチュアートらを紹介する。

第5回 重商主義戦争と経済学の形成 経済学の生誕
第二次百年戦争の末期、アメリカ独立戦争が起こった。その独立戦争を宗主国イギリスの側からみていたのが、アダム・スミスである。スミスの『国富論』はアメリカ独立戦争の最中に出版された。

『国富論』は自由放任の書物とされるが、スミスは、政府が市場に介入すべき場合を随所で議論しており、後にシカゴ学派のスティグラーはそのあまりの例外の多さに

戸惑うと述べたほどである。

『国富論』の理論体系を確認するとともに、『国富論』が決して自由放任のみを論じた書物でないことを西洋の政治思想の流れと合わせて確認していきたい。

第6回 重商主義戦争と経済学の形成 陰鬱な科学の誕生

重商主義戦争のクライマックスとしてフランス革命とナポレオン戦争がある。島国イギリスの経済に関するリカードとマルサスの議論は、「スミス博士の誤謬」を正しながら、(マルクス的意味での)古典派経済学の理論体系を作り上げた。

リカード、マルサスによる古典派経済学の形成、および、古典派経済学と不可分になったベンサム功利主義をスミスの『道徳感情論』と比較しながら議論していく。

第7回 資本主義と社会主義 初期社会主義者

リカードによって提示された古典派経済学の世界観は様々な反発を引き起こした。この回では、功利主義的な人間像に対する反発として、ロマン主義の影響を受けたドイツ歴史学派、および人間精神の進化に期待した初期ユートピア社会主義者について議論していく。

第8回 資本主義と社会主義 マルクス主義

19世紀の産業化の進展は労働者を本当に豊かにしたのだろうか？ 同時代人であるマルクスとエンゲルスは、現在の労働者の窮乏を引き起こす経済体制を資本主義となづけるとともに、資本主義の運行法則とその自壊メカニズムを『資本論』で分析しようとした。

マルクスとエンゲルスが生み出した社会主義(マルクス主義)とその理論的批判としての限界革命について議論していく。

第9回 資本主義と社会主義 資本主義の精神

19世紀の後半になると、東洋に対する西洋の優位は揺るがなくなった。現状に対する分析、つまり、なぜヨーロッパは世界を支配したのかという議論は資本主義がなぜ成立してなぜ勝利したのかという自問自答を呼んだ。一方、19世紀に周期的に発生する恐慌は、景気循環論という新しい分野と資本主義は永続するのかという社会主義者の挑戦を産んでいった。

ウェーバー、ゾンバルト、ヴェブレン、シュムペーターなどのマルクス以外の資本主義論を紹介する。

第10回 巨大政府と計画経済 ゆりかごから墓場まで 世界大戦は人類を巻き込んだ総力戦であり、戦争に勝つためには労働者階級の自発的な国家への献身と助力が必要であった。そのため、献身の餌として労働者の生活改善が国家の義務となった。最終的にペヴァリッジ報告という形で福祉国家の原型が作られるが、この回は19世紀末から20世紀中盤までの福祉思想について整理する。ピスマルク、ノイラート、ラウントリー、ペヴァリッジなどを紹介する。

第11回 巨大政府と計画経済 ソ連型社会主義

世界大戦の結果、それまで考えられなかったほど、経済

に対する政府の指導を可能にした。政府が適切に経済に介入することで介入することで、効率性と公平性が可能になる可能性が検討された。これを経済計算論争といい、その中で、ランゲによりワルサスの一般均衡理論を使った社会主義経済の実現性が議論された。

経済計算論争および、ハンガリーの経済学者コルナイの『不足の政治経済学』の議論を通して、ソ連型社会主義経済の必然的失敗について考えていく。

第12回 ケインズ経済学の盛衰 自由放任の終焉とケインズ経済学の誕生

1929年に発生した大恐慌は、それまでの恐慌とは異なり、長期間持続して自律回復が見られなかった。そこで、登場したのがケインズである。ケインズは政府の重要性を主張するにあたり、古典派経済学の自由放任思想を乗り越えなければならなかった。

現代マクロ経済学にとっても重要なので、大恐慌の歴史的経緯、当時の古典派の常識、ケインズの革新性について議論していく。

第13回 ケインズ経済学の盛衰 赤狩りとベトナム戦争 ケインズ経済学の運命は平穏なものではなかった。

1950年代ケインズ経済学を利用したニューディーラーたちは、社会主義と一緒にされてしまい赤狩りの対象となった。赤狩りを生き延びてアメリカのケインズ経済学を中心となったのは、スミスの「見えざる手」を旗印にしたサミュエルソンの『経済学』である。(サミュエルソンによって、初めてスミスの経済学者としての独創性と理論的貢献が認められた)

そして、そのサミュエルソンのライバルとなったのがフリードマンである。彼らの個人史と経済史的・世界史的イベントを見ていくことで現代マクロ経済学の理解に必須の20世紀中庸の経済学的論争を見ていく。とくに、大恐慌、東西冷戦、ベトナム戦争、スタグフレーションといった事象を解説していく。

第14回 ケインズ経済学の盛衰 経済学帝国主義の誕生 シカゴ学派の対立ということ、フリードマンとのマクロ経済学上の論争がまず想起される。だが、ミクロ経済学でもシカゴ大学のスティグラヤやベッカーが新古典派総合が依拠する伝統的な価格理論と産業政策に対する攻撃を行っていた。

ハーバード対シカゴという対立軸を意識しながら、ケインズ革命の裏で進行していた競争や企業の理論に関する発展を見ていく。

第15回 ケインズ経済学の盛衰 資本主義と自由 ソヴィエト・ロシアと東欧の社会主義国家の崩壊ドミノは、自由主義と市場経済の完全勝利とみなされていた。そして、勝利に沸き立つ自由主義は行き過ぎたりバタリアニズム(自由至上主義)にたどり着いた。ケインズが否定したはずの自由放任は、政治思想の世界で再び主流へと振り返り、左右の思想の先鋭化は社会の紐帯を危うくしている。

マルクス、ミル、ミーゼス、ハイエク、ロールズ、サンデル、ノージックなどをおし、資本主義と自由という議論の系譜を見ていく。

2022年度 前期

4単位

経済史総論

岡部 芳彦

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経済史とはどのようなものなのかを知ってもらうための入門的授業です。経済の歴史的発展を説明する伝統的な経済史にくわえて、我々の身の回りの生活はどのように作り上げられたのかを考えるため、社会史・文化史的な講義も行います。全学生が歴史に詳しいわけではないことを前提に、歴史の基礎知識を再確認しながら講義を進めてゆきます。また歴史の背景にあるトリビア的な話題も織り交ぜての講義をするので、歴史が苦手という方も受講し易いと思います。古い年代より進んでいく編年体の形式よりは、トピックを取り上げ講義してゆきます。現代の社会・経済問題をより深く理解するための歴史の基礎知識を学ぶことができます。

それぞれの時代に関連する歴史ドラマや経済ドラマも視聴し、理解を深めることができます。

基本的に日本経済史、外国経済史を交代で講義する予定です。関係する経済の基礎知識を得ることおできます。

なお、この科目は、学部のDPに示す「1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」ことを目指しています。

< 到達目標 >

現代の社会・経済問題をより深く理解するための歴史の基礎知識の習得ができる。

< 授業のキーワード >

日本経済史、外国経済史、日本史、世界史、社会史、文化史。

< 授業の進め方 >

講義順・内容は変更される可能性があります。また講義の中で皆さんの理解度に応じて進度を決めるので、講義内容に若干の増減があります。授業中に分らなかったことはご遠慮なくご質問いただければと思います。また各回のレジュメに記載されているメールアドレスまでご質問いただいても結構です。

< 履修するにあたって >

授業中の私語・携帯ほか授業妨害とみなされる行為は減点の対象となるのでご注意ください。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習90分、復習90分を想定しています。また歴史に関連

するテレビ番組をできるけ視聴してください。学期中2回あるレポート作成に向けた準備として各回の授業終了後に復習してください。

< 提出課題など >

レポート2回以上。成績評価の対象とします。学生の希望の応じてフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

試験50%、レポート50%。講義は日本語で行われませんが、レポートは日本語・英語のどちらでも回答・作成可とします。

< テキスト >

ありません。レジュメを配布します。

< 授業計画 >

第1回 歴史を考えるヒント

歴史学的な考え方を学ぶ。

第2回 同上

同上

第3回 経済史って何？

今まで学んだ歴史と何が違うのか。

第4回 時代劇や歴史ドラマのウソ

時代劇や歴史ドラマにおける誤りを紹介する。

第5回 フランス革命を考える

フランス革命の経済史的背景。

第6回 経済史から見たアベノミクス

現在のアベノミクスと高橋財政を比較して紹介。

第7回 ファッションブランドの経済史

ファッションブランド企業の歴史的変遷とその背景。

第8回 江戸の市場経済

日本経済の原点を探る。江戸時代の経済についての近年の学説を中心に講義。

第9回 バブルの経済史

歴史上発生したバブル経済から見る日本と世界。

第10回 産業革命とは何か？

産業革命が経済史上なぜ重要視されるのかについて講義。

第11回 東京ディズニーリゾートの経済史

開園以来テーマパークとして一人勝ちを続けるTDRを通じてバブル崩壊後の日本を経済史的に検証する。

第12回 「子供」の誕生

「子供」という概念の時代による変化。

第13回 戦時経済と戦後改革

戦時経済と戦後改革について講義。

第14回 白洲次郎とその時代 1

白洲次郎を通じて日本の戦後を学ぶ。

第15回 白洲次郎とその時代 2

白洲次郎を通じて日本の戦後を学ぶ。

第16回 白洲次郎とその時代 3

白洲次郎を通じて日本の戦後を学ぶ。

第17回 白洲次郎とその時代 4

白洲次郎を通じて日本の戦後を学ぶ。

第18回 講座：レポートの書き方
課題として提出するレポートを書く際の注意点など
第19回 講座：レポートの作法
レポートを書く際に必要な作法を学ぶ。
第20回 「財閥」とは何か？ 江戸？ 明治？ 昭和、そして現代
聞き慣れた「財閥」という言葉の日本経済史的見解
第21回 茶、時計、お洒落の経済史
それぞれの商品から見る経済史。
第22回 戦後日本の高度経済成長(1955-73年)
高度経済成長期の日本について学ぶ。
第23回 読書の文化史
一つの「行為」から見る歴史を学ぶ。

第24回 ロシア経済の歴史的背景と現在
ロシア革命以後から現在に至るロシア経済について学ぶ。
第25回 田沼意次の対ロシア経済構想
江戸中後期に計画されたロシアとの国交と通商政策について学ぶ。
第26回 大富豪から見る世界史
雑誌『フォーブス』に取り上げられる富豪から見た経済史。
第27回 アメリカ的生産システムとトヨタ
テラー主義や部品の互換性、トヨタ式生産システムについて学ぶ。
第28回 グローバルヒストリーの世界
国家 多様性、移民について学ぶ。

第29回 振り返り1
今学期の授業の振り返り。
第30回 振り返り2
今学期の授業の振り返り。

2022年度 後期

4単位
経済史総論
関谷 次博

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

歴史は繰り返すという言葉があります。過去の過ちを繰り返さないためにも歴史に学びます。先人が築いた知恵という歴史の教訓に学びましょう。

本講義はDPの1「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」に対応しています。

< 到達目標 >

1. 歴史の出来事を経済理論にあてはめて考えることができる。

2. 経済統計データの簡単な数的処理ができる。

3. 自分の言葉で説明することができる。

< 授業のキーワード >

近現代日本史・世界史、経済統計

< 授業の進め方 >

経済上の出来事を講義の前半で解説します。その後に関連する経済統計データを使って数的処理をし、分析するという作業をおこないます。

< 履修するにあたって >

計算に際しては、携帯電話等の電卓機能を一時的に使用することを認めますが、毎時間のことですので、できる限り電卓を持参することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

難しい計算ではありませんが、どのようなデータのときにどのような計算処理をおこなうかを理解するためには、様々な統計データをもとに繰り返し作業することで身に付きます。(講義後30分程度)

< 提出課題など >

毎週の1時間分は課題を提示します。提出された課題は、次回講義時に添削の上返却します。

< 成績評価方法・基準 >

確認テスト40%、期末レポート60%

なお、提出課題が3分の2に満たない場合には、成績評価の対象とはせず「/」となります。

< テキスト >

講義中にプリントを配布します。

< 参考図書 >

講義中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の進め方について説明する。

第2回 基礎的経済知識

経済史の講義で事前に理解してほしい基礎的経済知識を修得する。

第3回 GDPデータ

GDPデータの基本を理解する。

第4回 課題

第5回講義で使う資料用にデータ分析と予習をおこないます。

第5回 高度経済成長

GDPデータを使って、高度経済成長とは何かを理解する。

第6回 課題

第7回講義で使う資料用にデータ分析と予習をおこないます。

第7回 財政政策

経済データをもとに大恐慌時の財政政策の特徴を理解する。

第8回 課題

第9回講義で使う資料用にデータ分析と予習をおこな

ます。

第9回 金融政策
金利のデータをもとに金融政策を理解する。

第10回 課題

第11回講義で使う資料用にデータ分析と予習をおこないます。

第11回 労働
データをもとに大恐慌前後の労働の変化を理解する。

第12回 映画で見る経済史
講義に関わる映画を見て経済史の理解を深めます。

第13回 確認テスト
3?12回の分の確認テスト

第14回 確認テスト
3?12回の分の確認テスト

第15回 確認テストの解説
確認テストの結果を発表するとともに、全問の解説をおこなう。

第16回 課題

第17回講義で使う資料用にデータ分析と予習をおこないます。

第17回 物価
データをもとに実質賃金を理解する。

第18回 課題

第19回講義で使う資料用にデータ分析と予習をおこないます。

第19回 賃金
経常収支とは何か。経済データの見方を解説する。

第20回 課題

第21回講義で使う資料用にデータ分析と予習をおこないます。

第21回 生産性
紡績業のデータをもとに生産性を理解する。

第22回 課題

第23回講義で使う資料用にデータ分析と予習をおこないます。

第23回 貿易
データをもとに日本の貿易構造と産業構造を理解する。

第24回 課題

第25回講義で使う資料用にデータ分析と予習をおこないます。

第25回 経常収支
データをもとに日本の貿易収支、経常収支の変化を理解する。

第26回 映画で見る経済史
講義に関わる映画を見て経済史の理解を深めます。

第27回 確認テスト
17?26回の分の確認テスト

第28回 確認テスト
17?26回の分の確認テスト

第29回 確認テストの解説

確認テストの結果を発表するとともに、全問の解説をおこなう。

第30回 まとめ

全講義のまとめと定期試験にむけた解説をおこなう。

2022年度 前期

4単位

経済史総論

和田 将幸

< 授業の方法 >

基本的に対面での講義形式で行う。

ただし、新型コロナウイルス感染症の状況が悪化した場合には遠隔授業で行う場合もあり得る。その場合は、シラバス等を通じて告知するので注意すること。

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のDPに示すように、経済の歴史や制度に関わる知識を習得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解することを目標とする。

また、経済史科目の総論として、現代の資本主義社会や市場経済といったものが、歴史的にどのように形成されてきたものなのかを理解することを目的としている。

< 到達目標 >

基本的な歴史的事実を理解し、その意義を理解できる。また、市場経済とはどのようなものであるのか、市場経済に基礎を置く資本主義という制度がどのようなものであるのかについて、深い理解を得られる。

< 授業のキーワード >

市場 経済発展 歴史 経済史

< 授業の進め方 >

基本的に対面での講義形式で講義を進める。2時限連続の科目であるため、講義の後半はほぼ毎回、簡単な課題を課す予定である。

< 履修するにあたって >

テレビやメディアで目にする経済・社会のニュースに関心を持って欲しい。それがいったい何であるのか、どのような意義があるのか関心を持ってもらうことが、歴史的な理解につながるはずである。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業中に指示されたテキストは、事前に目を通しておくことが望ましい。また、理解を深めるために、30分?1時間程度、参考文献を復習しておくことが必要である。特に、講義中に課題の提出を求めた回については、1時間程度の復習が必要である。

< 提出課題など >

ほぼ毎回、出席を兼ねた簡単な提出物を課す予定である。

< 成績評価方法・基準 >

成績は、ほぼ毎回課される簡単な提出物(40%)のほか、期末テスト(60%)で評価する。

< テキスト >

授業中に適宜指示する。

<参考図書>

必要に応じて、適宜指示する。

<授業計画>

第1回 Introduction: 経済と歴史

評価基準、取り上げるテーマ、講義の進め方について

第2回 概説：中世から資本主義へ

中世社会から資本主義への移行過程について

第3回 イギリス産業革命（1）

プロト工業化と市場経済

第4回 イギリス産業革命（2）

産業革命期のイギリス

第5回 イギリス産業革命（3）

イギリスの貿易

第6回 イギリス産業革命（4）

自由貿易をめぐる議論

第7回 イギリス産業革命（5）

ケーススタディ：イギリス東インド会社

第8回 イギリス産業革命（6）

ミドルクラスの勃興

第9回 イギリス産業革命（7）

資本主義とミドルクラス

第10回 20世紀のイギリス

ミドルクラス2

第11回 課題（1）：イギリス経済史の総括

3-10回目のいずれかの講義で出題された1回目の課題について、確認と復習を行う

第12回 課題（1）：解答とコメント

提出された解答に対するコメントと解答

第13回 アメリカの工業化（1）

建国と南北戦争

第14回 アメリカの工業化（2）

19世紀のアメリカン・システム

第15回 アメリカの工業化（3）

ビッグビジネスの成立

第16回 アメリカの工業化（4）

ケーススタディ：スタンダード・オイル

第17回 チャンドラーモデル（1）

ビッグビジネスと4つの戦略

第18回 チャンドラーモデル（2）

経営者資本主義

第19回 課題（2）：アメリカ経済史の総括

13-18回目のいずれかで出題された2回目の課題の確認と復習を行う

第20回 課題（2）：解答とコメント

課題についてのコメント、解答

第21回 日本の工業化（1）

近世日本の流通構造

第22回 日本の工業化（2）

戦争の時代から成長の時代へ

第23回 日本の工業化（3）

日本的経営

第24回 日本の工業化（4）

ケーススタディ：三井財閥

第25回 課題（3）：日本経済史の総括

21-24回目のいずれかで出題された3回目の課題について、確認と復習を行う

第26回 課題（3）：解答とコメント

課題についてのコメント、解答

第27回 総復習（1）

主にイギリス経済史についての復習を行う

第28回 総復習（2）

主にアメリカ経済史について復習を行う

第29回 総復習（3）

主に日本経済史について復習を行う

第30回 総復習（4）

総復習

2022年度 前期

2単位

経済数学

柴田 淳子

<授業の方法>

講義（場合によっては【遠隔授業】）

<授業の目的>

本科目では、DP（学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」ため、物事を理論的に理解する思考力を身に付けることを目指します。

本科目は、専門教育科目の選択必修科目における専門リテラシー科目に属する科目です。

経済学を学ぶ上で必要となる基礎的な数学知識について学習します。高校までに学習した基礎数学の内容を再確認するとともに、数学が経済学や現実の社会でどのように利用されているのかを知ることを目的とします。

<到達目標>

1. 経済学を学ぶ際に必要な数学の基礎知識について説明できる。
2. 現実社会で数学がどのように利用されているかを理解できる。
3. 公務員試験や就職試験の問題を解くことができる。

<授業のキーワード>

方程式と不等式、関数とそのグラフ、数列と級数

<授業の進め方>

講義中心の授業です。テキストにしたがい、定義を説明し、「例」を提示したのち、各自「問」を解きながら理解してもらいます。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です。特に、これまでに学習していない内容は時間をかけて復習しましょう。

< 提出課題など >

講義時に、計算問題などのレポートを出題します。提出された課題レポートは、返却した後で解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

中間試験（30%）、定期試験（30%）と課題レポート（40%）により評価します。

< テキスト >

塩出省吾，上野信行，柴田淳子，中村光宏，『社会科学系学生のための基礎数学』，共立出版
必ず，テキストを持参してください。

< 参考図書 >

柴田淳子，奥原浩之，『経営・経済を学ぶ学生のための基礎数学』，共立出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス，数の概念，整式と分数式

数の分類，複素数

第2回 2次方程式，2次不等式

因数分解，解の公式，解と係数の関係

第3回 等差数列

等差数列の一般項とその和

第4回 等比数列とその応用

等比数列の一般項とその和，積立預金

第5回 無限級数

無限級数の和とその極限，政府購入乗数と租税乗数

第6回 階差数列

階差数列を用いた元の数列の一般項

第7回 前半のまとめ

復習

第8回 中間試験

前半の内容に関する試験

第9回 1次関数，逆関数，合成関数

1次関数のグラフの移動と回転，逆関数の求め方とグラフ

第10回 2次関数

2次関数のグラフ，2次関数と2次方程式

第11回 分数関数，無理関数

分数関数のグラフ，無理関数のグラフ

第12回 指数関数

指数法則，指数関数のグラフ

第13回 対数関数

対数の基本性質，対数関数のグラフ

第14回 三角関数，多変数関数

三角関数における重要な公式，1変数関数と多変数関数

第15回 後半のまとめ

復習

2022年度 前期

2単位

経済数学

安達 啓介

< 授業の方法 >

講義（場合によっては【遠隔授業】）

< 授業の目的 >

本科目では，DP（学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し，統計的な処理・分析ができ，政策課題に対応できる」ため，物事を理論的に理解する思考力を身に付けることを目指します。

本科目は，専門教育科目の選択必修科目における専門リテラシー科目に属する科目です。

経済学を学ぶ上で必要となる基礎的な数学知識について学習します。高校までに学習した基礎数学の内容を再確認するとともに，数学が経済学や現実の社会でどのように利用されているのかを知ることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 経済学を学ぶ際に必要な数学の基礎知識について説明できる。

2. 現実社会で数学がどのように利用されているかを理解できる。

3. 公務員試験や就職試験の問題を解くことができる。

< 授業のキーワード >

方程式と不等式，関数とそのグラフ，数列と級数

< 授業の進め方 >

講義中心の授業です。テキストにしたがい，定義を説明し，「例」を提示したのち，各自「問」を解きながら理解してもらいます。

< 履修するにあたって >

・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。

・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。

・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。

・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です。特に、これまでに学習していない内容は時間をかけて復習しましょう。

< 提出課題など >

毎回、授業のまとめとして課題を課す（詳細は第1回の授業で説明）。これにより、各学生の理解度、習熟度を逐一把握し、授業の展開度を調整する。また、次回授業の冒頭にその内容の復習・解説を入れることで、全体へ

のフィードバックを行い、基礎力の着実な向上を図る。

<成績評価方法・基準>

定期試験（50%）と課題レポート（50%）により評価します。

<テキスト>

塩出省吾，上野信行，柴田淳子，中村光宏，『社会科学系学生のための基礎数学』，共立出版

必ず，テキストを持参してください。

<参考図書>

柴田淳子，奥原浩之，『経営・経済を学ぶ学生のための基礎数学』，共立出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス，数の概念，整式と分数式

数の分類，複素数

第2回 2次方程式，2次不等式

因数分解，解の公式，解と係数の関係

第3回 等差数列

等差数列の一般項とその和

第4回 等比数列とその応用

等比数列の一般項とその和，積立預金

第5回 無限級数

無限級数の和とその極限，政府購入乗数と租税乗数

第6回 階差数列

階差数列を用いた元の数列の一般項

第7回 前半のまとめ

復習

第8回 中間試験（中止）

前半の内容に関する試験

第9回 1次関数，逆関数，合成関数

1次関数のグラフの移動と回転，逆関数の求め方とグラフ

第10回 2次関数

2次関数のグラフ，2次関数と2次方程式

第11回 分数関数，無理関数

分数関数のグラフ，無理関数のグラフ

第12回 指数関数

指数法則，指数関数のグラフ

第13回 対数関数

対数の基本性質，対数関数のグラフ

第14回 三角関数，多変数関数

三角関数における重要な公式，1変数関数と多変数関数

第15回 後半のまとめ

復習

2022年度 前期

2単位

経済数学

大住 康之

<授業の方法>

講義（場合によっては【遠隔授業】）

<授業の目的>

本科目では，DP（学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し，統計的な処理・分析ができ，政策課題に対応できる」ため，物事を理論的に理解する思考力を身に付けることを目指します。

本科目は，専門教育科目の選択必修科目における専門リテラシー科目に属する科目です。

経済学を学ぶ上で必要となる基礎的な数学知識について学習します。高校までに学習した基礎数学の内容を再確認するとともに，数学が経済学や現実の社会でどのように利用されているのかを知ることを目的とします。

<到達目標>

1. 経済学を学ぶ際に必要な数学の基礎知識について説明できる。

2. 現実社会で数学がどのように利用されているかを理解できる。

3. 公務員試験や就職試験の問題を解くことができる。

<授業のキーワード>

方程式と不等式，関数とそのグラフ，数列と級数

<授業の進め方>

講義中心の授業です。テキストにしたがい，定義を説明し，「例」を提示したのち，各自「問」を解きながら理解してもらいます。

<授業時間外に必要な学修>

毎回，1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です。特に，これまでに学習していない内容は時間をかけて復習しましょう。

<提出課題など>

講義時に，計算問題などのレポートを出題します。提出された課題レポートは，返却した後で解説を行います。

<成績評価方法・基準>

定期試験（50%）と課題レポート（50%）により評価します。

<テキスト>

塩出省吾，上野信行，柴田淳子，中村光宏，『社会科学系学生のための基礎数学』，共立出版

必ず，テキストを持参してください。

<参考図書>

柴田淳子，奥原浩之，『経営・経済を学ぶ学生のための基礎数学』，共立出版

<授業計画>

第1回 ガイダンス，数の概念，整式と分数式

数の分類，複素数

第2回 2次方程式，2次不等式

因数分解，解の公式，解と係数の関係

第3回 等差数列

等差数列の一般項とその和

第4回 等比数列とその応用

等比数列の一般項とその和，積立預金
 第5回 無限級数
 無限級数の和とその極限，政府購入乗数と租税乗数
 第6回 階差数列
 階差数列を用いた元の数列の一般項
 第7回 前半のまとめ
 復習
 第8回 中間試験（中止）
 前半の内容に関する試験
 第9回 1次関数，逆関数，合成関数
 1次関数のグラフの移動と回転，逆関数の求め方とグラフ
 第10回 2次関数
 2次関数のグラフ，2次関数と2次方程式
 第11回 分数関数，無理関数
 分数関数のグラフ，無理関数のグラフ
 第12回 指数関数
 指数法則，指数関数のグラフ
 第13回 対数関数
 対数の基本性質，対数関数のグラフ
 第14回 三角関数，多変数関数
 三角関数における重要な公式，1変数関数と多変数関数
 第15回 後半のまとめ
 復習

 2022年度 後期
 2単位
 経済数学
 安達 啓介

< 授業の方法 >
 講義（場合によっては【遠隔授業】）
 < 授業の目的 >
 本科目では，DP（学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し，統計的な処理・分析ができ，政策課題に対応できる」ため，物事を理論的に理解する思考力を身に付けることを目指します。
 本科目は，専門教育科目の選択必修科目における専門リテラシー科目に属する科目です。
 経済学を学ぶ上で必要となる基礎的な数学知識について学習します。高校までに学習した基礎数学の内容を再確認するとともに，数学が経済学や現実の社会でどのように利用されているのかを知ることを目的とします。
 < 到達目標 >
 1．経済学を学ぶ際に必要な数学の基礎知識について説明できる。（知識）
 2．現実社会で数学がどのように利用されているかを理解できる。（知識）
 3．公務員試験や就職試験の問題を解くことができる。（知識）

< 授業のキーワード >
 行列，微分法，積分法
 < 授業の進め方 >
 講義中心の授業です。テキストにしたがい，定義を説明し，「例」を提示したのち，各自「問」を解きながら理解してもらいます。
 < 履修するにあたって >
 ・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。
 ・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。
 ・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。
 ・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。
 < 授業時間外に必要な学修 >
 毎回，1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です。特に，これまでに学習していない内容は時間をかけて復習しましょう。
 < 提出課題など >
 毎回、授業のまとめとして課題を課す（詳細は第1回の授業で説明）。これにより、各学生の理解度、習熟度を逐一把握し、授業の展開度を調整する。また、次回冒頭にその内容の復習・解説を入れることで（個別ではなく）、全体へのフィードバックを行い、基礎力の着実な向上を図る。
 < 成績評価方法・基準 >
 中間試験（40%），定期試験（40%），課題レポート（20%）により評価します。
 < テキスト >
 塩出省吾，上野信行，柴田淳子，中村光宏，『社会科学系学生のための基礎数学』，共立出版
 必ず，テキストを持参してください。
 < 参考図書 >
 柴田淳子，奥原浩之，『経営・経済を学ぶ学生のための基礎数学』，共立出版
 < 授業計画 >
 第1回 ガイダンス，関数の極限
 関数の極限值
 第2回 微分法の基礎(1)
 微分係数と導関数，微分法の公式
 第3回 微分法の基礎(2)
 基本関数の導関数，高次導関数
 第4回 微分法の応用
 接線と法線，関数の増減と極大・極小
 第5回 積分法の基礎
 不定積分と定積分
 第6回 積分法の応用
 面積と体積
 第7回 偏微分法

偏導関数

第8回 中間試験

これまでの内容に関する試験

第9回 ベクトルとその演算

ベクトルの計算法則

第10回 行列とその演算(1)

行列の計算方法，内積

第11回 行列とその演算(2)

行列の乗法

第12回 行列式と逆行列

余因子展開，Gaussの消去法

第13回 行列による連立方程式

Cramerの公式

第14回 固有値と固有ベクトル

固有方程式，固有ベクトル

第15回 後半のまとめ

復習

2022年度 後期

2単位

経済数学

柴田 淳子

< 授業の方法 >

講義（場合によっては【遠隔授業】）

< 授業の目的 >

本科目では，DP（学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し，統計的な処理・分析ができ，政策課題に対応できる」ため，物事を理論的に理解する思考力を身に付けることを目指します．

本科目は，専門教育科目の選択必修科目における専門リテラシー科目に属する科目です．

経済学を学ぶ上で必要となる基礎的な数学知識について学習します．高校までに学習した基礎数学の内容を再確認するとともに，数学が経済学や現実の社会でどのように利用されているのかを知ることが目的とします．

< 到達目標 >

- 1．経済学を学ぶ際に必要な数学の基礎知識について説明できる．
- 2．現実社会で数学がどのように利用されているかを理解できる．
- 3．公務員試験や就職試験の問題を解くことができる．

< 授業のキーワード >

行列，微分法，積分法

< 授業の進め方 >

講義中心の授業です．テキストにしたがい，定義を説明し，「例」を提示したのち，各自「問」を解きながら理解してもらいます．

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回，1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です．特に，これまでに学習していない内容は時間をかけて復習しましょう．

< 提出課題など >

講義時に，計算問題などのレポートを出題します．提出された課題レポートは，返却した後で解説を行います．

< 成績評価方法・基準 >

中間試験（40％），定期試験（40％），課題レポート（20％）により評価します．

< テキスト >

塩出省吾，上野信行，柴田淳子，中村光宏，『社会科学系学生のための基礎数学』，共立出版
必ず，テキストを持参してください．

< 参考図書 >

柴田淳子，奥原浩之，『経営・経済を学ぶ学生のための基礎数学』，共立出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス，関数の極限

関数の極限值

第2回 微分法の基礎(1)

微分係数と導関数，微分法の公式

第3回 微分法の基礎(2)

基本関数の導関数，高次導関数

第4回 微分法の応用

接線と法線，関数の増減と極大・極小

第5回 積分法の基礎

不定積分と定積分

第6回 積分法の応用

面積と体積

第7回 偏微分法

偏導関数

第8回 中間試験

これまでの内容に関する試験

第9回 ベクトルとその演算

ベクトルの計算法則

第10回 行列とその演算(1)

行列の計算方法，内積

第11回 行列とその演算(2)

行列の乗法

第12回 行列式と逆行列

余因子展開，Gaussの消去法

第13回 行列による連立方程式

Cramerの公式

第14回 固有値と固有ベクトル

固有方程式，固有ベクトル

第15回 後半のまとめ

復習

2022年度 後期

2単位

経済数学

大住 康之

< 授業の方法 >

講義（場合によっては【遠隔授業】）

< 授業の目的 >

本科目では、DP（学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」ため、物事を理論的に理解する思考力を身に付けることを目指します。

本科目は、専門教育科目の選択必修科目における専門リテラシー科目に属する科目です。

経済学を学ぶ上で必要となる基礎的な数学知識について学習します。高校までに学習した基礎数学の内容を再確認するとともに、数学が経済学や現実の社会でどのように利用されているのかを知ることを目的とします。

< 到達目標 >

1. 経済学を学ぶ際に必要な数学の基礎知識について説明できる。

2. 現実社会で数学がどのように利用されているかを理解できる。

3. 公務員試験や就職試験の問題を解くことができる。

< 授業のキーワード >

行列、微分法、積分法

< 授業の進め方 >

講義中心の授業です。テキストにしたがい、定義を説明し、「例」を提示したのち、各自「問」を解きながら理解してもらいます。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です。特に、これまでに学習していない内容は時間をかけて復習しましょう。

< 提出課題など >

講義時に、計算問題などのレポートを出題します。提出された課題レポートは、返却した後で解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

中間試験（40%）、定期試験（40%）、課題レポート（20%）により評価します。

< テキスト >

塩出省吾，上野信行，柴田淳子，中村光宏，『社会科学系学生のための基礎数学』，共立出版

必ず、テキストを持参してください。

< 参考図書 >

柴田淳子，奥原浩之，『経営・経済を学ぶ学生のための基礎数学』，共立出版

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス，関数の極限

関数の極限值

第2回 微分法の基礎(1)

微分係数と導関数，微分法の公式

第3回 微分法の基礎(2)

基本関数の導関数，高次導関数

第4回 微分法の応用

接線と法線，関数の増減と極大・極小

第5回 積分法の基礎

不定積分と定積分

第6回 積分法の応用

面積と体積

第7回 偏微分法

偏導関数

第8回 中間試験

これまでの内容に関する試験

第9回 ベクトルとその演算

ベクトルの計算法則

第10回 行列とその演算(1)

行列の計算方法，内積

第11回 行列とその演算(2)

行列の乗法

第12回 行列式と逆行列

余因子展開，Gaussの消去法

第13回 行列による連立方程式

Cramerの公式

第14回 固有値と固有ベクトル

固有方程式，固有ベクトル

第15回 後半のまとめ

復習

2022年度 前期

4単位

経済政策

三宅 敦史

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は基幹科目に位置付けられており、経済政策の必要性や目的について学習し、現実経済においてどのような政策がどのような意図で行われているのかについて学習する。

この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる今日の経済情勢を理解して分析することを目的とした科目である。

< 到達目標 >

経済政策の基本的な考え方が理解できる。政府や政策の必要性について理解できる。日本経済の抱える諸問題について自分なりの処方箋を提示することができる。

< 授業のキーワード >

不完全競争、市場の失敗、経済安定化政策、経済成長政策

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で進める。

< 履修するにあたって >

ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な知識があることを前提に講義を進めるので、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方を履修済みであることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 提出課題など >

毎回の講義で指示する。

< 成績評価方法・基準 >

毎週の小テスト、中間試験、期末試験を総合して判断する。授業開始から30分以上遅刻した者には出席カードの配布は行わない。小テストの提出回数が2 / 3に満たない者及び中間試験と期末試験の両方を受験しなかった者には成績評価を行わない。

< テキスト >

藤川清史編『経済政策入門』法律文化社、2020年

< 参考図書 >

神野真敏・安岡匡也編著『歴史と理論で考える 日本の経済政策』中央経済社、2020年

< 授業計画 >

第1回・第2回 経済政策とは何か

経済政策の目的や必要性について学習する。

第3回・第4回 完全競争市場

市場メカニズムによる資源配分の効率性について学習する。

第5回・第6回 市場と政府

政府による課税や補助金が経済に及ぼす影響について学習する。

第7回・第8回 不完全競争市場

独占市場や寡占市場の性質を学習し、望ましい政策の在り方について学習する。

第9回・第10回 市場の失敗1（自然独占）

自然独占の性質と規制の在り方について学習する。

第11回・第12回 市場の失敗2（外部性）

外部性が存在する経済において政府のとるべき行動について学習する。

第13回・第14回 市場の失敗3（公共財）

公共財の性質とフリーライダー問題について学習する。

第15回・第16回 中間試験

前半の理解度を確認するために中間試験を実施する。

第17回・第18回 IS-LM分析

金融政策と財政政策の効果について学習するための基本モデルであるIS-LMモデルについて学習する。

第19回・第20回 財政政策

財政政策の目的とその影響について学習する。

第21回・第22回 金融政策

金融政策の具体的な手法とその影響について学習する。

第23回・第24回 雇用政策

雇用政策と失業対策について学習する。

第25回・第26回 社会保障政策

日本における社会保障政策の現状とその問題点について学習する。

第27回・第28回 経済成長政策

経済成長のために必要な政策について学習する。

第29回・第30回 総括

これまで学習した内容を総括する。

2022年度 後期

4単位

経済政策

伴 ひかり

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義科目の目的は、経済学部でのDPに掲げる、「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できること」、および、「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること」と関連する。具体的には、経済政策の基礎的な理論と実践及び制度的枠組みについての理解を深め、現実の経済政策の動向や効果、問題点などを論理的に考察できるようになることを目的とする。本講義科目は、基幹科目の一つで、ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎知識を必要とする。

< 到達目標 >

・どのような経済問題があり、それに対してどのような経済政策手段があるか説明できる。

・経済問題の原因とそれに対する経済政策をある程度論理的に考察できる。

< 授業の進め方 >

概ねテキストに従いながらスライドを用いた講義形式で進める。適宜、練習問題を行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には予習1時間、復習1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

課題は4回程度。後日解答を解説する。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験の点数(90%)と提出課題の点数(10%)で評価する。評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければ

ならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。感染状況等によっては提出課題で評価する可能性があるので課題は必ず提出すること。

<テキスト>

藤川清史編『経済政策入門』法律文化社、2020年。

<授業計画>

第1?2回 ミクロ経済政策理論1

経済政策とは何か、また、学ぶ意義について学習する。さらに、経済政策を学ぶ上で必要なミクロ経済理論を学ぶ。市場均衡、余剰分析。

第3?4回 ミクロ経済政策理論2

間接税・補助金の効果、および市場の失敗について学ぶ。

第5?6回 マクロ経済政策理論

経済政策を学ぶ上で必要なマクロ経済政策理論を学ぶ。

第7?8回 国民経済計算

国民経済計算を学ぶことと通して、マクロ経済循環および政府の役割を理解する。

第9?10回 財政政策1

財政の3つの機能、日本の財政の現状と課題、租税の役割と税制改革の課題を学ぶ。

第11?12回 財政政策2

経済安定化政策のための財政政策の有効性、日本の財政政策の動向、公共投資と財政政策について学ぶ

第13?14回 財政政策3

不平等の尺度、税制・社会保障の所得再分配効果について学ぶ。

第15?16回 金融政策1

貨幣の機能、貨幣の供給、金融政策の目的・手段などについて学ぶ。

第17?18回 金融政策2

金融政策の理論と歴史について学ぶ。

第19?20回 物価と失業

物価や失業率などの統計を学び、物価と失業についての理論を理解した上で、物価対策や失業対策について考察する。

第21?22回 経済成長政策

成長会計方程式、生産関数などを理解し、経済成長政策について考察する。

第23?24回 地球温暖化防止政策

温暖化防止に向けた国際的な協力体制の歴史、京都メカニズム、日本の温暖化防止のための経済的手法、アジアでの排出量取引などについて学ぶ。

第25?26回 社会保障政策

社会保障について、特に社会保険と公的扶助について学ぶ。また、マイナンバー制度の意義と課題などについて考える。

第27?28回 貿易政策

貿易政策の手段と効果を理解し、保護貿易を巡る議論や

貿易協定の変遷について考察する

第29?30回 国際通貨システムとマクロ経済政策

国際収支表と為替レートについての基礎を修得し、国際通貨システムと世界経済の変遷について考察する。

2022年度 前期

2単位

経済データ処理

毛利 進太郎

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は経済学部のDPに示されている経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理ができるために講義とコンピュータによる演習によって知識と技能を身に着けることを目指しています。

現代の経済学では実際の様々なデータを分析することが求められ、分析手法への理解とコンピュータを用いた分析技能の双方が必要とされます。この講義ではパソコンを用い、様々なデータを実際に分析することで、それらの分析技能の習得を目的とします。この授業はリテラシー科目に属し、「基礎情報処理実習」などのコンピュータの実習の講義において取得した技能、また「統計学」の知識を応用する科目として位置づけられます。

統計学の基本となる平均や分散、標準偏差から推定、検定といった概念について主にEXCELを用いて実際に計算を行いながら学習し、数値データを分析するための基礎的な指標、手法についての理解、さらに統計における推定、検定の概念を理解することを目標としています。

<到達目標>

単に分析手法だけでなく、実社会における様々な経済指標の理解ができる知識と分析手法が活用できる。

<授業のキーワード>

統計、EXCEL、検定、推定、データサイエンス

<授業の進め方>

情報処理実習室で講義を行いつつ、PCを操作し実習を行います。

資料配布：dotCampusにて資料配布、課題提出を行います。

<履修するにあたって>

各自、ICT実習で学ぶEXCELの知識を習得していることが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

学修の目安となる時間は予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を行うのに0.5時間程度が必要となる。学修ではコンピュータの基本的な操作、特にEXCELについて習得していることが前提である。

<提出課題など>

毎回、課題を指示します。課題については次回、解説を行いフィードバックします。

<成績評価方法・基準>

提出課題(100%)によって評価します。

<授業計画>

1 基礎的な数学

講義を行うための基礎的な数学について解説する。

2 平均と代表値

EXCELにおいてデータから平均などの代表値と度数分布表を計算することを学習する。

3 分布と分散

分布と分散の定義と概念について学ぶ。

4 離散確率分布と一様乱数を用いたシミュレーション

EXCELの一様乱数を用いて確率分布のシミュレーションを行う。

5 確率変数

確率変数と確率分布について学ぶ。

6 確率分布

二項分布と正規分布について学ぶ。

7 正規分布と偏差値

正規分布と偏差値の導出、利用について学ぶ。

8 統計的仮説検定の基礎

統計的仮説検定の概要について簡単な例を用いて考察する。

9 正規分布における平均の仮説検定

仮説検定の最も基本的な条件である正規分布における平均についての仮説検定を学ぶ。

10 大数の法則と中心極限定理

統計的仮説検定の理論的な根拠となる大数の法則と中心極限定理について学ぶ。

11 統計的推計

統計的推計について学ぶ。

12 母平均についての検定 2

さまざまな条件の下での母平均の検定について学ぶ。

13 母平均の差の検定

2つの標本間の母平均の差の検定について学ぶ。

14 分散分析

分散分析について学ぶ。

15 演習問題

これまで学んだことを演習問題を通じて復習する。

2022年度 前期

2単位

経済データ処理

澤田 清

<授業の方法>

講義およびパソコン演習

<授業の目的>

様々なデータがあふれている社会の中で、経済や経営に関するデータを有効活用することは今後さらに重要になると考えられる。本講義では、経済や経営に関するデータ処理の基礎として、データ集計および統計処理の基本的概念を理解するとともに、コンピュータを用いた処理方法を修得することを目的とする。

なお、この科目は、経済学部のDPに示す「経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理ができる」ことを目指す。

<到達目標>

1. 表計算ソフトウェアを用いて、データ集計ができる。
2. 表計算ソフトウェアを用いて、統計処理ができる。

<授業のキーワード>

データ集計、統計処理

<授業の進め方>

毎回、基本的概念を説明した後で、パソコン上の表計算ソフトウェア(Excel)を用いた演習を行う。

<履修するにあたって>

Excelの基本操作は習得済みであることを前提に授業を進める。

<授業時間外に必要な学修>

授業時に配付するプリント資料を用いて、授業内容および演習課題の復習を毎回行うこと(60分程度)。

<提出課題など>

毎回の授業で、演習課題を出題する予定である。演習課題用のExcelファイルの配布および提出は、電子メールを用いて行う。次回授業時に、演習課題の解説を行う。

<成績評価方法・基準>

演習課題80%、授業への取り組み度20%の割合で評価する。

<テキスト>

テキストなし。プリントを配布する。

<参考図書>

必要に応じて随時紹介する。

<授業計画>

第1回 Excelの基本機能(1)

セル書式、セル参照を学ぶ。

第2回 Excelの基本機能(2)

関数の使い方を学ぶ。

第3回 Excelの基本機能(3)

いろいろな関数を学ぶ。

第4回 Excelの基本機能(4)

グラフ作成を学ぶ。

第5回 Excelによるデータ集計(1)

データの並べ替えを学ぶ。

第6回 Excelによるデータ集計(2)

抽出(フィルタ)を学ぶ。

第7回 Excelによるデータ集計(3)

データの集計(ピボットテーブル)を学ぶ。

第8回 Excelによるデータ集計(4)

データの集計（ピボットテーブル）を学ぶ。

第9回 Excelによるデータ集計(5)

データの集計（ピボットテーブル）を学ぶ。

第10回 Excelによる統計処理(1)

ヒストグラムを学ぶ。

第11回 Excelによる統計処理(2)

基本統計量を学ぶ。

第12回 Excelによる統計処理(3)

基本統計量を学ぶ。

第13回 Excelによる統計処理(4)

確率分布を学ぶ。

第14回 Excelによる統計処理(5)

確率分布を学ぶ。

第15回 Excelによる統計処理(6)

データの標準化（偏差値）を学ぶ。

2022年度 前期

2単位

経済データ処理

澤田 清

< 授業の方法 >

講義およびパソコン演習

< 授業の目的 >

様々なデータがあふれている社会の中で、経済や経営に関するデータを有効活用することは今後さらに重要になると考えられる。本講義では、経済や経営に関するデータ処理の基礎として、データ集計および統計処理の基本的概念を理解するとともに、コンピュータを用いた処理方法を修得することを目的とする。

なお、この科目は、経済学部のDPに示す「経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理ができる」ことを目指す。

< 到達目標 >

1. 表計算ソフトウェアを用いて、データ集計ができる。
2. 表計算ソフトウェアを用いて、統計処理ができる。

< 授業のキーワード >

データ集計、統計処理

< 授業の進め方 >

毎回、基本的概念を説明した後で、パソコン上の表計算ソフトウェア（Excel）を用いた演習を行う。

< 履修するにあたって >

Excelの基本操作は習得済みであることを前提に授業を進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時に配付するプリント資料を用いて、授業内容および演習課題の復習を毎回行うこと（60分程度）。

< 提出課題など >

毎回の授業で、演習課題を出題する予定である。演習課題用のExcelファイルの配布および提出は、電子メール

を用いて行う。次回授業時に、演習課題の解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

演習課題80%、授業への取り組み度20%の割合で評価する。

< テキスト >

テキストなし。プリントを配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて随時紹介する。

< 授業計画 >

第1回 Excelの基本機能(1)

セル書式、セル参照を学ぶ。

第2回 Excelの基本機能(2)

関数の使い方を学ぶ。

第3回 Excelの基本機能(3)

いろいろな関数を学ぶ。

第4回 Excelの基本機能(4)

グラフ作成を学ぶ。

第5回 Excelによるデータ集計(1)

データの並べ替えを学ぶ。

第6回 Excelによるデータ集計(2)

抽出（フィルタ）を学ぶ。

第7回 Excelによるデータ集計(3)

データの集計（ピボットテーブル）を学ぶ。

第8回 Excelによるデータ集計(4)

データの集計（ピボットテーブル）を学ぶ。

第9回 Excelによるデータ集計(5)

データの集計（ピボットテーブル）を学ぶ。

第10回 Excelによる統計処理(1)

ヒストグラムを学ぶ。

第11回 Excelによる統計処理(2)

基本統計量を学ぶ。

第12回 Excelによる統計処理(3)

基本統計量を学ぶ。

第13回 Excelによる統計処理(4)

確率分布を学ぶ。

第14回 Excelによる統計処理(5)

確率分布を学ぶ。

第15回 Excelによる統計処理(6)

データの標準化（偏差値）を学ぶ。

2022年度 前期

2単位

経済データ処理

持田 信治

< 授業の方法 >

講義とパソコンを使?した演習を?う。

なお、DotCampusで資料を配布することがあるので確認しておくこと。

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPIに示されている経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理ができるために講義とコンピュータによる演習によって知識と技能を身につけることを目指す。

現代の経済学では実際の様々なデータを分析することが求められ、分析手法への理解とコンピュータを用いた分析技能の双方が必要とされます。この講義ではパソコンを用い、様々なデータを実際に分析することで、それらの分析技能の習得を目的とします。この授業はリテラシー科目に属し、「基礎情報処理実習」などのコンピュータの実習の講義において取得した技能、また「統計学」の知識を応用する科目として位置づけられる。そこで、本講義は統計学の基本となる平均や分散、標準偏差から推定、検定といった概念について主にEXCELを用いて実際に計算を行いながら学習し、数値データを分析するための基礎的な指標、手法についての理解、さらに統計における推定、検定の概念を理解することを目標とする。また本講義は講義担当者のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づく、経営におけるデータ利用方法とデータ処理の必要性について解説する。

<到達目標>

単に分析手法だけでなく、実社会における様々な経済指標の理解ができる知識と分析手法が活用できる

<授業のキーワード>

統計、EXCEL、検定、推定、データサイエンス

<授業の進め方>

毎回、資料を配布、提示する、またパソコンを用いた課題の作成、提出を要求することがある。

<履修するにあたって>

各自、ICT実習で学ぶEXCELの知識を習得していることが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

授業の最後において、今回の講義及び前回の講義内容についてテストを行うこともあるので、授業前後の学修を行うこと。また、テストの内容は講義では説明をしていない関連内容に及ぶこともあるので講義テーマについての学修を期待する。学修の目安となる時間は予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を行うのに0.5時間程度が必要となる。学修ではコンピュータの基本的な操作、特にEXCELについて習得していることが前提である。

<提出課題など>

講義の終わりに当該講義に関するテストを行う又は講師内容に関する課題の提示を行うことがある。実施した。テストや課題については、次回の講義内で必要に応じて解説、説明を行う。

<成績評価方法・基準>

提出課題やコメントにより評価する。

また、課題やコメントに自主学習が認められる場合には特に評価する。

<授業計画>

1 基礎的な数学

講義を行うための基礎的な数学について解説する。

2 平均と度数分布

EXCELにおいてデータから平均などの代表値と度数分布表を計算することを学習する

3 分布と分散

分布と分散の定義と概念について学ぶ

4 離散確率分布と一様乱数を用いたシミュレーション 偏差値の概念について学ぶ

5 確率変数

確率変数と確率分布について学ぶ

6 確率分布

二項分布と正規分布について学ぶ。

7 正規分布と偏差値

正規分布と偏差値の導出、利用について学ぶ。

8 統計的仮説検定の基礎

統計的仮説検定の概要について簡単な例を用いて考察する

9 正規分布における平均の仮説検定

仮説検定の最も基本的な条件である正規分布における平均についての仮説検定を学ぶ。

10 大数の法則と中心極限定理

統計的仮説検定の理論的な根拠となる大数の法則と中心極限定理について学ぶ。

11 統計的推計

統計的推計について学ぶ。

12 母平均についての検定 2

さまざまな条件の下での母平均の検定について学ぶ。

13 母平均の差の検定

2つの標本間の母平均の差の検定について学ぶ。

14 分散分析

分散分析について学ぶ

15 演習問題

これまで学んだことを演習問題を通じて復習する。

2022年度 前期

2単位

経済データ処理

持田 信治

<授業の方法>

講義とパソコンを使?した演習を?う。

なお、DotCampusで資料を配布することがあるので

確認しておくこと。

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPIに示されている経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理ができるために講義とコンピュータによる演習によって知識と技能を身に着けることを目指す。

現代の経済学では実際の様々なデータを分析することが求められ、分析手法への理解とコンピュータを用いた分析技能の双方が必要とされます。この講義ではパソコンを用い、様々なデータを実際に分析することで、それらの分析技能の習得を目的とします。この授業はリテラシー科目に属し、「基礎情報処理実習」などのコンピュータの実習の講義において取得した技能、また「統計学」の知識を応用する科目として位置づけられる。そこで、本講義は統計学の基本となる平均や分散、標準偏差から推定、検定といった概念について主にEXCELを用いて実際に計算を行いながら学習し、数値データを分析するための基礎的な指標、手法についての理解、さらに統計における推定、検定の概念を理解することを目標とする。また本講義は講義担当者のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づく、経営におけるデータ利用方法とデータ処理の必要性について解説する。

< 到達目標 >

単に分析手法だけでなく、実社会における様々な経済指標の理解ができる知識と分析手法が活用できる

< 授業のキーワード >

統計、EXCEL、検定、推定、データサイエンス

< 授業の進め方 >

毎回、資料を配布、提示する、またパソコンを用いた課題の作成、提出を要求することがある。

< 履修するにあたって >

各自、ICT実習で学ぶEXCELの知識を習得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の最後において、今回の講義及び前回の講義内容についてテストを行うこともあるので、授業前後の学修を行うこと。また、テストの内容は講義では説明をしていない関連内容に及ぶこともあるので講義テーマについての学修を期待する。学修の目安となる時間は予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を行うのに0.5時間程度が必要となる。学修ではコンピュータの基本的な操作、特にEXCELについて習得していることが前提である。

< 提出課題など >

講義の終わりに当該講義に関するテストを行う又は講師内容に関する課題の提示を行うことがある。実施した。テストや課題については、次回の講義内で必要に応じて解説、説明を行う。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題やコメントにより評価する。

また、課題やコメントに自主学習が認められる場合には特に評価する。

< 授業計画 >

1 基礎的な数学

講義を行うための基礎的な数学について解説する。

2 平均と度数分布

EXCELにおいてデータから平均などの代表値と度数分布表を計算することを学習する

3 分布と分散

分布と分散の定義と概念について学ぶ

4 離散確率分布と一様乱数を用いたシミュレーション 偏差値の概念について学ぶ

5 確率変数

確率変数と確率分布について学ぶ

6 確率分布

二項分布と正規分布について学ぶ。

7 正規分布と偏差値

正規分布と偏差値の導出、利用について学ぶ。

8 統計的仮説検定の基礎

統計的仮説検定の概要について簡単な例を用いて考察する

9 正規分布における平均の仮説検定

仮説検定の最も基本的な条件である正規分布における平均についての仮説検定を学ぶ。

10 大数の法則と中心極限定理

統計的仮説検定の理論的な根拠となる大数の法則と中心極限定理について学ぶ。

11 統計的推計

統計的推計について学ぶ。

12 母平均についての検定 2

さまざまな条件の下での母平均の検定について学ぶ。

13 母平均の差の検定

2つの標本間の母平均の差の検定について学ぶ。

14 分散分析

分散分析について学ぶ

15 演習問題

これまで学んだことを演習問題を通じて復習する。

2022年度 後期
2単位
経済データ処理
澤田 清

< 授業の方法 >

講義およびパソコン演習

< 授業の目的 >

様々なデータがあふれている社会の中で、経済や経営に関するデータを有効活用することは今後さらに重要になると考えられる。本講義では、経済や経営に関するデータ処理の応用として、多変量解析およびシミュレーションの基本的概念を理解するとともに、コンピュータを用いた処理方法を修得することを目的とする。

なお、この科目は、経済学部のDPに示す「経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理ができる」ことを目指す。

< 到達目標 >

1. 表計算ソフトウェアを用いて、多変量解析ができる。
2. 表計算ソフトウェアを用いて、シミュレーションができる。

< 授業のキーワード >

多変量解析、シミュレーション

< 授業の進め方 >

毎回、基本的概念を説明した後で、パソコン上の表計算ソフトウェア（Excel）を用いた演習を行う。

< 履修するにあたって >

Excelの基本操作、および経済データ処理の内容を習得済みであることを前提に授業を進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時に配付するプリント資料を用いて、授業内容および演習課題の復習を毎回行うこと（60分程度）。

< 提出課題など >

毎回の授業で、演習課題を出題する予定である。演習課題用のExcelファイルの配布および提出は、電子メールを用いて行う。次回授業時に、演習課題の解説を行う。

< 成績評価方法・基準 >

演習課題80%、授業への取り組み度20%の割合で評価する。

< テキスト >

テキストなし。プリントを配布する。

< 参考図書 >

必要に応じて随時紹介する。

< 授業計画 >

第1回 Excelによる多変量解析(1)

散布図と回帰直線を学ぶ。

第2回 Excelによる多変量解析(2)

相関係数を学ぶ。

第3回 Excelによる多変量解析(3)

単回帰分析を学ぶ。

第4回 Excelによる多変量解析(4)

重回帰分析を学ぶ。

第5回 Excelによる多変量解析(5)

重回帰分析を学ぶ。

第6回 Excelによる多変量解析(6)

重回帰分析の応用を学ぶ。

第7回 Excelによる多変量解析(7)

重回帰分析の応用を学ぶ。

第8回 Excelによる多変量解析(8)

重回帰分析の応用を学ぶ。

第9回 Excelによるシミュレーション(1)

シミュレーションの基本を学ぶ。

第10回 Excelによるシミュレーション(2)

シミュレーションの基本を学ぶ。

第11回 Excelによるシミュレーション(3)

新聞売り子問題のシミュレーションを学ぶ。

第12回 Excelによるシミュレーション(4)

新聞売り子問題のシミュレーションを学ぶ。

第13回 Excelによるシミュレーション(5)

在庫管理問題のシミュレーションを学ぶ。

第14回 Excelによるシミュレーション(6)

在庫管理問題のシミュレーションを学ぶ。

第15回 Excelによるシミュレーション(7)

在庫管理問題のシミュレーションを学ぶ。

2022年度 後期

2単位

経済データ処理

澤田 清

< 授業の方法 >

講義およびパソコン演習

< 授業の目的 >

様々なデータがあふれている社会の中で、経済や経営に関するデータを有効活用することは今後さらに重要になると考えられる。本講義では、経済や経営に関するデータ処理の応用として、多変量解析およびシミュレーションの基本的概念を理解するとともに、コンピュータを用いた処理方法を修得することを目的とする。

なお、この科目は、経済学部のDPに示す「経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理ができる」ことを目指す。

< 到達目標 >

1. 表計算ソフトウェアを用いて、多変量解析ができる。
2. 表計算ソフトウェアを用いて、シミュレーションができる。

< 授業のキーワード >

多変量解析、シミュレーション

< 授業の進め方 >

毎回、基本的概念を説明した後で、パソコン上の表計算

ソフトウェア (Excel) を用いた演習を行う。

<履修するにあたって>

Excelの基本操作、および経済データ処理 の内容を習得済みであることを前提に授業を進める。

<授業時間外に必要な学修>

授業時に配付するプリント資料を用いて、授業内容および演習課題の復習を毎回行うこと(60分程度)。

<提出課題など>

毎回の授業で、演習課題を出題する予定である。演習課題用のExcelファイルの配布および提出は、電子メールを用いて行う。次回授業時に、演習課題の解説を行う。

<成績評価方法・基準>

演習課題80%、授業への取り組み度20%の割合で評価する。

<テキスト>

テキストなし。プリントを配布する。

<参考図書>

必要に応じて随時紹介する。

<授業計画>

第1回 Excelによる多変量解析(1)

散布図と回帰直線を学ぶ。

第2回 Excelによる多変量解析(2)

相関係数を学ぶ。

第3回 Excelによる多変量解析(3)

単回帰分析を学ぶ。

第4回 Excelによる多変量解析(4)

重回帰分析を学ぶ。

第5回 Excelによる多変量解析(5)

重回帰分析を学ぶ。

第6回 Excelによる多変量解析(6)

重回帰分析の応用を学ぶ。

第7回 Excelによる多変量解析(7)

重回帰分析の応用を学ぶ。

第8回 Excelによる多変量解析(8)

重回帰分析の応用を学ぶ。

第9回 Excelによるシミュレーション(1)

シミュレーションの基本を学ぶ。

第10回 Excelによるシミュレーション(2)

シミュレーションの基本を学ぶ。

第11回 Excelによるシミュレーション(3)

新聞売り子問題のシミュレーションを学ぶ。

第12回 Excelによるシミュレーション(4)

新聞売り子問題のシミュレーションを学ぶ。

第13回 Excelによるシミュレーション(5)

在庫管理問題のシミュレーションを学ぶ。

第14回 Excelによるシミュレーション(6)

在庫管理問題のシミュレーションを学ぶ。

第15回 Excelによるシミュレーション(7)

在庫管理問題のシミュレーションを学ぶ。

2022年度 後期

2単位

経済データ処理

毛利 進太郎

<授業の方法>

講義・実習

<授業の目的>

この科目は経済学部のDPに示されている経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理ができるために講義とコンピュータによる演習によって知識と技能を身に着けることを目指しています。

現代の経済学では実際の様々なデータを分析することが求められ、分析手法への理解とコンピュータを用いた分析技能の双方が必要とされます。この講義ではパソコンを用い、様々なデータを実際に分析することで、それらの分析技能の習得を目的とします。この授業はリテラシー科目に属し、「基礎情報処理実習」などのコンピュータの実習の講義において取得した技能、また「統計学」の知識を応用する科目として位置づけられます。

統計学において基本的な分析手法であり経済学などでも多く用いられる回帰分析を学び、EXCELを用いて実際の分析を行いながら回帰分析についての理解、さらに実際のデータを扱う際の分析・処理を理解することを目指しています。

<到達目標>

回帰分析を活用でき、なおかつ、実社会における様々な経済データの理解と活用ができる。

<授業のキーワード>

統計, EXCEL, 回帰分析, データサイエンス

<授業の進め方>

情報処理実習室で講義を行いつつ、PCを操作し実習を行います。

資料配布: Teamsにて資料配布, 課題提出を行います。

講義資料は必要に応じてTeamsより配布します。

<履修するにあたって>

各自、ICT実習で学ぶEXCELの知識を習得していることが望ましい。

<授業時間外に必要な学修>

学修の目安となる時間は予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を行うのに0.5時間程度が必要となる。学修ではコンピュータの基本的な操作、特にEXCELについて習得していることが前提である。

<提出課題など>

毎回、課題を指示します。課題については次回、解説を行いフィードバックします。

<成績評価方法・基準>

提出課題(100%)によって評価します。

<授業計画>

第1回 回帰分析の基礎

回帰分析の基本的な考え方について学ぶ。

第2回 回帰分析

回帰分析の概念と定義を学ぶ。

第3回 単回帰分析

単回帰分析について分析と応用を学ぶ。

第4回 単回帰分析の応用

単回帰分析の応用でできる様々な分析を学ぶ。

第5回 単回帰分析の振り返り

ここまでの単回帰分析について振り返り問題演習を行う。

第6回 重回帰分析

重回帰分析の基本的な操作について学ぶ。

第7回 重回帰分析 2

重回帰分析で得られる結果から読み取れる様々な事柄について学ぶ。

第8回 偏回帰係数

回帰分析の結果得られる回帰係数から、偏回帰係数の概念について学ぶ。

第9回 時系列分析

時系列データの分析について学ぶ。

指数、増減率、移動平均について学ぶ。

第10回 時系列データの分析 2

時系列データの分析について学ぶ。

自己相関の概念と季節調整について学ぶ。

第11回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

主に構造変化について扱う。

第12回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

ダミー変数を用いた質的データの扱いを学ぶ。

第13回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

失業率、インフレ率の関係等を扱う。

第14回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

主にコンジョイント分析について扱う。

第15回 問題演習

これまでの学習内容を振り返り問題演習を行う。

2022年度 後期

2単位

経済データ処理

持田 信治

< 授業の方法 >

講義とパソコンを使?した演習を?う。

なお、DotCampusで資料を配布することがあるので確認しておくこと。

< 授業の目的 >

この科目は経済学部DPに示されている経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理ができるために講義とコンピュータによる演習によって知識と技能を身に着けることを目指す。

現代の経済学では実際の様々なデータを分析することが求められ、分析手法への理解とコンピュータを用いた分析技能の双方が必要とされます。この講義ではパソコンを用い、様々なデータを実際に分析することで、それらの分析技能の習得を目的とします。この授業はリテラシー科目に属し、「基礎情報処理実習」などのコンピュータの実習の講義において取得した技能、また「統計学」の知識を応用する科目として位置づけられる。統計学において基本的な分析手法であり経済学などでも多く用いられる回帰分析を学び、EXCELを用いて実際の分析を行いながら回帰分析についての理解、さらに実際のデータを扱う際の分析・処理を理解することを目標としている。また本講義は講義担当者のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づく、経営におけるデータ利用方法とデータ処理の必要性について解説する。

< 到達目標 >

回帰分析を活用でき、なおかつ、実社会における様々な経済データの理解と活用ができる。

< 授業のキーワード >

統計、EXCEL、回帰分析、データサイエンス

< 授業の進め方 >

情報処理実習室で講義を行いつつ、PCを操作し実習を行う。

毎回、資料を配布、提示する、またパソコン用いた課題の作成、提出を要求することがある。

< 履修するにあたって >

各自、ICT実習で学ぶEXCELの知識を習得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の最後において、今回の講義及び前回の講義内容についてテストを行うこともあるので、

授業前後の学修を行うこと。またテストの内容は講義では説明をしていない関連内容に及ぶこと

もあるので講義テーマについての学修を期待する。学修の目安となる時間は予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を行うのに0.5時間程度が必要となる。学修ではコンピュータの基本的な操作、特にEXCELについて習得していることが前提である。

< 提出課題など >

講義の終わりに当該講義に関するテストを行う、又は講師内容に関するレポートの提出を要求することがある。実施したテストや課題については、次回の講義内で必要に応じて解説、説明を行う。

< 成績評価方法・基準 >

課題やコメントにより評価する。

また、課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。

< 授業計画 >

第1回 回帰分析の基礎

回帰分析の基本的な考え方について学ぶ。

第2回 回帰分析

回帰分析の概念と定義を学ぶ。

第3回 単回帰分析

単回帰分析について分析と応用を学ぶ。

第4回 単回帰分析の応用

単回帰分析の応用でできる様々な分析を学ぶ。

第5回 単回帰分析の振り返り

ここまでの単回帰分析について振り返り問題演習を行う。

第6回 重回帰分析

重回帰分析の基本的な操作について学ぶ

第7回 重回帰分析 2

重回帰分析で得られる結果から読み取れる様々な事柄について学ぶ。

第8回 偏回帰係数

回帰分析の結果得られる回帰係数から、偏回帰係数の概念について学ぶ。

第9回 時系列分析

時系列データの分析について学ぶ。

指数、増減率、移動平均について学ぶ。

第10回 時系列データの分析 2

時系列データの分析について学ぶ。

自己相関の概念と季節調整について学ぶ。

第11回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

主に構造変化について扱う。

第12回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

ダミー変数を用いた質的データの扱いを学ぶ。

第13回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

失業率、インフレ率の関係等を扱う。

第14回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

主にコンジョイント分析について扱う。

第15回 問題演習

これまでの学習内容を振り返り問題演習を行う。

2022年度 後期

2単位

経済データ処理

持田 信治

< 授業の方法 >

講義とパソコンを使?した演習を?う。

なお、DotCampusで資料を配布することがあるので確認しておくこと。

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPに示されている経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理ができるために講義とコンピュータによる演習によって知識と技能を身に着けることを目指す。

現代の経済学では実際の様々なデータを分析することが求められ、分析手法への理解とコンピュータを用いた分析技能の双方が必要とされます。この講義ではパソコンを用い、様々なデータを実際に分析することで、それらの分析技能の習得を目的とします。この授業はリテラシー科目に属し、「基礎情報処理実習」などのコンピュータの実習の講義において取得した技能、また「統計学」の知識を応用する科目として位置づけられる。統計学において基本的な分析手法であり経済学などでも多く用いられる回帰分析を学び、EXCELを用いて実際の分析を行いながら回帰分析についての理解、さらに実際のデータを扱う際の分析・処理を理解することを目標としている。また本講義は講義担当者のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づく、経営におけるデータ利用方法とデータ処理の必要性について解説する。

< 到達目標 >

回帰分析を活用でき、なおかつ、実社会における様々な経済データの理解と活用ができる。

< 授業のキーワード >

統計、EXCEL、回帰分析、データサイエンス

< 授業の進め方 >

情報処理実習室で講義を行いつつ、PCを操作し実習を行う。

毎回、資料を配布、提示する、またパソコン用いた課題の作成、提出を要求することがある。

< 履修するにあたって >

各自、ICT実習で学ぶEXCELの知識を習得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の最後において、今回の講義及び前回の講義内容についてテストを行うこともあるので、授業前後の学修を行うこと。また、テストの内容は講義では説明をしていない関連内容及びことでもあるので講義テーマについての学修を期待する。学修の目安となる時間は予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を行うのに0.5時間程度が必要となる。学修ではコンピュータの基本的な操作、特にEXCELについて習得していることが前提である。

< 提出課題など >

講義の終わりに当該講義に関するテストを行う、又は講師内容に関するレポートの提出を要求することがある。実施したテストや課題については、次回の講義内で必要に応じて解説、説明を行う。

< 成績評価方法・基準 >

課題やコメントにより評価する。
また、課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。

< 授業計画 >

第1回 回帰分析の基礎

回帰分析の基本的な考え方について学ぶ。

第2回 回帰分析

回帰分析の概念と定義を学ぶ。

第3回 単回帰分析

単回帰分析について分析と応用を学ぶ。

第4回 単回帰分析の応用

単回帰分析の応用でできる様々な分析を学ぶ。

第5回 単回帰分析の振り返り

ここまでの単回帰分析について振り返り問題演習を行う。

第6回 重回帰分析

重回帰分析の基本的な操作について学ぶ

第7回 重回帰分析 2

重回帰分析で得られる結果から読み取れる様々な事柄について学ぶ。

第8回 偏回帰係数

回帰分析の結果得られる回帰係数から、偏回帰係数の概念について学ぶ。

第9回 時系列分析

時系列データの分析について学ぶ。

指数、増減率、移動平均について学ぶ。

第10回 時系列データの分析 2

時系列データの分析について学ぶ。

自己関連の概念と季節調整について学ぶ。

第11回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

主に構造変化について扱う。

第12回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

ダミー変数を用いた質的データの扱いを学ぶ。

第13回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

失業率、インフレ率の関係等を扱う。

第14回 様々なデータの分析

様々な社会データを分析し、これまで学んだ知識を活用した演習を行う。

主にコンジョイント分析について扱う。

第15回 問題演習

これまでの学習内容を振り返り問題演習を行う。

2022年度 後期

4単位

経済法

久保 成史

< 授業の方法 >

対面授業（講義）で実施する。

ただし、急激な感染拡大の場合は、その都度、授業形態の変更を通知する。

警報発令時の授業：学則に従う。

< 授業の目的 >

この授業では、法と経済学の学際的領域について、経済活動に関する法規制の存在を学修することを目的とする。経済学部のDPである「経済社会への多面的知識をもつ」ことに含まれる科目であることを踏まえて、経済学的知識と法的知識の関連性をこの授業を通じて修得することも目的の一つである。

そのために、経済政策の一部である競争政策と法の関係が、経済活動を通じて具体的にどのように捉えられているかを理解することが重要である。たとえば、公序良俗に反しない限り、契約自由の原則に基づき会社は自由に合併契約を締結できるはずである。しかし、自由に合併できない場合の法規制がある。また、何故話し合いによって、当該市場で活動している会社同士で価格を決めたり、生産量を設定できないのか。このような諸点も含めて、詳細な法解釈を最小限にとどめて、会社の経済活動と法規制の関係を展開していく。

なお、近時の改正についても説明する。

<到達目標>

- 1 経済法（特に、独占禁止法）の全体像と自由な経済活動における法規制の必要性を説明することができる。
- 2 基本的な専門用語を用いて、簡単な問題点（例：談合）を説明して、その予防策を策定できる。
- 3 新聞等のホットな話題（例：ビッグデータの寡占化に対する規制）について関心をもち、自らの考えを示すと共に他者との見解の相違点を見出すことができる。

<授業のキーワード>

独禁法、反トラスト法、シャーマン法

<授業の進め方>

第1回? 第5回までは作成資料のレジユメの配布、第6回以降は参考図書に沿ったレジユメを配布する。

<履修するにあたって>

新聞等で「談合」、「合併」、「寡占化」等の文字を見つけたら丹念に読んでおくこと。

<授業時間外に必要な学修>

経済法の範囲は広範囲に及ぶために、授業の中心は、独占禁止法である。しかし、会社法の合併事例（吸収合併・新設合併）や事業の（一部・全部）譲渡の箇所は、会社法との交錯領域である。法は、個別の法典によって縦に整理されるが、実務の世界では法の横断的な解釈・理解が必要とされる。

したがって、企業の対内的活動（主として会社法）と対外的な活動（主として独占禁止法）を理解するために、日頃から、経済記事や経済・経営関連の文庫本（例：日経文庫等）などを読んでおくことである。また、授業に関して、予習・復習にそれぞれ1時間程度はかけてほしい。

なお、第6回以降は、授業計画と参考図書の章立てがほぼリンクしているので、配布するレジユメの補足部分は参考図書を丹念に読むことである。

<提出課題など>

別になし。

<成績評価方法・基準>

定期試験：80%

小テスト：20%

<テキスト>

テキストに代わって、毎回、詳細なレジユメを配布する。

<参考図書>

特に指定しないが、読んでおくのが望ましい参考図書。久保成史・田中裕明『独占禁止法講義（第3版）』2014年（中央経済社）

<授業計画>

第1回 経済活動と法

経済法の領域、経済法の役割と性格、経済法と独占禁止法

第2回 経済法の歴史（1）

経済法の生成と発展、経済法の2つの基本形

第3回 経済法の歴史（2）

制定事情、財閥解体、持株会社整理委員会等

第4回 経済規制の現況

公益事業と規制緩和の動向、規制と独占禁止法の関係

第5回 反独占法の制定史

アメリカ反トラスト法制定事情、アメリカ主要3法と我が国独占禁止法の関係

第6回 独占禁止法総論（1）

経済活動と競争のルール、個別事業法と独占禁止法

第7回 独占禁止法総論（2）

経済法から独占禁止法へ、私的独占、カルテルとは何か

第8回 独占禁止法の目的

公正且つ自由な競争、解釈上の重要な文言

第9回 課徴金等

独占禁止法の実効性担保、改正の経緯等

第10回 私的独占等

独占的行為と独占の状態、市場行為規制と市場構造規制

第11回 有効競争論

競争の行為概念と構造概念、有効競争モデル

第12回 不当な取引制限

私的独占と不当な取引制限の相違点、談合、カルテル

第13回 行政指導

談合と行政指導の関連性、行政指導のメリット・デメリット

第14回 判例と審決

私的独占と不当な取引制限の代表的事例の説明、第9回の法改正に関する補足説明

第15回 要点整理（1）

経済法と独占禁止法の歴史（特に、財閥解体から企業集団への移行）、私的独占と不当な取引制限

第16回 不公正な取引方法（総論）

公正競争阻害性、私的独占、不当な取引制限との位置づけ

第17回 優越的地位の濫用規制

優越的地位の利用から濫用へ、市場支配的地位（EU法）の濫用とGAFA等

第18回 共同の取引拒絶

共同ボイコット、単独ボイコット、法的行為類型と一般指定

第19回 不当な差別対価

不当性の考え方、法定行為類型と一般指定

第20回 不当廉売他

公正取引委員会の二分法的基準、欺まんの顧客誘引

第21回 抱合せ販売他

学説・判例の検討、排他的条件付取引

第22回 再販売価格拘束

再販売価格維持制度と再販売価格拘束（維持）

第23回 拘束条件付取引

価格拘束、販売先拘束、販売地域の制限、販売方法の制

限

第24回 要点整理(2)

不正な取引方法のまとめ、法的行為類型と一般指定

第25回 事業者団体の規制

事業者団体(各業界の団体)の意義、構成事業者の行為規制等

第26回 経済力の集中(1)

事業支配力の過度の集中規制、持株会社の事実上の解禁

第27回 経済力の集中(2)

会社の株式保有規制、合併、事業譲渡

第28回 独占禁止法の周辺領域

景表法、知的財産法(特許法、実用新案法、意匠法、著作権法、商法)

第29回 主要ガイドライン

独占禁止法における重要なガイドラインの説明

第30回 まとめ

授業内容の総まとめと整理

2022年度 後期

4単位

経済理論問題演習 [公共]

岡本 弥

< 授業の方法 >

講義

【9月20日(月)~10月2日(土)までの授業形態】

遠隔授業(リアルタイム授業)

詳細は「遠隔授業情報」を参照のこと。

【10月4日(月)以降の授業形態】

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のDP(ディプロマポリシー:学位授与方針)の「2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことに資するものである。

この科目は、2年次後期配当の専門科目であり、2年次前期配当の「ミクロ経済学」「マクロ経済学」で学んだ経済理論への理解を深化させるために、経済理論に関する問題の演習にほぼ特化している。経済理論の要所を押さえ、公務員試験の「経済原論」の基礎レベルの問題を解けるようになることを目的とする。

なお、この講義の担当者は、金融機関において融資渉外業務に約6年間従事した実務経験のある教員であり、自らの体験を踏まえてマクロ経済の動向の背景を解説するといった実践性を特色のひとつとする。

< 到達目標 >

到達目標として、以下の3つを掲げる。

2年次前期に履修した「ミクロ経済学」「マクロ経済学」で得た経済理論に関する知識や理解を深めることができる。

公務員試験の「経済原論」の基礎レベルの問題に十分対応できるようになる。

問題演習を通じて、経済学的な考え方を体得できるようになる。

< 授業の進め方 >

講義では、まず担当者が授業内容について説明し、続いて問題演習を行い、履修者に順番に解答例を板書し説明してもらうことを予定している。加えて、ほぼ毎週、講義内容についてレポート課題を課す。

< 履修するにあたって >

この科目は、2年次前期配当の「ミクロ経済学」「マクロ経済学」と3年次前期配当の「中級経済原論」のつなぎ目に位置する科目である。別の言い方をすれば、上記の「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の単位が取得済みであり、これから更に学んで公務員試験の経済原論で合格点をとることを目標としている学生をイメージしている。現時点で公務員試験の受験を視野に入れているかどうかはさておき、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎が固まっていると期待されるレベル、すなわち「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の成績がともにB以上であることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

レポート課題を授業の復習と位置づけ、1時間程度かけて解くことを想定している。

< 提出課題など >

「授業の進め方」ですでに述べたように、隔週程度で、講義内容についてのレポート課題を課す予定である。極力次回の講義において模範解答例を示し、簡単な解説を行うものとする。レポートの出題と提出にはdotCampusあるいはMoodleを利用する。詳しくは第1回の授業時に説明する。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法は次の通り。

定期試験: 60%

レポート: 40%

問題演習における解答の板書など授業への貢献度にも加算する。

【特に重要な点】

ただし、新型コロナウイルス感染拡大により定期試験実施が困難となる場合、レポート100%で評価する。

< テキスト >

テキストは指定しないが、下記の参考書は授業内容の理解を高めてくれるだろう。

< 参考図書 >

家森信善・小川光(2007)『基礎からわかるミクロ経済学(第2版)』中央経済社

家森信善(2011)『基礎からわかるマクロ経済学(第3版)』中央経済社

茂木喜久雄(2019)『試験対応 新らくらくミクロ経済学入門 第2版』洋泉社

茂木喜久雄（2019）『試験対応 新 らくらくマクロ経済学入門 第2版』洋泉社

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーションとミクロ経済学の基礎力確認テスト

授業の内容や進め方、評価方法、その他の注意点について説明したあと、現時点のミクロ経済学の知識や理解力を確認するため基礎力確認テストを実施する。

第2回 必要な数学の知識の確認

特にミクロ経済学の問題演習において必要となる、1変数の微分、偏微分、についてかいつまんで説明し、簡単な計算問題で定着度を高める。

第3回 消費者行動の理論

講義形式にて効用関数と無差別曲線について概説する。

第4回 消費者行動の理論

効用関数と無差別曲線に関連する問題の演習を行う。

第5回 消費者行動の理論

講義形式にて予算制約と効用最大化問題について概説する。

第6回 消費者行動の理論

予算制約と効用最大化問題に関する問題の演習を行う。

第7回 消費者行動の理論

講義にて需要の価格弾力性や消費者余剰について概説する。

第8回 消費者行動の理論

需要の価格弾力性と消費者余剰に関する問題の演習を行う。

第9回 消費者行動の理論

講義にて需要関数の導出や需要関数の特徴について概説する。

第10回 消費者行動の理論

需要関数の導出・需要曲線の特徴に関する問題の演習を行う。

第11回 消費者行動の理論

講義にて所得効果と代替効果について概説する。

第12回 消費者行動の理論

所得効果と代替効果に関する問題の演習を行う。

第13回 消費者行動の理論

講義にて、無差別曲線、消費の2期モデルと借入制約、市場需要の計算など、消費者行動の理論においてやや発展的と位置づけられるテーマについて概説する。

第14回 消費者行動の理論

無差別曲線、消費の2期モデルと借入制約、市場需要の計算など、消費者行動の理論においてやや発展的と位置づけられるテーマに関する問題の演習を行う。

第15回 消費者行動の理論

前半の講義のまとめを行う。

第16回 消費者行動の理論

前半の講義のまとめを行う。

第17回 国民所得の概念と決定

講義にて国内総生産、三面等価の原則について概説する。

第18回 国民所得の概念と決定

国内総生産、三面等価の原則に関する問題の演習を行う。

第19回 国民所得の概念と決定

講義にて生産と支出のバランスである"ISバランス"について概説する。

第20回 国民所得の概念と決定

生産と支出のバランスである"ISバランス"に関する問題の演習を行う。

第21回 国民所得の概念と決定

講義にて"45度線分析"について概説する。

第22回 国民所得の概念と決定

"45度線分析"に関する基礎的な問題の演習を行う。

第23回 乗数理論

講義にて有効需要の原理について概説する。

第24回 乗数理論

有効需要の原理に関する基礎的な問題の演習を行う。

第25回 乗数理論

講義にて投資乗数の理論について概説する。

第26回 乗数理論

投資乗数の理論に関する問題の演習を行う。

第27回 乗数理論

講義にて投資乗数、政府支出乗数、減税乗数の関係について概説する。

第28回 乗数理論

投資乗数、政府支出乗数、減税乗数に関する問題の演習を行う。

第29回 総復習（消費者理論）

これまで解いた消費者行動の理論に関する問題の中から重要度の高いものを選び、以前とは違った方法で解くことでさらに理解を深める。

第30回 総復習（国民所得の概念と決定・乗数理論）

これまで解いた国民所得の概念と決定・乗数理論に関する問題の中から重要度の高いものを選び、以前とは違った方法で解くことでさらに理解を深める。

2022年度 前期

4単位

計量経済学

西山 茂

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業の目的は、DPの「3. 経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。」と関連する。 主題 計量経済学は、統計学と経済学を融合した学問であると言える。本講義では、線型回帰モデルをベースとする計量経済学の基礎を説明

し、理論と応用について解説する。 目標 1.統計学の基礎概念を習得すること。2.単純回帰分析をえるようにすること。

<到達目標>

計量経済学の実証研究に必要な計量経済学の知識を得ることができる。

<授業の進め方>

講義

<履修するにあたって>

必ず復習すること。

<授業時間外に必要な学修>

授業内容を復習すること。最低1時間は復習のための勉強をしてください。

<提出課題など>

なし

<成績評価方法・基準>

定期試験100%の割合で評価。

<テキスト>

山本 拓著『計量経済学』新世社 ¥3,300

<参考図書>

A.S.ゴールドバーガー著 福地崇生・森口親司共訳『計量経済学の理論』東洋経済新報社 ¥3500

<授業計画>

第1回 計量経済学

計量経済学とはどういう学問かについて講義する。

第2回 和記法の復習

記号による計算方法を学習する。

第3回 確率変数と離散型確率分布

確率変数と離散型確率分布について学ぶ。

第4回 期待オペレーター：確率変数の平均と分散

期待値の概念や確率変数の平均と分散について学ぶ。

第5回 結合確率分布：2変数確率分布への拡張(1)

結合確率分布すなわち2変数以上の確率変数を持つ確率分布および条件付き分布について解説する。

第6回 結合確率分布：2変数確率への拡張(2)

結合確率分布の期待値、分散、共分散および多変数の確率変数の和の平均と分散について学ぶ。

第7回 連続型確率変数

連続型確率変数について解説する。

第8回 正規分布とその派生分布

正規分布とその派生分布について学ぶ。

第9回 データの整理

データの整理について解説する。

第10回 最小2乗法と回帰直線

最小2乗法と回帰直線について学ぶ。

第11回 回帰直線のあてはまりの尺度：決定係数

回帰直線のあてはまりの尺度：決定係数について解説する。

第12回 計算手順のまとめと練習問題

計算手順のまとめと練習問題をする。

第13回 単純回帰モデル

単純回帰モデルについて学ぶ。

第14回 回帰係数の期待値と分散

回帰係数の期待値と分散について学ぶ。

第15回 回帰係数の最良線型不偏性

回帰係数の最良線型不偏性について学ぶ。

第16回 回帰係数の分散の推定

回帰係数の分散の推定について学ぶ。

第17回 単純回帰モデルの仮説検定：t検定

単純回帰モデルの仮説検定：t検定を学ぶ。

第18回 変数選択の方法としてのt検定

変数選択の方法としてのt検定について学ぶ。

第19回 数値例と練習問題

数値例と練習問題をする。

第20回 多重回帰分析

多重回帰分析について学ぶ。

第21回 多重回帰分析の推定値の解釈

多重回帰分析の推定値の解釈について説明する。

第22回 多重共線性

多重共線性について講義する。

第23回 自由度修正済み決定係数と決定係数のおとしあな

自由度修正済み決定係数等について学ぶ。

第24回 変数の過不足とその影響

変数の過不足とその影響について学ぶ。

第25回 定数項を持たない回帰モデル

定数項を持たない回帰モデルについて説明する。

第26回 これまでの復習(1)

これまでの復習をする。

第27回 これまでの復習(2)

これまでの復習をする。

第28回 これまでの復習(3)

これまでの復習をする。

第29回 これまでの復習(4)

これまでの復習をする。

第30回 まとめ

まとめをする。

2022年度 前期

4単位

現代経済入門

三好 宏治

<授業の方法>

対面授業(講義)

<授業の目的>

本講義は受講した学生たちが、経済学部ディプロマポリシーである「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ように

なることを目指す。

【目的1】部分均衡分析の計算問題

多くの経済学者たちは市場の効率性を信頼している。各人の自由に任しておけば「見えざる手」の導きにより社会は効率的な無駄のない状態になる。同時に、市場は失敗することも経済学は教えてくれる。市場の効率性に機能不全が発生する場合、市場の自由に任しておくことはできず、政府が市場を補助する必要性が出てくる。部分均衡分析は、上述のことを説明するための最も基本的な道具である。部分均衡分析のグラフを読み解く能力は、より上位の専門科目の理解のために必須である。よって、入門である本講義は、まずもって、部分均衡分析の数学的基礎となる1次関数、連立方程式などの経済学的な使い方、グラフの読み方・書き方などを習得し、部分均衡分析の応用的な計算問題を解けるようになることを目的とする。

【目的2】部分均衡分析を用いた現実の説明

だが、数学的問題に終始することは、学生に経済学を単なる中1数学の計算問題だと誤解させることにつながりかねない。これは、経済学の墮落につながる。グラフや数式は現実の経済現象を説明する手段である。暗記にとどまらず、学生が部分均衡分析を用いて現実の具体的経済を説明できるようになることを目的とする。

<到達目標>

経済学部学生として、今後、経済を学んでいくための基本的な知識と思考のフレームワークを獲得する。

経済学のグラフが読めるだけでなく、書けるようになる（知識・技能）

部分均衡を用いて日々の経済ニュースを理解し、他人に解説できるようになる（技能）

部分均衡分析の計算問題が解ける（知識・技能）

<授業のキーワード>

経済学の全体像、曲線上の点の移動、均衡・超過需要・超過供給、様々な弾力性、傾きの変化、曲線のシフト、比較静学、余剰分析

<授業の進め方>

講義スタイルで行う。

学生の理解度に応じて進度調整を行うので、講義内容に若干の増減がある。

<履修するにあたって>

中学数学レベルの計算問題を第3週以降はほぼ毎回、課題として出題する。

時事問題を具体例として出すので、経済ニュースを毎日見る必要がある。

第3週以降は毎回グラフを描くので、普通のノート（ルーズリーフ）より、方眼ノート（ルーズリーフ）のほうが望ましい。定規は必携である。

<授業時間外に必要な学修>

【1】多くの経済学者はグラフで説明すればわかりやすいという信念を持つ。だが、そもそも小学校・中学校時代から算数・数学の学習を放棄している学生の場合、グラフ以前の問題となる。そのような学生は、自習として自分の実力にあった小学校の計算ドリルや中学数学の問題集を自分で探してやり込む努力が必要となる。（中学数学が理解できていれば不要、必要時間は学生により異なる）

【2】講義で触れる具体例は、突発的に発生した時事問題（まさしく現代経済的問題）になるかもしれない。時事問題のより深い背景を知るためにも、毎日、経済ニュースを見ること。（毎日、最低でも15分）

【3】ノート・プリント・参考図書を用いた予習・復習。（通算45時間以上）

<提出課題など>

教室での出席確認とは別に、練習課題をドットキャンパスを用いて出題する。解答は、ドットキャンパスを用いて提出してもらう。

<成績評価方法・基準>

定期試験100%

ただし、出席が3分の2に満たない学生は定期試験の点数に関わらず不可とする

<参考図書>

増田辰吉『1次関数で学ぶ経済学【改訂版】』、大学教育出版、2020年。

スティーブン・レヴィット『レヴィット ミクロ経済学 基礎編』、東洋経済新報社、2017年。

<授業計画>

第1回 経済と経済学の全体像

フロー循環図を用いて、経済の全体像と基礎用語について説明する。

第2回 経済と経済学の全体像

ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを説明していく

第3回 価格メカニズム

1次方程式の基礎を復習する。また、経済学のグラフの特徴について説明する。

第4回 価格メカニズム

関数概念について説明する。需要関数と供給関数について説明する。

第5回 価格メカニズム

価格による需給調整と均衡概念について説明していく。

第6回 価格メカニズム

均衡・超過需要・超過供給について、式とグラフの両面から説明していく。

第7回 価格メカニズム

外生変数と曲線の変化について説明する。一次関数における内生変数と外生変数の違いについて考える。

第8回 弾力性・傾き・売上

需要関数・供給関数とグラフの傾き・グラフ上の点の移

動の論理関係を説明する。

第9回 弾力性・傾き・売上

家計の行動を分析する概念として、需要の価格弾力性について解説する。

第10回 弾力性・傾き・売上

需要の価格弾力性と需要曲線の傾きの関係について図を用いて説明する。

第11回 弾力性・傾き・売上

供給曲線の傾きと供給の価格弾力性について解説する。また、供給の価格弾力性と財や市場の性質について説明する。

第12回 比較静学

所得弾力性と交差弾力性について説明する。景気変動や他の市場での変化が、分析している市場にどのような影響を与えるかを考えていく。

第13回 比較静学

余剰と死荷重について説明する。価格メカニズムが働かない場合を説明する。

第14回 比較静学

価格メカニズムが働かない場合や課税が市場に与える影響などを説明する。

第15回 基礎から発展へ

完全競争市場以外の様々な市場（独占市場・寡占市場・独占的競争市場）について説明する。また、市場の失敗を説明する。

2022年度 前期

4単位

現代経済入門

鈴木 雅顕

< 授業の方法 >

対面授業(講義)

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合(大雨、洪水等は除く)の本科目取扱いについて授業を休講します。

< 授業の目的 >

現実の経済活動に対する関心と理解を深めながら、経済学の基本的な考え方を習得することを主題とする。

次の4つの主題に沿って、講義を行う。

(1) マクロ経済指標（国内総生産、国民総所得、物価指数など）

(2) 金融と財政（日本銀行の役割、国債、利子率など）

(3) 貿易・国際金融（経常収支の黒字・赤字、為替レート、比較優位説など）

(4) 株価と景気変動。

この科目は、学部DPにおける

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

に対応しています。

< 到達目標 >

日本経済新聞などをしっかりと読みこなすのに必要な分析的枠組みを理解・習得できる。

「通説」や「俗説」の問題点を指摘し、「経済学的に正しい」分析を行えるようになる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に行う。板書をしっかりノートにとって、次の授業までに内容をしっかり理解しておくことが求められる。

< 履修するにあたって >

日頃から、ニュース・新聞などで経済に関する様々な情報に関心を持つように心がけてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回週2時間程度の復習をしてから次の授業に臨むこと。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験により評価する。

< テキスト >

テキストは指定しない。

< 授業計画 >

第1 / 2回 経済学とはどんな学問か
経済学の定義、基本概念について説明する。

第3 / 4回 GDPについて(1)

GDPの3つの定義について説明する。

第5 / 6回 GDPについて(2)

名目と実質、国内と国民、総と純、問題点などについて説明し、これまでのまとめを行う。

第7 / 8回 物価について

消費者物価指数・GDPデフレーターなどの指数、インフレ・デフレなどについて説明する。

第9 / 10回 貨幣について

貨幣の機能、銀行の役割について説明する。

第11 / 12回 日本銀行について

日本銀行の金融政策について説明する。

第13 / 14回 利子率と総需要

利子率の種類とその決定要因、投資と利子率に関する説明を行う。

第15 / 16回 国債について

国債、および財政政策について説明する。

第17 / 18回 国際経済(1)

国際収支表について説明する。

第19 / 20回 国際経済(2)

経常収支の決定要因について説明する。

第21 / 22回 国際金融(1)

為替レートおよび国際金融制度について説明する。

第23 / 24回 国際金融(2)

為替レートの適正水準について説明する。

第25 / 26回 比較優位説

貿易パターンの決定要因について、簡単なモデルを用いて説明する。

第27 / 28回 景気の決定要因

不況の経済学について説明する。

第29 / 30回 株価と景気変動

株価が景気に及ぼす影響について説明する。

2022年度 後期

4単位

現代経済入門

三好 宏治

< 授業の方法 >

対面授業(講義)

< 授業の目的 >

本講義は受講した学生たちが、経済学部ディプロマポリシーである「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになることを目指す。

【目的1】部分均衡分析の計算問題

多くの経済学者たちは市場の効率性を信頼している。各人の自由に任しておけば「見えざる手」の導きにより社会は効率的な無駄のない状態になる。同時に、市場は失敗することも経済学は教えてくれる。市場の効率性に機能不全が発生する場合、市場の自由に任しておくことはできず、政府が市場を補助する必要性が出てくる。

部分均衡分析は、上述のことを説明するための最も基本的な道具である。部分均衡分析のグラフを読み解く能力は、より上位の専門科目の理解のために必須である。

よって、入門である本講義は、まずもって、部分均衡分析の数学的基礎となる1次関数、連立方程式などの経済学的な使い方、グラフの読み方・書き方などを習得し、部分均衡分析の応用的な計算問題を解けるようになることを目的とする。

【目的2】部分均衡分析を用いた現実の説明

だが、数学的問題に終始することは、学生に経済学を単なる中1数学の計算問題だと誤解させることにつながりかねない。これは、経済学の墮落につながる。

グラフや数式は現実の経済現象を説明する手段である。暗記にとどまらず、学生が部分均衡分析を用いて現実の具体的経済を説明できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >

経済学部の学生として、今後、経済を学んでいくための基本的な知識と思考のフレームワークを獲得する。

経済学のグラフが読めるだけでなく、書けるように

なる(知識・技能)

部分均衡を用いて日々の経済ニュースを理解し、他人に解説できるようになる(技能)

部分均衡分析の計算問題が解ける(知識・技能)

< 授業のキーワード >

経済学の全体像、曲線上の点の移動、均衡・超過需要・超過供給、様々な弾力性、傾きの変化、曲線のシフト、比較静学、余剰分析

< 授業の進め方 >

講義スタイルで行う。

学生の理解度に応じて進度調整を行うので、講義内容に若干の増減がある。

< 履修するにあたって >

中学数学レベルの計算問題を第3週以降はほぼ毎回、課題として出題する。

時事問題を具体例として出すので、経済ニュースを毎日見る必要がある。

第3週以降は毎回グラフを描くので、普通のノート(ルーズリーフ)より、方眼ノート(ルーズリーフ)のほうが望ましい。定規は必携である。

< 授業時間外に必要な学修 >

【1】多くの経済学者はグラフで説明すればわかりやすいという信念を持つ。だが、そもそも小学校・中学校時代から算数・数学の学習を放棄している学生の場合、グラフ以前の問題となる。そのような学生は、自習として自分の実力にあった小学校の計算ドリルや中学数学の問題集を自分で探してやり込む努力が必要となる。(中学数学が理解できていれば不要、必要時間は学生により異なる)

【2】講義で触れる具体例は、突発的に発生した時事問題(まさしく現代経済的問題)になるかもしれない。時事問題のより深い背景を知るためにも、毎日、経済ニュースを見ること。(毎日、最低でも15分)

【3】ノート・プリント・参考図書を用いた予習・復習。(通算45時間以上)

< 提出課題など >

教室での出席確認とは別に、練習課題をドットキャンパスを用いて出題する。解答は、ドットキャンパスを用いて提出してもらう。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験100%

ただし、出席が3分の2に満たない学生は定期試験の点数に関わらず不可とする

< 参考図書 >

増田辰吉『1次関数で学ぶ経済学【改訂版】』、大学教育出版、2020年。

スティーブン・レヴィット『レヴィット ミクロ経済学基礎編』、東洋経済新報社、2017年。

< 授業計画 >

第1回 経済と経済学の全体像

フロー循環図を用いて、経済の全体像と基礎用語について説明する。

第2回 経済と経済学の全体像

ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを説明していく

第3回 価格メカニズム

1次方程式の基礎を復習する。また、経済学のグラフの特徴について説明する。

第4回 価格メカニズム

関数概念について説明する。需要関数と供給関数について説明する。

第5回 価格メカニズム

価格による需給調整と均衡概念について説明していく。

第6回 価格メカニズム

均衡・超過需要・超過供給について、式とグラフの両面から説明していく。

第7回 価格メカニズム

外生変数と曲線の変化について説明する。一次関数における内生変数と外生変数の違いについて考える。

第8回 弾力性・傾き・売上

需要関数・供給関数とグラフの傾き・グラフ上の点の移動の論理関係を説明する。

第9回 弾力性・傾き・売上

家計の行動を分析する概念として、需要の価格弾力性について解説する。

第10回 弾力性・傾き・売上

需要の価格弾力性と需要曲線の傾きの関係について図を用いて説明する。

第11回 弾力性・傾き・売上

供給曲線の傾きと供給の価格弾力性について解説する。また、供給の価格弾力性と財や市場の性質について説明する。

第12回 比較静学

所得弾力性と交差弾力性について説明する。景気変動や他の市場での変化が、分析している市場にどのような影響を与えるかを考えていく。

第13回 比較静学

余剰と死荷重について説明する。価格メカニズムが働かない場合を説明する。

第14回 比較静学

価格メカニズムが働かない場合や課税が市場に与える影響などを説明する。

第15回 基礎から発展へ

完全競争市場以外の様々な市場（独占市場・寡占市場・独占的競争市場）について説明する。また、市場の失敗を説明する。

2022年度 後期

4単位

現代経済入門

鈴木 雅顕

< 授業の方法 >

対面授業(講義)

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合(大雨、洪水等は除く)の本科目取扱いについて授業を休講します。

< 授業の目的 >

現実の経済活動に対する関心と理解を深めながら、経済学の基本的な考え方を習得することを主題とする。

次の4つの主題に沿って、講義を行う。

(1) マクロ経済指標（国内総生産、国民総所得、物価指数など）

(2) 金融と財政（日本銀行の役割、国債、利子率など）

(3) 貿易・国際金融（経常収支の黒字・赤字、為替レート、比較優位説など）

(4) 株価と景気変動。

この科目は、学部DPにおけるこの科目は、学部DPにおける

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

に対応しています。

< 到達目標 >

日本経済新聞などをしっかりと読みこなすのに必要な分析的枠組みを理解・習得できる。

「通説」や「俗説」の問題点を指摘し、「経済学的に正しい」分析を行えるようになる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に行う。

< 履修するにあたって >

日頃から、ニュース・新聞などで経済に関する様々な情報に関心を持つように心がけてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週2時間程度の復習をしてから、次の授業に臨むこと。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験によって評価する。

< テキスト >

テキストは指定しない。

< 授業計画 >

第1 / 2回 経済学とはどんな学問か
経済学の定義、基本概念について説明する。
第3 / 4回 GDPについて(1)
GDPの3つの定義について説明する。
第5 / 6回 GDPについて(2)
名目と実質、国内と国民、総と純、問題点などについて説明し、これまでのまとめを行う。
第7 / 8回 物価について
消費者物価指数・GDPデフレーターなどの指数、インフレ・デフレなどについて説明する。
第9 / 10回 貨幣について
貨幣の機能、銀行の役割について説明する。
第11 / 12回 日本銀行について
日本銀行の金融政策について説明する。
第13 / 14回 利子率と総需要
利子率の種類とその決定要因、投資と利子率に関する説明をする。
第15 / 16回 国債について
国債、および財政政策について説明する。
第17 / 18回 国際経済(1)
国際収支表について説明する。
第19 / 20回 国際経済(2)
経常収支の決定要因について説明する。
第21 / 22回 国際金融(1)
為替レートおよび国際金融制度について説明する。
第23 / 24回 国際金融(2)
為替レートの適正水準について説明する。
第25 / 26回 比較優位説
貿易パターンの決定要因について、簡単なモデルを用いて説明する。
第27 / 28回 景気の決定要因
不況の経済学について説明する。
第29 / 30回 株価と景気変動
株価が景気に及ぼす影響について説明する。

2022年度 前期

4単位

憲法

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

日本の最高法規であり、大学入学までに触れる機会が多かった「憲法」を扱います。「憲法」について具体的に解説していく中で、必要に応じて「法学」一般で学習する知識を組み込みます。

経済学部DP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。憲法が属する

法学も経済学と同じく社会現象を扱います。憲法の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

憲法の知識は経済学の学習とも関連する内容が少なくないです。例えば、営業の自由、財産権などの経済的自由権や生存権、財政における予算や租税法律主義などが挙げられます。

憲法は他の法律科目を学習する上での基礎にもなります。憲法を履修した後で、公務員の志望がより強まった人や法学により興味を持った人は「行政法」や「民法」など他の法律科目の履修を勧めます。

憲法の基礎レベルの知識を確実に習得し、履修後の憲法の発展的な学習や公務員試験や国家試験の受験対策を進める上での土台となることを目的とします。また、受講中に「授業で扱ったばかり内容がテレビのニュースで取り上げられていた」ということが少なからずあるはずで、そのような政治分野のニュースなどを理解し易くなることも目的とします。

本授業は、公務員試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験などの本試験問題を積極的に活用します。

< 到達目標 >

日本国憲法の主要な制度や条文について説明できる。

経済学の理解を深めることができる。

他の法律科目にも関心を持つことができる。

公務員試験(教養試験・社会科学の「法律」、専門試験の「憲法」)や、法律系の国家試験の試験科目「憲法」について、問題集を一人で解き進めていける。

日々の政治関連のニュースに関心を持ち、理解することができる。

友人と政治の議論をしたり、選挙で投票する候補者や政党を決める場面などで活用できる。

< 授業のキーワード >

公共の福祉、表現の自由、営業の自由、財産権、生存権、国会、内閣、司法、財政、地方自治

< 授業の進め方 >

配布する資料を使って授業を進めます。

< 履修するにあたって >

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

< 授業時間外に必要な学修 >

次回の授業準備として、講義内容の復習(45分)、関連知識の発展学習(45分)。

復習や発展学習の内容は、必要に応じて各回の講義の最後に指示します。

日々の生活の中で、授業で扱った内容と関連するニュース等に接した場合には、積極的に内容を理解するように努めたり、調べるようにしてください。

< 提出課題など >

なし。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法：確認テスト50%，定期試験50%。

出題形式と評価基準：確認テストと定期試験は、穴埋め式、記述の正誤判断の問題を出題し、客観的に得点を算出します。出題は事前に配布した問題等の資料の中からとし、範囲は試験実施の2週間前までに明示します。ただし、資料にある問題は、知識の核心部分を変えない範囲で修正を加えて出題します。

< テキスト >

なし。資料を配布します。

< 参考図書 >

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！[第2版]』（有斐閣、2020年）1980円
曾我部真裕・見平典『古典で読む憲法』（有斐閣、2016年）2750円
小泉洋一・島田茂[編集]『公法入門 第3版』（法律文化社、2021年）1980円
その他は授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。法学の基礎。憲法の全体構造。

第2回 個人の尊重と幸福追求権、公共の福祉

新しい人権、プライバシーの権利、自己決定権、公共の福祉による人権制約など。

第3回 法の下での平等

「平等」の意味、「法の下での平等」の意味など。

第4回 参政権、国務請求権

公務員の選定罷免権、選挙の原則、請願権など。

第5回 精神的自由権

思想・良心の自由、沈黙の自由、学問の自由、大学の自治など。

第6回 精神的自由権

信教の自由、政教分離原則など。

第7回 精神的自由権

表現の自由、知る権利など。

第8回 精神的自由権

集会結社の自由、検閲の禁止など。

第9回 経済的自由権

居住・移転、職業選択の自由など。

第10回 経済的自由権

営業の自由と規制など。小売市場事件、薬局距離制限違憲判決。

第11回 経済的自由権

財産権、損失補償など。

第12回 人身の自由

奴隷的拘束・意に反する苦役からの自由、法定手続の保障、令状主義など。

第13回 社会権

生存権、教育を受ける権利など。

第14回 社会権

勤労の権利、労働基本権など。

第15回 人権総合

人権の分類、外国人・法人・公務員の人権、私人間における人権の保障など。

第16回 確認テスト

前半で扱った範囲について確認テストを実施します。

第17回 統治機構総論

第18回からの学習範囲について全体構造の解説を行います。

第18回 国会

唯一の立法機関、二院制、国会議員の特権など。

第19回 国会

通常国会・臨時国会・特別国会、会議の原則、法律案・予算の議決など。

第20回 国会

衆議院の優越、参議院の緊急集会、国政調査権など。

第21回 内閣

内閣総理大臣と国務大臣、国会に対する連帯責任など。

第22回 内閣

内閣の職務、衆議院の解散、内閣総辞職、議院内閣制など。

第23回 司法権（裁判所）

「司法権」の内容、裁判所の種類、司法権の独立など。

第24回 司法権（裁判所）

裁判官の指名・任命、最高裁判所裁判官の国民審査など。

第25回 司法権（裁判所）

違憲審査権、裁判の公開など。

第26回 財政

財政国会中心主義、租税法律主義、予算と決算など。

第27回 地方自治

地方自治の本旨、条例の制定、地方特別法の住民投票など。

第28回 憲法改正

憲法改正の発議、国民投票、硬性憲法、改正の限界など。

第29回 統治総合

憲法前文、平和主義、国民主権、最高法規など。

第30回 統治分野のまとめ

統治分野の知識整理と補足。憲法全体のまとめ。

2022年度 前期

4単位

憲法（資格）

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

日本の最高法規であり、大学入学までに触れる機会が多かった「憲法」を扱います。「憲法」について具体的に

解説していく中で、必要に応じて「法学」一般で学習する知識を組み込みます。

憲法の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

憲法は他の法律科目を学習する上での基礎にもなります。憲法を履修した後で、公務員の志望がより強まった人や法学により興味を持った人は「行政法」や「民法」など他の法律科目の履修を勧めます。

憲法の基礎レベルの知識を確実に習得し、履修後の憲法の発展的な学習や公務員試験や国家試験の受験対策を進める上での土台となることを目的とします。また、受講中に「授業で扱ったばかり内容がテレビのニュースで取り上げられていた」ということが少なからずあるはずで、そのような政治分野のニュースなどを理解し易くなることも目的とします。

本授業は、公務員試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験などの本試験問題を積極的に活用します。

<到達目標>

日本国憲法の主要な制度や条文について説明できる。

経済学の理解を深めることができる。

他の法律科目にも関心を持つことができる。

公務員試験（教養試験・社会科学の「法律」、専門試験の「憲法」）や、法律系の国家試験の試験科目「憲法」について、問題集を一人で解き進めていける。

日々の政治関連のニュースに関心を持ち、理解することができる。

友人と政治の議論をしたり、選挙で投票する候補者や政党を決める場面などで活用できる。

<授業のキーワード>

公共の福祉、表現の自由、営業の自由、財産権、生存権、国会、内閣、司法、財政、地方自治

<授業の進め方>

配布する資料を使って授業を進めます。

<履修するにあたって>

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

<授業時間外に必要な学修>

次回の授業準備として、講義内容の復習(45分)、関連知識の発展学習(45分)。

復習や発展学習の内容は、必要に応じて各回の講義の最後に指示します。

日々の生活の中で、授業で扱った内容と関連するニュース等に接した場合には、積極的に内容を理解するように努めたり、調べるようにしてください。

<提出課題など>

なし。

<成績評価方法・基準>

評価方法：確認テスト50%，定期試験50%。

出題形式と評価基準：確認テストと定期試験は、穴埋め式、記述の正誤判断の問題を出題し、客観的に得点を算出します。出題は事前に配布した問題等の資料の中からとし、範囲は試験実施の2週間前までに明示します。ただし、資料にある問題は、知識の核心部分を変えない範囲で修正を加えて出題します。

<テキスト>

なし。資料を配布します。

<参考図書>

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！[第2版]』（有斐閣、2020年）1980円

曾我部真裕・見平典『古典で読む憲法』（有斐閣、2016年）2750円

小泉洋一・島田茂[編集]『公法入門 第3版』（法律文化社、2021年）1980円

その他は授業中に紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。法学の基礎。憲法の全体構造。

第2回 個人の尊重と幸福追求権、公共の福祉

新しい人権、プライバシーの権利、自己決定権、公共の福祉による人権制約など。

第3回 法の下での平等

「平等」の意味、「法の下での平等」の意味など。

第4回 参政権、国務請求権

公務員の選定罷免権、選挙の原則、請願権など。

第5回 精神的自由権

思想・良心の自由、沈黙の自由、学問の自由、大学の自治など。

第6回 精神的自由権

信教の自由、政教分離原則など。

第7回 精神的自由権

表現の自由、知る権利など。

第8回 精神的自由権

集会結社の自由、検閲の禁止など。

第9回 経済的自由権

居住・移転、職業選択の自由など。

第10回 経済的自由権

営業の自由と規制など。小売市場事件、薬局距離制限違憲判決。

第11回 経済的自由権

財産権、損失補償など。

第12回 人身の自由

奴隷的拘束・意に反する苦役からの自由、法定手続の保障、令状主義など。

第13回 社会権

生存権、教育を受ける権利など。

第14回 社会権

勤労の権利、労働基本権など。

第15回 人権総合

人権の分類、外国人・法人・公務員の人権、私人間における人権の保障など。

第16回 確認テスト

前半で扱った範囲について確認テストを実施します。

第17回 統治機構総論

第18回からの学習範囲について全体構造の解説を行います。

第18回 国会

唯一の立法機関、二院制、国会議員の特権など。

第19回 国会

通常国会・臨時国会・特別国会、会議の原則、法律案・予算の議決など。

第20回 国会

衆議院の優越、参議院の緊急集会、国政調査権など。

第21回 内閣

内閣総理大臣と国务大臣、国会に対する連帯責任など。

第22回 内閣

内閣の職務、衆議院の解散、内閣総辞職、議院内閣制など。

第23回 司法権（裁判所）

「司法権」の内容、裁判所の種類、司法権の独立など。

第24回 司法権（裁判所）

裁判官の指名・任命、最高裁判所裁判官の国民審査など。

第25回 司法権（裁判所）

違憲審査権、裁判の公開など。

第26回 財政

財政国会中心主義、租税法律主義、予算と決算など。

第27回 地方自治

地方自治の本旨、条例の制定、地方特別法の住民投票など。

第28回 憲法改正

憲法改正の発議、国民投票、硬性憲法、改正の限界など。

第29回 統治総合

憲法前文、平和主義、国民主権、最高法規など。

第30回 統治分野のまとめ

統治分野の知識整理と補足。憲法全体のまとめ。

2022年度 前期～後期

4単位

憲法

秋元 洋祐

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

本講義では、民法や刑法の法学一般を学んだうえで、憲法が保障する基本的人権について理解することを目的とする。基本的人権には、中学生の髪型の自由から商売を始める際の職業選択の自由まで様々な権利保障が認めら

れている。もっとも、これらの人権は、完全な自由を保障するものではなく、学校の校則や商店の開業を制限する法律によって規制される。この法的な規制に対して、憲法が保障する自由は、どこまで認められるのかが最も重要な問題となる。そこで、憲法上の人権保障の観点から、法的な制限が許されるのかを考えられるようになることを目的とする。

この科目は、経済学部のDPに示す、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることを目指す。

< 到達目標 >

1. 憲法の人権保障を具体的に説明できる（知識）。
2. 人権を規制する法律の問題点を説明できる（知識）。
3. 主要な裁判例について条文を参照しながら、解決方法を考えることができる（知識、態度・習慣）。
4. 憲法9条の戦争放棄といった現代の解釈問題に関心を持ち、自分の法的な考えを示すことができる（態度・習慣、技能）。

< 授業のキーワード >

法学、憲法、基本的人権、公共の福祉、法の下での平等、職業選択の自由

< 授業の進め方 >

憲法の人権保障と制限について、裁判例を題材にして学ぶ。平等権や表現の自由といった各人権規定について、毎回の授業で1つずつ裁判例を題材にして、講義中心で授業を進める。とりわけ、社会で起こった事例に触れることで、憲法と法律の身近さを体感し、法学一般への興味をもってもらいたいので、受講生からの意見や質問に応じる。

< 履修するにあたって >

毎回授業用プリントを配布する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講の際には、テキストの該当範囲を一読しておく（予習2時間）。

区切りごとに復習問題を配布するので、授業用プリントを参考に取り組む（復習2時間）。

< 提出課題など >

対話型の授業方式を重視するため、毎回の授業時に質疑応答を行う。

< 成績評価方法・基準 >

前期試験50%・後期試験50%（各試験の内訳：法律用語の理解70%、事例解決型論述30%）

< テキスト >

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』有斐閣 2020年 1,760円

< 参考図書 >

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選I〔第7版〕』有斐閣 2019年 2,530円

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選II〔第7版〕』有斐閣 2019年 2,530円

< 授業計画 >

第1回 法学の基礎

講義と成績評価の説明、憲法と法律

第2回 法学の基礎

社会における法の役割

第3回 法学の基礎

法解釈や法と慣習・道徳の差異

第4回 法的思考

建造物が燃え出しそうな状況を放置した不作為犯を題材に、法的義務と道徳的義務の差異

第5回 法的思考

思っていた人とは別人を傷つけてしまった錯誤を題材に、法的な客観と主観の区別

第6回 法的思考

殴りかかってきた相手を傷つけてしまった正当防衛を題材に、法的な比較衡量の視点

第7回 憲法の基礎

憲法の構造と歴史的な経緯

第8回 人権の享有主体

政治活動を行ったことで在留期間の更新が認められなかった事案を題材に、外国人や子供の人権（テキスト第1・2章）

第9回 幸福追求権

市役所から前科を回答された事案を題材に、プライバシー権に関わる一般的・包括的人権（テキスト第2・3章）

第10回 自己決定権

男子生徒の髪型で丸刈り校則が問題となった事案を題材に、生徒の髪型の自由（テキスト第1・4章）

第11回 法の下の平等

虐待を受けていた娘が父親を殺害してしまった事案を題材に、尊属殺人罪と法の下での平等（テキスト第6章）

第12回 法の下での平等

嫡出子と非嫡出子の法定相続の差異が問題となった事案を題材に、法の下での平等（テキスト第5章）

第13回 法の下での平等

女性の再婚禁止期間が問題となった事案を題材に、平等権と合理的な区別（テキスト第5章）

第14回 精神的自由

高校受験の際に不適切な内申書を記載された事案を題材に、思想・良心の自由（テキスト第1章）

第15回 精神的自由

剣道の不受講によって退学処分を受けた事案を題材に、信教の自由（テキスト第7章）

第16回 精神的自由

モデル小説で私生活を暴露された事案を題材に、プライバシー権と表現の自由（テキスト第8・9章）

第17回 精神的自由

少年事件の匿名報道が問題となった事案を題材に、推知報道と表現の自由（テキスト第8・9章）

第18回 経済的自由

既存の公衆浴場からの距離制限が問題となった事案を題材に、公衆浴場法の距離制限と職業選択の自由（テキスト第10章）

第19回 経済的自由

既存の小売市場からの距離制限が問題となった事案を題材に、商調法の距離制限と職業選択の自由（テキスト第10章）

第20回 経済的自由

既存の薬局からの距離制限が問題となった事案を題材に、薬事法の距離制限と職業選択の自由（テキスト第10章）

第21回 経済的自由

予防接種によって健康被害を受けた事案を題材に、財産権の保障

第22回 人身の自由

死刑制度が残虐な刑罰の禁止に該当するのかが問題となった事案を題材に、適正手続の保障（テキスト第13章）

第23回 生存権

生活保護の金額が不十分であった事案を題材に、生活保護法と生存権（テキスト第11章）

第24回 教育権

学力テストを実力で妨害した事案を題材に、教育権の所在（テキスト第12章）

第25回 参政権

衆議院議員選挙で1票の価値が問題となった事案を題材に、選挙権の平等

第26回 平和主義

自衛隊の基地建設が問題となった事案を題材に、憲法9条の戦争放棄（テキスト第15章）

第27回 国会

衆議院議員が国会の会期中に逮捕された事案を題材に、立法権を担う国会の役割（テキスト第16・17章）

第28回 内閣

衆議院の解散権を行使した事案を題材に、行政権を担う内閣の役割（テキスト第18章）

第29回 裁判所

宗教上の価値観の相違に基づいて寄付金の返還を請求した事案を題材に、司法権を担う裁判所の役割（テキスト第19・20章）

第30回 地方自治

条例で集団行進をより厳しく規制した事案を題材に、地方自治の役割（テキスト第21章）

2022年度 後期

4単位

憲法

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

日本の最高法規であり、大学入学までに触れる機会が多かった「憲法」を扱います。「憲法」について具体的に解説していく中で、必要に応じて「法学」一般で学習する知識を組み込みます。

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。憲法が属する法学も経済学と同じく社会現象を扱います。憲法の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。憲法の知識は経済学の学習とも関連する内容が少なくないです。例えば、営業の自由、財産権などの経済的自由権や生存権、財政における予算や租税法主義などが挙げられます。

憲法は他の法律科目を学習する上での基礎にもなります。憲法を履修した後で、公務員の志望がより強まった人や法学により興味を持った人は「行政法」や「民法」など他の法律科目の履修を勧めます。

憲法の基礎レベルの知識を確実に習得し、履修後の憲法の発展的な学習や公務員試験や国家試験の受験対策を進める上での土台となることを目的とします。また、受講中に「授業で扱ったばかり内容がテレビのニュースで取り上げられていた」ということが少なからずあるはず。そのような政治分野のニュースなどを理解し易くなることも目的とします。

本授業は、公務員試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験などの本試験問題を積極的に活用します。

<到達目標>

日本国憲法の主要な制度や条文について説明できる。

経済学の理解を深めることができる。

他の法律科目にも関心を持つことができる。

公務員試験(教養試験・社会科学の「法律」、専門試験の「憲法」)や、法律系の国家試験の試験科目「憲法」について、問題集を一人で解き進めていける。

日々の政治関連のニュースに関心を持ち、理解することができる。

友人と政治の議論をしたり、選挙で投票する候補者や政党を決める場面などで活用できる。

<授業のキーワード>

公共の福祉、表現の自由、営業の自由、財産権、生存権、国会、内閣、司法、財政、地方自治

<授業の進め方>

配布する資料を使って授業を進めます。

<履修するにあたって>

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

<授業時間外に必要な学修>

次回の授業準備として、講義内容の復習(45分)、関連知識の発展学習(45分)。

復習や発展学習の内容は、必要に応じて各回の講義の最後に指示します。

日々の生活の中で、授業で扱った内容と関連するニュース等に接した場合には、積極的に内容を理解するように努めたり、調べるようにしてください。

<提出課題など>

なし。

<成績評価方法・基準>

評価方法：確認テスト50%、定期試験50%。

出題形式と評価基準：確認テストと定期試験は、穴埋め式、記述の正誤判断の問題を出題し、客観的に得点を算出します。出題は事前に配布した問題等の資料の中からとし、範囲は試験実施の2週間前までに明示します。ただし、資料にある問題は、知識の核心部分を変えない範囲で修正を加えて出題します。

<テキスト>

なし。資料を配布します。

<参考図書>

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！[第2版]』（有斐閣、2020年）1980円

曾我部真裕・見平典『古典で読む憲法』（有斐閣、2016年）2750円

小泉洋一・島田茂[編集]『公法入門 第3版』（法律文化社、2021年）1980円

その他は授業中に紹介します。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。法学の基礎。憲法の全体構造。

第2回 個人の尊重と幸福追求権、公共の福祉

新しい人権、プライバシーの権利、自己決定権、公共の福祉による人権制約など。

第3回 法の下での平等

「平等」の意味、「法の下での平等」の意味など。

第4回 参政権、国務請求権

公務員の選定罷免権、選挙の原則、請願権など。

第5回 精神的自由権

思想・良心の自由、沈黙の自由、学問の自由、大学の自治など。

第6回 精神的自由権

信教の自由、政教分離原則など。

第7回 精神的自由権

表現の自由、知る権利など。

第8回 精神的自由権

集会結社の自由、検閲の禁止など。

第9回 経済的自由権

居住・移転、職業選択の自由など。

第10回 経済的自由権

営業の自由と規制など。小売市場事件、薬局距離制限違憲判決。

第11回 経済的自由権
財産権、損失補償など。

第12回 人身の自由
奴隷的拘束・意に反する苦役からの自由、法定手続の保障、令状主義など。

第13回 社会権
生存権、教育を受ける権利など。

第14回 社会権
勤労の権利、労働基本権など。

第15回 人権総論
人権の分類、外国人・法人・公務員の人権、私人間における人権の保障など。

第16回 確認テスト
前半で扱った範囲について確認テストを実施します。

第17回 統治機構総論
第18回からの学習範囲について全体構造の解説を行います。

第18回 国会
唯一の立法機関、二院制、国会議員の特権など。

第19回 国会
通常国会・臨時国会・特別国会、会議の原則、法律案・予算の議決など。

第20回 国会
衆議院の優越、参議院の緊急集会、国政調査権など。

第21回 内閣
内閣総理大臣と国务大臣、国会に対する連帯責任など。

第22回 内閣
内閣の職務、衆議院の解散、内閣総辞職、議院内閣制など。

第23回 司法権（裁判所）
「司法権」の内容、裁判所の種類、司法権の独立など。

第24回 司法権（裁判所）
裁判官の指名・任命、最高裁判所裁判官の国民審査など。

第25回 司法権（裁判所）
違憲審査権、裁判の公開など。

第26回 財政
財政国会中心主義、租税法律主義、予算と決算など。

第27回 地方自治
地方自治の本旨、条例の制定、地方特別法の住民投票など。

第28回 憲法改正
憲法改正の発議、国民投票、硬性憲法、改正の限界など。

第29回 統治総論
憲法前文、平和主義、国民主権、最高法規など。

第30回 統治分野のまとめ
統治分野の知識整理と補足。憲法全体のまとめ。

2022年度 後期

4単位

憲法（資格）

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

日本の最高法規であり、大学入学までに触れる機会が多かった「憲法」を扱います。「憲法」について具体的に解説していく中で、必要に応じて「法学」一般で学習する知識を組み込みます。

憲法の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

憲法は他の法律科目を学習する上での基礎にもなります。憲法を履修した後で、公務員の志望がより強まった人や法学により興味を持った人は「行政法」や「民法」など他の法律科目の履修を勧めます。

憲法の基礎レベルの知識を確実に習得し、履修後の憲法の発展的な学習や公務員試験や国家試験の受験対策を進める上での土台となることを目的とします。また、受講中に「授業で扱ったばかり内容がテレビのニュースで取り上げられていた」ということが少なからずあるはずです。そのような政治分野のニュースなどを理解し易くなることも目的とします。

本授業は、公務員試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験などの本試験問題を積極的に活用します。

< 到達目標 >

日本国憲法の主要な制度や条文について説明できる。

経済学の理解を深めることができる。

他の法律科目にも関心を持つことができる。

公務員試験（教養試験・社会科学の「法律」、専門試験の「憲法」）や、法律系の国家試験の試験科目「憲法」について、問題集を一人で解き進めていける。

日々の政治関連のニュースに関心を持ち、理解することができる。

友人と政治の議論をしたり、選挙で投票する候補者や政党を決める場面などで活用できる。

< 授業のキーワード >

公共の福祉、表現の自由、営業の自由、財産権、生存権、国会、内閣、司法、財政、地方自治

< 授業の進め方 >

配布する資料を使って授業を進めます。

< 履修するにあたって >

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

< 授業時間外に必要な学修 >

今回の授業準備として、講義内容の復習(45分)、関連知識の発展学習(45分)。

復習や発展学習の内容は、必要に応じて各回の講義の最後に指示します。

日々の生活の中で、授業で扱った内容と関連するニュース等に接した場合には、積極的に内容を理解するように努めたり、調べるようにしてください。

< 提出課題など >

なし。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法：確認テスト50%，定期試験50%。

出題形式と評価基準：確認テストと定期試験は、穴埋め式、記述の正誤判断の問題を出題し、客観的に得点を算出します。出題は事前に配布した問題等の資料の中からとし、範囲は試験実施の2週間前までに明示します。ただし、資料にある問題は、知識の核心部分を変えない範囲で修正を加えて出題します。

< テキスト >

なし。資料を配布します。

< 参考図書 >

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！[第2版]』（有斐閣、2020年）1980円

曾我部真裕・見平典『古典で読む憲法』（有斐閣、2016年）2750円

小泉洋一・島田茂[編集]『公法入門 第3版』（法律文化社、2021年）1980円

その他は授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。法学の基礎。憲法の全体構造。

第2回 個人の尊重と幸福追求権、公共の福祉

新しい人権、プライバシーの権利、自己決定権、公共の福祉による人権制約など。

第3回 法の下での平等

「平等」の意味、「法の下での平等」の意味など。

第4回 参政権、国務請求権

公務員の選定罷免権、選挙の原則、請願権など。

第5回 精神的自由権

思想・良心の自由、沈黙の自由、学問の自由、大学の自治など。

第6回 精神的自由権

信教の自由、政教分離原則など。

第7回 精神的自由権

表現の自由、知る権利など。

第8回 精神的自由権

集会結社の自由、検閲の禁止など。

第9回 経済的自由権

居住・移転、職業選択の自由など。

第10回 経済的自由権

営業の自由と規制など。小売市場事件、薬局距離制限違憲判決。

第11回 経済的自由権

財産権、損失補償など。

第12回 人身の自由

奴隷的拘束・意に反する苦役からの自由、法定手続の保障、令状主義など。

第13回 社会権

生存権、教育を受ける権利など。

第14回 社会権

勤労の権利、労働基本権など。

第15回 人権総合

人権の分類、外国人・法人・公務員の人権、私人間における人権の保障など。

第16回 確認テスト

前半で扱った範囲について確認テストを実施します。

第17回 統治機構総論

第18回からの学習範囲について全体構造の解説を行います。

第18回 国会

唯一の立法機関、二院制、国会議員の特権など。

第19回 国会

通常国会・臨時国会・特別国会、会議の原則、法律案・予算の議決など。

第20回 国会

衆議院の優越、参議院の緊急集会、国政調査権など。

第21回 内閣

内閣総理大臣と国務大臣、国会に対する連帯責任など。

第22回 内閣

内閣の職務、衆議院の解散、内閣総辞職、議院内閣制など。

第23回 司法権（裁判所）

「司法権」の内容、裁判所の種類、司法権の独立など。

第24回 司法権（裁判所）

裁判官の指名・任命、最高裁判所裁判官の国民審査など。

第25回 司法権（裁判所）

違憲審査権、裁判の公開など。

第26回 財政

財政国会中心主義、租税法律主義、予算と決算など。

第27回 地方自治

地方自治の本旨、条例の制定、地方特別法の住民投票など。

第28回 憲法改正

憲法改正の発議、国民投票、硬性憲法、改正の限界など。

第29回 統治総合

憲法前文、平和主義、国民主権、最高法規など。

第30回 統治分野のまとめ

統治分野の知識整理と補足。憲法全体のまとめ。

2022年度 前期

4単位

公共経済特講（公共）（再履修クラス）

圓生 和之、石本 眞八、井上 善博、岡部 芳彦、岡本 弥、田口 順等、伴 ひかり、渡部 尚史

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

【講義の位置づけ】

本学経済学部の学生は、必要最低単位数以上を修得することに加え、卒業論文の審査あるいは、本講義の試験に合格することが、学位授与の要件である。

【主題】

本講義の目標は、経済学の基本的知識を備え、専攻コースにおける専門的知識を身につけていることを確認するものである。

【目標】

・DP（ディプロマ・ポリシー）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」ことを目標とする。

・経済学の基幹的な分野（ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済論など）に関する基礎的知識を十分に獲得していること。

・専攻コースにおける専門的知識を身につけていること。

< 到達目標 >

経済学士の学位に相応しい能力に達することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

7名の教員によるリレー講義

< 履修するにあたって >

試験の評価基準については、初回ならびに14週目の講義で説明する。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

科目ごとに、講義時間内小テストを実施し、講義内で解答を示す。

< 成績評価方法・基準 >

・テスト100%で評価する。

< 定期テストを受験するための出席条件 >

・出席日数が全講義の3分の2に満たない者は定期テストの受験を認めない。

確認テストで60点以上でも、必ず定期テストを受けなければ、評価の対象としない。

< テキスト >

テキストはとくに指定しない。

< 参考図書 >

科目ごとに適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回

(4/8) ガイダンス、ミクロ経済学（1）：需要曲線の導出

【第1～4回】担当：伴教授

・本講義のガイダンス（15分程度）

・消費者の支払許容額から需要曲線が得られることを示す。

第2回 ミクロ経済学（2）：供給曲線の導出

生産者の費用構造から供給曲線が得られることを示す。

第3回

(4/15) ミクロ経済学（3）：市場均衡と社会的総余剰

需要 = 供給となる市場均衡と消費者余剰と生産者余剰の和である社会的総余剰についてみる。

第4回 ミクロ経済学（4）：練習問題の実施と解説

練習問題の実施と解説

第5回

(4/22) マクロ経済学（1）

【第5～8回】担当：岡本准教授

GDPの基礎概念を学ぶ

第6回 マクロ経済学（2）

GDPの計算に習熟する

第7回

(4/29) マクロ経済学（3）

乗数効果の基礎概念を学ぶ

第8回 マクロ経済学（4）

乗数効果の計算に習熟する

第9回

(5/6) 日本経済論（1）

【第9～12回】担当：田口准教授

戦後日本経済の発展と変遷の概要を学ぶ。

第10回 日本経済論（2）

第9回学習の要点を確認し、理解度チェックと解説を行う。

第11回

(5/13) 日本経済論（3）

日本経済の現状と主な論点を学ぶ。

第12回 日本経済論（4）

第11回学習の要点を確認し、理解度チェックと解説を行う。

第13回

(5/20) 経済史総論（1）

【第13～16回】担当：岡部教授

フランス革命を考える。

第14回 経済史総論(2)

江戸の経済史総論

第15回

(5/27) 経済史総論(3)

ロシア経済史を学ぶ。

第16回 経済史総論(4)

戦時経済・戦後改革

第17回

(6/3) 国際経済学(1)

【第17～20回】担当：石本教授

閉鎖経済と自由貿易

第18回 国際経済学(2)

自由貿易均衡価格と貿易利益

第19回

(6/10) 国際経済学(3)

貿易政策(1) 輸入関税

第20回 国際経済学(4)

貿易政策(2) 関税同盟

第21回(6/17)

公共経済論(1) 公共財

【第21～24回】担当：渡部教授

公共財の定義、社会的需要曲線の導出を理解する。

第22回 公共経済論(2) 公共財

公共財の最適な数量の決定を理解する。

第23回(6/24) 公共経済論(3) 課税

消費課税の経済効果を納税義務者が消費者、企業の場合について理解する。

第24回 公共経済論(4) 課税

消費課税の経済効果が需要・供給の価格弾力性に依存することを理解する。

第25回

(7/1) 企業経済論(1)

【第25～28回】担当：井上教授

経営管理の基礎理論について学ぶ

第26回 企業経済論(2)

現代企業におけるリーダーシップについて学ぶ

第27回

(7/8) 企業経済論(3)

官僚制組織と組織構造の動態化について学ぶ

第28回 企業経済論(4)

組織文化と組織変革について学ぶ

第29回

(7/15) 確認テスト

学習到達度の確認テストの実施

第30回 確認テスト解説

学習到達度の確認テスト内容の解説

2022年度 後期

4単位

公共経済特講(公共)

圓生 和之、麻生 裕貴、石田 裕貴、井上 善博、岡本 弥、関谷 次博、竹治 康公、平井 健之

<授業の方法>

講義

今後の感染状況等によっては変更の可能性があります。その場合は、シラバスを通じて連絡するので、常にシラバスの最新情報を確認するよう、お願いします。

<授業の目的>

【講義の位置づけ】

本学経済学部の学生は、必要最低単位数以上を修得することに加え、卒業論文の審査あるいは、本講義の試験に合格することが、学位授与の要件である。

【主題】

本講義の目標は、経済学の基本的知識を備え、専攻コースにおける専門的知識を身につけていることを確認するものである。

【目標】

・DP(ディプロマ・ポリシー)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」ことを目標とする。

・経済学の基幹的な分野(ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済論など)に関する基礎的知識を十分に獲得していること。

・専攻コースにおける専門的知識を身につけていること。

<到達目標>

経済学士の学位に相応しい能力に達することができる。

<授業のキーワード>

経済学

<授業の進め方>

7名の教員によるリレー講義

<履修するにあたって>

【重要】対面・遠隔授業の授業形態によらず、2日(講義4回分)につき1回のレポート(小テスト)が課せられます(計7回)。このレポート(小テスト)は、定期テストを行わない場合の成績評価になるので、毎回必ず提出(受験)して下さい。

・大学より非登学が承認されている受講生には、確認テスト、及び定期テストの代わりとなる「別途課題」を提出してもらいます。

・その他、下部の「遠隔授業情報」にある「本講義のガ

イダンス」の資料を確認して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

科目ごとに、講義時間内小テストを実施し、講義内で解答を示す。

< 成績評価方法・基準 >

・定期テストを行う場合、テスト100%（確認テストで60点以上でも、必ず定期テストを受けなければ、評価の対象としない）

・定期テストを行わない場合、各講義のレポート（小テスト）の評価100%

・大学より非登学が承認されている受講生に対しては、各講義のレポート（小テスト）、確認テスト、及び定期テストの代わりとなる「別途課題」の評価100%

< 定期テストを受験するための出席条件 >

・出席日数（各講義のレポート提出回数）が全講義の3分の2に満たない者は定期テストの受験を認めない。

・下部の「遠隔授業情報」にある「本講義のガイダンス」の資料も確認して下さい。

< テキスト >

テキストはとくに指定しない。

< 参考図書 >

科目ごとに適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回

(9/30) ガイダンス、ミクロ経済学（1）：需要曲線の導出

【第1～4回】担当：岡本准教授

・本講義のガイダンス（15分程度）

・消費者の支払許容額から需要曲線が得られることを示す。

第2回 ミクロ経済学（2）：供給曲線の導出

生産者の費用構造から供給曲線が得られることを示す。

第3回

(10/7) ミクロ経済学（3）：市場均衡と社会的総余剰
需要 = 供給となる市場均衡と消費者余剰と生産者余剰の和である社会的総余剰についてみる。

第4回 ミクロ経済学（4）：完全競争市場での企業行動
完全競争市場下での企業の利潤最大化行動についてみる。

第5回

(10/14) マクロ経済学（1）

【第5～8回】担当：竹治教授

GDPの基礎概念を学ぶ

第6回 マクロ経済学（2）

GDPの計算に習熟する

第7回

(10/21) マクロ経済学（3）

乗数効果の基礎概念を学ぶ

第8回 マクロ経済学（4）

乗数効果の計算に習熟する

第9回

(10/28) 日本経済論（1）

【第9～12回】担当：麻生講師

戦後日本経済の発展と変遷について学ぶ。

第10回 日本経済論（2）

日本の経済発展の要因と背景について学ぶ。

第11回

(11/11) 日本経済論（3）

日本経済の現状と今後の問題点について学ぶ。

第12回 日本経済論（4）

第9回～第11回学習の要点を確認し、理解度をチェックするための小テストと解説を行う。

第13回

(11/18) 経済史総論（1）

【第13～16回】担当：関谷教授

歴史の教訓から学ぶ「殖産興業政策」

第14回 経済史総論（2）

歴史の教訓から学ぶ「昭和恐慌」

第15回

(11/25) 経済史総論（3）

経路依存性から考える「戦時経済」

第16回 経済史総論（4）

経路依存性から考える「高度経済成長」

第17回

(12/2) 生活経済論（1）

【第17～20回】担当：石田准教授

資産運用について学ぶ

第18回 生活経済論（2）

預金について学ぶ

第19回

(12/9) 生活経済論（3）

保険について学ぶ

第20回 生活経済論（4）

投資信託について学ぶ

第21回

(12/16) 公共経済論（1）：消費課税の経済効果(1)

【第21～24回】担当：平井教授

消費課税の経済効果を余剰分析に基づいて理解する。

第22回 公共経済論（2）：消費課税の経済効果(2)

消費課税は誰が負担するのかを弾力性の概念を用いて理解する。

第23回

(12/23) 公共経済論（3）：公共財(1)

公共財の定義について理解する。

第24回 公共経済論(4)：公共財(2)

公共財の最適供給について理解する。

第25回

(1/6) 企業経済論(1)

【第25～28回】担当：井上教授

経営管理の基礎理論について学ぶ

第26回 企業経済論(2)

現代企業におけるリーダーシップについて学ぶ

第27回

(1/13) 企業経済論(3)

官僚制組織と組織構造の動態化について学ぶ

第28回 企業経済論(4)

組織文化と組織変革について学ぶ

第29回

(1/20) 確認テスト

学習到達度の確認テストの実施

第30回 確認テスト解説

学習到達度の確認テスト内容の解説

2022年度 後期

4単位

公共経済論 公共(総合)

平井 健之

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

【授業の概要】

わが国を含めて世界のほとんどの国の経済は、基本的には市場経済の仕組みに仕上がっています。このような経済において、政府(公共部門)の果たす役割は、今日ではさまざまな分野に及んでいます。この講義では政府による市場経済への介入の根拠や政府の経済的役割を明らかにすると同時に、政府の経済活動を理論的に分析し政府のあり方について検討します。

【授業の目的】

市場経済における政府の果たすべき役割やさまざまな諸問題に対する政府の対応とその問題点について理解を深めることを目的とします。この科目は、学部のDPに掲げられるように、経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できることを目指します。

< 到達目標 >

政府の役割やあり方を検討するために、市場の機能を理論的に考える能力を身に付けることができる。

公共財の性質、公共財が政府により供給される根拠や問題点などについて説明できる。

外部性をめぐる諸問題とそれらを解決するための政府

の対応や政策について説明できる。

電力やガスなどの公益事業における政府による規制の根拠や規制のあり方について説明できる。

< 授業のキーワード >

余剰分析、市場の失敗、消費課税、補助金、公共財、外部性、費用逓減産業

< 授業の進め方 >

配布資料に基づき、講義形式で授業を進めます。

< 履修するにあたって >

授業内容は毎時間連続していますので、毎回ごとの復習に重点をおいて学習してください。授業を1回欠席しただけでも、次の時間には授業内容がわからない状態になることを覚悟してください。

なお、履修に際しては、ミクロ経済学を履修していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講に際しては、毎時間ごとに復習を中心とした授業時間外の学習が不可欠です(授業時間の1.5倍以上)。

< 提出課題など >

授業内容に関する問題を、提出課題として課します。

その場合、解答については、後日、解説します。

< 成績評価方法・基準 >

授業で課すレポート(課題)40%と定期試験60%により評価します。

レポート(課題)について未提出の場合は、未提出分は評価されません(評価は0点となります)ので、注意してください。

定期試験は、持ち込み不可とします。

< テキスト >

とくに使用しません。プリントを配付します。

ただし、配布資料を補完するために、参考文献を挙げておきますので、適宜、参照してください。

< 参考図書 >

麻生良文 著『公共経済学』(有斐閣)、1998年

奥野信宏 著『公共経済学(第3版)』(岩波書店)、2008年

上村敏之 著『公共経済学入門』(新世社)、2011年

土居丈朗 著『公共経済学(第2版)』(日本評論社)、2018年

その他の参考書については、授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1・2回 公共経済学とは

市場の機能

ガイダンス、講義内容について概観する。

消費者余剰を図示しながら、その内容を理解する。

第3・4回 市場の機能

生産者余剰を図示しながら、その内容を理解する。

市場の失敗がない場合に、市場均衡の性質を余剰(消費者余剰と生産者余剰)の概念を用いて検討する。

第5・6回 消費課税と補助金の効果

政府による消費課税がもたらす経済効果を余剰分析に基づいて検討する。

政府による消費課税は誰が負担するのかを検討する。

第7・8回 消費課税と補助金の効果

消費課税をめぐる売手と買手の税負担配分と需要・供給の価格弾力性の関係を理解する。

政府による補助金政策がもたらす経済効果を余剰分析に基づいて検討する。

第9・10回 消費課税と補助金の効果

政府の価格支持政策がもたらす経済効果を余剰分析に基づいて検討する。

複数の財・サービスに対する消費課税における最適な課税のあり方(ラムゼールール)を理解する。

第11・12回 公共財

公共財の性質を理解するとともに、公共財が政府によって供給されることの理論的根拠を理解する。

公共財の最適供給量とはどのような水準であるかを理解する。

第13・14回 公共財

政府による公共財の供給が実際に最適供給の水準を実現できるかどうかを検討するために、リンダール・メカニズムの理論的枠組みを理解する。

リンダール・メカニズムにおいて、公共財の最適供給の水準が実現するかどうかを検討する。

第15・16回 公共財

政府が公共財を供給する際に発生する、ただ乗り(フリーライダー)問題について理解する。

地方分権と地方公共財の供給について理解する。

政治過程における公共財供給の決定について理解する。

第17・18回 外部性をめぐる諸問題

金銭的外部効果と技術的外部効果、外部経済と外部不経済について理解する。

外部不経済が発生するケースにおいて、市場は失敗するのかを理解する。

第19・20回 外部性をめぐる諸問題

外部経済が発生するケースにおいて、市場は失敗するのかを理解する。

外部効果が存在する場合、これを政府の介入なしに、当事者間(外部性を与える側と受ける側)の交渉で解決できるかどうかを検討する。

第21・22回 外部性をめぐる諸問題

外部効果が存在する場合における市場の失敗を是正するための政府の課税政策を理解する。

外部効果が存在する場合における市場の失敗を是正するための政府の補助金政策を理解する。

第23・24回 費用逓減産業と規制

電力やガスなどの費用逓減産業の特徴を理解する。

費用逓減産業において、なぜ政府による規制が必要とされるのかを理解する。

第25・26回 費用逓減産業と規制

独占企業の行動を理論的に理解する。

費用逓減産業における料金規制のあり方を検討する。

第27・28回 費用逓減産業と規制

費用逓減産業において採用されているいくつかの実際の料金制度について検討する。

費用逓減産業において、経済環境の変化に対応して規制緩和がどのように実施されてきたのかを理解する。

第29・30回 まとめ

講義全体のまとめ

講義全体の総復習

2022年度 後期

4単位

コーポレート・ファイナンス論 企業(総合)

林 隆一

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本講義は、企業経済コースの選択必修科目、その他のコースの選択科目(旧カリでは、企業経済コースと総合経済コースの選択必修科目、公共経済コースの選択科目)として、企業の経済活動に関する基礎科目として位置づけられる。DP(学位授与方針)の「経済データに関する基礎的知識を取得」や「自分の意見を口頭や文章によって表現」することをベースに「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

メインバンク制などの日本的経営の崩壊や金融自由化以降、日本企業の資金調達には銀行借入れなどの間接金融依存から、証券市場を利用した直接金融の活用が大きく舵を切っている。日本企業が従業員(ビジネスパーソン)に求めるスキルや知識も大きく変わっているが、特に大きく変わっているのがファイナンスの知識である。以前、ファイナンスの知識を必要としていたのは、(金融業界以外では)財務担当者に限られていたが、最近では、むしろ財務担当者以外にファイナンスの知識が求められ、人事評価もROEなどファイナンスの概念に基づく指標を採用する企業が増えている。

企業活動のヒト、モノ、情報の流れはおカネの流れと表裏一体であり、全ての企業活動(生産、販売、マーケティング、研究開発など)は、おカネの流れの仕組みの理解をなくしては成り立たなくなっている。ファイナンスの基本の理解なくして、企業が発表する運営方針や企業戦略、生産・販売計画の本質は理解はできず、その企業(の従業員)とコミュニケーションをとるのも困難となっているのが現状である。このような意味において、将来ファイナンス業務に直接関わらない(金融業界や財務担当者などでない)ビジネスパーソンに必要な技能(実

際の企業価値計算)を修得し、自分ごととしての意識を高め、個人としても容易に「だまされない(=損をしない)」知識を身につけることを目的とする。

なお、この科目の担当者は、機関投資家・証券会社などで証券アナリストとして企業評価分析や資金運用等に19年間携わり、現在は上場企業の社外取締役を兼務し、証券アナリスト試験(2次・応用)のテキストも作成する「実務経験のある教員」であり、より実践的な観点から上記の内容等を解説するものである。

<到達目標>

(1)『ファイナンス』の考え方をふまえ、実際の企業活動を説明できる(知識・技能)。

(2)企業評価の基本的な手法を理解し、具体的な企業に適用できる(技能)。

(3)ビジネスの現場で具体的な活用を自分で調べることができる(態度・習慣)。

<授業のキーワード>

現在価値、将来価値、資本コスト、WACC、CAPM、DCF法、PER、PBR、MM命題、ROE、企業価値(企業評価)、直接金融、間接金融、株主、債権者、コーポレートガバナンス(企業統治)、コンプライアンス、M&A、リスク、リターン

<授業の進め方>

前半では、講義内課題(自分の選んだ企業の価値計算)の難形(例)から逆算して、各講義で必要な知識を順番に説明していき、必要最低限の企業価値計算を学んだ時点で「講義内課題(1回目)」において受講者自ら企業価値計算を行う。後半では、ファイナンス全体の理解を進めつつ、最終的に提出した講義内課題を修正し、企業分析を加えた「講義内課題(2回目)」として提出するための講義を行う。

<履修するにあたって>

必須ではないが(企業価値計算に必要な財務諸表の基本は第4~5回で行うが)、企業活動の分析等のために「ビジネスミクロ分析」(企業経済コース科目)を履修済みであることが望ましい。

「講義内課題(1回目)」の内容を踏まえ、復習等が必要と思われる場合や追加で実務家の招へいする場合は、以下のスケジュールを変更し、事前に講義内で告知する。

<授業時間外に必要な学修>

学修の目安となる時間は、実際の企業価値計算や練習問題の理解など毎回異なるが、平均で毎週3時間程度(計45時間)は最低必要となると考えられる。

<提出課題など>

講義の内容を踏まえ、各自、自分の選んだ企業の価値計算を行い、それを分析・解釈する「講義内課題」を2回課す。受講生は1回目の提出後、講義内で示される「実際の企業の価値計算の難形」の段階的な計算方法から、自らの1回目の計算方法を見直した上で、最終的に2回目

の提出を行う。

詳細は講義内で説明する。

<成績評価方法・基準>

期末テスト50%、講義内課題50%

<テキスト>

なし

<参考図書>

以下の当講義の過去の教科書の一部も引用予定である。

『ファイナンス論・入門(有斐閣コンパクト)』俊野雅司・白須洋子・時岡規夫(著)/有斐閣

『経済学は生き抜く智剣』(第2版)神戸学院大学経済学部編の「企業ファイナンス論」

『ファイナンス プロが猿に勝てない不思議な話』山本和隆(著)/日本経済新聞出版社

『コーポレートファイナンス入門 第2版(日経文庫)』砂川伸幸(著)/日本経済新聞出版社

『入門コーポレート・ファイナンス』島義夫(著)/日本評論社、

『コーポレート・ファイナンス実務の教科書』松田千恵子(著)/日本実業出版社

ファイナンスの基本概念的な幾つかは相互に依存していることもあり、(他の多くの学問体系と異なり)基本的なテキストにおいても、それぞれ習う順序が異なっているように、全体像を掴みにくい特徴がある。そのため、1つのテキストで分かりにくい点は、他のテキストで意外と容易にわかるケースがある。講義では、以下の参考書の一部を補足して説明する予定であるが、予習復習に活用すること。(ファイナンスの知識は、理系文系を問わずビジネスパーソンが必要に迫られ、社会人で勉強する人が多く、本屋には入門・初級の本だけでも大量の書籍が出版されている)

『大学生のための人生とお金の知恵』金融広報中央委員会

(お金とは)『フェリックスとお金の秘密』ニコラウス・ピーパー(著)、Nikolaus Piper(原著)他/徳間書店

(お金とは)『お金のむこうに人がいる』田内学(著)/ダイヤモンド社

(お金とは)『MIND OVER MONEY 193の心理研究でわかったお金の支配されない13の真実』クラウディア・ハモンド(著)、木尾糸己(翻訳)/あさ出版

(金融全般の入門)『1からのファイナンス』榊原茂樹、岡田克彦(著)/碩学舎

(金融全般の入門)『金融論』(【ベーシック+])家森信善(著)/中央経済社

(会計入門)『決算書はここだけ読もう』矢島雅己(著)/弘文堂

(会計入門)『Yahoo!ファイナンスで速攻決算書分析』坂本剛(著)/中央経済社

(会計)『グラフィック経営財務(グラフィック経営学

ライブラリ 8)』境 睦 (編), 落合 孝彦 (編)/新世社
(初歩)『あれか、これかー「本当の値打ち」を見抜く
ファイナンス理論入門』野口真 (著)/ダイヤモンド社
(入門)『[実況]ファイナンス教室 (グロービスMBA
集中講義)』グロービス・星野優 (監)/PHP研究所
(入門)『この1冊ですべてわかる ファイナンスの基
本』佐藤公亮 (著)/日本実業出版社
(企業評価入門)『パンダをいくらで買いますか?』野
口真 (著)/日経BP社
(企業評価入門)『はじめての企業価値評価 (日経文庫
)』砂川 伸幸 (著), 笠原 真人 (著)/日本経済新聞出
版社
(企業評価)『企業評価論入門』奈良 沙織 (著)/中央
経済社
(企業評価・実務)『図解入門ビジネス最新企業価値評
価の考え方と実践がよ~くわかる本』笠原真人 (著)/秀和
システム
(企業評価・実務)『図解入門ビジネス最新企業価値評
価の基本と仕組みがよ~くわかる本』バリュウクリエ
ト/秀和システム
(企業評価・実務)『図解入門ビジネス 最新 コーポ
レートファイナンスの基本と実践がよ~くわかる本[第2版]
』松田千恵子 (著)/秀和システム
(行動経済学)『ケースメソッドMBA実況中継 04 行動
経済学』岩澤誠一郎 (著) ディスカヴァー・トゥエン
ティワン
(社債)『入門 社債のすべて---発行プロセスから
分析・投資手法と倒産時の対応まで』土屋 剛俊 (著)/ダ
イヤモンド社
(応用)『ゼミナール企業価値評価』伊藤邦雄 (著)/日
本経済新聞出版社
(応用)『バリュエーションの教科書』森生明 (著)/東
洋経済新報社
(実務基礎)『ファイナンス思考 日本企業を蝕む病と、
再生の戦略論』朝倉 祐介 (著)/ダイヤモンド社
(実務基礎)『この1冊ですべてわかるコーポレートガ
バナンスの基本』手塚 貞治 (著)/日本実業出版社
(実務応用)『入門 リアル・オプション』山本 大輔
(著), 刈屋 武昭 (監修)/東洋経済新報社
(実務応用)『トップアナリストがナビする金融の「し
くみ」と「理論」』野崎浩成 (著)/同文館出版
(実務応用)『まだ「ファイナンス理論」を使いますか
?- MBA依存症が企業価値を壊す』手島直樹 (著)/日本経
済新聞
(全般・応用)『ファイナンスの哲学---資本主義の本
質的な理解のための10大概念』堀内勉 (著)/ダイヤモン
ド社
(全般)『企業価値の神秘』宮川壽夫 (著)/中央経済社
(全般)『[新版]この1冊ですべてわかる 金融の基本』
田淵 直也 (著)/日本実業出版社新版 (2019)

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の全体像・評価方法等を説明する。その中でファイ
ナンスの基本概念(株式会社等)を学ぶ。(参考:『1
からのファイナンス』、『コーポレートファイナンス入
門 第2版 (日経文庫)』、『入門コーポレート・ファイ
ナンス』、『コーポレート・ファイナンス実務の教科
書』)

第2回 金融の仕組み(1)

株式会社、直接金融、間接金融などの基礎概念を学ぶ。
(参考:『大学生のための人生とお金の知恵』、『フェ
リックスとお金の秘密』、『経済学は生き抜く智剣』、
『[新版]この1冊ですべてわかる 金融の基本』)

第3回 金融の仕組み(2)

上場や投資など「ファイナンスの視点」を学ぶ。(参考
:『あれか、これかー「本当の値打ち」を見抜くファイ
ナンス理論入門』)

第4回 財務諸表の基本(1)

損益計算書・貸借対照表の基本を理解した上で、ステー
クホルダーやROEの概念を学ぶ。(参考:『決算書はこ
こだけ読もう』、『[新版]この1冊ですべてわかる 金融
の基本』、『グラフィック経営財務』)

第5回 財務諸表の基本(2)

企業の評価方法として、ROE、PBR、PERなどを学び、使
い方を学ぶ。(参考:『バリュエーションの教科書』、
『企業評価論入門』、『Yahoo!ファイナンスで速攻決
算書分析』)

第6回 ファイナンスの基礎概念

インフレ(名目・実質)の概念を学ぶ。(参考:『ファ
イナンスの哲学---資本主義の本質的な理解のための10
大概念』、『MIND OVER MONEY』)

第7回 割引率

現在割引価値および複利計算を学ぶ。(参考:『[実況
]ファイナンス教室』、『ファイナンス思考』)

第8回 現在価値・将来価値

DCF法(ディスカウントキャッシュフロー法)で現在価
値の計算を学ぶために、キャッシュフローの現在価値を
計算してみる。(参考:『図解入門ビジネス最新企業価
値評価の考え方と実践がよ~くわかる本』)

第9回 株式の理論価格

「企業価値評価」に基づき、パンダのように市場価格の
ない価値を計算してみる。(参考:『パンダをいくらで
買いますか?』)

第10回 DDM

DDMなどを学ぶ。(参考:『入門コーポレート・ファイ
ナンス』)

第11回 ポートフォリオ理論

投資家の立場からリスク、リターン、分散投資の効果の
基本を学ぶ。

(参考:『ファイナンス論・入門 (有斐閣コンパクト)

』)

第12回 資本資産評価モデル (CAPM)

CAPM (資本資産評価モデル) や (ベータ) の考え方を学ぶ。(参考: 『はじめての企業価値評価 (日経文庫)』、『入門コーポレート・ファイナンス』、『コーポレート・ファイナンス実務の教科書』)

第13回 WACC

WACC (加重平均資本コスト) などを学ぶ。(参考: 『ビジネス最新企業価値評価の考え方と実践がよ~わかる本』)

第14回 企業経営とコーポレートファイナンス

株式評価と企業価値評価を学ぶ。(参考: 『バリュエーションの教科書』、『ゼミナール企業価値評価』、『入門コーポレート・ファイナンス』)

第15回 企業価値計算の実例 (1)

前半部分の復習を踏まえつつ、実際の企業の価値計算例を学ぶ。

第16回 企業価値計算の実例 (2)

前半部分の復習を踏まえつつ、実際の企業の価値計算例を学ぶ。

第17回 企業価値の計算

企業価値の計算を理解する。(参考: 『入門コーポレート・ファイナンス』)

第18回 上場制度

上場制度と世界や日本の現実の企業評価を学ぶ。(参考: 『まだ「ファイナンス理論」を使いますか?』、『はじめての企業価値評価 (日経文庫)』)

第19回 企業分析例

日本、世界、神戸の企業分析例を学ぶ。設備投資と減価償却を学び、企業の意味決定の事例を学ぶ。

第20回 投資政策

投資政策を学び、企業の意味決定の事例を学ぶ。(参考: 『入門リアル・オプション』、『ファイナンス思考』)

第21回 資本構成

「法人税とデフォルトコスト」や「財務の柔軟性と資本構成の調整」を学ぶ。(参考: 『コーポレート・ファイナンス実務の教科書』)

第22回 MMの無関連命題

教科書の15章の内容に則して、MMの無関連命題を学ぶ。(参考: 『入門コーポレート・ファイナンス』、『企業価値の神秘』)

第23回 課題説明 (1)

実際の企業の価値計算を行い、課題レポートの内容を説明。

第24回 課題説明 (2)

実際の企業の価値計算を行い、課題レポートの内容を説明。

第25回 債券の基本

社債や格付けなどを学ぶ。(参考: 『[新版]この1冊ですべてわかる 金融の基本』、『コーポレート・ファイナンス実務の教科書』、『入門社債のすべて』)

第26回 ポートフォリオ

ポートフォリオやリスク管理の基礎を学ぶ。(参考: 『ファイナンス論・入門 (有斐閣コンパクト)』)

第27回 ペイアウト政策

企業と投資家の両面の視点で「配当」・「利益還元とペイアウト政策」から資本市場について考える。(参考: 『ファイナンスの哲学-』、『この1冊ですべてわかるコーポレートガバナンスの基本』)

第28回 プリンシパル・エージェント問題

コーポレートガバナンス、プリンシパル・エージェント問題を、株主の「経営陣を選任する権利」や株主総会などを学ぶ。(参考: 『[実況]ファイナンス教室 (グローバルMBA集中講義)』)

第29回 コーポレートガバナンス

ファイナンス学習の総まとめとファイナンスの現状について学ぶ。(参考: 『この1冊ですべてわかるコーポレートガバナンスの基本』)

第30回 まとめ (練習問題)

講義全体のまとめや練習問題

2022年度 前期

4単位

国際経済学

伴 ひかり

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本講義科目の目的は、経済学部でのDPに掲げる、「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できること」、および、「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること」と関連する。具体的には、国際貿易や国際金融についての基礎的理論を理解し、それらを踏まえて現実の国際経済の動向を考察できるようになることを目的とする。また、この科目は3・4年次配当の基幹科目の一つであり、ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎知識があることが望ましい。

<到達目標>

1. 貿易をめぐる現実の問題に関心を持ち、ある程度論理的に考察できる (態度・習慣, 知識, 技能) .
2. 現実の為替レートの動向について関心を持ち、ある程度その原因や影響を論理的に説明できる (態度・習慣, 知識, 技能) .
3. 国際収支表を理解し、実際の統計表を活用できる (知識, 技能) .
4. 国際貿易システムや国際通貨システムの変遷について

概略を説明できる（知識）。

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には予習1時間、復習1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

4回程度課題を課す。課題の解答は後日解説する。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験(90%)と提出課題(10%)で評価する。評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。感染状況等によっては提出課題で評価する可能性があるため課題は必ず提出すること。

< テキスト >

藤川清史（編）『経済政策入門』法律文化社，2020年。
ミクロ経済学・マクロ経済学の復習として第1章から第3章，貿易政策として第11章，国際金融システムとマクロ経済学として第12章を利用する。また，後期の経済政策（伴）でも使用する。

< 参考図書 >

（国際貿易編）初級 ， 中級 ， 上級

石川城太・椋木寛・菊地徹（著）『国際経済学をつかむ [第2版]』有斐閣，2013年。

P.R.クルーグマン，M.オプストフェルド，M.J.メリッツ（著）『クルーグマン 国際経済学理論と政策 [原著第10版] 上：貿易編』丸善出版，2017年。

中西訓嗣（著）『国際経済学 国際貿易編』ミネルヴァ書房，2013年。

（国際金融編）

奥田宏司・代田純・櫻井公人（編）『現代国際金融図解と解明 [第3版]』法律文化社，2016年。

P.R.クルーグマン，M.オプストフェルド，M.J.メリッツ（著）『クルーグマン 国際経済学理論と政策 [原著第10版] 下：金融編』丸善出版，2017年。

岩本武和（著）『国際経済学 国際金融編』ミネルヴァ書房，2012年。

（全般）

伊川一宏・林原雅之・佐竹正夫・青木浩治（著）『基礎国際経済学』中央経済社，2000年。

< 授業計画 >

第1~2回 比較優位

国際経済学を学ぶ意義について考える。

比較優位の考え方及び貿易の利益を理解する。

第3~4回 リカード・モデル

リカード・モデルの基礎を理解する。

第5~6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル

ヘクシャー＝オリーン＝モデルの基礎を理解する。

第7~8回 産業内貿易と規模の経済

規模の経済と製品差別化を考慮して，産業内貿易を理解する。

第9~10回 貿易政策

貿易政策の手段と効果について理解する。

第11~12回 貿易をめぐる議論

保護貿易，および貿易と環境の関係について考察する

第13~14回 国際貿易体制

GATTからWTOの流れおよび地域貿易協定の動向について理解する。

第15~16回 国際収支

国際収支を理解する。

第17~18回 為替レートと貿易

為替レートとは何か，さらに，為替レートと貿易の関係について理解する。

第19~20回 為替レートと貿易収支

Jカーブ効果やマーシャル＝ラーナー条件を理解する。

第21~22回 為替レートの決定

短期と長期の為替レート決定理論を理解する。

第23~24回 マンデル＝フレミング・モデル(1)

マンデル＝フレミング・モデルの基礎を理解する。

第25~26回 マンデル＝フレミング・モデル(2)

マンデル＝フレミング・モデルを用いて開放経済下の経済政策効果を理解する。

第27~28回 国際通貨システム

国際通貨システムの変遷について理解する。

第29~30回 世界経済をめぐる議論

世界経済を巡るトピックを取り上げ考察する。

2022年度 後期

4単位

国際経済学

石本 眞八

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPの2に示されている、国際貿易の基礎理論と貿易政策の評価、マクロ経済政策効果の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できることを目指しています。

この科目はミクロ経済学・マクロ経済学の応用科目なので、「入門ミクロ経済学」「入門マクロ経済学」を理解していることが必要になります。

理論的な内容を理解するとともに、公務員試験に出題されているような計算問題も解けるようになることを目的としています。

< 到達目標 >

国際貿易に関する諸問題やマクロ経済政策の意義について自らの意見を述べることができる。

< 授業の進め方 >

講義が中心であるが理解度を測るために適宜問題を解いてもらう。

< 履修するにあたって >

ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な内容を理解していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業の復習に最低 1 時間は必要です。

< 提出課題など >

定期試験終了後に正答と解説を公開し、質問に答える。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験(100%)で評価する。

< 参考図書 >

必要に応じて適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 ミクロ経済学の復習

消費者行動の理論：需要曲線の導出と消費者余剰

第2回 ミクロ経済学の復習

生産者行動の理論：供給曲線の導出と生産者余剰

第3回 ミクロ経済学の復習

市場均衡：超過需要と超過供給、価格調整メカニズム

第4回 リカード・モデル

2財1要素経済モデル

第5回 リカード・モデル

閉鎖経済均衡：閉鎖経済均衡価格の決定要因

第6回 リカード・モデル

自由貿易均衡：比較優位の原理と物々交換利益

第7回 ヘクシャー・オリーン・モデル

2財2要素経済モデル

第8回 ヘクシャー・オリーン・モデル

閉鎖経済均衡：閉鎖経済均衡価格の決定要因

第9回 ヘクシャー・オリーン・モデル

自由貿易均衡：ヘクシャー・オリーン定理

第10回 ヘクシャー・オリーン・モデル

貿易利益：消費機会の拡大と貿易利益

第11回 貿易政策

輸入関税政策

第12回 貿易政策

輸入割当政策：輸入割当政策と輸入関税との同等性

第13回 貿易政策

輸出補助金政策

第14回 貿易政策

関税同盟：関税同盟と経済のブロック化

第15回 マクロ経済学の復習

IS-LMモデル：国民所得と利子率の同時決定

第16回 マクロ経済学の復習

財政政策と金融政策の効果

第17回 マンデル・フレミングモデル

IS-LMモデルの拡張

第18回 マンデル・フレミングモデル

BP曲線：国際収支と資本移動

第19回 マンデル・フレミングモデル

資本移動が無い場合の財政政策と金融政策の効果

第20回 マンデル・フレミングモデル

資本移動が不完全な場合の財政政策と金融政策の効果

第21回 マンデル・フレミングモデル

資本移動が完全な場合の財政政策と金融政策の効果

第22回 マンデル・フレミング・モデル

為替相場制・資本移動と財政政策・金融政策の効果の関連性

第23回 マンデル・フレミング・モデル

マンデル・フレミング・モデルの意義と限界

第24回 為替レート決定理論

購買力平價説

第25回 為替レート決定理論

国際収支アプローチ

第26回 為替レート決定理論

アセット・アプローチ

第27回 為替レート決定理論

オーバーシュート・モデル

第28回 為替レート決定理論

まとめ：期間と変動要因の関係

第29回 国際マクロ経済学の意義

諸外国のマクロ経済政策の影響

第30回 まとめ

国際経済学の理論と実際

2022年度 前期

4単位

国際投資論 企業

中村 亨

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

< 主題 >

「グローバル化と国際投資の最前線を学ぶ」

現在の世界経済は、IT革命の進展、直接投資・証券投資の飛躍的な増大により企業活動のグローバル化が猛烈な勢いで進んでいる。本講では、こういった激変する資本市場の実態を理解するための国際投資の理論、実証分析の最前線を紹介することが目的である。マクロ経済的な観点から論じるだけでなく、このような国際投資のダイナミズムを多くの資料を援用しながら解説する。

< 目標 >

この科目は経済学部のDPの経済問題を総合的に分析できる知識と技能を修得し、自主的な意思決定できることを目指します。さらに、国際金融の現状及び国際投資理論の基礎を学ぶことがで

きます。

新興国の現状を学ぶことができます。

最近の世界金融危機の原因を学ぶことができます。

ホームページ

<https://ntohru.wixsite.com/mysite>

<到達目標>

投資に関する経済計算を正確に計算できる。(技能)

金融商品の数理的構造を理解できる。(知識)

金融危機の波及経路を数式、グラフを通じてロジカルに説明できる。(知識・技能)

リスクをたえず意識でき、それを回避する手段を考えるくせをつけることができる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

金融危機、グローバル化、ポートフォリオ、リスク

<授業の進め方>

毎回授業に必要な教材をあらかじめ読んだ上で参加し、受けた授業の内容は次の講義時の冒頭でミニテストで確認する。頻繁にレポートの課題が与えられ、その作成の過程で授業の内容の理解を深めていく。

<履修するにあたって>

講義ノートはdotCampusに掲載される。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、授業の冒頭で行う小テストの準備し、講義の対象となる教材の箇所を読んでおくこと。(目安として1時間)

事後学習として、教材での演習問題を再確認しておくこと。(目安として1時間)

<提出課題など>

・小テストを頻繁に実施します。そのフィードバックとして、テスト終了後に解説を行い、自己採点できるようにします。

・数回の課題レポートを課します。そのフィードバックとして、課題レポート提出後に、模範解答を発表し、レポートに評価を入れて返却します。

<成績評価方法・基準>

小テスト70%、レポート30%で評価する。

<テキスト>

使用しません。

<参考図書>

『現代の金融(新版)』池尾和人著、ちくわ新書

『クルグマン 国際経済学 理論と政策(原著第10版)』クルグマン・オブズフェルド・メリッツ著、丸善出版

『大恐慌論』バーナンキ著、日本経済新聞出版社

<授業計画>

第1回 序論：大競争時代における国際投資

国際投資論を学ぶ意義を講述します。

第2回 金融危機の経済学(1)

リーマンショックやユーロ危機が起こった原因を考察し

ます。

第3回 金融危機の経済学(2)

リーマンショックやユーロ危機が起こった原因を考察します。

第4回 金融危機の経済学(3)

リーマンショックやユーロ危機が起こった原因を考察します。

第5回 国際収支の基礎(1)

世界経済のダイナミズムを理解するための分析用具である、国際収支の概念を講述します。

第6回 国際収支の基礎(2)

世界経済のダイナミズムを理解するための分析用具である、国際収支の概念を講述します。

第7回 対外不均衡の経済学(1)

金利、為替レート、予想、マネー、金融政策の関係を講述します。

第8回 対外不均衡の経済学(2)

金利、為替レート、予想、マネー、金融政策の関係を講述します。

第9回 対外不均衡の経済学(3)

金利、為替レート、予想、マネー、金融政策の関係を講述します。

第10回 対外不均衡の経済学(4)

金利、為替レート、予想、マネー、金融政策の関係を講述します。

第11回 ポートフォリオ分析の基礎(1)

経済学の財産の一つであるポートフォリオの分析を行う。リスク分散の手法を学び、金融ハイテク技術への橋渡しとなることを学ぶ。

第12回 ポートフォリオ分析の基礎(2)

経済学の財産の一つであるポートフォリオの分析を行う。リスク分散の手法を学び、金融ハイテク技術への橋渡しとなることを学ぶ。

第13回 ポートフォリオ分析の基礎(3)

経済学の財産の一つであるポートフォリオの分析を行う。リスク分散の手法を学び、金融ハイテク技術への橋渡しとなることを学ぶ。

第14回 ポートフォリオ分析の基礎(4)

経済学の財産の一つであるポートフォリオの分析を行う。リスク分散の手法を学び、金融ハイテク技術への橋渡しとなることを学ぶ。

第15回 ポートフォリオ分析の基礎(5)

経済学の財産の一つであるポートフォリオの分析を行う。リスク分散の手法を学び、金融ハイテク技術への橋渡しとなることを学ぶ。

第16回 ポートフォリオ分析の基礎(6)

経済学の財産の一つであるポートフォリオの分析を行う。リスク分散の手法を学び、金融ハイテク技術への橋渡しとなることを学ぶ。

第17回 ポートフォリオ分析の基礎(7)

経済学の財産の一つであるポートフォリオの分析を行う。リスク分散の手法を学び、金融ハイテク技術への橋渡しとなることを学ぶ。

第18回 ポートフォリオ分析の基礎（8）

経済学の財産の一つであるポートフォリオの分析を行う。リスク分散の手法を学び、金融ハイテク技術への橋渡しとなることを学ぶ。

第19回 デリバティブ入門（1）

ハイテク金融商品の構造を学ぶ。リスクと立ち向かう様々な手法を学ぶ。

ブラック＝ショールズ方程式の基礎を学ぶ。

第20回 デリバティブ入門（2）

ハイテク金融商品の構造を学ぶ。リスクと立ち向かう様々な手法を学ぶ。

ブラック＝ショールズ方程式の基礎を学ぶ。

第21回 デリバティブ入門（3）

ハイテク金融商品の構造を学ぶ。リスクと立ち向かう様々な手法を学ぶ。

ブラック＝ショールズ方程式の基礎を学ぶ。

第22回 M&Aと企業の投資戦略（1）

M&A（合併・買収）の理論と実践を学ぶ。最新のケーススタディーを中心にそのエッセンスを講述する。

第23回 M&Aと企業の投資戦略（2）

M&A（合併・買収）の理論と実践を学ぶ。最新のケーススタディーを中心にそのエッセンスを講述する。

第24回 M&Aと企業の投資戦略（3）

M&A（合併・買収）の理論と実践を学ぶ。最新のケーススタディーを中心にそのエッセンスを講述する。

第25回 直接投資の理論（1）

直接投資の理論、特に小島理論から、Krugman & Melitzまでをカバーし、世界経済の最もダイナミックな側面を学ぶ。

第26回 直接投資の理論（2）

直接投資の理論、特に小島理論から、Krugman & Melitzまでをカバーし、世界経済の最もダイナミックな側面を学ぶ。

第27回 直接投資の理論（3）

直接投資の理論、特に小島理論から、Krugman & Melitzまでをカバーし、世界経済の最もダイナミックな側面を学ぶ。

第28回 世界恐慌論（1）

バーナンキ著『大恐慌論』を参考文献に大恐慌分析を行う。併せて資本移動の最先端の研究を紹介する。

第29回 世界恐慌論（2）

バーナンキ著『大恐慌論』を参考文献に大恐慌分析を行う。併せて資本移動の最先端の研究を紹介する。

第30回 世界恐慌論（3）

バーナンキ著『大恐慌論』を参考文献に大恐慌分析を行う。併せて資本移動の最先端の研究を紹介する。

2022年度 後期

4単位

サービス経済論 [生活]

木暮 衣里

< 授業の方法 >

講義

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >

今日の社会はサービス及びサービス産業が非常に大きな役割を占める、サービス経済の時代です。この科目ではまずサービスとは何か、サービス産業の発展と構造について学びます。企業経営の視点から、サービスのマーケティングとマネジメントについても学修します。

この科目は学部のDPで示す、

（知識・技能）

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

以上の2点を目的とします。

なお、担当者は1991年に中小企業診断士の資格を取得しており、コンサルティングや調査研究活動を通じた経験に基づき、実践的な観点からも解説を行います。

< 到達目標 >

・「サービス」「サービス産業」「サービス経済」とは何かを説明できる

・現代社会におけるサービスの意味と活動について、自ら情報を集めて考察・説明できる

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使った講義形式で進めます。発表やグループ・ディスカッションなど、アクティブラーニングも取り入れます。

< 履修するにあたって >

自分で文献を調べたり質問・発表を通じて、授業に積極的に参画してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習と予習で90分程度

< 提出課題など >

授業内で小課題を実施します。優れた提出物は次回授業で紹介し、ポイントの解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

受講態度・質疑・発表・課題（50%）、期末テスト（50%）で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

森川 正之『サービス立国論 成熟経済を活性化するフロンティア』日本経済新聞出版、2016年

中藤 玲『安いニッポン 「価格」が示す停滞』日本経済新聞出版、2021年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要と進め方、評価について

第2回 サービスとは何か

サービスの特性

第3回 サービス産業の構造

統計に見るサービス産業

第4回 サービス産業の発展

サービス産業の台頭

第5回 サービス産業の発展

サービス産業の興隆

第6回

サービス産業の発展

サービス産業の多様化

第7回 サービス産業の課題

サービス産業と労働

第8回 サービス産業の課題

高付加価値化と生産性向上

第9回 サービス産業の振興

サービス産業政策

第10回 公的サービス

公的サービスの役割

第11回 公的サービス

公的サービスの状況

第12回 経済のサービス化

サービス・ドミナント・ロジック（SDL）

第13回 サービスと需要

対個人サービス需要

第14回 サービスと需要

対法人サービス需要

第15回 サービスと供給

対個人サービス供給

第16回 サービスと供給

対法人サービス供給

第17回 サービスと品質

サービスの評価

第18回 サービスと品質

インナーマーケティングと顧客満足

第19回 サービスと価格

価格の決定

第20回 サービスと価格

需要弾力性

第21回 サービスと流通

実店舗の機能と役割

第22回 サービスと流通

オンライン化の進展

第23回 サービスとコミュニケーション

コミュニケーション産業

第24回 サービスとコミュニケーション

メディアの役割

第25回 サービス貿易

サービス貿易とは何か

第26回 サービス貿易

サービス貿易の現状

第27回 世界のサービス経済

先進国の状況

第28回 世界のサービス経済

新興国の状況

第29回 サービス経済の今後

内外の課題と展望

第30回 まとめ

講義の振り返り

2022年度 前期

4単位

財政学【公共のみ】（4年次生は全コース履修可）

平井 健之

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

【授業の概要】

財政とは、政府の経済活動を意味します。政府は道路や公園、学校教育、さらに医療や年金といった社会保障など、さまざまなサービスを人々に提供する一方で、そのために人々から税金や社会保険料などの資金を徴収しています。この授業では、財政の制度や仕組みについて理解するとともに、財政が人々の行動に及ぼす影響を経済学的に分析し、財政のあるべき姿を検討します。

【授業の目的】

財政の制度や仕組みを理解するとともに、財政が個人や企業に及ぼす影響を経済学的に分析する能力を身に付け

ることを目的とします。この科目は、学部のDPに掲げるように、経済の制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を制度的に理解できること、さらに、経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できることを目指します。

<到達目標>

財政をめぐる政府の役割について説明することができる。

財政のさまざまな制度や仕組みについて説明することができる。

政府支出の内容や現状を把握するとともに、望ましい支出のあり方を経済学的に分析する能力を身に付けることができる。

主要な税金の制度や仕組みを理解するとともに、望ましい課税のあり方を経済学的に分析する能力を身に付けることができる。

習得した知識や考え方を基にして、政府の望ましいあり方を考えることができる。

<授業のキーワード>

予算、歳入と歳出、租税、公債の負担、地方財政、政府債務

<授業の進め方>

配布資料に基づき、講義形式で授業を進めます。

<履修するにあたって>

授業内容は毎時間連続していますので、毎回ごとの復習に重点をおいて学習してください。

<授業時間外に必要な学修>

受講に際しては、毎時間ごとに復習を中心とした授業時間外の学習が不可欠です(授業時間の1.5倍以上)。

<提出課題など>

授業内容に関する問題を、提出課題として課します。

その場合、解答については、後日、解説します。

<成績評価方法・基準>

授業で課すレポート(課題)40%、定期試験60%により評価します。

なお、レポート(課題)について未提出の場合は、未提出分は評価されません(評価は0点となります)ので、注意してください。

定期試験は、持ち込み不可とします。

<テキスト>

とくに使用しません。プリントを配布します。

ただし、配布資料を補完するために、参考文献を挙げておきますので、適宜、参照してください。

<参考図書>

小塩隆士 著『コア・テキスト財政学 第2版』(新世社)、2016年

畑農鋭矢・林正義・吉田浩著『財政学をつかむ 新版』(有斐閣)、2015年

西村幸浩・宮崎智視著『財政のエッセンス』(有斐閣)、2015年

<授業計画>

第1・2回 財政とは何か

政府の定義と範囲について学習する。

市場経済における政府の役割を検討する。

「大きな政府」と「小さな政府」をめぐり、政府の規模について学習する。

第3・4回 財政制度

日本の予算制度の仕組みを理解する。

日本の予算の現状や内容について把握する。

第5・6回 財政制度

日本の予算の種類とその内容を理解する。

予算の編成、審議、執行、決算の過程を理解する。

第7・8回 財政制度

財政投融资の仕組みを理解する。

財政投融资計画の策定について学習する。

第9・10回 租税の基礎

税の分類のあり方を学習する。

税の課税原則について理解する。

第11・12回 租税の基礎

包括的所得税と支出税について学習する。

租税の転嫁と帰着について学習する。

課税の超過負担について学習する。

第13・14回 日本の租税

日本の所得税制の仕組みを理解する。

日本の法人税制の仕組みを理解する。

第15・16回 日本の租税

日本の消費税の仕組みを理解する。

労働所得税の経済効果を学習する。

第17・18回 財政収支

基礎的財政収支と債務残高との関係について理解する。

政府の財政赤字をめぐる問題点を検討する。

政府債務の持続可能性の条件について理解する。

第19・20回 公債

国債発行の原則について理解する。

国債の分類と発行方式について理解する。

国債発行と国債残高の推移と現状について把握する。

第21・22回 公債

日本の国債の償還ルールについて理解する。

公債をめぐる負担論について理解する。

公債の中立性をめぐる議論について学習する。

第23・24回 地方財政

地方財政の役割と仕組みを理解する。

地方財政支出に関する理論を学習する。

地方税の課税原則と主要な地方税の内容について理解する。

第25・26回 地方財政

国から地方への財政移転(地方交付税)について理解する。

国から地方への財政移転(国庫支出金)について理解する。

地方債の仕組みについて理解する。

第27・28回 社会保障

社会保障の機能について理解する。

公的年金、医療保険、介護保険の制度について理解する。

生活保護の制度と問題について理解する。

第29・30回 まとめ

講義全体のまとめ

講義全体の総復習

2022年度 後期

4単位

財政学 【生活のみ】（4年次生は全コース履修可）

安岡 匡也

< 授業の方法 >

対面授業を行う。

ただし、授業内容を録画した資料と配布資料をdotcampusにアップロードする。

< 授業の目的 >

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの方が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとしたい。

このような授業目的は全学及び経済学部のDP（ディプロマポリシー）とも整合的である。

< 到達目標 >

税と社会保障の改革はどうあるべきかについて、自ら意見を積極的に述べられるようになることが最終目標である。

< 授業のキーワード >

租税、予算の仕組み、社会保障制度

< 授業の進め方 >

テキストに従って講義を進める。

テキストだけでは不十分と思われる論点についてはレジュメを適宜用意する。

< 履修するにあたって >

財政学では制度、事情だけでなく経済理論に基づいた分析も行う。

その際、高校程度の数学を必要とするので、数学について自信がない場合は適宜復習しておくこと（四則演算に加え、二次関数の計算と図形の計算ができれば良い）。

< 授業時間外に必要な学修 >

財政学を学ぶことによって、日本経済新聞で説明されて

いる財政学に関するニュースは十分理解できるはずである。

ただ学ぶだけでなく、学んだことが社会とどのように関連しているかを実感できるためにも新聞等のニュースをチェックしてほしい。具体的に新聞に記載されている財政のトピックを一週間ごとにまとめてチェックするだけでも1? 2時間くらいはかかるだろう。

また、テキストの該当箇所は必ず読むようにしてほしい。

< 提出課題など >

レポートの詳細については下記記載しているが、提出はすべてオンラインフォームでの提出とする。

予定される手段はMicrosoft formsである。

提出課題のアナウンスはdotcampusでアナウンスする。

< 成績評価方法・基準 >

複数回のレポート提出を求める。

第16回に中間レポートのお題、第30回に期末レポートのお題を示す。

中間レポートの配点は40点、期末レポートの配点は60点である。

上記に加え、加点レポートも課す予定であるが、出題のタイミングはランダムとする。

< テキスト >

安岡 匡也「経済学で考える社会保障制度 第2版」中央経済社

< 参考図書 >

安岡 匡也「経済学で考える社会保障制度 第2版」中央経済社

神野真敏・安岡匡也 編著「歴史と理論で考える 日本の経済政策」中央経済社

駒村康平・丸山桂・齋藤香里・永井政治「社会保障の基本と仕組みがよく分かる本（第2版）」 秀和システム

安岡匡也「少子高齢社会における社会政策のあり方を考える」 関西学院大学出版会

図説日本の財政（各年度版） 東洋経済新報社

図説日本の税制（各年度版） 財経詳報社

< 授業計画 >

第1回 財政とは何か？（前半のイントロダクション）
財政の3つの機能と財政学の変遷、財政学が取り組むべき問題について説明する。

第2回 日本の財政制度

国の財政制度における一般会計、特別会計、政府関係機関、財政投融资制度について説明する。

第3回 租税

日本の所得税制度について説明する

第4回 租税
日本の法人税、消費税制度について説明する。

第5回 租税
望ましい租税制度の在り方について応益説と応能説の観点から説明する。

第6回 租税
望ましい租税制度の在り方について課税原則の観点から説明する。

第7回 租税
望ましい租税制度の在り方について最適課税問題の観点から説明する。

第8回 公債
日本の公債発行のしくみ及び公債発行の将来世代への負担の転嫁について説明する。

第9回 日本の財政制度
地方財政制度について説明する。

第10回 公共財
望ましい公共財の供給のあり方について説明する。また、政治経済学の観点から実際の公共財の供給の決定についても説明する。

第11回 マクロ財政政策
租税負担や政府支出が国内総生産にどのような影響を与えるのかを説明する。

第12回 外部性
外部性とは何かを明らかにした上で、望ましい政策のあり方について説明する。

第13回 所得再分配
ジニ係数や相対的貧困率などの所得格差を測る指標を元に日本の所得格差の現状について説明する。

第14回 財政事情の国際比較
財政事情について先進諸国と比較を行いながら日本の財政事情について説明を行う。

第15回 財政の役割と私たちの生活
財政は私たちの生活でどのような役割を果たしているのか。財政がないことによってどのような問題が起きるのか、映像教材を用いて説明を行う。

第16回 前半のまとめ
前半のまとめ

第17回 社会保障制度とは何か？（後半のイントロダクション）
日本の社会保障制度の概要について説明する。

第18回 年金制度
日本の公的年金制度について説明する。

第19回 年金制度
諸外国の公的年金制度を紹介し、それを元に日本の公的年金制度の問題点をどのように解決すれば良いのかを説明する。

第20回 医療保険制度
日本の公的医療保険制度について説明する。

第21回 医療保険制度

日本の公的医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度について説明する。

第22回 介護保険制度

日本の公的介護保険制度について説明する。

第23回 生活保護制度

日本の生活保護制度及び諸外国の公的扶助制度について説明する。

第24回 雇用保険制度

日本の雇用保険制度について説明する。

第25回 育児支援制度

日本の育児支援制度の仕組み、問題点と諸外国の育児支援制度について説明する。

第26回 社会保障の経済分析

モラルハザード、逆選択について説明を行った上で、望ましい生活保護制度や公的医療保険制度について説明する。

第27回 社会保障の経済分析

医療制度における混合診療の是非、年金制度における積立方式と賦課方式について説明する。

第28回 税と社会保障の改革について

今後、持続可能な社会保障制度の維持のために日本の税制と社会保障制度はどうあるべきかをこれまでの講義内容を元に説明を行う。

第29回 社会保障制度と私たちの生活

社会保障制度は私たちの生活にどのような影響を与えているのか。社会保障制度がないことによってどのような問題が起きるのか、映像教材を用いて説明を行う。

第30回 まとめ

これまでの内容のまとめを行う。

2022年度 後期

4単位

財学 【企業のみ】（4年次生は全コース履修可）

渡部 尚史

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は経済学部DPに示す「経済理論の基礎を修得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを目指す。3・4年次配当の基幹科目に属する。財政制度を踏まえて、財政活動を理論的に理解できるようになることを目的とする。

<到達目標>

公務員試験問題を解くことができる。

<授業のキーワード>

予算、公共支出、租税、財政政策、地方財政

<授業の進め方>

講義を中心に進める。

<履修するにあたって>

公共経済論の単位を修得していることが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、テキストの講義対象の箇所を読む（1時間）。事後学習として、テキストの講義対象の箇所とプリントを読み返す（1時間）。テキストを読むことが理解のポイントである。

< 提出課題など >

課題を5回課す。テーマは、 財政の機能・予算制度、 政府支出、 租税 、 租税 、 公債である。

< 成績評価方法・基準 >

授業内容に関する課題50%と定期試験50%の割合で評価する。定期試験の問題は課題をベースに作成する。テキスト、プリント、課題をしっかりと読み込んで定期試験に臨むこと。

< テキスト >

森田雄一・柳原光芳編著『財政入門』中央経済社、2019年、2,700円。

< 授業計画 >

第1回・第2回 財政・政府の役割

市場の役割と財政、政府に求められる役割を理解する（テキストの第1章、『図説日本の財政』財政の3機能）。

第3回・第4回 国家財政の予算制度

予算制度、予算過程、財政投融资について理解する（テキストの第2章、『図説日本の財政』予算制度、予算の編成・執行・決算、財政投融资）。

第5回・第6回 社会保障

社会保障制度を理解する（テキストの第9章、『図説日本の財政』社会保障）。

第7回・第8回 社会保障

社会保障の負担と給付、社会保障の機能を理解する（テキストの第9章）。

第9回・第10回 社会資本

社会資本、費用便益分析を理解する（テキストの第10章）。

第11回・第12回 文教・科学振興、中小企業

文教・科学技術振興に対する政府支出の内容を理解する（テキストの第11章）。

第13回・第14回 中小企業・農林水産など

中小企業、農林水産、経済協力・防衛に対する政府支出の内容を理解する（テキストの第12章）。

第15回・第16回 前半のまとめ

公務員試験問題を解きながら、財政制度、歳出についての授業内容を理解する。

第17回・第18回 租税原則と税制度

租税原則と税制度を理解する（テキストの第4章）。

第19回・第20回 所得税

所得税の仕組み、労働所得税の理論を理解する（テキストの第6章）。

第21回・第22回 法人税

法人税の概要、法人擬制説と法人実在説、法人税が投資

に与える影響を理解する（テキストの第7章）。

第23回・第24回 消費税

消費課税の概要、消費課税の帰着、最適課税を理解する（テキストの第5章）。

第25回・第26回 公債

公債発行の仕組み、公債発行の影響、公債負担を理解する（テキストの第8章）。

第27回・第28回 政治経済

公共選択、選挙、政府の失敗を理解する（テキストの第15章）。

第29回・第30回 後半のまとめ

公務員試験問題を解きながら、租税、公債についての講義内容を理解する。

2022年度 前期

4単位

産業技術論（企業）

大塚 英美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

【目的】

産業界におけるイノベーションは、経済の発展に大きく影響を与えます。イノベーションとは、単なる技術の革新ではなく、それを普及させることによってよりよい社会に結びつける新たな価値を創出する変革であるといえます。本講義では、産業界のイノベーションに関する諸理論を学習し、個人、企業、産業の3つのレベルからイノベーションについて検討します。また、SDGsにかかわる社会的課題を取り上げ、それを解決するための企業の取り組みについて検討します。

【ディプロマポリシーとの関連】

・専門分野に高い関心を持ち、イノベーションについて理論的に理解できる（知識・技能）。

・幅広い情報を活用して問題点を発見し、分析・考察することができる（思考力・判断力・表現力等の能力）。

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）。

・主体的にグループワークに参加し、多様な意見の受容および積極的な発言を通して、協働することができる（主体性・協働）。

< 到達目標 >

（1）イノベーションに関する諸理論を説明することができる（知識）。

(2) 経済動向とイノベーションとの関係を個人・企業・産業レベルに相互に結びつけて検討することができるようになる(論理力)。

(3) グループ・ディスカッションに参加し、建設的な発言、資料作成、プレゼンテーション・スキルを養うことができる(主体性・協働・表現力)。

<授業のキーワード>

イノベーション、経営戦略、両利きの経営、組織デザイン、SWOT分析、5フォース分析、PPM、ビジネスモデル、サービス・イノベーション、ICT、テレワーク、SDGs

<授業の進め方>

主に1限目に講義、2限目に演習を行います。

【講義】

イノベーションに関する諸理論

経営現象の詳細な理解(ビデオ視聴を1回含む)

【演習】

社会現象を把握するためにデータベースへのアクセスとその分析

企業におけるイノベーションに関するケース分析

ケース研究: グループ討議 プレゼンテーション資料作成 プレゼンテーション

* 状況に応じて、情報処理教室を利用する場合があります。

* 企業との連携で社会的課題を解決する演習を実施する場合があります。

<履修するにあたって>

レポートの提出方法についてはガイダンスで説明します
<授業時間外に必要な学修>

レポート課題、ケース分析に関連する資料を提供しますので事前に読んできてください。(1時間程度)レポートの書き方、ケース分析に必要な論理力は、参考図書を紹介しします。

<提出課題など>

・レポート課題 Teamsにて、翌々週までに添削して返却

・企業分析 発表に対するコメント

<成績評価方法・基準>

レポート課題とケース研究で100%評価します。

課題1(10%)、課題2(10%)、課題3(20%)、ケース研究1(20%)、ケース研究2(20%)、理解度テスト(20%)

* すべての課題を提出することで評価対象の条件となります。

* グループワークにおいても、個人の成果で評価します。

<テキスト>

なし

<参考図書>

・「両利きの経営」チャールズ・オリリー、マイケル・タッシュマン(邦訳; 入山章栄・富山和彦)(2019年) 東洋経済新報社

・「考える経営学」中川功一、佐々木将人、服部泰宏(2021年) 有斐閣

・「ベーシックプラス 経営戦略」井上達彦・中川功一・川瀬真紀(2020年) 中央経済社

・「イノベーション・マネジメント入門」一橋大学イノベーション研究センター【編】日本経済新聞出版社(2017年)

・「組織デザイン」沼上幹(2004年) 日経文庫

<授業計画>

第1回

第2回 ガイダンス

イノベーションとは何か?

・講義の概要と進め方、評価について

・イノベーションに関する基本知識

第3回

第4回 イノベーションの歴史

・イギリスの産業革命とアメリカのビッグビジネス

第5回

第6回 日本企業におけるイノベーション

・日本企業の特徴

・イノベーターのジレンマ

第7回

第8回 現代の企業経営1

・持続可能な開発目標(SDGs)

・企業の社会的責任(CSR)と共有価値の創造(CSV)

第9回

第10回 現代の企業経営2

・社会的課題と企業の取り組み

・ダイバーシティ・マネジメントとインクルージョン

第11回

第12回

経営戦略論1

・3つのレベルの企業戦略

・経営戦略における諸理論

第13回

第14回 経営戦略論2

・組織デザイン

・シナジー

・バウンダリー

第15回

第16回 経営戦略論3

・企業戦略に関する事例研究

第17回

第18回 経営戦略論 4

・演習課題：企業戦略におけるSWOT分析

第19回

第20回 経営戦略5

・演習：企業戦略におけるSWOT分析・考察の発表

第21回

第22回 ベンチャー企業 1

・ビジネスモデル

・ベンチャー企業のケース分析

第23回

第24回 ベンチャー企業 2

・ベンチャー企業ケース分析、グループワーク、発表

第25回

第26回 サービス・イノベーション1

・サービス・イノベーションに関する諸理論

・サービス・イノベーションに関するビデオ視聴

第27回

第28回 サービス・イノベーション2

・サービス・イノベーションに関するケース研究

第29回

第30回 ・総まとめ

・理解度テスト

・産業技術論で扱った理論・専門用語の整理

2022年度 後期

4単位

産業組織論 [企業]

常廣 泰貴

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部DPに示す、2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できることを目指しています。

< 主題 > 企業行動の分析。

< 目標 > 複数の企業が同一の財を生産する市場において、価格や生産量がどのように決定され、それらが産業構造や社会的厚生水準などと、どのように関係するのかを理論的に明らかにすることを目標とします。企業は利潤を最大にするよう行動するとして分析を行います。その場合に企業は他企業の行動を考慮に入れて自らの行動を決定することになります。このような行動が互い影響しあう場合を分析するためにはゲーム理論による分析が必要となります。本講義ではゲーム理論の基本的な考

え方を修得することも目標とします。

< 到達目標 >

ミクロ経済学やゲーム理論を応用して、産業組織論の基本的な問題を分析できる。

< 授業の進め方 >

基本的に板書によって授業を行う。

< 履修するにあたって >

ミクロ経済学の基本的な知識が必要。

< 授業時間外に必要な学修 >

線形代数や微分などの基礎知識の習得も含め、講義1回あたり1時間の学習。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験の結果のみで評価する。評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、必ず所定の手続きに従って追試験を受験しなければならない。

< 参考図書 >

適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義内容の概観

第2回・第3回 経済数学の基礎

一次関数、二次関数、微分

第4回・第5回 ゲーム理論の基礎 1

標準形ゲーム

第6回・第7回 ゲーム理論の基礎 2

ナッシュ均衡 1

第8回・第9回 ゲーム理論の基礎 3

ナッシュ均衡 2

第10回・第11回 ゲーム理論の基礎 4

展開形ゲーム

第12回・第13回 ゲーム理論の基礎 5

部分ゲーム完全均衡 1

第14回・第15回 ゲーム理論の基礎 6

部分ゲーム完全均衡 2

第16回・第17回 ゲーム理論の基礎 7

ゲーム理論の基礎のまとめ。

第18回・第19回 市場構造

完全競争市場、不完全競争市場

第20回・第21回 企業行動 1

独占市場での企業行動

第22回・第23回 企業行動 2

複占市場での企業行動 1

第24回・第25回 企業行動 3

複占市場での企業行動 2

第26回・第27回 企業行動 4

企業行動のまとめ

第28回・第29回 経済厚生

市場構造、企業行動、社会的総余剰

第30回 まとめ
講義全体のまとめ

2022年度 前期

2単位

実践力育成 F (行政法)

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。行政法が属する法学も経済学と同じく社会現象を扱います。行政法の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

実践力育成の科目ですので、公務員試験や各種の法律系の国家試験の試験科目の「行政法」については、目指す試験の問題集を一人で解き進めていけるレベルに到達することが第一の目的です。

行政法の全体像と主要な制度、条文、判例を理解し習得することや、行政法の理解を通じて、法的な思考力を身に付けることも目的とします。

本授業は、公務員試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験などの本試験問題を積極的に活用します。

< 到達目標 >

行政法の全体像と主要な制度、条文、判例について説明できる。

法的な思考力を身に付け、他の法律科目の学習に役立てることができる。

公務員試験や国家試験で出題される行政法の頻出テーマの標準的な問題が8割以上正解できる。

< 授業のキーワード >

法律による行政の原理、行政行為、行政手続法、行政不服審査法、国家賠償法

< 授業の進め方 >

まずは条文や判例の資料を使って説明し、次に説明した内容を公務員試験や行政書士の本試験問題を使って復習します。授業時間内で扱えない問題は自主学習の時間で取り組んでください。

< 履修するにあたって >

「行政法」は、通常は「憲法」の学習を済ませた後で学習するのがスムーズです。「憲法」の知識に自信のない人は、授業内容を十分に理解することは難しいと思われるので、まずは「法学入門」の受講その他で「憲法」の知識を身に付け、法学にある程度慣れた後で実践力育成

F(行政法)を履修することを勧めます。

行政法の主要なテーマを15回の授業回数で扱うため、授業のスピードはかなり速くなります(試験対策予備校の授業と同じ程度のスピードになります。)

実践力育成の授業ですので、公務員試験等における合格レベルの得点力が修得されたと認められない限り単位認定はできません。

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

< 授業時間外に必要な学修 >

次回の授業準備として、講義内容の復習(120分)。

参考書も必要に応じて読むようにしてください。

< 提出課題など >

なし。

< 成績評価方法・基準 >

確認テストと試験(100%)

「実践力育成」の科目のため、地方上級や国家一般職の採用一次試験における標準的な問題と同レベルの知識を、五択式など明確に点数化できる形式で出題します。試験範囲は事前に明示します。

< テキスト >

レジュメを配布します。

< 参考図書 >

宇賀克也『行政法(第2版)』(有斐閣、2018年)3410円
資格試験研究会[編]『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 6 行政法』(実務教育出版、2020年)1980円
その他は授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、行政法の基礎理論

授業の方法及び内容、成績評価の説明。「行政法」とは、「行政」とは。法律による行政の原理(法治主義)、行政に関する法の形式(法律、政令、条例...)など。

第2回 行政立法、行政行為の概念と種類

行政が立法を行う場合、委任命令・執行命令、通達など。「行政行為」とは。「下命」、「許可」、「認可」など。

第3回 行政行為の効力、行政行為の瑕疵

拘束力、公定力、不可争力、自力執行力、不可変更力など。瑕疵ある行政行為、重大明白説、瑕疵の治癒、違法行為の転換など。

第4回 行政行為の取消しと撤回、

行政行為の附款と行政裁量

取消しと撤回の違い。法律の根拠の要否。補償の要否など。附款の意義、種類。行政裁量に対する司法審査など。

第5回 行政上の義務履行確保、行政行為以外の行政の行為形式

行政代執行、執行罰、即時強制、行政刑罰、行政上の秩序罰など。「行政計画」、「行政契約」、「行政調査」の概要など。

第6回 行政手続法

行政手続法の目的、申請に対する処分、不利益処分、行

政指導、届出、意見公募手続など。

第7回 情報公開法、前半の復習。

「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」など。

第7回までの復習。

第8回 確認テスト

第1回～第7回の範囲で扱った知識の確認。

第9回 行政不服審査法

審査請求、再調査の請求、再審査請求、審査請求の審理手続と裁決、執行不停止の原則、教示制度など。

第10回 行政事件訴訟法

処分の取消訴訟の概要、裁判の流れ、訴訟要件（処分性）、処分の取消訴訟の訴訟要件（原告適格、狭義の訴えの利益、その他）など。

第11回 行政事件訴訟法

処分の取消訴訟の審理と判決、執行不停止の原則、教示制度など。

第12回 行政事件訴訟法

裁決の取消訴訟、無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟など。

第13回 国家賠償法

国家賠償法の全体構造。公権力の行使にあたる公務員の違法な職務行為により損害を受けた場合の損害賠償請求。道路・河川などの公の営造物の瑕疵のために損害を受けた場合の損害賠償請求。

第14回 国家賠償法、損失補償

国家賠償法：費用を負担する国又は公共団体の責任、民法の適用、相互保証主義など。損失補償：道路拡張により個人の所有地が収用された場合のように、適法な公権力の行使によって特定の個人が受けた損失の補償。

第15回 行政組織法、全体のまとめ。

行政機関相互の関係、権限の委任・代理・専決など。全体の総復習。

2022年度 前期

2単位

実践力育成 F（ミニゼミ：ビジネス・リーダー養成）

木暮 衣里

< 授業の方法 >

講義・演習

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >

< 目的 >

この科目は、家族・親族が事業を行っており将来継承する予定の学生、また自ら起業を目指す学生を対象として、経営に関する基本的及び戦略的な理論と知識を身に付け、現実の場でも活用できるようにすることを目的とします。2021年度よりスタート。

< DPとの関連 >

・専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている（知識・技能）

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）

なお、この授業の担当者は中小企業診断士の資格を持ち、企業や自治体に対する抱負な支援経験を持つ教員であるため、より実践的な観点からも解説を行います。

< 到達目標 >

・企業経営の概要、基礎的な経営戦略、組織マネジメント、マーケティングについて理解し、説明できる

・事業の成長に貢献する経営戦略・マーケティング戦略を立案できる

< 授業の進め方 >

学習するテーマについて講義を行う。それに関連して各自情報収集と分析・考察を行い、PPT等を作成して発表。ディスカッションを行う。

< 履修するにあたって >

履修者の習熟度、関心に応じて授業計画を変更する場合があります。

未来の事業継承者あるいは起業家として、受け身にならず自ら積極的に考え・参画してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講の準備と復習に90分程度。

< 成績評価方法・基準 >

受講態度・発表の内容及びプレゼンテーション（100%）で評価します。

< 参考図書 >

P.ドラッカー『マネジメント 基本と原則 エッセンシャル版』ダイヤモンド社、2001年

P.コトラ、G.アームストロング、恩蔵直人『コトラ、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要と進め方、評価について

第2回 自らの事業を知る

企業の目的・ミッション、創業者、沿革

第3回 自らの事業を知る
主要な製品・サービス、特徴・強み、売上・利益の構成
第4回 自らの事業を知る
経営戦略、組織マネジメント、マーケティング戦略
第5回 自らの事業を知る
各自の発表、メンバーからの講評
第6回 リーダーシップ
リーダーシップの機能と主な類型、組織のコミュニケーション
第7回 リーダーシップ
各自の発表、メンバーからの講評とディスカッション
第8回 経営分析
SWOT分析の理解と活用、経営資源の配分
第9回 経営分析
発表とディスカッション
第10回 新規事業の創出
ブルーオーシャン戦略、オープン・イノベーション
第11回 新規事業の創出
発表とディスカッション
第12回 これからの経営課題
経済・社会情勢、競争環境、グローバル環境
第13回 これからの経営課題
発表とディスカッション
第14回 プレゼンテーション
これまでに学んだ内容をまとめる
第15回 プレゼンテーション
最終発表
第16回
第17回
第18回
第19回
第20回
第21回
第22回
第23回
第24回
第25回
第26回
第27回
第28回
第29回
第30回

2022年度 後期

2単位

実践力育成 F (行政法)

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。行政法が属する法学も経済学と同じく社会現象を扱います。行政法の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

実践力育成の科目ですので、公務員試験や各種の法律系の国家試験の試験科目の「行政法」については、目指す試験の問題集を一人で解き進めていけるレベルに到達することが第一の目的です。

行政法の全体像と主要な制度、条文、判例を理解し習得することや、行政法の理解を通じて、法的な思考力を身に付けることも目的とします。

本授業は、公務員試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験などの本試験問題を積極的に活用します。

< 到達目標 >

行政法の全体像と主要な制度、条文、判例について説明できる。

法的な思考力を身に付け、他の法律科目の学習に役立てることができる。

公務員試験や国家試験で出題される行政法の頻出テーマの標準的な問題が8割以上正解できる。

< 授業のキーワード >

法律による行政の原理、行政行為、行政手続法、行政不服審査法、国家賠償法

< 授業の進め方 >

まずは条文や判例の資料を使って説明し、次に説明した内容を公務員試験や行政書士の本試験問題を使って復習します。授業時間内で扱えない問題は自主学習の時間で取り組んでください。

< 履修するにあたって >

「行政法」は、通常は「憲法」の学習を済ませた後で学習するのがスムーズです。「憲法」の知識に自信のない人は、授業内容を十分に理解することは難しいと思われるので、まずは「法学入門」の受講その他で「憲法」の知識を身に付け、法学にある程度慣れた後で実践力育成F(行政法)を履修することを勧めます。

行政法の主要なテーマを15回の授業回数で扱うため、授業のスピードはかなり速くなります(試験対策予備校の授業と同じ程度のスピードになります。)

実践力育成の授業ですので、公務員試験等における合格レベルの得点力が修得されたと認められない限り単位認定はできません。

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

< 授業時間外に必要な学修 >

次回の授業準備として、講義内容の復習(120分)。

参考書も必要に応じて読むようにしてください。

< 提出課題など >

なし。

< 成績評価方法・基準 >

確認テストと試験(100%)

「実践力育成」の科目のため、地方上級や国家一般職の採用一次試験における標準的な問題と同レベルの知識を、五択式など明確に点数化できる形式で出題します。試験範囲は事前に明示します。

< テキスト >

レジュメを配布します。

< 参考図書 >

宇賀克也『行政法(第2版)』(有斐閣、2018年)3410円
資格試験研究会[編]『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 6 行政法』(実務教育出版、2020年)1980円
その他は授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、行政法の基礎理論

授業の方法及び内容、成績評価の説明。「行政法」とは、「行政」とは。法律による行政の原理(法治主義)、行政に関する法の形式(法律、政令、条例...)など。

第2回 行政立法、行政行為の概念と種類

行政が立法を行う場合、委任命令・執行命令、通達など。「行政行為」とは。「下命」、「許可」、「認可」など。

第3回 行政行為の効力、行政行為の瑕疵

拘束力、公定力、不可争力、自力執行力、不可変更力など。瑕疵ある行政行為、重大明白説、瑕疵の治癒、違法行為の転換など。

第4回 行政行為の取消しと撤回、

行政行為の附款と行政裁量

取消しと撤回の違い。法律の根拠の要否。補償の要否など。附款の意義、種類。行政裁量に対する司法審査など。

第5回 行政上の義務履行確保、行政行為以外の行政の行為形式

行政代執行、執行罰、即時強制、行政刑罰、行政上の秩序罰など。「行政計画」、「行政契約」、「行政調査」の概要など。

第6回 行政手続法

行政手続法の目的、申請に対する処分、不利益処分、行政指導、届出、意見公募手続など。

第7回 情報公開法、前半の復習。

「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」など。

第7回までの復習。

第8回 確認テスト

第1回～第7回の範囲で扱った知識の確認。

第9回 行政不服審査法

審査請求、再調査の請求、再審査請求、審査請求の審理手続と裁決、執行不停止の原則、教示制度など。

第10回 行政事件訴訟法

処分の取消訴訟の概要、裁判の流れ、訴訟要件(処分性)、処分の取消訴訟の訴訟要件(原告適格、狭義の訴えの利益、その他)など。

第11回 行政事件訴訟法

処分の取消訴訟の審理と判決、執行不停止の原則、教示制度など。

第12回 行政事件訴訟法

裁決の取消訴訟、無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟など。

第13回 国家賠償法

国家賠償法の全体構造。公権力の行使にあたる公務員の違法な職務行為により損害を受けた場合の損害賠償請求。道路・河川などの公の営造物の瑕疵のために損害を受けた場合の損害賠償請求。

第14回 国家賠償法、損失補償

国家賠償法：費用を負担する国又は公共団体の責任、民法の適用、相互保証主義など。損失補償：道路拡張により個人の所有地が収用された場合のように、適法な公権力の行使によって特定の個人が受けた損失の補償。

第15回 行政組織法、全体のまとめ。

行政機関相互の関係、権限の委任・代理・専決など。全体の総復習。

2022年度 後期

2単位

実践力育成 F (外国人客員教授)

Goral, Nadia

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

1) ウクライナ文化紹介

2) ウクライナ文化体験

3) ウクライナ文化交流を通して、異文化に触れ、ウクライナ文化の理解を深め、尊重しようとする態度を養う

4) 文化交流を通して、日本文化を再認識し、それを継承し、外国の方々に分かりやすく説明できる態度を養う

なお、この科目は、学部のDPに示す「1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」ことを目指しています。

< 到達目標 >

神戸学院大学が積極的に進めるウクライナについて知ってみませんか?この講義では、ウクライナ人客員教授が、ウクライナの歴史・文化・政治・経済について講義します。ウクライナは日本ではあまり知られていませんが、スラブ文化発祥の地で、ボルシチやコサックもウクライナ

発祥です。また日本とも多くの似た点や共通点があります。ウクライナについてだけではなく、日本との深い関わり合いを学ぶことも到着目標です。

<授業のキーワード>

ウクライナ、ウクライナ語、ウクライナの歴史、ウクライナの経済、ウクライナの文化、ウクライナの政治、日本・ウクライナ交流

<授業の進め方>

ウクライナ語、ウクライナについての講義（日本語）

<履修するにあたって>

講師は西ウクライナのリヴィウ工科大学から1年間派遣されます。日本語での講義になります

<授業時間外に必要な学修>

予習、復習90分づつを想定している。

<提出課題など>

・ウクライナに関する各自の選んだテーマに沿ってレポート

・ポートフォリオ

・感想の作文/アンケート

<成績評価方法・基準>

レポート - 50%

ポートフォリオ 40%

講義中の感想の作文/アンケート 10%

<テキスト>

プリントを適宜配布

<参考図書>

- 1) Martynenko N. M. History of Ukrainian Culture: textbook for foreign students / N. Martynenko. - Kharkiv: KNMU, 2015. - 100 p. URL: <http://repo.knmu.edu.ua/bitstream/123456789/5515/3/History%20of%20Ukrainian%20Culture.pdf>
- 2) Krylova A., Pavlychko B., Kravchenko T. Awesome Ukraine: interesting things You need to know.2019 .
- 3) Rudenko, Sergii .Lectures in the History of Ukrainian Culture/ Sergii Rudenko; edited by Liliya Grigoryan. - Kyiv: Vadex, 2019. - 66 p. URL: https://www.researchgate.net/publication/331981714_Lectures_in_the_History_of_Ukrainian_Culture
- 4) Alisa Lozhkina. Permanent Revolution: Art in Ukraine, the 20th to the Early 21st Century. - Kyiv : ArtHuss, 2020. - 544 p. URL <https://www.arthuss.com.ua/pdf/Permanent-Revolution.pdf>
- 5) Cultural revival and social transformation in Ukraine. The Role of Culture and the Arts in supporting post-Euromaidan resilience.
- 6) Iryna Voloshyna. Petrykivka Painting, The Quest

ions of Politics, Authenticity, and Identity in Modern Ukraine. Chapel Hill, 2019.

7) Nahachewsky, Andriy. Ukrainian dance: a cross-cultural approach. McFarland & Company, Inc., Publishers.2012.

URL: <https://kr.1lib.limited/book/2924968/9d6c34>

8) Ukrayins'kyi kazkovyy epos yapons'koyu movoyu [Tekst]: navch. posib. / O. V. Asadchykh, I. P. Dzyub, Kh. Kataoka; Kyiv. nats. un-t im. Tarasa Shevchenka, In-t filolohiyi. - Kyiv : Vyd. dim Dmytra Buraho,

9) 平野高志『ウクライナ・ファンブック：東スラブの源泉・中東欧の穴場国』、2020.

10) 小野元裕『ウクライナ丸かじりー自分の目で見、手で触り、心で感じたウクライナ』、ドニエプル出版、2006年.

11) オリガ・ホメンコ『現代ウクライナ短編集』、2005年.

12) 岡部芳彦『日本・ウクライナ交流史1915 - 1937年』、神戸学院大学出版会、神戸、2021年.

<授業計画>

第1回 ウクライナ基本情報

ウクライナ文化へようこそ

第2回 ウクライナ語の文字

ルテニア書道（名前を書く体験）

第3回 ウクライナの伝説

神話の神々、妖怪（伝統シンボル、妖怪の塗り絵体験）

第4回 ウクライナのアニメを通して森林セラピー

アニメ体験

第5回 ウクライナのお守り

モタンカ人形作り体験

第6回 ウクライナの伝統的な服

着付け体験

第7回 ウクライナのアクセサリ作り体験1 .

女性用

第8回 ウクライナのアクセサリ作り体験2.

男性用

第9回 ウクライナの祭り（秋と冬）

クリスマスとお正月の飾り作り体験

第10回 ウクライナの祭り（春、夏）

イースターの飾り作り体験

第11回 ウクライナの若者の伝統的な遊び

ダンス体験

第12回 ウクライナの芸術1

ペツリキヴカ体験・掛け軸作り

第13回 ウクライナの芸術2

伝統的なブロックプリント体験・Tシャツ、マフラ、エコバック、ハンカチ作り

第14回 ウクライナの音楽紹介

音楽体験

第15回 ウクライナの料理

料理体験

2022年度 後期

4単位

実践力育成 A (簿記3級講座)(2018以前は1年次のみ)

柴田 淳子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・この科目は、学部のDPに示す、3.経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。| ・経済の中で活動する企業の諸取引の学習を通じて、経済状況や企業の活動を理解する。| ・ビジネスマン必須の知識である簿記を日商簿記検定3級の受験を通じて習得することができる| ・一般企業で役立ち知識になることはもちろんのこと、公認会計士・税理士受験のための基礎知識にもなる。| ・なお、この授業の担当者は会計実務経験者であり、学習内容が実際の経理実務でどのように使われているかを学ぶことができる。

< 到達目標 >

・日商簿記検定試験3級合格レベルの計算力をつけることができる。| ・簿記の基本処理を身につけることができる。| ・決算書を読み取る基礎知識を得ることができる。| ・資格取得を通じて、目標達成のためのPDCAの習慣を身に付けることができる。| ・日商簿記検定3級(2023年2月検定または、随時実施のネット試験)の合格。

< 授業のキーワード >

簿記、会計学

< 授業の進め方 >

テキストを使用し各論点の概略、解答方法等をレクチャーし、その後ドリルを解答することによる実践練習を行う。なお、学生の理解度に応じて、授業計画は変更する可能性がある。

< 履修するにあたって >

希望者に対しては、後期試験終了後の春休みに任意参加にて日商簿記検定合格の為の直前対策プログラムを実施予定。| 本講義では、専用の教材が必要である。必ず購入すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

自宅復習が必要である。具体的には、ドリルの解答が必要である。1日(1.5時間×2コマ)の講義に対して、3時間程度の復習が必要。

< 提出課題など >

講義の進行に応じて、プリント課題を課す。詳細は講義

内その都度説明する。

< 成績評価方法・基準 >

講義内で指示する通常課題(合計40点)、期末試験(60点)にて評価する。

< テキスト >

「ALFA3級課程 商業簿記」(テキスト、ドリル、解答集) 大原簿記専門学校 | 実践力育成 A (簿記3級講座) 専用のパッケージされた教材を購入する。| 内容が変更したため、過去の教材は使用できない。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

成績評価や資格取得、その他この講義の内容についてお伝えします。

第2回 簿記の概要

簿記の概要、重要性その他株式会社について学習します。

第3回 簿記の目的

簿記の目的、会計期間、財政状態、経営成績

第4回 簿記一巡その1

簿記一巡、取引、仕訳

第5回 簿記一巡その2

勘定口座への記入方法、試算表

第6回 商品売買

三分割法

第7回 商品売買

仕入諸掛および販売諸掛等

第8回 現金および預金

現金、普通預金、当座預金

第9回 手形および電子記録債権・債務

約束手形、電子記録債権

第10回 有形固定資産、その他の債権および債務その1

有形固定資産、クレジット売掛金、手形貸付金、手形借入金

第11回 その他の債権および債務その2

未収入金および未払金、仮払金および仮受金、立替金および預り金等

第12回 税金、その他の勘定等

消費税、その他の税金、その他の収益および費用、訂正仕訳

第13回 株式会社の資本その1

株式会社の意義、資本、株式の発行

第14回 株式会社の資本その2

株式会社の利益、剰余金の配当など

第15回 決算その1

決算整理、繰越商品および仕入の決算整理

第16回 決算その2

繰越商品および仕入の決算整理、決算整理後残高試算表、精算表

第17回 決算その3

英米式決算法

第18回 決算その4

受取手形および売掛金の決算整理（貸倒引当金）

第19回 決算その5

有形固定資産の決算整理

第20回 決算その6

決算の問題演習

第21回 決算その7

費用及び収益の決算整理その1

第22回 決算その8

費用及び収益の決算整理その2

第23回 決算その9

原因過不足および現金の決算整理

第24回 決算その10

当座借越、貯蔵品、消費税、法人税等の決算整理

第25回 損益計算書と貸借対照表

損益計算書と貸借対照表

第26回 主要簿と補助簿その1

仕入帳、売上帳、商品有高帳等

第27回 主要簿と補助簿その2

小口現金出納帳等

第28回 伝票

伝票について学習します。

第29回 問題演習

今までの内容の復習を問題演習を通じて行います。

第30回 問題演習

今までの内容の復習を問題演習を通じて行います。

2022年度 前期

4単位

実践力育成B（FP3級受検対策講座）

柴田 淳子

< 授業の方法 >

「講義」

< 授業の目的 >

社会人として経済的に自立するための知識を身に付けるため、FP（ファイナンシャル・プランニング）に関する知識と見識を習得し、国家資格である3級FP技能検定の合格を目指します。また、FPの学習を進めることで、新聞やテレビなどで日々報道される政治、経済、金融、社会政策、税制などの情報に意識を傾け、これらの情報に基づいて建設的な議論や積極的な行動ができる思考力や判断力を養うことを目指します。なお、この科目の担当者は、資格試験予備校での講師歴があり、その他不動産、医薬品業界での営業・事務を経験している、実務経験のある教員です。従って、合格のための受験指導はもとより、具体的な事例や経験談を交えて、より分かりやすくFP知識の解説を行います。

< 到達目標 >

1. 3級FP技能検定に合格できる知識レベルを習得する。| 2. 社会の仕組みや制度のあり方などに関心を持

ち、自分なりの意見や仲間との議論を通して積極的に社会活動に参加することができる。| 3. 自分自身の家計管理や、親族など周りの人々の家計管理を行うことができる。

< 授業のキーワード >

社会保険、保険商品、金融商品、不動産、税金

< 授業の進め方 >

テキストに掲載されている図解等を、スライドに投影しながら解説する講義を中心に進めます。発問に答えてもらうことは基本的にありませんが、テキスト等に記入して欲しい板書は指示をします。

< 履修するにあたって >

テキスト・問題集を、講義が始まる前までに購入して下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

1. 授業計画表で指示された各回の問題集（宿題）を解答すること（目安として1講義につき約1時間）。| 2. 講義で指示する「重要暗記項目」を繰り返し確認すること（目安として1講義につき約1時間）。| 3. 上記の1. 2をできるだけ繰り返し、講義の冒頭に行う小テストに備えること。|（注）小テストには電卓を使用する問題もありますので、8桁?12桁程度の電卓を準備して下さい。なお、小テストを実施して理解が不十分であると感じたときは、質問するなどして、不十分なまま放置しないようにして下さい。

< 提出課題など >

出欠確認のため、毎回の授業時に小テストなどの答案類を提出してもらいます。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に実施する小テスト等（30%）及び定期試験（70%）により評価します。

< テキスト >

21-'22読めばわかる！資格の大原公式FP3級合格テキスト | '20-'21解いて覚える！資格の大原公式FP3級合格問題集 | 大原出版株式会社

< 参考図書 >

特になし。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

各学習科目の関連性、FP技能検定に関するガイダンス
第2回 FP概論

家計（パーソナル・ファイナンス）管理の概略と必要性

第3回 ライフプランニング

教育・住宅取得資金計画（教育ローン・住宅ローン）

第4回 ライフプランニング

社会保険（健康保険、介護保険、労働災害補償保険、雇用保険など）

第5回 ライフプランニング

老後の生活資金設計と公的年金（老齢基礎年金、老齢厚生年金）

第6回 ライフプランニング
公的年金における障害給付・遺族給付、キャッシュフロー表

第7回 リスク管理
保険制度全般、保険制度の概略

第8回 リスク管理
生命保険商品の種類と内容

第9回 リスク管理
損害保険の概略、損害保険商品の種類と内容

第10回 リスク管理
個人・法人の契約に関する税金、第三分野の保険

第11回 金融資産運用
マーケット環境（景気の判断指標、金利変動のメカニズムなど）

第12回 金融資産運用
預貯金の種類、債券（分類基準、利回り、債券価格の変動要因など）

第13回 金融資産運用
株式（概要、株価指標、投資指標など）、株式投資信託

第14回 金融資産運用
外貨建て商品、金融派生商品、金融商品と税金、セーフティネット

第15回 タックスプランニング
税金の分類と計算体系、所得税の仕組み、各種所得の内容

第16回 タックスプランニング
各種所得の内容、課税標準の計算（損益通算など）

第17回 タックスプランニング
所得控除（医療費控除・配偶者控除など）

第18回 タックスプランニング
税額控除（住宅ローン控除など）、確定申告、個人住民税など

第19回 不動産運用設計
不動産の見方（土地の価格、不動産登記記録など）

第20回 不動産運用設計
不動産の取引（宅地建物取引業、不動産の売買契約・賃貸契約）

第21回 不動産運用設計
不動産に関する法令上の制限（都市計画法、建築基準法など）

第22回 不動産運用設計
不動産に係る税金、不動産の有効活用

第23回 相続事業承継
相続と法律（相続分、遺産分割、遺言など）

第24回 相続事業承継
贈与と法律、贈与と税金（納税義務者、申告と納付、課税財産と非課税財産）

第25回 相続事業承継
相続と税金（納税義務者、申告と納付、課税財産と非課税財産）

第26回 相続事業承継
財産の評価（不動産、金融資産）、相続対策

第27回 学科試験対策
試験対策として、総合力を養う学科試験のアウトプット

第28回 学科試験対策
過去試験問題の出題項目の解説

第29回 実技試験対策
試験対策として、総合力を養う実技試験のアウトプット

第30回 実技試験対策
過去試験問題の出題項目の解説

2022年度 前期
2単位
実践力育成C（TOEIC対策）
松本 千鶴子

<授業の方法>
対面授業

<授業の目的>
実践力育成C(TOEIC対策)はTOEICに必要な英語の基礎力を向上させ、TOEICのスコアアップを目的とする。TOEICテストの問題形式に慣れるよう、繰り返し演習を行う。TOEICの問題を通して、英語の総合的な力をつけることにより、英語のコミュニケーション能力の上達も図ることによって、学部がDPに示す4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ることができることを目指す。

<到達目標>
知識・TOEICテストの問題形式を理解でき、基本問題を解くことができる。
慣習・英語でのコミュニケーションがよりスムーズにできる。
・ビジネス英語や時事英語が身につく
技能・TOEICテストの実践力がつく（500点を目標とする）

<授業のキーワード>
TOEIC 500点をを目指す

<授業の進め方>
テキストに沿って演習を行い、解答、解説を行う。

<履修するにあたって>
単位取得には授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。
PCかスマートフォンでテキストの音声ファイルをダウンロードしておくこと。

<授業時間外に必要な学修>
Unitの各PartのPointを読んでおくこと。

<成績評価方法・基準>
授業参加（質疑応答など）30%
小テスト 30%
試験 40%
<テキスト>

FULL GEAR FOR THE TOEIC L&R TEST

著者 Mark D. Stafford 妻鳥千鶴子 松井こずえ
出版年 2018 出版社 金星堂 価格 ¥2000 (税別)

<参考図書>

公式TOEIC Listening&Reading問題集

出版年 2021

出版社 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格 ¥3,300

<授業計画>

第1回 Events

授業説明

イベントに関する語句、表現の学習

第2回 Eating out

外食に関する語句、表現の学習

第3回 Shopping

買い物に関する語句、表現の学習

第4回 Office

オフィスに関する語句、表現の学習

第5回 Housing

住居に関する語句、表現の学習

小テスト

第6回 Community

地域活動に関する語句、表現の学習

第7回 Facilities

施設に関する語句、表現の学習

第8回 Personnel

人事に関する語句、表現の学習

第9回 Meetings and Workshops

ワークショップに関する語句、表現の学習

第10回 Transaction and Finances

取引に関する語句、表現の学習

小テスト

第11回 Travel

旅行に関する語句、表現の学習

第12回 Health

健康に関する語句、表現の学習

第13回 Letter and Email

手紙、メールに関する語句、表現の学習

第14回 Ads and Notice

広告や告知に関する語句、表現の学習

第15回 News

ニュースに関する語句、表現の学習

2022年度 前期

2単位

実践力育成 C (TOEIC対策)

松本 千鶴子

<授業の方法>

対面授業

<授業の目的>

実践力育成C(TOEIC対策)はTOEICに必要な英語の基礎力を向上させ、TOEICのスコアアップを目的とする。TOEICテストの問題形式に慣れるよう、繰り返し演習を行う。TOEICの問題を通して、英語の総合的な力をつけることにより、英語のコミュニケーション能力の上達も図ることによって、学部がDPに示す4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ることができることを目指す。

<到達目標>

知識・TOEICテストの問題形式を理解でき、基本問題を解くことができる。

慣習・英語でのコミュニケーションがよりスムーズにできる。・ビジネス英語や時事英語が身につく

技能・TOEICテストの実践力がつく(500点を目標とする)

<授業のキーワード>

TOEIC 500点を目標ず

<授業の進め方>

テキストに沿って演習を行い、解答、解説を行う。

<履修するにあたって>

単位取得には授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。

PCからスマートフォンでテキストの音声ファイルをダウンロードしておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

Unitの各PartのPointを読んでおくこと。

<成績評価方法・基準>

授業参加(質疑応答など) 30%

小テスト 30%

試験 40%

<テキスト>

FULL GEAR FOR THE TOEIC L&R TEST

著者 Mark D. Stafford 妻鳥千鶴子 松井こずえ
出版年 2018 出版社 金星堂 価格 ¥2000 (税別)

<参考図書>

公式TOEIC Listening&Reading問題集

出版年 2021

出版社 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格 ¥3,300

<授業計画>

第1回 Events

授業説明

イベントに関する語句、表現の学習

第2回 Eating out

外食に関する語句、表現の学習

第3回 Shopping

買い物に関する語句、表現の学習

第4回 Office

オフィスに関する語句、表現の学習

第5回 Housing

住居に関する語句、表現の学習

小テスト

第6回 Community

地域活動に関する語句、表現の学習

第7回 Facilities

施設に関する語句、表現の学習

第8回 Personnel

人事に関する語句、表現の学習

第9回 Meetings and Workshops

ワークショップに関する語句、表現の学習

第10回 Transaction and Finance

取引に関する語句、表現の学習

小テスト

第11回 Travel

旅行に関する語句、表現の学習

第12回 Health

健康に関する語句、表現の学習

第13回 Letter and Email

手紙、メールに関する語句、表現の学習

第14回 Ads and Notice

広告や告知に関する語句、表現の学習

第15回 News

ニュースに関する語句、表現の学習

2022年度 後期

2単位

実践力育成C (TOEIC対策)

松本 千鶴子

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

実践力育成C(TOEIC対策)はTOEICに必要な英語の基礎力を向上させ、TOEICのスコアアップを目的とする。TOEICテストの問題形式に慣れるよう、繰り返し演習を行う。TOEICの問題を通して、英語の総合的な力をつけることにより、英語のコミュニケーション能力の上達も図ることによって、学部がDPに示す4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ることができることを目指す。

< 到達目標 >

知識・TOEICテストの問題形式を理解でき、基本問題を解くことができる。

慣習・英語でのコミュニケーションがよりスムーズにできる。・ビジネス英語や時事英語が身につく

技能・TOEICテストの実践力がつく(500点を目標とする)

< 授業のキーワード >

TOEIC 500点を目指す

< 授業の進め方 >

テキストに沿って演習を行い、解答、解説を行う。

< 履修するにあたって >

単位取得には授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。

PCかスマートフォンでテキストの音声無料ダウンロードをしておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

Unitの各PartのPointを読んでおくこと。

< 成績評価方法・基準 >

授業参加(質疑応答など) 30%

小テスト 30%

試験 40%

< テキスト >

FULL GEAR FOR THE TOEIC L&R TEST

著者 Mark D. Stafford 妻鳥千鶴子 松井こずえ

出版年 2018 出版社 金星堂 価格 ¥2000(税別)

< 参考図書 >

公式TOEIC Listening&Reading問題集

出版年 2021

出版社 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格 ¥3,300

< 授業計画 >

第1回 Events

授業説明

イベントに関する語句、表現の学習

第2回 Eating out

外食に関する語句、表現の学習

第3回 Shopping

買い物に関する語句、表現の学習

第4回 Office

オフィスに関する語句、表現の学習

第5回 Housing

住居に関する語句、表現の学習

小テスト

第6回 Community

地域活動に関する語句、表現の学習

第7回 Facilities

施設に関する語句、表現の学習

第8回 Personnel

人事に関する語句、表現の学習

第9回 Meetings and Workshops

ワークショップに関する語句、表現の学習

第10回 Transaction and Finance

取引に関する語句、表現の学習

小テスト

第11回 Travel

旅行に関する語句、表現の学習

第12回 Health

健康に関する語句、表現の学習

第13回 Letter and Email

手紙、メールに関する語句、表現の学習

第14回 Ads and Notice

広告や告知に関する語句、表現の学習

第15回 News

ニュースに関する語句、表現の学習

2022年度 後期

2単位

実践力育成C (TOEIC対策)

松本 千鶴子

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

実践力育成C(TOEIC対策)はTOEICに必要な英語の基礎力を向上させ、TOEICのスコアアップを目的とする。TOEICテストの問題形式に慣れるよう、繰り返し演習を行う。TOEICの問題を通して、英語の総合的な力をつけることにより、英語のコミュニケーション能力の上達も図ることによって、学部がDPに示す4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションを取ることができることを目指す。

< 到達目標 >

知識・TOEICテストの問題形式を理解でき、基本問題を解くことができる。

慣習・英語でのコミュニケーションがよりスムーズにできる。・ビジネス英語や時事英語が身につく

技能・TOEICテストの実践力がつく(500点を目標とする)

< 授業のキーワード >

TOEIC 500点をを目指す

< 授業の進め方 >

テキストに沿って演習を行い、解答、解説を行う。

< 履修するにあたって >

単位取得には授業回数の3分の2以上の出席を必要とする。

PCかスマートフォンでテキストの音声無料ダウンロードをしておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

Unit 各パートのPointを読んでおくこと。

< 成績評価方法・基準 >

授業参加(質疑応答など) 30%

小テスト 30%

試験 40%

< テキスト >

FULL GEAR FOR THE TOEIC L&R TEST

著者 Mark D. Stafford 妻鳥千鶴子 松井こずえ

出版年 2018 出版社 金星堂 価格 ¥2000 (税別)

< 参考図書 >

公式TOEIC Listening&Reading問題集

出版年 2021

出版社 国際ビジネスコミュニケーション協会 価格 ¥3,300

< 授業計画 >

第1回 Events

授業の説明

イベントに関する語句、表現の学習

第2回 Eating out

外食に関する語句、表現の学習

第3回 Shopping

買い物に関する語句、表現の学習

第4回 Office

オフィスに関する語句、表現の学習

第5回 Housing

住居に関する語句、表現の学習

小テスト

第6回 Community

地域活動に関する語句、表現の学習

第7回 Facilities

施設に関する語句、表現の学習

第8回 Personnel

人事に関する語句、表現の学習

第9回 Meetings and Workshops

ワークショップに関する語句、表現の学習

第10回 Transaction and Finance

取引に関する語句、表現の学習

小テスト

第11回 Travel

旅行に関する語句、表現の学習

第12回 Health

健康に関する語句、表現の学習

第13回 Letter and Email

手紙、メールに関する語句、表現の学習

第14回 Ads and Notice

広告や告知に関する語句、表現の学習

第15回 News

ニュースに関する語句、表現の学習

2022年度 前期

2単位

実践力育成D (ビジネス英語中級)

Bernard Walter Plett

< 授業の方法 >

This is an intermediate level business writing course for university students of economics. Students will be expected to attend class at least 80 per cent of the time. Also they will be expected to complete their writing assignments on a weekly basis. The class will be taught in English. Assessment will be based on participation and completion of assignments given by the teacher.

This is a Lecture type class and we will be face to face lessons. In the event we must go online we will conduct the class on Zoom. In that event I will let you know the Zoom class meeting details.

Students can contact me one on one at my email address which is:

< 授業の目的 >

This is an intermediate level business writing course for university students of economics. Students will be expected to attend class at least 80 per cent of the time. Also they will be expected to complete their writing assignments on a weekly basis. The class will be taught in English. Assessment will be based on participation and completion of assignments given by the teacher.

< 到達目標 >

In this course students will:

- Get used to writing Business English to communicate with clients or companies.
- Practice various writing tasks in a number of different situations.
- Learn new vocabulary and expressions in Business writing.
- Practice skills necessary to perform tasks in a business writing situation (for example, tasks required in their future company such as making orders, asking for or providing more information)
- acquire the ability to successfully write business letters in a variety of different situations.

< 授業の進め方 >

On a weekly basis students will engage in writing tasks using business English. They will participate in some pair work and give feedback to their peers. They will get lots of practice learning the various components of business writing each class.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will be required to complete all homework

assignments on time.

< 提出課題など >

Each class will include a mini lecture followed by a practical, structured writing tasks. Topics for spring term include for example, writing a cover letter, replying to a job applicant, requesting a service, ordering supplies and so on.

< 成績評価方法・基準 >

Assessment will be based on participation (50%), and completion of writing assignments (50%).

< テキスト >

Business Correspondence, A Guide to Everyday Writing. Intermediate, second edition by Lin Lougheed. Longman. ISBN 0-13-089792-2

< 授業計画 >

Week 1: Class Policy, Goal and interviews with teacher

Students get to know what is expected and get to know the teacher.

Week 2-3 Writing a cover letter

Students learn about applying for a job.

Week 4-5 Replying to a Job Applicant

Students learn about evaluating people's skills.

Week 6-7 Requesting a Service

Students learn how giving detailed information will help retrieve an accurate response.

Week 8-9 Confirming a Service

Students learn conversely how restating all the details will confirm the recipients need to know there is a common understanding, in order to fulfill the request accurately.

Week 10-11 Ordering Supplies

Students learn how to make accurate orders.

Week 12-13 Confirming an order

Students learn how to be specific and polite even when there are problems with timing and schedule on orders.

Week 14-15 Requesting information

Students learn about the 4 parts of an email requesting information.

2022年度 前期

2単位

実践力育成 E (グローバル・ビジネス)

唐津 周平

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

SDGs (持続可能な開発目標) を背景に、誰もが社会問題

に目を向け、解決の担い手となることが求められている。それはグローバル・ビジネスの在り方にも影響を及ぼしている。

本授業は大きく3つの内容で構成される。まず「グローバル・ビジネス」の実際とその多面的な意味を理解することから出発する。具体的には、国内外を問わずあらゆる諸問題に対して、「Think globally, Act locally」の実践が求められることを学ぶ。

次に実践力の育成として、地域や社会の課題を整理し、社会問題を可視化するリサーチ能力の向上を目指す。そして、最後に自ら解決策を企画立案する。そのために問題解決の方法論を学ぶ。

最終的な企画立案の内容は企業主体のビジネスモデルを組み立てる場合もあれば、行政（政府）による政策立案もあり、援助やボランティア、クリエイティブなプロジェクトなど様々な方法があり得る。その過程で異なる要素や資源を繋ぎ合わせる「コーディネーション」の思考を身につけることも目指す。

以上のように、経済社会の様々な構成員を理解し、何をどのようにすれば社会がよりよい方向へ向かうのか自分独自の視点と方法論を学び、今よりも「グローバル」を身近にすることが本授業の目的である。

本授業は経済学部DPの「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」に対応した内容となっている。

なお、この科目の担当者は、企画調整をおこなうコーディネーターとして12年間の実務経験を持った教員であり、ベトナムでのコンサルティング会社勤務、官民協働による海外留学促進プロジェクト（行政機関）、神戸におけるNPO活動の支援など多文化な環境での実務経験を有している。それらの経験を踏まえた講義やリサーチ、企画立案に対する実務的な支援・フィードバックをおこないたい。

<到達目標>

(1) リサーチの実践において、社会問題の解決につながる思考を持ち、様々なセクターを横断した情報収集ができるようになる（知識・習慣・技能）。

(2) リサーチの実践において、課題の細分化・関係の可視化した資料が作成できるようになる（知識・習慣・技能）。

(3) 企画の実践において、問題解決の方法を幅広く検討し、適切な企画立案ができるようになる（知識・習慣・技能）。

<授業のキーワード>

SDGs 地域資源 社会問題 ステークホルダー 企画立案 コーディネーション

<授業の進め方>

配布資料にもとづき、講義形式で授業を進めます。適宜、

学生同士のグループ学習なども取り入れつつ、教員からのフィードバックなど相互コミュニケーションを意識して進行します。

<履修するにあたって>

講義の後半は学生自身がリサーチ及び企画立案をするため、資料作成に取り組むことも増えますが、適宜状況を踏まえて柔軟にサポートするので相談してください。実践的な学びや社会問題の解決などに関心のある学生を歓迎します。学年問わず学べる内容です。

<授業時間外に必要な学修>

予習60分、復習60分を想定しています。自らリサーチや企画したことに対して授業中に教員からフィードバックすることがあります。それを受けて授業終了後、再度リサーチをしたり、加筆修正をおこなうための予習復習です。授業時間内も作業する時間は取るのでその時間も上手に活用してください。

<提出課題など>

(1) 授業終了時の簡易レポート（成績評価対象）：次回授業時に内容を抽出してフィードバックします。

(2) リサーチの実践・企画の実践に関するレポート（成績評価対象）：計8回（最終日含めれば9回）の作成途中で適宜フィードバックします。メール等でも対応します。

<成績評価方法・基準>

・授業内での発言・質問（20%）、リサーチの実践・企画の実践計2回のレポート提出（80%）

・リサーチの実践・企画の実践については、約8回にわたる授業の中で示された観点を踏まえた内容になっているかを評価基準とします。

<テキスト>

適宜パワーポイントの資料を共有します。

<参考図書>

【参考書】

・御友 重希、横田 浩一、原 琴乃（編著）『SDGsの本質 企業家と金融によるサステナビリティの追求』、中央経済社、2020年

・NPO法人「人間の安全保障」フォーラム（編）、高須幸雄（編著）『全国データ SDGsと日本 誰も取り残されないための人間の安全保障指標』、明石書店、2019年
・寛 裕介（著）『ソーシャルデザイン実践ガイド 地域の課題を解決する7つのステップ』、英治出版、2014年

<授業計画>

第1回 イントロダクション

グローバルの類似概念と比較しながらグローバル・ビジネスの実際を学ぶ。

第2回 SDGsとESG投資の現在

SDGsの背景と現在を理解し、世界経済の潮流を学ぶ。

第3回 SDGsと日本

SDGsの指標と日本の課題を照らし合わせて現状を学ぶ。

第4回 SDGsと地方創生

SDGsと地方創生を通じて、グローバルとローカルの関係を学ぶ。

第5回 地域と外国人

外国人技能実習生制度や居住支援法人制度など地域と外国人に関する問題や支援事例を学ぶ。

第6回 問題解決の方法論

経済社会を構成する企業、行政（政府）、NPO、コミュニティなど様々な主体の行動原理を学ぶ。

第7回 リサーチの実践（1）

ステークホルダーを軸にリサーチクエスト（問い・関心）を探索する。

第8回 リサーチの実践（2）

問いや関心をもとに地域や分野などのテーマ設定をおこなう。

第9回 リサーチの実践（3）

課題の細分化・関係の可視化をおこなう。

第10回 リサーチの実践（4）

先行事例の調査とともに優先課題の特定をおこなう。

第11回 企画の実践（1）

問題解決の方法論を踏まえて企画案を検討する。

第12回 企画の実践（2）

企画の一手法として、コーディネーションと事例を学ぶ。

第13回 企画の実践（3）

目的と手段、企画の実現可能性、協力者（活用する資源）など企画の解像度を高める。

第14回 企画の実践（4）

学生の企画案に対してフィードバックをおこなう。

第15回 講義全体の振り返り

授業の目的・目標に沿って振り返りをおこない、提出課題を案内する。

2022年度 後期

2単位

実践力基礎 A（公務員・経済学検定入門）

柴田 淳子

< 授業の方法 >

「講義」 | 対面授業及び遠隔授業の併用

< 授業の目的 >

公務員試験合格に必須の経済学（ミクロ・マクロ）の数学的な基礎的内容（公務員試験科目である数的処理（教養試験）の基礎的内容も含む）から、本試験問題に対応する基礎能力を養う。

< 到達目標 >

1. 経済理論の基礎を習得し、経済全体の動向について理論的に理解を促すことができる。 | 2. 公務員試験での数的処理や経済系科目について、基礎的な本試験問題を解答できるようにする。

< 授業のキーワード >

経済学、数的処理、経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学

< 授業の進め方 >

レジュメを使用して授業を行うが、授業内でも問題の演習を実施して、問題が解ける実感を身につけさせる。

< 履修するにあたって >

テキストは使用せず、全講義でレジュメを配布する。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講した授業内容は、次の授業までに必ず復習しておく必要があり、特に授業内で指示した問題が解けるようになっておくことが重要である。目安として1講義あたり1時間の復習時間が必要である。

< 提出課題など >

第9回で中間習熟度確認課題、講義終了後に期末習熟度確認課題の提出を要する。

< 成績評価方法・基準 >

中間テスト(30%)、期末テスト(70%)により評価する。

< テキスト >

特になし

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 経済学における基礎数学の重要性？ 公務員試験入門

公務員試験ガイダンス、数的処理と経済学には、基礎的な数学内容の学習が必須

第2回 基礎数学入門

数の考え方（整数・平方根など）

第3回 基礎数学入門

比の計算

第4回 基礎数学入門

数の性質（N進法・数列など）

第5回 基礎数学入門

方程式・不等式（文章題など）

第6回 経済数学入門

方程式、不等式、連立方程式、2次方程式、関数とグラフなど

第7回 経済数学入門

指数関数、微分のイメージ、微分の公式、合成微分、偏微分など

第8回 経済数学入門

制約付き最適化問題、ミクロ経済学入門（消費論・生産量）

第9回 経済数学入門

中間テスト：第2? 8回の範囲が対象

第10回 ミクロ実践

市場均衡、余剰、価格規制、生産者に対する課税の影響

第11回 ミクロ実践

市場均衡の調整過程、需要の価格弾力性

第12回 ミクロ実践

課税と税負担、ラムゼールール、需要曲線の導出、需要の価格弾力性

第13回 マクロ実践

国民経済計算（三面等価の原則、GDP等の定義・計算）、ISバランス・アプローチ

第14回 マクロ実践

45度線分析、乗数理論、インフレ・デフレギャップ、均衡財政

第15回 マクロ実践

IS-LM分析、財政政策、金融政策、クラウディングアウト

2022年度 後期

2単位

実践力基礎B（公務員試験対策：数的処理・文章理解）

安達 啓介

< 授業の方法 >

講義（場合によっては【遠隔授業】）

< 授業の目的 >

この授業は、学部のDPに示す、「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」能力の基礎開発、向上を目指す。

この授業では、公務員試験で必要となる数的処理の基礎を過去問を通して学習する。数的処理の科目を構成する「数的推理」、「判断推理」、「空間把握」、「文章理解」の問題を大量に解くことで、その解法を身につける。

< 到達目標 >

・公務員試験（初級、地方上級）の頻出問題の解法を習得する。

【数的推理】適切な数学的方法を用いて、問題に正しく答えることができる。

【判断推理】問題文で示された条件から、論理的な推論を行うことができる。

【空間把握】与えられた図形をもとに、幾何学的に正しい推論を行うことができる。

【文章理解】与えられた文章、データを正しく情報を読み取り、整理し、要約できる。

< 授業のキーワード >

公務員試験、数的処理、空間把握、文章理解

< 授業の進め方 >

基本、予習 演習 解説 復習のサイクルで授業を進める。授業中の演習への取り組みが学習の中心になるため、集中して授業での課題に取り組む必要がある。

< 履修するにあたって >

・予備知識は特に必要としないが、1問1問粘り強く考えること。

・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。

・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。

・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。

・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、学習した内容について、プリント、ノートなどを見直して復習すること（60分程度）。

次の学習内容に関しては、事前に下記のリンク内（OneDrive）で配布する資料を必ず確認しておくこと（30分程度）。

< 提出課題など >

毎回、授業のまとめとして復習課題を課す（詳細は第1回の授業で説明）。これにより、各学生の理解度、習熟度を逐一把握し、授業の展開度を調整する。また、次回冒頭にその内容の復習・解説を入れること（個別ではなく全体へのフィードバック）で、基礎力の着実な向上を図る。

< 成績評価方法・基準 >

毎週の課題（100%）の成績で評価する。

< テキスト >

なし。使用する資料全般は原則、下記のリンクで配布する。

< 参考図書 >

なし。

< 授業計画 >

第1回 「数的処理」とは
自己紹介、授業のガイダンス、「数的処理」の概要説明、基礎の確認

第2回 規則推理と暗号解読
暗号問題における規則性の探し方を学ぶ。

第3回 順序推理の問題
順位推理、大小推理、対戦（トーナメント）推理の方法を学ぶ。

第4回 位置推理の問題
席順推理、方位推理、時間推理の方法を学ぶ。

第5回 嘘つき推理の問題
「嘘つき問題」の真偽推理の方法を学ぶ。

第6回 対偶を用いた命題推理
対偶、消去法を用いた命題推理の仕方を学ぶ。

第7回 対応表を用いた推理
対応表を用いた推理の仕方を学ぶ。

第8回 数量・手順の推理
集合の問題の解法、操作手順の推理の仕方を学ぶ。

第9回 平面図形の推理問題
平面推理、最短経路の推理、軌跡推理の方法を学ぶ。

第10回 立体図の推理問題
展開図の推理、立体の切断・回転・移動推理の方法を学ぶ。

第11回 数の性質と記数法

自然数、公倍数、公約数、整数解、記数法を学ぶ。

第12回 裏面算と魔法陣の問題

裏面算、魔法陣の解法を学ぶ。

第13回 文章理解 【長文読解】

長文の内容把握と要旨把握の方法を学ぶ。

第14回 文章理解 【文章整序】

文章構造と論理的つながりのとらえ方を学ぶ。

第15回 文章理解 【資料解析】

数表、グラフ、統計・関連の読み解き方を学ぶ。

2022年度 前期

2単位

実践力基礎C (簿記入門)

大塚 英美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部でのディプロマ・ポリシーに示す経済的素養を身につけることを目指します。近年、ニュースや報道、種々のメディアを通じて、会計用語が日常的に用いられており、ビジネスの共通言語として、使われるようになってきました。これらを理解するために、会計の種類・仕組みやその役割等、会計学の初歩的な知識を身につける必要があります。本講義では、できる限り平易な言葉を用いて、会計学の基礎的な知識を説明します。

< 到達目標 >

(1) 会計学の基礎的な知識(会計用語や簿記の基礎知識)を理解し、説明できる。

(2) 簿記における仕訳ができるようになる。

< 授業のキーワード >

財務諸表、貸借対照表、損益計算書、簿記、仕訳、経営分析

< 授業の進め方 >

事前に配信する資料、テキストを用いて学修する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の講義で使用した用語を正確に覚えることと、仕訳を正確に行うために、1時間程度復習を行って、次の授業に臨んでください。レポート課題の作成は2時間程度を目安としています。

< 提出課題など >

・小テスト 翌々までに添削

・ケース研究 発表に対するコメント

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題 + ケース + 理解度テスト = 100%の評価

課題1 (15%)、課題2(15%)、ケース研究1 (20%)、ケース研究2 (20%)、理解度テスト (30%)

< テキスト >

資格の大原 『土日で合格する日商簿記初級』 第2版、中央経済社、2018年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の進め方と評価について

第2回 会計の役割

会計と企業活動

第3回 簿記の基礎

簿記の目的・種類・歴史

第4回 簿記の基礎

貸借対照表の役割と様式

第5回 簿記の基礎

損益計算書の役割と様式

第6回 簿記の基礎

仕訳のルール

第7回 企業の会計情報

ケース研究1

第8回 簿記と会計の関係

簿記一巡の手続き

第9回 取引

現金・預金などの取引

第10回 取引

商品売上の会計

第11回 取引

債務と債権

第12回 取引

固定資産

第13回 財務諸表

財務諸表分析の基礎知識

第14回 財務諸表

ケース研究2

EDINETの閲覧と分析

第15回 総まとめ

理解度テスト

財務諸表、簿記の仕訳、経営分析に関する問題

2022年度 前期

2単位

実践力基礎D (公務員法学・ビジネス法務検定(民法))

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。法律も経済学と同じく社会現象を扱いますので、ビジネス実務に関する法律の基礎知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、「経済の制度に係わる知識」の修得に役立ち、また、「今日の経済情勢」の理解をより深めることができます。

授業ではビジネス実務の現場においても基本法となる「民法」について解説します。抽象的な「民法」をできるだけビジネスに関係する具体例を挙げて解説することで、具体的なイメージを伴って民法の基礎知識を習得できるようにします。

また、「民法」は、公務員試験の専門科目でも主要科目の一つとなっており、ビジネス実務法務検定試験3級では全出題の5割以上を占めています。ビジネス実務の現場との関係で修得した民法の知識を公務員試験の「民法」の本試験を通じて学習することで、基本的な民法の知識の修得を行うのと同時に公務員試験の特徴(=頻出の過去問知識が繰り返し出題されること)を確認します。本授業は、公務員試験やビジネス実務法務検定試験などの試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験やビジネス実務法務検定試験の本試験問題を積極的に活用します。

<到達目標>

公務員試験の「民法」で要求されるレベルと傾向を把握できる。

ビジネス実務法務検定試験3級の「民法」からの出題のうち9割点以上の得点を取れる学力が身に付く。

民法の学習を通じて、他の法律科目にも慣れることができる。

<授業のキーワード>

公務員試験 ビジネス実務法務検定試験 民法 契約 不法行為

<授業の進め方>

ビジネス実務法務検定試験3級で出題される「民法」の試験範囲について、「民法」の基礎的な内容を中心に解説を行います。また、同じ範囲の公務員試験の民法の本試験問題を使って、知識の確認と発展的な内容について解説を行います。

<履修するにあたって>

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

公務員試験やビジネス実務法務検定3級などの受験相談があればメール等で受け付けます。

<授業時間外に必要な学修>

1回あたり復習90分。

ビジネス実務法務検定試験3級を受験する人は、1回あたり復習3時間のほか、他の試験範囲の学習が必要です。

<提出課題など>

なし

<成績評価方法・基準>

確認テスト100%

出題形式は、穴埋め式、択一式の問題を中心とします。試験範囲は事前に明示します。

得点のみにより成績を評価します。

<テキスト>

なし。資料を配布します。

<参考図書>

ビジネス実務法務検定試験3級公式テキスト 2022年度版 (東京商工会議所編)

ビジネス実務法務検定試験3級公式問題集 2022年度版 (東京商工会議所編)

<授業計画>

第1回 ガイダンス。

企業取引の法務

授業の方法及び内容、成績評価などの説明。

契約とは、売買契約の成立など。

第2回 企業取引の法務

意思表示(心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫など)

第3回 企業取引の法務

代理制度

第4回 企業取引の法務

無権代理など。

第5回 企業取引の法務

契約成立後の法律関係など。

第6回 企業取引の法務

貸借型の契約、労務型の契約など。

第7回 企業取引の法務

不法行為、事務管理、不当利得など。

第8回 確認テスト

第1回～第7回までの知識の確認。

第9回 債権の回収と管理

弁済、相殺、消滅時効など。

第10回 債権の回収と管理

債権の担保(抵当権、保証等)、緊急時の債権の回収など。

第11回 企業財産の管理と法律

不動産、動産の取得。

第12回 権利・義務の主体

未成年者、成年後見制度、法人など。

第13回 ビジネスに関連する家族法

夫婦間の法律関係など。

第14回 ビジネスに関連する家族法

相続、遺言など。

第15回 確認テスト

第1回～第14回までの知識の確認。

2022年度 後期

2単位

実践力基礎D (公務員法学・ビジネス法務検定(民法))

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。法律も経済学と同じく社会現象を扱いますので、ビジネス実務に関する法律の基礎知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、「経済の制度に係わる知識」の修得に役立ち、また、「今日の経済情勢」の理解をより深めることができます。

授業ではビジネス実務の現場においても基本法となる「民法」について解説します。抽象的な「民法」をできるだけビジネスに関係する具体例を挙げて解説することで、具体的なイメージを伴って民法の基礎知識を習得できるようにします。

また、「民法」は、公務員試験の専門科目でも主要科目の一つとなっており、ビジネス実務法務検定試験3級では全出題の5割以上を占めています。ビジネス実務の現場との関係で修得した民法の知識を公務員試験の「民法」の本試験を通じて学習することで、基本的な民法の知識の修得を行うのと同時に公務員試験の特徴(=頻出の過去問知識が繰り返し出題されること)を確認します。本授業は、公務員試験やビジネス実務法務検定試験などの試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験やビジネス実務法務検定試験の本試験問題を積極的に活用します。

< 到達目標 >

公務員試験の「民法」で要求されるレベルと傾向を把握できる。

ビジネス実務法務検定試験3級の「民法」からの出題のうち9割以上の得点を取れる学力が身に付く。

民法の学習を通じて、他の法律科目にも慣れることができる。

< 授業のキーワード >

公務員試験 ビジネス実務法務検定試験 民法 契約
不法行為

< 授業の進め方 >

ビジネス実務法務検定試験3級で出題される「民法」の試験範囲について、「民法」の基礎的な内容を中心に解説を行います。また、同じ範囲の公務員試験の民法の本試験問題を使って、知識の確認と発展的な内容について解説を行います。

< 履修するにあたって >

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

公務員試験やビジネス実務法務検定3級などの受験相談があればメール等で受け付けます。

< 授業時間外に必要な学修 >

1回あたり復習90分。

ビジネス実務法務検定試験3級を受験する人は、1回あたり復習3時間のほか、他の試験範囲の学習が必要で

す。

< 提出課題など >

なし

< 成績評価方法・基準 >

確認テスト100%

出題形式は、穴埋め式、択一式の問題を中心とします。

試験範囲は事前に明示します。

得点のみにより成績を評価します。

< テキスト >

なし。資料を配布します。

< 参考図書 >

ビジネス実務法務検定試験3級公式テキスト 2022年度

版 (東京商工会議所編)

ビジネス実務法務検定試験3級公式問題集 2022年度

版 (東京商工会議所編)

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス。

企業取引の法務

授業の方法及び内容、成績評価などの説明。

契約とは、売買契約の成立など。

第2回 企業取引の法務

意思表示(心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫など)

第3回 企業取引の法務

代理制度

第4回 企業取引の法務

無権代理など。

第5回 企業取引の法務

契約成立後の法律関係など。

第6回 企業取引の法務

貸借型の契約、労務型の契約など。

第7回 企業取引の法務

不法行為、事務管理、不当利得など。

第8回 確認テスト

第1回～第7回までの知識の確認。

第9回 債権の回収と管理

弁済、相殺、消滅時効など。

第10回 債権の回収と管理

債権の担保(抵当権、保証等)、緊急時の債権の回収など。

第11回 企業財産の管理と法律

不動産、動産の取得。

第12回 権利・義務の主体

未成年者、成年後見制度、法人など。

第13回 ビジネスに関連する家族法

夫婦間の法律関係など。

第14回 ビジネスに関連する家族法

相続、遺言など。

第15回 確認テスト

第1回～第14回までの知識の確認。

2022年度 前期

2単位

実践力基礎 E (ファイナンシャルプランナー入門)

石田 裕貴

< 授業の方法 >

遠隔授業 (オンデマンド授業)

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部のDPに示す「1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」、及び「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになることである

・ファイナンシャルプランナー (FP) とは、お金の専門アドバイザー (国家資格) として、顧客のファイナンシャルプランニング (将来の人生設計のための資金計画) を手助けする専門家のことである。この授業では、FPとはどのような資格であるのか、将来どのようにFPの知識を活かすことができるのか、FP資格を取得するためにはどのような学習が必要なのかなどについて、概説する

< 到達目標 >

・FPがどのような職種や資格であるのかを説明することができる (知識)
・FP資格を取得するための心構えや準備ができる (態度、技能)

< 授業の進め方 >

・毎回、空欄のあるプリントを配布し、黒板書きで授業を進める
・毎回、出席を取り、小レポートを提出してもらう
・毎回の授業にはそれまでの配布プリントをすべて持参すること
・毎回、電卓を持参するのが望ましい
・理由を問わず、プリントの再配布を行わない

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前学習として、前回までの授業内容を復習し、次回の授業内容の下調べを行う (1時間)
・事後学習として、授業内容や配布プリントを参考にし、授業のポイントの自分なりの考察を深める (1時間)

< 提出課題など >

小レポートは、次の授業以降にその解答解説、講評を行う

< 成績評価方法・基準 >

出欠と授業ごとの小レポート (100%)

< テキスト >

なし (プリントを配布する)

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の概要を説明する

第2回 FPとは

FPとはどのような職種や資格であるのか、FPが今求められている背景とは何かなどについて、説明する

第3回 FPと身近な暮らし

FPが身近な暮らしの中でどのように活かされるのか、説明する

第4回 FPと就職

FPが将来の就職活動や就業でどのように活かされるのかを知るために、「銀行」の業務内容などについて説明する

第5回 FPと就職

FPが将来の就職活動や就業でどのように活かされるのかを知るために、「証券会社」の業務内容などについて説明する

第6回 FPと就職

FPが将来の就職活動や就業でどのように活かされるのかを知るために、「保険会社」の業務内容などについて説明する

第7回 FPと就職

FPが将来の就職活動や就業でどのように活かされるのかを知るために、「その他企業」の業務内容などについて説明する

第8回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「ライフプランニングと資金計画」の概要を説明する

第9回 FP資格の取得と学習分野 (続き)

引き続き、FP資格取得のための学習分野「ライフプランニングと資金計画」の概要を説明する

第10回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「リスク管理」の概要を説明する

第11回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「金融資産運用」の概要を説明する

第12回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「タックスプランニング」の概要を説明する

第13回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「不動産」の概要を説明する

第14回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「 相続・事業承継」の概要を説明する

第15回 まとめ

講義全体を総括する

2022年度 前期

2単位

実践力基礎 F (企業研究)(企業研究・進路選択)

大塚 英美

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のディプロマ・ポリシーに示す経済的素養を身につけること、企業等で活躍する為に必要なコミュニケーションやプレゼンテーションを中心としたスキルを身につけることを目指します。近年のグローバル化やICT・AIなどの技術革新に見られるように、私たちを取り巻く環境は急速に変化しています。社会環境の変化とともに、個人の生き方・働き方も多様化しつつあります。これまでは、企業が私たちのキャリア(人生)を保障してくれていましたが、これからは自らが自身のキャリア(人生)をデザインしていくことが求められています。この授業では、企業を正しく見極める力を養い、将来のキャリアにおいて、良い意思決定をするために必要な知識やスキルを習得し、実践できるようになることを目的としています。

< 到達目標 >

(1) 自己分析を通じ、自分の価値観や特徴を理解して、表現することができる。

(2) 他者の意見に耳を傾け、異なる考えを柔軟に受けとめることができる。

(3) 自分の考えを相手に伝えることができる。

(4) 双方向のやりとりを通じて、答えのないものに対して考えを述べるることができる。

(5) 将来の仕事や就職を考える上で必要となる知識を習得する。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン、企業活動、採用、コミュニケーション、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

自己PR、企業情報検索・発表などの演習を行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で行ったテーマについて、目安1時間程度復習してください。レポート課題とケース研究の準備は2時間程度を目安とします。

< 提出課題など >

・レポート課題 翌々週までに添削

・ケース研究 発表に対するコメント

< 成績評価方法・基準 >

レポート+ケース+最終課題=100%で評価します。

課題1(20%)、課題2(20%)、ケース(30%)、最終課題(30%)

・レポート課題は、授業内容に対する理解度と自分の意見を主張できているかどうかで評価します。

・ケースは自分の担当箇所をきっちり行い、他のメンバーとの連携がとれており、全体的な構成に統一感、論理的になっているかどうかで評価します。

・最終課題は、プレゼンテーションの内容・論理の一貫性・創造性が豊かかどうか・プレゼンテーションスキルで総合的に評価します。

・定期試験は行いません。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要と進め方、評価について説明します。

第2回 キャリアプラン

今後のキャリアについて、計画を立てるために必要な情報収集の方法を学びます。

第3回 コミュニケーション・スキル

就職活動、大学・社会生活において、良好な対人関係を構築するために重要な「聴き方」と「話し方」について理解を深め、オフライン、オンラインにかかわらず良好なコミュニケーションについて体現します。

第4回 コミュニケーション・スキル

書くことを通して、自分の考えを他者に伝えるために、文書作成の基本と書き方のコツを学びます。

第5回 プレゼンテーションの方法

論理的に伝えるプレゼンテーションの方法を学びます。

第6回 プレゼンテーションの方法

プレゼンテーションの演習を行います。

第7回 企業・社会が求める能力

社会が求めている能力(社会人基礎力)や雇用側が求めている学生の能力について学び、大学生活のキャリア・プランの再検討を行います。

・キャリア・アセスメントの実施

第8回 業界研究

・主要な業界と新しい業界について把握します。

第9回 企業情報

日経データベースの使い方を学び、業界ごとに企業を比較する演習を行います。

第10回 企業情報

日経データベースの情報を用いて、企業を比較する演習を行います。

第11回 社会的企業

持続可能な開発目標(SDGs)、CSR(社会的責任)、

C S V (共有価値の創造)

第12回 サステナビリティ

ケース研究

情報の分析方法について学び、企業のサステナビリティについて比較検討を行います(グループ)。

第13回 プレゼンテーションの実演

業界ごとに企業情報の分析・発表を行います。

第14回 プレゼンテーションの実演

業界ごとに企業情報の分析・発表を行います。

第15回 キャリア・アップ講座 のまとめ

最終レポート課題

2022年度 後期

2単位

実践力基礎 F (企業研究)(企業研究・進路選択)

大塚 英美

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のディプロマ・ポリシーに示す経済的素養を身につけること、企業等で活躍する為に必要なコミュニケーションやプレゼンテーションを中心としたスキルを身につけることを目指します。近年のグローバル化やICT・AIなどの技術革新に見られるように、私たちが取り巻く環境は急速に変化しています。社会環境の変化とともに、個人の生き方・働き方も多様化しつつあります。これまでは、企業が私たちのキャリア(人生)を保障してくれていましたが、これからは自らが自身のキャリア(人生)をデザインしていくことが求められています。この授業では、企業を正しく見極める力を養い、将来のキャリアにおいて、良い意思決定をするために必要な知識やスキルを習得し、実践できるようになることを目的としています。

< 到達目標 >

(1) 自己分析を通じ、自分の価値観や特徴を理解して、表現することができる。

(2) 他者の意見に耳を傾け、異なる考えを柔軟に受けとめることができる。

(3) 自分の考えを相手に伝えることができる。

(4) 双方向のやりとりを通じて、答えのないものに対して考えを述べるることができる。

(5) 将来の仕事や就職を考える上で必要となる知識を習得する。

< 授業のキーワード >

キャリアデザイン、企業活動、採用、コミュニケーション、プレゼンテーション

< 授業の進め方 >

自己PR、企業情報検索・発表などの演習を行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業で行ったテーマについて、目安1時間程度復習してください。レポート課題とケース研究の準備は2時間程度を目安とします。

< 提出課題など >

- ・レポート課題 翌々週までに添削
- ・ケース研究 発表に対するコメント

< 成績評価方法・基準 >

レポート+ケース+最終課題=100%で評価します。

課題1(20%)、課題2(20%)、ケース(30%)、最終課題(30%)

・レポート課題は、授業内容に対する理解度と自分の意見を主張できているかどうかで評価します。

・ケースは自分の担当箇所をきっちり行い、他のメンバーとの連携がとれており、全体的な構成に統一感、論理的になっているかどうかで評価します。

・最終課題は、プレゼンテーションの内容・論理の一貫性・創造性が豊かかどうか・プレゼンテーションスキルで総合的に評価します。

・定期試験は行いません。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要と進め方、評価について説明します。

第2回 キャリアプラン

今後のキャリアについて、計画を立てるために必要な情報収集の方法を学びます。

第3回 コミュニケーション・スキル

就職活動、大学・社会生活において、良好な対人関係を構築するために重要な「聴き方」と「話し方」について理解を深め、オフライン、オンラインにかかわらず良好なコミュニケーションについて体現します。

第4回 コミュニケーション・スキル

書くことを通して、自分の考えを他者に伝えるために、文書作成の基本と書き方のコツを学びます。

第5回 プレゼンテーションの方法

論理的に伝えるプレゼンテーションの方法を学びます。

第6回 プレゼンテーションの方法

プレゼンテーションの演習を行います。

第7回 企業・社会が求める能力

社会が求めている能力(社会人基礎力)や雇用側が求めている学生の能力について学び、大学生活のキャリア・プランの再検討を行います。

・キャリア・アセスメントの実施

第8回 業界研究

・主要な業界と新しい業界について把握します。

第9回 企業情報

日経データベースの使い方を学び、業界ごとに企業を比較する演習を行います。

第10回 企業情報

日経データベースの情報を用いて、企業を比較する演習を行います。

第11回 社会的企業

持続可能な開発目標 (SDGs)、CSR (社会的責任)、CSV (共有価値の創造)

第12回 サステナビリティ

ケース研究

情報の分析方法について学び、企業のサステナビリティについて比較検討を行います (グループ)。

第13回 プレゼンテーションの実演

業界ごとに企業情報の分析・発表を行います。

第14回 プレゼンテーションの実演

業界ごとに企業情報の分析・発表を行います。

第15回 キャリア・アップ講座 のまとめ

最終レポート課題

2022年度 前期

2単位

実践力基礎 G (SPI対策)

安達 啓介

< 授業の方法 >

講義 (場合によっては【遠隔授業】)

< 授業の目的 >

この授業は、学部のDPに示す、「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」能力の基礎開発、向上を目指す。

この授業では、主に教職適性試験 (SPI) の過去問を通して、社会人として必要と考えられる数的知識、数的処理能力、空間把握能力、そして資料解釈能力を養成する。

< 到達目標 >

SPI、公務員試験 (初級～上級) で頻出の基礎的な問題の解法を習得する。

表やグラフ、立体図形の内容や意味を読み取ることができる。

一つひとつの問題に粘り強く取り組むことができる。

< 授業のキーワード >

SPI、公務員試験、数的処理、空間把握、資料解釈

< 授業の進め方 >

基本、予習 演習 解説 復習のサイクルで授業を進める。授業中の演習への取り組みが学習の中心になるため、集中して授業での課題に取り組む必要がある。

< 履修するにあたって >

・予備知識は特に必要としないが、少数・分数の四則演算を復習しておくことと学習しやすい。

・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。

・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。

・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。

・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、学習した内容について、プリント、ノートなどを見直して復習すること (60分程度)。

次回の学習内容に関しては、事前に下記の【配布教材】のリンク (OneDrive) で配布する資料を確認しておくこと (30分程度)。

< 提出課題など >

毎回、授業のまとめとして小課題を課す (詳細は第1回の授業で説明)。これにより、受講生の理解度、習熟度を逐一把握し、授業内容の難易度を調整する。また、次回冒頭にその内容の復習・解説を行い、全体へのフィードバックを行うことで、基礎力の着実な向上を図る。

< 成績評価方法・基準 >

毎週の小課題 (100%) の成績で評価する。

< テキスト >

なし。使用する資料全般は授業中または下記のリンク内で配布する。

< 参考図書 >

なし。

< 授業計画 >

第1回 「SPI」とは

自己紹介、授業のガイダンス、SPIの概要説明、基礎数理の力試し

第2回 小数・分数の計算

小数、分数を含む四則計算の演習・解説を行う。

第3回 割合と比と代入法

割合、比、代入法を用いた問題の解き方を学ぶ。

第4回 お金の計算

定価・原価・利益の概念を学び、損益・割引き・分割払いを含むお金の計算方法を習得する。

第5回 速度・距離・時間の計算

速度・時間・距離の求め方を学ぶ。

第6回 速度計算の応用

旅人算、通過算、流水算の演習・解説を行う。

第7回 濃度の計算

食塩水の塩分調整を例に、濃度の計算方法を学ぶ。

第8回 グラフの読み取り方

直線と放物線のグラフの読み取り方を学ぶ。

第9回 順列の問題

並び方のパターンの計算方法を学ぶ。

第10回 組み合わせ問題

組み合わせのパターンの計算方法を学ぶ。

第11回 確率の計算

確率の概念を、サイコロやコインゲーム、くじびきなどを例に学び、その計算の仕方を身につける。

第12回 集合の問題

ベン図、カルノー表を使った問題を解き方を学ぶ。

第13回 図形の推理問題

平面図、立体図の読み解き方を学び、空間把握能力を高める。

第14回 図形の計量問題

三平方の定理、さまざまな直角三角形の特徴、相似比に関する問題の解き方を学ぶ。

第15回 図形の計量問題

図形の表面積、体積の計算方法を学ぶ。

2022年度 後期

2単位

実践力基礎 G (SPI対策)

安達 啓介

< 授業の方法 >

講義 (場合によっては【遠隔授業】)

< 授業の目的 >

この授業は、学部のDPに示す、「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」能力の基礎開発、向上を目指す。

この授業では、主に教職適性試験 (SPI) の過去問を通して、社会人として必要と考えられる数的知識、数的処理能力、空間把握能力、そして資料解釈能力を養成する。

< 到達目標 >

SPI、公務員試験 (初級～上級) で頻出の基礎的な問題の解法を習得する。

表やグラフ、立体図形の内容や意味を読み取ることができる。

一つひとつの問題に粘り強く取り組むことができる。

< 授業のキーワード >

SPI、公務員試験、数的処理、空間把握、資料解釈

< 授業の進め方 >

基本、予習 演習 解説 復習のサイクルで授業を進める。授業中の演習への取り組みが学習の中心になるため、集中して授業での課題に取り組む必要がある。

< 履修するにあたって >

・予備知識は特に必要としないが、少数・分数の四則演算を復習しておくことと学習しやすい。

・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。

・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。

・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。

・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回、学習した内容について、プリント、ノートなどを見直して復習すること (60分程度)。

次回の学習内容に関しては、事前に下記の【配布教材】のリンク (OneDrive) で配布する資料を確認しておくこと (30分程度)。

< 提出課題など >

毎回、授業のまとめとして小課題を課す (詳細は第1回の授業で説明)。これにより、受講生の理解度、習熟度を逐一把握し、授業内容の難易度を調整する。また、次回冒頭にその内容の復習・解説を行い、全体へのフィードバックを行うことで、基礎力の着実な向上を図る。

< 成績評価方法・基準 >

毎週の小課題 (100%) の成績で評価する。

< テキスト >

なし。使用する資料全般は授業中または下記のリンク内で配布する。

< 参考図書 >

なし。

< 授業計画 >

第1回 「SPI」とは
自己紹介、授業のガイダンス、SPIの概要説明、基礎数理の力試し

第2回 小数・分数の計算

小数、分数を含む四則計算の演習・解説を行う。

第3回 割合と比と代入法

割合、比、代入法を用いた問題の解き方を学ぶ。

第4回 お金の計算

定価・原価・利益の概念を学び、損益・割引き・分割払いを含むお金の計算方法を習得する。

第5回 速度・距離・時間の計算

速度・時間・距離の求め方を学ぶ。

第6回 速度計算の応用

旅人算、通過算、流水算の演習・解説を行う。

第7回 濃度の計算

食塩水の塩分調整を例に、濃度の計算方法を学ぶ。

第8回 グラフの読み取り方

直線と放物線のグラフの読み取り方を学ぶ。

第9回 順列の問題

並び方のパターンの計算方法を学ぶ。

第10回 組み合わせ問題

組み合わせのパターンの計算方法を学ぶ。

第11回 確率の計算

確率の概念を、サイコロやコインゲーム、くじびきなど

を例に学び、その計算の仕方を身につける。

第12回 集合の問題

ベン図、カルノー表を使った問題を解き方を学ぶ。

第13回 図形の推理問題

平面図、立体図の読み解き方を学び、空間把握能力を高める。

第14回 図形の計量問題

三平方の定理、さまざまな直角三角形の特徴、相似比に関する問題の解き方を学ぶ。

第15回 図形の計量問題

図形の表面積、体積の計算方法を学ぶ。

2022年度 前期

2単位

実践力基礎H (ビジネス英語)

Bernard Walter Plett

< 授業の方法 >

This will be a 4-skills (reading, writing, speaking and listening) course focused on introducing important business skills, concepts and vocabulary. Students will be expected to attend at least 80% of scheduled classes, do frequent homework assignments, and interact actively with the instructor and classmates. The class will be conducted in English. Assessment will be based on participation, homework assignments, mini quizzes and a term presentation project

This is a lecture type class, and we will be face to face at this point. If we must go online, it will be on Zoom, but I will inform you of the Zoom class meeting details at that time.

Students can contact me one on one at the following email address:

< 授業の目的 >

This will be a 4-skills (reading, writing, speaking and listening) course focused on introducing important business skills, concepts and vocabulary. Students will be expected to attend at least 80% of scheduled classes, do frequent homework assignments, and interact actively with the instructor and classmates. The class will be conducted in English. Assessment will be based on participation, homework assignments, mini quizzes and a term pr

esentation project.

< 到達目標 >

In this course students will:

- Get used to using Business English to communicate with their classmates and teacher.
- Practice and perform a large number of basic conversations in a variety of situations.
- Practice using business language fluently, accurately, and appropriately (including grammar, vocabulary, idiomatic expressions, pronunciation and intonation.)
- Practice basic skills that are necessary for successful language learning in business (for example, using a dictionary and taking notes)
- Learn new vocabulary and business expressions.
- Be able to express their own ideas, feelings or opinions in a business situation..

< 授業の進め方 >

On a weekly basis students will engage in speaking tasks using Business English. They will have pair work and group work. They will express their opinions and feelings in business situations. Students will also give a presentation of their project work to the group.

< 授業時間外に必要な学修 >

Students will be required to complete all homework assignments on time.

< 提出課題など >

Each meeting will include a mini lecture and follow up discussion. Tentative topics for the spring term include first impressions, daily routines, relationships, industry overviews and company overviews.

< 成績評価方法・基準 >

Assessment will be based on participation, homework assignments, mini quizzes and a term project. Classroom Participation 25%, Homework Assignments 25%, Mini Quizzes 25%, Term Project 25%

< テキスト >

Business Venture 1 by Roger Barnard & Jeff Cady, Angela Buckingham, Grant TrewOXFORD ISBN 978-0-19-457817-2

< 授業計画 >

Week 1: Class Policy, Goal and interviews with teacher.

Students get to know what is expected and get to know the teacher.

Week 2: Group building Activity

Students meet their classmates and interview them.

Week 3: Pronunciation Training
Students will learn some features of the Second language not found in the First Language.

Week 4: Mini Presentation:
Students will give a small presentation representing the production of Pronunciation features learned.

Week 5-6: Meeting a Client
Introducing, Greeting, Phone numbers, numbers 1-10

Week 7-8: You and your company
company activities, daily routines, numbers 11-100, starting a conversation

Week 9-10: Visiting a client
arriving at an appointment, at reception, meeting people, numbers 100-10,000

Week 11-12: Business activities:
Describing routines e.g. "how often...."

Week 13-14: Project work
Students design learning project report, prepare, practice. Teacher guides, facilitates, assists Students with final draft.

Week 15: Project presentation
Students present projects to class.

2022年度 前期

4単位

社会保障論 公共(総合)

田宮 遊子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この講義で受講生は、社会保障制度にかかわる経済理論、歴史的展開、現在の制度の論点を学ぶ。

この講義は、経済学部ディプロマ・ポリシーの以下と関連している。

- ・経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

- ・経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

< 到達目標 >

本講義の履修者は、社会保障制度にかかわる経済理論、歴史的展開、現在の制度の以下の論点について学ぶことができる。具体的には、保険理論と情報の経済学から、政府が社会保険を供給する理由、医療保険のしくみと情報の非対称がひきおこす問題、医療と介護の違い、介護保険のしくみ、公的年金制度のしくみと高齢社会

における制度改革、所得格差と貧困、貧困削減のための政策、社会保障財政や再分配政策をめぐる理論について学ぶことができる。

< 授業の進め方 >

講義形式での授業を行う。

受講者の理解度に応じて講義の進度は決定されることから、授業計画は適宜変更される場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の復習に1時間程度の時間を要する。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト(60%)、総まとめ小テスト(40%)の合計点で評価する。

なお、提出したテストのなかに、不正行為に該当するものがあった場合には、不合格となる。

例えば、下記は不正行為に該当するものにあたる。

- ・インターネット上の文章や本から引用文献として言及せずに用いたことを書いて提出すること
- ・他学生が解答したものの一部あるいは全部を自分の解答として提出すること

< テキスト >

駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂『社会政策：福祉と労働の経済学』2015、有斐閣アルマ

< 参考図書 >

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（2022年4月段階で最新の版）、有斐閣

菊池馨実『社会保障再考 地域で支える』2019、岩波新書

権丈善一『ちょっと気になる社会保障 増補版』2017、勁草書房

小塩隆士『18歳からの社会保障読本：不安のなかの幸せをさがして』2015、ミネルヴァ書房

小塩隆士『社会保障の経済学 第4版』2013、日本評論社

池上直己『医療・介護問題を読み解く』2014、日経文庫

池上直己『日本の医療と介護：歴史と構造、そして改革の方向性』2017、日本経済新聞出版社

権丈善一『ちょっと気になる医療と介護 増補版』2018、勁草書房

川口大司編『日本の労働市場：経済学者の視点』2017、有斐閣

駒村康平『日本の年金』2014、岩波新書

橋木俊詔・浦川邦夫『日本の貧困研究』2006、東京大学出版会

阿部彩 他『生活保護の経済分析』2008、東京大学出版会

< 授業計画 >

第1回－第4回 保険のしくみ

保険の4要件、政府と市場の役割、公平性と効率性、民間保険と社会保険、純保険料と付加保険料について学ぶ。

第5回－第8回 医療 1

医療制度のしくみ、高齢者医療制度のしくみ、情報の非対称による諸問題について学ぶ。

第9回－第10回 医療 2

アメリカ合衆国の医療費と医療制度を学ぶ。

第11回－第12回 介護保険 1

介護保険のしくみを学ぶ。

第13回－第14回 介護保険 2

介護保険制度改革を学ぶ。

第15回 介護保険 3

介護労働の特徴と問題を学ぶ。

第16回 労災保険・雇用保険 1

労働者災害補償保険（労災保険）の仕組みについて学ぶ。

第17回 労災保険・雇用保険 2

雇用保険の仕組みについて学ぶ。

第18回 労災保険・雇用保険 3

労災保険と雇用保険の論点について学ぶ。

第19回－第20回 年金 1

年金制度のしくみを学ぶ。

第21回 年金 2

年金の財政方式を学ぶ。

第22回 年金 3

高齢化社会における年金制度のあり方について諸外国の制度改革を参考にしながら学ぶ。

第23回 格差・貧困 1

所得、等価尺度、格差指標、貧困指標について学ぶ。

第24回 格差・貧困 2

生活保護のしくみ、生活保護をめぐる論点を学ぶ。

第25回 格差・貧困 3

負の所得税、給付付き税額控除、ベーシックインカムを学ぶ。

第26回 社会保障財政

日本の社会保障費の特徴、税・社会保障の所得再分配効果を学ぶ。

第27回 福祉国家論

日本の社会保障費の特徴を福祉国家論から学ぶ。

第28回 学修のまとめ1

保険のしくみ、医療、介護保険、雇用保険の内容のまとめをおこなう。

第29回 学修のまとめ2

年金、格差貧困、社会保障財政の内容のまとめをおこなう。

第30回 理解度の確認と解説

学修の理解度の確認と解説をおこなう。

2022年度 前期

4単位

消費社会論 [生活]

木暮 衣里

< 授業の方法 >

講義

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >

< 目的 >

「消費」は経済活動の重要な位置を占め、経済成長の鍵を握っています。また現代は有形財やサービスを含め、市場に提供されるあらゆるものが私たちに取得・利用・注目等の多様な消費を促す、非常に高度な「消費社会」となっています。一方、持続可能な社会のための開発目標「SDGs」（Sustainable Development Goals）が2015年の国連総会で採択され、企業の活動だけでなく、私たちの消費を含む生活全般に対する意識と行動の変化がこれまで以上に問われるようになっていきます。また人々の所得や階層の格差も、消費に影響を及ぼしています。この授業では消費活動の原理について歴史や制度から理解し、今後の持続可能な社会経済の発展のために「消費」とどう向き合うか学ぶことを目指します。

この科目は学部のDPで示す、

（知識・技能）

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

以上の2点を目的とします。

なお、担当者は1991年に中小企業診断士の資格を取得しており、コンサルティングや調査研究活動を通じた経験に基づき、実践的な観点からも解説を行います。

< 到達目標 >

・「消費」「消費社会」とは何かを説明できる

・「消費」活動の原理について理解するための知識が習得できる

・現代社会と「消費」との関係性を、自ら情報を集めて考察できる

< 授業のキーワード >

消費社会、消費、サービス、流通、広告、ブランド、SDGs、ESG、価値共創

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使った講義形式で進めます。発表やグループ・ディスカッションなど、アクティブラーニングも取り入れます。

< 履修するにあたって >

自分で文献を調べたり質問・発表を通じて、授業に積極的に参画してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習と予習で90分程度

< 提出課題など >

授業内で小課題を実施します。優れた提出物は次回授業で紹介し、ポイントの解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

受講態度・質疑・発表・課題（50%）、期末テスト（50%）で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

間々田孝夫・藤原真之・水原俊博・寺島拓幸『新・消費社会論』有斐閣、2021年

< 授業計画 >

第1回 消費社会とは何か
消費社会とは何か 資本主義と消費社会 消費文化理論
第2回 消費社会とは何か
消費概念の広がり 欲求の意味と変化 物質と精神
第3回 消費社会とは何か
消費社会の要件 経済・社会の変化と消費
第4回 消費社会とは何か
所得と生活水準 消費者と企業の関係
第5回 消費社会とは何か
所属文化と階層 ライフスタイル 価値観 パーソナリティ
第6回 消費社会の萌芽
消費社会の起源 大衆とセレブリティ 必需と顕示 実用と贅沢
第7回 消費社会の確立
大衆の欲望 大量生産・大量消費
第8回 消費社会の発展
高度経済成長 サービス経済化の進展
第9回 消費社会の発展
イメージと消費 記号的消費の拡大 消費と文化
第10回 消費社会の成熟
モノ消費とコト消費
第11回 消費社会の成熟
余暇・趣味と消費 高付加価値消費
第12回 消費社会と流行
流行のメカニズム メディアミックス コラボレーショ

ン

第13回 マーケティングと消費社会
プロダクト・アウトとマーケット・イン 「価値」の創造と伝達
第14回 ブランドと消費
ブランド論の発展
第15回 ブランドと消費
ブランドの今日的意味と機能
第16回 広告と消費
依存効果と消費者の主体性 機能の伝達とイメージの訴求
第17回 広告と消費
プロモーションとコミュニケーションの統合
第18回 流通と消費
商店街 系列店 百貨店
第19回 流通と消費
スーパーマーケット コンビニエンスストア
第20回 流通と消費
オンラインストア オムニチャネル
第21回 価格と消費
貨幣 信用 キャッシュレス
第22回 価格と消費
コストパフォーマンスの功罪
第23回 オンライン化と消費
インターネット広告 SNSの発展と影響
第24回 消費者と企業の関係
消費者行動 カスタマージャーニー
第25回 消費者と企業の関係
経験価値 価値共創
第26回 消費社会の課題
環境問題 コンシューマリズム 消費者保護
第27回 消費社会の課題
SDGs ESG 企業の倫理と行動規範
第28回 消費社会の課題
リスク防衛と消費 エシカル消費
第29回 消費社会の課題
所得と階層の格差 グローバル化と格差
第30回 消費社会の課題
消費社会と持続可能な社会

2022年度 前期

2単位

情報処理

柴田 淳子

< 授業の方法 >

講義、実習（場合によっては【遠隔授業】）

< 授業の目的 >

本科目は、DP（学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、

政策課題に対応できる」ため、データ処理に関する基礎知識を修得し、物事を理論的に理解する思考力を身に付けることを目指します。

「情報処理」は、専門教育科目の選択必修科目における専門リテラシー科目に属する2年次生配当の科目です。この授業では、pythonを用いてプログラミングの基礎的技法を身に付けます。普段、活用しているパソコンの仕組みを知るだけでなく、アルゴリズムを通じて、ものごとを理論的に考えることができることを目的とします。

<到達目標>

1. pythonの基本的な操作を習得できる。
2. コンピュータに必要な機能は、プログラミングによって実現されていることを理解できる。
3. プログラミング言語が現実社会でどのように利用されているかを理解できる。

<授業の進め方>

パソコンを用いた講義・実習形式の授業です。パワーポイント資料を用いて説明、例題を提示したのち、各自でプログラムを作成しながら理解してもらいます。

<履修するにあたって>

遠隔の場合、指定のアプリケーションを利用できる環境をご用意ください。

<授業時間外に必要な学修>

毎回、1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です。

<提出課題など>

毎回、授業内容に関するレポートを出題します。「復習」の授業で解答例を示し、解説を行います。

<成績評価方法・基準>

2回の演習問題（各30%）、レポート40%により総合的に評価します。評価を受けようとする人は、演習問題を必ず受けなければなりません。もし、正当な理由で受けられなかった場合には、レポートを課します。

<参考図書>

高橋麻奈、「やさしいPython」,SBクリエイティブ株式会社,2018.

クジラ飛行機,「pythonの教科書」,株式会社マイナビ出版,2016.

<授業計画>

第1回 ガイダンス

プログラミングとpythonの特徴

第2回 文字列と数値

リテラルとエスケープシーケンス

第3回 変数と式

変数の利用と演算子

第4回 キーボード入力

数値入力と計算

第5回 条件判断文

if文

第6回 繰り返し文

for文

第7回 復習

前半の復習と問題解説

第8回 演習問題

これまでの内容に関する問題

第9回 演習問題の解説

第10回 文のネスト

文の組み合わせ

第11回 コレクション

リストの作成と操作

第12回 リストの操作方法

リストの連結とスライス

第13回 復習

後半の復習と問題解説

第14回 演習問題

これまでの内容に関する問題

第15回 演習問題の解説

2022年度 前期

2単位

情報処理

平越 裕之

<授業の方法>

<対面講義>

演習室にてWindowsのExcelを用いてPC演習を行います。

<授業の目的>

<主題> ExcelVBA(Visual Basic for Application)を利用してプログラミングの基礎を学ぶ。毎回、表計算ソフトウェア(Excel)を用いたプログラミング演習を行う。この科目は、学部のDPに示す、3.経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できることを目指しています。

<到達目標>

<目標> 表計算ソフトでは面倒な処理や、複雑な処理を、プログラミング環境を利用して処理出来る素養を養うことを目標とする。

<授業の進め方>

Excelの操作(関数、絶対参照と相対参照、数式、書式、データベース機能等)は習得済みであることを前提に授業を進める。

現時点では全科目対面授業を前提としている。

演習室においてWindows版Excel及びExcelVBAを利用してプログラミングの基礎を学習する。

<履修するにあたって>

演習は講義時間開始からすぐ説明を始めるので遅刻の無いように出席して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

復習を行うことは、知識の定着には欠かせない。毎回の講義に対して2時間以上程度の復習を望む。

< 提出課題など >

毎回の授業で課題演習を行う予定で、適切に演習が完了しているかをその場でチェックします。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題により評価する。

< テキスト >

なくても構わない。この教科書は、手順が事細かに書いてるので、どうしても理解しにくい、手順がわからない人は準備しておくといと思う。

小舘由典 & できるシリーズ編集部 『できるExcel マクロ & VBA編 2016/2013/2010/2007対応 (ISBN-13: 978-484438007-8)』 インプレス

< 授業計画 >

第1回 Excelのマクロ機能学習の準備

演習室における演習方法、学習内容の概説

第2回 Excelの基本機能の確認

マクロ演習やプログラミング演習に必要なExcelの基本機能の確認演習

第3回 Excelマクロを始めよう

マクロの記録と実行

第4回 様々なマクロ

マクロによるオートフィルタ、グラフ作成、PDF保存

第5回 相対参照マクロ(1)

相対参照を使ったマクロ機能(1)

第6回 相対参照マクロ(2)

相対参照を使ったマクロ機能(2)

第7回 VBAを始めよう

VBA(Visual Basic for Application)の概説・演習

第8回 プログラミング基礎

VBAプログラミングの基礎とメソッド、プロパティ

第9回 Excelセル内容の操作

VBAによるExcelのセル内容の操作方法(書込み、読み出し)

第10回 繰り返し(1)

繰り返し構文のDo Loop(1)

第11回 繰り返し(2)

繰り返し構文のDo Loop(2)

第12回 繰り返し(3)

繰り返し構文のDo Loop(3)

第13回 繰り返し総合演習

繰り返し構文のDo Loop演習

第14回 条件分岐 If

繰り返しと条件分岐(If)の組み合わせ

第15回 最後の確認演習

これまでの確認を行う演習

2022年度 前期

2単位

情報処理

関 陽

< 授業の方法 >

「講義」と「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のディプロマ・ポリシーに示す、経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理ができること、経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できることに寄与する。

この科目は、ExcelVBA(Visual Basic for Application)を利用してプログラミングの基礎を学ぶ。毎回、表計算ソフトウェア(Excel)を用いたプログラミング演習を行う。

< 到達目標 >

・Excelのマクロ機能を使って作業を自動化・効率化できる。

・Excel VBAによるプログラミングの基礎をマスターする。

・マクロとVBAの関係について理解し、マクロの修正とVBAによるセル操作ができるようになる。

・VBAプログラムの基本構文をマスターする。

・フォームボタンの設定や入力に関するVBAプログラムが作成できる。

・VBAとマクロを組み合わせたプログラミングができるようになる。

・応用問題に対してプログラムを作成し解決できるようになる。

・以上によってプログラミングの基礎をマスターする。

< 授業のキーワード >

Excel VBA、マクロ、プログラミング、Visual Basic、VB

< 授業の進め方 >

表計算ソフトウェア(Excel)を用いた演習科目である。ほぼ毎回、マクロとVBAに関する例題の演習を行ってから、演習課題に取り組む。

< 履修するにあたって >

状況によっては、この授業は遠隔講義で行われる可能性がある。遠隔講義の場合、受講生は、自宅等でWindows版のMicrosoft Excel2016以降が使用でき、Youtube配信の講義動画を視聴しながらExcelの演習が可能であることが必須である。

Excelの操作(数式, 書式, 関数, 絶対参照と相対参

照，データベース機能等）は習得済みであることを前提に授業を進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習が大事である。毎回の授業に対して2時間程度の復習を望む。また、演習課題が授業時間内で終わらない場合は、授業時間外でそれを完成しEメール等で提出する。

< 提出課題など >

ほぼ毎回の授業でマクロやVBAプログラミングの演習を行い、演習課題の結果を提出してもらう予定である。提出された演習課題について、解答例を提示しながら解説・講評を行う。必要に応じて個別に指摘を行い再提出を課すことがある。

< 成績評価方法・基準 >

対面講義の場合、100%演習課題の完成結果と授業に取り込む姿勢で総合的に評価する。遠隔講義の場合、100%演習課題で評価する。定期試験は実施しません。

< テキスト >

小舘 由典/できるシリーズ編集部『できるExcelマクロ&VBA Office 365/2019/2016/2013/2010対応 作業の効率化&時短に役立つ本 (ISBN-13 : 978-4295005872)』インプレスジャパン

< 授業計画 >

第1回 イントロダクションとマクロ

授業のイントロダクション、エクセルのマクロ機能の体験

第2回 マクロの基本

マクロの作成、保存、実行。課題演習。

第3回 複雑なマクロ

複雑なマクロの作成、実行。課題演習

第4回 マクロの組合せ

複数のマクロの組合せ。課題演習。

第5回 相対参照とマクロ1

相対参照と絶対参照の比較。相対参照で記録するマクロ。課題演習

第6回 相対参照とマクロ2

相対参照と絶対参照を組み合わせたマクロ。課題演習。

第7回 VBA入門

マクロとVBA。VBAの構成。マクロの記録とVBA。マクロの実行とVBA。マクロのコピーと修正。課題演習。

第8回 VBAプログラミングの基礎

VBAの構造と特徴、メソッド、プロパティ。課題演習。

第9回 セル内容の操作

VBAを使ってセル内容を操作する方法、Range、Value、Date、Withなど。課題演習。

第10回 繰り返しその1

Do-Loopステートメント。課題演習。

第11回 繰り返しその2

Do-Loopステートメント応用。課題演習。

第12回 繰り返しその3

Do-Loopステートメント応用2、合計、コメント。課題演習。

第13回 変数・条件分岐・繰り返し

変数、条件分岐とFor-Nextの繰り返しに関する演習。

第14回 総合演習

For-Nextステートメント、総合演習。

第15回 自由課題

勉強した知識を活用し、各自が自由に課題のテーマを決めて、それを解決するプログラムを作成する。

2022年度 後期

2単位

情報処理

柴田 淳子

< 授業の方法 >

講義，実習（場合によっては【遠隔授業】）

< 授業の目的 >

本科目は，DP（学位授与方針）の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し，統計的な処理・分析ができ，政策課題に対応できる」ため，データ処理に関する基礎知識を修得し，物事を理論的に理解する思考力を身に付けることを目指します。

「情報処理」は，専門教育科目の選択必修科目における専門リテラシー科目に属する2年次生配当の科目です。この授業では，pythonを用いてプログラミングの基礎的技法を身に付けます。普段，活用しているパソコンの仕組みを知るだけでなく，アルゴリズムを通じて，ものごとを理論的に考えることができることを目的とします。

< 到達目標 >

1. pythonの基本的な操作を習得できる。
2. コンピュータに必要な機能は，プログラミングによって実現されていることを理解できる。
3. プログラミング言語が現実社会でどのように利用されているかを理解できる。

< 授業のキーワード >

プログラム制御，配列，関数

< 授業の進め方 >

パソコンを用いた講義・実習形式の授業です。パワーポイント資料を用いて説明，例題を提示したのち，各自でプログラムを作成しながら理解してもらいます。

< 履修するにあたって >

情報処理（担当：柴田）を受講していることが望ましい。

遠隔の場合，指定のアプリケーションを利用できる環境をご用意ください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回，1時間程度の予習と1時間以上の復習が必要です。

< 提出課題など >

毎回，授業内容に関するレポートを出題します。「復習

」の授業で解答例を示し、解説を行います。

<成績評価方法・基準>

授業中の課題30%、2回の演習問題の結果（それぞれ30%）、レポート10%により総合的に評価します。評価を受けようとする人は、演習問題を2回（予定）とも必ず受けなければなりません。もし、正当な理由で受けられなかった場合には、レポートを課します。

<参考図書>

高橋麻奈、「やさしいPython」,SBクリエイティブ株式会社,2018.

クジラ飛行機,「pythonの教科書」,株式会社マイナビ出版,2016.

<授業計画>

第1回 ガイダンスと前期の復習

情報処理（担当：柴田）で学習した内容の復習

第2回 コレクション（1）

タプルとディクショナリ

第3回 コレクション（2）

セット

第4回 関数（1）

関数の定義と引数

第5回 関数（2）

戻り値

第6回 復習

前半の復習と問題解説

第7回 演習問題

前半の内容に関する問題

第8回 演習問題の解説

第9回 クラス（1）

クラスの定義

第10回 クラス（2）

クラス変数

第11回 クラス（3）

クラスの拡張

第12回 復習

後半の復習と問題解説

第13回 演習問題

後半の内容に関する問題

第14回 演習問題の解説

第15回 図書館学習

図書館所蔵のプログラミングの本を用いて学習を行う

2022年度 後期

2単位

情報処理

平越 裕之

<授業の方法>

<対面講義>

演習室にてWindowsのExcelを用いてPC演習を行います。

<授業の目的>

<主題> Windows版ExcelVBA (Visual Basic for Application) を利用してプログラミングの基礎を学ぶ。毎回、表計算ソフトウェア (Excel) を用いたプログラミング演習を行う。この科目は、学部のDPに示す、3.経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できることを目指しています。

<到達目標>

<目標> 表計算ソフトでは面倒な処理や、複雑な処理を、プログラミング環境を利用して処理出来る素養を養うことを目標とする。

<授業の進め方>

Excelの操作（関数、絶対参照と相対参照、数式、書式、データベース機能等）は習得済みであることを前提に授業を進める。また、情報処理（ExcelVBA）の内容を十分理解しているものとして授業を進めるので注意すること。

<履修するにあたって>

講義開始時間が始まるとすぐに演習の説明を行いますので、遅刻の無いようにお願いします。

<授業時間外に必要な学修>

復習を行うことは、知識の定着に欠かせない。毎回の講義に対して2時間程度の復習を望む。

<提出課題など>

毎回の授業で、課題演習を行う予定で、指定の提出時間までに課題提出が必要。

提出時間を超えると受け付けないので、余裕を持って提出できるように計画して下さい。

（合理的な理由がある場合は提出時間を超えて受け付ける場合もある）

<成績評価方法・基準>

提出課題により評価する。（毎回の累積点数によるが、5回以上の未提出がある場合は放棄とみなす。）

期限内に提出していても、指定の演習を行っていなかったり、間違っていたりする場合には大幅な減点を行う。前期よりも厳密に行うので丁寧に演習に取り組んでください。

<テキスト>

<前期と同じ>なくても構わない。この教科書は、手順が事細かに書いてるので、どうしても理解しにくい、手順がわからない人は準備しておくといふと思う。

小館由典&できるシリーズ編集部『できるExcel マクロ&VBA編 2016/2013/2010/2007対応 (ISBN-13: 978-484438007-8)』インプレス

講義では参考書的に使うだけなので、無くても受講できる。

<授業計画>

第1回 演習環境の概説

遠隔演習方法などを含むイントロダクション

第2回 Excel機能の学習

本講義で必要なExcel機能の学習を行う

第3回 マクロ機能

Excelのマクロ機能を学習する

第4回 VBEによるマクロ編集

VBE(Visual Basic Editor)によるマクロ編集

第5回 繰り返し構文

繰り返し構文(Do Loop)を学習する

第6回 繰り返しと条件分岐(1)

条件分岐(If)を繰り返し構文中で利用する

第7回 繰り返しと条件分岐(2)

条件分岐(If)を繰り返し構文中で利用する

第8回 変数

変数の概念と使い方

第9回 変数と繰り返し(1)

変数を用いた典型的な繰り返し構文(For Next)について基本編

第10回 変数と繰り返し(2)

変数を用いた典型的な繰り返し構文(For Next)について刻み幅を利用する

第11回 変数と繰り返し(3)

変数を用いた典型的な繰り返し構文(For Next)について希望の数値を発生させる

第12回 変数と繰り返し(4)

変数を用いた典型的な繰り返し構文(For Next)について繰り返しの中でセル範囲を適切に指定する

第13回 少し複雑な条件分岐

条件分岐で、条件が少し複雑な場合を学ぶ

第14回 ユーザフォーム

ユーザフォームを用いて電卓を作成する

第15回 総合演習

これまでの内容を元に、総合的な演習を行う

2022年度 後期

2単位

情報処理

関 陽

< 授業の方法 >

「講義」と「演習」

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のディプロマ・ポリシーに示す、経済データに関する基礎的知識を習得し、統計的な処理ができること、経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共ににより良い社会構築に貢献できることに寄与する。

この科目は、ExcelVBA(Visual Basic for Application)を利用してプログラミングの基礎を学ぶ。毎回、表計

算ソフトウェア(Excel)を用いたプログラミング演習を行う。

< 到達目標 >

- ・Excelのマクロ機能を使って作業を自動化・効率化できる。
- ・マクロとVBAの関係について理解し、マクロの修正とVBAによるセル操作ができる。
- ・VBAプログラムの基本構文をマスターする。
- ・VBAとマクロを組み合わせたプログラミングができるようになる。
- ・応用問題に対してプログラムを作成し解決できるようになる。

< 授業のキーワード >

Excel VBA、マクロ、プログラミング、Visual Basic、VB

< 授業の進め方 >

表計算ソフトウェア(Excel)を用いた演習科目である。ほぼ毎回、マクロとVBAに関する例題の演習を行ってから、演習課題に取り組む。

< 履修するにあたって >

状況によっては、この授業は遠隔講義で行われる可能性がある。遠隔講義の場合、受講生は、自宅等でWindows版のMicrosoft Excel2016以降が使用でき、Youtube配信の講義動画を視聴しながらExcelの演習が可能であることが必須である。

Excelの操作(数式、書式、関数、絶対参照と相対参照、データベース機能等)は習得済みであることを前提に授業を進める。

また、情報処理(ExcelVBA)の内容を十分理解しているものとして授業を進めるので注意すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

復習が大事である。毎回の授業に対して2時間程度の復習を望む。また、演習課題が授業時間内で終わらない場合は、授業時間外でそれを完成しEメール等で提出する。

< 提出課題など >

ほぼ毎回の授業でマクロやVBAプログラミングの演習を行い、演習課題の結果を提出してもらう予定である。提出された演習課題について、解答例を提示しながら解説・講評を行う。必要に応じて個別に指摘を行い再提出を課すことがある。

< 成績評価方法・基準 >

対面講義の場合、100%演習課題の完成結果と授業に取り込む姿勢で総合的に評価する。遠隔講義の場合、100%演習課題で評価する。定期試験は実施しません

< テキスト >

小舘 由典/できるシリーズ編集部『できるExcelマクロ&VBA Office 365/2019/2016/2013/2010対応 作業の効率

化&時短に役立つ本 (ISBN-13 : 978-4295005872) 』インプレスジャパン

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション、復習

講義イントロダクション。マクロの復習。課題演習。

第2回 VBEとマクロの編集

VBEとマクロの編集、復習も兼ねて。課題演習。

第3回 変数とセル指定

変数とセル指定、復習も兼ねて。課題演習。

第4回 Do ~ Loopステートメント

Do-Loopステートメント。復習も兼ねて。課題演習。

第5回 For ~ Nextステートメント

For-Nextステートメント。復習も兼ねて。課題演習。

第6回 For-Next応用

For-Next応用：一行おきに色付け。課題演習。

第7回 条件分岐その1

条件分岐その1：復習も兼ねて、応用。課題演習。

第8回 条件分岐その2

条件分岐その2：複雑な条件式、条件分岐のネスト、応用。課題演習。

第9回 総合演習 1

総合演習 1：For-Nextステートメント

第10回 総合演習 2

マクロ、For-Next、条件分岐を組み合わせた総合演習。

第11回 総合演習 3

閏年を題材にした総合演習。

第12回 総合演習 4

偶数奇数の判定と色付け、合計を題材とした総合演習。

第13回 総合演習 5

成績表を題材に、入力・2重繰り返し・条件判断を組み合わせた総合演習。

第14回 総合演習 6

成績処理表を題材に、マクロ・繰り返し・2重繰り返し・条件判断などを活用した総合演習。

第15回 自由課題

最後の自由課題演習。

2022年度 前期

2単位

情報処理概論

毛利 進太郎

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPが示す経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得するというポリシーに応じて経済・社会を理解し分析するための基本的な素養を身に着けることを目指しています。

現代では社会におけるさまざまな事柄を考える上で情

報処理技術への理解が必要とされます。この授業はではコンピュータを活用するためだけではなく、今後の社会の有り様を考察するために必要な情報システムの構成について学習することを目的とします。この授業はリテラシー科目に属し、経済学部で学ぶために必要な知識の一部です。

情報処理概論 では情報システムを有効に活用するために必要な、コンピュータがどのように構成され、内部でどのように情報を扱っているのかという知識、CPUや記憶装置といったハードウェアの概要、それらを動かすためのオペレーティングシステムやアプリケーションといったソフトウェアの概要、またネットワークやネットワークを用いたさまざまなシステムについて学習することを目的とします。

< 到達目標 >

これからの社会でコンピュータを利用し、さらに社会の有り様を考えることができるだけの情報処理技術、とりわけコンピュータの構成とネットワークシステムを理解できる。

< 授業のキーワード >

情報処理、コンピュータサイエンス、ハードウェア、ネットワーク

< 授業の進め方 >

講義資料を提示し、毎回簡単な課題を提出してもらいます。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を行うのに0.5時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

レポートを課す予定である。Teamsにて提示、提出を行う。

講義内、またはTeamsにてフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

課題（小テストを含む、30%）と試験（70%）によって評価します。

< テキスト >

今野勤他 「文科系のための情報科学」 共立出版 2017年

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

講義を学ぶ上で必要となる用語、基礎知識を説明する。

第2回 コンピュータの構成

コンピュータ内部の構成について学ぶ。

第3回 半導体について

コンピュータの最も重要な構成要素である半導体について説明する。

第4回 CPU

コンピュータの構成要素の中心をなすCPUについて説明する。

第5回 記憶装置

コンピュータ内部の記憶装置について、主記憶装置、補助記憶装置の原理について学ぶ。

第6回 様々なハードウェア

コンピュータで用いるさまざまなハードウェアについて紹介する。

第7回 ソフトウェアとプログラミング

ソフトウェアの仕組みとプログラミングの概要について説明する。

第8回 オペレーティングシステム

オペレーティングシステムの概要と役割について解説する。

第9回 情報システム

コンピュータを中心とした情報システムの構成について説明する。

第10回 データベース

情報システムの中核をなすデータベースについて紹介する。

第11回 ネットワークシステム

インターネットで利用されるメールやwebといった様々なシステムについて解説する。

第12回 ネットワークシステム

インターネットで活用されているさまざまな情報処理システムについて解説する。

第13回 暗号化

情報システムの様々な部分で利用される暗号化について説明する。

第14回 情報システムと企業

ITを活用しているシステム、それらを代表する企業を取り上げ解説する。

第15回 ムーアの法則とその影響

情報処理技術の進化の速度を示すムーアの法則をもとに今後の情報処理技術の進かについて考える。

2022年度 後期

2単位

情報処理概論

毛利 進太郎

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPが示す経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得するというポリシーに応じて経済・社会を理解し分析するための基本的な素養を身に着けることを目指しています。

現代では社会におけるさまざまな事柄を考える上で情報処理技術への理解が必要とされます。この授業ではコンピュータを活用するためだけではなく、今後の社会の有様を考察するために必要な情報システムの構成について学習することを目的とします。この授業はリテラ

シー科目に属し、経済学部で学ぶために必要な知識の一部です。

コンピュータ内部において情報はデジタル化され、0と1で表現される2値の文字列として表されます。さらに0, 1の2値で構成される情報を電気信号によって表現しそれを処理する回路を構成することができます。この講義では0, 1の情報を電気の信号として計算を行う原理について学習することを目的とします。

< 到達目標 >

さまざまな情報が0, 1の2値で表わされる原理について理解し、さらに論理回路によって計算がおこなわれる原理を理解できる。

< 授業のキーワード >

コンピュータ, 2進数, 論理回路

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は予習復習に0.5時間、また毎回の演習課題を行うのに0.5時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

数回のレポートを課す予定である。Teamsにて提示、提出を行う。

講義内、またはTeamsにてフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

提出課題 (30%), 試験 (70%) によって評価を行う。

< テキスト >

今野勤他 「文科系のための情報科学」 共立出版 2017年

< 授業計画 >

第1回 イントロダクション

講義を行う上で前提となる知識、表記について解説する。

第2回 デジタルとアナログ 抽象化-

デジタルとアナログの情報の違いについて考察する。

第3回 情報と数値, n進数

情報の数値化について考える。

第4回 2進数

2進数について考える。

第5回 数値と表現

コンピュータ内で数値がどのように2値で表現されているのか学ぶ

第6回 論理と論理代数

論理代数の基本的な理論について講義を行う。

第7回 論理回路

論理代数より電気回路を構成する方法について述べる。

第8回 加算器

論理回路を用いて加算器を構成する方法について述べる。

第9回 さまざまな回路

加算器以外の論理回路について学ぶ

第10回 半導体とトランジスタ

論理回路を実現する半導体とトランジスタについて学ぶ。

第11回 データ構造とアルゴリズム

コンピュータによる計算を行うためのデータ構造とアルゴリズムについて学ぶ

第12回 データ構造とアルゴリズム?

ダイクストラ法などの具体的なアルゴリズムの動作について解説する。

第13回 計算可能性について

コンピュータにおける計算の定義と計算可能性について解説する。

第14回 さまざまなコンピュータ

従来のコンピュータ像を超える、これからのコンピュータを紹介する。

第15回 情報処理社会の未来

これまでの講義を振り返り情報処理社会の未来を考える。

2022年度 後期

4単位

人的資源管理論 企業(総合)

圓生 和之

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

組織の「人事」を経済学的手法で分析する「人事経済学」について概説します。

具体的には、我が国の労働市場の現状を概観したうえで、組織の人事の実態も紹介しながら「人事経済学」の基本的な理論を概説します。

この講義により、経済学部でのDPに掲げる「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを目指します。

この科目は専門教育科目で、企業経済コースのコース科目であるほか、公共経済コースと生活経済コースでは選択科目の専門科目に位置づけられています。

なお、この科目の担当教員は、組織の人事をはじめ二十数年間に及ぶ実務経験のある教員ですので、必要に応じて日本社会における人事の実際についても解説したいと思います。

< 到達目標 >

- ・組織の人事について経済学の観点から分析できる(知識)、
- ・組織の人事について日頃から高い関心持つ(態度・習慣)、
- ・人事に関する問題について自分の考えを述べるができる(技能)、ことを目指します。

< 授業のキーワード >

人事、採用、人材育成、人事評価、異動、昇進、賃金、退職管理

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、質問や意見の表明など積極的な参加も歓迎します。

< 履修するにあたって >

講義の進め方や、成績評価方法について、第1回の講義で説明しますので、受講する学生は必ず第1回の講義を受講してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の復習に重点を置いて学習してください。

必要となる時間は、一律ではないものの、平均的には90分程度が目安となります。

< 提出課題など >

定期試験は実施せず、講義時間中に「中間テスト」「期末テスト」を行うほか、小テストを行います。いずれも、実施後、講義の中で解説と講評を行うほか、成績評価の対象とします。

< 成績評価方法・基準 >

「中間テストと期末テスト」60%、小テスト40%、で評価します。

(このほか、講義中の発言等講義への貢献、受講態度について、加点または減点します。)

< テキスト >

講義資料を配付

< 参考図書 >

ラジア(1998)『人事と組織の経済学』日本経済新聞社

ラジア&ギブス(2017)『人事と組織の経済学 - 実践編』

日本経済新聞出版社

樋口美雄(2001)『人事経済学』生産性出版

大湾秀雄(2017)『日本の人事を科学する』日本経済新聞出版社

ミルグロム&ロバーツ(1997)『組織の経済学』NTT出版

出版

圓生和之(2020)『地方公務員の人事がわかる本』学陽書

房

< 授業計画 >

第1-2回 人事経済学の考え方

開講にあたり、講義の目的、概要、進め方、受講に際しての注意点などのガイダンスを行います。

第3回 人が働くということ

働くことの意味や、雇用者としての働き方について考えます

第4回 日本の労働市場

日本の労働市場を具体的なデータで概観します。労働力人口、労働時間、産業と職業、賃金などを取り上げるとともに、高学歴化と高齢化という近年の我が国の労働市場の動向を概観します。

第5回 労働経済データ

日経新聞のデータを読むことができるよう、代表的な労働経済データについて学びます。現金給与総額、所定外

労働時間、常用雇用指数、有効求人倍率、完全失業率等を取り上げ、データの本質を見抜く力を養います。

第6回 賃金と雇用の決まり方

労働需要と労働供給の基本的な構造について学びます。労働需要と労働供給が一致する均衡点で決まる賃金と雇用の決まり方を理解します。労働市場の不完全性にも言及します。

第7回 賃金格差

なぜ人によって賃金は違うのかという賃金格差の問題を考えます。限界生産性価値、補償賃金格差、効率賃金、支払能力、労働市場の分断などの論点について議論します。

第8回 教育訓練

「学び」と「訓練」について議論します。学歴間の賃金格差はなぜ生じるか、企業による訓練について、その費用は誰が負担すべきかといったことを考えます。

第11回 雇用の流動化

会社を辞めるということについて考えます。様々な形態の離職、転職率の推移、会社を辞めるメカニズム、企業による解雇権の規制などを取り上げ、労働市場の変化と雇用の流動化について議論を深めます。

第9回 離職と失業

労働政策の中心的な課題である失業について考えます。失業の実態を概観し、失業が発生するメカニズムとして、総需要の不足、雇用のミスマッチなどの観点から分析します。

第10回 離職と失業

失業率を下げるための政策について考えます。マクロ経済政策、積極的労働市場政策、企業の活性化政策を取り上げるとともに、ワークシェアリングなど近年の動向についても紹介します。

第12回 女性の雇用

女性労働の課題について考えます。女性の活躍推進が求められる中、女性労働の現実を概観し、結婚・育児等による非労働力化、女性の非正規労働の拡大、男女間の処遇格差などについて議論します。

第13回 若者の雇用

若年労働の課題について考えます。労働者としての若者の特徴を分析し、若者の置かれた状況として、失業者やニート、非正規労働(フリーター)、若者の高離職率などを概観します。

第14回 高齢者の雇用

高齢者の雇用問題について考えます。少子高齢化が進展する中での高齢労働のあり方について議論します。高齢者の雇用が若年など他の世代の雇用に与える影響についても考えます。

第14回 人的資源と労働市場

これまでの講義の内容を総括したうえで、日本の労働市場の課題について議論します。

第15回 中間テスト

前半の講義の理解を確認するための中間テストを行います。

第16回 前半のまとめ

中間テストの解説を行うとともに、これまでの講義の内容を総括します。

第17回 人事の経済学の考え方

組織の人事に関する事項を経済学的にアプローチする意味について考えます。

第18回 採用と人事異動

人事部門が新入社員の採用に当たってどのような考え方を基本としているのか。採用基準の設定の問題を取り上げ、相対賃金と相対生産性の考え方などを学びます。

第19回 採用と人事異動

適任者の採用について議論を進めます。採用者の募集を想定し、不確定契約の基本構造を学びます。また、労働者の生産性を知ることについて考えます。配属先の決定の問題についても議論します。

第20回 採用と人事異動

社員の採用について、日本企業における現在の状況を踏まえ具体的な議論を進めます。

第21回 賃金決定 賃金決定

賃金の基本的な構造について学びます。固定賃金と変動賃金について、産出(アウトプット)と投入(インプット)に基づくものと捉えて分析します。リスク回避と賃金決定のメカニズムについても議論します。

第22回 賃金決定 年功型インセンティブ

年功型インセンティブについて考えます。効率性に欠けると考えられやすい年功型の賃金について、理論的な分析を行い、経済合理性を検証します。国際比較も行います。

第23回 賃金決定 賃金実務の基礎

賃金の基礎として、賃金表の基本的な構造を理解したうえで、ベースアップと定期昇給など、賃金実務の基礎的な事項について学びます。

第24回 非金銭的報酬

非金銭的報酬について考えます。非金銭的な要因を金銭相当額に換算することで進展した近年の研究の状況を概観します。また、非金銭的報酬を考える拠り所として補償賃金格差の仮説を取り上げ、議論を深めます。

第25回 人事評価

人事評価の目的、人事評価で得られる情報について確認し、誰が誰をどのように評価すべきかについて、評価の頻度、項目、手法などの論点ごとに、近年の研究知見を踏まえて議論します。

第26回 昇進

昇進に関わる事項を取り上げます。まずトーナメントモデルによる分析を学びます。また昇進の機能を最大に発揮させる賃金体系の設計について検討します。これらにより昇進の機能を考えます。

第27回 人的資本理論と教育

人的資本理論の基本的な考え方を紹介し、教育の経済学の基本を学びます。また、職場における教育訓練について経済学的な分析を行います。これらを踏まえ、仕事の技能と若者の雇用についての政策的含意を議論します。

第28回 退職管理と転職

退職管理について考えます。生産性の低い労働者の退職管理について分析し、退職誘導と逆選択など、退職管理の合理性について考えます。また、転職についても、データと近年の研究成果を紹介し議論します。

第29回 期末テスト

これまでの学習を振り返り、学びの達成度を確認するため期末テストを実施します。

第30回 まとめ

期末テストの解説を行うとともに、これまでの講義の内容を総括し、人事経済学の意義と役割、今後の課題について検討します。

2022年度 後期

4単位

生活経済論 [生活]

石田 裕貴

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部でのDPに示す「1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」、及び「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになることである

・人には大なり小なり、それぞれの一生の中で叶えたい希望や目標がある（できる）と思う。それらの希望や目標を実現するためには、毎月（年）の収支のバランスを管理しながら、必要な資金を計画的に準備していかなければならない。また、予期せぬ病気や事故、災害に遭遇し、当初の予定や計画の見直しに迫られるかもしれない。場合によっては、行政や公的機関からの支援や援助を受けることになるかもしれない。このように、自らのライフスタイルや価値観に合わせて将来の生活設計を行い、かつ社会人としての日常生活を送るためには、法律や制度、経済、金融などの実践的知識が必要になる。生活経済論を学ぶ目的は、これらの知識を獲得して自分のケースに活用できるようにすることである。この授業では、まず、特に重要であると思われるテーマに絞り、基本的な知識を整理する。そのうえで、具体的な状況や場面を想定した計算問題や資料問題などに取り組み、理解を深めていく

< 到達目標 >

・自立した生活者に求められる実践的な知識を身に付け、そのポイントを説明することができる（知識）

・問題演習を通じて獲得した知識を、現実の具体的な状況や場面に活かすことができる（態度、技能）

< 授業の進め方 >

対面授業時は次の通り

・毎回、空欄のあるプリントを配布し、黒板書きで授業を進める

・毎回の授業にはそれまでの配布プリントをすべて持参すること

・授業内で、小レポートを提出してもらうことがある

・毎回、電卓を持参するのが望ましい

・理由を問わず、プリントの再配布を行わない

遠隔授業時はOneDriveにオンデマンド教材を用意するので、速やかに受講する

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前学習として、前回までの授業内容を復習し、次回の授業内容の下調べを行う（1時間）

・事後学習として、授業内容や配布プリントを参考にし、授業のポイントの自分なりの考察を深める（1時間）

< 提出課題など >

授業内での小レポートは、次の授業以降にその解答解説、講評を行う（OneDriveにオンデマンド教材を準備する）

< 成績評価方法・基準 >

授業内で提出してもらう小レポート（20%）、定期試験（80%）

< テキスト >

なし（プリントを配布する）

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の概要を説明する

第2回 金利

複利の計算、経済と金利の関係を学習する

第3・4回 クレジットとローン

クレジット、ローン、返済方法などについて学習し、その演習に取り組む

第5・6回 資産運用

リスクとリターン、外貨預金、預金保険制度について学習し、その演習に取り組む

第7・8回 資産運用

投資信託について学習し、その演習に取り組む

第9・10回 労働保険

労災保険、雇用保険について学習し、その演習に取り組む

第11・12回 所得税

所得税の概要を学習し、その演習に取り組む

第13・14回 医療保険

医療保険の概要、高額療養費制度について学習し、その演習に取り組む

第15・16回 年金

公的年金の概要を学習し、その演習に取り組む
第17・18回 年金
企業年金、自営業者の年金について学習し、その演習に
取り組む
第19・20回 保険
保険契約の手続き、生命保険、個人年金保険について学
習し、その演習に取り組む
第21・22回 保険
損害保険、第三分野の保険、保険証券の見方について学
習し、その演習に取り組む
第23・24回 資産運用
老後のための資産運用について学習し、その演習に取
り組む
第25・26回 贈与
贈与、贈与税の概要を学習し、その演習に取り組む
第27・28回 相続
相続、相続税の概要を学習し、その演習に取り組む
第29・30回 まとめ
授業全体のまとめの演習に取り組む

2022年度 前期～後期

4単位

政治学

金川 幸司

< 授業の方法 >

「講義」

教科書とパワーポイント、動画を交えた対面講義となり
ます。

< 授業の目的 >

[前期] 前期の講義では、現代の我々の生活を取り巻く
複雑な政治現象とその仕組み、及び現代の民主政治が直
面している様々な課題といったものを的確に理解し、ま
た判断していくうえで必要となる基本的な知識の修得を
目的とします。この目的に従い、この講義では主に、議
会や選挙制度など現代の民主政治の基本的な政治機構や
制度の仕組みと問題点、政党や利益集団といった政治の
主要なアクターに関する問題点、地方分権改革、福祉国
家論などを主題として扱います。全体として、政治制度
や政治過程に関するものを中心とした講義になります。
講義を通じて、現実の政治問題について理解し判断す
るために必要となる基本的な知識を身に付けていただき
ます。また、こうした知識は、後期で扱うところの、政
治の社会的文化的条件に関わる問題や、政治が直面する
価値的・規範的な問題などを学んでいくための基盤、或
いは他の政治学関連分野の知識を習得していくうえでの
前提となります。[後期] 前期の講義では基本的な政治
制度と政治過程の問題を扱いましたが、こうした制度や
過程は、様々な社会的文化的条件や国際社会の動向の影
響下にあります。そこで後期の講義の序盤では、これら

が政治に対してどのように作用しているのかについて理
解することを目的として、政治体制や政治文化、グロー
バル化といった事項を取り上げます。また、現実の政治
課題は、自由や公正といった様々な価値的・規範的な問
題を含んでいます。そこで講義の中盤以降では、これま
でに学んだ政治の制度や過程に関する基本的な知識を前
提に、政治という人間の営みを如何にして把握し、それ
に対してどのように関わっていけばよいのかという基本
的な問題意識に立って、政治や政策の課題について考え
、対処していくのに役立つ規範的・理念的な理論や概念
を修得することを目的とします。この目的に従い、講義
では、政治の規範的・理念的要素について考察する講学上
「政治理論 (political theory)」と呼ばれる分野から、
自由主義、公共性、デモクラシー、市民社会といった理
論や概念を主題として取り上げます。前期・後期の講義
を通じて、現代の政治問題について理解し判断するた
めの政治学的な視点と知識を身に付けていただきます。
これらは、他の政治学関連分野の知識を習得していく
うえでの基盤となります。兵庫県庁での実務経験のある
教員ですので、特に地方分権、政治過程、公私関係など
に関して、現場での経験を元にした講義を行います。
この科目は、学部のDPに示す4.自分の意見を口頭や文書
によって表現し、相手の意見を理解することで、良好な
コミュニケーションをとることができるようになること
を目指しています。

< 到達目標 >

講義で扱った知識を整理し、確かなものとして定着さ
せ、頭の中に政治現象を把握するための見取り図を持て
るようにする。日々、生起し報道される政治現象に対
し、先の知識や見取り図を用いて、その現象ないし問題
がどのような意義や関連性を有するものであるのか、体
系的にはどの項目と関連し何処に位置付けられるもので
あるのかについて、理解し把握できる能力を身につける。

日々、政治に関する大量の情報に晒される中で、一面
的表層的で偏った主張や報道に流されることなく、多様
かつ体系的な視座を確保し、バランスのとれた総合的な
理解や判断を心がけるような思考態度や習慣を身につ
ける。規範的な問題や政治哲学についての議論の状況や
考え方を学び、自分でも論理的に思考し、議論を展開
できるようになる。

< 授業のキーワード >

政治、権力と正統性、対立と協調、国民代表、利益集団、
政治体制、自由主義、公共性、デモクラシー、市民社会、
地方自治、コミュニティ、NPO

< 授業の進め方 >

対面授業により、教科書をベースにパワーポイントによ
って説明します。講義までにアップロードしますので、
打ち出すか、パソコン、携帯端末（スマホは不可）など
にダウンロードして講義の日に持参してください。その
内容について、ランダムに指名して質問をすることがあ

ります。また、毎回、簡単な講義の感想を書いてもらうので、そこに、分かりにくかった箇所、説明の補足が欲しい箇所、疑問点などについて、質問やコメントを記載して提出すれば、可能な範囲内で対応します。なお、受講人数によって進め方に変更が発生する場合があります。<履修するにあたって>

第1回目の授業でガイダンスを行います。政治学入門の講義ではありませんので、初歩的な知識については各自で整理しておいてください。そのための自習に役立つような文献などについては、ガイダンスや講義の中で触れます。

<授業時間外に必要な学修>

事前学習として、講義の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。(目安として50分)、事後学習として、講義の対象であった教科書と内容を再確認すること。(目安として50分)、遠隔講義の場合は、以上に加えて、毎回講義の感想を作成してアップロードすること。

<提出課題など>

遠隔講義の場合は、毎回、簡単な講義の感想を提出してもらいます。対面講義の場合は、毎回講義の最後に講義の感想を書いてもらいます。その他、中間レポートを4(前期2回、後期2回)課します。提出課題については、講義の中で説明します。

<成績評価方法・基準>

前期2回、後期2回のレポート(基本的に記述式)7割。毎回の感想文3割。ただし、レポートを1回でも未提出の場合は、不可となります。

<テキスト>

加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦(著)『現代政治学(第4版)』(有斐閣)、2012年、2090円

<参考図書>

政治・経済教育研究会(編)『政治・経済用語集(第2版)』(山川出版社)、久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝(著)『政治学(補訂版)』(有斐閣)、川崎修・杉田敦(編)『現代政治理論(新版)』(有斐閣)、佐々木毅(著)『政治学講義(第2版)』(東京大学出版会) 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史(著)『比較政治制度論』(有斐閣アルマ)、新川敏光・井戸正伸・宮本太郎・員柄秀子(著)、『比較政治経済学』(有斐閣アルマ)、松田憲忠・岡田浩(編著)『よくわかる政治過程論』(ミネルウァ書房)、砂原庸介・稗田健志・多湖淳(著)『政治学の第一歩』(有斐閣スタッディア)、金川幸司(編著)『公共ガバナンス論- サードセクター・住民自治・コミュニティ-』(晃洋書房)、金川 幸司・後 房雄・森 裕亮・洪 性旭(編著)『協働と参加 コミュニティづくりのしくみと実践』(晃洋書房)

<授業計画>

第1回 はじめに~イントロダクション

講義の進め方、政治学とは何か、その他の告知

第2回 政治の世界

政治とは何か、政治と権力

第3回 政治の世界

国家と権力、正統性

第4回 政治の機構と制度

議会制、議院内閣制と大統領制

第5回 議会と選挙制度

選挙制度(小選挙区制度、比例代表制度)

第6回 行政

公共政策の執行主体

第7回 裁判所・その他

政治制度としての司法制度、中央銀行

第8回 地方自治

分権と地方自治、分権改革、補完性の原理、連邦制、都市内の分権

第9回 政治、経済、福祉

政治と経済、戦後福祉国家とケインズ主義

第10回 政治、経済、福祉

福祉国家の分類、福祉国家の危機と再編

第11回 政党~国民代表の政治過程

政党制とは何か、政党政治と政党制

第12回 利益代表の政治過程

利益集団、多元主義とネオコーポラティズム

第13回 政治過程の変容

マスメディアの役割、新しい社会運動の動き

第14回 政策過程

政治と公共政策、政策過程のモデル、政策決定論

第15回 全体のまとめ

これまでの講義のまとめと補足、定期試験について

第16回 はじめに~イントロダクション

講義の進め方、政治の社会的文化的条件、もう一つの政治学

第17回 政治意識と政治文化

政治意識と政治行動、政治文化、イデオロギー

第18回 政治とグローバル化

国際政治経済、国際連合、超国家機関

第19回 政治体制と政治変動

政治体制と政治システム、政治変動の諸形態、非自由民主主義体制(全体主義や権威主義)

第20回 政治体制と政治変動

自由民主主義体制とその分類

第21回 自由主義とその課題

冷戦構造の終結と21世紀の国際社会、積極的自由と消極的自由、福祉国家

第22回 自由主義とその課題

公共性 功利主義批判と正義論

第23回 公共性

「公」と「私」、共和主義、コミュニタリアニズム、市民的公共

第24回 現代民主政とその課題

古代の民主政と近代の民主政、ルソーと人民主権、自由民主主義体制の成立

第25回 現代民主政とその課題

大衆民主政批判、多元的民主主義論の展開とそれに対する批判、利益集団民主主義、参加民主主義論

第26回 市民社会と新しいデモクラシー

市民社会とは、社会関係資本、市民社会と公共性

第27回 市民社会と新しいデモクラシー

熟議民主主義、参加のはしご

第28回 政治学の潮流：ディシプリンとしての政治学の展開

伝統的政治学、科学としての政治学、行動論

第29回 政治学の潮流：ディシプリンとしての政治学の展開

新制度論、政治哲学の復権

第30回 全体のまとめ

これまでの講義のまとめと補足、定期試験について

2022年度 前期

2単位

政治学

金川 幸司

< 授業の方法 >

「講義」

教科書とパワーポイント、動画を交えて対面にて行います。

< 授業の目的 >

講義では、現代の我々の生活を取り巻く複雑な政治現象とその仕組み、及び現代の民主政治が直面している様々な課題といったものを的確に理解し、また判断していくうえで必要となる基本的な知識の修得を目的とします。この目的に従い、この講義では主に、議会や選挙制度など現代の民主政治の基本的な政治機構や制度の仕組みと問題点、政党や利益集団といった政治の主要なアクターに関する問題点、地方分権改革、福祉国家論などを主題として扱います。全体として、政治制度や政治過程に関するものを中心とした講義になります。講義を通じて、現実の政治問題について理解し判断するために必要となる基本的な知識を身に付けていってください。また、こうした知識は、後期で扱うところの、政治の社会的文化的条件に関わる問題や、政治が直面する価値的・規範的な問題などを学んでいくための基盤、或いは他の政治学関連分野の知識を習得していくうえでの前提となります。兵庫県庁での実務経験のある教員ですので、特に地方分権、政治過程、公私関係などに関して、現場での経験を元にした講義を行います。

この科目は、学部のDPに示す4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好な

コミュニケーションをとることができるようになることを目指しています。

< 到達目標 >

講義で扱った知識を整理し、確かなものとして定着させ、頭の中に政治現象を把握するための見取り図を持つようにする。日々、生起し報道される政治現象に対し、先の知識や見取り図を用いて、その現象ないし問題がどのような意義や関連性を有するものであるのか、体系的にはどの項目と関連し何処に位置付けられるものであるのかについて、理解し把握できる能力を身につける。

日々、政治に関する大量の情報に晒される中で、一面的表層的で偏った主張や報道に流されることなく、多様な体系的な視座を確保し、バランスのとれた総合的な理解や判断を心がけるような思考態度や習慣を身につける。規範的な問題や政治哲学についての議論の状況や考え方を学び、自分でも論理的に思考し、議論を展開できるようにする。

< 授業のキーワード >

政治、権力と正統性、対立と協調、国民代表、利益集団、政治体制、自由主義、公共性、デモクラシー、市民社会、地方自治、コミュニティ、NPO

< 授業の進め方 >

対面授業により、教科書をベースにパワーポイントによって説明します。講義までにアップロードしますので、紙に打ち出すか、パソコン、携帯端末（スマホは不可）などにダウンロードして講義の日に持参してください。その内容について、ランダムに指名して質問をすることがあります。また、毎回、簡単な講義の感想を書いてもらうので、そこに、分かりにくかった箇所、説明の補足が欲しい箇所、疑問点などについて、質問やコメントを記載して提出すれば、可能な範囲内で対応します。なお、受講人数によって進め方に変更が発生する場合があります。

< 履修するにあたって >

第1回目の授業でガイダンスを行います。政治学入門の講義ではありませんので、初歩的な知識については各自で整理しておいてください。そのための自習に役立つような文献などについては、ガイダンスや講義の中で触れます。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。（目安として50分）

事後学習として、講義の対象であった教科書と内容を再確認すること。（目安として50分）、遠隔講義の場合は、以上に加えて、毎回講義の感想を作成してアップロードすること。

< 提出課題など >

遠隔講義を行う場合は、毎回、簡単な講義の感想を提出してもらいます。対面授業の場合は、毎回講義の最後に

講義の感想を書いてもらいます。その他、中間レポートを2回課します。

提出課題については、講義の中で解説します。

<成績評価方法・基準>

2回のレポート（基本的に記述式）7割。毎回の感想文3割。ただし、レポートを1回でも未提出の場合は、不可となります。

<テキスト>

加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦（著）『現代政治学（第4版）』（有斐閣）、2012年、2090円

<参考図書>

政治・経済教育研究会（編）『政治・経済用語集（第2版）』（山川出版社）、久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝（著）『政治学（補訂版）』（有斐閣）、川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論（新版）』（有斐閣）、佐々木毅（著）『政治学講義（第2版）』（東京大学出版会） 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史（著）『比較政治制度論』（有斐閣アルマ）、新川敏光・井戸正伸・宮本太郎・員柄秀子（著）、『比較政治経済学』（有斐閣アルマ）、松田憲忠・岡田浩（編著）『よくわかる政治過程論』（ミネルウァ書房）、砂原庸介・稗田健志・多湖淳（著）『政治学の第一歩』（有斐閣ストゥディア）、金川幸司（編著）『公共ガバナンス論－サードセクター・住民自治・コミュニティ』（晃洋書房）、金川幸司・後房雄・森裕亮・洪性旭（編著）『協働と参加 コミュニティづくりのしくみと実践』（晃洋書房）

<授業計画>

- 第1回 はじめに~イントロダクション
講義の進め方、政治学とは何か、その他の告知
- 第2回 政治の世界
政治とは何か、政治と権力
- 第3回 政治の世界
国家と権力、正統性
- 第4回 政治の機構と制度
議会制、議院内閣制と大統領制
- 第5回 議会と選挙制度
選挙制度（小選挙区制度、比例代表制度）
- 第6回 行政
公共政策の執行主体
- 第7回 裁判所・その他
政治制度としての司法制度、中央銀行
- 第8回 地方自治
分権と地方自治、分権改革、補完性の原理、連邦制、都市内の分権
- 第9回 政治、経済、福祉
政治と経済、戦後福祉国家とケインズ主義
- 第10回 政治、経済、福祉
福祉国家の分類、福祉国家の危機と再編
- 第11回 政党~国民代表の政治過程

政党制とは何か、政党政治と政党制

第12回 利益代表の政治過程

利益集団、多元主義とネオコーポラティズム

第13回 政治過程の変容

マスメディアの役割、新しい社会運動の動き

第14回 政策過程

政治と公共政策、政策過程のモデル、政策決定論

第15回 全体のまとめ

これまでの講義のまとめと補足、定期試験について

2022年度 後期

2単位

政治学

金川 幸司

<授業の方法>

「講義」

教科書とパワーポイント、動画を交えて対面にて行います。

<授業の目的>

講義では基本的な政治制度と政治過程の問題を扱いましたが、こうした制度や過程は、様々な社会的文化的条件や国際社会の動向の影響下にあります。そこで後期の講義の序盤では、これらが政治に対してどのように作用しているのかについて理解することを目的として、政治体制や政治文化、グローバル化といった事項を取り上げます。また、現実の政治課題は、自由や公正といった様々な価値的・規範的な問題を含んでいます。そこで講義の中盤以降では、これまでに学んだ政治の制度や過程に関する基本的な知識を前提に、政治という人間の営みを如何にして把握し、それに対してどのように関わっていけばよいのかという基本的な問題意識に立って、政治や政策の課題について考え、対処していくのに役立つ規範的・理念的な理論や概念を修得することを目的とします。この目的に従い、講義では、政治の規範的・理念的要素について考察する講学上「政治理論（political theory）」と呼ばれる分野から、自由主義、公共性、デモクラシー、市民社会といった理論や概念を主題として取り上げます。前期・後期の講義を通じて、現代の政治問題について理解し判断するための政治学的な視点と知識を身に付けていてください。これらは、他の政治学関連分野の知識を習得していくうえでの基盤となります。兵庫県庁での実務経験のある教員ですので、特に地方分権、政治過程、公私関係などに関して、現場での経験を元にした講義を行います。

この科目は、学部のDPに示す4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができるようになることを目指しています。

<到達目標>

講義で扱った知識を整理し、確かなものとして定着させ、頭の中に政治現象を把握するための見取り図を持つようにする。日々、生起し報道される政治現象に対し、先の知識や見取り図を用いて、その現象ないし問題がどのような意義や関連性を有するものであるのか、体系的にはどの項目と関連し何処に位置付けられるものであるのかについて、理解し把握できる能力を身につける。

日々、政治に関する大量の情報に晒される中で、一面的表層的で偏った主張や報道に流されることなく、多様かつ体系的な視座を確保し、バランスのとれた総合的な理解や判断を心がけるような思考態度や習慣を身につける。規範的な問題や政治哲学についての議論の状況や考え方を学び、自分でも論理的に思考し、議論を展開できるようにする。

< 授業のキーワード >

政治、権力と正統性、対立と協調、国民代表、利益集団、政治体制、自由主義、公共性、デモクラシー、市民社会、地方自治、コミュニティ、NPO

< 授業の進め方 >

対面授業により、教科書をベースにパワーポイントによって説明します。講義までにアップロードしますので、打ち出すか、パソコン、携帯端末（スマホは不可）などにダウンロードして講義の日に持参してください。その内容について、ランダムに指名して質問をすることがあります。また、毎回、簡単な講義の感想を書いてもらうので、そこに、分かりにくかった箇所、説明の補足が欲しい箇所、疑問点などについて、質問やコメントを記載して提出すれば、可能な範囲内で対応します。なお、受講人数によって進め方に変更が発生する場合があります。

< 履修するにあたって >

第1回目の授業でガイダンスを行います。政治学入門の講義ではありませんので、初歩的な知識については各自で整理しておいてください。そのための自習に役立つような文献などについては、ガイダンスや講義の中で触れます。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、講義の対象となる教科書の箇所を読み込んでおくこと。（目安として50分）

事後学習として、講義の対象であった教科書と内容を再確認すること。（目安として50分）、遠隔講義の場合は、以上に加えて、毎回講義の感想を作成してアップロードすること。

< 提出課題など >

遠隔講義の場合は、毎回、簡単な講義の感想を提出してもらいます。対面授業の場合は、毎回講義の最後に講義の感想を書いてもらいます。その他、レポートを2回課します。提出課題については、次回の講義で解説します。

< 成績評価方法・基準 >

2回のレポート（基本的に記述式）7割。毎回の感想文3割。ただし、レポートを1回でも未提出の場合は、不可

となります。

< テキスト >

加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦（著）『現代政治学（第4版）』（有斐閣）、2012年、2090円

< 参考図書 >

政治・経済教育研究会（編）『政治・経済用語集（第2版）』（山川出版社）、久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝（著）『政治学（補訂版）』（有斐閣）、川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論（新版）』（有斐閣）、佐々木毅（著）『政治学講義（第2版）』（東京大学出版会） 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史（著）『比較政治制度論』（有斐閣アルマ）、新川敏光・井戸正伸・宮本太郎・員柄秀子（著）、『比較政治経済学』（有斐閣アルマ）、松田憲忠・岡田浩（編著）『よくわかる政治過程論』（ミネルウァ書房）、砂原庸介・稗田健志・多湖淳（著）『政治学の第一歩』（有斐閣 ストゥディア）、金川幸司（編著）『公共ガバナンス論 - サードセクター・住民自治・コミュニティ -』（晃洋書房）、金川 幸司・後 房雄・森 裕亮・洪 性旭（編著）『協働と参加 コミュニティづくりのしくみと実践』（晃洋書房）

< 授業計画 >

第1回 はじめに~イントロダクション
講義の進め方、政治の社会的文化的条件、もう一つの政治学

第2回 政治意識と政治文化
政治意識と政治行動、政治文化、イデオロギー

第3回 政治とグローバル化
国際政治経済、国際連合、超国家機関

第4回 政治体制と政治変動
政治体制と政治システム、政治変動の諸形態、非自由民主主義体制（全体主義や権威主義）

第5回 政治体制と政治変動
自由民主主義体制とその分類

第6回 自由主義とその課題
冷戦構造の終結と21世紀の国際社会、積極的自由と消極的自由、福祉国家

第7回 自由主義とその課題
公共性 功利主義批判と正義論

第8回 公共性
「公」と「私」、共和主義、コミュニタリアニズム、市民的公共

第9回 現代民主政とその課題
古代の民主政と近代の民主政、ルソーと人民主権、自由民主主義体制の成立

第10回 現代民主政とその課題
大衆民主政批判、多元的民主主義論の展開とそれに対する批判、利益集団民主主義、参加民主主義論

第11回 市民社会と新しいデモクラシー
市民社会とは、社会関係資本、市民社会と公共性

第12回 市民社会と新しいデモクラシー
熟議民主主義、参加のはしご
第13回 政治学の潮流?ディシプリンとしての政治学の
展開
伝統的政治学、科学としての政治学、行動論
第14回 政治学の潮流?ディシプリンとしての政治学の
展開
新制度論、政治哲学の復権
第15回 全体のまとめ
これまでの講義のまとめと補足、定期試験について

2022年度 前期

2単位

税務会計論 (ファイナンシャルプランナー入門)

石田 裕貴

< 授業の方法 >

遠隔授業 (オンデマンド授業)

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部のDPに示す「1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」、及び「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになることである

・ファイナンシャルプランナー (FP) とは、お金の専門アドバイザー (国家資格) として、顧客のファイナンシャルプランニング (将来の人生設計のための資金計画) を手助けする専門家のことである。この授業では、FPとはどのような資格であるのか、将来どのようにFPの知識を活かすことができるのか、FP資格を取得するためにはどのような学習が必要なのかなどについて、概説する

< 到達目標 >

・FPがどのような職種や資格であるのかを説明することができる (知識)
・FP資格を取得するための心構えや準備ができる (態度、技能)

< 授業の進め方 >

・毎回、空欄のあるプリントを配布し、黒板書きで授業を進める

・毎回、出席を取り、小レポートを提出してもらう
・毎回の授業にはそれまでの配布プリントをすべて持参すること

・毎回、電卓を持参するのが望ましい
・理由を問わず、プリントの再配布を行わない

< 授業時間外に必要な学修 >

・事前学習として、前回までの授業内容を復習し、次回の授業内容の下調べを行う (1時間)
・事後学習として、授業内容や配布プリントを参考にし、授業のポイントの自分なりの考察を深める (1時間)

< 提出課題など >

小レポートは、次の授業以降にその解答解説、講評を行う

< 成績評価方法・基準 >

出欠と授業ごとの小レポート (100%)

< テキスト >

なし (プリントを配布する)

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の概要を説明する

第2回 FPとは

FPとはどのような職種や資格であるのか、FPが今求められている背景とは何かなどについて、説明する

第3回 FPと身近な暮らし

FPが身近な暮らしの中でどのように活かされるのか、説明する

第4回 FPと就職

FPが将来の就職活動や就業でどのように活かされるのかを知るために、「銀行」の業務内容などについて説明する

第5回 FPと就職

FPが将来の就職活動や就業でどのように活かされるのかを知るために、「証券会社」の業務内容などについて説明する

第6回 FPと就職

FPが将来の就職活動や就業でどのように活かされるのかを知るために、「保険会社」の業務内容などについて説明する

第7回 FPと就職

FPが将来の就職活動や就業でどのように活かされるのかを知るために、「その他企業」の業務内容などについて説明する

第8回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「ライフプランニングと資金計画」の概要を説明する

第9回 FP資格の取得と学習分野 (続き)

引き続き、FP資格取得のための学習分野「ライフプランニングと資金計画」の概要を説明する

第10回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「リスク管理」の概要を説明する

第11回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「金融資産運用」の概要を説明する

第12回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「タックスプランニング」の概要を説明する

第13回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「不動産」の概要を説明

する

第14回 FP資格の取得と学習分野

FP資格取得のための学習分野「 相続・事業承継」の概要を説明する

第15回 まとめ

講義全体を総括する

2022年度 後期

4単位

西洋経済史 [生活]

岡部 芳彦

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この講義は外国経済の特徴を歴史的に学び、経済史的な知識を得ることができます。新聞やテレビなどを見て情報を得る場合の基礎となる知識を習得し、今後働く際に必要となる世界経済の歴史的背景の把握を目標にしています。各回講義の主題に関連する経済小説、ドラマなどの紹介、一部視聴できます。

1時限目では本年、世界で起こるであろう時事問題の歴史的背景の説明も行いますので、現代的な問題関心を持っている学生諸氏にも有益な講義となるでしょう。関係する経済の基礎知識に関しても適宜学ぶことができます。2時限目では著名な歴史的な人物や大事件ではなく、人々の生活や文化といった社会史・文化史の視点から講義を行います。

なお、この科目は、学部のDPに示す「1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」ことを目指しています。

< 到達目標 >

グローバル化が進展する現在、大学卒業後、働く際や日常生活を送る上で関係する海外事情の歴史的背景を理解するための知識が習得できる。

< 授業のキーワード >

歴史、海外事情、西洋経済史、グローバル化

< 授業の進め方 >

この講義は歴史の講義ですが、古い時代から新しい時代へと進むのではなく、歴史学で話題のトピックを各回完結で紹介してゆきます。西洋経済史 では、歴史的な事件や政策などの大きな出来事を取り上げます。講義順・内容は変更される可能性があります。また講義の中で皆さんの理解度に応じて進度を決めるので、講義内容に若干の増減があります。授業中に分らなかったことはご遠慮なくご質問いただければと思います。また各回のレジュメに記載されているメールアドレスまでご質問いただいても結構です。

< 履修するにあたって >

授業中の私語・携帯ほか授業妨害とみなされる行為は減

点の対象となるのでご注意ください。

< 授業時間外に必要な学修 >

レポート作成に向けた準備として各回の授業終了後に90分程度復習する。

< 提出課題など >

レポート2回（複数のレポート提出可）。成績評価の対象とする。学生の希望の応じてフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

試験50%、レポート50%。講義は基本的に日本語で行われますが、レポートは日本語・英語のどちらでも回答・作成可とします。

< 授業計画 >

第1回

第2回 1．経済史って何？

2．社会史とは何か

1．今まで学んだ歴史と経済史は何が違うのか

2．社会史の視点

第3回

第4回 3．フランス革命を考える。

4．伝説と実在

3．フランス革命の経済史的背景とフランス革命観の変遷

4．「ハーメルンの笛吹男」を例に、伝説が実際に起こった歴史的事例に基づいていることについて学ぶ。

第5回

第6回 5．産業革命と消費社会－18世紀イギリス

6．読書の文化史

5．産業革命に関する議論の整理と消費社会誕生との関係

6．一つの「行為」から見る歴史について学ぶ。

第7回

第8回 7．ロシア経済の現在とその歴史的背景

8．ファッション・ブランドの経済史

7．ロシア経済の現在とその歴史的背景。

8．ブランドの意義やルイ・ヴィトンなどファッションブランド産業の歴史的展開について学ぶ。

第9回

第10回 9．グローバル・ヒストリーの世界

10「子供」の誕生

9．国家、多様性、移民について学ぶ。

10．社会史とは何か？ 「子供」という概念の時代による変化について学ぶ。

第11回

第12回 11．大富豪から見る世界史

12．茶、時計、お洒落の経済史

11．雑誌『フォーブス』に紹介される世界の富豪から世界史を学ぶ。

12. それぞれの商品から見る経済史について学ぶ。

第13回

第14回 レポートの書き方・作法
課題として提出するレポートを書く際の注意点など。レポートの作法について学ぶ。

第15回

第16回 15. 工業化と後発国の工業化
16. 歴史記述の始まりと「記録を残さなかった男」の歴史

15. ガーシェンクローン・モデルについて講義する。
16. 「記録を残さなかった男」を事例に、アナル学派の研究手法を講義する。

第17回

第18回 17. バブルの経済史
18. 世界史における時間・紀年法の歴史
17. 歴史上発生したバブル経済について学ぶ。
18. 時代や宗教によって違う紀年法の歴史を学ぶ。

第19回

第20回 19. 戦後アジアの経済発展
20. シリーズ中世ヨーロッパ1：名もなき人の日常
19. 「開発独裁」を中心に戦後アジアの経済発展の過程を学ぶ。
20. 2回にわたり、中世ヨーロッパの日常生活や価値観について学ぶ。

第21回

第22回 21. アメリカ的生産システムとトヨタ
22. シリーズ中世ヨーロッパ2：中世人の聖と俗、そして権力
21. テーラー主義やアメリカ的生産システムと、戦後のトヨタ式生産方式について学ぶ。
22. シリーズ中世ヨーロッパ2：中世人の聖と俗、そして権力

第23回

第24回 23. ウクライナ情勢の歴史的背景と現状
24. 神秘の国イギリス
23. ウクライナの歴史や現状について学ぶ。
24. 魔法や魔術、魔女がイギリスにおいていつの時代からなくなったのかを見ることによって近代との分水嶺を考察する。

第25回

第26回 25. 18世紀英露関係から見る経済史
26. 女と男の経済史

25. 18世紀イギリスとロシアの2国間関係や企業家マシュー・ボウルトンのロシア事業から、現在の情勢を読み解く。
26. 歴史人口学や家屋の空間の変遷、男女関係にみる

歴史について学ぶ

第27回

第28回 27. 経済史から見たアベノミクス
28. 偽書・偽史の世界
27. グローバル経済の観点から、アベノミクスについて、1930年代の高橋財政と比較して考察する。
28. 偽書や偽史を考察し、現代社会におけるメディアリテラシーを養う。

第29回

第30回 振り返り
今学期の学習内容の振り返り。

2022年度 後期
2単位
西洋経済史
岡部 芳彦

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この講義は外国経済の特徴を歴史的に学び、経済史的な知識を得ることができます。新聞やテレビなどを見て情報を得る場合の基礎となる知識を習得し、今後働く際に必要となる世界経済の歴史的背景の把握を目標にしています。各回講義の主題に関連する経済小説、ドラマなどの紹介、一部視聴できます。

また、本年、世界で起こるであろう時事問題の歴史的背景の説明も行いますので、現代的な問題関心を持っている学生諸氏にも有益な講義となるでしょう。関係する経済の基礎知識に関しても適宜学ぶことができます。

なお、この科目は、学部のD Pに示す「1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」ことを目指しています。

< 到達目標 >

グローバル化が進展する現在、大学卒業後、働く際や日常生活を送る上で関係する海外事情の歴史的背景を理解するための知識の習得できる。

< 授業のキーワード >

歴史、海外事情、西洋経済史、グローバル化

< 授業の進め方 >

この講義は歴史の講義ですが、古い時代から新しい時代へと進むのではなく、歴史学で話題のトピックを各回完結で紹介してゆきます。西洋経済史 では、歴史的な事件や政策などの大きな出来事を取り上げます。講義順・内容は変更される可能性があります。また講義の中で皆さんの理解度に応じて進度を決めるので、講義内容に若干の増減があります。授業中に分らなかったことはご遠慮なくご質問いただければと思います。また各回のレジюмеに記載されているメールアドレスまでご質問いただいても結構です。

<履修するにあたって>

授業中の私語・携帯ほか授業妨害とみなされる行為は減点の対象となるのでご注意ください。

<授業時間外に必要な学修>

レポート作成に向けた準備として各回の授業終了後に90分程度復習する。

<提出課題など>

レポート2回(複数レポート提出可)。成績評価の対象とする。

<成績評価方法・基準>

試験50%、レポート50%。講義は日本語で行われますが、レポートは日本語・英語のどちらでも回答・作成可とします。

<授業計画>

第1回 経済史って何?

今まで学んだ歴史と経済史は何が違うのか

第2回 フランス革命を考える。

フランス革命の経済史的背景とフランス革命観の変遷。

第3回 産業革命と消費社会ー18世紀イギリス

産業革命に関する議論の整理と消費社会誕生との関係。

第4回 ロシア経済の現在とその歴史的背景

ロシア経済の現在とその歴史的背景。

第5回 グローバル・ヒストリーの世界

国家、多様性、移民について学ぶ。

第6回 大富豪から見る世界史

雑誌『フォーブス』に紹介される世界の富豪から世界史を学ぶ。

第7回 レポートの書き方・作法

課題として提出するレポートを書く際の注意点など。レポートの作法について学ぶ。

第8回 工業化と後発国の工業化

ガーシェンクローン・モデルについて講義する。

第9回 バブルの経済史

歴史上発生したバブル経済について学ぶ。

第10回 戦後アジアの経済発展

「開発独裁」を中心に戦後アジアの経済発展の過程を学ぶ。

第11回 アメリカ的生産システムとトヨタ

テーラー主義やアメリカ的生産システムと、戦後のトヨタ式生産方式について学ぶ。

第12回 ウクライナ情勢の歴史的背景と現状

ウクライナの歴史や現状について学ぶ。

第13回 18世紀英露関係から見る経済史

18世紀イギリスとロシアの2国間関係や企業家マシュー

・ポウルトンのロシア事業から、現在の情勢を読み解く。

第14回 経済史から見たアベノミクス

グローバル経済の観点から、アベノミクスについて、1930年代の高橋財政と比較して考察する。

第15回 振り返り

今学期の学習内容の振り返り。

2022年度 後期

2単位

西洋経済史

岡部 芳彦

<授業の方法>

授業

<授業の目的>

この講義は外国経済の特徴を歴史的に学び、経済史的な知識の理解を深めることを目的としています。新聞やテレビなどを見て情報を得る場合の基礎となる知識を習得し、今後働く際に必要となる世界経済の歴史的背景の把握を目標にしています。各回講義の主題に関連する経済小説、ドラマなどの紹介、一部視聴も適宜行います。

西洋経済史 では、著名な歴史的な人物や大事件ではなく、人々の生活や文化といった社会史・文化史の視点から講義を行います。

なお、この科目は、学部のDPに示す「1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」ことを目指しています。

<到達目標>

グローバル化が進展する現在、大学卒業後、働く際や日常生活を送る上で関係する海外事情の歴史的背景を理解するための知識が習得できる。

<授業のキーワード>

歴史、海外事情、西洋経済史、グローバル化

<授業の進め方>

この講義は歴史の講義ですが、古い時代から新しい時代へと進むのではなく、歴史学で話題のトピックを各回完結で紹介してゆきます。西洋経済史 では、歴史的な事件や政策などの大きな出来事を取り上げます。講義順・内容は変更される可能性があります。また講義の中で皆さんの理解度に応じて進度を決めるので、講義内容に若干の増減があります。授業中に分らなかったことはご遠慮なくご質問いただければと思います。また各回のレジュメに記載されているメールアドレスまでご質問いただいても結構です。

<履修するにあたって>

授業中の私語・携帯ほか授業妨害とみなされる行為は減点の対象となるのでご注意ください。

<授業時間外に必要な学修>

レポート作成に向けた準備として各回の授業終了後に90分程度復習する。

<提出課題など>

レポート1回(ただし複数提出可)。成績評価の対象と

する。学生の希望の応じてフィードバックする。

<成績評価方法・基準>

レポート50%、試験50%。

講義は日本語で行われますが、レポートは日本語・英語のどちらでも回答・作成可とします。

<授業計画>

第1回 社会史とは何か？

1. 歴史学の手法とその違いを学ぶ。

第2回 伝説と実在

「ハーメルンの笛吹男」を例に、伝説が実際に起こった歴史的事例に基づいていることについて学ぶ。

第3回 読書の文化史

一つの「行為」から見る歴史について学ぶ。

第4回 ファッション・ブランドの経済史

ブランドの意義やルイ・ヴィトンなどファッションブランド産業の歴史的展開について学ぶ。

第5回 「子供」の誕生

社会史とは何か？ 「子供」という概念の時代による変化について学ぶ。

第6回 茶、時計、お洒落の経済史

それぞれの商品から見る経済史について学ぶ。

第7回 歴史記述の始まりと「記録を残さなかった男」の歴史

「記録を残さなかった男」を事例に、アナール学派の研究手法を講義する。

第8回 世界史における時間・紀年法の歴史

時代や宗教によって違う紀年法の歴史を学ぶ。

第9回 シリーズ中世ヨーロッパ1：名もなき人々の日常

2回にわたり、中世ヨーロッパの日常生活や価値観について学ぶ。

第10回 シリーズ中世ヨーロッパ2：中世人の聖と俗、そして権力

2回にわたり、中世ヨーロッパの日常生活や価値観について学ぶ。

第11回 神秘の国イギリス

魔法や魔術、魔女がイギリスにおいていつの時代からな

くなったのかを見ることによって近代との分水嶺を考察する。

第12回 女と男の経済史

歴史人口学や家屋の空間の変遷、男女関係にみる歴史について学ぶ。

第13回 偽書・偽史の世界

偽書や偽史を考察し、現代社会におけるメディアリテラシーを養う。

第14回 イギリス東インド会社

イギリス東インド会社の歴史を学ぶ。

第15回 振り返り

今学期の学習内容の振り返り。

2022年度 後期

2単位

西洋の歴史

北村 厚

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、人文学部DP1、2および人文学科DP1,2で示される教養としての基礎知識及び人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

「西洋の歴史」では、いわゆるグローバル・ヒストリーを学びます。グローバル化が進む現代において、世界の歴史をただ各国別・時代別に学ぶのではなく、地球儀を俯瞰する視点から世界全体の動きを学ぶことが重要です。そこでは国家や英雄たちではなく、海や山や砂漠を超える人々の動きや、商品の交易、気候や疫病といった自然環境の影響、さらに文字や宗教といった人々の生活にかかわる文化の交流が主人公となります。すなわち異文化間ネットワークの歴史です。

世界中がつながるネットワークの一端には、当然ながら日本も加わっていました。グローバル・ネットワークにおける日本の役割の変遷を知ることによって、日本人の歴史を人類史的な視点で眺めなおすことができます。これによってグローバル時代に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養います。これは2022年度からはじまる「歴史総合」や「世界史探究」において必要なスキルとなります。

なお、この科目の担当者は、世界史を専門として高等学校での専任講師を3年間経験していた、実務経験のある教員です。従ってこの授業では、教職科目として必要な

知識として、高校世界史の教科知識を身につけることができます。

<到達目標>

1. 世界の諸地域の歴史を、異文化ネットワークの観点から結びつけて説明することができる。
2. 日本史をグローバルな歴史から考えることができる。
3. 世界史を題材として主体的に「問い」を立て、歴史的思考力を身につける。

<授業のキーワード>

グローバル・ヒストリー 海域アジア 異文化間ネットワーク 歴史総合 世界史探究 アクティブ・ラーニング

<授業の進め方>

教科書と配布資料をもとに、スライドで授業をします。ノートを必ず取るようにしてください。授業の最後に課題を出しますので、3日間の期限で時間外に復習として課題に取り組み、指定されたGoogleフォームに投稿してください。

<履修するにあたって>

私語や途中退室は厳禁です。授業を受ける最低限のマナーを守ってください。

<授業時間外に必要な学修>

授業の予習として、必ずテキストの次の範囲を読み込んでください(1時間)。さらに復習として、授業後に課題に取り組みてください(1時間)。

<提出課題など>

毎回授業の最後に課題を提示します。3日間の期限で用意されたGoogleフォームに投稿してください。次の回の冒頭でフィードバックを行います。

<成績評価方法・基準>

毎回の課題7点満点×15=105点で採点し、成績評価をします。

<テキスト>

北村厚『教養のグローバル・ヒストリー 大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年

<参考図書>

小川幸司『世界史との対話 70時間の歴史批評』(上・中・下)地歴社、2011年

前川修一・梨子田喬・皆川雅樹『歴史教育「再」入門 歴史総合・日本史探究・世界史探究への“挑戦”』清水書院、2019年

<授業計画>

第1回 グローバル・ヒストリーとは何か

最初に授業の概要を説明します。これまで日本史に限らず世界史においても各国史の集合体であることが少なくありませんでした。また避けがたい西洋中心史観も問題でした。これらを乗り越えようとするグローバル・ヒストリーの試みを紹介します。

第2回 世界史探究のための「問い」

歴史教育の現場では、2022年に実施予定の「歴史総合」

や「世界史探究」に向けた準備が進んでいます。これまでの歴史教育と異なり、史料の読み解きや生徒間のグループワークを想定した「主体的・対話的で深い学び」の実践が必要とされています。その成功は、いかにして生徒の興味を引き出し、能力を身につけさせる「問い」を創出するかにかかっています。以降、受講生には毎回「問い」を創出してもらいますが、そのための方法論や考え方をレクチャーします。

第3回 大モンゴルのユーラシア：13世紀～14世紀

13世紀、モンゴルのチンギス・ハンによってユーラシア大陸の東西が直接結びつけられます。彼とその後継者たちは大陸と海洋を有機的に結び付け、周辺諸国をもまきこむ「ユーラシア・ネットワークの円環」を作り出します。空前の大帝国の時代と14世紀におけるその崩壊を概略します。

第4回 大交易時代の到来：15世紀

明帝国は鄭和の大船団を南海に派遣し、海域アジアを再び結びつけました。明を中心とする「海禁＝朝貢体制」は早期に破綻し、むしろ琉球王国やマラッカ王国、ヴィジャヤナガル王国といった海域アジア諸国の活躍により、「大交易時代」を迎えます。

第5回 15世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第6回 世界の一体化：16世紀

16世紀はグローバル・ヒストリーの画期をなします。大西洋へと漕ぎ出したポルトガルとスペインの活躍によりヨーロッパのアジアとアメリカへの進出が始まり、オスマン帝国の発展によりムスリム商人のネットワークが強化され、新大陸と日本からの銀が世界を結びつめます。言葉の真の意味での「グローバル・ネットワーク」の成立です。

第7回 16世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第8回 大交易時代の終焉：17世紀

ヨーロッパの海洋帝国はポルトガルからオランダに交代し、天下統一成った日本の江戸幕府は海域アジアへと朱印船を派遣して、大交易時代はさらに繁栄しましたが。しかし日本の鎖国と明清交代は交易を縮小させ、大交易時代は終わりを迎えます。

第9回 17世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第10回 アジア/大西洋の分岐点：18世紀

江戸幕府・清・オスマン帝国といった長期的な大帝国の安定によってアジアは平和の時代を迎え、人口も激増します。一方ヨーロッパは大西洋を舞台に戦争を繰り返し、やがてイギリスが覇権を握るに至ります。大西洋のネットワークは「環大西洋革命」を引き起こし、ヨーロッパ

の成長がアジアを圧倒していく原動力になるのです。

第11回 18世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第12回 不平等なネットワークの構築：19世紀前半

ナポレオン戦争を経てグローバルな海洋帝国となったイギリスは、アメリカ・アジアへと進出し、諸国と不平等条約を結んでいきます。英領インドで生産されたアヘンは中国に流れ込み、アヘン戦争を引き起こします。中国を組み込んだ不平等なネットワークはタイや日本をも巻き込み、欧米列強が次々とアジアへと進出し、世界は激動の時代を迎えるのです。

第13回 19世紀後半の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第14回 ネットワークの緊密化と「帝国」：19世紀後半

19世紀はグローバル・ネットワークの完成の時代です。世界中に蒸気船航路や鉄道網が張り巡らされ、さらにアメリカ横断鉄道とスエズ運河によってネットワークの短縮化が完成しました。欧米列強だけでなく、アジア諸国もこのネットワークを利用し、欧米の支配に対抗していくこととなります。欧米の「帝国」とそれに抗するアジアのネットワークの関係を学びます。

第15回 19世紀後半の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

2022年度 前期

4単位

総合経済特講（総合）（再履修クラス）

岡部 芳彦、石本 眞八、井上 善博、岡本 弥、田口 順等、伴 ひかり、渡部 尚史

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

【講義の位置づけ】

本学経済学部の学生は、必要最低単位数以上を修得することに加え、卒業論文の審査あるいは、本講義の試験に合格することが、学位授与の要件である。

【主題】

本講義の目標は、経済学の基本的知識を備え、専攻コースにおける専門的知識を身につけていることを確認するものである。

【目標】

・DP（ディプロマ・ポリシー）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」ことを目標とする。

・経済学の基幹的な分野（ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済論など）に関する基礎的知識を十分に獲得していること。

・専攻コースにおける専門的知識を身につけていること。

< 到達目標 >

経済学士の学位に相応しい能力に達することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

7名の教員によるリレー講義

< 履修するにあたって >

試験の評価基準については、初回ならびに14週目の講義で説明する。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

科目ごとに、講義時間内小テストを実施し、講義内で解答を示す。

< 成績評価方法・基準 >

・テスト100%で評価する。

< 定期テストを受験するための出席条件 >

・出席日数が全講義の3分の2に満たない者は定期テストの受験を認めない。

確認テストで60点以上でも、必ず定期テストを受けなければ、評価の対象としない。

< テキスト >

テキストはとくに指定しない。

< 参考図書 >

科目ごとに適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回

(4/8) ガイダンス、ミクロ経済学（1）：需要曲線の導出

【第1～4回】担当：伴教授

・本講義のガイダンス（15分程度）

・消費者の支払許容額から需要曲線が得られることを示す。

第2回 ミクロ経済学（2）：供給曲線の導出

生産者の費用構造から供給曲線が得られることを示す。

第3回

(4/15) ミクロ経済学（3）：市場均衡と社会的総余剰
需要 = 供給となる市場均衡と消費者余剰と生産者余剰の和である社会的総余剰についてみる。

第4回 ミクロ経済学（4）：練習問題の実施と解説

練習問題の実施と解説

第5回

(4/22) マクロ経済学（1）

【第5～8回】担当：岡本准教授

GDPの基礎概念を学ぶ

第6回 マクロ経済学(2)

GDPの計算に習熟する

第7回

(4/29) マクロ経済学(3)

乗数効果の基礎概念を学ぶ

第8回 マクロ経済学(4)

乗数効果の計算に習熟する

第9回

(5/6) 日本経済論(1)

【第9～12回】担当：田口准教授

戦後日本経済の発展と変遷の概要を学ぶ。

第10回 日本経済論(2)

第9回学習の要点を確認し、理解度チェックと解説を行う。

第11回

(5/13) 日本経済論(3)

日本経済の現状と主な論点を学ぶ。

第12回 日本経済論(4)

第11回学習の要点を確認し、理解度チェックと解説を行う。

第13回

(5/20) 経済史総論(1)

【第13～16回】担当：岡部教授

フランス革命を考える。

第14回 経済史総論(2)

江戸の経済史総論

第15回

(5/27) 経済史総論(3)

ロシア経済史を学ぶ。

第16回 経済史総論(4)

戦時経済・戦後改革

第17回

(6/3) 国際経済学(1)

【第17～20回】担当：石本教授

閉鎖経済と自由貿易

第18回 国際経済学(2)

自由貿易均衡価格と貿易利益

第19回

(6/10) 国際経済学(3)

貿易政策(1) 輸入関税

第20回 国際経済学(4)

貿易政策(2) 関税同盟

第21回(6/17)

公共経済論(1) 公共財

【第21～24回】担当：渡部教授

公共財の定義、社会的需要曲線の導出を理解する。

第22回 公共経済論(2) 公共財

公共財の最適な数量の決定を理解する。

第23回(6/24) 公共経済論(3) 課税

消費課税の経済効果を納税義務者が消費者、企業の場合について理解する。

第24回 公共経済論(4) 課税

消費課税の経済効果が需要・供給の価格弾力性に依存することを理解する。

第25回

(7/1) 企業経済論(1)

【第25～28回】担当：井上教授

経営管理の基礎理論について学ぶ

第26回 企業経済論(2)

現代企業におけるリーダーシップについて学ぶ

第27回

(7/8) 企業経済論(3)

官僚制組織と組織構造の動態化について学ぶ

第28回 企業経済論(4)

組織文化と組織変革について学ぶ

第29回

(7/15) 確認テスト

学習到達度の確認テストの実施

第30回 確認テスト解説

学習到達度の確認テスト内容の解説

2022年度 後期

4単位

総合経済特講(総合)

岡部 芳彦、麻生 裕貴、石田 裕貴、井上 善博、岡本 弥、関谷 次博、竹治 康公、平井 健之

<授業の方法>

講義

今後の感染状況等によっては変更の可能性があります。その場合は、シラバスを通じて連絡するので、常にシラバスの最新情報を確認するよう、お願いします。

<授業の目的>

【講義の位置づけ】

本学経済学部 of 学生は、必要最低単位数以上を修得することに加え、卒業論文の審査あるいは、本講義の試験に合格することが、学位授与の要件である。

【主題】

本講義の目標は、経済学の基本的知識を備え、専攻コースにおける専門的知識を身につけていることを確認するものである。

【目標】

・DP(ディプロマ・ポリシー)の「2. 経済理論の基礎

を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」ことを目標とする。

・経済学の基幹的な分野（ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済論など）に関する基礎的知識を十分に獲得していること。

・専攻コースにおける専門的知識を身につけていること。

<到達目標>

経済学士の学位に相応しい能力に達することができる。

<授業のキーワード>

経済学

<授業の進め方>

7名の教員によるリレー講義

<履修するにあたって>

【重要】対面・遠隔授業の授業形態によらず、2日（講義4回分）につき1回のレポート（小テスト）が課せられます（計7回）。このレポート（小テスト）は、定期テストを行わない場合の成績評価になるので、毎回必ず提出（受験）して下さい。

・大学より非登学が承認されている受講生には、確認テスト、及び定期テストの代わりとなる「別途課題」を提出してもらいます。

・その他、下部の「遠隔授業情報」にある「本講義のガイダンス」の資料を確認して下さい。

<授業時間外に必要な学修>

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

<提出課題など>

科目ごとに、講義時間内小テストを実施し、講義内で解答を示す。

<成績評価方法・基準>

・定期テストを行う場合、テスト100%（確認テストで60点以上でも、必ず定期テストを受けなければ、評価の対象としない）

・定期テストを行わない場合、各講義のレポート（小テスト）の評価100%

・大学より非登学が承認されている受講生に対しては、各講義のレポート（小テスト）、確認テスト、及び定期テストの代わりとなる「別途課題」の評価100%

<定期テストを受験するための出席条件>

・出席日数（各講義のレポート提出回数）が全講義の3分の2に満たない者は定期テストの受験を認めない。

・下部の「遠隔授業情報」にある「本講義のガイダンス」の資料も確認して下さい。

<テキスト>

テキストはとくに指定しない。

<参考図書>

科目ごとに適宜指示する。

<授業計画>

第1回

(9/30) ガイダンス、ミクロ経済学（1）：需要曲線の導出

【第1～4回】担当：岡本准教授

・本講義のガイダンス（15分程度）

・消費者の支払許容額から需要曲線が得られることを示す。

第2回 ミクロ経済学（2）：供給曲線の導出

生産者の費用構造から供給曲線が得られることを示す。

第3回

(10/7) ミクロ経済学（3）：市場均衡と社会的総余剰
需要 = 供給となる市場均衡と消費者余剰と生産者余剰の和である社会的総余剰についてみる。

第4回 ミクロ経済学（4）：完全競争市場での企業行動
完全競争市場下での企業の利潤最大化行動についてみる。

第5回

(10/14) マクロ経済学（1）

【第5～8回】担当：竹治教授

GDPの基礎概念を学ぶ

第6回 マクロ経済学（2）

GDPの計算に習熟する

第7回

(10/21) マクロ経済学（3）

乗数効果の基礎概念を学ぶ

第8回 マクロ経済学（4）

乗数効果の計算に習熟する

第9回

(10/28) 日本経済論（1）

【第9～12回】担当：麻生講師

戦後日本経済の発展と変遷について学ぶ。

第10回 日本経済論（2）

日本の経済発展の要因と背景について学ぶ。

第11回

(11/11) 日本経済論（3）

日本経済の現状と今後の問題点について学ぶ。

第12回 日本経済論（4）

第9回～第11回学習の要点を確認し、理解度をチェックするための小テストと解説を行う。

第13回

(11/18) 経済史総論（1）

【第13～16回】担当：関谷教授

歴史の教訓から学ぶ「殖産興業政策」

第14回 経済史総論（2）

歴史の教訓から学ぶ「昭和恐慌」

第15回

(11/25) 経済史総論（3）

経路依存性から考える「戦時経済」

第16回 経済史総論(4)
経路依存性から考える「高度経済成長」

第17回
(12/2) 生活経済論(1)

【第17~20回】担当：石田准教授
資産運用について学ぶ

第18回 生活経済論(2)

預金について学ぶ

第19回
(12/9) 生活経済論(3)
保険について学ぶ

第20回 生活経済論(4)
投資信託について学ぶ

第21回
(12/16) 公共経済論(1)：消費課税の経済効果(1)
【第21~24回】担当：平井教授
消費課税の経済効果を余剰分析に基づいて理解する。

第22回 公共経済論(2)：消費課税の経済効果(2)
消費課税は誰が負担するのかを弾力性の概念を用いて理解する。

第23回
(12/23) 公共経済論(3)：公共財(1)
公共財の定義について理解する。

第24回 公共経済論(4)：公共財(2)
公共財の最適供給について理解する。

第25回
(1/6) 企業経済論(1)
【第25~28回】担当：井上教授
経営管理の基礎理論について学ぶ

第26回 企業経済論(2)
現代企業におけるリーダーシップについて学ぶ

第27回
(1/13) 企業経済論(3)
官僚制組織と組織構造の動態化について学ぶ

第28回 企業経済論(4)
組織文化と組織変革について学ぶ

第29回
(1/20) 確認テスト
学習到達度の確認テストの実施

第30回 確認テスト解説
学習到達度の確認テスト内容の解説

2022年度 前期
4単位
租税論 公共
渡部 尚史

< 授業の方法 >

講義
< 授業の目的 >
この科目は、経済学部DPが示す「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」ことを目指す。3・4年生配当の公共経済コースのコース科目に属する。主要な国税の仕組みを理解できるようになることを目的とする。

< 到達目標 >
FPの試験問題を解くことができる。

< 授業のキーワード >
所得税、法人税、相続税、消費税

< 授業の進め方 >
講義を中心に進める。

< 授業時間外に必要な学修 >
事前学習として、講義の対象箇所を読んでおくこと(1.5時間)、事後学習として、練習問題を解く(1時間)。

< 提出課題など >
課題を5回課す。テーマは、税法入門、所得税、法人税、相続税、消費税である。課題の解答は次回の授業で解説する。

< 成績評価方法・基準 >
課題50%と定期試験50%の割合で評価する。定期試験の問題は課題から作成する。課題の成績分布、定期試験の情報はdotCampusに掲載しています。

< テキスト >
税務大学校講本(税務大学校HP掲載の税大講本のうち、税法入門、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法)を用いる。税務大学校講本のプリントは配布から1か月経過につき、税務大学校HPからダウンロードのこと。

< 授業計画 >
第1回・第2回
税法入門(1)
租税の意義、租税の根拠と配分、租税に関する術語、租税の分類、税法の法体系を理解する(「税法入門」第1章~第5章)。

第3回、第4回
租税入門(2)
所得税、法人税、相続税、消費税の概要、税務行政の概要を理解する(「税法入門」第6章~最後)。

第5回、第6回
所得税(1)
所得税における所得概念、非課税所得、納税義務、所得の種類を理解する(「所得税法」第1章~第3章)。

第7回、第8回 所得税(2)
各所得の課税標準の計算を理解する(「所得税法」第4章)。

第9回、第10回 所得税(3)
所得控除の内容、税率及び税額の計算、税額控除について理解する(「所得税法」第5章・第6章)。

第11回、第12回 所得税(4)

源泉徴収、申告・納付及び還付（「所得税法」第7章、第8章）を理解し、所得税の計算例、FPの試験問題を解く。

第13回、第14回 法人税（1）

法人税法の総則と申告に関する規定、課税標準の計算のあらまし、益金を理解する（「法人税法」第1章～第4章）。

第15回、第16回 法人税（2）

棚卸資産、減価償却資産の償却費、役員等の給与、交際費等について、損金の額の計算を理解する（「法人税法」第5章、第6章）。

第17回、第18回 法人税（3）

寄附金、租税公課等、繰越欠損金、引当金、有価証券の譲渡損益、税額計算、税額控除（「法人税法」第6章～第9章）について理解する。

第19回、第20回 相続税（1）

相続税・贈与税の納税義務者、相続税の計算手順（課税財産・非課税財産、相続税の課税価格の計算、基礎控除額、各相続人等の相続税額・納付すべき相続税額）を理解する（「相続税法」第1章～第3章）。

第21回、第22回 相続税（2）

贈与税の課税価格と税額、相続時精算課税制度、申告・更正及び決定、納税猶予・免除の特例、財産評価を理解する（「相続税法」第4章～第11章）。

第23回、第24回 消費税（1）

消費税の課税対象、非課税と免税の違い、納税義務者を理解する（「消費税法」第1章～第4章）。

第25回、第26回 消費税（2）

消費税の課税標準と税率、税額控除、申告・納付を理解する（「消費税法」第5章～）。

第27回、第28回 まとめ（1）

税法入門、所得税法、法人税法のポイントを理解し、FPの問題を解く。

第29回、第30回 まとめ（2）

相続税法、消費税法のポイントを理解し、FPの問題を解く。

2022年度 前期

6単位

卒業論文

石本 眞八、井上 善博、石田 裕貴、岡部 芳彦、岡本 弥、幸田 功、木暮 衣里、佐藤 伸明、柴田 淳子、関谷 次博、竹治 康公、田宮 遊子、田口 順等、常廣 泰貴、中村 亨、西山 茂、伴 ひかり、林 隆一、平井 健之、圓生 和之、三宅 敦史、毛利 進太郎、渡部 尚史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

主題：4年間の学業の集大成として、各人がテーマを定め、演習、演習、演習で得られた知見をもとに、学士の学位を得るにふさわしい卒業論文を作成することである。

目標：教員から専門性の高い助言を受け、それを各人が理解し、さらなる論文のブラッシュアップを行うことを通じて、学術的な思考に加えて、問題解決能力を高めることを目標としている。

DP（学位授与方針）の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

- ・4年間の学業の集大成として、学士の学位を得るにふさわしい論文を作成できる。
- ・経済学の基礎理論を知り、その知識を活かすことができる。
- ・現代の経済問題について関心を持つことができる。
- ・協働して議論をすることによって、多様な考え方を表現する技能を育てることができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

「卒業論文指導」を履修する必要がある。

< 履修するにあたって >

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、「『卒業論文』作成の手引」、「卒業論文の提出要領」を確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には10時間以上が必要となる。

適宜紹介する参考文献等を活用すること。

< 提出課題など >

卒業論文。

演習、審査の過程で、講評、指導を行う。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容100%で評価する。卒業論文の可否は演習担当者を主査として、それ以外に副査1名によって審査される。審査に合格すれば、専門演習である「卒業論文指導」とは別に6単位が与えられる。

< 授業計画 >

第1回 概要

「卒業論文」は授業を行わない。同時に履修する「卒業論文指導」において各ゼミ担当教員より学術的な研究の指導を受けて作成した論文を提出し、審査を経て単位を与えられる。詳細については「卒業論文指導」を参照すること。

第2回 文献検索1

卒論のテーマを設定するにあたり、何冊かの基本書を見

つける。

第3回 文献検索2

集めた文献の中から、特に重要な文献をピックアップする。

第4回 執筆1

論文のフレームワークを考える。

第5回 執筆2

章立てを行う。

第6回 執筆3

章の中の節たてをする。

第7回 執筆4

効果的な図を作る。

第8回 執筆5

効果的な表を作る。

第9回 執筆6

目次を整理する。

第10回 執筆7

「はじめに」と「おわりに」を簡潔に執筆する。

第11回 推敲1

誤字・脱字をチェックする。

第12回 推敲2

脚注を確認する。

第13回 推敲3

図表がページ内に収まっているか、確認する。

第14回 完成

表紙を作成する。

第15回 提出

提出期間内に論文を提出する。

2022年度 後期

6単位

卒業論文

石本 眞八、井上 善博、石田 裕貴、岡部 芳彦、岡本 弥、幸田 功、木暮 衣里、佐藤 伸明、柴田 淳子、関谷 次博、竹治 康公、田宮 遊子、田口 順等、常廣 泰貴、中村 亨、西山 茂、伴 ひかり、林 隆一、平井 健之、圓生 和之、三宅 敦史、毛利 進太郎、渡部 尚史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

主題：4年間の学業の集大成として、各人がテーマを定め、演習、 、 、 で得られた知見をもとに、学士の学位を得るにふさわしい卒業論文を作成することである。

目標：教員から専門性の高い助言を受け、それを各人が理解し、さらなる論文のブラッシュアップを行うことを通じて、学術的な思考に加えて、問題解決能力を高めることを目標としている。

DP（学位授与方針）の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

- ・4年間の学業の集大成として、学士の学位を得るにふさわしい論文を作成できる。
- ・経済学の基礎理論を知り、その知識を活かすことができる。
- ・現代の経済問題について関心を持つことができる。
- ・協働して議論をすることによって、多様な考え方を表現する技能を育てることができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

「卒業論文指導」を履修する必要がある。

< 履修するにあたって >

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、「『卒業論文』作成の手引」、「卒業論文の提出要領」を確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には10時間以上が必要となる。

適宜紹介する参考文献等を活用すること。

< 提出課題など >

卒業論文。

演習、審査の過程で、講評、指導を行う。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容100%で評価する。卒業論文の可否は演習担当者を主査として、それ以外に副査1名によって審査される。審査に合格すれば、専門演習である「卒業論文指導」とは別に6単位が与えられる。

< 授業計画 >

第1回 概要

「卒業論文」は授業を行わない。同時に履修する「卒業論文指導」において各ゼミ担当教員より学術的な研究の指導を受けて作成した論文を提出し、審査を経て単位が与えられる。詳細については「卒業論文指導」を参照すること。

第2回 文献検索1

卒論のテーマを設定するにあたり、何冊かの基本書を見つける。

第3回 文献検索2

集めた文献の中から、特に重要な文献をピックアップする。

第4回 執筆1

論文のフレームワークを考える。

第5回 執筆2

章立てを行う。

第6回 執筆3

章の中の節たてをする。

第7回 執筆4

効果的な図を作る。

第8回 執筆5

効果的な表を作る。

第9回 執筆6

目次を整理する。

第10回 執筆7

「はじめに」と「おわりに」を簡潔に執筆する。

第11回 推敲1

誤字・脱字をチェックする。

第12回 推敲2

脚注を確認する。

第13回 推敲3

図表がページ内に収まっているか、確認する。

第14回 完成

表紙を作成する。

第15回 提出

提出期間内に論文を提出する。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

石本 眞八

< 授業の方法 >

対面による演習授業

< 授業の目的 >

卒業論文の完成に向けた推敲を行うとともに、DP4に示されている、自分の意見を口頭や文章によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目標としています。

< 到達目標 >

卒業論文を完成させること。

< 授業の進め方 >

卒業論文の完成に向けて加筆・修正を継続する。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文の作成に向けた推敲に毎週最低でも3時間は必要になります。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文 (100%)

< 参考図書 >

必要に応じて適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回～第4回 初稿の完成

初稿の完成に向けて質疑応答を繰り返しながら執筆する。

第5回 初稿の提出と確認

初稿を提出し加筆・修正が必要な箇所を確認する。

第6回～第9回 校正作業

質疑応答を繰り返しながら、指示された箇所や不備な箇所を加筆・修正する。

第10回 第2稿の提出と確認

第2稿を提出し加筆・修正が必要な箇所を確認する。

第11回～第14回 最終校正を進める

第2項をもとに質疑応答を繰り返しながら、指示された箇所や不備な箇所を加筆・修正する。

第15回 卒業論文の提出

卒業論文の完成原稿の提出と最終確認を行う。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

井上 善博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

主題: 各自で研究のテーマを設定し、その研究テーマについて深く考察すること。

目的: 経済や経営にかかわる諸問題を分析し、経済学部での4年間の勉強の成果として、卒業論文を完成させること。

< 到達目標 >

・経済学と経営学に関する知識や技能を習得することができる。
・約3?4か月をかけて、卒業論文のテーマ設定と執筆ができる。

・最終的に1万字程度の学術論文を仕上げ、その内容について深い考察ができる。

この科目は学部のDPで示す、

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

以上の点を目的とする。

< 授業のキーワード >

テーマ設定・論文の章立て・論文内容の精査・経営とビジネス

< 授業の進め方 >

毎回、1000字程度の論述課題を仕上げ、教員がそれをチェックし、適切なアドバイスをします。次回以降、修正した箇所を再確認します。

< 履修するにあたって >

研究テーマに関する文献を早めに入手し、概要をつかんでおくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

大学の図書館で、論文に必要な文献を早めに探しておくこと。

関心のあるテーマを見つけること。
学術論文の執筆方法をあらかじめ学習し、それに基づいて論文を執筆していくこと。

(120分)

< 提出課題など >

論文執筆の進捗状況をまとめ、提出すること。論文執筆の内容について、次回の授業時にコメントをつけてフィードバックする。

< 成績評価方法・基準 >

授業時間内の中間報告20%と卒業論文の内容80%によって評価します。

< テキスト >

適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 研究テーマの設定

経営学や経済学の分野で、自分の関心のあるテーマを設定する。

第2回 文献調査

研究テーマに関する文献を探し、その内容を確認する。

第3回 経営管理の研究

企業の経営管理に関する文献を読み込む。

第4回 経営戦略に関する研究

経営戦略に関する諸理論について文献を整理する。

第5回 経営組織に関する研究

企業を機能させる、その中身つまり、経営組織について文献を整理する。

第6回 その他経営課題に関する研究

企業を取り巻く、様々な経営課題に関する文献の整理。

第7回 テーマの再考及び緻密化

前回までの講義内容を踏まえ、より深いテーマを設定する。

第8回 執筆(1)章立て

卒業論文の概要を起承転結あるいは、序論、本論、結論で整理する。

第9回 執筆(2)節の設定

大体4章くらいにまとめた後、その章の中を3節くらいに整理する。

第10回 執筆(3)文章をくみ込む

各節に文章を肉付けし、論文にボリュームをもたせる。

第11回 問題提起と結論との照合

導き出した結論が、執筆当初の問題提起に合致しているかを確認する。

第12回 参考文献一覧

論文執筆で参考にした文献一覧を加える。

第13回 推敲

論文全体を読み返し、誤字・脱字がないか確認する。

第14回 フォーマットの確認

論文が神戸学院大学経済学部が設定した、フォーマットになっているか確認し、表紙をつける。

第15回 プレゼンテーション

卒業論文のテーマについてその概要を発表する。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

石田 裕貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部DPに示す「4.自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」、及び「5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることである

・演習 の内容を受けて、卒業論文を完成させる

< 到達目標 >

・自分の関心のあるテーマについて、論点を整理し、考察を深め、自分の意見や主張を説得的に論述することができる(知識、技能、態度)

< 授業の進め方 >

基本的には、教員と相談しながら個人で卒業論文の準備を行ってもらうが、他のゼミ生との意見交換を通じて、自分の卒業論文に活かしてもらう

< 授業時間外に必要な学修 >

他の授業科目や新聞やテレビのニュース、インターネットなどで、幅広く世の中の経済問題に関心を持ち、分からないことや疑問点などを積極的に調べる(2時間)

< 提出課題など >

中間報告と最終報告の論文を提出してもらう。授業の中で随時、進捗状況がチェックされフィードバックされる

< 成績評価方法・基準 >

演習での取り組み(30%)、卒業論文(70%)

< テキスト >

初回授業で指定する

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要を説明する

第2~5回 本文の執筆

卒業論文の本文を執筆する

第6・7回 中間報告

本文の内容を報告する

第8~10回 序章と終章の執筆

卒業論文の序章と終章を執筆する

第11・12回 最終報告

卒業論文の全体を報告する

第13・14回 卒業論文の完成

参考文献の整理、誤字脱字のチェック、改稿を経て、卒業論文を完成させる

第15回 まとめ

演習全体を総括する

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

岡部 芳彦

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

演習 につづき、卒業論文を作成するための指導を行う。目標は、4年間の学業の集大成となる学業的成果をまとめることである。

< 到達目標 >

4年間の学業の集大成となる卒業論文が完成できる。

なお、この科目は、学部のDPに示す「1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」ことを目指しています。

< 授業のキーワード >

学位の質的保証、学士号取得

< 授業の進め方 >

適宜、個別指導を行う。

< 履修するにあたって >

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、別途定める。「『卒業論文』作成の手引」、「卒業論文の提出要領」を配布する。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒論の完成に向けて調査・整理・執筆を行ってください。予習90分、復習90分を想定しています。

< 成績評価方法・基準 >

中間報告（最低2回）、卒業論文の内容で評価する。（100%）

< 授業計画 >

第一回：ガイダンス 卒論の仮題確認

卒業論文の方向性を議論

第二回：卒論指導 問題の所在の確認

卒論の仮説について議論。

第三回：卒論指導 テーマの掘り下げ 1

決めた題目を詳しく調べる。

第四回：卒論指導 テーマの掘り下げ 2

決めた題目をさらに詳しく調べる。

第五回：卒論指導 テーマの掘り下げ 3

決めた題目をさらに掘り下げる。

第六回：卒論指導 テーマを検証 1

テーマを検証する。

第七回：卒論指導 テーマを検証 2

テーマをさらに検証する。

第八回：卒論指導 テーマを検証 3

テーマの検証の最後。

第九回：卒論指導 中間報告

報告をもとに議論、方向性の再チェック。

第十回：卒論指導 テーマのまとめ 1

卒論のテーマのまとめを始める。

第十一回：卒論指導 テーマのまとめ 2

卒論のテーマのまとめを継続。

第十二回：卒論指導 テーマのまとめ 3

卒論のテーマのまとめを継続。

第十三回：卒論指導 卒論の完成作業 1

卒論の完成にむけて議論などを行う。

第十四回：卒論指導 卒論の完成作業 2

卒論の完成にむけて文章チェック。

第十五回：卒論指導 卒論の微調整

用語等の使い方などが間違っていたら、調整。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

岡本 弥

< 授業の方法 >

演習

【9月20日（月）～10月2日（土）までの授業形態】

遠隔授業（リアルタイム授業）

【10月4日（月）以降の授業形態】

対面

< 授業の目的 >

関心のあるテーマに関連する経済学的な仮説を実証分析し、それを卒業論文として形にする。

< 到達目標 >

到達目標として以下の2つを掲げたい。

収集したデータを使って関心のあるテーマについて回帰分析を行い、相応の結果を得ることができる。

得られた実証結果にもとづいて、わかりやすい言葉遣いで卒業論文を書き上げることができる。

< 授業の進め方 >

毎回、3-4人程度が卒論制作の進捗についてプレゼンテーションを行い、担当者がコメントするとともに、全員で議論する。

< 授業時間外に必要な学修 >

報告担当者は最低2時間程度かけてプレゼンの構想を練り、スライドを作成する。

それ以外の受講者は、1時間程度かけて、あらかじめ配布されたプレゼン原稿に目を通してコメントや質問を考える。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容で100%評価する。ただし、理由もなく3

回以上欠席した場合は単位の取得はできない。

< 授業計画 >

第1回 インTRODククション

当該演習授業の運営を方法と卒論制作上の注意点について解説する。

第2-6回 論文制作の進捗報告

毎回、2-3名が卒業論文の制作進捗について報告を行う。

第7-8回 中間報告会

各回、5-6名が卒論制作の中間報告を行う。

第9-13回 卒論完成に向けた最終調整

毎回、2-3名が卒論制作の現状報告を行い、担当者は完成に向け、細かい点も含めた最終的なチェックを行う。

第5回 卒論完成報告会

完成した卒論の報告を2回に分けて実施する。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

幸田 功

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。法学も経済学と同じく社会現象を扱います。卒業論文の作成を通じて、法学の知識や理解を深めることで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

< 到達目標 >

卒業論文を完成させることができる。

法的な問題点に対して、法的根拠に基づいた自分の考えを説明することができる。

法的な問題について、経済学の視点でも分析することができる。

< 授業のキーワード >

卒業論文 労働法 民法 最高裁判所判例 下級裁判所判例 経済学の視点

< 授業の進め方 >

担当ゼミ生による作成中の卒業論文についての報告と、それに対する教員と他のゼミ生からのコメントや質疑応答により授業を進めます。

< 授業時間外に必要な学修 >

図書館等で参考文献を調べ、収集し、熟読すること。

卒論の執筆を進めること(毎日最低15分)。

< 提出課題など >

各回の中間報告用の資料、及び完成した卒業論文。

提出された資料に対しては、原則として次の回に書面または口頭によりコメントを伝えます。提出された卒業論

文に対しては、メール等でコメントを伝えます。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価は、中間報告の内容(20%)ゼミにおける貢献度(他のゼミ生に対する的確な質問・意見など 20%)、卒業論文の内容(60%)について行う。

なお、就職活動等で止むを得ず欠席する場合は、必ず大学所定の就職活動報告書を提出してください。

正当な理由のない欠席または5分以上の遅刻が合計5回を超えた場合は成績評価のと対象となりません。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

なし。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。受講者全員で話し合い、今後の基本方針を決定する。

第2回 第1回中間報告

卒論第一次草稿(演習 で提出済)の提出以降の進行状況の報告と質疑応答。

第3回 第1回中間報告

卒論第一次草稿(演習 で提出済)の提出以降の進行状況の報告と質疑応答。

第4回 第2回中間報告

第1回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第5回 第2回中間報告

第1回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第6回 第3回中間報告

第2回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第7回 第3回中間報告

第2回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第8回 第4回中間報告

第3回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第9回 第4回中間報告

第3回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第10回 第5回中間報告

第4回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第11回 第5回中間報告

第4回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第12回 第6回中間報告

第5回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第13回 第6回中間報告

第5回中間報告以降の進行状況の報告と質疑応答。

第14回 最終報告会

完成した卒業論文について発表する。

第15回 最終報告会

完成した卒業論文について発表する。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

木暮 衣里

< 授業の方法 >

演習

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >

主題：4年間の学業の集大成として、各人がテーマを定め、演習、 、 、 で得られた知見をもとに、学士の学位を得るにふさわしい卒業論文を作成することである。

目標：教員から専門性の高い助言を受け、それを各人が理解し、さらなる論文のブラッシュアップを行うことを通じて、学術的な思考に加えて、問題解決能力を高めることを目標としている。

DP（学位授与方針）の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

・4年間の学業の集大成として、学士の学位を得るにふさわしい論文を作成できる。

・経済学の基礎理論を知り、その知識を活かすことができる。

・現代の経済問題について関心を持つことができる。

・協働して議論をすることによって、多様な考え方を表現する技能を育てることができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

「卒業論文指導」を履修する必要がある。

< 履修するにあたって >

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、「『卒業論文』作成の手引」、「卒業論文の提出要領」を確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には10時間以上が必要となる。

適宜紹介する参考文献等を活用すること。

< 提出課題など >

卒業論文。

演習、審査の過程で、講評、指導を行う。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容100%で評価する。卒業論文の可否は演習担当者を主査として、それ以外に副査1名によって審査される。審査に合格すれば、専門演習である「卒業論文指導」とは別に6単位が与えられる。

< 授業計画 >

第1回 概要

「卒業論文」は授業を行わない。同時に履修する「卒業論文指導」において各ゼミ担当教員より学術的な研究の指導を受けて作成した論文を提出し、審査を経て単位を与えられる。詳細については「卒業論文指導」を参照すること。

第2回 文献検索1

卒論のテーマを設定するにあたり、何冊かの基本書を見つける。

第3回 文献検索2

集めた文献の中から、特に重要な文献をピックアップする。

第4回 執筆1

論文のフレームワークを考える。

第5回 執筆2

章立てを行う。

第6回 執筆3

章の中の節たてをする。

第7回 執筆4

効果的な図を作る。

第8回 執筆5

効果的な表を作る。

第9回 執筆6

目次を整理する。

第10回 執筆7

「はじめに」と「おわりに」を簡潔に執筆する。

第11回 推敲1

誤字・脱字をチェックする。

第12回 推敲2

脚注を確認する。

第13回 推敲3

図表がページ内に収まっているか、確認する。

第14回 完成

表紙を作成する。

第15回 提出

提出期間内に論文を提出する。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

佐藤 伸明

< 授業の方法 >

演習

第1週（9/24），第2週（10/1）はオンライン授業
下記「遠隔授業情報」欄のURLからホルダーに入り，関係あるファイルを開いてください。

第3週から対面授業

「遠隔授業情報」欄のURLからホルダーに入り，関係あるファイルを開いて，中間報告等の予定を確認してください。

< 授業の目的 >

この科目は，経済学部のDPが示す「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得」に資する科目である。経済学的創作を体験してもらい，分析力，洞察力，文章作成力などを高める。

（主題）卒業論文の完成にむけて指導する。

（目標）卒業論文を完成する。

< 到達目標 >

論文を完成することで，経済学部生としての4年間の学業を集大成することができる。

文章作成能力を身に着けることができる。

より高い会科学的分析力，洞察力を身に着けることができる。

< 授業のキーワード >

狭い範囲に問題を絞る。

< 授業の進め方 >

卒業論文作成の進捗状況を報告する：中間報告。

最終回では，完成した論文に基づき，最終報告する。

< 履修するにあたって >

卒業論文が作成できない場合に備えて，コースの特別講義を受講し単位取得を目指すこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

自分で文献を調べて学習・研究すること。

ホームページ文書を除いて，文献は5冊以上。1，2冊は熟読すること。

1週間に15時間以上の学習が必要である。

< 提出課題など >

卒業論文の中間報告としてのレポート提出。提出されたレポートについては，コメントを付けておよそ2週間以内に返信する。コメントを活かすように卒論を作成して

ください。

< 成績評価方法・基準 >

中間報告と最終報告および卒業論文に基づいて評価する。

< テキスト >

配布プリント『経済学部卒業論文作成の手引き』

< 参考図書 >

卒業研究テーマごとに指示する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業論文作成について

第2回 卒論研究

卒業論文作成の進め方

第3回 卒論研究

中間報告

第4回 卒業研究

中間報告

第5回 卒業研究

中間報告

第6回 卒業研究

中間報告

第7回 卒業研究

中間報告

第8回 卒業研究

中間報告

第9回 卒業研究

中間報告

第10回 卒業研究

中間報告

第11回 卒業研究

卒論提出準備

第12回 卒業研究

卒論提出準備

第13回 卒業研究

卒論提出準備

第14回 卒論最終報告準備

卒論最終報告準備

第15回 卒論最終報告

卒論最終報告

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

柴田 淳子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本科目は，DP（学位授与方針）の「5. 経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し，国内外において，

価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ことを目指します。

「卒業論文指導」は、専門教育科目の選択必修科目における演習科目に属する科目です。

ここでは、4年間の大学生活の集大成とする卒業論文の完成を目指します。

<到達目標>

1. これまでの背景を把握し、自分の意見を主張できる。
2. 自分の意見を理論的に、かつ明確に述べることができる。

<授業の進め方>

基本的には、各自で進めてもらいます。チェックの際に、考え方や進め方を教員と議論しながら決めていきます。

<履修するにあたって>

卒業論文を提出する学生は、「卒業論文」と併せて登録してください。

<授業時間外に必要な学修>

卒業論文の作成・修正のために、毎回2時間程度の時間が必要である。

<提出課題など>

グループごとに数回の卒論提出がありますので、必ず期限を守ってください。なお、提出された卒論は成績評価の対象とします。

<成績評価方法・基準>

提出された卒業論文で評価します。単位を取得するためには、提出期日を厳守し、3回の報告を行うことを条件とします。

<授業計画>

第1回 ガイダンス

卒業論文の内容に関する確認、提出について

第2? 5回 卒論作成(1)

演習 で作成している卒論について、修正を行う。

第6回 中間報告(1)

進行状況を報告する

第7? 10回 卒論作成(2)

修正を行いつつ、卒論を完成させる

第11回 中間報告(2)

進行状況を報告する

第12? 13回 卒論作成(3)

修正を行い、卒論の見直しを行う

第14回 最終報告

これまでの修正点を踏まえ、最終報告を行う

第15回 提出

軽微な修正を行った後、完成版を提出する

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

関谷 次博

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

卒業論文の作成のための指導をおこなう。

本講義はDPの4「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しています。

<到達目標>

卒業論文を完成することができる。

<授業の進め方>

個々の発表に際して意見を交換するほか、個別に指導する。

<授業時間外に必要な学修>

指摘された箇所を修正し、早い段階で確認をすること。
(資料調査も含め5時間程度)

<成績評価方法・基準>

卒論の下書き(100%)

<授業計画>

第1回 卒業論文の作成にあたって

授業の目的・目標、進め方を詳しく説明する。

第2~5回 卒業論文の作成

卒業論文の執筆をすすめる。

第6~7回 中間発表

卒業論文の途中経過について発表する。

第8~12回 卒業論文の作成

中間発表での指摘をふまえて、加筆修正とともに執筆をすすめる。

第13回 卒業論文の完成

卒業論文の最終チェックをおこない、提出にむけた準備をする。

第14~15回 卒業論文の発表

完成した卒業論文をゼミ内で発表する。(合同ゼミの可能性もあり。)

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

竹治 康公

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

各自のテーマに沿って、卒業論文に関する中間報告、最終報告を行うことで卒業論文を完成することを目的とす

る。なお、卒業論文は経済・金融・産業などについて社会に出て仕事をするための第一歩となるようなテーマを選定し、社会人基礎力を強化する。

DP（学位授与方針）の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての15年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

<到達目標>

社会人として社会に貢献することができる

<授業の進め方>

輪番で卒業論文の中間報告，最終報告を実施する．

<履修するにあたって>

なし

<授業時間外に必要な学修>

卒業論文に関する調査・研究と卒業論文の執筆480分程度

<成績評価方法・基準>

卒業論文作成に向けてのレポートおよび報告100%

<テキスト>

なし

<参考図書>

なし

<授業計画>

第1回 イン트로ダクション

卒業論文の様式や作成方法について解説する。

第2-6回 論文作成その1

卒業論文作成に必要な文献のまとめや収集データの整理を行う。

第7-8回 中間報告会

前回までの作業に基づいて中間報告を行う。

第9-13回 論文作成その2

中間報告での評価に基づき完成原稿作成の作業を行う。

第14-15回 最終報告会

完成した卒業論文の報告を行う。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

田宮 遊子

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

履修者は卒業論文を作成する。

この演習は、経済学部のディプロマ・ポリシーの以下と関連している。

・経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

・経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。

<到達目標>

履修者は、卒業論文を完成させることで以下の能力を獲得することができる。

・各自のテーマに沿った適切な文献や資料を検索できる。

・学術的な文献の内容を正確に理解できる。

・学術的な文献に対して、批判的な思考をもって読解し、論述できる。

・テーマに沿ったデータの加工処理ができる。

・文献から理解した内容を適切に論述できる。

・効果的な発表ができる。

・質問に理論的に答えることができる。

<授業の進め方>

履修者は、各自の卒業研究のテーマに従った資料収集、学術文献の読解、統計資料を用いたデータ分析、プレゼンテーション、論文の作成を行う。

なお、履修者の理解度に応じて授業計画を一部変更する場合がある。

<履修するにあたって>

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、別途定める。「『卒業論文』作成の手引」、「卒業論文の提出要領」を配布する。

<授業時間外に必要な学修>

予習（卒論執筆）、復習（中間報告に対するコメントをふまえた修正）に2？3時間程度の時間を要する。

<成績評価方法・基準>

卒業論文中間報告の内容、中間報告に伴う卒業論文の内容で評価する（100％）。

中間報告（最低3回）を行い、中間報告が合格水準に達した内容であることが、単位認定の最低条件となる。

<参考図書>

戸田山和久『論文の教室：レポートから卒論まで 新版』2012、NHK出版

鹿島茂『勝つための論文の書き方』2003、文春新書

< 授業計画 >

第1回 卒論について

・夏休み中の卒論進捗状況の報告
(卒論の進捗状況について、各自の資料を画面共有で提示しながら説明していただきます。)

・卒論作成計画の確認

第2回～第6回 卒業論文構築指導

卒業論文の構築のための指導を行う

第7回 中間報告

卒論の進行状況について、中間報告を行う。

第8回? 第13回 卒論執筆指導

各自が卒業論文の執筆を進めながら、随時報告する。それに対して、随時指導を行う。

第14回 卒論の最終確認、校正 1

卒業論文完成稿の確認、校正作業を行う。

第15回 卒論の最終確認、校正 2

卒業論文完成稿の確認、校正作業を行う。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

田口 順等

< 授業の方法 >

演習

対面授業(講義)

< 授業の目的 >

卒業論文の作成を通じて、資料の調査、読解、考察する能力を付け、その作成過程で持続的・計画的に作業を行える能力を身に付けることを目的とする。

これにより経済学DP「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」の(思考力・判断力・表現力等の能力)および「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」の(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)に主に対応した演習・講義となっている。

< 到達目標 >

卒論の作成作業を通じて計画的に時間を配分して作業を行うことができる(態度・習慣)

経済や社会の現象を論理的、科学的に考えることができる(態度・習慣)

経済学の知識と観光ビジネスの知識を習得し問題解決に応用できる(知識・態度)

< 授業のキーワード >

経済学、観光ビジネス、観光学、卒業論文

< 授業の進め方 >

個別に面談を行う方式と進捗状況を全体で発表する方式に分けられる。

< 履修するにあたって >

面談や指導を通じて修正や指導を行うので、指定した期日までに対応する必要がある。

卒業論文作成と就職活動と併用できるよう計画的に時間配分を行う必要がある。

剽窃・登用・コピー等不正行為が判明した場合は不可とする。引用の方法を厳格に守り、資料を読み考察を重ねて自分の能力で客観的な文章を書くことが求められます。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文作成時間に必要な時間は1年間で300時間、期間にして6か月といわれています。

集中して時間を費やすことができれば完成に近づくことができます。

< 提出課題など >

進捗状況の報告回での報告資料・校正作業など

< 成績評価方法・基準 >

期限までに提出された卒業論文の内容(50%)・最終発表会での発表内容(50%)で評価する。

剽窃・盗用・コピー等不正行為が判明した場合は不可とする。

< テキスト >

なし、卒論のテーマに応じて適宜指示する。

< 参考図書 >

なし、卒論のテーマに応じて適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回～第5回 講義概要・面談

これまでの進捗状況をもとに面談を行い、次の面談までに文献の調査状況や読解状況・執筆状態を報告できるように指導する。

第5回～第10回 進捗状況の報告

前述の面談を踏まえて報告を行い、執筆状況・卒業論文の提出について指導を行う。

第11回～14回 卒業論文の校正作業

発表の準備と予行

校正作業を行い、提出様式のチェックを行い、修正作業を行う。

また最終発表会での資料作成を行い発表の準備・予行を行う。

第15回 最終発表会

校正済みの卒業論文の最終チェックを行う。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

常廣 泰貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに示す、2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること、5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができることを目指しています。

< 主題 > 卒業論文の作成

< 目標 > これまで考察してきた内容をもとにして、卒論を作成し完成する。

< 到達目標 >

卒業論文を完成できる。

< 授業の進め方 >

担当者が報告することで授業を進めて行く。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文作成のため報告1回あたり概ね3時間の学修時間。

< 提出課題など >

完成した卒業論文

< 成績評価方法・基準 >

卒論の提出、報告および質疑・応答の内容で評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミの概要

第2回? 第5回 報告、質疑・応答1

卒論テーマの最終決定と各章についての概要の報告および質疑・応答

第6回? 第9回 報告、質疑・応答2

各章の内容についての報告および質疑・応答

第10回? 第14回 報告、質疑・応答3

卒業論文の最終的な仕上

第15回 まとめ

卒論の提出

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

中村 亨

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

< 主題 > 卒業論文の完成 < 目標 > 前期の演習 で決定した卒業論文テーマに関して、さらに関連した論文・資料の読み込みを行い、卒業論文を完成できるよう指導する。この科目は、学部のDPに示す、3.経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できることを目指します。

ホームページ

<https://ntohru.wixsite.com/mysite>

< 到達目標 >

論文・資料の正確な読み、データ・資料作り、実験の実施を行い、その結果を論文作成の基本を学びながら論文にまとめ完成させていく。

< 授業のキーワード >

参考文献、引用方法、図表のルール、脚注、出典の明示
< 授業の進め方 >

質疑応答型が基本であるが、個別の論文テーマに沿いながら論文作成指導を行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、卒論の対象となる教材（新聞、課題図書、論文）の箇所を読んでおくこと。（目安として1時間）

事後学習として、卒論研究で指摘した課題に取り組むこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

コンスタントに途中経過報告を行い、質疑応答により卒業論文を完成させていく。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容で評価する（100％）。

< テキスト >

指定しない。

< 参考図書 >

授業時に指示

< 授業計画 >

第1回? 第3回 問題点の明示

前期で作成した卒論ドラフトの問題点・課題の明示

第4回? 第6回 最優秀論文の例

大学生によって書かれた優れた論文を例に論文作成状のポイントを講述する

第7回? 第9回 他ゼミとの交流

論文の内容のチェックとして他ゼミと共催し論文発表大会を開催し、コメントをもらい論文のリファインメントを行う

第10回? 第12回 最終稿への調整

最終稿へ向けて各自が論文完成に向けての作業

第13回? 第14回 最終発表・チェック(1)

完成した卒業論文の最終発表を行う。細かな校正を行い、最終稿を提出する

第15回 最終発表・チェック(2)

完成した卒業論文の最終発表を行う。細かな校正を行い、最終稿を提出する

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

西山 茂

< 授業の方法 >

授業

< 授業の目的 >

卒業論文を完成すること。本演習の目的は、DP「4. 自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」と関連する。

< 到達目標 >

卒業論文を完成すること

< 授業の進め方 >

各自報告してもらう

< 履修するにあたって >

欠席可能回数6回。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文作成のための文献サーベイ。毎日30分ほどでも、卒業論文に関連する文献を読むことをこころがける。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文報告

< 授業計画 >

第1回 卒業論文報告

卒業論文報告その1

第2回 卒業論文報告

卒業論文報告その2

第3回 卒業論文報告

卒業論文報告その3

第4回 卒業論文報告

卒業論文報告その4

第5回 卒業論文報告

卒業論文報告その5

第6回 卒業論文報告

卒業論文報告その6

第7回 卒業論文報告

卒業論文報告その7

第8回 卒業論文報告

卒業論文報告その8

第9回 卒業論文報告

卒業論文報告その9

第10回 卒業論文報告

卒業論文報告その10

第11回 卒業論文報告

卒業論文報告その11

第12回 卒業論文報告

卒業論文報告その12

第13回 卒業論文報告

卒業論文報告その13

第14回 卒業論文報告

卒業論文報告その14

第15回 卒業論文報告

卒業論文報告その15

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

伴 ひかり

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

卒業論文指導の目的は、経済学部のDPに掲げる、「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できること」、「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること」、および、「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができること」と関連する。具体的には、演習での各自の研究をもとに、卒業論文を完成すること、その過程を通して、情報収集能力、論理的考察力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めることである。また、本演習は4年次後期に配当されている専門演習で「テーマを確立し、卒業論文の準備・作成する」段階に位置付けられている。

< 到達目標 >

・選択したテーマについて、情報を収集しまとめ、自分なりの考えを形成することができる（態度・習慣、知識、技能）。

・まとめた情報や自分の考えを卒業論文という形で表現できる（知識、技能）。

< 授業の進め方 >

卒業論文の作成とその報告・質疑応答を中心に授業をすすめる。

< 履修するにあたって >

卒業論文の教務窓口への提出日は後期初めに知らせる。それに応じてゼミ内での提出の締切日を設定する。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には6時間程度が必要となる。

< 成績評価方法・基準 >

評価を受けようと思うものは 中間報告、プロポーザルの提出、卒業論文の提出が必要です。それらを前提に卒業論文70%、中間報告30%で評価します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

ゼミの運営方法、卒業論文の書き方及び提出方法を確認する。

第2回 研究計画報告1

各自の研究テーマと論文の構成を報告する。

第3回 研究計画報告2

各自の研究テーマと論文の構成を報告する。

第4回 第1回中間報告1
各自の卒業論文の進捗状況を報告し、質疑応答する。
第5回 第1回中間報告2
各自の卒業論文の進捗状況を報告し、質疑応答する。
第6回 第1回中間報告3
各自の卒業論文の進捗状況を報告し、質疑応答する。
第7回 プロポーザル提出
各自の卒業論文のテーマ、構成を確定する。
第8回 第2回中間報告1
各自の卒業論文の章ごとの要約を中間報告し、質疑応答する。
第9回 第2回中間報告2
各自の卒業論文の章ごとの要約を中間報告し、質疑応答する。
第10回 第2回中間報告3
各自の卒業論文の章ごとの要約を中間報告し、質疑応答する。
第11回 最終確認1
文章の推敲を行う。
第12回 最終確認2
表紙、図表番号、ページレイアウトなど形式を整える。
第13回 卒業論文完成1
卒業論文を完成させる(12月提出)。
第14回 卒業論文完成2
卒業論文を完成させる(1月提出)。
第15回 まとめ
演習全体をまとめる。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

林 隆一

< 授業の方法 >

演習

今後の授業形態は、大学・経済学部の方針に従い変更する可能性があります。

< 授業の目的 >

本講義は演習科目に属し、演習 ? の応用として位置づけられる。

DP(学位授与方針)の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。そのため、演習で参加した学生コンテストや演習での発表などを通して興味を持った企業活動を含む経済動向に関して、自分なりに調査・理解した上で分析し、その内容を論文にまとめ、適切に伝えられることを目的とする。

{参考：経済学部ホームページ卒業論文について, https://kobegakuin-economics.jp/student/pdf/report_manual_2021.pdf}

なお、この授業の担当者は、証券アナリストとして企業分析・評価を19年間経験している、「実務経験のある教員」であり、より実践的な観点から上記の内容等を指導するものである。

< 到達目標 >

(1) 経済活動の課題(テーマ)から選んだ企業などの具体的な活動を説明できる知識を持つ(知識)。

(2) 企業活動などを自分なりの視点で分析し、その内容をプレゼンテーションし、お互いにディスカッションできる(技能)。

(3) 企業や経済活動などの分析や発表に関して積極的な態度や興味を持ち、お互いに議論や共有できる(態度・習慣)。

< 授業のキーワード >

日本経済の諸問題や産業・企業の戦略などの中から各受講生が一部を選択する(受講生ごとにテーマを選ぶ)。

< 授業の進め方 >

基本的には、受講生が事前準備したものを発表し、残りの受講生が、質問・コメント・アドバイスをを行う。教員は補足や次の方向性を示唆し、必要に応じて基礎知識の講義・指導を行う。

< 履修するにあたって >

企業活動・企業評価の専門家・実務家をゲストとしてお呼びしたり、受講生の意向を考慮したりする場合、スケジュールを変更することがある。

受講者各人の自主的・積極的な提案を歓迎する。

< 授業時間外に必要な学修 >

11月中旬に、各自、完成論文を提出した後、約1ヶ月間は添削と修正の繰り返しを時間外で行う。

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、平均的には100時間程度が必要となる。

< 成績評価方法・基準 >

発表内容60%、他者の発表などに対するコメント20%、講義の運営など20%で評価する。

< テキスト >

必要があれば、講義中に適宜指示する。

< 参考図書 >

「小論文これだけ! 書き方超基礎編」(樋口 裕一著、東洋経済新報社)。

それ以外に必要があれば、講義中に参考書を適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の運営方法やレジュメの作成方法に関して説明し、今後の授業の内容やスケジュールを確認する。

第2回 卒論要旨発表(1)

各受講生が卒業論文の要旨発表を行い、受講者で議論する。

第3回 後輩学生に発表する

演習 の後輩学生に、卒論作成過程や自分達が参加した学生コンテスト等の内容や経験を発表することで、自らの理解を深め、プレゼンテーション能力を高める。なお後輩学生はこれから参加する学生コンテストや卒論作成の参考とする。

第4回 卒論要旨発表(2)

各受講生が卒業論文の要旨発表を行い、受講者で議論する。

第5回 卒論要旨発表(3)

各受講生が卒業論文の要旨発表を行い、受講者で議論する。

第6回 卒論要旨発表(4)

各受講生が卒業論文の要旨発表を行い、受講者で議論する。

第7回 完成論文提出

ペアを組む学生同士で、お互いの「完成論文」を校正した後、指導教官に「完成論文」を提出する。

第8回 論文発表(1)

受講生ベースで完成させた卒業論文の発表を行い、指導教官と受講生で議論し、論文の改善点を明らかにする。

第9回 論文発表(2)

受講生ベースで完成させた卒業論文の発表を行い、指導教官と受講生で議論し、論文の改善点を明らかにする。

第10回 論文発表(3)

受講生ベースで完成させた卒業論文の発表を行い、指導教官と受講生で議論し、論文の改善点を明らかにする。

第11回 完成論文の報告(1)

卒業論文作成の完成報告を受講生が他の受講生に対して行う。

各自、卒業論文の提出を行う。

第12回 完成論文の報告(2)

卒業論文作成の完成報告を受講生が他の受講生に対して行う。

第13回 完成論文の報告(3)

卒業論文作成の完成報告を受講生が他の受講生に対して行う。また、卒論完成が遅れた受講生は引き続き発表を行う。

第14回 完成論文の発表会

卒業論文の発表会を他のゼミと共同で行い、優秀論文を投票する。

第15回 まとめ

演習、および卒業論文指導までの約2年半の学びのまとめ。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

平井 健之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

【授業の概要】

各受講者の執筆計画に基づき、卒業論文の完成に向けて論文の指導を行います。

【授業の目的】

各受講者の研究テーマに基づき、その研究の成果を卒業論文として完成させることを目的とします。また、学部DPに掲げられているように、論文の作成を通して、経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できること、演習での発表を通して、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができることを目指します。

< 到達目標 >

財政、公共経済の分野において、より専門的な知識と理解を得ることができる。

論理的な文章を書く能力を高めることができる。

研究テーマに関する卒業論文を完成させることができる。

< 授業の進め方 >

各受講者に卒業論文の執筆原稿を報告してもらい、卒業論文の完成に向けた指導を行います。

< 履修するにあたって >

毎時間、出席することを前提とします。

< 授業時間外に必要な学修 >

論文の作成に向けての作業を受講者自身で計画的に進めること(週2時間以上)。

< 提出課題など >

提出期限内に卒業論文を完成させて提出すること。論文の内容に重点において、成績評価を行います。

< 成績評価方法・基準 >

卒業論文の内容のみで評価します。

なお、論文において、他の文献資料からの剽窃、盗用があった場合には単位を認定しない。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

各受講者の卒業論文作成の進捗状況の確認。

卒業論文執筆要領の確認。

今後の作業の進め方に関する指導など。

第2回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第3回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第4回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第5回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第6回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第7回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第8回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第9回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第10回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第11回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第11回 論文の原稿の報告

各受講者に各章の原稿を報告してもらい、論文の完成に向けた指導を行います。

第13回 論文全体の報告

各受講者は論文をひとつおとり完成させ、その原稿を報告します。

第14回 論文全体の確認

論文の不備な点を確認して修正し、完成原稿を作成します。

第15回 論文全体の確認

論文の不備な点を確認して修正し、完成原稿を作成します。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

圓生 和之

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

< 主題 > 卒業論文の作成

< 目標 > これまで考察してきた内容をもとにして、卒論を作成し完成する。

この科目は、学部のDPに示す、2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること、5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができること目指している。

この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

なお、この科目の担当教員は、組織の人事をはじめ二十数年に及ぶ実務経験のある教員であるので、必要に応じて日本社会における労働の実際についても解説したい。
< 到達目標 >

卒業論文の完成

・4年間の学業の集大成として、学士の学位を得るにふさわしい論文を作成できる。

・経済学の基礎理論を知り、その知識を活かすことができる。

・現代の経済問題について関心を持つことができる。

・協働して議論をすることによって、多様な考え方を表現する技能を育てることができる。

< 授業のキーワード >

経済学、論文

< 授業の進め方 >

順次、報告を行い、議論することで、論文の内容を充実させる。

< 履修するにあたって >

卒業論文の詳細な提出様式、方法及び期限については、「『卒業論文』作成の手引」、「卒業論文の提出要領」を確認すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

卒業論文作成のため報告1回あたり概ね3時間の学修時間が必要となる。

適宜紹介する参考文献等を活用すること。

< 提出課題など >

卒業論文。

演習、審査の過程で、講評、指導を行う。

< 成績評価方法・基準 >

ゼミでの報告内容および質疑・応答の内容、卒論の完成度で評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

卒業論文指導の進め方のガイダンス

第2回? 第5回 報告1

卒論テーマの「現状分析」「原因分析」に関する報告

第6回? 第9回 報告2

卒論テーマの「解決策」「提言」に関する報告

第10回? 第14回 報告3

卒業論文全体の概説

第15回 まとめ

卒論の提出

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

三宅 敦史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は演習科目に位置付けられており、これまでの学習した知識をまとめて卒業論文を完成させることを目的とする。

この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し」「自分の意見を口頭や文書によって表現」することを目的としている。

< 到達目標 >

大学4年間の学習の集大成として卒業論文を作成する。

< 授業の進め方 >

卒業論文に関して調べた事柄について各自が報告し、その内容について議論する。

< 授業時間外に必要な学修 >

図書館で参考文献を調べ、参考文献を熟読すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 成績評価方法・基準 >

中間報告と最終報告の内容で評価する。3回以上無断欠席をした者には成績評価を行わない。

< 授業計画 >

第1回 はじめに

卒業論文の様式や書き方について説明する。

第2回~第6回 論文報告

各自が執筆中の論文について報告し、議論する。

第7回? 第8回 中間報告会

各自レジュメを作成し、発表する。

第9回? 第13回 論文報告

各自が執筆中の論文について報告し、議論する。

第14回? 第15回 最終報告会

完成した卒業論文について発表する。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

毛利 進太郎

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のDPが示す経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用

できると共により良い社会構築に貢献できるための素養を身に着けることを目指しています。

卒業論文指導では演習 から卒業論文まで続く演習のまとめとして、これまで学んだことをもとに、IT技術と社会との関わりを研究し、また社会のデータの分析を通じて今後の社会の可能性を考え、卒業論文としてまとめます。

< 到達目標 >

これまで調査、考察してきたことを卒業論文としてまとめることができる。

< 授業の進め方 >

各自必要に応じて相談し卒論を作成していきます。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

卒業論文を途中段階を含め適宜提出してもらいます。また随時講評を行います。

< 成績評価方法・基準 >

中間発表等を作成状況も含めた卒業論文で評価します(100%)。卒業論文を提出し、卒業論文の単位と同時に取得することが前提です。

< 授業計画 >

第1回 卒業論文ガイダンス

卒業論文の書き方、進め方について解説を行う。

第2回 卒業論文記述

各自の卒業論文の途中段階を提示し、書き方の指導、内容についての議論を行う。

第3回 卒業論文記述

各自の卒業論文の途中段階を提示し、書き方の指導、内容についての議論を行う。

第4回 卒業論文記述

各自の卒業論文の途中段階を提示し、書き方の指導、内容についての議論を行う。

第5回 卒業論文記述

各自の卒業論文の途中段階を提示し、書き方の指導、内容についての議論を行う。

第6回 中間発表

これまで調査してきたことをもとに、調査内容と卒業論文の構成について発表を行い、以降の進展について議論を行う。

第7回 中間発表

これまで調査してきたことをもとに、調査内容と卒業論文の構成について発表を行い、以降の進展について議論を行う。

第8回 中間発表

これまで調査してきたことをもとに、調査内容と卒業論文の構成について発表を行い、以降の進展について議論を行う。

第9回 中間発表の総括

中間発表について総括を行い、各自の卒業論文の最終的な方向性について議論する。

第10回 中間発表の総括

中間発表について総括を行い、各自の卒業論文の最終的な方向性について議論する。

第11回 中間発表の総括

中間発表について総括を行い、各自の卒業論文の最終的な方向性について議論する。

第12回 卒業論文の完成と発表

卒業論文を仕上げながら、その内容についての発表を行う。

第13回 卒業論文の完成と発表

卒業論文を仕上げながら、その内容についての発表を行う。

第14回 卒業論文の完成と発表

卒業論文を仕上げながら、その内容についての発表を行う。

第15回 卒業論文の完成と発表

卒業論文を仕上げながら、その内容についての発表を行う。

2022年度 後期

2単位

卒業論文指導

渡部 尚史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は経済学部のDPに示す「経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」ことを目的とする。

< 到達目標 >

決算カードによる財政分析に必要な統計的な処理・分析ができる。

< 授業のキーワード >

地方公共団体の財政分析、決算カード

< 授業の進め方 >

報告を中心に授業を進める。

< 履修するにあたって >

地方財政論の単位を修得することが望ましい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、報告原稿を作成する(1.5時間)。事後学習として、原稿を改訂する(0.5時間)。

< 成績評価方法・基準 >

2週間ごとに原稿を提出し金曜日3時限目に結果報告を受けることを前提に、原稿の報告内容100%の割合で評価する。金曜日3時限目に所用等で出席できない場合でも、事前に原稿を必ず提出すること。原稿の未提出が2回ま

でが成績評価の前提である。

< 授業計画 >

第1回 卒業論文の作成要領

論文作成の要領と全体の論文構成を理解する。

第2回 第1章前半の作成

第1章(概要)の1-1(国勢調査人口)、1-2(就業者)、1-3(市町村内総生産)の原稿を作成して、報告する。

第3回 第1章後半の作成

第1章(概況)の1-4(一般職員等)、1-5(一部事務組合の加入状況)、1-6(特別職等の定数と平均給料(報酬)月額)の原稿を作成して、報告する。

第4回 第2章前半の作成

第2章(歳入の分析)の2-1(歳入総額と歳出総額)、2-2(形式収支と実質収支)の原稿を作成して、報告する。

第5回 第2章後半の作成

第2章(収支の状況)の2-3(単年度収支と実質単年度収支)の原稿を作成して、報告する。

第6回 第3章前半の作成

第3章(歳入の分析)の3-1(2019年度の主要な歳入項目)、3-2(主要科目の動向)、3-3(一般財源の動向)の原稿を作成して、報告する。

第7回 第3章後半の作成

第3章(歳入の分析)の3-4(地方税の動向)、3-5(その他の収入の動向)の原稿を作成して、報告する。

第8回 第4章前半の作成

第4章(歳出の分析)の4-1(2019年度の目的別歳出)、4-2(目的別歳出の動向)、4-3(一般財源等の目的別歳出に対する充当状況)の原稿を作成して、報告する。

第9回 第4章後半の作成

第4章(歳出の分析)の4-4(2019年度の性質別歳出)、4-5(性質別歳出の動向)、4-6(一般財源等の性質別歳出に対する充当状況)の原稿を作成して、報告する。

第10回 第5章前半の作成

第5章(財政指標の分析)の5-1(財政診断の考え方)、5-2(財政規律の堅持:健全性、起債余力)の原稿を作成し、報告する。

第11回 第5章後半の作成

第5章(財政指標の分析)の5-3(高品質な財政運営:弾力性、効率性)、5-4(自律的な財政運営:自律性、余裕度)、5-5(負担度合いと積立金)の原稿を作成し、報告する。

第12回 「おわりに」の作成

「おわりに」の原稿を作成して、報告する。

第13回 「はじめに」の作成

「はじめに」の原稿を作成して、報告する。

第14回 全体の報告

全体の原稿を報告する。

第15回 最終報告

最終原稿を報告する。

2022年度 前期

4単位

地域経済論 [生活]

関谷 次博

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

地域の実情を書籍や資料とともに知ること、ならびに実地調査をもとに知るといのように調査方法を修得するとともに、課題を見出し、課題解決のための提言にむすびつけることができるようにする。

本講義はDPの1「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」に対応しています。

< 到達目標 >

1. 資料調査ができる。
2. 現地調査ができる。
3. 課題を見出すことができる。
4. 課題解決の方法を提示することができる。

< 授業のキーワード >

経済史、地方創生

< 授業の進め方 >

本講義中の事例研究ではフィールドワークをおこなう予定です。また、フィールドワーク実施時には講義動画配信も併用します。第1回目の講義にて進め方について説明をします。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義中に得られた調査のための方法を自身でも実践する。

(講義後30分程度)

< 成績評価方法・基準 >

確認テスト40%、期末レポート60%

なお、提出課題が3分の2に満たない場合には、成績評価の対象とはせず「/」となります。

< テキスト >

講義中にプリントを配布します。

< 参考図書 >

講義中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

講義の進め方について説明する。

第2回 地域経済論の基礎

地域経済の基礎知識を説明する。

第3回 地域と地域づくり

地域とは何か。何が問題か。

第4回 地域と地域づくり

人間を中心に地域を考える。

第5回 経済のグローバル化と地域の変貌

日本経済史のなかの地域経済

第6回 経済のグローバル化と地域の変貌

地域産業の構造

第7回 地域社会の持続可能性

地域衰退の要因

第8回 地域社会の持続可能性

SDG s と地域経済

第9回 戦後地域開発政策の展開

全総から地方創生まで

第10回 戦後地域開発政策の展開

企業誘致の是非

第11回 地域活性化

地域活性化とは何か。

第12回 地域活性化

地域の持続的発展

第13回 確認テスト

3?12回の分の確認テスト

第14回 確認テスト

3?12回の分の確認テスト

第15回 確認テストの解説

確認テストの結果を発表するとともに、全問の解説をおこなう。

第16回 確認テストの解説

確認テストの結果を発表するとともに、全問の解説をおこなう。

第17回 地域内産業連関

事例研究

第18回 地域内産業連関

事例研究

第19回 地方自治体と地域づくり

事例研究

第20回 地方自治体と地域づくり

事例研究

第21回 商店街の盛衰

事例研究

第22回 商店街の盛衰

事例研究

第23回 市町村合併と地域の変容

市町村合併の歴史

第24回 市町村合併と地域の変容

市町村合併と地域経済活性化

第25回 地域住民主権の地域づくり

地域づくりにおける地域住民の関わり方

第26回 地域住民主権の地域づくり

地域の未来は誰が考えるのか。

第27回 確認テスト

17?26回の分の確認テスト

第28回 確認テスト

17?26回の分の確認テスト

第29回 確認テストの解説

確認テストの結果を発表するとともに、全問の解説をおこなう。

第30回 まとめ

全講義のまとめと定期試験にむけた解説をおこなう。

2022年度 前期

4単位

地方財政論 公共(総合)

圓生 和之

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

地方財政のしくみと課題について学びます。

経済学部生のための「地方行政論」といった内容の講義です。公務員志望者には、公務員試験対策や採用後に役立つ内容です。民間企業志望者には社会のしくみを知るのに役立ちます。

経済学部のDPに掲げる「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを目指します。この科目は専門教育科目で、公共経済コースでは選択必修科目のコース科目、企業経済コースと生活経済コースでは選択科目の専門科目に位置づけられています。

なお、この科目の担当教員は、地方行政に20年以上携わっていた実務経験のある教員ですので、必要に応じて地方行政の現実を交えて解説したいと思います。

< 到達目標 >

- ・地方行政について経済学の観点から分析できる(知識)、
- ・地方行政について日頃から高い関心を持つことができる(態度・習慣)、
- ・地方行政に関する問題について自分の考えを述べることができる(技能)、ことを目指します。

< 授業のキーワード >

地方自治制度、地方公共団体、地方行政、地方財政、地方公共団体の政策

< 授業の進め方 >

講義を中心に進めますが、学生の積極的な発言も歓迎します。

講義の講義の進め方や成績評価方法について、第1回の講義で説明しますので、

受講する学生は必ず第1回の講義を受講してください。

< 履修するにあたって >

下記の「テキスト(教科書)」を入手してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

必要となる時間は、一律ではないものの、平均的には90分程度が目安となります。

< 提出課題など >

定期試験は実施せず、講義時間中に「期末テスト」を実施しますが、下記のテキストの持込ができます。

このほか、講義時間中に「中間テスト」「小テスト」を行い、いずれも講義の中で解説と講評(フィードバック)を行います。

第17回講義で中間テスト、第29回講義で期末テストを実施予定

< 成績評価方法・基準 >

講義中の「期末テストと中間テスト」60%、小テスト40%、で評価します。

(このほか、講義中の発言等講義への貢献、受講態度について、加点または減点することがあります。)

< テキスト >

圓生和之(2020)『地方公務員の人事がわかる本』学陽書房

第4週から、このテキストに沿って講義をしますので、それまでに入手しておいてください。

期末テストは、このテキストの持ち込みができます。

< 参考図書 >

林宜嗣(2008)『地方財政(新版)』有斐閣

持田信樹(2013)『地方財政論』東京大学出版会

沼尾波子ほか(2017)『地方財政を学ぶ』有斐閣

小西砂千夫(2018)『基本から学ぶ地方財政(新版)』学陽書房

< 授業計画 >

第1・2回

第1章

地方財政

地方財政の意義、地方財政の全体像

第3・4回

第2章

地方自治制度

地方自治制度の概要

第5回

第3章

財政学の基礎(1)

財政の役割

市場と政府、資源配分機能

第6回

財政学の基礎(2)

財政の役割

所得再分配機能、経済安定化機能

第7回

第4章

地方財政制度の基礎知識

(1)地方財政計画

地方財政計画、地方交付税

第9回

(2)地方財政白書
地方税、国庫支出金、地方債、公共投資と地方財政
第11回

(3)地方財政健全化法
経常収支比率、公債費負担率、健全化4指標
第13回

(4)現代の課題
東日本大震災への対応、コロナ禍への対応と地方財政、
地方行政の未来
第15回～
第17回 中間・復習
中間・復習
(第1章地方財政～第4章地方財政制度の基礎知識)
第8回
第10回 歳出・人件費(1)
地方公務員の現状
第12回
第14回 歳出・人件費(2)
地方公務員の多様性
第18回
第19回 歳出・人件費(3)
地方公務員の行動原理
第20回
第21回 歳出・人件費(4)
地方公務員の給与
第22回～
第24回 歳出・人件費(5)
分権時代の地方公務員
第25回
歳出・政策(1)
公共事業、まちづくり
第26回
歳出・政策(2)
労働政策、社会保障
第27回
歳出・政策(3)
経済政策、産業政策
第28回
歳出・政策(4)
地方分権と地方創生
第29回 期末テスト
期末テスト
第30回 総まとめ
期末テストの解説(総まとめ)

2022年度 後期

4単位

地方創生論 [生活]

田口 順等

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

近年、産業の空洞化や少子高齢化など地域をめぐる環境は悪化している。その一方で国の総合戦略として地域おこしや、地方創生など様々な取り組みが提唱され、地方自治体や企業、住民が様々な取り組みを行っている。本講義では地域の経済や現状について解説しその問題点を考える。そしてその解決策として地方創生・地域活性化の方策・具体的事例について解説し、これからの地域の在り方について解説する。

以上の目的から経済学部DPの「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」の(知識・技能)に対応している。

<到達目標>

地域経済・地域活性化についての知識や実情を学び、そこから問題解決方法や経済学的思考を身に着けることができる(知識・技能)

<授業のキーワード>

地方創生・地域再生・地域経済学・地域活性化

<授業の進め方>

知識・能力を理解・定着させるため講義内容を踏まえた課題や小レポート与える。

進捗状況によっては授業内容が前後、変更される場合がある。

<履修するにあたって>

課題や小レポートやテストは講義の知識をもとにした応用・発展問題となります。出席はもちろんのこと、講義内容を十分に理解しなければ、評価は良いものになりません。

<授業時間外に必要な学修>

講義後の課題作成や復習・テスト勉強など講義回ごとに30分~90分の勉強時間が必要である。

<提出課題など>

講義回ごとに適宜指示し、解説は次回の講義で行う。

<成績評価方法・基準>

講義終了後の課題(30%)・小テスト(30%)・定期試験またはレポート(40%)などで評価する。

<テキスト>

なし。適宜資料を配布する。

<参考図書>

適宜指示する。

<授業計画>

第1回第2回 講義案内
地域の概念、地域を学ぶ
第3回第4回 地域の抱える問題
地方経済の現状、産業構造について
第5回第6回 地域の抱える問題
地方財政制度・累積債務問題について
第7回第8回 地域の抱える問題
ふるさと納税
第9回第10回 地域の抱える問題
エネルギー政策と地域
第11回第12回 地域の抱える問題
少子高齢化問題、過疎化について
第13回第14回 地域の抱える問題
地域情報論について
第15回第16回 これまでのまとめ
中間試験と解説
第17回第18回 地域の産業振興
観光客誘致による地域活性化と問題点について
第19回第20回 地域の産業振興
六次産業化と地域ブランド
第21回第22回 地域の産業振興
農林水産業の振興・地域と六次産業化
第23回第24回 地域活性化策
地方公共交通
第25回第26回 地域活性化策
コンパクトシティ
第27回第28回 地域活性化策
文化政策・景観保全・まちづくり
第29回第30回 まとめ
持続可能な地域政策・地域経営について

2022年度 後期

4単位

中級マクロ経済学 [公共]

佐藤 伸明

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のDP（ディプロマ・ポリシー：学位授与方針）の2「経済理論の基礎を習得」することに資する科目である。

この科目は公共経済コース3年時配当の専門科目であり、2年次配当の「マクロ経済学」に続いて、マクロ経済学の発展的内容を学習する。

公務員試験で頻出する内容でありながら、2年時配当の「マクロ経済学」では取り扱わない内容を学習し、公務員試験の経済原論マクロ経済学分野で合格点を取れるような経済学力の習得を目標とする。

< 到達目標 >

マクロ経済学の内容をより深く理解できる、とともに、公務員試験の「経済原論」マクロ経済学分野で合格点がとれるような経済理論の学力を獲得できる。

< 授業のキーワード >

AD・ASモデル、新古典派マクロ経済学、成長理論、国際マクロ

< 授業の進め方 >

配布資料に基づき、課題提出型の授業進行。

< 履修するにあたって >

全30回のうち、前半はケインズ派経済学、後半は反ケインズ学派や経済成長理論などを講義する。

2年次配当の[マクロ経済学]に続く内容を学習するので、2年次程度の「マクロ経済学」の知識が前提となる。授業開始までに、2年次既習の内容を復習しておくこと。

2年次のマクロの授業に比べると学習進度はかなり早い。また、1次? 3次関数、因数定理、微積分などの計算問題練習が大変多いので「経済数学」の単位を取得し、自分で微分・偏微分できることが必要である。計算や数学が苦手な者にはしんどい内容となっている。

< 授業時間外に必要な学修 >

参考図書 または および配布プリントを使って予習すること。各回1時間の予習が必要である。

参考図書 または および配布プリントを使って、各回の授業内容のまとめを作成し、かつ指定図書等を使用して類似の問題を練習すること。各回1時間以上の復習が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に行う2回の試験に基づく（対面テスト100%）。第1回目（中間テスト）は第8週目、第2回目（期末テスト）は第15週目に行う。各回100点満点、計200点満点で評価する。

< テキスト >

配布プリント。

復習や予習には、参考図書 も各自で活用してください。

類似の書物を所有していればそれでも構わない。

< 参考図書 >

中谷巖著『マクロ経済学入門』2007.1, 日本経済新聞社の日経文庫の一冊

中谷巖著『入門 マクロ経済学』（第6版）2021.2, 日本評論社

は の入門版のような本。 をしっかり読めるようになることが重要。

実務教育出版の 野本淳子編著：『20日間で学ぶマ
クロ経済学の基礎』（改訂版）

公務員試験受験者用の問題集です。これより少しレベ
ルが高い本格版は、次の、。

新スーパー過去問ゼミ『マクロ経済学』，資格研究会
編

『過去問解きまくり マクロ経済学』東京リーガルマ
インド編著

他に、公務員試験用の関連本を所有している場合、そ
れを使用してもかまいません。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

学習予定と範囲・学習の仕方

第2回 つづき

既習内容の復習

第3回 マクロ経済学の基本概念

3面等価の原則

第4回 つづき

ワルラス法則

第5回 45度線分析

有効需要の原理

第6回 つづき

つづき

第7回 IS-LM分析

均衡国民所得と均衡利子率の同時決定

第8回 つづき

問題演習

第9回 IS-LM分析

総需要政策の有効性

第10回 つづき

つづき

第11回 IS-LM分析

応用

第12回 つづき

つづき

第13回 中間テスト

これまでの復習

第14回 つづき

つづき

第15回 中間テスト

中間テスト

第16回 AD-AS分析

国民所得と物価の同時決定

第17回 AD-AS分析

財政・金融政策の効果

第18回 つづき

つづき

第19回 新古典派マクロ経済学
枠組み：労働市場

第20回 つづき

つづき

第21回 新古典派マクロ経済学
マネタリズム

第22回 つづき

自然失業率仮説，合理的期待

第23回 経済成長論

成長会計

第24回 経済成長論

ケインズ派成長論

第25回 経済成長論

新古典派成長理論

第26回 つづき

つづき

第27回 国際マクロ経済学

国際収支と為替理論

第28回 つづき

マンデル・フレミングモデル

第29回 つづき

つづき

第30回 期末テスト

期末テスト

2022年度 前期

4単位

中級ミクロ経済学 公共

佐藤 伸明

< 授業の方法 >

講義

対面方式

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のDP（ディプロマ・ポリシー：
学位授与方針）の2「経済理論の基礎を習得」すること
に資する科目である。

この科目は公共経済コース3年時配当の専門科目であ
り、2年次配当の「ミクロ経済学」に続いて、ミクロ経
済学の発展的内容を学習する。

公務員試験で頻出する内容でありながら、2年時配当
の「ミクロ経済学」では取り扱わない内容を学習し、公
務員試験の経済原論ミクロ経済学分野で合格点を取れる
ような経済学力の習得を目標とする。

< 到達目標 >

ミクロ経済学の内容をより深く理解できる、とともに、
公務員試験の「経済原論」ミクロ経済学分野で合格点が
とれるような経済理論の学力を獲得できる。。

< 授業のキーワード >

完全競争市場分析，独占理論，寡占理論

< 授業の進め方 >

配布資料に基づき，課題提出型の授業進行。

< 履修するにあたって >

全30回のうち，前半は完全競争市場経済分析，後半は不完全競争市場分析を講義する。

2年次配当の「ミクロ経済学」に続く内容を学習するので，2年次程度の「ミクロ経済学」の知識が前提となる。授業開始までに，2年次の既習内容を復習しておくこと。

2年次のミクロ経済学の授業に比べると学習進度はかなり早い。

また，1次？3次関数，因数定理，微積分などの計算問題練習が大変多いので，

「経済数学」の単位を取得し，かつ，自分で微分・偏微分できることが必要である。

難易度で言えば，経済学部専門科目群の中で最も難しい科目の一つであろう。計算が苦手な者には厳しい授業内容になる。

< 授業時間外に必要な学修 >

指定図書および配布プリントを使って予習すること。各回1時間の予習が必要である。

指定図書および配布プリントを使って，各回の授業内容のまとめを作成し，かつ指定図書等を使用して類似の問題を練習すること。各回1時間以上の復習が必要である。

< 成績評価方法・基準 >

授業中に実施する試験（中間テスト）および定期試験（またはそれに代わる期末テスト<授業中に実施する>）に基づく。対面テスト100%

< テキスト >

配布プリント。

配布プリントの内容は下記の参考図書に基づいています。

参考図書 または の該当箇所を予習，復習に使用してください。

< 参考図書 >

西村和雄著『ミクロ経済学』（第3版）岩波書店の<現代経済学シリーズ>の1冊

第2章から第11章が授業内容に符合します。

西村和雄著『ミクロ経済学入門』（第2版）岩波書店，2013年。

これは よりもかなりレベルが高い本格版。 は の簡略版で説明が易しい。本格的にミクロ経済学を学びたい者は の方が適している。 には問題集も出版されている。

西村和雄著『ミクロ経済学』東洋経済新報社，これは よりもさらに数学的な展開がなされているテキスト。一般的な問題集としては，下記のようなものがある。

野本淳子編著『20日間で学ぶミクロ経済学の基礎』（改訂版），実務教育出版

新スーパー過去問ゼミ『ミクロ経済学』，資格試験研究会

『過去問解きまくり マクロ経済学』東京リーガルマインド編著

その他，公務員試験受験者向けの本を所有していれば，それでも構わない。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

学習予定と範囲・学習の仕方

第2回 既習内容の復習

数学的扱いなど。

第3回 消費者行動の理論

効用最大化：計算問題

第4回 つづき

つづき

第5回 消費者行動の理論

需要曲線の導出

第6回 つづき

つづき

第7回 消費者行動の理論

応用と問題練習

第8回 つづき

つづき

第9回 生産者行動の理論

利潤最大化：計算問題

第10回 つづき

つづき

第11回 生産者行動の理論

供給曲線の導出

第12回 つづき

つづき

第13回 生産者行動の理論

長期理論と応用

第14回 つづき

つづき

第15回 中間テスト

中間テスト（60分：持ち込み不可：記述式）

第16回 中間テストの解説

答え合わせ

第17回 完全競争市場の効率性

部分均衡分析(1) 均衡の安定性

第18回 つづき

つづき

第19回 完全競争市場の効率性

部分均衡分析(2) 厚生損失

第20回 つづき

つづき

第21回 完全競争市場の効率性

一般均衡分析

第22回 つづき

つづき

第23回 不完全競争の理論

独占

第24回 つづき

計算問題

第25回 不完全競争の理論

差別価格, 自然独占

第26回 不完全競争の理論

寡占

第27回 つづき

つづき

第28回 不完全競争の理論

独占的競争, 需要独占

第29回 つづき

つづき

第30回 まとめ

まとめ

2022年度 後期

4単位

中小企業論 企業

井上 善博

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

< 主題 > 日本では、戦後の経済復興の混乱の中で多くの中小企業が誕生し、生活必需品の供給や輸出で日本経済の発展に貢献しました。しかし、国の政策である大企業への資源の傾斜配分により、中小企業の経営は厳しくなってきました。2000年代に入り、経済のグローバル化が進展し、新興国の追い上げが急速に進んでいます。その結果、中小企業の廃業率は高まり、中小企業数の減少に歯止めがかからない状況にあります。このように中小企業は厳しい状況におかれていることは確かですが、ものづくりの原点としてそして、日本経済の要として中小企業を捉えることも大事です。このように本講義の主題は、

中小企業のおかれている現状とものづくりを起点とした中小企業の新たな事業展開について考えることです。

< 目的 > 経済学や経営学にかかわる諸問題を分析できる知識と技能を育むことを目的とする。本講義の目標は、経済学や産業論、国の政策の視点で、つまり大きな視点で中小企業を理解するとともに、経営学つまりマネジメントの視点で中小企業の経営課題を理解することです。アップルコンピューターやホンダなどの現代の大企業は、起業の時点では、中小企業でした。中小企業が世界のトップ企業になっていけるような経営上の工夫についても理解しましょう。

この科目は学部のDPで示す、

1. 経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

以上の点を目的とする。

< 到達目標 >

・戦後の日本経済の発展を支えた中小企業の貢献を観察できる。

・近年のベンチャービジネス(新規事業)の動向について関心を持つことができる。

・ベンチャー企業を創業するための技能を身につけることができる。。

< 授業のキーワード >

地域経済・地域ブランド・経済発展と中小企業・河内のタオル産業・ご当地グルメ

< 授業の進め方 >

パワーポイントを活用して授業をおこないます。毎回、中小企業診断士試験の問題を解き、授業の理解度を高めます。

< 履修するにあたって >

日本の経済を支える中小企業の役割について、調べてみましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

中小企業に関する本を読み、日本の中小企業の力強さ、中小企業のモノづくりの精密さについて理解を深めること。(50分)

< 提出課題など >

授業毎回のレポートはありません。

< 成績評価方法・基準 >

中間40%レポート, 期末レポート60%で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

佐久間信夫・井上善博『現代中小企業経営要論』創成社。

< 授業計画 >

第1回 中小企業の定義、地位と役割
 中小企業の存立条件と存立形態について

第2回 イノベーションと技術経営
 イノベーションの定義と知的財産戦略

第3回 中小企業と経営問題
 21世紀の中小企業を取り巻く経営環境と経営問題に対する方策

第4回 ネットワーク戦略と産業クラスター
 我が国における地域経済活性化の変遷

第5回 中小企業の経営革新
 新製品の開発や新市場の開拓

第6回 人的資源管理
 中小企業の人事制度と成果主義

第7回 下請けシステムと中小企業
 高度経済成長期を支えた中小企業の下請システム

第8回 報酬制度と能力開発
 賃金管理制度と能力開発の方法、労働関連法規の理解

第9回 中小企業と労働問題
 中小企業の労働者の流動化と大企業との賃金格差

第10回 マーケティングの基礎概念
 マーケティングコンセプトの変遷とマーケティングの領域

第11回 中小企業と金融問題
 中小企業の資金調達方法?公的金融と地域金融機関

第12回 マーケティングマネジメント戦略の展開
 ターゲットマーケティングと市場細分化

第13回 産業集積・地場産業と中小企業
 日本の産業集積の類型と特質、地場産業と地域ブランド

第14回 マーケティング情報システム
 マーケティングリサーチのプロセス、マーケティングデータの分析手法

第15回 前回までのまとめ
 中小企業の定義や労働環境など中小企業を取り巻く経営環境を理解、整理する

第16回 中間確認テスト
 前回までの学習内容が理解されているか確認します

第17回 流通システムの変化と中小企業流通
 流通の環境の規制緩和と流通機能の再構築

第18回 製品戦略
 提供製品の多様化と製品のモデルチェンジの頻繁化による顧客の取り込みについて

第19回 経済のグローバル化と中小企業
 東アジアでの生産分業ネットワークの構築と中国企業との競合

第20回 ブランド戦略とサービスマーケティング
 ブランドの機能?品質表示機能や宣伝広告機能など

第21回 情報革命と中小企業
 情報技術を活用したビジネスモデルの検討

第22回 価格戦略
 価格設定のプロセス、新製品の価格設定政策

第23回 ベンチャー企業の成長と課題
 ベンチャー企業の成長プロセスと経営課題

第24回 チャネル、物流戦略
 垂直的マーケティングシステムと物流の機能

第25回 中小小売業とまちづくり
 中小小売業の活性化とコミュニティビジネス

第26回 プロモーション戦略
 広告、パブリシティ、人的販売、販売促進による顧客とのコミュニケーション

第27回 中小企業と多様なネットワーク
 地域活性化に貢献する中小企業ネットワーク

第28回 関係性マーケティングとインターネットマーケティング
 ソーシャルネットワークの普及と新たな販売促進媒体の誕生

第29回 サービス経済化と中小サービス産業
 新しい産業を生み出すスモールビジネス

第30回 全体のまとめ
 日本の中小企業政策と中小企業の発展可能性

 2022年度 前期

4単位

統計学

中村 亨

 <授業の方法>

講義

PC実習室での対面講義を行う。

<授業の目的>

統計学は今やあらゆる学問の基礎になっている。この科目は経済学部でのDPに示す経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理ができることを目指す。さらに世の中の現象をデータをもとに分析し、統計をベースにした意思決定ができるようになることを目指す。

<到達目標>

統計ソフト「R」を用いて、統計学の基礎を学ぶ。(知識)

統計ソフト「R」を用いて、データの整理ができる。(技能)

統計ソフト「R」を用いて、分析、視覚的表現ができる。(技能)。

意思決定するとき、データに基づいて客観的に判断できる。(態度・習慣)

<授業のキーワード>

確率・推定・検定・平均・分散

<授業の進め方>

統計ソフト「R」を使いながら、スライド、講義ノートを中心とした授業を行う。配布された講義レジュメを中

心に、統計学の基礎概念を学び、それがPCの実習、演習問題、提出課題を通して確実な知識となるようにする。

<履修するにあたって>

学内の学習オンラインシステムdotCampus上に、授業時の教材及び課題をあげますので、授業だけでなく、自習できるようにします。頻りにdotCampusを参照すること。配布教材を事前学習として目安として1時間読んでおく。配布教材の指定された演習問題を事後学習として1時間で解く。

対面授業で統計ソフトを使用するため、自宅のPCに統計ソフト「R」をインストールしておくことが望ましい(詳しいことは第1回目の授業時に説明)。

<授業時間外に必要な学修>

自宅での予習・復習の内容は授業時、及びdotCampus上で示されます。

事前学習として、授業の冒頭で行う小テストの準備し、講義の対象となる教材の箇所を読んでおくこと。(目安として1時間)

事後学習として、教材での演習問題を再確認しておくこと。(目安として1時間)

<提出課題など>

・小テストを頻りに実施します。そのフィードバックとして、テスト終了後に解説を行い、自己採点できるようにします。

・数回の課題レポートを課します。そのフィードバックとして、課題レポート提出後に、模範解答と解説した内容をdotCampusにアップし、自習できるようにします。

<成績評価方法・基準>

小テスト(80%)・提出課題(20%)で評価

<参考図書>

『Rで学ぶ統計学』 長畑秀和著 共立出版

『数学ガールの秘密ノート やさしい統計学』 結城浩著 SBクリエイティブ

『統計学』 久保川達也・国友直人著 東京大学出版会

<授業計画>

第1回 統計学を学ぶにあたって

統計学を学ぶ意義を理解する。統計学でどのようなことができ、どのようなことを認識できるのかを学ぶ。

第2回? 第5回 Rの基礎と統計データの視覚化

データ整理の基礎と度数分布の作図

第6回? 第9回 代表的な統計概念を学ぶ

平均値と分散の概念と計算を学ぶ

第10回 理解度の確認

第1回から第9回までの講義内容を対象とした総合演習です

第11回? 第13回 確率変数と確率分布

確率計算に必要な概念を学び、種々の分布、特に正規分布の特徴を理解する

第14回? 第16回 標本の特性

標本平均、標本分散、中心極限定理の概念を学ぶ

第17回? 第19回 信頼区間とは

信頼区間の概念を学ぶ

第20回 理解度の確認

第11回から第19回までの講義内容を対象とした総合演習です

第21回? 第23回 検定に挑戦

仮説の概念を理解し、母平均、母分散の検定を学ぶ

第24回? 第25回 分散分析の基礎

分散分析の基礎を理解し、一元配置法、二元配置法を学ぶ

第26回 相関・回帰分析を学ぶ

相関係数の概念、計算、検定を学び、単回帰分析、重回帰分析の基礎を理解する

第27回 回帰分析による実証分析

データベースをもとに、種々の問題を回帰分析により解決する、実習型の内容となる

第28回 理解度の確認

データをベースにした政策分析ができるかを確認するための総合演習です

第29回 因果推論の方法

ランダム化実験、差の差の分析、非連続回帰分析の方法を学ぶ

第30回 理解度の確認

第1回から第29回までの講義内容を対象とした総合演習です

2022年度 後期

4単位

統計学

西山 茂

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本授業の目的は、DP「3.経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。」と関連する。主題 この授業では、経済学を学ぶ人のために必要な統計学を講義します。最初に記述統計学と確率について講義したのち、確率分布の基礎概念から回帰分析にいたるまでを講義します。統計学の基本的な考え方が理解できることが重要です。目標 1.二項分布、正規分布が理解できること。2.推定と仮説検定の具体的な事例が理解できること。3.回帰分析が使えるようにすること。4.統計学と経済学との関係に興味を持つこと。

<到達目標>

統計学の基本的な考え方について学ぶことができる。

<授業の進め方>

理解を深めるため、授業中に練習問題を解いてもらう。

<履修するにあたって>

必ず復習すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の復習を必ずすること。復習のための勉強時間は最低1時間必要。

< 提出課題など >

なし

< 成績評価方法・基準 >

定期試験100%の割合で評価する。

< テキスト >

P.G. ホーエル著 浅井晃・村上正康共訳『初等統計学』
培風館 ¥1,733

< 授業計画 >

第1回 統計的方法の性質

記述統計学とは何か、推測統計学とは何かについて説明する。また、母集団とは何か、標本とは何かについて概略を説明する。

第2・3回 標本データの記述

記述統計学の基礎について学ぶ。度数分布、ヒストグラムについて説明する。また、平均、分散、標準偏差について学ぶ。

第4・5回 確率

確率の基本概念について学ぶ。加法定理、乗法定理、事象の独立、ベイズの定理、順列と組合せなどのトピックについて学ぶ。

第6・8回 確率分布

確率変数と確率分布について学ぶ。期待値の概念や連続型確率分布と離散型確率分布について説明する。

第9・13回 主要な確率分布

二項分布、正規分布について講義する。また、二項分布の正規分布への近似について学ぶ。

第14・16回 標本抽出

母集団の分布と標本平均の分布との関係について学ぶ。中心極限定理とその応用について学ぶ。

第17・20回 推定

母集団平均と母集団比率の推定について講義する。区間推定や推定値の精度について学ぶ。

第21・24回 仮説の検定

平均値の検定、比率の検定、平均値の差の検定、比率の差の検定について学ぶ。

第25・30回 相関と回帰

相関分析と回帰分析について講義する。

2022年度 前期

2単位

導入演習 (編転入・転学部生用クラス)

麻生 裕貴

< 授業の方法 >

対面による演習と講義

< 授業の目的 >

導入演習 では講義時間中にテキストの輪読とグループディスカッションを行ない、基礎知識の習得と現代社会の課題について考察してもらう。この授業は、経済学部DP 「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」とDP 「自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる。」に対応しており、それらを修得することを目標とする。

< 到達目標 >

日本経済の基礎を理解し、説明できるようになること。また、それらの知識を用いて現実経済の問題に対して考察できるようになること。

< 授業のキーワード >

GDP、物価水準、経済成長

< 授業の進め方 >

教員がレジュメ・レポートの書き方と発表の仕方について講義する。その後、テキストを輪読しながら日本経済について学習した後、グループディスカッションを行い、経済的思考を養う。

< 履修するにあたって >

講義内容の進捗状況に応じて、一部内容が変更になる場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

他の授業科目や新聞やテレビのニュース、インターネットなどで、幅広く世の中の経済問題に関心を持ち、分からないことや疑問点などを積極的に調べる(2時間)

< 提出課題など >

日本経済の知識を習得するため、課題を課すことがある。次週の講義で課題の解説と講評を行なう。

< 成績評価方法・基準 >

演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

< テキスト >

初回の講義で指定する。

< 参考図書 >

『日本経済入門』 第2版 日経ビジネス

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要と進め方、評価について説明する。

第2回 プレゼンテーションスキル

プレゼンテーションスキルについて説明する。

第3回 需要と供給

需要と供給について学習した後、グループディスカッションを行なう。

第4回 経済指標

経済指標について学習した後、グループディスカッションを行なう。

第5回 政府の活動と経済

政府の活動と経済について学習した後、グループディスカッションを行なう。

第6回 銀行の役割

銀行の役割について学習をした後、グループディスカッションを行なう。

第7回 貿易赤字は絶対悪なのか

貿易赤字について学習をした後、グループディスカッションを行なう。

第8回 「見えざる手」って何？

「見えざる手について」学習をした後、グループディスカッションを行なう。

第9回 私たちはなぜ全部自国でモノをつくらないのか？

国際経済学について学習をした後、グループディスカッションを行なう。

第10回 情報の経済学

情報の経済学について学習をした後、グループディスカッションを行なう。

第11回 行動経済学

行動経済学について学習をした後、グループディスカッションを行なう。

第12回 日本経済の知識

日本経済について学習をした後、グループディスカッションを行なう。

第13回 日本経済の課題

グループワークを行ない、報告してもらう。

第14回 日本経済の課題

グループワークを行ない、報告してもらう。

第15回 日本経済の課題

グループワークを行ない、報告してもらう。

2022年度 後期

2単位

導入演習 (編転入・転学部生用クラス)

麻生 裕貴

< 授業の方法 >

対面による演習と講義

< 授業の目的 >

・この授業の目的は、経済学部 DP に示す「4. 自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる」、及び「5. 経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」ようになることである

・導入演習 で学習した知識を活かして、日本経済の課題についてグループディスカッションをしてもらう。

< 到達目標 >

・グループワークを通じて、日本経済の課題について分析できるようになる。

・発表や討論を通じて、自身の考えを適切に主張できる

ようになる。

< 授業のキーワード >

日本経済、プレゼンテーションスキル

< 授業の進め方 >

教員による講義のあと、グループワークを行なう。

< 履修するにあたって >

講義内容の進捗状況に応じて、一部内容が変更になる場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

他の授業科目や新聞やテレビのニュース、インターネットなどで、幅広く世の中の経済問題に関心を持ち、分からないことや疑問点などを積極的に調べる(2時間)

< 提出課題など >

グループごとのレポートを提出してもらう。授業の中で随時、進捗状況がチェックされフィードバックされる。

< 成績評価方法・基準 >

演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

< テキスト >

初回授業で指定する。

< 参考図書 >

適宜、指示する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

演習の概要を説明する。

第2-5回 グループワーク

教員が提示した日本経済の課題について、グループで調査分析してもらう。

第6回 グループワーク の発表

グループワーク の調査・研究結果をプレゼンしてもらう。

第7-9回 グループワーク

教員が提示した日本経済の課題について、グループで調査分析してもらう。

第10回 グループワーク の発表

グループワーク の調査・研究結果をプレゼンしてもらう。

第11-13回 グループワーク

グループごとに研究テーマを決めた後、調査分析してもらう。

第14回 グループワーク の発表

グループワーク の調査・研究結果をプレゼンしてもらう。

第15回 講義の整理

これまで行なった発表の整理と討論を行なう。

2022年度 前期

2単位

東洋の歴史

大原 良通

< 授業の方法 >

遠隔授業

初回と2回目の授業は講義内容をOneDriveに挙げます。

その後はdotCampusでおこないます。

< 授業の目的 >

講義該当内容での教員採用試験に合格するだけの知識を身につける。

この授業では、建学の精神「真理愛好・個性尊重」に則り、人間の行動や文化を学際的に研究し、現代社会の大きな変化に対応しうる人材となることを目的とします。

この授業では、私たちが社会や文化をどのように築き上げ、どう運営してきたかについて理解してもらいます。人文学部のDPに依拠しながら、この授業から得た広い教養を身につけ、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる（思考力・判断力・表現力）。

また、さまざまな人間の社会的・文化的活動を学ぶことで、複数の分野の基礎知識を教養として身につけます（知識・技能）。さらに、この授業を通して多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できるようになります（主体性・協働性）。人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できます。（主体性・協働性）。学部教育と融合した教職教育をとおして、学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、さまざまな要求や問題解決に取り組み、生徒の知識や技能、主体的・協働的に学習に取り組む態度の育成を図る教員として活躍できる（教職志望者）。

< 到達目標 >

中国史の各王朝の基本的な事項について説明できる。東アジアと西方諸国の交流を理解し、その影響について考察できる。

高校世界史の東洋史関連項目についてほぼ理解できる。社会人として恥ずかしくない程度の東洋史の知識を身につけ、教員採用試験の東洋史関連分野に関しては高得点をとれるようになる。

< 授業のキーワード >

世界史 教職

< 授業の進め方 >

北村厚『教養のグローバル・ヒストリー』と高校世界史の教科書を使用し、課題を提出してもらいます。

課題はdotCampusで通知しますので、授業時に必ず確認

してください。

前向きに、教員採用試験合格レベルの知識を得るんだ！という強い気持ちで頑張りましょう。

< 履修するにあたって >

学習した範囲の基本事項を復習して、覚えておくこと。予習や復習の際には、高校の世界史で使用していた教科書や資料集も活用すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

教科書の読解と暗記、課題制作で、週に4時間ぐらいをめどにしてください。

< 提出課題など >

ほぼ毎回、何らかの課題を提出してもらいます。

かならず、dotCampusで確認してください。

課題には頭に、表題、学籍番号、氏名を必ず明記してください。

< 成績評価方法・基準 >

授業毎におこなうテストや課題で評価します。

課題は教科書の5章までを全て覚えることです。（100パーセント）。

< テキスト >

北村厚、『教養のグローバル・ヒストリー』、ミネルヴァ書房。

ISBN978-4-623-08288-9

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス、東洋史のあゆみ

この、シラバスを読んでください。

OneDriveに授業の説明がありますので、そちらもしっかり読んでください。{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/hy105233_human_kobegakuin_ac_jp/ERoAZuHSXgFAq_SOIHficswBFAeP5MpCAGxBrRepEhildQ?e=FAWa91}

第2回 教員採用試験に見る世界史1

授業内容は以下のOneDriveにあります。

{https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/hy105233_human_kobegakuin_ac_jp/ERP4XuvmdQVllrsyxd9tS0Bqotf8Dy2W7snAaPafJwE8g?e=SA4Uax}

世界史の東洋史部分がどのように扱われてきたのか、教員採用試験を使用して考察する。

第3回 南越国と南海交易

dotCampusで授業をおこないます。兵庫県の地歴公民の教員採用試験。南越国と南海交易

。

第4回 古代の東アジア

dotCampusで授業をおこないます。班超と甘英など。

第5回 海の道の形成

dotCampusで授業をおこないます。漢代の東アジアと西

方諸国の東西交流について学び、それが物や文化に与えた影響について考察する。

第6回 教員採用試験に見る世界史2

dotCampusで授業をおこないます。教員採用試験から、古代史がどのように扱われて以下について確認する。

第7回 東西の大帝国

dotCampusで授業をおこないます。唐の制度と文化、周辺諸国との関係について学ぶ。

第8回 イスラーム・ネットワークの拡大

dotCampusで授業をおこないます。タラス河畔の戦いと製紙法の西伝。

第9回 東西帝国の衰退

dotCampusで授業をおこないます。ウイグルと安史の乱

第10回 海洋の発展と大陸の分裂

dotCampusで授業をおこないます。日宋貿易や陶磁器

第11回 教員採用試験に見る世界史3

dotCampusで授業をおこないます。教員採用試験で唐代などがどのように扱われているかを確認します。

第12回 大モンゴルのユーラシア

dotCampusで授業をおこないます。モンゴル帝国の発展と、それが東西交流に与えた影響について学ぶ。ジンギス・ハン、ジャムチ。

第13回 大モンゴルユーラシア・ネットワーク

dotCampusで授業をおこないます。ラマ教やジャムチ制度、マルコポーロやモンテ・コルヴィノ

第14回 教員採用試験に見る世界史4

dotCampusで授業をおこないます。教員採用試験でアジアがどのように取り上げられきたかを確認する。

第15回 全体を俯瞰する

dotCampusで授業をおこないます。授業内容を確認しながら、学生の習熟度を測ります。

2022年度 後期

4単位

日本経済史 [企業]

関谷 次博

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

歴史のある出来事は、それ以前の歴史の積み重ねにおいて成り立っており、現在もそうした歴史の積み重ねによって成り立っています。「経済史総論」では、過去の教訓に学ぶという歴史学的手法を用いましたが、「日本経済史」では、現代を捉え、将来の指針を提言するためにも、歴史の成り立ちから分析するという方法を用います。本講義は、日本経済の歴史を、アーリーモダン（初期近代）として捉えられる江戸時代から現在までを対象とします。まずは、明治維新後の日本の経済成長が、江戸時代につくられた経済基盤の上に成り立っているというよ

うに、歴史理解の方法を習得することを目的としています。

経済成長を理解するには、GDP（かつてはGNPが主）といった基礎的な経済統計データも理解しなければなりません。また、GDPの成り立ちを理解するためには、簡単なマクロ経済学の理論が必要です。講義では、経済統計データの数的処理による分析や、簡単なマクロ経済理論の解説もおこないます。

本講義はDPの1「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」に対応しています。

< 到達目標 >

1. 日本経済の歴史を習得できる。
2. 歴史的視点から現代経済を考えることができる。
3. 現代経済を、歴史、データ、理論といった多面的な視点から考えることができる。

< 授業のキーワード >

近現代日本史、経済史、マクロ経済学（入門程度）、経済統計

< 授業の進め方 >

日本経済史の講義をおこなった後、関連する経済統計データの数的処理による分析をおこないます。また、時事の新聞や雑誌記事を用いて、現代との関わりを示すことにも努めます。

< 履修するにあたって >

段階的な理解のためにも「経済史総論」を修得、ないしは履修することが望ましいです。講義では経済統計データを使った数的処理をおこないます。電卓を持参することが望ましいです。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義における疑問点を発見（30分程度の作業）して、オフィスアワーなどを利用し、質問をしてください。

< 成績評価方法・基準 >

確認テスト40%、期末レポート60%

なお、提出課題が3分の2に満たない場合には、成績評価の対象とはせず「/」となります。

< テキスト >

特にありませんが、必要なプリントは講義中に配布します。

< 参考図書 >

講義中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 近代・現代日本の経済発展

GDPとは何か。経済発展とは何か。日本の経済発展と地域格差を読む。

第2回 江戸時代の経済発展

江戸時代は前近代か、初期近代か？江戸時代の経済を評価する。

第3回 開港のインパクト

幕末の貿易構造の変化をもとに、開港が与えた日本経済

へのインパクトを理解する。

第4回 日本の産業革命

工業化における政府の役割について、後進国の工業化のモデル（ガーシェンクロン・モデル）との対比を試みる。

第5回 大隈財政

政府の役割（政策）と財政との関連を理解する。

第6回 松方財政

政府の役割（政策）と財政との関連を理解する。

第7回 近代経済成長

近代日本の経済成長について、統計データを分析することによって理解する。

第8回 近代経済成長

近代日本の経済成長をもたらした要因を、分析することによって理解する。

第9回 貿易と国際関係

日本の工業化の進展を貿易構造の変化から捉える。同時に、貿易構造から先進国と植民地国との違いを理解する。

第10回 工業化と在来産業

日本の工業化において在来産業が果たした役割を、農村工業からの進展として理解するとともに、統計データによっても確認する。

第11回 日本の産業革命

紡績業を中心に、それを支える鉄道業や海運業が発展していった様子を体系的に理解する。

第12回 資本の形成

日本の工業化を成立させるための条件としての金融に注目し、大企業の形成や株式会社制度の導入過程を理解する。

第13回 確認テスト

1?12回の分の確認テスト

第14回 確認テスト

1?12回の分の確認テスト

第15回 確認テストの解説

確認テストの結果を発表し、全問の解説をおこなう。

第16回 確認テストの解説

確認テストの結果を発表し、全問の解説をおこなう。

第17回 重化学工業化

戦前にすすんだ重化学工業化について、統計データの分析から理解する。また、重化学工業化によって誕生した大企業の特徴を捉える。

第18回 財閥の形成

重化学工業化とともにすすんだ大企業体制は、企業集中というかたちで進んだ。「規模の経済」という経済理論から理解する。

第19回 戦時統制経済

戦時期は統制経済、計画経済といわれたように財・資本・労働の市場に対する介入・統制がすすんだ。こうした経済の特徴を理解する。

第20回 戦後経済民主化

財閥解体、過度経済力集中排除法、公職追放といった経

済民主化と、それによる日本経済へのインパクトを理解する。

第21回 高度経済成長

GDP統計データをもとに、経済成長率やその要因分析によって、高度経済成長を理解する。

第22回 安定成長

安定成長の時代に、日本型経営が確立される過程を理解する。

第23回 バブル経済

プラザ合意後にバブル経済へと展開する過程を理解する。

第24回 平成不況

バブル崩壊後に低迷し、「失われた20年」を称された日本経済の特徴を、統計データを分析することで理解する。

第25回 確認テスト

17?24回の分の確認テスト

第26回 確認テスト

17?14回の分の確認テスト

第27回 確認テストの解説

確認テストの結果を発表し、全問の解説をおこなう。

第28回 確認テストの解説

確認テストの結果を発表し、全問の解説をおこなう。

第29回 まとめ

全講義のまとめ

第30回 まとめ

定期試験に向けた解説

2022年度 前期

4単位

日本経済論

田口 順等

<授業の方法>

講義（対面授業および遠隔授業併用）

<授業の目的>

日本経済の歴史と現状、今後の課題について講義を行う。経済学部DPの「1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。」「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる。」に対応している。

<到達目標>

日本経済の発展の歴史と現状について理解できる（知識）

日本経済の今後の課題について考え、自分なりに解決方法を考えることができる（知識・態度・習慣）

報道・ニュースで取り上げられている日本経済の課題に

ついて興味をもつことができる（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

日本経済、マクロ経済学

< 授業の進め方 >

配布資料に基づいて講義を行い、各テーマごとに課題あるいは小レポートを課す。

< 履修するにあたって >

授業の進捗状況によって、講義内容を変更する場合があります。

講義内容は日本経済およびその課題について経済学部生として知っておいてほしいことです。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義後の課題（論述）および試験勉強など毎回30分程度を想定している。

< 提出課題など >

各回に関連した身近な問題について課題（論述）を行い、自分の立場として考えることで理解を高められるようにする。

< 成績評価方法・基準 >

課題・コメント・レポート等によって評価する。（100%）

< テキスト >

特に指定しない、レジュメを配布する。

< 参考図書 >

三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『新・日本経済入門』日本経済新聞出版社、2015年

浅子和美、篠原総一編『入門・日本経済[第5版]』有斐閣、2015年

池上 彰(著)・テレビ東京報道局(編集)『池上彰のやさしい経済学(2) ニュースがわかる』日本経済新聞出版社2013年

その他適宜指示する

< 授業計画 >

第1回 講義概要および序論

日本経済論序論

第2回 戦後日本経済史

戦後復興から高度成長時代

第3,4回 戦後日本経済史

石油危機からバブル期

第5,6回 戦後日本経済史

バブル崩壊後から現在まで

第7,8回 経済成長

景気循環と経済成長について

第9,10回 企業構造

日本の企業システムと課題について

第11,12回 環境問題

エネルギーと環境問題について

第13,14回 物価・為替

物価指数と為替制度について

第15,16回 貿易

国際収支・貿易・通商について

第17,18回 金融システム

金融政策および制度について

第19,20回 社会保障

日本の社会保障・年金制度とその課題について

第21,22回 人口問題

少子高齢化問題について

第23,24回 家計・労働

家計消費と雇用・労働問題について

第25,26回 財政問題

税制・財政政策と累積債務問題について

第27,28回 産業構造

産業構造の変化について

第29,30回 地域経済

地域活性化及びその問題について

2022年度 前期

4単位

日本経済論

麻生 裕貴

< 授業の方法 >

講義:

配布した資料をもとに、対面講義で実施する。

< 授業の目的 >

この科? は経済学部のDP 「経済の歴史や制度に関わる知識を習得し、今? の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」ことを? 標としている。

< 到達目標 >

? 本経済の仕組みを理解し、説明できるようになること。

? 本経済の歩みを理解し、説明できるようになること。

? 本経済の課題を理解し、本講義を聞いて対策を考察できるようになること。

< 授業のキーワード >

? 本経済の仕組み、? 本経済の歩み、? 本経済の課題

< 授業の進め方 >

配布する資料に従って、対? 授業で講義を進める。

< 履修するにあたって >

? ? ミクロ経済学・? ? マクロ経済学の両? の単位を取得している者のみが履修要件を満たすと想定している。授業の進捗状況や理解度に応じて、授業計画の? 部を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業の予習と復習をそれぞれ1時間半? 行うこと。

< 提出課題など >

講義内容の習熟度を確認するため、課題を課すことがある。

次週の講義で課題の解説と講評を行なう。

<成績評価方法・基準>

? レポート(10%)、中間試験(40%)と期末試験(50%)で評価する。

講義中に小レポートを課す。

小レポートの提出が講義回数の2/3に満たない者については成績評価は行わない。

評価を受けようとするものは、定期試験(中間試験と期末試験の両方)を受けなければならない。

定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

<テキスト>

講義資料は配布する。

<参考図書>

? 代尚宏,『?本経済論・??一戦後復興からアベノミクスまで』,有斐閣. 宮川努他,『?本経済論』,中央経済社.

<授業計画>

第1-2回 ?本経済の仕組み ?代表的な経済指標 GDPをはじめとする経済指標について説明する。

第3-4回 ?本経済の仕組み ?企業の仕組みと?本格的経営

?本格的経営制度と企業形態について説明する。

第5-6回 ?本経済の仕組み ?貨幣と?融の仕組み 貨幣と?融の仕組みについて説明する。

第7-8回 ?本経済の仕組み ?政府と財政

政府の役割と?本の財政制度について説明する。

第9-10回 ?本経済の仕組み ??本の社会保障制度 年?制度や医療保険などの社会保障制度について説明する。

第11-12回 日本経済の仕組み ?財政政策と?融政策 財政政策と?融政策の?段とその効果について説明する。

第13-14回 日本経済の仕組み ?エビデンスと経済政策

エビデンスとは何か、それに基づく経済政策について説明する。

第15-16回 ?本経済の歩み ?戦後の?本経済と?度経済成?期

戦後から?度経済成?期までの?本経済について説明する。

第17-18回 ?本経済の歩み ?バブル経済とその崩壊 低成?期からバブル経済までの経済について説明する。

第19-20回 日本経済の歩み :構造改?と中間試験 1990年代後半からの構造改革について説明する。中間試験を実施する。

第21-22回 日本経済の歩み :リーマンショックとアベノミクス

2000年代の金融危機と経済政策について説明する。

第23-24回 ?本経済の課題 ?日本の労働環境

?本における労働環境の現状・対策と?産性の向上について説明する。

第25-26回 ?本経済の課題 ?所得格差と移民

?本における所得格差の現状と再分配政策、移民問題について説明する。

第27-28回 ?本経済の課題 ?地?分権と地?創?

近年の地?経済の現状と地?分権・地?創?について説明する。

第29-30回 ?本経済の課題 ?少??齢化と経済政策

?本における少??齢化の現状とその対策について説明する。

2022年度 後期

4単位

日本経済論

二替 大輔

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本講義では、日本における競争政策と流通に関する問題について、主にミクロ経済理論を用いた分析を理解することを目的とします。

講義では、ミクロ経済学の基礎知識の復習から始め、競争政策に関わる基礎的な経済理論について解説していきます。理解度を確認するために、練習問題を解く時間を設けます。

この科目は、学部のDPに示す、「2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを目指しています(思考力・判断力・表現力等の能力)。

<到達目標>

1. 日本経済の仕組みを理解し、説明できるようになる。
2. 日本における競争政策について経済理論を用いて考えることができる。
3. 日本における流通に関する問題について経済理論を用いて考えることができる。

<授業のキーワード>

競争政策, ミクロ経済学, 流通

<授業の進め方>

板書により講義形式で授業を進めます。また、講義内容に関する問題演習を実施します。

<履修するにあたって>

入門ミクロ経済学の内容について復習しておいてください。

<授業時間外に必要な学修>

講義内容の復習をテキスト, 参考文献を使って必ず行ってください。講義中に実施した問題演習の復習も行ってください(1時間程度)。

講義で理解できないことがあれば直接質問をしてください

い。
また、新聞等で競争政策に関する記事について関心を持ってください。

< 提出課題など >

授業内容に関する問題演習および中間課題を課します。問題演習および課題については採点の上返却します。また、正解（解答例）を提示し解説を行います。

定期試験を実施します。正解（解答例）を提示します。

< 成績評価方法・基準 >

講義内で実施する問題演習（小テスト）と中間課題（中間レポート）（30%）および期末課題（70%）によって評価します。

< テキスト >

小田切宏之『競争政策論 [第2版]』，日本評論社，2017年，2500円+税

< 参考図書 >

参考書については、講義のときに適宜紹介します。

< 授業計画 >

第1回 競争政策とは

本講義で取り扱う競争政策および経済学で用いられる主要な概念について復習する。

第2回 競争はなぜ重要か

競争の重要性について理解する。

第3回 消費者と生産者（1）

需要と需要の価格弾力性について理解する。

第4回 消費者と生産者（2）

消費者余剰について理解する。

第5回 消費者と生産者（3）

企業の費用について理解する。

第6回 消費者と生産者（4）

供給曲線と生産者余剰について理解する。

第7回 市場の働き（1）

市場の価格メカニズムについて理解する。

第8回 市場の働き（2）

完全競争市場均衡について理解する。

第9回 独占市場（1）

独占企業の行動について理解する。

第10回 独占市場（2）

独占市場における市場の失敗について理解する。

第11回 共謀と協調（1）

共謀（カルテル）の効果について理解する。

第12回 共謀と協調（2）

共謀（カルテル）と競争政策の関係について理解する。

第13回 コンテストブル市場理論と参入阻止戦略（1）

コンテストブル市場と参入障壁について理解する。

第14回 コンテストブル市場理論と参入阻止戦略（2）

参入阻止価格戦略と競争政策の関係について理解する。

第15回 一般集中と独占状態

市場構造の決定について理解する。

第16回 前半のまとめ

前半のまとめと中間課題を実施する。

第17回 合併・買収（M&A）（1）

企業合併の経済的効果について理解する。

第18回 合併・買収（M&A）（2）

企業合併と競争政策の関係について理解する。

第19回 垂直的取引制限（1）

垂直的取引制限について理解する。

第20回 垂直的取引制限（2）

二重マージン問題とその解決方法について理解する。

第21回 垂直的取引制限（3）

販売サービスとただ乗り問題について理解する。

第22回 垂直的取引制限（4）

企業の垂直的関係について理解する。

第23回 競争手段としての廉売（1）

廉売の経済的効果について理解する。

第24回 競争手段としての廉売（2）

廉売と競争政策の関係について理解する。

第25回 公益事業における競争

公益事業における競争政策について理解する。

第26回 イノベーションと知的財産権（1）

イノベーションの経済的効果について理解する。

第27回 イノベーションと知的財産権（2）

知的財産権と競争政策の関係について理解する。

第28回 ネット取引とプラットフォーム（1）

プラットフォームビジネスとネットワーク効果について理解する。

第29回 ネット取引とプラットフォーム（2）

プラットフォームビジネスと競争政策の関係について理解する。

第30回 後半のまとめ

後半の内容についてのまとめを行う。

2022年度 前期

2単位

日本の歴史

森栗 茂一

< 授業の方法 >

講義（対面、状況により遠隔）

< 授業の目的 >

本授業は、人文学科の専門教育科目に属し、本学人文学部DPにもとづき、歴史の「問題の解決」に向け、歴史随想によって「総合的かつ主体的に理解」し、「協働によって問題解決」する能力を養うことを目的とする。

なお、この授業担当者は、高等学校教諭を7年、国立歴史民俗博物館客員助教授を3年つとめ、神戸まちづくり研究所を設立運営してきた高校教育と博物館展示企画、歴史的まちづくりに関する実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、総合的な人文研究、歴史教育に対する知識や経験の少ない一般学生に対しては極

めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

<到達目標>

- ・歴史問題に対処する系統的な判断ができるようになる。
- ・歴史教育に対する総合的な知識、主体的に学ぶ態度を身に着ける。

<授業のキーワード>

歴史教育、歴史問題、生き方と歴史

<授業の進め方>

対面（社会状況、個人状況により遠隔参加の可能性あり）

<履修するにあたって>

視聴覚教材等は、準備の都合によって変更することがある。

<授業時間外に必要な学修>

毎回の宿題に90分程度が必要である。

<提出課題など>

毎回、試験を実施する。範囲は、宿題と当日の視聴覚教材のなかから。

<成績評価方法・基準>

毎回の試験 13回×6点=78点 随想等に関する諮問...22点

<テキスト>

東京アカデミー編『2021年度教員採用試験対策 専門教科 中学社会』（2020年度の古いものでも可）

<参考図書>

森栗茂一『河原町の歴史と都市民俗学』明石書店、2003年（図書館に複数用意する）

<授業計画>

1 オリエンテーション

自己紹介動画、授業の組立、宿題提出法

2 NHK歴史番組をみる1

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

3 歩き、見る、聞く実践

神戸、明石on-line動画を活用し、各自で予習する。

4 歩く・見る・聞く まちあるき実践

必要な動画を撮り、投稿する。

5 教員採用試験の経験1（古代、中世）

自己採点で自己確認

6 地歴教員物語（大学生篇）

地理学教室の学び、社会科初志の会、教員教員採用試験の経験

7 NHK歴史番組をみる2

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

8 地歴新書を読む1

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

9 教員採用試験の経験2（近世）

自己採点で自己確認

10 地歴教員物語（鈴高、定時制編）

新任教員経験を知る。教師か研究か？ 社会矛盾と社会科教育に悩む。

11 NHK歴史番組をみる3

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

12 地歴新書を読む2

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

13 教員採用試験の経験3（現代、総合）

自己採点で自己確認

15 地歴教員物語（大学教育編）

大学教育の教師像を知る。（学に志す。イケイケ国立歴史博。大学院教養・キャリア教育。）

地歴探究教育の志

社会科の初志、地歴の意味

2022年度 前期

2単位

入門演習

麻生 裕貴

< 授業の方法 >

演習と講義

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP 「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で選択必修科目の演習科目に位置付けられている。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

各演習担当者によるクラス別の「演習」および経済学部教員等による「講義」

< 履修するにあたって >

経済学部の多くの教員等が講義を行なうため、これから何をどのように学ぶのか、またそれぞれの専門や講義はどのような特徴があるのかを見ることができる。本講義はその後の履修の参考になるほか、コースにわかれる際の判断の基準にもなるため、今後の履修やゼミ選択のガイダンスという意味でも極めて重要である。なお、学内外の多くの教員等のスケジュールの都合上、以下の授業計画を変更することがあるが、その場合は講義内で告知するので、スケジュールの変更に注意すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律でないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」、「指定図書」を随時活用すること。

< 提出課題など >

日本経済の知識を習得するため、課題を課すことがある。次週の講義で課題の解説と講評を行なう。

< 成績評価方法・基準 >

課題や発表などの演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

< テキスト >

「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」を使用する場合がある。

< 参考図書 >

個別演習では「大学生活入門2022」、「大学生学びのハンドブック」を使用する場合がある

< 授業計画 >

第1回 個別演習

大学での学修へのオリエンテーションを行なう。「大学生学びのハンドブック」などを用いて、大学生活について学ぶ。

第2回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、ミクロ経済学とマクロ経済学について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第3回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、企業経済論について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第4回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、日本経済論について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第5回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、金融について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第6回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、日本経済史について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第7回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、マーケティング論について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第8回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、環境政策入門について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第9回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、法律関連科目について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第10回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、社会保障論について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第11回 「経済学は生き抜くための智剣」

「経済学は生き抜くための智剣」を用いて、経済学のその他の科目について学ぶ。その後、グループディスカッションを行なう。

第12回 履修者によるプレゼンテーション

履修者が関心を持っている新聞記事について紹介し、説明する。その後、グループディスカッションを行なう。

第13回 履修者によるプレゼンテーション

履修者が関心を持っている新聞記事について紹介し、説明する。その後、グループディスカッションを行なう。

第14回 履修者によるプレゼンテーション

履修者が関心を持っている新聞記事について紹介し、説明する。その後、グループディスカッションを行なう。

第15回 履修者によるプレゼンテーション

履修者が関心を持っている新聞記事について紹介し、説明する。その後、グループディスカッションを行なう。

2022年度 前期

2単位

入門演習

安達 啓介

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP（学位授与方針）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

各演習担当者によるクラス別の「演習」および経済学部教員等による「講義」を行う。

< 履修するにあたって >

経済学部の多くの教員等が講義を行うため、これから何をどのように学ぶのか、またそれぞれの専門分野や講義はどのような特徴があるのかを見ることができる。本講義はその後の履修の参考になるほか、コースに分かれる際の判断の基準にもなるため、今後の履修やゼミ選択のガイダンスという意味でも極めて重要である。

なお、学内外の多くの教員等のスケジュールの都合上、以下の授業計画を変更することがあるが、その場合は講

義内で告知するので、スケジュールの変更に注意すること。

そのほか、

- ・授業に集中して取り組み、あとで復習できるように学習内容を記録しておくこと。

- ・これから社会人になる身として、周りに配慮したふるまいを心がけること。

- ・分からない言葉に出会ったら、辞書、インターネット等を使用して自分で調べること。

- ・どのように学習に臨めばよいか分からなくなったら、迷わず質問すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。予習の際は授業中に提示する図書、資料を活用すること。

< 提出課題など >

授業中または下記のリンク（OneDrive）で配布する資料内で課題内容、提出方法を告知する。

提出課題については、授業参加者全体（または課題提出者各自）に対してフィードバックを行う。

< 成績評価方法・基準 >

演習・講義の中で指示された 要約課題70%、レポート課題30%の成績で評価する。

< テキスト >

全体講義では、「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」を使用する場合がある。

授業資料は授業中または下記のリンクから配布する。

< 参考図書 >

個別講義では「大学生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」を使用する場合がある。

< 授業計画 >

第1回 個別演習（学びのオリエンテーション）

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第2回 個別演習

大学での学び方について講義する。それにあたって「学問」「経済学」「社会科学」とは何か講義する。さらにレポートなどの文章の書き方の基礎を学ぶ。

第3回 「経済学は生き抜く智剣」（全体講義）

経済学の基本的な枠組みとして、ミクロ経済学、マクロ経済学、企業論などの概説を通して、経済学の全体像を学ぶ。

第4回 個別演習

現代の経済問題をテーマに、演習・グループワークを行う。

さらに、今後の研究に資する情報検索の技術を身につける。

第5回 個別演習

受講者が持ち寄ったテーマ・興味をもとに、演習・グループワークを行う。

第6回 「経済学は生き抜く智剣」(全体講義)

「日本経済」「金融」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第7回 個別演習

現代の経済問題、社会問題をテーマに、演習・グループワークを行う。

第8回 「経済学は生き抜く智剣」(全体講義)

「社会保障」「アクティブラーニング」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第9回 個別演習

現代の経済問題、社会問題をテーマに、演習・グループワークを行う。

第10回 個別演習

現代の経済問題、社会問題をテーマに、演習・グループワークを行う。

第11回 「経済学は生き抜く智剣」(全体講義)

「マーケティング論」「法学」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第12回 個別演習

現代の経済問題、社会問題をテーマに、演習・グループワークを行う。

第13回 「経済学は生き抜く智剣」(全体講義)

「環境政策」に経済学がどう生かされているか学ぶ。

第14回 個別演習

プレゼン演習(前半):各自興味をもったテーマをもとにプレゼンを行う。

第15回 個別演習

プレゼン演習(後半):各自興味をもったテーマをもとにプレゼンを行う。

2022年度 前期

2単位

入門演習

石田 裕貴

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP(学位授与方針)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

<到達目標>

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

<授業のキーワード>

経済学

<授業の進め方>

各演習担当者によるクラス別授業を中心に行う

<履修するにあたって>

経済学部多くの教員等が講義を行うため、これから何をどのように学ぶのか、またそれぞれの専門分野や講義はどのような特徴があるのかを見ることができる。本講義はその後の履修の参考になるほか、コースに分かれる際の判断の基準にもなるため、今後の履修やゼミ選択のガイダンスという意味でも極めて重要である。

なお、学内外の多くの教員等のスケジュールの都合上、以下の授業計画を変更することがあるが、その場合は講義内で告知するので、スケジュールの変更に注意すること。

<授業時間外に必要な学修>

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「参考図書」を随時活用すること。

<提出課題など>

レポートを提出してもらおう。次の授業以降に、その解答解説、講評を行う(状況に応じて変更あり)

<成績評価方法・基準>

演習での取り組みを総合的に判断する(100%)

<テキスト>

「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」を使用する場合がある。

<参考図書>

個別演習では「大学生活入門2021」「大学生学びのハンドブック」を使用する場合がある。

<授業計画>

第1回 個別演習 (学びのオリエンテーション)

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生活入門2021」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第2回 「経済学は生き抜く智剣」(個別演習)

経済学の基本的な枠組みとして、ミクロ経済学、マクロ経済学、企業論などの概説を通して、経済学の全体像を学ぶ

第3回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第4回 「経済学は生き抜く智剣」(個別演習)

経済に関わる「統計」「情報」「歴史」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第5回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第6回 「経済学は生き抜く智剣」(個別演習)

「労働」「社会保障」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第7回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第8回 「経済学は生き抜く智剣」個別演習()

「日本経済」「世界経済」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第9回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第10回 薬物・SNS講演会(個別演習)

薬物依存の怖さ、SNS利用の注意点を実際の現場の話から学ぶ

第11回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第12回 「経済学は生き抜く智剣」(個別演習)

「財政」に関する基本的な考え方を学ぶ。

PROGテストの結果を踏まえた解説を行う。

第13回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第14回 「経済学は生き抜く智剣」(個別演習)

「金融」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第15回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

2022年度 前期

2単位

入門演習

井上 善博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP「経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを

確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で選択必修科目の演習科目に位置付けられている。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経営学・経済学

< 授業の進め方 >

調査、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて、大学での学びの姿勢を身につける。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の振り返りとして45分程度を必要とする。

< 成績評価方法・基準 >

資料作成50%、プレゼンテーション50%で評価します。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 はじめまして、経済学

経済学で学ぶこと

第2回 友達をつくろう

自己紹介をして、仲間をつくろう。

第3回 部活やサークルを調べよう。

得意な技術やスポーツは何だろう。

第4回 授業の受け方について

積極的な授業の受け方

第5回 図書館活用法

図書館の資料を活用する方法

第6回 レポートの書き方その1

レポートの課題設定方法

第7回 レポートの書き方その2

上手なレポートの構成づくり、形式に沿った文章の作成方法

第8回 経済学部での学びその1

経済学理論の学習領域

第9回 経済学部での学びその2

経済学の歴史と未来

第10回 経済学部での学びその3

日本経済と世界経済

第11回 経済学部での学びその4

経営学、企業経済論、日本の中小企業について

第12回 経済学部での学びその5

社会問題と経済学(社会保障や財政危機)

第13回 将来の目標について

4年後の自分を探そう

第14回 キャリア形成その1

キャリアセンターの使い方

第15回 キャリア形成その2

取得できる資格を見つけよう

2022年度 前期

2単位

入門演習

大塚 英美

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

- ・本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。
- ・本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。
- ・本演習の目標は、DP(学位授与方針)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。
- ・なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

- ・各演習担当者によるクラス別の「演習」および経済学部教員等による「講義」を実施する。
- ・産官学連携の演習を実施する場合もある。

< 履修するにあたって >

・経済学部の多くの教員等が講義を行うため、これから何をどのように学ぶのか、またそれぞれの専門分野や講義はどのような特徴があるのかを見ることができる。本講義はその後の履修の参考になるほか、コースに分かれる際の判断の基準にもなるため、今後の履修やゼミ選択のガイダンスという意味でも極めて重要である。

・なお、学内外の多くの教員等のスケジュールの都合上、以下の授業計画を変更することがあるが、その場合は講義内で告知するので、スケジュールの変更に注意すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「指定図書」を随時活用すること。

< 成績評価方法・基準 >

演習・講義の中で指示された課題における成績によって評価する。(100%)

< テキスト >

オンライン教材視聴では、「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」を使用する場合がある。

< 参考図書 >

「経済学は生き抜く智剣」「現代文100要約ドリル入門編」

「大学生生活2020」(大学ホームページより閲覧)

< 授業計画 >

第1回 個別演習 (学びのオリエンテーション)

- ・大学での学修へのオリエンテーションを学ぶ
- ・「大学生生活入門」「大学生学びのハンドブック」を用いて大学生活について学ぶ

第2回 個別演習

大学生活におけるキャリアプラン

第3回 経済学は生き抜く智剣

経済学部の基幹科目等(ミクロ経済学、マクロ経済学、企業論など)の紹介を通して、なぜ経済学は大事かを学ぶ

第4回 経済学は生き抜く智剣

経済学部の基幹科目等(ミクロ経済学、マクロ経済学、企業論など)の紹介を通して、なぜ経済学は大事かを学ぶ

第5回 経済学は生き抜く智剣

経済学部の基幹科目等(ミクロ経済学、マクロ経済学、企業論など)の紹介を通して、なぜ経済学は大事かを学ぶ

第6回 経済学は生き抜く智剣

経済学部の基幹科目等(ミクロ経済学、マクロ経済学、企業論など)の紹介を通して、なぜ経済学は大事かを学ぶ

第7回 プレゼンテーション

対話力トレーニング

第8回 プレゼンテーション

ロジカルシンキング

第9回 プレゼンテーション

ビデオ視聴

第10回 情報リテラシー

図書館の活用

第11回 レポートの書き方

・ロジカルライティング

・レポートを書く前のルール

第12回 レポートの書き方

経済学は生き抜く智剣から一つのテーマを選んでレポートを作成する

第13回 ビブリオバトル

客観的な視点で書籍を紹介するプレゼンテーション

第14回 ビブリオバトル

客観的な視点で書籍を紹介するプレゼンテーション

第15回 キャリアデザイン

学習シートに基づき今後の計画を立てる

2022年度 前期

2単位

入門演習

岡本 弥

< 授業の方法 >

6月20日（日）に緊急事態宣言が解除された場合、対面授業（演習）を行う。

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP（学位授与方針）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

次の2つを目標としたい。

pptを使った10分程度のプレゼン、および内容に関する質問に答えることができる

他の人のプレゼンを聞き、内容についての実のある質問ができる。

< 授業のキーワード >

経済学、プレゼンテーションスキル

< 授業の進め方 >

履修者の報告、経済学部教員が作成した動画の視聴、に基づいて議論する。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「指定図書」を随時活用すること。

< 提出課題など >

「経済学は生き抜く智剣」で動画を視聴した際に、その内容を関連するレポートを提出する必要がある。レポートの内容について、その都度、担当教員から指示がある。

< 成績評価方法・基準 >

評価はプレゼンテーション（30%）、質疑応答（30%）、レポート（40%）の内容に基づいて行われる。

なお、提出したレポートのなかに、剽窃、盗用があった場合には、不合格となる。

具体的には、下記の例は剽窃、盗用にあたる。

インターネット上の文章や本から引用文献として言及せず、用いたことを書いて提出すること。

他の学生が解答したものを一部あるいは全部を自分の解答として提出すること。

< テキスト >

神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』（郵送済）

< 参考図書 >

『大学生生活入門2020』『現代文100字要約ドリル入門編』（ともに郵送済み）

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

(1) 大学での学修へのオリエンテーション

(2) プレゼンテーションに関する説明と報告当番の決定

第2回 経済学は生きぬく智剣

経済学部教員が作成したミクロ・マクロ経済学に関する動画を視聴し議論する。さらにレポートを作成し提出する。

第3回 履修者によるプレゼンテーション

履修者2名が自らの関心に基づいて選んだテーマに関する報告をパワーポイント等を用いて行う。終了後、質疑応答を実施する。

第4回 履修者によるプレゼンテーション

履修者2名が自らの関心に基づいて選んだテーマに関する報告をパワーポイント等を用いて行う。終了後、質疑応答を実施する。

第5回 経済学は生きぬく智剣

経済学部教員が作成した企業経済論に関する動画を視聴し議論する。さらにレポートを作成し提出する。

第6回 履修者によるプレゼンテーション

履修者2名が自らの関心に基づいて選んだテーマに関する報告をパワーポイント等を用いて行う。終了後、質疑応答を実施する。

第7回 履修者によるプレゼンテーション

履修者2名が自らの関心に基づいて選んだテーマに関する報告をパワーポイント等を用いて行う。終了後、質疑応答を実施する。

第8回 経済学は生き抜く智剣

経済学部教員が作成したFP（フィナンシャル・プランナー）に関する動画を視聴し議論する。さらにレポートを作成し提出する。

第9回 履修者によるプレゼンテーション

履修者2名が自らの関心に基づいて選んだテーマに関する報告をパワーポイント等を用いて行う。終了後、質疑応答を実施する。

第10回 履修者によるプレゼンテーション

履修者2名が自らの関心に基づいて選んだテーマに関する報告をパワーポイント等を用いて行う。終了後、質疑応答を実施する。

第11回 経済学は生き抜く智剣

担当教員が作成した過去に体験した在外研究に関する動画を視聴し議論する。さらにレポートを作成し提出する。

第12回 履修者によるプレゼンテーション

履修者2名が自らの関心に基づいて選んだテーマに関する報告をパワーポイント等を用いて行う。終了後、質疑応答を実施する。

第13回 履修者によるプレゼンテーション

履修者2名が自らの関心に基づいて選んだテーマに関する報告をパワーポイント等を用いて行う。終了後、質疑応答を実施する。

第14回 経済学は生き抜く智剣

経済学部教員が作成したサービス産業に関する動画を視聴し議論する。さらにレポートを作成し提出する。

第15回 経済学は生き抜く智剣

経済学部教員が作成したマーケティングに関する動画を視聴し議論する。さらにレポートを作成し提出する。

2022年度 前期

2単位

入門演習

幸田 功

< 授業の方法 >

演習と講義

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP(学位授与方針)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学、大学での学習、大学生活

< 授業の進め方 >

各演習担当者によるクラス別の授業・質疑応答など。経済学部教員等による授業。

各回の授業(講義)の予定は変更することがあります。

< 履修するにあたって >

経済学部の多くの教員等が講義を行うため、これから何をどのように学ぶのか、またそれぞれの専門分野や講義はどのような特徴があるのかを見ることができる。本講義はその後の履修の参考になるほか、コースに分かれる際の判断の基準にもなるため、今後の履修やゼミ選択の

ガイダンスという意味でも極めて重要である。

なお、学内外の多くの教員等のスケジュールの都合上、以下の授業計画を変更することがあるが、その場合は講義内やメール等で告知するので、スケジュールの変更に注意すること。

また、今後の新型コロナウイルスに関する社会情勢の変化によっても授業計画等が変更することもある。この場合も、上記と同様である。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「指定図書」を随時活用すること。

< 提出課題など >

提出を求める場合は各回ごとに事前に指示する。

< 成績評価方法・基準 >

演習・講義の中で指示された課題における成績によって評価する。(100%)

< テキスト >

「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」

< 参考図書 >

「大学生生活入門2022」

< 授業計画 >

第1回 個別演習 (学びのオリエンテーション)

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第2回 「経済学は生き抜く智剣」

ミクロ経済学、マクロ経済学、企業経済論、日本経済史、社会保障論、その他の科目について学ぶ。

第3回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第4回 「経済学は生き抜く智剣」

ミクロ経済学、マクロ経済学、企業経済論、日本経済史、社会保障論、その他の科目について学ぶ。

第5回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第6回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第7回 「経済学は生き抜く智剣」

ミクロ経済学、マクロ経済学、企業経済論、日本経済史、社会保障論、その他の科目について学ぶ。

第8回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第9回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第10回 「経済学は生き抜く智剣」

ミクロ経済学、マクロ経済学、企業経済論、日本経済史、社会保障論、その他の科目について学ぶ。

第11回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。
第12回 「経済学は生き抜く智剣」
ミクロ経済学、マクロ経済学、企業経済論、日本経済史、
社会保障論、その他の科目について学ぶ。
第13回 個別演習
入門演習のまとめと今後の学習について。
第14回 「経済学は生き抜く智剣」
ミクロ経済学、マクロ経済学、企業経済論、日本経済史、
社会保障論、その他の科目について学ぶ。
第15回 個別演習
入門演習のまとめ。

2022年度 前期

2単位

入門演習

木暮 衣里

< 授業の方法 >

演習・講義

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』を核として、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP（学位授与方針）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

演習担当者によるクラス別の「演習」および経済学部教員による「講義」を実施する。

< 履修するにあたって >

経済学部の多くの教員等が講義を行うため、これから何をどのように学ぶのか、またそれぞれの専門分野や講義はどのような特徴があるのかを見ることができる。本講義はその後の履修の参考になるほか、コースに分かれる際の判断の基準にもなるため、今後の履修やゼミ選択のガイダンスという意味でも極めて重要である。

なお、オンライン教材の視聴に関しては順番を変更することがある。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「指定図書」を随時活用すること。

< 成績評価方法・基準 >

演習・講義の中で指示された課題における成績によって評価する。（100%）

< テキスト >

「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」を使用する場合がある。

< 参考図書 >

「経済学は生き抜く智剣」「現代文100字要約ドリル入門編」（大学より送付）

「大学生生活2020」（大学ホームページより閲覧）

< 授業計画 >

第1回 個別演習（学びのオリエンテーション）

オリエンテーションと図を活用した自己紹介

第2回 全体講義

遠隔授業講座

第3回 個別演習

「ミクロ経済学・マクロ経済学（経済学はなぜ大事か）」の学習とグループ・ディスカッションおよび発表

第4回 個別演習

自校について学ぶ（「大学生生活入門2020」他）

第5回 個別演習

図書館の利用について

第6回 特別研修

薬物・SNS

第7回 個別演習

経済学部オンライン教材の視聴とグループ・ディスカッションおよび発表

第8回 個別演習

経済学部オンライン教材の視聴とグループ・ディスカッションおよび発表

第9回 個別演習

経済学部オンライン教材の視聴とグループ・ディスカッションおよび発表

第10回 特別研修

人権問題について

第11回 個別演習

経済学部オンライン教材の視聴とグループ・ディスカッションおよび発表

第12回 個別演習

「私の街の優れた企業」について調べる

第13回 個別演習

「私の街の優れた企業」を紹介する

第14回 個別演習

「私の大学生活とライフプラン」を考えて発表する

第15回 個別演習

まとめと振り返り

2022年度 前期

2単位

入門演習

関谷 次博

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP（学位授与方針）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

各回の課題への取り組みや少人数によるグループワーク

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「指定図書」を随時活用すること。

< 成績評価方法・基準 >

演習・講義の中で指示された課題における成績によって評価する。（100％）

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第2～5回 学習の方法

日常の学習からレポートや期末試験等の作成までを学ぶ。

第6～10回 要約ドリル

要約ドリルを順に解いていく。

第11～13回 グループワーク

ディスカッションやグループ調査などの方法を学ぶ。

第14～15回 輪読

本の読み方について学ぶ。

2022年度 前期

2単位

入門演習

竹治 康公

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP（学位授与方針）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての15年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

各演習担当者によるクラス別の「演習」および経済学部教員等による「講義」

< 履修するにあたって >

経済学部の多くの教員等が講義を行うため、これから何をどのように学ぶのか、またそれぞれの専門分野や講義はどのような特徴があるのかを見ることが出来る。本講義はその後の履修の参考になるほか、コースに分かれる際の判断の基準にもなるため、今後の履修やゼミ選択のガイダンスという意味でも極めて重要である。

なお、学内外の多くの教員等のスケジュールの都合上、以下の授業計画を変更することがあるが、その場合は講

義内で告知するので、スケジュールの変更に注意すること。

現時点で下記の授業計画は編集中である。他の教員から提供していただけるコンテンツ等が確定した段階で最終的に決定する予定である。現時点での方針については一回目の講義(5/12)で説明する。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「指定図書」を随時活用すること。

< 成績評価方法・基準 >

演習・講義の中で指示された課題における成績によって評価する。(100%)

< テキスト >

全体講義では、「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」を使用する場合がある。

< 参考図書 >

個別講義では「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」を使用する場合がある。

< 授業計画 >

第1回 個別演習 (学びのオリエンテーション)

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第2回 「経済学は生き抜く智剣」

経済学の基本的な枠組みとして、ミクロ経済学、マクロ経済学などの概説を通して、経済学の全体像を学ぶ

第3回 「経済学は生き抜く智剣」

経済学の基礎理論としてのミクロ経済学について学ぶ。

第4回 「経済学は生き抜く智剣」

経済学の基礎理論としてのマクロ経済学について学ぶ。

第5回 「経済学は生き抜く智剣」

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第6回 「経済学は生き抜く智剣」

「労働」「社会保障」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第7回 「経済学は生き抜く智剣」

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第8回 「経済学は生き抜く智剣」

「日本経済」「世界経済」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第9回 「経済学は生き抜く智剣」

経済に関わる「統計」「情報」「歴史」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第10回 「経済学は生き抜く智剣」

「労働」「社会保障」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第11回 「経済学は生き抜く智剣」

「日本経済」「世界経済」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第12回 「経済学は生き抜く智剣」

「財政」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第13回 「経済学は生き抜く智剣」

「金融」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第14回 「経済学は生き抜く智剣」

「金融」に関する基本的な考え方を学ぶ。

第15回 「経済学は生き抜く智剣-総括」

2022年度 前期

2単位

入門演習

田宮 遊子

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院生として大学のしくみを理解すること、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP(学位授与方針)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

神戸学院大学のしくみを知ることができる。4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを組み込んだ演習形式で行う。

* 授業の進め方についての注意点

授業計画については、受講者の理解度に応じて一部変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習復習にそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 成績評価方法・基準 >

授業時のプレゼンテーション、提出課題で総合的に評価する(100%)。

< 参考図書 >

「大学生生活入門2022」

「大学生学びのハンドブック」

神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』

その他授業時に指定する。

< 授業計画 >

第1回 大学生生活入門1

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第2回 大学生生活入門2

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第3回 大学生生活入門3

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第4回 大学生生活入門4

大学での学修へのオリエンテーションを行う。dotCampusの使い方について学ぶ。

第5回 大学生生活入門5

大学での学修へのオリエンテーションを行う。office365の使い方について学ぶ。

第6回 経済学部で何が学べるか1

経済学部教員によるオムニバス講義を通して、経済学部で学ぶことができるさまざまな分野を知り、ゼミ生全員で意見交換を行う。

第7回 経済学部で何が学べるか2

経済学部教員によるオムニバス講義を通して、経済学部で学ぶことができるさまざまな分野を知り、ゼミ生全員で意見交換を行う。

第8回 経済学部で何が学べるか3

経済学部教員によるオムニバス講義を通して、経済学部で学ぶことができるさまざまな分野を知り、ゼミ生全員で意見交換を行う。

第9回 経済学部で何が学べるか4

経済学部教員によるオムニバス講義を通して、経済学部で学ぶことができるさまざまな分野を知り、ゼミ生全員で意見交換を行う。

第10回 経済学部で何が学べるか5

経済学部教員によるオムニバス講義を通して、経済学部で学ぶことができるさまざまな分野を知り、ゼミ生全員で意見交換を行う。

第11回 経済学部で何が学べるか6

経済学部教員によるオムニバス講義を通して、経済学部

で学ぶことができるさまざまな分野を知り、ゼミ生全員で意見交換を行う。

第12回 経済学部で何が学べるか7

経済学部教員によるオムニバス講義を通して、経済学部で学ぶことができるさまざまな分野を知り、ゼミ生全員で意見交換を行う。

第13回 経済学部で何が学べるか8

経済学部教員によるオムニバス講義を通して、経済学部で学ぶことができるさまざまな分野を知り、ゼミ生全員で意見交換を行う。

第14回 経済学部で何が学べるか9

経済学部教員によるオムニバス講義を通して、経済学部で学ぶことができるさまざまな分野を知り、ゼミ生全員で意見交換を行う。

第15回 学修のまとめ

学修のふりかえり、まとめを行う。

2022年度 前期

2単位

入門演習

常廣 泰貴

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は、学部のDPに示す、2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できること、5.経済問題を総合的に分析できる知識と技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができることを目指しています。

< 主題 > : 経済理論の基礎

< 目標 > : ミクロ経済学やマクロ経済学などを中心とした経済理論の考察方法を身につけます。

< 到達目標 >

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的な考察方法の修得。

< 授業の進め方 >

報告、質疑・応答および課題の考察。

< 授業時間外に必要な学修 >

レジュメ等の作成のため概ね2時間の学修時間。

< 成績評価方法・基準 >

報告および課題によって評価する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

ゼミの概要

第2回? 第7回 報告、課題1

ゼミ生による担当箇所の報告および課題の考察
第8回 中間テスト
報告および課題についてのテスト
第9回? 第14回 報告、課題2
ゼミ生による担当箇所の報告および課題の考察
第15回 テスト
報告および課題についてのテスト

2022年度 前期

2単位

入門演習

西山 茂

< 授業の方法 >

演習 リメディアル教育

< 授業の目的 >

経済学のための数学的基礎を固める。

DP2：経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

DP3：経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる。

< 到達目標 >

経済学のための数学的基礎を固める。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

講義

< 授業時間外に必要な学修 >

1時間程度の復習。

< 成績評価方法・基準 >

演習の中で指示されたレポートによって評価します。(100%)

< テキスト >

矢野健太郎・石原繁編『基礎の数学』裳華房1800円

< 授業計画 >

第1回 整式(1)

整式の加法・減法

第2回 整式(2)

整式の乗法

第3回 整式(3)

展開公式

第4回 整式(4)

因数分解

第5回 整式(5)

演習問題

第6回 整式の除法(1)

整式の除法

第7回 整式の除法(2)

最大公約数・最小公倍数

第8回 整式の除法(3)

剰余の定理・因数定理

第9回 整式の除法(3)

演習問題

第10回 分数式・無理式(1)

有理数・無理数・実数

第11回 分数式・無理式(2)

分数式

第12回 分数式・無理式(3)

無理式

第13回 分数式・無理式(4)

演習問題

第14回 2次方程式(1)

解の公式

第15回 2次方程式(2)

判別式、解と係数の関係

2022年度 前期

2単位

入門演習

伴 ひかり

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP(学位授与方針)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

「経済学は生き抜く智剣」の輪読や動画の視聴を中心に進める。

< 履修するにあたって >

「現代文100字要約ドリル入門編」を毎回持参すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。

< 提出課題など >

演習で学んだことについての課題や「現代文100字要約ドリル入門編」の要約を提出してもらう。後日、解説する。

< 成績評価方法・基準 >

報告30%、課題70%で評価する。原則として、無断で報告を怠った場合や、出席が2/3を下回る場合は単位を取得できない。

< テキスト >

神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』、「履修の手引き」、「現代文100字要約ドリル入門編」

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

自己紹介、入門演習の進め方、「現代文100字要約ドリル入門編」の活用方法

第2回 大学生生活の基礎知識

大学生生活一般について学ぶ。

第3回 経済学部での学び

経済学とは何か、経済学部での学びを考える。

第4-12回 経済学は生き抜く智剣

テキスト『経済学は生き抜く智剣』や動画を用いて、経済学の全体像を俯瞰する。

第13-14回 発表

レジュメの書き方、発表の方法などを学ぶ。

第15回 まとめ

演習全体のまとめ

2022年度 前期

2単位

入門演習

林 隆一

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、「大学生活入門」や神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』などをもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰するとともに、初めての大学での学修の仕方を学ぶことを目的としている。さらに、受講生の人生設計を意識させ、これから始まる大学生活の大切さを確認する。

本演習の目標は、DP（学位授与方針）の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書く

というプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

大学での学修の方法の基本を身につけ、受講生の人生設計から大学4年間で学ぶ意義を考えることができる。

< 授業のキーワード >

経済学、大学、ゼミ

< 授業の進め方 >

各演習担当者によるクラス別の「演習」

< 履修するにあたって >

関連部署（ハラスメント相談室、図書館、課外講習など）による連携講義はスケジュールが今後決定するため、全体の講義スケジュールもそれに合わせて変更する可能性がある（必ず事前に告知するので注意しておくこと）。また社会情勢の変化や受講生の理解動向を踏まえ、授業計画は随時見直す可能性があるため、（変更が必要となった場合は事前に講義・レジュメ告知等を必ず行うので）注意しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「指定図書」を随時活用すること。

< 提出課題など >

< 成績評価方法・基準 >

演習・講義の中で指示された課題における成績によって評価する。（100%）

< テキスト >

「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」

「大学生活入門2020」

「現代文100字要約ドリル入門編」

以上は講義で配布するため購入不要。

< 参考図書 >

・「ライフサイクルゲーム？ 生涯設計のススメ」（第一生命）

・「生活設計・マネープランゲーム」（一般社団法人全国銀行協会）

・「株式会社をつくろう！」（日本証券業協会）

以上の関連資料は講義で配布予定

< 授業計画 >

第1回 大学生生活のガイダンス

大学生活や入門演習のオリエンテーションを行う。

第2回 自己・他己紹介

自己・他己紹介をグループワークを行う。

第3回 個別演習（学びの

オリエンテーション）

大学での学修へのオリエンテーションとして、「大学生活入門」等を用いて、神戸学院大学について学ぶ。資格

・キャリアアップ講座、大学生活について学ぶ。

第4回 「ライフサイクルゲーム」ほか

グループ単位で、現実のファンナンスを模したシミュレーションゲーム「ライフサイクルゲーム ? 生涯設計のススメ」を実践し、体感した上で、自分の一生で使う消費項目・額をイメージする。

(第一生命が作成し第8回消費者教育教材資料表彰を受けた「ライフサイクルゲーム ? 生涯設計のススメ」は就職、結婚、子ども誕生、住宅購入などを擬似的に体験できるすごろくゲーム。http://www.dai-ichi-life.co.jp/tips/lc_game/)

第5回 薬物防止・SNS研修

合同で薬物防止・SNS研修を行う。

(スケジュールが未定のため日時は変更する場合があります)

第6回 「経済学は生き抜く智剣」

「経済学は生き抜く智剣」に基づき、各自まとめて、レポートを作成し、受講生が発表する

第7回 ライブラリーツアー

図書館の使い方「ライブラリーツアー」

(スケジュールが未定のため日時は変更する場合があります)

第8回 「体験して学ぼう!金融・経済・起業 金融クエスト」

「体験して学ぼう!金融・経済・起業 金融クエスト」を配布し実践

制作 証券知識普及プロジェクト

発行 株式会社清水書院

第9回 人権研修

人権研修を行う。(スケジュールが未定のため日時は変更する場合があります)

第10回 「経済学は生き抜く智剣」

「経済学は生き抜く智剣」に基づき、各自まとめて、レポートを作成し、受講生が発表する。

第11回 「経済学は生き抜く智剣③」

「経済学は生き抜く智剣」に基づき、各自まとめて、レポートを作成し、受講生が発表する

第12回 「経済学は生き抜く智剣」

「経済学は生き抜く智剣」に基づき、各自まとめて、レポートを作成し、受講生が発表する

第13回 「経済学は生き抜く智剣」

「経済学は生き抜く智剣」に基づき、各自まとめて、レポートを作成し、受講生が発表する

第14回 「大航海(金融)ゲーム」

グループ単位で、「体験して学ぼう!金融・経済・起業 金融クエスト」を配布し実践

制作 証券知識普及プロジェクト

第15回 まとめ

「現代文100字要約ドリル入門編」、

今までの講義内容を振り返り、受講者が総括する。

2022年度 前期

2単位

入門演習

圓生 和之

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』などをもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP(学位授与方針)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

<到達目標>

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

<授業のキーワード>

経済学

<授業の進め方>

演習形式で実施する。

<履修するにあたって>

連絡は全てメールにより行う。大学から送信するメールの送信先は、全て大学が付与したメールアドレスである。スマホ等のアカウントに必ず追加し、いつでも見ることができる状態にしておくことが重要である。

<授業時間外に必要な学修>

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、他の科目と同様、平均的にはそれぞれ90分程度が必要となる。

<成績評価方法・基準>

演習における報告内容、質疑応答の内容などを総合的に評価します。

<参考図書>

『経済学は生き抜く智剣』神戸学院大学経済学部編

『100字要約ドリル』]

『大学生活入門2021』ほか

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

大学での学修へのオリエンテーションを行う。

第2回 経済学の全体像

経済学の基本的な枠組みとして、ミクロ経済学、マクロ経済学などの概説を通して、経済学の全体像を学ぶ。

第3回

～15回 現代の経済学

経済学部の手教員等による講義を聴く。

経済学をなぜ学ぶか、中小企業と日本経済、ファイナンス・プランナー、サービス産業、アクティブラーニング、マーケティング、社会保障、環境政策、等

第3回

～15回 文章力の向上

学部の共通教材「要約ドリル」を用いて文章力を高める。

第3回

～15回 発表・報告

受講生が自由に研究テーマを決めて発表を行い、ゼミの演習形式を学ぶ。

2022年度 前期

2単位

入門演習

三宅 敦史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

本演習は、経済学部新1年生全員が履修する科目となっている。

本演習の主題は、神戸学院大学経済学部の独自教材『経済学は生き抜く智剣』をもとに、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにある。

本演習の目標は、DP(学位授与方針)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことである。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられている。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

各演習担当者によるクラス別の「演習」および経済学部教員等による「講義」

< 履修するにあたって >

経済学部の多くの教員等が講義を行うため、これから何をどのように学ぶのか、またそれぞれの専門分野や講義はどのような特徴があるのかを見ることができる。本講

義はその後の履修の参考になるほか、コースに分かれる際の判断の基準にもなるため、今後の履修やゼミ選択のガイダンスという意味でも極めて重要である。

なお、学内外の多くの教員等のスケジュールの都合上、以下の授業計画を変更することがあるが、その場合は講義内で告知するので、スケジュールの変更に注意すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「指定図書」を随時活用すること。

< 提出課題など >

毎回提出課題を課す

< 成績評価方法・基準 >

演習・講義の中で指示された課題における成績によって評価する。(100%)

< テキスト >

全体講義では、「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」を使用する場合がある。

< 参考図書 >

個別講義では「大学生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」を使用する場合がある。

< 授業計画 >

第1回 個別演習(学びの

オリエンテーション)

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第2回 「経済学は生き抜く智剣」

経済学の基本的な枠組みとして、ミクロ経済学、マクロ経済学、企業論などの概説を通して、経済学の全体像を学ぶ

第3回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第4回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第5回 薬物・SNS研修

薬物やSNSについて学習する。

第6回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第7回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第8回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第9回 人権問題研修会

人権問題・同和問題について学習する。

第10回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第11回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第12回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第13回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第14回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

第15回 個別演習

ゼミごとに演習・グループワークを行う。

2022年度 前期

2単位

入門演習

毛利 進太郎

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

入門演習の主題は、4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することにあります。

本演習の目標は、DP(学位授与方針)の「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ようになるため、大学で必須の「学ぶ」スタイルを確立することである。すなわち、講義を聴き、教材を読み、理解し、思考し、そして書くというプロセスの基本を学ぶことにあります。

なお、この科目は専門教育科目で、選択必修科目の演習科目に位置づけられています。

< 到達目標 >

4年間に学ぶ経済学の全体像を俯瞰することができる。

< 授業のキーワード >

経済学

< 授業の進め方 >

各演習担当者によるクラス別の「演習」および経済学部教員等による「講義」

< 授業時間外に必要な学修 >

学修の目安となる時間は、一律ではないものの、予習復習に平均的にはそれぞれ1時間程度が必要となる。下記の「テキスト」「指定図書」を随時活用すること。

< 提出課題など >

適宜、提出課題を課します。

< 成績評価方法・基準 >

演習・講義の中で指示された課題における成績によって評価する。(100%)

< テキスト >

全体講義では、「神戸学院大学経済学部編『経済学は生き抜く智剣』」を使用する場合がある。

< 参考図書 >

個別講義では「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」を使用する場合がある。

< 授業計画 >

第1回 個別演習

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第2回 個別演習

大学での学修へのオリエンテーションを行う。「大学生生活入門2020」「大学生学びのハンドブック」等を用いて、大学生活について学ぶ。

第3回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主に経済学の基礎的な分野を扱います。

第4回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主に経済学の基礎的な分野を扱います。

第5回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主に経済学の基礎的な分野を扱います。

第6回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主にデータサイエンス・数学の基礎的な分野を扱います。

第7回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主にデータサイエンス・数学の基礎的な分野を扱います。

第8回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主にデータサイエンス・数学の基礎的な分野を扱います。

第9回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主に経済学を学ぶ上で必要となる分野を扱います。

第10回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主に経済学を学ぶ上で必要となる分野を扱います。

第11回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主に経済学を学ぶ上で必要となる分野を扱います。

第12回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主に時事的な問題を扱います。

第13回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを

行います。

主に時事的な問題を扱います。

第14回 個別演習

各教員から示された教材などを用いてグループワークを行います。

主に時事的な問題を扱います。

第15回 個別演習

これまでに学習した内容を俯瞰し、経済学部での今後の学習を考えます。

2022年度 前期

2単位

入門演習

渡部 尚史

< 授業の方法 >

演習

< 授業の目的 >

この科目は経済学部DPが示す「経済理論の基礎を修得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを目指す。1年次配当の演習科目に属する。

< 到達目標 >

経済学部で学習する専門科目の概要を説明できる。

< 授業の進め方 >

『大学生活入門』と『経済学は生き抜く智剣』を用いて、講義と報告を中心に進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、テキストを読むこと(1時間)、事後学習として、学習内容を復習すること(1時間)。

< 提出課題など >

授業内容に関するレポートを提出する。レポートの内容については次回の授業で解説する。

< 成績評価方法・基準 >

欠席が2回以下であることを前提に、学習内容に関するレポート100%で評価する。

< 授業計画 >

第1回 大学生活入門(1)

『大学生活入門』から、神戸学院大学の理念と歴史を理解する。

第2回 大学生活入門(2)

『大学生活入門』から、充実した大学生活のおくり方を理解する。

第3回 なぜ勉強するのか

人が勉強するのは、「夢、知恵、元気」を得るためであることを理解する。

第4回 企業が求める人材とは

企業がどのような人材を求めているのかを理解する。

第5回 基幹科目(1)

ミクロ経済学、マクロ経済学で学習する内容を理解する。

第6回 基幹科目(2)

日本経済論、経済政策で学習する内容を理解する。

第7回 基幹科目(3)

財政学、金融論で学習する内容を理解する。

第8回 基幹科目(4)

国際経済学、経済史総論で学習する内容を理解する。

第9回 コース科目(企業経済)

企業論、コーポレート・ファイナンス論で学習する内容を理解する。

第10回 コース科目(公共経済)

労働経済論、社会保障論で学習する内容を理解する。

第11回 コース科目(生活経済)

生活経済論、観光ビジネス論で学習する内容を理解する。

第12回 専門リテラシー科目(1)

統計学、経済数学で学習する内容を理解する。

第13回 専門リテラシー科目(2)

ICT実習(共通教育科目)、情報処理概論で学習する内容を理解する。

第14回 実践力アップ科目

公務員法学、企業研究、SPI対策で学習する内容を理解する。

第15回 幸せを考える

幸せな人生とは何か、人生とは何かを考えるヒントを得る。

2022年度 後期

4単位

入門行動経済学 [生活]

柴田 淳子

< 授業の方法 >

講義(場合によっては【遠隔授業】)

< 授業の目的 >

本科目では、DP(学位授与方針)の「3. 経済データに関する基礎的知識を修得し、統計的な処理・分析ができ、政策課題に対応できる」ため、物事を理論的に理解する思考力を身に付けることを目指します。

本科目は、専門教育科目の選択科目における生活経済専門科目に属する科目です。

本講義では、行動経済学に関する知識を身に付けることを目的とします。具体的には、人間の行動の特徴を明らかにし、人間がそのような行動をとった結果、どのような経済社会になるかを学びます。

< 到達目標 >

1. 経済学と行動経済学の考え方を理解できる
2. 例題を通して、その意思決定を理論的に解釈できる
3. 人間の意思決定過程を理解し、実生活での意思決定

に応用することができる

< 授業の進め方 >

講義形式により進めていきます。

< 履修するにあたって >

授業計画は、受講者の理解に応じて変更される場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、90～120分程度の復習が必要です。

< 提出課題など >

授業内容に関するレポートを複数回出題し、次回以降の授業で解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

2回の演習問題（それぞれ30%）、課題レポート（40%）で評価します。評価を受ける人は必ず2回の演習問題を受けてください。受けられない場合は別途対応しますので、事前に申し出てください。

< 参考図書 >

筒井義郎，佐々木俊一郎，山根承子，グレッグ・マルデワ，「行動経済学入門」，東洋経済新報社，2017。

多田洋介，「行動経済学入門」，日本経済新聞出版社，2014。

瀧澤弘和，「現代経済学」，中央公論新社，2018。

< 授業計画 >

第1～2回 ガイダンス，行動経済学とは

行動経済学の分野とその方法

第3～4回 ヒューリスティクス

ヒューリスティクスのメリットデメリット

第5～6回 時間選好(1)

時間割引率とその測定方法

第7～8回 時間選好(2)

先延ばしと後悔のメカニズム

第9～10回 リスク選好とプロスペクト理論(1)

期待効用仮説

第11～12回 リスク選好とプロスペクト理論(2)

価値関数

第13～14回 社会的選好

公共財供給実験と社会的ジレンマ

第15～16回 まとめ，演習問題(1)

前半の総括

第17～18回 お金に関する経済心理(1)

メンタルアカウンティング

第19～20回 お金に関する経済心理(2)

サンクコスト，保有効果

第21～22回 行動ファイナンス

投資家心理

第23～24回 幸福の経済学

相対所得仮説

第25～26回 実世界における行動経済学(1)

「ナッジ」する

第27～28回 実世界における行動経済学(2)

デフォルトの力とコミットメントの力

第29～30回 まとめ，演習問題(2)

後半の総括

2022年度 後期

2単位

入門マクロ経済学

三宅 敦史

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は1年次生全員が学習することが求められている基幹科目であり、2年次配当科目である「マクロ経済学」の導入科目として位置付けられている。この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる経済理論の基礎の修得を目指すための科目である。

< 到達目標 >

マクロ経済学の基礎であるGDP・金融・財政の関係について理解する。

< 授業のキーワード >

GDPの三面等価、45度線分析、金融財政政策、日本経済

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 成績評価方法・基準 >

小テストと期末試験で評価する。

小テストは毎週実施し、提出回数が2/3に満たない者については成績評価は行わない。

評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

< テキスト >

中村保・大内田康徳編著『経済学入門』ミネルヴァ書房、2017年

< 授業計画 >

第1回 マクロ経済学とは

マクロ経済学がどのような学問であるのかについて学習する。

第2回 国内総生産1

GDPの概念について学習する。

第3回 国内総生産2

名目GDPと実質GDPとの違いについて学習する。

第4回 国内総生産3

GDPの三面等価について学習する。

第5回 物価

物価の概念や測定方法について学習する。

第6回 失業

失業の概念や測定方法について学習する。

第7回 国民所得の決定1

45度線分析（グラフ）を用いたGDPの決定について学習する。

第8回 国民所得の決定2

45度線分析（数式）を用いたGDPの決定について学習する。

第9回 財政政策1

財政の仕組みや財政政策の手法について学習する。

第10回 財政政策2

財政の波及メカニズムや乗数効果について学習する。

第11回 金融政策1

金融システムや金融政策の手法について学習する。

第12回 金融政策2

金融政策の目的や波及メカニズムについて学習する。

第13回 日本経済の歴史

日本経済の歴史について学習する。

第14回 日本経済の現状

日本経済の現状について学習する。

第15回 総括

これまで学習した内容を総括する。

2022年度 後期

2単位

入門マクロ経済学

伴 ひかり

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は1年次生全員が学習することが求められている基幹科目であり、2年次配当科目である「マクロ経済学」の導入科目として位置付けられている。この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる経済理論の基礎の修得を目指すための科目である。

< 到達目標 >

マクロ経済学の基礎であるGDP・金融・財政の関係について理解する。

< 授業のキーワード >

GDPの三面等価、45度線分析、金融財政政策、日本経済

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある

練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 成績評価方法・基準 >

小テストと期末試験で評価する。

小テストは毎週実施し、提出回数が2 / 3に満たない者については成績評価は行わない。

評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

< テキスト >

中村保・大内田康德編著『経済学入門』ミネルヴァ書房、2017年

< 授業計画 >

第1回 マクロ経済学とは

マクロ経済学がどのような学問であるのかについて学習する。

第2回 国内総生産1

GDPの概念について学習する。

第3回 国内総生産2

名目GDPと実質GDPとの違いについて学習する。

第4回 国内総生産3

GDPの三面等価について学習する。

第5回 物価

物価の概念や測定方法について学習する。

第6回 失業

失業の概念や測定方法について学習する。

第7回 国民所得の決定1

45度線分析（グラフ）を用いたGDPの決定について学習する。

第8回 国民所得の決定2

45度線分析（数式）を用いたGDPの決定について学習する。

第9回 財政政策1

財政の仕組みや財政政策の手法について学習する。

第10回 財政政策2

財政の波及メカニズムや乗数効果について学習する。

第11回 金融政策1

金融システムや金融政策の手法について学習する。

第12回 金融政策2

金融政策の目的や波及メカニズムについて学習する。

第13回 日本経済の歴史

日本経済の歴史について学習する。

第14回 日本経済の現状

日本経済の現状について学習する。

第15回 総括

これまで学習した内容を総括する。

2022年度 後期
2単位
入門マクロ経済学
石本 眞八

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は1年次生全員が学習することが求められている基幹科目であり、2年次配当科目である「マクロ経済学」の導入科目として位置付けられている。この科目は経済学部ディプロマ・ポリシーに掲げる経済理論の基礎の修得を目指すための科目である。

< 到達目標 >

マクロ経済学の基礎であるGDP・金融・財政の関係について理解する。

< 授業のキーワード >

GDPの三面等価、45度線分析、金融財政政策、日本経済

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 成績評価方法・基準 >

小テストと期末試験で評価する。

小テストは毎週実施し、提出回数が2 / 3に満たない者については成績評価は行わない。

評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

< テキスト >

中村保・大内田康徳編著『経済学入門』ミネルヴァ書房、2017年

< 授業計画 >

第1回 マクロ経済学とは

マクロ経済学がどのような学問であるのかについて学習する。

第2回 国内総生産1

GDPの概念について学習する。

第3回 国内総生産2

名目GDPと実質GDPとの違いについて学習する。

第4回 国内総生産3

GDPの三面等価について学習する。

第5回 物価

物価の概念や測定方法について学習する。

第6回 失業

失業の概念や測定方法について学習する。

第7回 国民所得の決定1

45度線分析(グラフ)を用いたGDPの決定について学習する。

第8回 国民所得の決定2

45度線分析(数式)を用いたGDPの決定について学習する。

第9回 財政政策1

財政の仕組みや財政政策の手法について学習する。

第10回 財政政策2

財政の波及メカニズムや乗数効果について学習する。

第11回 金融政策1

金融システムや金融政策の手法について学習する。

第12回 金融政策2

金融政策の目的や波及メカニズムについて学習する。

第13回 日本経済の歴史

日本経済の歴史について学習する。

第14回 日本経済の現状

日本経済の現状について学習する。

第15回 総括

これまで学習した内容を総括する。

2022年度 後期

2単位

入門マクロ経済学

玉山 初美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は1年次生全員が学習することが求められている基幹科目であり、2年次配当科目である「マクロ経済学」の導入科目として位置付けられている。この科目は経済学部ディプロマ・ポリシーに掲げる経済理論の基礎の修得を目指すための科目である。

< 到達目標 >

マクロ経済学の基礎であるGDP・金融・財政の関係について理解する。

< 授業のキーワード >

GDPの三面等価、45度線分析、金融財政政策、日本経済

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

<成績評価方法・基準>

小テストと期末試験で評価する。
小テストは毎週実施し、提出回数が2 / 3に満たない者については成績評価は行わない。
評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

<テキスト>

中村保・大内田康徳編著『経済学入門』ミネルヴァ書房、2017年

<授業計画>

- 第1回 マクロ経済学とは
マクロ経済学がどのような学問であるのかについて学習する。
- 第2回 国内総生産1
GDPの概念について学習する。
- 第3回 国内総生産2
名目GDPと実質GDPとの違いについて学習する。
- 第4回 国内総生産3
GDPの三面等価について学習する。
- 第5回 物価
物価の概念や測定方法について学習する。
- 第6回 失業
失業の概念や測定方法について学習する。
- 第7回 国民所得の決定1
45度線分析（グラフ）を用いたGDPの決定について学習する。
- 第8回 国民所得の決定2
45度線分析（数式）を用いたGDPの決定について学習する。
- 第9回 財政政策1
財政の仕組みや財政政策の手法について学習する。
- 第10回 財政政策2
財政の波及メカニズムや乗数効果について学習する。
- 第11回 金融政策1
金融システムや金融政策の手法について学習する。
- 第12回 金融政策2
金融政策の目的や波及メカニズムについて学習する。
- 第13回 日本経済の歴史
日本経済の歴史について学習する。
- 第14回 日本経済の現状
日本経済の現状について学習する。
- 第15回 総括
これまで学習した内容を総括する。

2022年度 前期

2単位

入門ミクロ経済学

三宅 敦史

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は1年次生全員が学習することが求められている基幹科目であり、2年次配当科目である「ミクロ経済学」の導入科目として位置付けられている。この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる経済理論の基礎の修得を目指すための科目である。

<到達目標>

ミクロ経済学の基礎である需要と供給及び市場メカニズムについて理解する。

<授業のキーワード>

需要、供給、均衡、余剰、市場の失敗

<授業の進め方>

スライドを用いた講義形式で行う。必要に応じてレジュメを配布する。

<授業時間外に必要な学修>

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

<成績評価方法・基準>

小テストと期末試験で評価する。

課題提出が講義回数の2 / 3に満たない者については成績評価は行わない。

評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

<テキスト>

中村保・大内田康徳編著『経済学入門』ミネルヴァ書房、2017年

<授業計画>

- 第1回 ミクロ経済学とは
ミクロ経済学がどのような学問であるのかについて学習する。
- 第2回 消費者行動と需要1
需要曲線の性質について学習する。
- 第3回 消費者行動と需要2
消費者余剰の概念について学習する。
- 第4回 生産者行動と供給1
供給曲線の性質について学習する。
- 第5回 生産者行動と供給2

生産者余剰の概念について学習する。

第6回 市場均衡1

需要と供給とが一致する均衡概念について学習する。

第7回 市場均衡2

様々なショックにより均衡がどのように変化するのか学習する。

第8回 余剰分析1

市場均衡の効率性について学習する。

第9回 余剰分析2

課税により死荷重が発生することを学習する。

第10回 現実経済への応用1

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第11回 現実経済への応用2

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第12回 現実経済への応用3

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第13回 市場の失敗1

外部性など市場の失敗について学習する。

第14回 市場の失敗2

市場の失敗に関する解決策について学習する。

第15回 総括

これまで学習した内容を総括する。

2022年度 前期

2単位

入門ミクロ経済学

伴 ひかり

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は1年次生全員が学習することが求められている基幹科目であり、2年次配当科目である「ミクロ経済学」の導入科目として位置付けられている。この科目は経済学部のディプロマ・ポリシーに掲げる経済理論の基礎の修得を目指すための科目である。

< 到達目標 >

ミクロ経済学の基礎である需要と供給及び市場メカニズムについて理解する。

< 授業のキーワード >

需要、供給、均衡、余剰、市場の失敗

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で行う。必要に応じてレジュメを配布する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手

引」を参照のこと。

< 成績評価方法・基準 >

小テストと期末試験で評価する。

課題提出が講義回数数の2 / 3に満たない者については成績評価は行わない。

評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

< テキスト >

中村保・大内田康德編著『経済学入門』ミネルヴァ書房、2017年

< 授業計画 >

第1回 ミクロ経済学とは

ミクロ経済学がどのような学問であるのかについて学習する。

第2回 消費者行動と需要1

需要曲線の性質について学習する。

第3回 消費者行動と需要2

消費者余剰の概念について学習する。

第4回 生産者行動と供給1

供給曲線の性質について学習する。

第5回 生産者行動と供給2

生産者余剰の概念について学習する。

第6回 市場均衡1

需要と供給とが一致する均衡概念について学習する。

第7回 市場均衡2

様々なショックにより均衡がどのように変化するのか学習する。

第8回 余剰分析1

市場均衡の効率性について学習する。

第9回 余剰分析2

課税により死荷重が発生することを学習する。

第10回 現実経済への応用1

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第11回 現実経済への応用2

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第12回 現実経済への応用3

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第13回 市場の失敗1

外部性など市場の失敗について学習する。

第14回 市場の失敗2

市場の失敗に関する解決策について学習する。

第15回 総括

これまで学習した内容を総括する。

2022年度 前期
2単位
入門ミクロ経済学
石本 眞八

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は1年次生全員が学習することが求められている基幹科目であり、2年次配当科目である「ミクロ経済学」の導入科目として位置付けられている。この科目は経済学部ディプロマ・ポリシーに掲げる経済理論の基礎の修得を目指すための科目である。

< 到達目標 >

ミクロ経済学の基礎である需要と供給及び市場メカニズムについて理解する。

< 授業のキーワード >

需要、供給、均衡、余剰、市場の失敗

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で行う。必要に応じてレジメを配布する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手引」を参照のこと。

< 成績評価方法・基準 >

小テストと期末試験で評価する。

課題提出が講義回数の2 / 3に満たない者については成績評価は行わない。

評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

< テキスト >

中村保・大内田康徳編著『経済学入門』ミネルヴァ書房、2017年

< 授業計画 >

第1回 ミクロ経済学とは

ミクロ経済学がどのような学問であるのかについて学習する。

第2回 消費者行動と需要1

需要曲線の性質について学習する。

第3回 消費者行動と需要2

消費者余剰の概念について学習する。

第4回 生産者行動と供給1

供給曲線の性質について学習する。

第5回 生産者行動と供給2

生産者余剰の概念について学習する。

第6回 市場均衡1

需要と供給とが一致する均衡概念について学習する。

第7回 市場均衡2

様々なショックにより均衡がどのように変化するか学習する。

第8回 余剰分析1

市場均衡の効率性について学習する。

第9回 余剰分析2

課税により死荷重が発生することを学習する。

第10回 現実経済への応用1

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第11回 現実経済への応用2

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第12回 現実経済への応用3

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第13回 市場の失敗1

外部性など市場の失敗について学習する。

第14回 市場の失敗2

市場の失敗に関する解決策について学習する。

第15回 総括

これまで学習した内容を総括する。

2022年度 前期

2単位

入門ミクロ経済学

玉山 初美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は1年次生全員が学習することが求められている基幹科目であり、2年次配当科目である「ミクロ経済学」の導入科目として位置付けられている。この科目は経済学部ディプロマ・ポリシーに掲げる経済理論の基礎の修得を目指すための科目である。

< 到達目標 >

ミクロ経済学の基礎である需要と供給及び市場メカニズムについて理解する。

< 授業のキーワード >

需要、供給、均衡、余剰、市場の失敗

< 授業の進め方 >

スライドを用いた講義形式で行う。必要に応じてレジメを配布する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週の講義前にテキストの指定箇所を読んだうえで授業に臨むこと。

講義終了後にはノートを見直し、テキストの章末にある練習問題を解いて復習すること。

なお授業時間外に必要な学修時間に関しては「履修の手

引」を参照のこと。

<成績評価方法・基準>

小テストと期末試験で評価する。

課題提出が講義回数の2 / 3に満たない者については成績評価は行わない。

評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

<テキスト>

中村保・大内田康徳編著『経済学入門』ミネルヴァ書房、2017年

<授業計画>

第1回 ミクロ経済学とは

ミクロ経済学がどのような学問であるのかについて学習する。

第2回 消費者行動と需要1

需要曲線の性質について学習する。

第3回 消費者行動と需要2

消費者余剰の概念について学習する。

第4回 生産者行動と供給1

供給曲線の性質について学習する。

第5回 生産者行動と供給2

生産者余剰の概念について学習する。

第6回 市場均衡1

需要と供給とが一致する均衡概念について学習する。

第7回 市場均衡2

様々なショックにより均衡がどのように変化するのか学習する。

第8回 余剰分析1

市場均衡の効率性について学習する。

第9回 余剰分析2

課税により死荷重が発生することを学習する。

第10回 現実経済への応用1

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第11回 現実経済への応用2

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第12回 現実経済への応用3

ミクロ経済学の考え方をを用いて現実経済を分析する。

第13回 市場の失敗1

外部性など市場の失敗について学習する。

第14回 市場の失敗2

市場の失敗に関する解決策について学習する。

第15回 総括

これまで学習した内容を総括する。

2022年度 前期

4単位

ビジネス演習 [企業]

井上 善博

<授業の方法>

演習

<授業の目的>

主題 将来、皆さんは職業人・社会人になります。それまでに人間力や社会人基礎力を身につけておくことが重要です。皆さんが、将来、社会人として活躍できるよう、具体的にはに次のような経営活動に関する能力を養うことを本授業の主題とします。

仕事の目的を明確にして取り組む能力

良好なコミュニケーション能力

積極的な行動力と観察力

客観的に、理論的に考え抜く力

目的

上記、主題を身につけるために、

経済と企業経営の基本

話し方と聞き方のポイント

接客や営業の進め方について

不満を信頼に変えるクレーム対応

チームワーク などの仕事の現場における諸課題について事例をもとに理解することを本授業の目的とします。

この科目は学部のDPで示す、

1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

(思考力・判断力・表現力等の能力)

以上の点を目的とします。

<到達目標>

ビジネス能力検定2級～1級の合格を目指す。

企業経営に必要な能力を養う。

<授業のキーワード>

会社の経営、ビジネス会話、接客の方法 ベンチャー企業 産業と経済の基礎知識

<授業の進め方>

前半で、ビジネスとコミュニケーション、経営学に関するトピックスを解説します。

後半で、問題集の設問を解き、その回の授業内容の定着をはかります。

<授業時間外に必要な学修>

当日解いた問題集の復習として50分を必要とする。

<提出課題など>

なし

< 成績評価方法・基準 >

中間テスト40%、期末テスト60%で評価します。

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

佐久間・坪井『現代経営組織論の基礎』学文社，2011年。

< 授業計画 >

第1回 キャリアと仕事

これからのビジネス環境

第2回 新たな働き方

リモートワークでどのように会社に貢献できるのか

第3回 自分に合っている仕事とは

キャリア形成と自己啓発

第4回 会社の役割

会社の経営では何を目的としているか

第5回 仕事の基本

顧客ニーズに応じた会社経営

第6回 健全な経営

コンプライアンス(法令遵守)の考え方

第7回 話し方と聞き方のポイント

ビジネス会話の進め方

第8回 柔らかい印象を与える会話

依頼やお詫び、断り方の技法

第9回 顧客に喜ばれる接客

顧客の信頼を得るには

第10回 クレーム対応

クレームの理由と顧客心理を考える

第11回 会議に出席する

会議で相手を納得させるには

第12回 チームワーク

チームワークの意義と重要性

第13回 情報化社会

情報漏洩と情報セキュリティ管理

第14回 経営管理の基本は

PDCAサイクルで軌道修正していく経営管理手法

第15回 ビジネス文書の作成

議事録・報告書・企画書の作成

第16回 統計データの作成

統計データで会議をマネジメントする

第17回 統計データ分析

会社の将来予測をしてみよう

第18回 情報収集

信頼できる情報源はなにか

第19回 会計情報の理解1

損益計算書の読み方

第20回 会計情報の理解2

貸借対照表の読み方

第21回 会計数字の概念

売上・コスト・利益の概念

第22回 ビジネスと法律1

労働基準法

第23回 ビジネスと法律2

民法と会社法

第24回 会社と労働者の法的関係

労働協約・就業規則・雇用契約

第25回 勤務条件

労働基準法で定められた労働時間、休日、休暇の概念

第26回 社会保険制度

公的年金・健康保険・雇用保険・労災保険

第27回 税金の知識

納税義務とは

第28回 超過累進税率とは

所得の金額が増えると税率が高くなる

第29回 取引の諸形態

現金取引と信用取引

第30回 産業と経済

経済のグローバル化と社会構造の変革

2022年度 前期

4単位

ビジネスマクロ分析 [企業]

竹治 康公

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

マクロ経済学の基礎概念を企業行動などとの関連で十分に理解し、ビジネスの現場で活用できるスキルを身につけることを目的とする。

DP(学位授与方針)の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共ににより良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての15年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

ビジネスの世界における付加価値の重要性、輸出型から現地生産型への企業行動の変化、財政・金融政策の企業行動への影響などを十分に理解し、将来、ビジネスの世界で経営層に入ったときに活用可能な思考能力の基礎を獲得することを目標とする。

< 授業のキーワード >

付加価値、GDPとGNI、国際収支、利子率と利回り、中央銀行と通貨発行

< 授業の進め方 >

2時間連続講義において2/3から3/4の時間を講義に充て、残りの時間でその回の講義をノートにまとめる。

また講義に先立って、予習課題についてのレポート提出を課す。

< 履修するにあたって >

1. 2年次配当「マクロ経済学」について理解できていることを前提に授業を進めるので、2年次で「マクロ経済学」の単位を取得しなかった履修者は授業開始までに、「マクロ経済学」の単位取得レベルがそれ以上のレベルを理解できるようにしておくこと。

2. デヴィッド・モス (著)、久保 恵美子 (翻訳) 『世界のエリートが学ぶマクロ経済入門 - ハーバード・ビジネス・スクール教授の実践講座』、日本経済新聞出版社、2016 が非常によいマクロの解説書なので、テキストとして使う予定であったが、在庫が不足しており、また重版予定もないということであるが、Kindle版があるので紙の書籍が手に入らない場合はKindle版を入手しておくこと。

3. マクロ経済学のテキストや問題集は大変種類が多いので、図書館、書店などで自分に合うものを選んでおくとよい。こうした選書作業も大学における学習の一環として積極的に取り組むべきである。

4. レポートの提出等、dotCampusを活用するので、dotCampusの利用方法に習熟しておくこと。

5. 本講義は2年次にマクロ経済学を履修し、理解していることを前提として講義を進めるので、本講義を十分に理解するためには上記科目の理解が必須である。前年度に上記2科目を履修していない場合は講義開始までに当該講義内容相当の学習をしておくこと。

6. コロナウイルス対応のため現時点で確定できない変更等が発生する可能性があるのでシラバスは随時確認しておくこと

7. なお、参考書のうちデービッド・アトキンソンの『新生産性立国論』と『日本企業の勝算』は授業で参照することが多いので、入手しておくことが望ましい。また、『高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学』は書き方にやや難はあるが、この科目を履修するにあたって、これまでのマクロ経済学の学習が不十分である場合には用意しておくことよい。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業に先立って授業内容の下調べをすることは必須であり、そのための予習課題を課すのですべて期限内に提出すること

< 成績評価方法・基準 >

1. 試験50% (8週目と15週目に実施)、課題レポート50% (次項の予習レポートとは別)

2. 毎週予習レポートを課す。未提出1回につき10点減点する。

< テキスト >

デヴィッド・モス著、久保恵美子訳 『世界のエリートが学ぶマクロ経済入門』、日本経済新聞社

デービッド・アトキンソン著、『国運の分岐点』、講談社 + 新書

< 参考図書 >

菅原晃著、『高校生からわかる マクロ・ミクロ経済学』、河出書房新社

デービッド・アトキンソン著、『新・生産性立国論』、東洋経済新報社

デービッド・アトキンソン著、『日本企業の勝算』、東洋経済新報社

< 授業計画 >

第1-2回 ビジネスの世界におけるマクロ経済学の活用
ビジネスの世界においてマクロ経済学の知識がどのように役立つかという課題についての概要を理解する。また、この講義はビジネスの世界に出る人材の育成を目標にするので、レポート等はその内容(品質)だけでなく提出期限(納期)の厳守が必須であることを理解する。

第3-4回 付加価値と企業利益

GDPの実態としての付加価値について、利益との違いをよく理解し、企業にとっての最重要課題は付加価値を生み出すことであることを理解する。

第5-6回 1人当たりGDPと中小企業問題 その1

国民一人当たりGDPと労働者一人当たりGDPについて理解を深め、それらの指標が低迷する日本経済の現状を理解する。

第7-8回 1人当たりGDPと中小企業問題 その2

前回の講義内容を使って、日本の一人当たりGDPの低迷の原因が中小企業にあるという説の妥当性について理解を深める。

第9-10回 人口減少と働き方改革

日本の一人当たりGDPの低迷を解決する方法についての考え方を理解し、そのために必要となる働き方改革についても理解を深める。

第11-12回 GDPとGNI その1

まず名目GDPと名目GNIの違いを理解する。特に、国際収支について、GDPの場合は貿易。サービス収支であるのに対し、GNIの場合、貿易・サービス収支に第一次所得収支を加えた経常収支になることを理解する。さらに、交易条件まで考慮した場合のGNIについての解説を通して、貿易収支、経常収支等の指標についての理解を深める

第13-14回 GDPとGNI その2

前回の講義内容に基づいて、最近20年ぐらいで、日本企業の行動パターンが国内生産 輸出から現地生産に変化しつつあることを理解する。

第15-16回 中間試験

前回までの授業内容に関する試験を行う。

試験終了後、解説を行う。

第17-18回 財政破綻と企業行動 その1

対GDP比率最大である日本政府の債務の現状と財政破綻の可能性について理解する。

第19-20回 財政破綻と企業行動 その2

前回の講義内容を踏まえて、今後の日本企業がとるべき対応について理解する。

第21-22回 経常収支が意味するもの

貿易立国から投資立国へという近年の日本の変化を理解するとともに、経常収支黒字である現状が日本経済にとって是非かについて理解する。

第23-24回 GDPの三面等価と財政赤字

日本政府の財政赤字の原因としての企業の消極的な投資姿勢について学び、日本企業の現状を改善するために必要なことについて理解する。

第25-26回 日本銀行の通貨発行

日本銀行の通貨発行のメカニズムと現状について理解することを通して、日本政府の財政破綻問題を理解するための基礎を理解する

第27-28回 信用創造と政府の負債

前回の講義内容を前提として、政府の債務問題と日本経済の今後について理解する。

第29-30回 期末試験

前回までの授業内容に関する試験を行う。

試験終了後、解説を行う。

2022年度 前期

4単位

ビジネスミクロ分析 [企業]

林 隆一

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本講義は、企業経済コースの選択必修科目（その他のコースの選択科目）として、企業の経済活動に関する基礎科目として位置づけられる。DP（学位授与方針）の「経済データに関する基礎的知識を取得」や「自分の意見を口頭や文章によって表現」することをベースに「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

受講者が基本的な「経済学」の市場原理を理解していることを前提として、実際の企業活動の実例から「経営学」の視点を軸に企業活動を分析する理論を理解し、企業活動の本質を考えることができることを目的とする。社会科学としての「経済学」は経済現象における市場原理を説明する学問であり、伝統的な経済学は、価格や資源配分などは市場メカニズムで自動的に決まり、「企業」を生産活動を通じて利潤を最大化しようとする画一的な

経済単位の一つとしてとらえてきた。一方、社会科学としての「経営学」は、価格や資源配分などを経営者の意思で決めることができると考え、色々な企業行動の原理を解明する学問であり、「企業」を試行錯誤し利益を上げながら存続しようとする一般化が困難な組織としてとらえてきた。しかし、最近の「経済学」は企業の経済学を対象した研究が進む一方で、「経営学」でも経済学的手法を取り入れた研究が行われ、それぞれの学問領域が重なる点も増えてきており、両視点からの理解が重要となっている。「経営学」の視点を学び、企業活動の多様な側面を知ること、「企業（活動）」を多角的に理解できるようになることを目的とする。

なお、この授業の担当者は、証券アナリストとして企業分析・評価を19年間経験し、現在は上場企業の社外取締役を兼務する「実務経験のある教員」であり、より実践的な観点から上記の内容等を解説するものである。

< 到達目標 >

（１）実際の企業活動の現場で使われる代表的な理論や手法の基本知識を身につける（知識）。

（２）経営学等の理論・概念を使い、学生自身が選んだ企業（組織）に適用できる（技能）。

（３）具体的な企業活動に興味を持つことができる（態度・習慣）。

< 授業のキーワード >

働き方、やる気、定量分析、事業戦略、バリューチェーン、SWOT、PPM、経営管理、ステークホルダー、グローバルイノベーション、生産システム、組織、エコシステム、製品アーキテクチャ、M&A、イノベーション、AI

< 授業の進め方 >

授業では、実際の日本企業（一部海外企業含む）の事例と関連する理論や考え方を説明する。その際に、最終的に受講生が自分の選んだ企業を、講義で習った理論や手法を使い分析し、課題レポートを作成できるように「具体的」な分析方法を示しながら進める。

< 履修するにあたって >

コロナ禍などの社会情勢に伴い、講義の進め方やスケジュールは順次変更する可能性がある。

その場合は必ず講義内で説明した上で、速やかにシラバスも変更する。

（講義・レジュメ告知等に注意しておくこと）

< 授業時間外に必要な学修 >

一律ではないものの、平均的には90分程度を想定している。

< 成績評価方法・基準 >

試験40%、課題レポート60%

< テキスト >

なし。

今後必要となれば、講義中に適宜指示する。

< 参考図書 >

経営学理論について以下の参考図書をベースとしている（以前の「企業経済論」のテキストとして使用したものである）。

『経営学の基本（経営学検定試験公式テキスト）』一般社団法人日本経営協会（監修）、特定非営利活動法人経営能力開発センター（編集）/中央経済社
『経営学入門キーコンセプト』井原 久光、菅野 洋介、福地 宏之、平野 賢哉（著）/ミネルヴァ書房

講義内のケーススタディ等の内容の一部は以下の参考図書の内容に基づく。

『会社四季報』東洋経済新報社；季刊版
『決算書はここだけ読もう 最新版』矢島 雅己（著）/弘文堂
『ケースに学ぶ日本の企業 -- ビジネス・ヒストリーへの招待』加藤 健太、大石 直樹（著）/有斐閣
『ケースに学ぶ経営学 新版』東北大学経営学グループ（著）/有斐閣；新版
『ケースに学ぶマーケティング』青木 幸弘（編集）/有斐閣
『ケースブック 経営戦略の論理 全面改訂版』伊丹 敬之、西野 和美（編集）/日本経済新聞出版社
『ビジネス・ケースブック』一橋ビジネスレビュー（編集）/東洋経済新報社
『マネジメント・テキスト ビジネス・エコノミクス 第2版』伊藤 元重（著）/日本経済新聞出版
『工作機械・ロボット産業のエコシステム』林隆一（著）/晃洋書房
『電子部品大辞典』（脇野 喜久男（監修））P.60-119 林隆一（著）/工業調査会
『財務分析』証券アナリスト（CMA）テキスト「財務分析（応用）」（林隆一・共著）
その他に必要ながあれば、講義中に適宜指示する。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の全体像・評価方法を説明した上で、課題レポートの内容を説明する。

第2回 「イノベーション」

AIとロボットの進化で人間の仕事は失われるのかを議論し、「イノベーション」についてとりあげる。「イノベーション」の事例と「需要拡大」（産業構造）の現状を説明する。

第3回 企業選択で「働き方」や「やる気」は全く違う日本の企業、働き方、やる気、就活などの国際的比較する。

キーエンスの事例を踏まえ人事制度や処遇を考える。

第4回 日本企業・産業の位置づけ

日本企業・産業の事業環境を考える。

企業の利益・価値の分布やランキングを知る（長期的に維持が難しい企業が産業で2070年まで働きますか？）

第5回 餃子の王将の事例ほか

企業の「定量分析」の基本を学び、財務諸表や企業評価の基本的な枠組みを理解する。なぜ、王将は餃子で勝負するのかを学ぶ。

第6回 「定量分析」

企業の「定量分析」の基本を学び、インターネット情報を活用し、実際に計算してみる。

第7回 イオンの事例ほか

イオンの事例を踏まえ、企業の「定量分析」の基本を学び、企業活動に適用し、実際に計算してみる。マクドナルドやモスバーガーなどの企業戦略を学ぶ。

第8回 「事業戦略」（マクドナルドの事例ほか）

マクドナルドの事例から「事業戦略」について学ぶ。

第9回 モスバーガー、フレッシュネスバーガーの事例ほか

モスバーガー、フレッシュネスバーガーやラッキーピエロなどの事例から「集中戦略」や「差別化戦略」について学ぶ。

ユニクロやしまむらの事例からバリューチェーンを学ぶ。

第10回 「バリューチェーン」（ユニクロ、しまむらの事例）

ユニクロ、しまむらの例から競争戦略のバリューチェーンを学ぶ。

第11回 「SWOT」

ZARA、H&Mなどの事例からバリューチェーンを学ぶ。SWOT析を学ぶ。

第12回 「PPM」

電卓競争から経験曲線効果を学び、PPM分析を理解する。

第13回 「製品ライフサイクル」

製品ライフサイクルを学び、PPMをフジッコの事例から理解する。

第14回 三菱重工・川崎重工の事例ほか

多角化、事業構成・再編などを、実際のセグメント情報を使って学ぶ。

第15回 「グローバルイノベーション」

「グローバルイノベーション」を事例から学ぶ。アップル（iPhone）やホンハイなどEMSの事業展開を学ぶ。

第16回 「サプライチェーン・マネジメント」

iPhoneがどこでどのように製造されているかを学び、スマイルカーブやサプライチェーン・マネジメントの現状を知る。

第17回 自動車産業の事例

トヨタ自動車やVW、テスラ、ホンハイなどの動向から自動車産業の競合状況や事業環境を学ぶ。

第18回 「伝統的組織論と人間関係論」

テイラーの伝統的組織論とホーソン実験の人間関係論を学ぶ。USJ（ユニバーサルスタジオジャパン）が実質破たんからどのように復活したかの事例などの企業事例を学ぶ。

第19回 「生産システム」

自動車産業の動向から「生産」システムの基本を学ぶ。

第20回 「事業部制・カンパニー制など」

自動車産業(フォードからGM)の成り立ちから伝統的組織論を学び、

日産自動車の事例から「クロスファンクションチーム」を学ぶ。

第21回 「組織の基礎理論」

村田製作所の事例から近代組織論の「組織に関する基礎理論」の考え方を学ぶ。

第22回 村田製作所の事例ほか

電子部品の世界的企業の村田製作所(マトリックス組織)の事例を踏まえ、近代組織論の考え方を学ぶ。

第23回

京セラの事例ほか

京セラ(アメンバー組織)などから近代組織論の「組織に関する基礎理論」の考え方を学ぶ。

第24回 「エコシステム」

「製品アーキテクチャ」

工作機械産業の事例から、エコシステムや製品アーキテクチャについて学ぶ。

第25回 ファナックの事例ほか

ファナックの事例、およびTHKやSMCなどのFA機器から、生産財のグローバル・エコシステムについて学ぶ。

第26回 日本電産の事例ほか

THKやSMCなどのFA機器の事例(エコシステム)に加え、M&Aを活用した日本電産の事業展開を学ぶ。

第27回 「M&A」「起業」

ソフトバンクの事例などからM&Aを学ぶ。

第28回 「コーポレート・ガバナンス」

コーポレート・ガバナンスの最新事例とトレンドを学ぶ。

第29回 練習問題

今までの練習問題により学習内容の定着の確認を行う。

第30回 まとめ

今までのまとめ

2022年度 前期

4単位

法学入門

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

法学入門では、日本の最高法規であり、大学入学までに触れる機会が多かった「憲法」を扱います。「憲法」について具体的に解説していく中で、必要に応じて「法学」一般で学習する知識を組み込みます。

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度

的に理解できる。」が掲げられています。憲法が属する法学も経済学と同じく社会現象を扱います。憲法の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

憲法の知識は経済学の学習とも関連する内容が少なくないです。例えば、営業の自由、財産権などの経済的自由権や生存権、財政における予算や租税法律主義などが挙げられます。

憲法は他の法律科目を学習する上での基礎にもなります。憲法を履修した後で、公務員の志望がより強まった人や法学により興味を持った人は「行政法」や「民法」など他の法律科目の履修を勧めます。

憲法の基礎レベルの知識を確実に習得し、履修後の憲法の発展的な学習や公務員試験や国家試験の受験対策を進める上での土台となることを目的とします。また、受講中に「授業で扱ったばかり内容がテレビのニュースで取り上げられていた」ということが少なからずあるはずです。そのような政治分野のニュースなどを理解し易くなることも目的とします。

本授業は、公務員試験対策講座の講師、公務員試験受験用の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験などの本試験問題を積極的に活用します。

< 到達目標 >

日本国憲法の主要な制度や条文について説明できる。
経済学の理解を深めることができる。

他の法律科目にも関心を持つことができる。

公務員試験(教養試験・社会科学の「法律」、専門試験の「憲法」)や、法律系の国家試験の試験科目「憲法」について、問題集を一人で解き進めていける。

日々の政治関連のニュースに関心を持ち、理解することができる。

友人と政治の議論をしたり、選挙で投票する候補者や政党を決める場面などで活用できる。

< 授業のキーワード >

公共の福祉、表現の自由、営業の自由、財産権、生存権、国会、内閣、司法、財政、地方自治

< 授業の進め方 >

配布する資料を使って授業を進めます。

< 履修するにあたって >

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

< 授業時間外に必要な学修 >

次回の授業準備として、講義内容の復習(45分)、関連知識の発展学習(45分)。

復習や発展学習の内容は、必要に応じて各回の講義の最後に指示します。

日々の生活の中で、授業で扱った内容と関連するニュース等に接した場合には、積極的に内容を理解するように努めたり、調べるようにしてください。

< 提出課題など >

なし。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法：確認テスト50%，定期試験50%。

出題形式と評価基準：確認テストと定期試験は、穴埋め式、記述の正誤判断の問題を出題し、客観的に得点を算出します。出題は事前に配布した問題等の資料の中からとし、範囲は試験実施の2週間前までに明示します。ただし、資料にある問題は、知識の核心部分を変えない範囲で修正を加えて出題します。

< テキスト >

なし。資料を配布します。

< 参考図書 >

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！[第2版]』（有斐閣、2020年）1980円
曾我部真裕・見平典『古典で読む憲法』（有斐閣、2016年）2750円
小泉洋一・島田茂[編集]『公法入門 第3版』（法律文化社、2021年）1980円
その他は授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。法学の基礎。憲法の全体構造。

第2回 個人の尊重と幸福追求権、公共の福祉

新しい人権、プライバシーの権利、自己決定権、公共の福祉による人権制約など。

第3回 法の下での平等

「平等」の意味、「法の下での平等」の意味など。

第4回 参政権、国務請求権

公務員の選定罷免権、選挙の原則、請願権など。

第5回 精神的自由権

思想・良心の自由、沈黙の自由、学問の自由、大学の自治など。

第6回 精神的自由権

信教の自由、政教分離原則など。

第7回 精神的自由権

表現の自由、知る権利など。

第8回 精神的自由権

集会結社の自由、検閲の禁止など。

第9回 経済的自由権

居住・移転、職業選択の自由など。

第10回 経済的自由権

営業の自由と規制など。小売市場事件、薬局距離制限違憲判決。

第11回 経済的自由権

財産権、損失補償など。

第12回 人身の自由

奴隷的拘束・意に反する苦役からの自由、法定手続の保障、令状主義など。

第13回 社会権

生存権、教育を受ける権利など。

第14回 社会権

勤労の権利、労働基本権など。

第15回 人権総合

人権の分類、外国人・法人・公務員の人権、私人間における人権の保障など。

第16回 確認テスト

前半で扱った範囲について確認テストを実施します。

第17回 統治機構総論

第18回からの学習範囲について全体構造の解説を行います。

第18回 国会

唯一の立法機関、二院制、国会議員の特権など。

第19回 国会

通常国会・臨時国会・特別国会、会議の原則、法律案・予算の議決など。

第20回 国会

衆議院の優越、参議院の緊急集会、国政調査権など。

第21回 内閣

内閣総理大臣と国務大臣、国会に対する連帯責任など。

第22回 内閣

内閣の職務、衆議院の解散、内閣総辞職、議院内閣制など。

第23回 司法権（裁判所）

「司法権」の内容、裁判所の種類、司法権の独立など。

第24回 司法権（裁判所）

裁判官の指名・任命、最高裁判所裁判官の国民審査など。

第25回 司法権（裁判所）

違憲審査権、裁判の公開など。

第26回 財政

財政国会中心主義、租税法律主義、予算と決算など。

第27回 地方自治

地方自治の本旨、条例の制定、地方特別法の住民投票など。

第28回 憲法改正

憲法改正の発議、国民投票、硬性憲法、改正の限界など。

第29回 統治総合

憲法前文、平和主義、国民主権、最高法規など。

第30回 統治分野のまとめ

統治分野の知識整理と補足。憲法全体のまとめ。

2022年度 前期～後期

4単位

法学入門

秋元 洋祐

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

< 授業の目的 >

本講義では、民法や刑法の法学一般を学んだうえで、憲

法が保障する基本的人権について理解することを目的とする。基本的人権には、中学生の髪型の自由から商売を始める際の職業選択の自由まで様々な権利保障が認められている。もっとも、これらの人権は、完全な自由を保障するものではなく、学校の校則や商店の開設を制限する法律によって規制される。この法的な規制に対して、憲法が保障する自由は、どこまで認められるのが最も重要な問題となる。そこで、憲法上の人権保障の観点から、法的な制限が許されるのかを考えられるようになることを目的とする。

この科目は、経済学部DPに示す、自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることを目指す。

<到達目標>

1. 憲法の人権保障を具体的に説明できる（知識）。
2. 人権を規制する法律の問題点を説明できる（知識）。
3. 主要な裁判例について条文を参照しながら、解決方法を考えることができる（知識、態度・習慣）。
4. 憲法9条の戦争放棄といった現代の解釈問題に関心を持ち、自分の法的な考えを示すことができる（態度・習慣、技能）。

<授業のキーワード>

法学、憲法、基本的人権、公共の福祉、法の下での平等、職業選択の自由

<授業の進め方>

憲法の人権保障と制限について、裁判例を題材にして学ぶ。平等権や表現の自由といった各人権規定について、毎回の授業で1つずつ裁判例を題材にして、講義中心で授業を進める。とりわけ、社会で起こった事例に触れることで、憲法と法律の身近さを体感し、法学一般への興味をもってもらいたいので、受講生からの意見や質問に応じる。

<履修するにあたって>

毎回授業用プリントを配布する。

<授業時間外に必要な学修>

受講の際には、テキストの該当範囲を一読しておく（予習2時間）。

区切りごとに復習問題を配布するので、授業用プリントを参考に取り組む（復習2時間）。

<提出課題など>

対話型の授業方式を重視するため、毎回の授業時に質疑応答を行う。

<成績評価方法・基準>

前期試験50%・後期試験50%（各試験の内訳：法律用語の理解70%、事例解決型論述30%）

<テキスト>

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』有斐閣 2020年 1,760円

<参考図書>

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選I〔

第7版〕』有斐閣 2019年 2,530円

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選II〔第7版〕』有斐閣 2019年 2,530円

<授業計画>

第1回 法学の基礎

講義と成績評価の説明、憲法と法律

第2回 法学の基礎

社会における法の役割

第3回 法学の基礎

法解釈や法と慣習・道徳の差異

第4回 法的思考

建造物が燃え出しそうな状況を放置した不作為犯を題材に、法的義務と道徳的義務の差異

第5回 法的思考

思っていた人とは別人を傷つけてしまった錯誤を題材に、法的な客観と主観の区別

第6回 法的思考

殴りかかってきた相手を傷つけてしまった正当防衛を題材に、法的な比較衡量の視点

第7回 憲法の基礎

憲法の構造と歴史的な経緯

第8回 人権の享有主体

政治活動を行ったことで在留期間の更新が認められなかった事案を題材に、外国人や子供の人権（テキスト第1・2章）

第9回 幸福追求権

市役所から前科を回答された事案を題材に、プライバシー権に関わる一般的・包括的人権（テキスト第2・3章）

第10回 自己決定権

男子生徒の髪型で丸刈り校則が問題となった事案を題材に、生徒の髪型の自由（テキスト第1・4章）

第11回 法の下での平等

虐待を受けていた娘が父親を殺害してしまった事案を題材に、尊属殺人罪と法の下での平等（テキスト第6章）

第12回 法の下での平等

嫡出子と非嫡出子の法定相続の差異が問題となった事案を題材に、法の下での平等（テキスト第5章）

第13回 法の下での平等

女性の再婚禁止期間が問題となった事案を題材に、平等権と合理的な区別（テキスト第5章）

第14回 精神的自由

高校受験の際に不適切な内申書を記載された事案を題材に、思想・良心の自由（テキスト第1章）

第15回 精神的自由

剣道の不受講によって退学処分を受けた事案を題材に、信教の自由（テキスト第7章）

第16回 精神的自由

モデル小説で私生活を暴露された事案を題材に、プライバシー権と表現の自由（テキスト第8・9章）

第17回 精神的自由

少年事件の匿名報道が問題となった事案を題材に、推知報道と表現の自由（テキスト第8・9章）

第18回 経済的自由

既存の公衆浴場からの距離制限が問題となった事案を題材に、公衆浴場法の距離制限と職業選択の自由（テキスト第10章）

第19回 経済的自由

既存の小売市場からの距離制限が問題となった事案を題材に、商調法の距離制限と職業選択の自由（テキスト第10章）

第20回 経済的自由

既存の薬局からの距離制限が問題となった事案を題材に、薬事法の距離制限と職業選択の自由（テキスト第10章）

第21回 経済的自由

予防接種によって健康被害を受けた事案を題材に、財産権の保障

第22回 人身の自由

死刑制度が残虐な刑罰の禁止に該当するのかが問題となった事案を題材に、適正手続の保障（テキスト第13章）

第23回 生存権

生活保護の金額が不十分であった事案を題材に、生活保護法と生存権（テキスト第11章）

第24回 教育権

学力テストを実力で妨害した事案を題材に、教育権の所在（テキスト第12章）

第25回 参政権

衆議院議員選挙で1票の価値が問題となった事案を題材に、選挙権の平等

第26回 平和主義

自衛隊の基地建設が問題となった事案を題材に、憲法9条の戦争放棄（テキスト第15章）

第27回 国会

衆議院議員が国会の会期中に逮捕された事案を題材に、立法権を担う国会の役割（テキスト第16・17章）

第28回 内閣

衆議院の解散権を行使した事案を題材に、行政権を担う内閣の役割（テキスト第18章）

第29回 裁判所

宗教上の価値観の相違に基づいて寄付金の返還を請求した事案を題材に、司法権を担う裁判所の役割（テキスト第19・20章）

第30回 地方自治

条例で集団行進をより厳しく規制した事案を題材に、地方自治の役割（テキスト第21章）

2022年度 後期

4単位

法学入門

幸田 功

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

法学入門では、日本の最高法規であり、大学入学までに触れる機会が多かった「憲法」を扱います。「憲法」について具体的に解説していく中で、必要に応じて「法学」一般で学習する知識を組み込みます。

経済学部のDP(学位授与方針)の1に「経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。」が掲げられています。憲法が属する法学も経済学と同じく社会現象を扱います。憲法の知識を習得することで、社会に対する視野がさらに広がり、今日の経済情勢の理解をより深めることができます。

憲法の知識は経済学の学習とも関連する内容が少なくないです。例えば、営業の自由、財産権などの経済的自由権や生存権、財政における予算や租税法律主義などが挙げられます。

憲法は他の法律科目を学習する上での基礎にもなります。憲法を履修した後で、公務員の志望がより強まった人や法学により興味を持った人は「行政法」や「民法」など他の法律科目の履修を勧めます。

憲法の基礎レベルの知識を確実に習得し、履修後の憲法の発展的な学習や公務員試験や国家試験の受験対策を進める上での土台となることを目的とします。また、受講中に「授業で扱ったばかり内容がテレビのニュースで取り上げられていた」ということが少なからずあるはずで、そのような政治分野のニュースなどを理解し易くなることも目的とします。

本授業は、公務員試験対策講座の講師、公務員試験受験の書籍の執筆などの分野で実務経験のある教員が担当します。知識の確認には公務員試験などの本試験問題を積極的に活用します。

< 到達目標 >

日本国憲法の主要な制度や条文について説明できる。経済学の理解を深めることができる。

他の法律科目にも関心を持つことができる。

公務員試験（教養試験・社会科学の「法律」、専門試験の「憲法」）や、法律系の国家試験の試験科目「憲法」について、問題集を一人で解き進めていける。

日々の政治関連のニュースに関心を持ち、理解することができる。

友人と政治の議論をしたり、選挙で投票する候補者や政党を決める場面などで活用できる。

< 授業のキーワード >

公共の福祉、表現の自由、営業の自由、財産権、生存権、国会、内閣、司法、財政、地方自治

< 授業の進め方 >

配布する資料を使って授業を進めます。

< 履修するにあたって >

他人の受講を妨害する行為は禁止します。

< 授業時間外に必要な学修 >

次の授業準備として、講義内容の復習(45分)、関連知識の発展学習(45分)。

復習や発展学習の内容は、必要に応じて各回の講義の最後に指示します。

日々の生活の中で、授業で扱った内容と関連するニュース等に接した場合には、積極的に内容を理解するように努めたり、調べるようにしてください。

< 提出課題など >

なし。

< 成績評価方法・基準 >

評価方法：確認テスト50%，定期試験50%。

出題形式と評価基準：確認テストと定期試験は、穴埋め式、記述の正誤判断の問題を出題し、客観的に得点を算出します。出題は事前に配布した問題等の資料の中からとし、範囲は試験実施の2週間前までに明示します。ただし、資料にある問題は、知識の核心部分を変えない範囲で修正を加えて出題します。

< テキスト >

なし。資料を配布します。

< 参考図書 >

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！[第2版]』（有斐閣、2020年）1980円

曾我部真裕・見平典『古典で読む憲法』（有斐閣、2016年）2750円

小泉洋一・島田茂[編集]『公法入門 第3版』（法律文化社、2021年）1980円

その他は授業中に紹介します。

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

授業の方法及び内容、成績評価の説明。法学の基礎。憲法の全体構造。

第2回 個人の尊重と幸福追求権、公共の福祉

新しい人権、プライバシーの権利、自己決定権、公共の福祉による人権制約など。

第3回 法の下での平等

「平等」の意味、「法の下での平等」の意味など。

第4回 参政権、国務請求権

公務員の選定罷免権、選挙の原則、請願権など。

第5回 精神的自由権

思想・良心の自由、沈黙の自由、学問の自由、大学の自治など。

第6回 精神的自由権

信教の自由、政教分離原則など。

第7回 精神的自由権

表現の自由、知る権利など。

第8回 精神的自由権

集会結社の自由、検閲の禁止など。

第9回 経済的自由権

居住・移転、職業選択の自由など。

第10回 経済的自由権

営業の自由と規制など。小売市場事件、薬局距離制限違憲判決。

第11回 経済的自由権

財産権、損失補償など。

第12回 人身の自由

奴隷的拘束・意に反する苦役からの自由、法定手続の保障、令状主義など。

第13回 社会権

生存権、教育を受ける権利など。

第14回 社会権

勤労の権利、労働基本権など。

第15回 人権総合

人権の分類、外国人・法人・公務員の人権、私人間における人権の保障など。

第16回 確認テスト

前半で扱った範囲について確認テストを実施します。

第17回 統治機構総論

第18回からの学習範囲について全体構造の解説を行います。

第18回 国会

唯一の立法機関、二院制、国会議員の特権など。

第19回 国会

通常国会・臨時国会・特別国会、会議の原則、法律案・予算の議決など。

第20回 国会

衆議院の優越、参議院の緊急集会、国政調査権など。

第21回 内閣

内閣総理大臣と国務大臣、国会に対する連帯責任など。

第22回 内閣

内閣の職務、衆議院の解散、内閣総辞職、議院内閣制など。

第23回 司法権（裁判所）

「司法権」の内容、裁判所の種類、司法権の独立など。

第24回 司法権（裁判所）

裁判官の指名・任命、最高裁判所裁判官の国民審査など。

第25回 司法権（裁判所）

違憲審査権、裁判の公開など。

第26回 財政

財政国会中心主義、租税法律主義、予算と決算など。

第27回 地方自治

地方自治の本旨、条例の制定、地方特別法の住民投票など。

第28回 憲法改正

憲法改正の発議、国民投票、硬性憲法、改正の限界など。
第29回 統治総合
憲法前文、平和主義、国民主権、最高法規など。
第30回 統治分野のまとめ
統治分野の知識整理と補足。憲法全体のまとめ。

2022年度 前期

2単位

簿記論 (簿記入門)

大塚 英美

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のディプロマ・ポリシーに示す経済的素養を身につけることを目指します。近年、ニュースや報道、種々のメディアを通じて、会計用語が日常的に用いられており、ビジネスの共通言語として、使われるようになってきました。これらを理解するために、会計の種類・仕組みやその役割等、会計学の初歩的な知識を身につける必要があります。本講義では、できる限り平易な言葉を用いて、会計学の基礎的な知識を説明します。

< 到達目標 >

(1) 会計学の基礎的な知識(会計用語や簿記の基礎知識)を理解し、説明できる。

(2) 簿記における仕訳ができるようになる。

< 授業のキーワード >

財務諸表、貸借対照表、損益計算書、簿記、仕訳、経営分析

< 授業の進め方 >

事前に配信する資料、テキストを用いて学修する。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の講義で使用した用語を正確に覚えることと、仕訳を正確に行うために、1時間程度復習を行って、次の授業に臨んでください。レポート課題の作成は2時間程度を目安としています。

< 提出課題など >

章ごとの小テスト 翌々週までに添削して返却

ケース研究 コメント

< 成績評価方法・基準 >

レポート課題 + ケース + 理解度テスト = 100%の評価
課題1(15%)、課題2(15%)、ケース研究1(20%)、ケース研究2(20%)、理解度テスト(30%)

< テキスト >

資格の大原 『土日合格日商簿記初級』 第2版、中央経済社、2018年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス
講義の進め方と評価について

第2回 会計の役割

会計と企業活動

第3回 簿記の基礎

簿記の目的・種類・歴史

第4回 簿記の基礎

貸借対照表の役割と様式

第5回 簿記の基礎

損益計算書の役割と様式

第6回 簿記の基礎

仕訳のルール

第7回 企業の会計情報

ケース研究1

第8回 簿記と会計の関係

簿記一巡の手続き

第9回 取引

現金・預金などの取引

第10回 取引

商品売買の会計

第11回 取引

債務と債権

第12回 取引

固定資産

第13回 財務諸表

財務諸表分析の基礎知識

第14回 財務諸表

ケース研究2

EDINETの閲覧と分析

第15回 総まとめ

理解度テスト

財務諸表、簿記の仕訳、経営分析に関する問題

2022年度 前期～後期

4単位

マーケティング論

木暮 衣里

< 授業の方法 >

講義

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >

< 目的 >

現代のマーケティングは、顧客を起点に「価値」を創造・伝達・提供し、企業の製品・サービスが「売れ続ける仕組み」を構築するものです。またマーケティングの手法は、営利を追求する「企業」だけのものではありません。私たちを取り巻く社会の中のあらゆる分野に広く活用され、影響を与えるようになっていきます。

前期はマーケティングの歴史と主要なコンセプト、枠組みを学び、「マーケティングとは何か」に関する基礎的な知識を身につけます。インターネットが発達した現代の状況についても学習します。後期は前期で学んだ内容を踏まえ、てマーケティングの主要な課題であり、現代の企業活動にも大きな影響を与える「ブランド」について学びます。さらに近年再注目されている経験価値と顧客との価値共創についての理解を深めます。

< DP との関連 >

- ・ 専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている（知識・技能）
- ・ 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる（思考力・判断力・表現力等の能力）
- ・ 自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）

なお、この授業の担当者は中小企業診断士の資格を持ち、企業や自治体に対する抱負な支援経験を持つ教員であるため、より実践的な観点からも解説を行います。

< 到達目標 >

- ・ 基本的なマーケティングの知識を説明できる
- ・ 学習した内容を日常の思考や行動に活かし、様々な課題の解決に役立てられる

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使った講義形式で進めます。

< 履修するにあたって >

社会の中で行われているマーケティングを日頃から観察し、授業に積極的に参加してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講の準備と復習（60分程度）。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の課題の提出及び理解度（50%）、年度末の定期試験（50%）で評価します。

< 参考図書 >

P.コトラ、G.アームストロング、恩蔵直人『コトラ、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014年

恩蔵直人『マーケティング』日経文庫、2004年

恩蔵直人『マーケティング 第2版』日経文庫、2019年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要と進め方、評価について

第2回 「マーケティング」とはなにか

歴史と定義、主要なコンセプトと変化

第3回 顧客リレーションの構築

顧客リレーションのマネジメントとカスタマーエクイティ

第4回 顧客リレーションの構築

STPの理解、ITの普及と顧客の変化

第5回 顧客リレーションの構築

コンタクトポイント、カスタマー・ジャーニーの理解

第6回 顧客価値の理解

ニーズとは何か、「製品」の価値の理解

第7回 マーケティングの基本ステップ

ミッション、ポジショニング

第8回 マーケティング戦略

競争次元の意識、競争優位の確立、SWOT分析

第9回 マーケティング・ミックス

4Pと4Cの理解

第10回 価格と顧客コスト

価格の設定、新製品の価格戦略、価格の調整戦略、インターネットの影響

第11回 流通チャネル

流通の役割、主要なチャネル政策、オンライン時代のチャネルと店舗

第12回 マーケティング・コミュニケーション

価値の伝達と説得

第13回 マーケティング・コミュニケーション

広告、販売促進、デジタル化の進展

第14回 マーケティング・コミュニケーション

ダイレクト・マーケティング、パブリック・リレーション、人的販売、今日の潮流

第15回 まとめ

これまでの振り返り

第16回 マーケティングとは何か

基礎の確認

第17回 マーケティングとは何か

基礎の確認

第18回 顧客のインサイト

リサーチの手順と方法、実践

第19回 ブランドの知識

ブランドとはなにか、ブランド論の主な変化

第20回 ブランドの知識

ブランド・エクイティ、ブランド・ベネフィット

第21回 ブランドの知識

ブランド・パーソナリティの理解

第22回 ブランドの知識

顧客ベースのブランド・エクイティ

第23回 ブランドの知識

ブランド・ビルディング・ブロックの構築

第24回 ブランドの知識

ブランドの基本戦略

第25回 ブランドの知識

ブランドの拡張

第26回 ブランドの知識

企業ブランドの重要性、ブランド・エンゲージメント

第27回 経験価値と価値共創

経験価値の理解

第28回 経験価値と価値共創

価値共創の理解

第29回 経験価値と価値共創

オンラインとオフラインの融合

第30回 全体まとめ

講義全体の振り返り

2022年度 前期

2単位

マーケティング論

木暮 衣里

< 授業の方法 >

講義

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >

< 目的 >

現代のマーケティングは、顧客を起点に「価値」を創造・伝達・提供し、企業の製品・サービスが「売れ続ける仕組み」を構築するものです。またマーケティングの手法は、営利を追求する「企業」だけのものではありません。私たちを取り巻く社会の中のあらゆる分野に広く活用され、影響を与えるようになっていきます。

「マーケティング」ではマーケティングの歴史と主要なコンセプト、枠組みを学び、「マーケティングとは何か」に関する基礎的な知識を身につけます。インターネットが発達した現代の状況についても学習します。「マーケティング」では、で学んだ内容を踏まえ、マーケティングの主要課題であるブランドについて学び、さ

らに近年再注目されている経験価値と顧客との価値共創についての理解を深めます。

< DP との関連 >

・専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている（知識・技能）

・幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる（思考力・判断力・表現力等の能力）

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）

なお、この授業の担当者は中小企業診断士の資格を持ち、企業や自治体に対する抱負な支援経験を持つ教員であるため、より実践的な観点からも解説を行います。

< 到達目標 >

・基本的なマーケティングの知識について説明できる
・学習した内容を日常の思考や行動に活かし、様々な課題の解決に役立てられる

< 授業のキーワード >

マーケティング、経営、企業

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使った講義形式で進めます。

< 履修するにあたって >

内容が連続しますので、後期の「マーケティング」もできるだけ履修してください。

社会の中で行われているマーケティングを日頃から観察し、授業に積極的に参加してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講の準備と復習（60分程度）。

< 成績評価方法・基準 >

受講態度・質疑・発表・課題（50%）、期末テスト（50%）で評価します。

< 参考図書 >

P.コトラ、G.アームストロング、恩蔵直人『コトラ、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014年

恩蔵直人『マーケティング』日経文庫、2004年

恩蔵直人『マーケティング 第2版』日経文庫、2019年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

講義の概要と進め方、評価について

第2回 「マーケティング」とはなにか

歴史と定義、主要なコンセプトと変化

第3回 顧客リレーションの構築

顧客リレーションのマネジメントとカスタマーエクイティ

第4回 顧客リレーションの構築

STPの理解、ITの普及と顧客の変化

第5回 顧客リレーションの構築

コンタクトポイント、カスタマー・ジャーニーの理解

第6回 顧客価値の理解

ニーズとは何か、「製品」の価値の理解

第7回 マーケティングの基本ステップ

ミッション、ポジショニング

第8回 マーケティング戦略

競争次元の意識、競争優位の確立、SWOT分析

第9回 マーケティング・ミックス

4Pと4Cの理解

第10回 価格と顧客コスト

価格の設定、新製品の価格戦略、価格の調整戦略、インターネットの影響

第11回 流通チャネル

流通の役割、主要なチャネル政策、オンライン時代のチャネルと店舗

第12回 マーケティング・コミュニケーション

価値の伝達、コンタクト・ポイントの理解

第13回 マーケティング・コミュニケーション

広告、販売促進、デジタル化の進展

第14回 マーケティング・コミュニケーション

ダイレクト・マーケティング、パブリック・リレーション、人的販売、今日の潮流

第15回 まとめ

これまでの振り返り

2022年度 後期

2単位

マーケティング論

木暮 衣里

< 授業の方法 >

講義

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治

体の指示に従って行動してください

< 授業の目的 >

< 目的 >

現代のマーケティングは、顧客を起点に「価値」を創造・伝達・提供し、企業の製品・サービスが「売れ続ける

仕組み」を構築するものです。またマーケティングの手法は、営利を追求する「企業」だけのものではありません。私たちを取り巻く社会の中のあるゆる分野に広く活用され、影響を与えるようになっています。

「マーケティング」ではマーケティングの歴史と主要なコンセプト、枠組みを学び、「マーケティングとは何か」に関する基礎的な知識を身につけました。また、インターネットが発達した現代の状況についても学習しました。「マーケティング」では、で学んだ内容を踏まえ、マーケティングの主要な課題であり、現代の企業活動にも大きな影響を与える「ブランド」について学びます。さらに近年再注目されている経験価値と顧客との価値共創についての理解を深めます。

< DPとの関連 >

・専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている（知識・技能）

・幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる（思考力・判断力・表現力等の能力）

・自分の意見を口頭や文書によって表現し、相手の意見を理解することで、良好なコミュニケーションをとることができる（思考力・判断力・表現力等の能力）

なお、この授業の担当者は中小企業診断士の資格を持ち、企業や自治体に対する抱負な支援経験を持つ教員であるため、より実践的な観点からも解説を行います。

< 到達目標 >

・基本的なマーケティングの知識を説明できる

・学習した内容を日常の思考や行動に活かし、様々な課題の解決に役立てられる

< 授業の進め方 >

パワーポイントを使った講義形式で進めます。発表やグループ・ディスカッションなど、アクティブラーニングも取り入れます。

< 履修するにあたって >

内容が継続しますので、できるだけ前期の「マーケティング」と連続して履修してください。

社会の中で行われているマーケティングを日頃から観察し、授業に積極的に参加してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

受講の準備と復習（60分程度）。

< 提出課題など >

毎回授業の終わりに小課題を実施。次回の授業の際に解説し、特に優れているものは皆に紹介します。

< 成績評価方法・基準 >

毎回の課題の提出及び理解度（50%）、年度末の定期試験（50%）で評価します。

< 参考図書 >

P.コトラ、G.アームストロング、恩蔵直人『コトラ、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014年

恩蔵直人『マーケティング』日経文庫、2004年

恩蔵直人『マーケティング 第2版』日経文庫、2019年

< 授業計画 >

第1回 マーケティングとは何か
基礎の確認

第2回 マーケティングとは何か
基礎の確認

第3回 顧客のインサイト
リサーチの手順と方法、実践

第4回 ブランドの知識
ブランドとはなにか、ブランド論の主な変化

第5回 ブランドの知識
ブランド・エクイティ、ブランド・ベネフィット

第6回 ブランドの知識
ブランド・パーソナリティの理解

第7回 ブランドの知識
顧客ベースのブランド・エクイティ

第8回 ブランドの知識
ブランド・ビルディング・ブロックの構築

第9回 ブランドの知識
ブランドの基本戦略

第10回 ブランドの知識
ブランド拡張

第11回 ブランドの知識
企業ブランドの重要性、ブランド・エンゲージメント

第12回 経験価値と価値共創
経験価値の理解

第13回 経験価値と価値共創
顧客の変化と価値共創

第14回 経験価値と価値共創
オンラインとオフラインの融合

第15回 全体まとめ
講義全体の振り返り

2022年度 前期

4単位

マクロ経済学

鈴木 雅顕

< 授業の方法 >

対面授業(講義)

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水等は除く)の本科目取扱いについて授業を休講します。

< 授業の目的 >

一国全体の経済活動を対象とするマクロ経済学について講義する。

マクロ経済学の基本概念および基礎理論をしっかりと理解し、関連する統計に親しむことで、現実の経済活動や政府・日本銀行の役割について、俗論にとらわれず分析するための力を身につけることを目的とする。

この科目は、学部DPにおける

2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

に対応しています。

< 到達目標 >

新聞・ニュースなどで耳にする経済情報を正しく理解し、その背景を説明できる。

「通説」「俗論」の問題点を指摘し、正しい議論ができるようになる。

< 授業の進め方 >

講義により進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週2時間程度の復習をしてから、次の授業に臨むこと。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験により行う。

< 授業計画 >

第1・2回 マクロ経済学の目的

マクロ経済学の目的、経済主体、仮定とモデルの役割などについて説明する。

第3・4回 国民所得統計(1)

ストックとフロー、GDPの三つの定義、三面等価などについて説明する。

第5・6回 国民所得統計(2)

名目GDPと実質GDP、GDP概念の問題点、貯蓄・投資パランスについて説明する。

第7・8回 価格指数

消費者物価指数、GDPデフレーターについて説明する。

第9・10回 GDPの決定

有効需要原理、消費関数、財市場の均衡について説明する。

第11・12回 乗数過程

恒等式と均衡式、乗数プロセス、政府支出と税について説明する。

第13・14回 オープン・エコノミー

輸出・輸入を導入した開放経済について説明する。

第15・16回 資産市場

資産の特性、貨幣の定義について説明する。

第17・18回 銀行の役割

銀行・日本銀行の役割について説明する。

第19・20回 貨幣の需給

貨幣の供給、貨幣の需要について説明する。

第21・22回 利子率と資産価格
債券価格と利子率の関係、株価・地価について説明する。
第23・24回 国際収支
国際収支表、国際収支の決定要因について説明する。
第25・26回 為替レート
為替レートの決定理論について説明する。
第27・28回 IS・LMモデル (1)
IS・LMモデルについて説明する。
第29・30回 IS・LMモデル(2)
財政政策、金融政策の効果について説明する。

2022年度 前期

4単位

マクロ経済学

岡本 弥

< 授業の方法 >

6月20日(日)に緊急事態宣言が解除された場合、対面授業(講義)を行う。

< 授業の目的 >

この科目は、経済学部のDP(ディプロマポリシー:学位授与方針)の「2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことに資するものである。

入門レベルのマクロ経済学の考え方や知識を習得し、それを用いて基本レベルの計算問題を解けるようになるとともに、日本経済の動きを俯瞰できるようになることを目標とする。

なお、この講義の担当者は、金融機関において融資渉外業務に約6年間従事した実務経験のある教員であり、マクロ経済の動向を自らの体験を踏まえて解説するという実践性を特色のひとつとする。

< 到達目標 >

到達目標として、次の2点を挙げる。

入門レベルのマクロ経済学に関する考え方や知識を正確に理解し、それに基づいて過去に出題された初級レベルの公務員試験問題(計算問題)を解ける。

「有効需要の原理」や「IS-LM分析」とは何かをかみ砕いて説明することができる。

日経新聞に掲載されているマクロ経済に関わる問題にコメントできる。

< 授業のキーワード >

国民経済計算、有効需要の原理、IS-LM分析

< 授業の進め方 >

講義を行い、場合によって、終了後に確認テストを行う。

< 履修するにあたって >

入門ミクロ経済学で学習する均衡分析が理解できていないと講義内容を理解することは難しいだろう。ゆえに、入門ミクロ経済学の単位が取得できていないものや、取得はできたものの評価が低かったものについては履修す

るかどうかが慎重に判断を行うべきであると改めて申し添えておく。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義資料は毎回、A4表裏で4~5枚とボリュームがあるので、授業があったその日のうちに1時間程度かけて復習を行うのが望ましい。特に計算問題は授業で示されたポイントを思い出しながら自力で解くことができるか意識しながら取り組まなくてはならない。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験で100%評価を行う。ただし、授業の理解度を確かめるため、期中に3-4回確認テストを行う予定であり、この評価も定期試験の評価に加算する。確認テストは授業の最後に20分ほど実施する。

< テキスト >

テキストは指定しない。以下にリストした図書は授業内容の理解の一助となるだろう。ただし、特別に購入する必要がないことも付言しておく。

< 参考図書 >

家森信善(2015)『基礎からわかるマクロ経済学[第4版]』中央経済社

茂木喜久雄(2019)『試験対応 新・らくらくマクロ経済学入門 第2版』洋泉社

< 授業計画 >

第1~2回 オリエンテーション&マクロ経済学とはどのような学問か

【オリエンテーション】

授業の進め方、参考図書、評価方法などを説明する。

【マクロ経済学とはどのような学問か】

1年次に履修した「入門ミクロ経済学」の学習の中心となる市場メカニズムについておさらいをしたあと、マクロ経済学の2つの学派である「古典派」と「ケインズ派」の相違点について解説する。

第3~4回 マクロ経済学と日本経済

GDPの定義、GDPと物価との関係、GDPデフレーター、三面等価の原則など、マクロ経済学を描写する変数のうち最も重要といわれるGDPについて解説する。

第5~6回 有効需要と乗数効果(1)

ケインズモデルの重要な仮定である有効需要とそこから導かれる経済への波及効果すなわち乗数効果の基本的事項について解説する。

第7~8回 有効需要と乗数効果(2)

消費(C)と投資(I)からなるシンプルな総需要の場合の乗数効果について解説する。

第9~10回 有効需要と乗数効果(3)

総需要に政府支出(G)や租税(T)の場合が加わった場合、乗数効果がどのように変化するか解説する。

第11~12回 企業の設備投資(1)

マクロ経済に与える企業の設備投資効果について概説する

第13~14回 企業の設備投資(2)

企業の設備投資の決定理論について解説する。

第15回 前半の復習(1)

これまでの授業で取り上げたトピックのうち、重要なものに絞ってより詳しく解説を行う。

第16回 前半の復習(2)

第15回の授業で扱ったトピックについて理解が定着しているか確認するために問題演習を行う。

第17~18回 マネーサプライと信用乗数(1)

貨幣の3つの機能と中央銀行の役割について説明する。

第19~20回 マネーサプライと信用乗数(2)

信用創造と中央銀行によるマネーサプライ操作について説明する。

第21~22回 金融市場の分析

貨幣需要の3つの動機のうち、「取引的動機」と「投機的動機」がそれぞれ貨幣市場の均衡に与える動機について説明する。

第23~24回 IS-LM分析(1)

IS-LM分析の基礎となる財市場と貨幣市場の均衡が同時に成立する条件について説明する。

第25~26回 IS-LM分析(2)

IS-LM分析と財政・金融政策との関係について説明する。

第27~28回 IS-LM分析(3)

IS-LM分析に基づき、「クラウドディングアウト」や「流動性の罨」という問題が生じた場合にどのような経済政策を実施することが望ましいか説明する。

第29~30回 アベノミクスと金融政策

アベノミクスの狙いと成果について、特に金融政策に注目しながら解説する。

2022年度 前期

4単位

マクロ経済学

麻生 裕貴

< 授業の方法 >

講義:

配布した講義資料をもとに、対? 講義を実施する。

< 授業の目的 >

この講義は経済学部のDP 「経済理論の基礎を習得し、? 常の経済? 活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを? 標としている。

< 到達目標 >

マクロ経済学の基礎を理解し、経済メカニズムを理論的に説明できる。

修得した経済知識を? いて、? 本経済の諸問題を考察できる。

< 授業のキーワード >

GDP、財市場分析、貨幣市場分析、IS-LMモデル、AD-ASモデル

< 授業の進め方 >

配布する資料に従って、対? 授業で講義を進める。

< 履修するにあたって >

? ? マクロ経済学と経済数学の復習をしておくこと。授業の進捗状況や理解度に応じて、授業計画の? 部を変更する場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回の授業の予習と復習をそれぞれ1時間半? 行うこと。

< 提出課題など >

講義内容の習熟度を確認するため、課題を課すことがある。

次週の講義で課題の解説と講評を行なう。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)

評価を受けようとするものは、定期試験(中間試験と期末試験の両方)を受けなければならない。

定期試験を受けられなかった場合は、所定の手続に従って必ず追試験を受験しなければならない。

< テキスト >

講義資料を配布する。

< 参考図書 >

中? 巖, 『? ? マクロ経済学』, ? 本評論社 N.G. マンキュー, 『マンキューマクロ経済学 ? ? 編』, 東洋経済社

< 授業計画 >

第1-2回 マクロ経済学と日本経済の歩み

マクロ経済学の分析対象、分析? 法と課題を学習する。

日本経済の歩みを説明する。

第3-4回 代表的な経済指標

GDPや物価指標などのマクロ経済を把握するための経済指標について説明する。

第5-6回 財市場分析

4 5 度線分析を? いて、国? 所得がどのように決定されるのか説明する。

第7-8回 乗数分析

政府? 出の拡? などの財政政策が国? 所得に与える影響について説明する。

第9-10回 消費と投資

消費関数論争とケインズの投資限界効率について説明する。

第11-12回 貨幣市場分析

貨幣市場の供給と3つの動機にもとづく需要について説明する。

第13-14回 ? 融政策と中央銀? の役割

? 融政策の? 段と効果、そして、中央銀? の役割について説明する。

第15-16回 前半の復習と中間試験

前半の復習と中間試験を実施する。

第17-18回 IS-LM分析

財市場と貨幣市場を? いて、IS-LMモデルを導出と均衡

について説明する。

第19-20回 IS-LM分析

IS-LMモデルを? いて、財政政策と? 融政策の効果について説明する。

第21-22回 IS-LM分析

流動性の罫などの特殊な経済下における、財政政策と? 融政策の効果について説明する。

第23-24回 AD-AS分析

労働市場を説明して、AD-ASモデルを学習する。

第25-26回 AD-AS分析

AD-ASモデルを用いて、財政政策と金融政策について説明する。

第27-28回 国際収支と為替レート

国際収支の項目と為替レートの決定理論について説明する。

第29-30回 アベノミクスと後半の復習

日本経済の課題について説明する。後半の復習を行なう。

2022年度 後期

4単位

マクロ経済学

竹治 康公

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

経済学の各分野を学習するための基礎となるマクロ経済学の基礎について解説する。マクロ経済学はGDP、利子率等一国経済における諸変数の相互連関に関する論理学なので、講義内容を理解するに当たっては十分な準備(予習)と問題演習が不可欠である。この講義では、各回に必要な資料や演習問題をdotCampusにアップロードするので、受講者はそれをダウンロードして講義の準備と問題演習をすることが必要である。講義中出席はとらないが、準備なしに出席しても十分な理解が得られないので、十分予習したうえで受講することが必要である。講義では、後半に問題演習の時間を設定し、講義内容の確実な理解を得られるようにする予定である。

DP(学位授与方針)の「経済問題を総合的に分析できる知識と技能を習得し、自主的な意思決定に活用できると共により良い社会構築に貢献できる」ことを目的とする。

なお、本講義は上場企業の社外取締役としての15年の実務経験のある教員の講義であり、マクロ経済の諸概念(GDP、経常収支、金融政策等)の理解が企業経営にとって必須であることを具体事例の学習によって理解できるようにする実践教育から構成される授業科目である。

< 到達目標 >

財政学、金融論、国際経済学、労働経済学等の学習をスムーズに進めることができる。

< 授業のキーワード >

GDP、マネーストック、利子率、経常収支、貨幣需要、財政政策、金融政策

< 授業の進め方 >

毎回の講義内容をまとめたノート dotCampus に提出してもらおうという流れで授業を進める。

< 履修するにあたって >

1. テキストは必ずしも各1冊ずつすべてを使うわけではないが、マクロ経済学を理解するうえで必要な知識が解説されているし、レポート等を作成するうえで非常に有用なので用意しておくこと

2. テキスト以外にも、マクロ経済学のテキストや問題集は大変種類が多いので、図書館、書店などで自分に合うものを選んでおくことよい。こうした選書作業も大学における学習の一環として積極的に取り組むべきである。

2. 上記のとおり、dotCampusを活用するので、dotCampusの利用方法に習熟しておくこと。

3. 本講義は1年次に入門マクロ経済学および経済数学、を履修し、理解していることを前提として講義を進めるので、本講義を十分に理解するためには上記科目の理解が必須である。前年度に上記2科目を履修していない場合は講義開始までに当該講義内容相当の学習をしておくこと。

4. コロナウイルス対応のため現時点で確定できない変更等が発生する可能性があるのでシラバスは随時確認しておくこと

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週、次回講義範囲の予習。dotCampusにて課題を提示するので、レポートにまとめて講義時に持参するとよい。講義を理解するには180分/week程度の予習が必要である。

< 提出課題など >

< 成績評価方法・基準 >

8週目と15週目に実施する試験100%とする。

< テキスト >

菅原晃著、『高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学』、河出書房

中谷巖著、『マクロ経済学入門』、日経文庫

< 参考図書 >

中谷巖著、『入門マクロ経済学』、日本評論社
デヴィッド・モス著、久保恵美子訳、『世界のエリートが学ぶマクロ経済入門』、日本経済新聞出版社

< 授業計画 >

第1-2回 マクロ経済学の課題

マクロ経済学の課題、対象、手法等を知ること、マクロ経済学を学ぶ意義について理解する。

第3-4回 GDPの定義

GDPの定義、GDPとGNIの違い、実質値と名目値の違い、GDPとNDPの違いなどを理解する。

第5-6回 GDPの三面等価

生産、分配、支出のGDPが事後的にすべて等しくなることを理解し、生産と支出の均衡であるISバランスの基本的な考え方を理解する。

第7-8回 ISバランスと国債問題

ISバランスから政府の負債である国債と経常収支の関係について理解する。

第9-10回 消費関数とGDPの決定

ISバランスに消費関数を導入することでGDP決定理論を理解する。

第11-12回 乗数理論と財政政策

乗数理論を学ぶことで、財政政策の基礎を理解する。

第13-14回 財市場の均衡 (IS曲線)

投資関数の定式を理解し、財市場の均衡を理解することを目的とする。

第15-16回 理解度確認テスト

前回までの講義に関する質問等を実施する。引き続きテストを実施し、テスト終了後、解説を行う

第17-18回 貨幣の需要と供給

日銀と銀行システムによる信用創造と貨幣需要の諸要因を理解する。

第19-20回 貨幣市場の均衡 (LM曲線)

流動性選好説を学ぶことで貨幣市場の均衡について理解する。

第21-22回 IS-LM分析

IS曲線、LM曲線を用いてGDPと利率の同時決定のメカニズムを理解する。

第23-24回 財政政策と金融政策

財政政策、金融政策の諸手段について理解する。

第25-26回 財政政策と金融政策

IS-LM分析を前提として、財政・金融政策の有効性を理解する。

第27-28回 さらに進んだ領域の解説

為替レートの決定を考慮した開放体系モデルや物価水準の変化を考慮したAD-AS分析を紹介する。

第29-30回 理解度確認テスト

前回までの講義に関する質問等を実施する。引き続きテストを実施し、テスト終了後、解説を行う。

2022年度 後期

4単位

マクロ経済学

鈴木 雅顕

< 授業の方法 >

対面授業(講義)

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水等は除く)の本科目取扱いについて授業を休講します。

< 授業の目的 >

一国全体の経済活動を対象とするマクロ経済学について講義する。

マクロ経済学の基本概念および基礎理論をしっかりと理解し、関連する統計に親しむことで、現実の経済活動や政府・日本銀行の役割について、俗論にとらわれず分析するための力を身につけることを目的とする。

この科目は、学部DPにおける

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

に対応しています。

< 到達目標 >

新聞・ニュースなどで耳にする経済情報を正しく理解し、その背景を説明できる。

「通説」「俗論」の問題点を指摘し、正しい議論ができるようになる。

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎週2時間程度の復習をしてから、次の授業に臨むこと。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験により行う。

< テキスト >

吉川 洋『マクロ経済学 第4版』岩波書店

< 授業計画 >

第1・2回 マクロ経済学の目的

マクロ経済学の目的、経済主体、仮定とモデルの役割などについて説明する。

第3・4回 国民所得統計(1)

ストックとフロー、GDPの三つの定義、三面等価などについて説明する。

第5・6回 国民所得統計(2)

名目GDPと実質GDP、GDP概念の問題点、貯蓄・投資バランスについて説明する。

第7・8回 価格指数

消費者物価指数、GDPデフレーターについて説明する。

第9・10回 GDPの決定

有効需要原理、消費関数、財市場の均衡について説明する。

第11・12回 乗数過程

恒等式と均衡式、乗数プロセス、政府支出と税について説明する。

第13・14回 オープン・エコノミー

輸出・輸入を導入した開放経済について説明する。

第15・16回 資産市場

資産の特性、貨幣の定義について説明する。

第17・18回 銀行の役割

銀行・日本銀行の役割について説明する。

第19・20回 貨幣の需給

貨幣の供給、貨幣の需要について説明する。

第21・22回 利子率と資産価格

債券価格と利子率の関係、株価・地価について説明する。

第23・24回 国際収支

国際収支表、国際収支の決定要因について説明する。

第25・26回 為替レート

為替レートの決定理論について説明する。

第27・28回 IS・LMモデル (1)

IS・LMモデルについて説明する。

第29・30回 IS・LMモデル(2)

財政政策、金融政策の効果について説明する。

2022年度 前期

4単位

ミクロ経済学

常廣 泰貴

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、学部DPに示す、2 . 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できることを目指しています。

< 主題 > ミクロ経済学の基礎的な理論と分析方法。

< 目標 > 需要曲線や供給曲線などのミクロ経済学の基本的な考え方を身に付けることを目標とします。また消費者余剰や生産者余剰などによる市場の効率性について理解することも目標とします。

< 到達目標 >

ミクロ経済学の基本的な知識や分析方法を身に付け、現実の経済現象をミクロ経済学の視点から説明できる。

< 授業の進め方 >

基本的に板書によって授業を行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習、復習を含め講義1回あたり1時間の学習。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験の結果のみで評価する。評価を受けようとするものは、定期試験を受けなければならない。定期試験を受けられなかった場合は、必ず所定の手続きに従って追試験を受験しなければならない。

< 参考図書 >

N. グレゴリー・マンキュー著 足立英之他『マンキュー経済学 ミクロ編』東洋経済新報社

その他、適宜紹介する。

< 授業計画 >

第1回・第2回 ガイダンス・経済数学の基礎

講義内容の概観、基礎的な経済数学

第3回・第4回 消費者行動 1

効用と無差別曲線

第5回・第6回 消費者行動 2

限界代替率

第7回・第8回 消費者行動 3

予算制約と効用最大化

第9回・第10回 消費者行動 4

所得効果と代替効果

第11回・第12回 消費者行動 5

需要曲線の導出

第13回・第14回 企業行動 1

生産関数

第15回・第16回 企業行動 2

生産量と費用

第17回・第18回 企業行動 3

いろいろな費用の性質

第19回・第20回 企業行動 4

利潤最大化

第21回・第22回 企業行動 5

供給曲線の導出

第23回・第24回 市場均衡

需要曲線と供給曲線

第25回・第26回 余剰分析 1

消費者余剰、生産者余剰および社会的総余剰

第27回・第28回 余剰分析 2

余剰分析の応用

第29回・第30回 まとめ

講義内容のまとめ

2022年度 前期

4単位

ミクロ経済学

平井 健之

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

【授業の概要】

ミクロ経済学は、マクロ経済学と並んで、経済学を学習する上での基礎的な分野です。いずれも現実の経済問題を考察するための基礎理論(道具)を提供するものであり、経済学の応用科目を学習する上でもその履修は有益です。また、とくにミクロ経済学はマクロ経済学とともに、経済学として公務員試験等の受験科目にもなっています。

将来、公務員を志望する人、あるいは公務員試験に関心のある人にとっては、ミクロ経済学の学習は必要不可欠となっています。そこで、この授業では、ミクロ経済学入門の講義を行います。また、受講者の理解を深めるために、定期的に練習問題を解いてその解説も行います。

【授業の目的】

ミクロ経済学において必要不可欠な諸概念や分析手法について学習すると同時に、現実の経済問題を考察するための理論的・応用的基礎の修得を目的とします。この科目は、学部のDPに掲げるように、経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できることを目指します。

<到達目標>

市場において価格や数量が需要と供給によって決定されることを図示しながら理論的に説明できる。

ミクロ経済学の観点から、消費者や生産者の行動を理論的に説明できる。

<授業のキーワード>

市場均衡、弾力性、消費者行動、効用、限界効用、限界代替率、上級財と下級財、代替効果と所得効果、需要曲線、企業行動、短期と長期、利潤、費用、固定費用と可変費用、限界費用と平均費用、供給曲線、消費者余剰、生産者余剰

<授業の進め方>

配布資料に基づき、講義形式で授業を進めます。

<履修するにあたって>

授業内容は毎時間連続していますので、毎回ごとの復習に重点をおいて学習してください。

<授業時間外に必要な学修>

受講に際しては、毎時間ごとに復習を中心とした授業時間外の学習が不可欠です(授業時間の1.5倍以上)。

<提出課題など>

授業内容に関する問題を、提出課題として課します。

その場合、解答については、後日、解説します。

<成績評価方法・基準>

授業で課すレポート(課題)40%、定期試験60%により評価します。

なお、レポート(課題)について未提出の場合は、未提出分は評価されません(評価は0点となります)ので、注意してください。

定期試験は、持ち込み不可とします。

<テキスト>

とくに使用しません。プリントを配布します。

ただし、配布資料を補完するために、参考文献を挙げておきますので、適宜、参照してください。

<参考図書>

神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤 著『ミクロ経済学をつかむ』(有斐閣)、2006年

西村和雄 著『ミクロ経済学 第3版』(岩波書店)、2011年

<授業計画>

第1・2回 ミクロ経済学とは

ガイダンス、講義内容について概観する。

ミクロ経済学に必要な数学について学習する。

第3・4回 需要と供給

需要曲線と供給曲線、市場における価格と需要・供給量の決定について学習する。

市場における価格の変化を理解するために、需要曲線と供給曲線がさまざまな要因によりシフトすることを学習する。

価格の変化に対する需要量や供給量の変化の度合いを弾力性という概念を用いて理解する。

第5・6回 需要と供給

需要の価格弾力性と供給の価格弾力性がどのような要因によって決まるかを学習する。

需要の価格弾力性と消費者の支出額との関係を検討する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第7・8回 消費者行動の理論

消費者の行動を理解するために、効用関数、無差別曲線、限界代替率、限界効用などの基本事項を学習する。

消費者は、与えられた予算制約の下で最適な消費量をどのように選択するかを学習する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第9・10回 消費者行動の理論

消費者は、所得の変化に対して消費量をどのように変化させるかを学習する。

上級財と下級財、需要の所得弾力性について理解する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第11・12回 消費者行動の理論

消費者は価格の変化に対して消費量をどのように変化させるかを学習する。

価格の変化による消費量の変化を代替効果と所得効果に基づいて理解する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第13・14回 消費者行動の理論

消費者の最適行動から、消費者の需要曲線が導出されることを学習する。

消費者の需要曲線から市場の需要曲線が導出されることを学習する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第15・16回 企業行動の理論

企業の行動を理解するために、生産関数に関する基本事項を学習する。

限界生産物と平均生産物について理解する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第17・18回 企業行動の理論

等量曲線や技術的限界代替率などの基本事項を学習する。

企業は、労働や資本といった生産に投入する生産要素

の量をどのように選択するかを学習する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第19・20回 企業行動の理論

企業の費用関数、限界費用と平均費用について学習する。

企業の費用曲線から、限界費用曲線、平均費用曲線、平均可変費用曲線、平均固定費用曲線を描いて、それらの性質を理解する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第21・22回 企業行動の理論

企業にとって最適な生産量とはどのような水準であるのかを学習する。

価格の変化に対して、企業は生産行動をどのように変化させるのかを考える。

企業の最適行動から、企業の短期供給曲線が導出されることを学習する。

第23・24回 企業行動の理論

企業の短期供給曲線から市場の供給曲線が導出されることを学習する。

企業の長期費用曲線、及び産業の長期均衡について学習する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第25・26回 市場の理論

消費者余剰について学習する。

生産者余剰について理解する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第27・28回 市場の理論

市場がもたらす経済状態を余剰の概念を用いて評価する。

演習問題を解くことで理解を深める。

第29・30回 まとめ

講義全体のまとめ

講義全体の総復習

2022年度 前期

4単位

ミクロ経済学

石本 眞八

< 授業の方法 >

対面授業

< 授業の目的 >

この授業は経済学部のDPの「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを目的としています。

< 到達目標 >

ミクロ経済学の基礎理論を理解し、身近な経済問題に応用して自分の意見を述べるができる。

< 授業の進め方 >

講義中心で進めるが、公務員試験レベルの問題を解きな

がら理解度を測る。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業の内容を復習するために毎回最低1時間は必要です。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験(100%)

< 参考図書 >

必要に応じて適宜指示します。

< 授業計画 >

第1回 ミクロ経済学を学ぶ目的

ミクロ経済学の対象と学ぶ目的

第2回 消費者行動

消費者行動：消費者の行動目的と制約条件

第3回 消費者行動

行動目的：効用関数と無差別曲線

第4回 消費者行動

制約条件：予算制約・価格と所得

第5回 消費者行動

消費点：予算制約の下での効用最大化行動

第6回 消費者行動

所得と価格の変化：所得消費曲線・価格消費曲線

第7回 消費者行動

需要関数：需要関数の導出と需要曲線

第8回 消費者行動

財の分類：上級財と下級財、正常財とギッフェン財、代替材と補完財

第9回 生産者行動

生産者行動：生産者の行動目的と制約条件

第10回 生産者行動

利潤関数：利潤の定義

第11回 生産者行動

費用概念：固定費用、可変費用、平均費用、平均可変費用、平均固定費用

第12回 生産者行動

費用概念：限界費用の定義と意味

第13回 生産者行動

生産点：利潤最大化行動

第14回 生産者行動

供給関数：供給関数の導出と損益分岐点・操業停止点

第15回 市場

価格調整機能：超過需要と超過供給

第16回 市場

市場均衡：市場均衡と市場均衡価格

第17回 市場

市場の安定性：ワルラス的安定性、マーシャル的安定性、くもの巣理論

第18回 市場

市場の失敗：外部性

第19回 市場

市場の失敗：公共財

第20回 市場

市場の失敗：費用逓減産業と自然独占

第21回 市場

市場の失敗：情報の非対称性と逆選択（レモンの原理）

第22回 市場

市場構造：独占市場、複占市場、寡占市場、完全競争市場

第23回 応用問題

消費税

第24回 応用問題

自由貿易と貿易利益

第25回 応用問題

輸入関税政策

第26回 応用問題

生産補助金（給付金）政策

第27回 応用問題

二重価格

第28回 応用問題

シグナル均衡

第29回 応用問題

企業の立地競争と社会的便益

第30回 まとめ

思考のツールとしてのミクロ経済学

2022年度 前期

4単位

ミクロ経済学

宇野 伸孝

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

近年の世界的な大不況は、現代の日本経済を支えている世代にとっても、ましてやこれからの日本を担う皆さんにとっても克服すべき最も重要な課題です。もちろん克服するためには、日本や世界の経済が何故このような事態に陥ったかを分析する必要があります。それはつまり、経済の仕組みや因果関係を体系的に理解・整理できることが前提であり、ここで有用な道具となるのが経済学です。

経済学には大きく分けてマクロ経済学とミクロ経済学があります。前者は主に国レベルの経済を対象とし政策問題や対外取引などを扱うのに対して、後者は消費者や生産者の行動原理や市場メカニズムなどを分析します。当講義では後者のミクロ経済学について、基本となる理論を解説していきます。

なお、この科目は学部のDPに示す「2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを目指しています。

< 到達目標 >

・ミクロ経済学の基礎を習得できる。

・経済現象を理論的に考察できる。

・日本や世界経済への問題意識を高めることができる。

< 授業の進め方 >

2時限連続の講義なので、前半と後半に分けることにします。前半は主にテキストに沿った説明に充て、後半ではそれを踏まえた例題の解説と、皆さんが練習問題（要提出）に取り組んでもらう時間に充てます。

< 履修するにあたって >

・中学程度の数学が必要となりますので復習しておいてください。

・理解を深めるために一部微分を使用しますが必要最小限にとどめます。

・わからないことがあれば積極的に質問してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の講義終了時に提出した課題の答えと考え方等は、次の回のはじめに詳しく説明しますが、事後学習として講義内容を復習して問題を再度解いてみてください。（1時間程度）

講義終了時に次回の予定を伝えますので、事前学習としてテキストや参考書の該当箇所を読んでおいてください。（1時間程度）

< 提出課題など >

毎回の課題について、出席カードやプリントに記入したものを提出してもらいます。課題の答え合わせは翌週の冒頭で行います。

また、前半のまとめとしての小テストを第8日目（第15・16回目）ごろに実施する予定です。これは当日中に解説します。

< 成績評価方法・基準 >

講義内課題（50%）、小テスト（20%）、定期試験（30%）

< テキスト >

『ミクロ経済学 第3版』 伊藤元重著 日本評論社（2018年発行）

< 参考図書 >

・『ミクロ経済学パーフェクトマスター』 伊藤元重・下井直毅著 日本評論社（2007年発行）

・『はじめてのミクロ経済学 増補版』 三土修平著 日本評論社（2014年発行）

・『マンキュー経済学I ミクロ編（第4版）』 N.G.マンキュー著 東洋経済新報社（2019年発行）

< 授業計画 >

第1・2回 ガイダンス

講義の進め方とミクロ経済学とは何かについて簡単に説明します。

第3・4回 需要と供給

市場の均衡や需要・供給曲線のシフトについて説明します。

第5・6回 消費者行動の基礎

需要の価格弾力性や効用最大化、消費者余剰について説明します。

第7・8回 供給行動の基礎その1

費用の構造や短期・長期分析、利潤最大化、生産者余剰について説明します。

第9・10回 供給行動の基礎その2

前回の内容を数学的に分析していきます。

第11・12回 競争市場

価格メカニズムや完全競争市場について説明します。

第13・14回 消費者行動理論その1

無差別曲線と予算制約、所得や価格の変化がもたらす消費パターンの変化について説明します。

第15・16回 消費者行動理論その2

前回の分析方法を消費財以外へ応用します。

第17・18回 供給行動理論

生産関数や費用最小化について説明します。

第19・20回 一般均衡の基礎

効率的な資源配分やパレート最適性について説明します。

第21・22回 独占

独占市場の問題点や独占的競争について説明します。

第23・24回 市場の失敗

外部効果や公共財について説明します。

第25・26回 不確実性と不完全情報

家計の貯蓄行動や投資行動について説明します。

第27・28回 異時点間の資源配分

家計の貯蓄行動や投資行動について説明します。

第29・30回 総復習

総復習問題を解いてもらい、その日の内に答え合わせと解説をします。

2022年度 後期

4単位

ミクロ経済学

鈴木 雅顕

< 授業の方法 >

対面授業（講義）

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水等は除く）の本科目取扱いについて授業を休講します。

< 授業の目的 >

消費者や企業など、経済を構成する個々の意思決定主体の合理的行動を分析することを通して市場経済を分析するミクロ経済学について講義する。

経済が機能する基本的メカニズムを理解することにより、さまざまな経済問題について評価・分析する力を養うことを目的とする。

この科目は、学部DPにおける

2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる。

に対応しています。

< 到達目標 >

「俗論」「通念」にまどわされることなく、経済学的に正しい議論のしたかを身につけることができる。

新聞・ニュースなどで耳にする経済現象に正しい分析を加えることができる。

< 授業の進め方 >

市販の教科書はどれも一長一短なので、板書による講義を行います。ノートをしっかりとして、復習を行うことが大切です。授業の前に、前回のノートを必ず読み返すようにしておきましょう。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回、週2時間程度の復習をしてから、次の授業に臨むようにすることが望ましい。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験により評価する。

< 授業計画 >

第1週 ミクロ経済学の方法

ミクロ経済学の目的と方法、希少性、機会費用などの基礎概念について説明する。

第2週 消費者の行動(1)

効用と選好、無差別曲線について説明する。

第3週 消費者の行動()

予算制約のもとでの最適消費、所得効果・代替効果について説明する。

第4週 企業の行動()

企業とは何か、生産関数の性質について説明する。

第5週 企業の行動()

短期の生産活動を利潤最大化、費用最小化の側面から説明する。

第6週 企業の行動()

長期の生産活動を利潤最大化、費用最小の側面から説明する。

第7週 市場均衡

部分均衡分析、余剰概念について説明する。

第8週 余剰分析

間接税、輸入関税など政府の市場介入について余剰概念を用いて説明する。

第9週 市場の失敗()

外部性について説明する。

第10週 市場の失敗()

公共財について説明する。

第11週 独占

不完全競争の一つである独占について説明する。

第12週 ゲーム論()

ナッシュ均衡、戦略型ゲーム、囚人のジレンマについて説明する。

第13週 ゲーム論()

寡占市場への応用問題について説明する。

第14週 ゲーム論()

展開型ゲーム、部分ゲーム完全均衡について説明する。

第15週 ゲーム論()

部分ゲーム完全均衡の問題点、寡占市場への応用問題について説明する。

2022年度 後期

4単位

ミクロ経済学

宇野 伸孝

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

近年の世界的な大不況は、現代の日本経済を支えている世代にとっても、ましてやこれからの日本を担う皆さんにとっても克服すべき最も重要な課題です。もちろん克服するためには、日本や世界の経済が何故このような事態に陥ったかを分析する必要があります。それはつまり、経済の仕組みや因果関係を体系的に理解・整理できることが前提であり、ここで有用な道具となるのが経済学です。

経済学には大きく分けてマクロ経済学とミクロ経済学があります。前者は主に国レベルの経済を対象とし政策問題や対外取引などを扱うのに対して、後者は消費者や生産者の行動原理や市場メカニズムなどを分析します。当講義では後者のミクロ経済学について、基本となる理論を解説していきます。

なお、この科目は学部のDPに示す「2. 経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを目指しています。

< 到達目標 >

- ・ミクロ経済学の基礎を習得できる。
- ・経済現象を理論的に考察できる。
- ・日本や世界経済への問題意識を高めることができる。

< 授業の進め方 >

2時限連続の講義なので、前半と後半に分けることにします。前半は主にテキストに沿った説明に充て、後半ではそれを踏まえた例題の解説と、皆さんが練習問題(要提出)に取り組んでもらう時間に充てます。

< 履修するにあたって >

- ・中学程度の数学が必要となりますので復習しておいてください。
- ・理解を深めるために一部微分を使用しますが必要最小限にとどめます。
- ・わからないことがあれば積極的に質問してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回の講義終了時に提出した課題の答えと考え方は、

次の回のはじめに詳しく説明しますが、事後学習として講義内容を復習して問題を再度解いてみてください。(1時間程度)

講義終了時に次回の予定を伝えますので、事前学習としてテキストや参考書の該当箇所を読んでおいてください。(1時間程度)

< 提出課題など >

毎回の課題について、出席カードやプリントに記入したものを提出してもらいます。課題の答え合わせは翌週の冒頭で行います。

また、前半のまとめとして的小テストを第8日目(第15・16回目)ごろに実施する予定です。これは当日中に解説します。

< 成績評価方法・基準 >

講義内課題(50%)、小テスト(20%)、定期試験(30%)

< テキスト >

『ミクロ経済学 第3版』 伊藤元重著 日本評論社(2018年発行)

< 参考図書 >

- ・『ミクロ経済学パーフェクトマスター』 伊藤元重・下井直毅著 日本評論社(2007年発行)
- ・『はじめてのミクロ経済学 増補版』 三土修平著 日本評論社(2014年発行)
- ・『マンキュー経済学I ミクロ編(第4版)』 N.G.マンキュー著 東洋経済新報社(2019年発行)

< 授業計画 >

第1・2回 ガイダンス

講義の進め方とミクロ経済学とは何かについて簡単に説明します。

第3・4回 需要と供給

市場の均衡や需要・供給曲線のシフトについて説明します。

第5・6回 消費者行動の基礎

需要の価格弾力性や効用最大化、消費者余剰について説明します。

第7・8回 供給行動の基礎その1

費用の構造や短期・長期分析、利潤最大化、生産者余剰について説明します。

第9・10回 供給行動の基礎その2

前回の内容を数学的に分析していきます。

第11・12回 競争市場

価格メカニズムや完全競争市場について説明します。

第13・14回 消費者行動理論その1

無差別曲線と予算制約、所得や価格の変化がもたらす消費パターンの変化について説明します。

第15・16回 消費者行動理論その2

前回の分析方法を消費財以外へ応用します。

第17・18回 供給行動理論

生産関数や費用最小化について説明します。

第19・20回 一般均衡の基礎

効率的な資源配分やパレート最適性について説明します。

第21・22回 独占

独占市場の問題点や独占的競争について説明します。

第23・24回 市場の失敗

外部効果や公共財について説明します。

第25・26回 不確実性と不完全情報

家計の貯蓄行動や投資行動について説明します。

第27・28回 異時点間の資源配分

家計の貯蓄行動や投資行動について説明します。

第29・30回 総復習

総復習問題を解いてもらい、その日の内に答え合わせと解説をします。

2022年度 後期

4単位

ライフキャリア論 [生活]

田宮 遊子

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この講義で受講生は、現代社会に生きるなかでどのようなリスクに直面する可能性があるのかを学ぶ。次に、政府の役割について学ぶ。政府は、多くの人々がリスクに直面することを防ぎ、リスクに直面したときにその影響を最小限にとどめ、貧困に陥った人を救済するための政策を実施している。この講義では、そのなかでも、労働政策、育児支援、老後の所得保障、貧困対策、障害者への社会政策について焦点があてられる。

この講義は、経済学部のディプロマ・ポリシーの以下と関連している。

・経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる。

< 到達目標 >

この講義の第1の目標は、現代社会における生活問題に対して、受講者が理論的・分析的な関心をもてること、第2の目標は、生活問題に対する政府の役割について、受講者が十分に理解できること、第3の目標は、受講者各人が現在の制度や政策の問題点を見だし、今後のあり方について考える力を身につけることにある。

< 授業の進め方 >

講義形式での授業を行う。

< 履修するにあたって >

受講者の理解度に応じて講義の進度は決定されることから、授業計画は適宜変更される場合がある。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義の復習に1時間30分から2時間程度の時間を要する。

参考図書は、復習の際に随時読み進めることを推奨する。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト(60%)および総まとめ小テスト(40%)で評価する。小テストは、事前に予告(実施前週の講義時)した上で、随時実施する。総まとめ小テストは最終講義時に実施する。小テスト、総まとめ小テストに関して、欠席者の事後提出等は認めない。但し、学則に定められた公欠の場合は申し出ること。総まとめ小テストを受験しないものは成績評価を行わない。

< 参考図書 >

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』(2022年4月段階で最新の版)、有斐閣

駒村康平他『社会政策：福祉と労働の経済学』2015、有斐閣アルマ

権丈善一『ちょっと気になる社会保障 増補版』2017、勁草書房

濱口桂一郎『新しい労働社会：雇用システムの再構築へ』2009、岩波新書

濱口桂一郎『働く女子の運命』2015、文春新書

濱口桂一郎『若者と労働：「入社」の仕組みから解きほぐす』2013、中公新書ラクレ

権丈英子『ちょっと気になる「働き方」の話』2019、勁草書房

山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学：データ分析でわかった結婚、出産、子育ての真実』2019、光文社新書

筒井淳也『仕事と家族：日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』2015、中公新書

相馬直子・山下順子『ひとりではやらない 育児・介護のダブルケア』2020、ポプラ新書

山田昌弘『底辺への競争：格差放置社会ニッポンの末路』2017、朝日新書

岩田正美『貧困の戦後史：貧困の「かたち」はどう変わったのか』2017、筑摩書房

阿部彩『子どもの貧困：日本の不公平を考える』2008、岩波新書

阿部彩『子どもの貧困：解決策を考える』2014、岩波新書

大山典宏『生活保護vs子どもの貧困』2013、PHP新書

阿部彩『弱者の居場所がない社会：貧困・格差と社会的包摂』2011、講談社現代新書

柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活1巻～9巻』小学館 ビッグコミックス

中島隆信『障害者の経済学(新版)』2018、東洋経済新報社

横塚泉一『母よ!殺すな(第2版)』2010、生活書院

茂木俊彦『障害児教育を考える』2007、岩波新書

< 授業計画 >

第1回～第2回 ライフコースにおけるリスク

働くことにかかわる制度と法律
ライフコースにおけるリスクについて概観する。
労働基準、解雇法制を学ぶ。

第3回－第4回 労災保険
労災保険のしくみ、過労死、職場でのハラスメントについて学ぶ。

第5回－第6回 雇用保険
雇用保険のしくみを学ぶ。

第7回 日本的雇用システム
日本的雇用システムの特徴を学ぶ。

第8回－第9回 ジェンダーと労働
労働市場におけるジェンダー格差、日本的雇用システムと女性労働、雇用差別に関する経済理論を学ぶ。

第10回－第11回 若者と労働
新卒一括採用の特徴、日本的雇用システムと若者の労働の位置づけを学ぶ。

第12回 仕事と育児・介護の両立1
労働基準における妊娠・出産への保護、育児・介護休業のしくみを学ぶ。

第13回 仕事と育児・介護の両立2
保育サービスのしくみを学ぶ。

第14回 仕事と育児・介護の両立3
児童手当のしくみを学ぶ。

第15回 貧困1
生活保護の仕組みを学ぶ。

第16回 貧困2
生活保護の仕組みを学ぶ。

第17回 貧困3
子どもの貧困、ひとり親の貧困、ワーキング・プアの特徴と貧困防止・救済のための制度のしくみを学ぶ。

第18回－第19回 高齢期の所得保障1
公的年金制度のしくみを学ぶ。

第20回－第21回 高齢期の所得保障2
無年金・低年金問題について学ぶ。

第22回 高齢期の所得保障3
女性と年金をめぐる問題を学ぶ。

第23回 高齢期の所得保障4
私的年金の役割を学ぶ。

第24回－第25回 障害者への生活保障
障害者への生活保障と所得保障のしくみを学ぶ。

第26回－第27回 障害者雇用
障害者雇用促進、社会参加のためのしくみを学ぶ。

第28回－第29回 学修のまとめ
学修のまとめをおこなう。

第30回 理解度の確認

学修の理解度の確認と解説をおこなう。

2022年度 後期

4単位

労働経済論 公共

岡本 弥

<授業の方法>

講義

【9月20日(月)～10月2日(土)までの授業形態】

遠隔授業(リアルタイム授業)

詳細は「遠隔授業情報」を参照のこと。

【10月4日(月)以降の授業形態】

遠隔授業(オンデマンド・リアルタイム併用)

<授業の目的>

この科目は、DP(学位授与方針)の「1.経済の歴史や制度に係わる知識を修得し、今日の経済情勢を歴史的・制度的に理解できる」、「2.経済理論の基礎を習得し、日常の経済生活や経済全体の動向について理論的に理解できる」ことを目指している。

この講義では、労働経済学の学習において必須となる基本的な理論モデルを学び、それを用いてわが国の雇用慣行や労働市場の特徴と近年観察される大きな変化について学習する。

この講義の担当者は、金融機関において融資渉外業務に約6年間従事した実務経験のある教員であり、労働経済学の主な分析対象とされる賃金の決定メカニズムや雇用調整などを、自らの体験を踏まえて現実を活写しながら経済理論と現実との間に存在するギャップを浮かび上がらせるといった実践性が特色のひとつといえる。

<到達目標>

目標として以下の2つを掲げたい。

現実にはどのような労働問題が存在し、それがどのような理由で問題と認識されるのか、自分の言葉で説明できる。

新聞に掲載される労働問題に関わる記事に制度に関する知識を援用しながら経済学的な視点からコメントできる。

<授業のキーワード>

労働市場、賃金決定、雇用調整、日本的雇用

<授業の進め方>

講義を行い、ほぼ毎回、講義内容についての関するレポート(確認テスト)を課す。

<履修するにあたって>

労働経済学はミクロ経済学の応用領域という性質が強いいため、授業についてゆくには、基礎レベルのミクロ経済学の知識は必須である。2年次前期配当のミクロ経済学において、B以上の成績であった者を主な受講者層と想定している。知識を増やすことよりも、知識をどう使うかを学ぶことに重きをおいているため、暗記主体で乗り

切れると考えている者は要注意である。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義資料は毎回、A4表裏で4?5枚とボリュームがあるので、その日のうちに1時間程度かけて復習することが望ましい。特に、経済理論については、授業があったその日のうちに講義内容を思い出しながら反芻しておくことが求められる。

< 提出課題など >

「授業の進め方」ですでに述べたように、ほぼ毎週、講義内容についてのレポート（確認テスト）を課す予定である。極力、次回の講義において模範解答例を示し、簡単な解説を行うものとしたい。レポートの出題と提出には、当面、dotCampusを利用する。提出期限は授業週の木曜日とする。詳しくは第1回の授業時に説明する。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験100%であるが、レポートの点数も加算のうえ評価する。

ただし、新型コロナウイルス感染拡大により定期試験実施が困難となる場合、レポート100%で評価する。

< テキスト >

テキストは指定しない。ただし、以下の参考書は講義をより深く理解する上で役立つと思われる。

< 参考図書 >

大竹文雄（1998）『労働経済学入門』日経文庫

大橋勇雄・中村二郎（2004）『労働市場の経済学』有斐閣

樋口美雄（1996）『労働経済学』東洋経済新報社

中馬宏之（1995）『労働経済学』新世社

< 授業計画 >

第1?2回 イン트로ダクション&ミクロ経済学の復習（1）

【イントロダクション】

- (1) 労働経済学の分析の枠組み
- (2) 2つの労働市場
- (3) 労働市場の3つの特徴

【ミクロ経済学の復習（1）】

- (1) 効用関数と無差別曲線
- (2) 家計の効用最大化

第3?4回 ミクロ経済学の復習（2）

- (1) 企業の利潤最大化
- (2) 余剰分の基礎

第5?6回 賃金と雇用量の決定

- (1) 最適な労働供給量の決定
- (2) 最適な労働需要量の決定
- (3) 競争均衡の性質

第7?8回 わが国の労働市場

- (1) わが国の労働力の構成と労働力率の推移
- (2) 近年の労働力の非正規化
- (3) 労働時間の推移
- (4) 不払い残業の増加とその背景

(5) 賃金の推移

(6) なぜ賃金が上昇しないのか

第9?10回 労働供給

- (1) 最適労働時間の決定
- (2) 賃金上昇と労働時間との関係（代替効果・所得効果）

(3) 労働供給曲線の特徴

(4) 最低賃金制度の歴史的変遷

(5) 完全競争市場モデルによる最低賃金制度の余剰分析

(6) 最低賃金制度をめぐる論争

第11?12回 労働需要

(1) 雇用調整速度の国際比較

(2) わが国における雇用調整速度の変化

(3) 雇用調整を遅らせる要因

(4) 雇用調整に対する解雇権濫用法理の影響

(5) 雇用調整のタイミング

(6) 雇用調整と株価（企業価値）との関係

第13?14回 年功賃金

(1) 賃金カーブの国際比較

(2) 年功賃金を説明する理論その1：人的資本仮説

(3) 人的資本仮説の問題点

(4) 年功賃金を説明する理論その2：後払い賃金仮説

(5) 後払い賃金仮説の問題点

(6) その他の仮説（生活費保障仮説・習慣形成仮説）

第15回 前半の学習事項のおさらい（1）

第14回までの学習事項の要点を復習する。

第16回 前半の学習事項のおさらい（2）

前半の授業に関連する項目でこれまでにとり上げられなかったトピックを解説する。

第17~18回 労働組合

(1) 労働組合とは

(2) 労働組合の組織率の推移

(3) わが国の労働組合の特徴

(4) 労働組合の賃金への影響

(5) 労働組合の離職率への影響

(6) 労働組合の雇用調整への影響

第19?20回 長期雇用

(1) 国際比較

(2) 長期雇用のメリット・デメリット

(3) 長期雇用と年功賃金の相互補完性

(4) 近年の転職市場

第21?22回 失業

(1) 失業率の国際比較

(2) わが国の失業率の推移

(3) 自発的失業と非自発的失業

(4) 需要不足失業・摩擦的失業・構造的失業

(5) UV分析

(6) なぜ失業が発生するのか

(7) なぜ失業率が下がりにくいのか

(8) インフレーションと失業との関係（フィリップス曲

線)

(9)失業率を下げるための政策

第23?24回 さまざまな賃金格差

- (1) 賃金格差とその役割
- (2) ローレンツ曲線とジニ係数
- (3) 所得不平等度の推移
- (4) 企業規模間・産業間の賃金格差
- (5) 職種間の賃金格差
- (6) 効率賃金仮説
- (7) 怠業抑制仮説
- (8) 補償賃金格差理論
- (9) 年齢・勤続年数間の賃金格差

第25?26回 女性の労働

- (1) 女性の労働力率の国際比較
- (2) わが国の女性の労働力率の推移
- (3) 女性労働力の非正規化の進行
- (4) 性的役割分担意識の変化
- (5) 男女間の賃金格差
- (6) 女性の労働供給に対する影響要因
- (7) 男女間の処遇格差

第27~28回 非正規労働

- (1) 非正規雇用者とは
- (2) 非正規社員活用のメリット・デメリット
- (3) 配偶者控除と就業調整
- (4) パート社員の基幹労働力化
- (5) 正規・非正規労働者間格差

第29?30回 日本的雇用

今期の学習事項の総括として日本的雇用の特質と今後の改善点について解説する。